

2024年度

大学院シラバス

文学研究科

明治大学大学院

明治大学校歌

明治大学校歌

児玉花外

作詩

一 山田耕筰

作曲

白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮みちびきて

遂げし維新の栄になふ

明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

二

権利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり

独立自治の旗翳し

高き理想の道を行く

我等が健児の意気をば知るや

我等が健児の意気をば知るや

三

靈峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり

いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

目 次

2024 年度大学院学年暦・行事予定	2
授業時間割	3
人材養成その他教育研究上の目的	4
「入学者受入」、「教育課程編成・実施」、「学位授与」方針	6
修士学位取得のためのガイドライン	13
博士学位取得のためのガイドライン	18
履修登録について	23
科目ナンバリングについて	25
他大学大学院の聴講について	26
先取り履修制度等について	27

博士前期・修士課程

修了要件	31
授業科目及び担当者	35
シラバス	61

博士後期課程

修了要件	329
授業科目及び担当者	329
シラバス	334
交通遅延発生時の授業等の措置について	376
大規模地震等災害発生時の対応について	376
大地震発生時の避難マニュアル	379

◎2024年度 大学院学年暦・行事予定（2024年4月～2025年3月）

<春学期>

時間割・履修関連書類配布	2024年 4月1日(月)～
【学生証有効期限・通学区間】証明(学生証裏面シール)更新	
各研究科新年度ガイダンス	
入学式	4月7日(日)
授業開始	4月10日(水)
研究論集提出締切日(9月発刊分)	4月11日(木)15:00まで
履修届・履修計画書提出(M・D)	4月16日(火)～4月18日(木)
WEB履修登録(Mのみ)	4月16日(火)13:00～4月18日(木)9:00
個人別時間割表公開	4月20日(土)～4月23日(火)
履修修正期間	4月20日(土)～4月23日(火)
休日授業実施日	4月29日(月)[昭和の日]
臨時休業(休講)日	5月1日(水)・5月2日(木)
研究論集予備登録(2月発刊分)	6月24日(月)～6月28日(金)15:00
休日授業実施日	7月15日(月)[海の日]
授業終了日	7月22日(月)
夏季休業	8月1日(木)～9月19日(木)
研究論集発刊	9月6日(金)

※予定は変更されることがあります。変更や詳細については、Oh-o! Meiji等でお知らせします。

<秋学期>

授業開始	9月20日(金)
履修修正期間	9月20日(金)～9月26日(木)
研究論集提出締切日(2月発刊分)	9月20日(金)15:00まで
休日授業実施日	9月23日(月)[振替休日]
修士論文予備登録	10月1日(火)10:00～10月4日(金)15:00
休日授業実施日	10月14日(月)[スポーツの日]
大学祭週間(全日休講)	10月31日(木)～11月6日(水)
創立記念祝日	11月1日(金)
大学祭(明大祭・生明祭)	11月2日(土)～11月4日(月)
休日授業実施日	11月23日(土)[勤労感謝の日]
臨時休業(休講)日	12月24日(火)
冬季休業	2025年 12月25日(水)～1月7日(火)
修士論文提出日	1月8日(水)10:00～1月10日(金)15:00
創立記念日	1月17日(金)
臨時休業(休講)日	1月18日(土)
授業終了	1月23日(木)
修士論文面接試験	2月3日(月)
研究論集発刊	2月28日(金)
修了通知	3月初旬
研究論集予備登録(9月発刊分)	3月10日(月)～3月14日(金)15:00
修了式	3月26日(水)

※予定は変更されることがあります。変更や詳細については、Oh-o! Meiji等でお知らせします。

◎授業時間割

〔全キャンパス共通〕

学部・大学院

専門職大学院（法務研究科、会計専門職研究科）

【月～土曜日】

時 限	時 間 帯
1 時 限	9：00～10：40
2 時 限	10：50～12：30
3 時 限	13：30～15：10
4 時 限	15：20～17：00
5 時 限	17：10～18：50
6 時 限	19：00～20：40

※経営学研究科博士前期課程マネジメントコースは平日夜間および土曜日に授業を実施しています。
授業時間は下記の表のとおりとなります。（土曜日は上記の表の時間帯です。）

時 限	時 間 帯
マネジメント 1 時限(M 1 時限)	18：00～19：40
マネジメント 2 時限(M 2 時限)	19：50～21：30

〔駿河台キャンパス〕

専門職大学院（ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科）

【月～金曜日】

時 限	時 間 帯
1 時 限	9：00～10：30
2 時 限	10：40～12：10
3 時 限	13：00～14：30
4 時 限	14：40～16：10
5 時 限	16：20～17：50
6 時 限	18：55～20：25
7 時 限	20：30～22：00

※ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科の平日授業は90分で授業を実施します。

人材養成その他教育研究上の目的

【文学研究科】

文学研究科は、日本文学、英文学、仏文学、独文学、演劇学、文芸メディア、史学（日本史学、アジア史、西洋史学、考古学の4専修）、地理学、臨床人間学（臨床心理学、臨床社会学の2専修）から構成され、いずれの専攻・専修においても、多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することを目的としている。豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化と科学的な時間・空間認識を会得した優れた人材育成（博士前期課程では専門的知識を有する社会人を、後期課程では専門的に研究に携わる研究者の養成）を目標とする。

【日本文学専攻】

日本文学専攻は、古典から現代までの日本文学全般を多様な視座から究明するとともに、その統一的把握を目指す。従来の文献研究・テキスト批評を堅固な基礎としつつ、歴史に対する幅広い関心を持って新しい研究領域を切り開き、文学と社会の関連を明らかにする。このような実践を通して、日本文学の専門的研究者・教育者及び日本文化に関する高度な素養を身につけた教養人の育成を行う。

【英文学専攻】

英文学専攻博士前期課程は、4専修から構成される。英文学・米文学・英語学専修では、各分野についての専門知識を身につけて後期課程に進学し、研究者への道を歩む人材の養成を目的とし、英語教職専修では、高度な専門知識を有する中高英語教員の養成を目指す。博士後期課程は、英文学・米文学・英語学の3専修から構成され、身につけてきた知識を基盤に各自の研究を発展させて博士論文を完成させ、その後も自立した研究を積み重ねていく人材を育てる。

【仏文学専攻】

フランスとその文化は、一方ではギリシャ・ローマ、他方ではユダヤ・キリスト教の伝統に深く根ざしながら、常に様々な分野で斬新な創造を続けてきた。その役割は今も縮小してはならず、EU及び世界50ヶ国に及ぶフランス語圏の中心として、そこから学ぶべきものが多々ある。そのような状況の中で、本専攻では、高度なフランス語運用力、フランス文化・思想・文学に関する広範な知識、繊細かつ大胆な国際感覚と実践力を備えた研究者、社会人、文化人の育成を目指す。

【独文学専攻】

ドイツ文学を歴史的コンテクストと現代的アクチュアリティを視野に入れながら研究することによって、ドイツの文化と社会についての理解を深め、日独の交流に役立つような人材を養成することを目的とする。このためには、学術的な討論ができる程度にドイツ語の運用能力を高め、同時に、日本のことをドイツ語で語るような日本の文化についての深い教養を培う。

【演劇学専攻】

演劇学専攻では、博士前期課程においては、高度な専門的知識を修得した研究者の養成に加え、幅広く劇作家、演出家、戯曲・演劇の歴史的・理論的著作の翻訳家、演劇制作者などをを目指す人材の養成を目的とする。博士後期課程においては、課程博士号の取得を目指す者を含めて、演劇学研究者を目指す人材の養成を目的とする。

【文芸メディア専攻】

文芸メディア専攻は、「メディア環境の中の文芸」という立場を設定し、メディアとは何かという問題意識を重く踏まえた上で、「文芸というメディア」及び「メディアとしての文芸」の視座から文芸研究・メディア研究に取り組む。文芸への深い知識と教養を兼ね備えながら、言語テキストとそれが置かれたメディア環境の相互的関連を視野に収める専門的知識人の育成を目指す。

【史学専攻】

史学専攻は、日本史・アジア史・西洋史・考古学の4専修から構成され、研究素材である各種史資料の分析に基礎を置く実証主義と歴史を生み出したフィールドを重視する実践主義を教育・研究の柱とし、学際的・国際的視点を伝統的に重視している。近年は、専攻が属す研究科の特性を生かし、文学研究科諸専攻との学際協力も緊密である。その研究・教育を通じ、史学専攻は、歴史学の専門研究者及び教育者並びに豊かな歴史への素養を身につけた高度教養人を育成することを目的とする。

(日本史学専修)

日本史学専修は、日本の歴史を多様な視座から究明するとともに、その統一的把握を目指す。その研究・教育は、各種史資料の批判的検討やフィールドワーク等による実証を基礎とするとともに、視野を隣接諸科学にも広げ、また、国際的視野に立つことを目指す。日本史学専修ではそのような教育・研究の実践を通じ、日本史学の専門的研究者・教育者及び日本史学の高度な素養を身につけた教養人の育成を目標とする。

(アジア史専修)

アジア史専修は、中国・朝鮮の東アジア史研究を大きな柱に、西アジア史をもう一つの柱に据え、文献資料や出土史料の分析だけでなく、現地調査や外国研究者との交流も積極的に推進して研究を進める。博士前期課程ではアジア諸地域に対する深い学識を持った高度教養人を、博士後期課程では国際的発信力を持った研究者を養成する。

(西洋史学専修)

西洋史学専修は、人間社会の歴史的探求をその本旨とするが、中でも西洋の古代から現代までを見通してそれを行う。また、世界に対する幅広い見識と歴史についての深い理解と教養を身につけて、それを基に自分自身をしっかりと表現でき、人類の発展に寄与できる人間形成を目指す。

(考古学専修)

考古学は、遺跡・遺物といった物質資料に基づき文字の無い時代を含めた歴史の再構築を目指す学問である。その教育・研究は、発掘・測量調査又は遺物実測などによる現場性・実証性を基礎に置くと同時に、視野を隣接諸分野・諸外国に広げ、考古学的研究成果を歴史学の大きな枠組みの中に位置づけることを目指す。本専修では地道な基礎研究に加えて、学際的・国際的研究活動に参加することを通じて、考古学の専門的研究者、地方自治体の文化財担当者、博物館学芸員、教育者及び考古学の高度な素養を身につけた教養人の育成を目的とする。

【地理学専攻】

地理学専攻は、グローバルな空間的視野を重視しつつ、都市や村落及びその複合体の地域構造を、社会・文化・経済・産業・行政・自然条件等の観点から実証的に探究する能力を持つ人材の育成を目的とする。その方策として、深い専門知識獲得のための体系的な学習指導を徹底し、かつ、フィールドワークによる継続的な実地教育と研究指導を実践する。

【臨床人間学専攻】

今日の人間社会は、政治・経済・文化・教育の構造的変化を伴う未曾有の変動期を迎え、既成の価値観や人間関係の在り方を根底から揺るがす変化と混乱の事態に直面している。臨床人間学専攻は、現代社会が直面するこうした状況における心理・社会的危機の克服に向けて、個々の地域社会や個人を実践的に支援する専門家及び公的セクターで貢献する実践者を育成するとともに、直面する危機的状況のメカニズムを解明するための研究者を育成することを目的とする。

(臨床心理学専修)

臨床心理学専修は、今日の社会において緊急性の高いニーズである「心のケア」、すなわち、うつ病や不安障害等の心の病気、不登校やいじめ、無気力等の学校不適応、育児ストレス、児童虐待、家庭内暴力等の家族関係の問題など、あらゆる世代の個人及び様々な集団において生じる心理・社会的諸現象への専門的対処に直接的かつ具体的にアプローチする臨床心理学の専門家の養成と実践的な研究の推進を目指す。

(現代社会学専修)

現代社会は、地球温暖化をはじめとする環境や生命の危機、グローバル化と情報化にともなう政治・経済・文化の構造変化と格差拡大などの新たな問題、また世界的な人権意識の向上、差別解消や格差是正への要求の高まりなどをかかえ、社会システムのあり方を、持続可能でより平等で人権が尊重されるものに根底から作り変えるべき重要な地点にある。現代社会学専修は、現代社会の危機や新たな社会的問題の克服と、よりよい社会の創生に向けて、複雑な状況のメカニズムを解明する研究者と、具体的な活動に取り組む専門家および実践者を育成することを目的とする。

(教育学専修)

教育学専修は、多文化共生社会、およびデジタルアーカイブを主要な構成要素とする知識基盤社会における人間形成と生涯にわたる学びが重視される今日、「教育」という事象を教育現場と教育実践に焦点あてつつ、教育学、社会教育学、博物館学および図書館情報学の4領域による横断的・多角的な教育研究をとおして、現代社会に求められる教育に関する幅広い知見と高度な専門知識を有した人材を育成するとともに、学校、公民館、博物館、図書館等の教育関係機関における教育実践を担う専門職の養成と再教育を目的としている。

明治大学大学院文学研究科

「入学者受入」、「教育課程編成・実施」、「学位授与」方針

【入学者受入方針】（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程・修士課程】

文学研究科博士前期課程及び修士課程は、多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することができる人材を育成することを目指しています。このため、本研究科では主に次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 当該専攻・専修で必要とされる思考力、知識、語学力を学士課程ですでに養っていることに加えて、世界・社会のヴィヴィッドな動向への幅広い視野と関心、及び身近な日常的事象に対する鋭敏な感性と問題発見能力、常識に囚われない「自明性」を懷疑し得る自由な着眼力、大胆な仮説に基づき、これらを緻密かつ誠実に分析・考察し得る論証能力、さらには専門分野だけに偏らない深い教養、また、以上のことを的確に表現し得る高度に洗練された言語能力等を兼ね備えた者。
- (2) 将来、専攻領域及び関連分野の高度な専門的知識と確かな技能を持って、地域社会及び国際社会の一員として活動する意志と覚悟を有する者。

以上の求める学生像に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験、社会人特別入学試験、飛び入学試験を実施し、入学者選抜を行います。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下の通り示します。

ア 学士課程において修得すべき思考力、知識、語学力を十分に備えていること。

イ 自分を世界・社会のなかに位置づけ、幅広い教養を得ながら、自分自身で追究し、またその成果を文章に表すことができること。

【博士後期課程】

文学研究科博士後期課程は、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与しつつ、豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得した優れた人材を育成することを目指しています。このため、本研究科では主に次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 当該専攻・専修博士前期課程修了のために必要とされる知識と思考力と語学力を備え、指導教員が必要水準以上と判断した修士号請求論文を提出し、論文審査に合格した者、あるいはそれと同等の能力を所有する者。
- (2) 博士学位請求論文提出の意欲を持ち、そのために必要な高度な学習や実習に加えて、海外への長期留学、各種学会での発表、紀要論文等の執筆を着実に遂行することができ、かつ、世界的水準での自立した研究者、教育者として、日本及び海外諸国で貢献できるまでの困難な道程を歩む気概と具体的戦略図を持った者。

以上の求める学生像につき、一般入学試験、外国人留学生入学試験を実施し、入学者選抜を行います。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下の通り示します。

ア 博士前期課程修了のために、必要とされる知識、思考力、及び言語能力（語学力を含む）を備え、修士号論文審査の合格を有していること。

イ 博士学位論文提出に向け、さらなる研究への探求とそれを進めるための技術的なスキル、目的遂行能力を備えていること。

【教育課程編成・実施方針】

【博士前期・修士課程】

現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与しつつ、豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得した優れた人材を輩出することが、文学研究科博士前期課程及び修士課程の教育理念並びに目標です。そのために、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与する能力を会得するために、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成しています。

- (1) 各専攻・専修での学部課程での学習、実習成果を更に発展させつつ、より深い学識を身につけさせることで、先端的な専門知識への道を開き示すと共に、苦手な分野では基礎的な学習と作業へと立ちかえらせます。
- (2) 「総合文学研究」「総合史学研究」「特別講義」のような科目、並びに学術講演会などを通じて、専門外の多様な知識にも広く触れてもらいます。そのために客員教員、特任教員等の制度も活用します。
- (3) 研究指導においても、修士学位論文の執筆についてはきめ細かな指導を行うのみならず、中間発表などで口頭発表、論文作成の基礎習得を重視した指導体制を構築しています。
- (4) 成果還元としては、大学間での研究発表会レベルでの発表を想定し、これを推進しています。
- (5) 分野別には、以下の力点を設定しています。

学位（文学）

日本文学： ア 日本文学・国語学・漢文学に関する修士学位論文作成に向け、執筆能力を段階的に涵養すべく、演習科目を設けて研究構想・先行文献の評価・成果発表等を実践的に指導します。

イ 特論科目によって分析・考察のスキルを深めます。

ウ 関連する専門科目の履修によって、幅広い視点を有することができるような能力を育みます。

英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関する修士学位論文の執筆に必要となる知識・読解力・分析力・発表能力の習得に資する科目群を配置しています。

仏文学： ア フランス語圏の文学・文化・思想について、分野ごと及び時代ごとの専門知識を深められるような演習科目と特論科目を配置しています。

イ 特に演習科目においては語学力、読解力、発表力、論文作成力などが身につくようカリキュラムを編成しています。

独文学： ア ドイツ語圏の語学、文学、文化及び思想の研究領域の幅の広さに鑑み、個別領域の学術的知識を深める科目を配置しています。

イ 同時に、分野横断的な基礎学習も継続できるようにカリキュラムを編成しています。

演劇学： 演劇史・演劇学の研究領域の幅の広さに鑑み、個別の領域の専門知識を深めると同時に、幅広い基礎的な学習も継続できるようにカリキュラムを編成しています。

文芸メディア： 分野、また、作家・作品研究に専門化した演習・特論のほか、文芸の分野横断的研究のために、日本文芸史、表象文化、表現創作の各特論を配置したカリキュラムを編成しています。

学位（史学）

史学： 演習・実習などの実践的な授業と、歴史学・考古学の幅広い内容の講義を提供するとともに、複数の教員によるきめ細かな研究指導を行うカリキュラムを編成しています。

学位（地理学）

- 地理学： ア 地理学に関する修士学位論文を作成するために、研究・執筆能力を段階的に涵養すべく演習科目を設けて研究構想、先行研究の評価、成果発表などを行う科目を配置しています。
- イ 同時に、調査・分析・考察の手法を深め、さらに関連する専門科目の履修によって、幅広い視点を育むカリキュラムを編成しています。

学位（人間学）

- 臨床心理学： ア 今日の社会において緊急性の高いニーズである「心のケア」、すなわち、うつ病や不安障害等の心の病気、学校における不適応やいじめ等の問題、育児ストレスや児童虐待・家庭内暴力等の家族関係の問題、性的マイノリティや性機能等のジェンダーやセクシュアリティをめぐる諸問題、DVやハラスメント等の人権に関わる問題など、あらゆる世代の個人及び様々な集団において生じる心理・社会的諸現象に対する専門的対処に、直接的かつ具体的にアプローチする臨床心理学の専門家の養成と実践的な研究の推進を目指すカリキュラムを編成しています。
- イ また、臨床心理士・公認心理師の資格取得カリキュラムに対応するため、講義演習と併行して学内外の専門機関における臨床実習のコマを多数設置しています。
- 現代社会学： 人間や社会の抱える諸課題の実践的課題解決に向けた専門的な構想力を身につけるため、社会の現場での実習を重視したカリキュラムを編成しています。講義・演習・実習のバランスの基本的な目安としては、講義が3分の1を超えないこととします。
- 教育学： 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した力を獲得し、専門性を生かした進路に進めるよう、講義・演習・実習を適切に組み合わせ、分野横断的に問題の本質を理解できる能力を育むカリキュラムを構成します。

【博士後期課程】

文学研究科博士後期課程の教育理念・目標である、専門的に研究に携わる研究者として豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識の会得を実現するために、以下に示す方針に基づきカリキュラムを編成しています。

- (1) 各専門分野において、自己の研究を客観的に位置づけ、その意義、成果と問題点を世界的水準で認識し、それについて内外の研究者たちと闊達に議論でき、また、国際シンポジウムなど、研究の国際的協力体制を築くことができる能力を、専攻横断的かつ受講者参加型の科目を交えて養成します。
- (2) 学内・学外のG P、大型共同研究にも積極的に参加して経験を積み、高度な学問的研鑽の社会的責務を宿した知的倫理性を養成します。
- (3) 研究指導においても、指導教員を中心としながら、当該分野での最も困難な問題、それを解明するための最も高度な知識、最も先端的な方法を提示し、各専攻・専修において、博士学位請求論文完成までの明確なガイドラインにのっとりた指導体制を構築しています。
- (4) 文学部の助手制度を活用し、その期間の留学を可能にしています。また、国内外調査などへの助成を様々な形で行っています。
- (5) 分野別には、以下の力点を設定しています。

学位（文学）

日本文学： 日本文学・国語学・漢文学に関する各種の関連学会・研究会等へ積極的に参加して研究発表を行いつつ、多様で優秀な人材との交流を深めることで、学位論文全体を統一するテーマを広く大きな視野に基づいて設定できる能力を養えるカリキュラムを編成しています。論文指導のもとで客観的な査読に耐えるような個別的論考の執筆を積み上げ、それらを博士学位論文としてまとめることができます。

英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関する博士学位論文の完成を目標とした継続的指導を行い、学会等での発表、学術雑誌等への執筆のための指導を可能とするカリキュラムを編成しています。

仏文学： ア フランス語圏の文学・文化・思想について、それぞれの研究主題に基づき博士学位論文を作成できるようになるための長期計画に基づいた指導を行っています。

イ 学内外の雑誌のための論文作成や研究発表についても適宜指導を行います。

ウ 長期の海外留学を積極的に奨励しています。

エ 研究の深化と視野の拡大、語学力の錬磨を意識づけることを可能にするカリキュラムを編成しています。

独文学： 自己の研究を、個別の専門領域において深化させるとともに、学際的な視点をもって客観的に位置づけられる研究者の養成のため、学内での研究発表会や国内外の関連学会での発表促進、学会誌等の論文及び博士学位論文執筆の指導、そして研究を深化させ発信力を高めるための積極的長期留学奨励を含むカリキュラムを編成しています。

演劇学： 自己の研究を個別の専門領域において深化させるとともに、学際的な視点の中で客観的に位置づけられる研究者を養成するため、専攻内での研究発表会や国内外の関連学会の発表を促進し、学会誌等の論文執筆の指導を含むカリキュラムを編成しています。

学位（史学）

史学： ア 内外の研究活動や学会に参加して経験を積み、研究成果を積極的に発信することを奨励しています。

イ 外国史専修者には、長期の海外留学を奨励するとともに実践的な語学力を養成します。

学位（地理学）

地理学： ア 地理学に関する博士学位論文のテーマを広く大きな視野に基づいて設定できる能力を養い、学位論文を作成できるようになるための長期計画に基づいて指導します。

イ この指導の下で、内外の関連する学会・研究会などに積極的に参加して研究発表を行いつつ研鑽を積み重ねるべく、カリキュラムを編成しています。

学位（人間学）

臨床心理学： 研究で導き出された知見を臨床実践に、また現場で体験的に得られたデータを研究に、それぞれを有機的に結び付けて還元することができる人材を育て、また後進を専門的に高度に指導できる教育・研究者、現場指導者の育成を目指すカリキュラムを編成しています。

現代社会学： ア 現代社会の社会現象や社会問題について、国際的な最高水準の研究を含めた幅広い知識と専門的な分析力を身に着けるべく、国内、国際学会での研究交流と研鑽を目指すカリキュラムを編成しています。

イ 研究対象として選んだ社会現場において、もっとも徹底した、もっとも先端的な水準の研究を行えるカリキュラムです。

教育学： 学位授与方針（ディプロマポリシー）に示した力を獲得し、専門性を生かした進路に進めるよう、演習を中心として指導を行い、学会発表・論文投稿など研究成果公開を推進するカリキュラムを編成しています。

【学位授与方針】

【博士前期課程・修士課程】

文学研究科博士前期課程及び修士課程は、多角的な人文学の基礎を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することが出来る人材を輩出することを目指しています。この人材養成目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、かつ、学業成績ならびに学位論文に基づき、以下に示す能力を備えたと認められる者に対し修士（文学、史学、地理学または人間学）の学位を授与します。

- (1) 主体的に学び研究する能力。
- (2) 幅広い学識、並びに語学力等を生かせる言語コミュニケーション能力と研究能力。
- (3) 問題を発見してそれを粘り強く解こうとする目的遂行力、自らの考えを他者に的確に伝え得る文章表現能力、及びそれを評価できる能力。
- (4) 学士課程よりも高度な課程で学習する自分を世界、社会のなかに位置づけ、自分に何が成し得るかを客観的かつ謙虚に振り返り、自己を対象化できる能力。
- (5) 論理的な思考力と問題を自ら発見し解決する能力。
- (6) 学問成果に基づいて、社会に貢献する実践力。
- (7) 分野別には、以下に掲げる能力を求めます。

学位（文学）

日本文学： 日本文学・国語学・漢文学に関し、自分の対象とした分野・時代・作家・作品・資料等について、独自の問題設定ができ、新規性のある内容を、論理的に表現して提示できる能力。

英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関し、自分の対象とした分野・作家・作品・文化事象・言語事象等について、問題の発見を行い、それに対して独自の見解を実証的・論理的な解法で提示できる能力。

仏文学： フランス語圏の文学・文化・思想・言語等の分野で幅広い知識と専門的学力をもち、自分の力で問題を発見し、実証的な方法によって分析・考察を行い、独自な見解や仮説を示しうる能力。

独文学： ドイツ語圏の語学、文学、文化および思想に関する幅広い学術的基礎知識を持ち、普遍的課題につらなる独自の研究を創成するために応用できる能力。

演劇学： 演劇史・演劇学に関わる深い学術的知識と上演芸術研究に必要な分野横断的な幅広い視野を持ち、課題の本質を分析する能力。

文芸メディア： 文芸概念を「文芸というメディア」、「メディアとしての文芸」という観点から分野横断的に捉え、新たな文芸研究を構築していく能力。

学位（史学）

史学： 歴史学・考古学における幅広い知識と専門的スキルを持ち、科学的な分析を進めうる能力。

学位（地理学）

地理学： 地理学における幅広い知識と専門的学力・スキルを持ち、科学的根拠に基づいて地理的事象について分析を進めうる能力。

学位（人間学）

臨床心理学： 科学的根拠に基づいて人間や社会が抱える諸問題に向き合い、臨床心理学的に観察・分析する能力、及び言語・非言語にかかわらず、他者が発する気持ちに対し共感的に傾聴し、専門的に支援できる能力。

現代社会学： 現代社会の社会現象や社会問題について、幅広い知識と専門的な分析力をもって理解し、人間や社会が抱える諸問題の実践的課題解決に向けた専門的な構想を可能にする能力。

教育学： 教育学・社会教育学・博物館学・図書館情報学のいずれかの分野における幅広い知識と専門的学力を持ち、人間形成における理念、社会的機能と課題について理解し、実践的課題解決とも結びつける能力。

【博士後期課程】

文学研究科博士後期課程は、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与しつつ、豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得した優れた人材を輩出することを目指しています。この人材養成目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、かつ、学業成績ならびに学位論文に基づき、以下に示す能力を備えたと認められる者に対し博士（文学、史学、地理学または人間学）の学位を授与します。

- (1) 深い学識、語学力、思考力を備えて当該分野における国際的水準の研究を自立して遂行できる能力
- (2) 研究者や他の人々と向き合ってみずからの研究成果を伝えうる発信能力。
- (3) 研究者として学問成果を広く社会に問い還元し、後進の教育ができる能力。
- (4) 分野別には、以下に掲げる能力を求めます。

学位（文学）

日本文学： 日本文学・国語学・漢文学に関し、自分の対象とした分野・時代・作家・作品・資料等について、高度な問題設定ができ、学界に貢献できる内容を、説得力のある表現で提示できる能力。

英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関し、自分の対象とした分野・作家・作品・文化事象・言語事象等について、問題の発見を行い、それに対して独自の見解を実証的・論理的な解法で提示し、当該分野の研究の発展に貢献し、社会への貢献ができる能力。

仏文学： フランス語圏の文学・文化・思想・言語等の分野で、研究者・教育者として自立し活動できるだけの知識・語学力・思考力・発表力・論文作成力などを備えた能力。

独文学： ドイツ語圏の語学、文学、文化及び思想に関して広く深く学術的研究に取り組むとともに、その成果を国内外の研究交流を通じて深め、研究・教育をはじめとする社会的活動の場に還元していく能力。

演劇学： 演劇史・演劇学に関して広く深く学術的研究に取り組むとともに、その成果を国内外の研究交流を通じて深め、様々な場において社会的文化活動や教育の場に還元していく能力。

学位（史学）

史学： 歴史学・考古学における深い知識と高度な技能を修得し、人間の過去の営為を分析評価する能力。

学位（地理学）

地理学： ア 地理学における幅広くかつ深い知識と高度な専門的学力・技能を修得し、科学的根拠に基づいて地理的事象について分析評価する能力。

イ 研究者として自立し活動できるとともに、指導者として後進を教育・育成する能力。

学位（人間学）

- 臨床心理学： ア 個人や社会の抱える諸問題に対し、臨床心理学的視点から高度に分析・研究する能力。
- イ 研究で得られた知見を臨床現場において実践し、専門家として現場に還元する能力。
- ウ 指導者として後進の研究者や臨床家を教育・育成する能力。
- 現代社会学： ア 現代社会の社会現象や社会問題について、国際的な最高水準の研究を含めた幅広い知識と専門的な分析力をもって理解する能力。
- イ 人間や社会が抱える諸問題の実践的課題解決に向けた専門的な構想を可能にする能力。
- ウ 自立した研究者として成果を広く社会に問い、還元・教育ができる能力。
- 教育学： 教育学・社会教育学・博物館学・図書館情報学のいずれかの分野における幅広い知識と高い専門的学力を持ち、人間形成における理念、社会的機能と課題について理解し、研究的・実践的な課題を提起する能力。

明治大学大学院文学研究科 修士学位取得のためのガイドライン

【本研究科で授与する学位】

日本文学専攻	修士（文学）	Master of Arts
英文学専攻	修士（文学）	Master of Arts
仏文学専攻	修士（文学）	Master of Arts
独文学専攻	修士（文学）	Master of Arts
演劇学専攻	修士（文学）	Master of Arts
文芸メディア専攻	修士（文学）	Master of Arts
史学専攻	修士（史学）	Master of Arts
地理学専攻	修士（地理学）	Master of Arts
臨床人間学専攻	修士（人間学）	Master of Arts

【修士学位請求の要件】

在学期間

本研究科博士前期課程（修士課程）2年以上に在学し、所定の研究指導を受けていること。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、博士前期課程（修士課程）に1年以上在学すれば足りるものとする（要修業年限短縮申請）。

単位要件

- (1) 本研究科の日本文学・英文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア・史学・地理学専攻においては、32単位以上を、臨床人間学専攻臨床心理学専修においては、38単位以上を、現代社会学専修・教育学専修においては、36単位以上を修得しなければならない。
- (2) 日本文学・英文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア・史学・地理学専攻においては、所属専攻の主要科目及び特修科目並びに共通特修科目の中から、24単位以上を修得しなければならない。
- (3) 所属専攻の特定科目においては、4単位を上限に修得することができる。
- (4) 共通特修科目のうち総合地域研究については、8単位を上限に修得することができる。
- (5) 所属専攻の授業科目のほか、他の専攻若しくは他の研究科（専門職学位課程を含む。）又は単位互換協定による他の大学院の授業科目の修得をもって、修了に必要な単位の一部に加えることができる。
- (6) 所属専攻の特定科目及び他の大学院の履修により修得できる単位は、合わせて15単位を限度とする。
- (7) 本研究科に入学する前に、本大学院又は他の大学院において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）は、15単位を限度として本研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- (8) (6)及び(7)により認定した単位は、合わせて20単位を限度として、本研究科の修了に必要な単位数に算入することができる。
- (9) 別表1の2に規定する研究科間共通科目については、4単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。

(10) 指導教員が必要と認めた場合には、博士後期課程共通選択科目（文化継承学・日本古代学）を履修することができる。

(11) 各専攻における修得すべき単位は、次のとおりとする。

① 日本文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア専攻

所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

② 英文学専攻

[英文学・米文学・英語学専修]

所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

[英語教職専修]

ア 所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

イ 臨床人間学専攻教育学専修科目の選択科目のうち、次の科目の中から4単位以上を修得すること。

教育システム論、思春期・青年期論、教師教育論、教育人間学、教育社会史特論、教授学習心理学特論、社会教育実践論、生涯学習特論、博物館学特論、博物館マネジメント特論、博物館教育論特論、博物館メディア論特論、地域博物館論特論、図書館情報学特論、専門図書館特論、情報サービス特論、図書館経営特論

③ 史学専攻

所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その講義A～D各2単位・演習A～D各2単位（計16単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、8単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

④ 地理学専攻

所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位及び地理学合同演習A～D各2単位（計16単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

⑤ 臨床人間学専攻

[臨床心理学専修]

所属専攻の指導教員が担当する専攻必修科目（臨床人間学総合演習）を専修科目とし、その演習A～D各2単位（計8単位）、専修必修科目20単位及び選択必修科目10単位以上（A群からE群までそれぞれ2単位以上）を修得すること。

[現代社会学専修・教育学専修]

所属専攻の指導教員が担当する専攻必修科目（臨床人間学総合演習）を専修科目とし、その演習A～D各2単位（計8単位）、専修必修科目4単位、選択必修科目16単位（各年次8単位ずつ）及び選択科目8単位以上を修得すること。

(12) 学位論文作成のため、指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。

2 上記に定める単位を修得し、その成績が平均「B」以上の者。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ている者とする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導体制

指導教員による個別の研究指導や演習・特論を通じての全体的指導とともに、専攻・専修を横断した講義も行い、研究テーマに関連する幅広い知識を得させる。

専攻・専修によっては、研究内容の充実のみならず、広い視野の獲得のために、複数指導体制をとる場合もある。

1年次 4月に指導教員の助言に基づき修士学位請求論文作成のための暫定的な研究計画を立てる。各自の研究領域および関係領域における文献・資料などの検討と授業への参加を通じて、具体的な研究テーマの明確化と修士論文の構想の確定に努める。文献・資料については、7月までに仮のリストを作成し、指導教員の助言を得る。

7月から年度末までは、随時、研究に関するレポートや主要参考文献のレジュメ等を作成し、指導教員の指導や添削等を受ける。また、学会発表や学術誌への投稿も積極的に行う。

2年次 4月に指導教員の助言に基づき修士学位請求論文作成のための進捗状況を確認する。7月までに、最終的な研究テーマを決め、それに応じた文献・資料などの再検討を行う。また前年度に引きつづき、研究に関するレポートや主要参考文献のレジュメ等を作成し、指導教員の助言を得る。また、9月頃までに中間発表等を通じて、指導教員による個別の指導の下で研究を進め、指導教員以外からも助言を受ける。9月以後は、主として修士論文の執筆作業を中心に指導教員の指導を受け、修士論文を完成させる。

専攻・専修により詳細や年次の指導体制は多少異なる。

【修士論文に求められる要件】

修士の学位論文は、広い視野に立った学識と専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を示すと認められるものでなければならない。

先行研究の成果を十分に生かしつつ、独創性のある見解とそれを裏付ける根拠の提示および論理の展開が求められる。

- (1) 論文の独創性
- (2) 研究テーマの学問的意義・適切性
- (3) 先行研究の精査
- (4) 実証的分析・理論的分析
- (5) 論旨の統合性と一貫性
- (6) 形式的要件

領域・分野の多様性から、求められる要件は必ずしも全専攻・専修で同一ではない。

予備登録

- (1) 予備登録時期は論文提出年度の10月上旬とする。
- (2) 論文提出予定者は、必ず指導教員と相談のうえ、論文題名（仮題でも可）を登録すること。
- (3) 予備登録時に「論文作成・提出要領」の他、「修士学位請求書」及び論文用「扉」を受け取ること。

論文提出

- (1) 論文提出時期は論文提出年度の1月上旬とする。
- (2) Oh-o! Meijiグループへの提出を原則とする。

ただし、ファイルサイズ（30MB）の制限などによりOh-o! Meijiでの提出ができない場合は、別途研究科の定める方法により提出する。事前にファイルサイズを確認し、30MBを超える可能性がある場合は、提出期間前に提出方法について研究科に問い合わせること。

なお、受付は、指定提出期間内のみとし、提出締め切り時間経過後は、理由の如何を問わず受け付けられないので、十分注意すること。

提出書類等

- (1) 「修士学位請求書」1通（ホームページからダウンロード）
必要事項を記入のうえ、指導教員の承認をうけ提出すること。
※この請求書に記載された論文題名を正とする。
なお、論文題名に副題がある場合は、ダッシュ（-）で最初と最後を括ること。
- (2) 「修士学位請求論文」（下記①～④により完成されたもの）
 - ①用紙：A4判（横書き又は縦書き）
図表・資料もA4判で作成すること。
 - ②字数：制限なし（指導教員の指示に従うこと。）
※必ずページ番号を付すこと。
 - ③書式：制限なし（指導教員の指示に従うこと。）
※縦書きの場合は2段組にする等、読みやすいよう配慮すること。（論文要旨も同じ）
 - ④論文用「扉（表紙）」：（ホームページからダウンロード）
研究科・指導教員氏名・本人氏名を記入し、表紙とすること。
- (3) 「修士学位請求論文要旨」
A4判、3000字程度で作成し、表紙には論文題名、所属研究科名・専攻名・氏名等を明記すること。

【学位審査の概要】

指導教員による承認

修士学位を請求しようとする者は、修士論文提出要件を満たし、指導教員から当該論文の内容・水準・形式について確認及び指導を受け、指導教員が修士学位請求に十分な水準であるとの判断をした場合に、論文を提出することができる。

研究科委員会での受理

研究科委員会は、学位請求論文に対して受理を決定し、主査1名及び副査2名以上（副査には他研究科・他大学等の研究者を選定することがある）の審査委員を選出する。

審査委員会による面接試問

- (1) 審査委員会は、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、試問の方法により審査を行う。審査終了後、審査委員は研究科委員会に合否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。
- (2) 面接試問は論文提出年度の2月上旬に実施する。
- (3) 学位審査の一環としての公開発表会は行なっていないが、専攻・専修により審査委員以外の教員の同席する場合や中間報告会を公開とする場合、また学位取得後に公開発表会を行なう場合がある。

研究科委員会の合否判定

研究科委員会は審査委員会からの報告をもとに、審議のうえ合否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者には、修士学位が授与される。

【合否判定後の論文の取扱いについて】

審査に合格した論文は、本学大学院で保管し、教育・研究のために活用する。

明治大学大学院文学研究科 博士学位取得のためのガイドライン

課程博士

【本研究科で授与する学位】

日本文学専攻	博士（文学）	Doctor of Philosophy
英文学専攻	博士（文学）	Doctor of Philosophy
仏文学専攻	博士（文学）	Doctor of Philosophy
独文学専攻	博士（文学）	Doctor of Philosophy
演劇学専攻	博士（文学）	Doctor of Philosophy
史学専攻	博士（史学）	Doctor of Philosophy
地理学専攻	博士（地理学）	Doctor of Philosophy
臨床人間学専攻	博士（人間学）	Doctor of Philosophy

【博士学位請求の要件】

在学期間

- (1) 本研究科博士後期課程に3年以上（見込を含む）在学し、所定の研究指導を受けていること。
ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、博士後期課程に1年（標準修業年限が1年以上2年未満の修士課程又は専門職学位課程を修了した者にあつては、3年から当該修業年限を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。
- (2) 修士課程を1年で修了した者にあつては、本研究科博士後期課程に3年以上（見込を含む）在学し、所定の研究指導を受けていること。
ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、博士後期課程に2年以上在学すれば足りるものとする。
- (3) 本研究科博士後期課程に3年以上在学し、所定の研究指導を受けた後退学した者にあつては、博士後期課程の入学年度から起算して8年以内に限り、研究科委員会の許可を得て再入学し、課程博士の学位を請求できるものとする。

単位要件

- (1) 学位論文作成のため、各自の研究主題に応じ、指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。
- (2) 研究論文指導ⅠからⅢ（A・B各2単位ずつ）、特別演習AからF（各2単位ずつ）、合わせて24単位を必修とする。
- (3) 指導教員が研究指導上必要と認めるときは、博士前期課程授業科目を履修させることがある。
- (4) 指導教員が必要と認めた場合には、別表1の2に規定する研究科間共通科目を履修することができる。

研究業績

原則として査読制度を伴う全国学会学術誌を含めて複数の公刊論文を要する。文学研究科においては領域・分野による学界事情の差異に鑑み、論文の本数や掲載誌等の詳細は専攻・専修の内規に基づく。

研究倫理教育の受講

本学が定める研究倫理教育を受講していること。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ているものとする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導体制

指導教員が個々に緊密な連絡をとって学生の博士論文完成にいたるまで指導を行うが、専攻・専修によってはこれに加えて所属教員全体による指導体制をとる。

研究業績の要件と同様に詳細は専攻・専修の内規や慣行に基づくが、原則として以下のプロセスを経なければならない。

- 1年次** 修士論文を補完させ、学内外の学術誌への投稿を促し、博士論文提出までの3ヵ年の研究スケジュールを明確化させる指導を行う。また、学位請求論文に不可欠な国内外の先行研究動向の把握、少なくとも国内における研究動向と展望の把握を行なわせ、これについての小論文を執筆させる。
- 2年次** 1年次に続き諸外国における研究動向を概観しつつ、本格的な資料収集と分析を促進させる。明らかにされた成果を学会口頭発表や学会学術誌への投稿という形で公表させる。年度末には博士論文提出有資格の可否を認定する。
- 3年次** 春学期に博士学位請求論文中間報告を行い、予備審査を行う。予備審査で指摘された事項を補完して、指導教授の推薦を受け、専攻・専修会議は研究科委員会への学位請求の可否を判断する。研究科委員会の受理を受けて、最終審査となる公開発表を行う。

【博士論文に求められる要件】

博士の学位論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を示すと認められるものであり、かつ、本研究科の博士論文として相応の質・量・内容・水準を備え、以下の点に留意したものでなければならない。

- (1) 論文の独創性
- (2) 研究テーマの学問的意義・適切性
- (3) 先行研究の精査
- (4) 実証的分析・理論的分析
- (5) 論旨の統合性と一貫性
- (6) 形式的要件

領域・分野の多様性から、求められる要件は必ずしも全専攻・専修で同一ではない。

【博士学位請求時の提出書類・提出期日等】

提出書類

- (1) 学位請求論文3部（簡易製本）（注）

表紙は、本学所定様式（文学研究科のホームページからダウンロード）を使用すること。

- (2) 論文要旨（4000字程度）（本学所定様式）（文学研究科のホームページからダウンロード）

史学専攻100部、他専攻70部（注）

- (3) 学位請求書（本学所定様式）（文学研究科のホームページからダウンロード）

指導教員の署名を得たうえでスキャンデータを提出すること。また、論文題名は日本語の場合は外国語訳を、外国語の場合は日本語訳を付すこと。（ただし、論文題名が英語以外の外国語の場合は、英語訳も付すこと。）

- (4)履歴書（本学所定様式）（文学研究科のホームページからダウンロード）
暦年は西暦表記とします。
- (5)業績書（本学所定様式）（文学研究科のホームページからダウンロード）
暦年は西暦表記とします。
- (6) 明治大学学術成果リポジトリ登録・公開許諾書（文学研究科のホームページからダウンロード）
(注)研究科が定める所定の日時まで、上記「学位請求論文（全文）」及び「論文要旨」のPDFデータ並びに、「明治大学学術成果リポジトリ登録・公開許諾書」を追加で提出しなければならない。

提出期日

- (1)提出期日：4月1日～11月末日
(2)提出先：

Oh-ro! Meiji グループへの提出を原則とする。ただし、ファイルサイズ（30MB）の制限などにより Oh-ro! Meiji での提出ができない場合は、別途研究科の定める方法により提出する。事前にファイルサイズを確認し、30MB を超える可能性がある場合は、提出方法について研究科に問い合わせること。なお、受付は、指定提出期間内のみとし、提出締め切り時間経過後は、理由の如何を問わず受け付けられないので、十分注意すること。

- (3)審査手数料：不要

使用言語

原則として日本語とする。ただし、専攻・専修の議を経て、日本語以外の言語を認めることがある。

【学位審査の概要】

指導教員による承認

博士学位を請求しようとする者は、博士論文提出資格を満たし、指導教員から当該論文の内容・水準・形式について確認及び指導を受け、指導教員が博士学位請求に十分な水準であると判断した場合、学位請求論文を仮提出する。

予備審査

学位請求者の指導教員は、仮提出された学位請求論文に受理の基準となった参考論文を添えて専攻・専修に諮り、各専攻・専修はそれぞれが定める内規に即して論文の受理の可否を審議する。受理を妥当とする場合、専攻の責任者は学位請求書の提出に許可を与える。

研究科委員会による受理審査

研究科執行部は提出された学位請求論文について、申請資格と当該論文の形式要件について確認を行う。研究科執行部が提出資格と論文の形式要件を満たすと判断した場合、研究科委員会を開催し、当該論文の受理について指導教員からの推薦をもとに審査し、受理の可否を決定する。

審査委員による本審査

研究科委員会は、学位請求論文としての受理を決定した論文に対して、主査1名及び副査2名以上の審査委員を選出する。

審査委員は、公開報告会及び面接試問を開催し、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、論文の内容が研究者もしくは高度職業人として自立できるための基礎をなしているかを審査する。審査終了後、審査委員は研究科委員会に可否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。なお、審査委員による審査期間は概ね6ヶ月以内とする。

学内機関による審査

研究科委員会は審査委員からの報告をもとに、審議のうえ投票により合否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者は、大学院委員会の承認を経て、博士学位が授与される。

【学位審査等に関わる教員の責務】

審査委員の構成と責務

審査委員は、原則として主査は学位請求者の指導教員、副査のうち1名は本学の専任教員、他の1名は関連分野の研究者（本学以外の研究者を含む）により構成し、厳正なる学位審査に努めるものとする。

各教員の責務

各教員は、研究科委員会における審査において、当該学位論文を公正かつ客観的に評価し、当該学位の水準を保つよう努めるものとする。

【博士学位論文の公表】

審査要旨の公表

博士学位が授与された場合は、当該学位論文の内容の要旨及び審査結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

学位論文の公表

博士学位論文は、本学学位規程第22条に準拠してこれを公表しなければならない。

明治大学学位規程 第22条

本大学において博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、明治大学審査学位論文と明記して、当該学位論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に、既に公表したときは、この限りでない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本大学の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本大学は、その論文の全文を、求めに応じ、閲覧に供するものとする。
- 3 前2項の規定による公表は、本大学の定めるところに従って、インターネットの利用により行うものとする。

※1 「やむを得ない事由がある場合」とは、客観的に見てやむを得ない特別な理由があると本大学が承認した場合をいう。

- 例
- ① 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合
 - ② 博士論文が、著作権保護、個人情報保護等の理由により、博士の学位を授与された日から1年を超えてインターネットの利用により公表することができない内容を含む場合
 - ③ 出版刊行、多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載、特許の申請等との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が、博士学位を授与された日から1年を超えて生じる場合

なお、これらの場合においても、やむを得ない事由が解消された際には、速やかに博士論文全文をインターネットで公開しなければならない。

※2 博士学位論文提出にあたり、学位請求者は博士学位論文をインターネットにより公表することについての著作権関係上の諸問題を解消しておかなければならない。

- 例 ○ 刊行物の場合、出版社の了解を得ておくこと。
○ 引用の図版・写真がある場合、著作権者の同意を得ておくこと。

本学及び国立国会図書館における公表

- ・博士学位論文の要旨及び全文は「明治大学学術成果リポジトリ」により公表される。
- ・明治大学学術成果リポジトリにより公表された博士学位論文の要旨及び全文のデータは、国立国会図書館において利用に供される。

履修登録について

- 1 履修登録 毎年度初めの所定の時期に、履修科目の登録を行う必要があります。この登録を正しく行わなかった場合、受講した科目の単位が認定されないので、注意してください。
- 2 履修計画書の提出 各自の研究計画に基づき、研究指導教員と相談の上、WEBによる履修登録とは別途に履修計画書を提出してください。
- 3 履修登録方法
 - (1) ガイダンス時に、時間割表、履修計画書を受け取ってください。
 - (2) 博士前期課程はWEBにより、博士後期課程は専用の届出用紙により、所定の期間に履修登録を行ってください。なお、WEBによる履修登録の詳細はWEB履修登録要領を参照してください。
 - (3) 履修登録期間後の科目の追加、変更、取消は認められません。
 - (4) 病気その他やむを得ぬ理由によって履修登録期間に手続きができない場合は、事前に大学院事務室まで連絡してください。
 - (5) 所定の単位を取得した者は、履修登録の必要はありません。
 - (6) 履修登録後、個人別時間割表を各自 Oh-o! Meiji システムから、所定の期間に確認してください。この期間を過ぎると修正することはできません。なお、修正は次の場合に限り認めます。その他の場合については、大学院事務室で相談してください。
 - 登録科目の誤り
 - エラーメッセージ記載事項
 - 修了要件不足
 - (7) 他研究科履修をしようとする者は、大学院事務室で該当する研究科の時間割等を確認してください。所属研究科以外の時間割等は、配布できません。
 - (8) 他大学の授業科目を履修する場合は、「他大学大学院の履修の手続」に従ってください。
- 4 個人別時間割表 履修登録後、4月下旬に Oh-o! Meiji システムで配信します。必ず確認してください。
- 5 履修登録スケジュール

履修計画書・時間割表の配布	4月初旬
WEB履修登録・履修計画書の提出	4月中旬
個人別時間割表の確認	4月下旬
履修登録不備の修正	4月下旬
秋学期開講科目履修修正の受付	9月下旬

履修登録スケジュール

各研究科別新生ガイダンス **4月上旬** ※研究科の日程を確認のうえ出席すること

- 履修計画書・授業時間割表・履修の手引き等の受領、各種事務説明

博士前期課程・修士課程

博士後期課程

指導教員と履修計画について相談のうえ、履修計画書を作成・提出する（締切：4月中旬）

※博士前期課程在籍者は、履修計画書の提出のみでは履修登録を行ったことにはなりません。以下のとおり、履修計画書に記載した科目をシステムに登録する作業が必要です。
※各手続きの日程は、ガイダンス等案内のある「WEB履修登録要領」を参照すること。

※博士後期課程在籍者は履修計画書の他に、「履修届」も提出する必要があります。（商学研究科、教養デザイン研究科を除く。）

※博士後期課程在籍者はWEB履修登録をする必要はありません。

WEB履修登録システムを用いて履修登録を行う

- 登録するのは当該年度に履修する科目のみ
- 明治大学のホームページ上からWEB履修登録ページにアクセス
(携帯電話・スマートフォンは不可)

WEB履修非対応科目を登録する（該当者のみ）

- 「WEB履修非対応科目履修届」を別途作成のうえ提出する
- WEB履修非対応科目（例）
- ・WEBで該当曜日時限に表示されなかった科目
 - ・研究科で履修が認められている学部設置科目

登録期限
4月中旬

個人別時間割表を確認する（4月下旬）

- Oh-o! Meijiシステムの個人別時間割表から、履修科目が正しく登録できているか必ず確認する

履修エラー等がある場合

履修エラー等がなかった場合

履修登録を修正する（4月下旬）

- 履修修正願を別途作成する
- 履修修正期間中に提出する

履修計画書の記載科目が正しく登録できているかを必ず確認！

履修修正後の個人別時間割表を確認する（4月下旬）

- Oh-o! Meijiシステムの個人別時間割表から、登録にエラーがないかを確認する

履修登録完了

科目ナンバリングについて

2020年度のシラバスから、本学の科目ナンバリング制度による科目ナンバーを、各授業科目シラバスに付番しています。この科目ナンバリング導入の目的、概要及び構造については以下のとおりです。

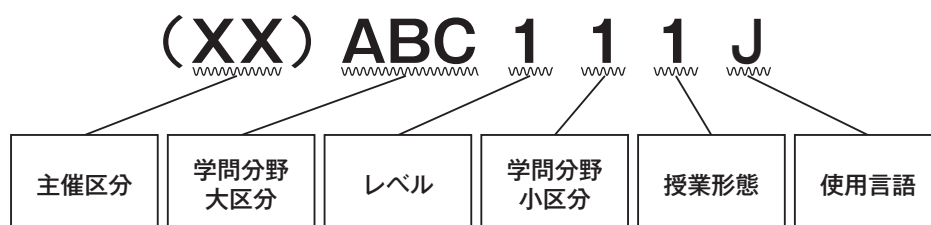
科目ナンバリング導入の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

明治大学科目ナンバリングの概要及び構造

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバーを付番します。

<科目ナンバーの構造>



<各ナンバリングコードの定義>

- ① 主催区分コード
当該科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット2文字で示しています。
- ② 学問分野 大区分コード
学問分野を本学が大きく区分した中で、当該科目が分類される学問分野をアルファベット3文字で示しています。
- ③ レベルコード
当該科目のレベルを数字1文字で示しています。
- ④ 学問分野小区分
本学が大区分として分類した学問分野の中で、さらに分類される分野を小区分として数字1文字で示しています。
- ⑤ 授業形態コード
当該授業の実施形態を数字1文字で示しています。
- ⑥ 使用言語コード
当該授業の教授における使用言語を英字1文字で示しています。

<各コードの詳細>

各ナンバリングコードの詳細及び他学部等の開講科目の科目ナンバーについては、本学ホームページ又は Oh-o! Meiji システムにて確認ください。

<科目ナンバーの例>

(AL) LIT 5 1 2 J

文学研究科／文学／大学院（修士・専門職）基礎的な内容の科目／日本文学／演習・ゼミナール／日本語
※ 文学研究科が設置する、文学-日本文学分野の科目で、日本語により行われる大学院（修士・専門職）レベルの基礎的な内容の科目という意味。

以 上

他大学大学院の聴講について

他大学院との学術的提携・交流を促進し、教育・研究の充実をはかることを目的として、「大学院特別聴講生制度（単位互換制度）」及び「首都大学院コンソーシアム」を設けています。

他大学大学院科目履修に関わる本学の受付期間 ～4月23日（火）

希望者は大学院事務室にて手続方法を確認してください。また、受入大学の受付期間について各自で確認し、その指示に従ってください。

1. 大学院特別聴講生制度（単位互換制度）

これは、大学院学生が研究上の必要から、他の大学院（特別聴講生に関する協定を締結した大学院）に設置されている授業科目を履修して、その履修した単位を所属する大学院に、修了に必要な単位として認定する制度のことです。

現在、本研究科において実施されているものは、次に掲げる制度です。

① 英文学専攻（大学院英文学専攻課程協議会） 12 大学

青山学院大学大学院文学研究科英米文学専攻
法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻
上智大学大学院文学研究科英米文学専攻
明治大学大学院文学研究科英文学専攻
明治学院大学大学院文学研究科英文学専攻
日本女子大学大学院文学研究科英文学専攻
立教大学大学院文学研究科英米文学専攻
聖心女子大学大学院文学研究科英語英文学専攻
東北学院大学大学院文学研究科英語英文学専攻
東京女子大学大学院人間科学研究科人間文化科学専攻英語文学文化分野
東洋大学大学院文学研究科英文学専攻
津田塾大学大学院文学研究科英文学専攻

なお、本協議会では単位互換の他、年一回加盟大学の院生による研究発表会が開催されています。

② 仏文学専攻（大学院フランス語フランス文学専攻課程協議会） 8 大学

青山学院大学大学院文学研究科フランス文学・語学専攻
学習院大学大学院人文科学研究科フランス文学専攻
白百合女子大学大学院文学研究科フランス語フランス文学専攻、言語・文学専攻
上智大学大学院文学研究科フランス文学専攻
獨協大学大学院外国語学研究科フランス語学専攻
武蔵大学大学院人文科学研究科欧米文化専攻
明治学院大学大学院文学研究科フランス文学専攻
明治大学大学院文学研究科仏文学専攻

③ 史学専攻（11 大学史学専攻に関する協定） 11 大学

青山学院大学大学院文学研究科史学専攻
中央大学大学院文学研究科日本史学専攻・東洋史学専攻・西洋史学専攻
上智大学大学院文学研究科史学専攻
明治大学大学院文学研究科史学専攻
立教大学大学院文学研究科史学専攻
専修大学大学院文学研究科歴史学専攻
國學院大學大学院文学研究科史学専攻
国土舘大学大学院人文科学研究科人文科学専攻
駒澤大学大学院人文科学研究科歴史学専攻
東海大学大学院文学研究科史学専攻
東洋大学大学院文学研究科史学専攻

④ 地理学専攻（地理学分野に関する協定） 6 大学

法政大学大学院人文科学研究科地理学専攻
駒澤大学大学院人文科学研究科地理学専攻

明治大学大学院文学研究科地理学専攻
専修大学大学院文学研究科地理学専攻
国士舘大学大学院人文科学研究科人文科学専攻
日本大学大学院理工学研究科地理学専攻

⑤ 臨床人間学専攻現代社会学専修（社会学分野に関する協定）協定校

茨城大学大学院人文社会科学研究科
大妻女子大学大学院人間文化研究科現代社会研究専攻
駒澤大学大学院人文科学研究科社会学専攻
駒澤大学大学院グローバル・メディア研究科
埼玉大学大学院人文社会科学研究科
成蹊大学大学院文学研究科社会文化論専攻
専修大学大学院文学研究科社会学専攻
創価大学大学院文学研究科社会学専攻
大正大学大学院人間学研究科人間科学専攻
千葉大学大学院人文公共学府人文科学専攻
中央大学大学院文学研究科社会情報学専攻
都留文科大学大学院文学研究科社会学地域社会研究専攻
東洋大学大学院社会学研究科
常磐大学大学院人間科学研究科
日本女子大学大学院人間社会研究科現代社会論専攻
日本大学大学院新聞学研究科
法政大学大学院社会学研究科社会学専攻
武蔵大学大学院人文科学研究科社会学専攻
明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻
明治大学大学院政治経済学研究科政治学専攻
明治大学大学院文学研究科臨床人間学専攻
立教大学大学院社会学研究科社会学専攻
立正大学大学院文学研究科社会学専攻
流通経済大学大学院社会学研究科社会学専攻

2. 「首都大学院コンソーシアム」

研究科ホームページを参照してください。

アーカイブズ・カレッジについて

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館が主催するアーカイブズ・カレッジ〈史料管理学研修会〉の長期コース（約6週間）の全課程を修了し、修了論文の審査に合格した場合、単位として認定します。

なお、本研修は最大3年度にまたがる分割履修が可能です。単位認定するのは一括履修した場合に限ります。

先取り履修制度について

文学研究科においても学部・大学院教育の連携を促進させるため、2008年度から学部4年生が文学研究科設置科目を履修できる制度が導入されました。履修に際して、学部学生の同席も増加すると思われるので、ご配慮ください。

大学院共通選択科目、他研究科設置科目等の履修について

国内外を問わずに、近年は学際的研究課題が増えてきており、優れた研究成果を達成するには、隣接領域における研究動向への注視も不可欠になっております。こうしたことから大学院共通選択科目を増設しており、また修了要件単位として認定される他研究科設置科目も履修できます。指導教員や大学院事務室に照会ください。

大学院特別講義の履修について

各研究科では不定期に内外の著名な研究者を招聘した特別講義を開催しています。学際的領域を公開講義形式で開催することも多く、これらは大学院内に掲示され、大学院HPにも掲載しています。積極的に聴講することをお勧めします。

文学研究科

博士前期・修士課程、博士後期課程

(授業科目・担当者及び履修方法)

博士前期・修士課程修了要件

- 1 本研究科の日本文学・英文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア・史学・地理学専攻においては、32単位以上を、臨床人間学専攻臨床心理学専修においては、38単位以上を、現代社会学・教育学専修においては、36単位以上を修得しなければならない。
- 2 日本文学・英文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア・史学・地理学専攻においては、所属専攻の主要科目及び特修科目並びに共通特修科目の中から、24単位以上を修得しなければならない。
- 3 所属専攻の特定科目においては、4単位を上限に修得することができる。
- 4 共通特修科目のうち総合地域研究については、8単位を上限に修得することができる。
- 5 所属専攻の授業科目のほか、他の専攻若しくは他の研究科（専門職学位課程を含む。）又は単位互換協定による他の大学院の授業科目の修得をもって、修了に必要な単位の一部に加えることができる。
- 6 所属専攻の特定科目及び他の大学院の履修により修得できる単位は、合わせて15単位を限度とする。
- 7 本研究科に入学する前に、本大学院又は他の大学院において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）は、15単位を限度として本研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 8 6及び7により認定した単位は、合わせて20単位を限度として、本研究科の修了に必要な単位数に算入することができる。
- 9 別表1の2に規定する研究科間共通科目については、4単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。
- 10 指導教員が必要と認めた場合には、博士後期課程共通選択科目（文化継承学、日本古代学）を履修することができる。
- 11 各専攻における修得すべき単位は、次のとおりとする。
 - (1) **日本文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア専攻**
所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。
 - (2) **英文学専攻**
[英文学・米文学・英語学専修]
所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（合計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。
[英語教職専修]
ア 所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（合計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。
イ 臨床人間学専攻現代社会学・教育学専修科目の選択科目のうち、次の科目の中から4単位以上を修得すること。
教育システム論、思春期・青年期論、教師教育論、教育人間学、教育社会史特論、教授学習心理学特論、社会教育実践論、生涯学習特論、博物館学特論、博物館マネジメント特論、博物館教育論特論、博物館メディア論特論、地域博物館論特論、図書館情報学特論、専門図書館特論、情報サービス特論、図書館経営特論
 - (3) **史学専攻**
所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その講義A～D各2単位・演習A～D各2単位（計16単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、8単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

(4) 地理学専攻

所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習 A～D 各 2 単位及び地理学合同演習 A～D 各 2 単位（計 16 単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち 4 単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

(5) 臨床人間学専攻

[臨床心理学専修]

所属専攻の指導教員が担当する専攻必修科目（臨床人間学総合演習）を専修科目とし、その演習 A～D 各 2 単位（計 8 単位）、専修必修科目 20 単位及び選択必修科目 10 単位以上（A 群から E 群までそれぞれ 2 単位以上）を修得すること。

[現代社会学・教育学専修]

所属専攻の指導教員が担当する専攻必修科目（臨床人間学総合演習）を専修科目とし、その演習 A～D 各 2 単位（計 8 単位）、専修必修科目 4 単位、選択必修科目 16 単位（各年次 8 単位ずつ）及び選択科目 8 単位以上を修得すること。

12 学位論文作成のため、指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。

13 各専攻・専修の修了要件は次のとおり。

(1) 日本文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア専攻

年次	必修科目	選択科目 (所属専攻の必修科目を除く主要科目・特修科目、 共通特修科目)
1 年次	演習 A (2 単位)、演習 B (2 単位)	24 単位以上 (16 単位以上)
2 年次	演習 C (2 単位)、演習 D (2 単位)	
計	8 単位	24 単位以上 (16 単位以上)
合計		32 単位以上

(2) 英文学専攻 (英文学・米文学・英語学専修)

年次	必修科目	選択科目 (所属専攻の必修科目を除く主要科目・特修科目、 共通特修科目)
1 年次	演習 A (2 単位)、演習 B (2 単位)	24 単位以上 (16 単位以上)
2 年次	演習 C (2 単位)、演習 D (2 単位)	
計	8 単位	24 単位以上 (16 単位以上)
合計		32 単位以上

(3) 英文学専攻 (英語教職専修)

年次	必修科目	選択必修科目	選択科目 (所属専攻の必修科目 を除く主要科目・特修 科目、共通特修科目)
1 年次	演習 A (2 単位) 演習 B (2 単位)	教育システム論、思春期・青年期論、教師教育論、教育 人間学、教育社会史特論、教授学習心理学特論、社会教 育実践論、生涯学習特論、博物館学特論、博物館マネジ メント特論、博物館教育論特論、博物館メディア論特論、 地域博物館論特論、図書館情報学特論、専門図書館特論、 情報サービス特論、図書館経営特論の中から 4 単位以上	20 単位以上 (16 単位以上)
2 年次	演習 C (2 単位) 演習 D (2 単位)		
計	8 単位	4 単位以上	20 単位以上 (16 単位以上)
合計		32 単位以上	

(4) 史学専攻

年次	必修科目	選択科目 (所属専攻の必修科目を除く主要科目・特修科目、 共通特修科目)
1年次	講義A (2単位)、講義B (2単位) 演習A (2単位)、演習B (2単位)	16単位以上 (8単位以上)
2年次	講義C (2単位)、講義D (2単位) 演習C (2単位)、演習D (2単位)	
計	16単位	16単位以上 (8単位以上)
合計	32単位以上	

(5) 地理学専攻

年次	必修科目	選択科目 (所属専攻の必修科目を除く主要科目・ 特修科目、共通特修科目)
1年次	演習A (2単位)、演習B (2単位) 地理学合同演習A (2単位)、地理学合同演習B (2単位)	16単位以上 (8単位以上)
2年次	演習C (2単位)、演習D (2単位) 地理学合同演習C (2単位)、地理学合同演習D (2単位)	
計	16単位	16単位以上 (8単位以上)
合計	32単位以上	

(6) 臨床人間学専攻 (臨床心理学専修)

年次	専攻必修科目	専修必修科目	選択必修科目
1年次	臨床人間学総合演習A (2単位) 臨床人間学総合演習B (2単位)	20単位	10単位以上 (A群からE群までそれぞれ2単位以上)
2年次	臨床人間学総合演習C (2単位) 臨床人間学総合演習D (2単位)		
計	8単位	20単位	10単位以上
合計	38単位以上		

(7) 臨床人間学専攻 (臨床社会学専修) [2022年度以前入学者]

年次	専攻必修科目	専修必修科目	選択必修科目	選択科目・共通特修科目・他研究科科目・他専攻科目・他大学院科目
1年次	臨床人間学総合演習A (2単位) 臨床人間学総合演習B (2単位)	1単位	8単位	10単位以上
2年次	臨床人間学総合演習C (2単位) 臨床人間学総合演習D (2単位)	1単位	8単位	
計	8単位	2単位	16単位	10単位以上
合計	36単位以上			

(8) 臨床人間学専攻 (現代社会学専修) [2023年度以降入学者]

年次	専攻必修科目	専修必修科目	選択必修科目	選択科目・共通特修科目・他研究科科目・他専攻科目・他大学院科目
1年次	臨床人間学総合演習A (2単位) 臨床人間学総合演習B (2単位)	2単位	8単位	8単位以上
2年次	臨床人間学総合演習C (2単位) 臨床人間学総合演習D (2単位)	2単位	8単位	
計	8単位	4単位	16単位	8単位以上
合計	36単位以上			

(9) 臨床人間学専攻（教育学専修）[2023年度以降入学者]

年次	専攻必修科目	専修必修科目	選択必修科目	選択科目
1年次	臨床人間学総合演習A（2単位） 臨床人間学総合演習B（2単位）	2単位	8単位 (A群からD群のなかの 同一群から選択)	8単位 (A群からD群のなかの同一 群の科目から4単位以上選 択、加えてA群からE群の科 目から4単位以上選択)
2年次	臨床人間学総合演習C（2単位） 臨床人間学総合演習D（2単位）	2単位	8単位 (A群からD群のなかの 同一群から選択)	
計	8単位	4単位	16単位	8単位以上
合計	36単位以上			

- 14 履修計画書は1年次の初めに各自の研究計画にしたがって、修了に必要な履修科目の全部を届け出ること。
- 15 履修登録は、毎年度初めに履修計画に基づき、WEBにより、指定された期間に登録を済ませること。なお、WEB履修登録に関するマニュアルは別途配付する。

授業科目及び担当者

博士前期課程・修士課程

共通特修科目

授業科目	単位		配当学年	開講期	研究指導	担当者
	講義	演習				
総合文学研究ⅠA (総合文学と思想)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅠB (総合文学と思想)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅡA (比較文学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅡB (比較文学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅢA (言語学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅢB (言語学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅣA (総合文学と教育)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅣB (総合文学と教育)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅤA (総合文学と教育)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅤB (総合文学と教育)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅠA (歴史史教育)	2		1・2年	春学期	兼任講師 博士(史学)	伊勢弘志
総合史学研究ⅠB (歴史史教育)	2		1・2年	秋学期		
総合史学研究ⅡA (文学と歴史学)	2		1・2年	春学期	専任教授 専任教授 専任教授 博士(文学)	石川日出志 山崎健司 高橋一樹
総合史学研究ⅡB (文学と歴史学)	2		1・2年	秋学期		
総合史学研究ⅢA (アジアの政治と社会)	2		1・2年	春学期	専任教授 博士(文学)	櫻井智美
総合史学研究ⅢB (アジアの政治と社会)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅣA (前近代のヨーロッパ世界)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅣB (前近代のヨーロッパ世界)	2		1・2年	秋学期	専任教授 博士(文学)	青谷秀紀
総合史学研究ⅤA (考古学と人文社会諸科学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅤB (考古学と人文社会諸科学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅥA (文学・歴史学・考古学の方法論)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅥB (文学・歴史学・考古学の方法論)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合地域研究ⅠA (東北日本)	2		1・2年	集中	専任教授	石川日出志
総合地域研究ⅠB (南西日本)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合地域研究ⅡA (慶北大)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合地域研究ⅡB (高麗大)	2		1・2年	集中	専任教授 博士(文学)	牧野淳司
総合地域研究ⅡC (中国)	2		1・2年	集中	専任教授	石川日出志

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
(特修外国語)						
特 修 ド イ ツ 語 I	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(文学) 福 間 具 子
特 修 ド イ ツ 語 II	2			秋学期		
特 修 ド イ ツ 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 ド イ ツ 語 IV	2			半 期		
特 修 フ ラ ン ス 語 I	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士 (日本語・日本文化) ベルアド, クリス
特 修 フ ラ ン ス 語 II	2			秋学期		
特 修 フ ラ ン ス 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 フ ラ ン ス 語 IV	2			半 期		
特 修 中 国 語 I	2		1・2年	春学期		兼任講師 永 井 弥 人
特 修 中 国 語 II	2			秋学期		
特 修 中 国 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 中 国 語 IV	2			半 期		
特 修 朝 鮮 語 I	2		1・2年	春学期		兼任講師 平 野 鶴 子
特 修 朝 鮮 語 II	2			秋学期		
特 修 朝 鮮 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 朝 鮮 語 IV	2			半 期		
特 修 ロ シ ア 語 I	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士DEA (スラヴ学専攻) 杉 山 春 子
特 修 ロ シ ア 語 II	2			秋学期		
特 修 ロ シ ア 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 ロ シ ア 語 IV	2			半 期		
特 修 ス ペ イ ン 語 I	2		1・2年	春学期		兼任講師 Ph.D. 博士(哲学) バリエントス ロドリゲス
特 修 ス ペ イ ン 語 II	2			秋学期		
特 修 ス ペ イ ン 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 ス ペ イ ン 語 IV	2			半 期		
古 典 ギ リ シ ア 語 中 級	2		1・2年	春学期		専任准教授 古 山 夕 城
古 典 ギ リ シ ア 語 講 読	2			秋学期		
ラ テ ン 語 中 級 講 読 A	2		1・2年	春学期		専任教授 小 島 久 和
ラ テ ン 語 中 級 講 読 B	2			秋学期		
特 修 ア ラ ビ ア 語 A	2		1・2年	春学期		兼任講師 狩 野 希 望
特 修 ア ラ ビ ア 語 B	2			秋学期		

日本文学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	研究 指導	担当 者
	講義	演習				
主要科目						
日本古代文学演習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 山崎健司
日本古代文学演習 I B		2	1年	秋学期		
日本古代文学演習 I C		2	2年	春学期		
日本古代文学演習 I D		2	2年	秋学期		
日本古代文学演習 II A		2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(文学) 湯浅幸代
日本古代文学演習 II B		2	1年	秋学期		
日本古代文学演習 II C		2	2年	春学期		
日本古代文学演習 II D		2	2年	秋学期		
日本中世文学演習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 牧野淳司
日本中世文学演習 B		2	1年	秋学期		
日本中世文学演習 C		2	2年	春学期		
日本中世文学演習 D		2	2年	秋学期		
日本近世文学演習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 杉田昌彦
日本近世文学演習 B		2	1年	秋学期		
日本近世文学演習 C		2	2年	春学期		
日本近世文学演習 D		2	2年	秋学期		
日本近代文学演習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(人文科学) 竹内栄美子
日本近代文学演習 I B		2	1年	秋学期		
日本近代文学演習 I C		2	2年	春学期		
日本近代文学演習 I D		2	2年	秋学期		
日本近代文学演習 II A		2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(文学) 田口麻奈
日本近代文学演習 II B		2	1年	秋学期		
日本近代文学演習 II C		2	2年	春学期		
日本近代文学演習 II D		2	2年	秋学期		
日本近代文学演習 III A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 生方智子
日本近代文学演習 III B		2	1年	秋学期		
日本近代文学演習 III C		2	2年	春学期		
日本近代文学演習 III D		2	2年	秋学期		
国語学演習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 小野正弘
国語学演習 B		2	1年	秋学期		
国語学演習 C		2	2年	春学期		
国語学演習 D		2	2年	秋学期		
漢文学演習 A		2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(文学) 甲斐雄一
漢文学演習 B		2	1年	秋学期		
漢文学演習 C		2	2年	春学期		
漢文学演習 D		2	2年	秋学期		
日本文化学演習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(人文科学) 郭南燕
日本文化学演習 B		2	1年	秋学期		
日本文化学演習 C		2	2年	春学期		
日本文化学演習 D		2	2年	秋学期		

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
特 修 科 目						
日 本 古 代 文 学 特 論 I A	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(文学) 山 崎 健 司
日 本 古 代 文 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 古 代 文 学 特 論 II A	2		1・2年	春学期		専任准教授 博士(文学) 湯 淺 幸 代
日 本 古 代 文 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 中 世 文 学 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 中 世 文 学 特 論 B	2		1・2年	秋学期		専任教授 博士(文学) 牧 野 淳 司
日 本 近 世 文 学 特 論 A	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(文学) 杉 田 昌 彦
日 本 近 世 文 学 特 論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 近 代 文 学 特 論 I A	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(人文科学) 竹 内 栄美子
日 本 近 代 文 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 近 代 文 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 近 代 文 学 特 論 II B	2		1・2年	秋学期		専任准教授 博士(文学) 田 口 麻 奈
日 本 近 代 文 学 特 論 III A	2		1・2年	秋学期		専任教授 博士(文学) 生 方 智 子
日 本 近 代 文 学 特 論 III B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
国 語 学 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
国 語 学 特 論 B	2		1・2年	秋学期		専任教授 小 野 正 弘
日 本 文 化 学 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 化 学 特 論 B	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(人文科学) 郭 南 燕
日 本 文 学 特 殊 講 義 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 学 特 殊 講 義 I B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 学 特 殊 講 義 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 学 特 殊 講 義 II B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 学 史 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 学 史 特 論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
漢 文 学 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
漢 文 学 特 論 B	2		1・2年	秋学期		専任准教授 博士(文学) 甲 斐 雄 一
日 本 演 劇 特 論 I A	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(文学) 矢 内 賢 二
日 本 演 劇 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
日 本 演 劇 特 論 II A	2		1・2年	春学期		専任教授 伊 藤 真 紀
日 本 演 劇 特 論 II B	2		1・2年	秋学期		
特 定 科 目						
日 本 文 学 特 別 指 定 講 義 I	2		1・2年	半 期		
日 本 文 学 特 別 指 定 講 義 II	2		1・2年	半 期		

英 文 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配 当 学 年	開 講 期	研 究 指 導	担 当 者
	講 義	演 習				
主 要 科 目						
英 文 学 演 習 I A		2	1年	半 期		(本年度休講)
英 文 学 演 習 I B		2	1年	半 期		
英 文 学 演 習 I C		2	2年	半 期		
英 文 学 演 習 I D		2	2年	半 期		
英 文 学 演 習 II A		2	1年	半 期		(本年度休講)
英 文 学 演 習 II B		2	1年	半 期		
英 文 学 演 習 II C		2	2年	半 期		
英 文 学 演 習 II D		2	2年	半 期		
英 文 学 演 習 III A		2	1年	春 学 期	○	専任教授 Ph.D. 大 山 るみこ
英 文 学 演 習 III B		2	1年	秋 学 期		
英 文 学 演 習 III C		2	2年	春 学 期		
英 文 学 演 習 III D		2	2年	秋 学 期		
英 文 学 演 習 IV A		2	1年	春 学 期	○	専任教授 D.Phil. ワトソン, アレックス
英 文 学 演 習 IV B		2	1年	秋 学 期		
英 文 学 演 習 IV C		2	2年	春 学 期		
英 文 学 演 習 IV D		2	2年	秋 学 期		
英 文 学 演 習 V A		2	1年	半 期		(本年度休講)
英 文 学 演 習 V B		2	1年	半 期		
英 文 学 演 習 V C		2	2年	半 期		
英 文 学 演 習 V D		2	2年	半 期		
米 文 学 演 習 I A		2	1年	春 学 期	○	専任講師 Ph.D. 横 山 晃
米 文 学 演 習 I B		2	1年	秋 学 期		
米 文 学 演 習 I C		2	2年	春 学 期		
米 文 学 演 習 I D		2	2年	秋 学 期		
米 文 学 演 習 II A		2	1年	春 学 期	○	専任教授 Ph.D. サトウ, ゲイルK.
米 文 学 演 習 II B		2	1年	秋 学 期		
米 文 学 演 習 II C		2	2年	春 学 期		
米 文 学 演 習 II D		2	2年	秋 学 期		
米 文 学 演 習 III A		2	1年	半 期		(本年度休講)
米 文 学 演 習 III B		2	1年	半 期		
米 文 学 演 習 III C		2	2年	半 期		
米 文 学 演 習 III D		2	2年	半 期		
米 文 学 演 習 IV A		2	1年	春 学 期	○	専任教授 博士(文学) 梶 原 照 子
米 文 学 演 習 IV B		2	1年	秋 学 期		
米 文 学 演 習 IV C		2	2年	春 学 期		
米 文 学 演 習 IV D		2	2年	秋 学 期		
米 文 学 演 習 V A		2	1年	半 期		(本年度休講)
米 文 学 演 習 V B		2	1年	半 期		
米 文 学 演 習 V C		2	2年	半 期		
米 文 学 演 習 V D		2	2年	半 期		
英 語 学 演 習 I A		2	1年	春 学 期	○	専任講師 新 城 真 里 奈
英 語 学 演 習 I B		2	1年	秋 学 期		
英 語 学 演 習 I C		2	2年	春 学 期		
英 語 学 演 習 I D		2	2年	秋 学 期		
英 語 学 演 習 II A		2	1年	春 学 期	○	専任教授 Ph.D. 石 井 透
英 語 学 演 習 II B		2	1年	秋 学 期		
英 語 学 演 習 II C		2	2年	春 学 期		
英 語 学 演 習 II D		2	2年	秋 学 期		

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
英 語 学 演 習 III A		2	1年	春学期	○	専任准教授 久保田 俊彦
英 語 学 演 習 III B		2	1年	秋学期		
英 語 学 演 習 III C		2	2年	春学期		
英 語 学 演 習 III D		2	2年	秋学期		
特 修 科 目						
英 文 学 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼担教授 辻 昌宏
英 文 学 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
英 文 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
英 文 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		
英 文 学 特 論 III A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
英 文 学 特 論 III B	2		1・2年	半 期		
米 文 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
米 文 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		
米 文 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
米 文 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		
米 文 学 特 論 III A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
米 文 学 特 論 III B	2		1・2年	半 期		
英 語 学 特 論 A	2		1・2年	春学期		兼任講師 市 橋 久美子
英 語 学 特 論 B	2		1・2年	秋学期		
英 語 教 職 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 吉 村 由 佳
英 語 教 職 特 論 I B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
英 語 教 職 特 論 II A	2		1・2年	秋学期		兼任講師 博士(文学) 中 村 文 紀
英 語 教 職 特 論 II B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
英 語 教 職 特 論 III A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
英 語 教 職 特 論 III B	2		1・2年	半 期		
英 語 教 職 特 論 IV A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
英 語 教 職 特 論 IV B	2		1・2年	半 期		
特 定 科 目						
英 文 学 特 別 指 定 講 義 I	2		1・2年	半 期		
英 文 学 特 別 指 定 講 義 II	2		1・2年	半 期		

仏文学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	研究 指導	担当者
	講義	演習				
主要科目						
近代仏文学演習 I A		2	1年	半期		(本年度休講)
近代仏文学演習 I B		2	1年	半期		
近代仏文学演習 I C		2	2年	半期		
近代仏文学演習 I D		2	2年	半期		
近代仏文学演習 II A		2	1年	半期		(本年度休講)
近代仏文学演習 II B		2	1年	半期		
近代仏文学演習 II C		2	2年	半期		
近代仏文学演習 II D		2	2年	半期		
近代仏文学演習 III A		2	1年	春学期	○ 専任教授	小島久和
近代仏文学演習 III B		2	1年	秋学期		
近代仏文学演習 III C		2	2年	春学期		
近代仏文学演習 III D		2	2年	秋学期		
近代仏文学演習 IV A		2	1年	春学期	○ 専任准教授	博士 (フランス文学・文明) 奥香織
近代仏文学演習 IV B		2	1年	秋学期		
近代仏文学演習 IV C		2	2年	春学期		
近代仏文学演習 IV D		2	2年	秋学期		
現代仏文学演習 I A		2	1年	春学期	○ 専任教授	合田正人
現代仏文学演習 I B		2	1年	半期		(本年度休講)
現代仏文学演習 I C		2	2年	春学期	○ 専任教授	合田正人
現代仏文学演習 I D		2	2年	半期		(本年度休講)
現代仏文学演習 II A		2	1年	半期		(本年度休講)
現代仏文学演習 II B		2	1年	半期		
現代仏文学演習 II C		2	2年	半期		
現代仏文学演習 II D		2	2年	半期		
現代仏文学演習 III A		2	1年	春学期	○ 専任教授	学術博士 根本美作子
現代仏文学演習 III B		2	1年	秋学期		
現代仏文学演習 III C		2	2年	春学期		
現代仏文学演習 III D		2	2年	秋学期		
現代仏文学演習 IV A		2	1年	春学期	○ 専任教授	博士(文学) 谷口亜沙子
現代仏文学演習 IV B		2	1年	秋学期		
現代仏文学演習 IV C		2	2年	春学期		
現代仏文学演習 IV D		2	2年	秋学期		
仏語学演習 A		2	1年	半期		(本年度休講)
仏語学演習 B		2	1年	半期		
仏語学演習 C		2	2年	半期		
仏語学演習 D		2	2年	半期		

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
特 修 科 目						
近 代 仏 文 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近 代 仏 文 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		
近 代 仏 文 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近 代 仏 文 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		
近 代 仏 文 学 特 論 III A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近 代 仏 文 学 特 論 III B	2		1・2年	半 期		
近 代 仏 文 学 特 論 IV A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近 代 仏 文 学 特 論 IV B	2		1・2年	半 期		
近 代 仏 文 学 特 論 V A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近 代 仏 文 学 特 論 V B	2		1・2年	半 期		
現 代 仏 文 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現 代 仏 文 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		
現 代 仏 文 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現 代 仏 文 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		
現 代 仏 文 学 特 論 III A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現 代 仏 文 学 特 論 III B	2		1・2年	半 期		
現 代 仏 文 学 特 論 IV A	2		1・2年	春学期	兼任講師	ドゥヴァス, パトリック
現 代 仏 文 学 特 論 IV B	2		1・2年	秋学期		
仏 語 学 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
仏 語 学 特 論 B	2		1・2年	半 期		
フランス文学理論・思想研究 I	2		1・2年	春学期	専任教授 文学博士	田母神 顯二郎
フランス文学理論・思想研究 II	2		1・2年	秋学期		
特 定 科 目						
仏 文 学 特 別 指 定 講 義 I	2		1・2年	半 期		
仏 文 学 特 別 指 定 講 義 II	2		1・2年	半 期		

独 文 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配 当 学 年	開 講 期	研 究 指 導	担 当 者
	講 義	演 習				
主 要 科 目						
近 代 独 文 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 岡 本 和 子
近 代 独 文 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
近 代 独 文 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
近 代 独 文 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
近 代 独 文 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○	専任教授 富 重 与 志 生
近 代 独 文 学 演 習 II B		2	1年	秋学期		
近 代 独 文 学 演 習 II C		2	2年	春学期		
近 代 独 文 学 演 習 II D		2	2年	秋学期		
現 代 独 文 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 福 間 具 子
現 代 独 文 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
現 代 独 文 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
現 代 独 文 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
現 代 独 文 学 演 習 II A		2	1年	半 期		(本年度休講)
現 代 独 文 学 演 習 II B		2	1年	半 期		
現 代 独 文 学 演 習 II C		2	2年	半 期		
現 代 独 文 学 演 習 II D		2	2年	半 期		
現 代 独 文 学 演 習 III A		2	1年	春学期	○	専任教授 新 本 史 斉
現 代 独 文 学 演 習 III B		2	1年	秋学期		
現 代 独 文 学 演 習 III C		2	2年	春学期		
現 代 独 文 学 演 習 III D		2	2年	秋学期		
ド イ ツ 文 芸 思 想 史 演 習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 Dr.phil. マンデラウツ, ミハエル
ド イ ツ 文 芸 思 想 史 演 習 B		2	1年	秋学期		
ド イ ツ 文 芸 思 想 史 演 習 C		2	2年	春学期		
ド イ ツ 文 芸 思 想 史 演 習 D		2	2年	秋学期		
独 語 学 演 習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 渡 辺 学
独 語 学 演 習 B		2	1年	秋学期		
独 語 学 演 習 C		2	2年	春学期		
独 語 学 演 習 D		2	2年	秋学期		
特 修 科 目						
近 代 独 文 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近 代 独 文 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近 代 独 文 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近 代 独 文 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現 代 独 文 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現 代 独 文 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現 代 独 文 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現 代 独 文 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
ド イ ツ 文 芸 思 想 史 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
ド イ ツ 文 芸 思 想 史 特 論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
ド イ ツ 古 典 文 学 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
ド イ ツ 古 典 文 学 特 論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 定 科 目						
独 文 学 特 別 指 定 講 義 I	2		1・2年	半 期		
独 文 学 特 別 指 定 講 義 II	2		1・2年	半 期		

演劇学専攻

授業科目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
主 要 科 目						
演劇学演習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 井上 優
演劇学演習 I B		2	1年	秋学期		
演劇学演習 I C		2	2年	春学期		
演劇学演習 I D		2	2年	秋学期		
演劇学演習 II A		2	1年	春学期	○	専任教授 大林 のり子
演劇学演習 II B		2	1年	秋学期		
演劇学演習 II C		2	2年	春学期		
演劇学演習 II D		2	2年	秋学期		
演劇学演習 III A		2	1年	半 期		(本年度休講)
演劇学演習 III B		2	1年	半 期		
演劇学演習 III C		2	2年	半 期		
演劇学演習 III D		2	2年	半 期		
日本演劇演習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 伊藤 真紀
日本演劇演習 I B		2	1年	秋学期		
日本演劇演習 I C		2	2年	春学期		
日本演劇演習 I D		2	2年	秋学期		
日本演劇演習 II A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 矢内 賢二
日本演劇演習 II B		2	1年	秋学期		
日本演劇演習 II C		2	2年	春学期		
日本演劇演習 II D		2	2年	秋学期		
特 修 科 目						
演劇学特論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 上野 房子
演劇学特論 I B	2		1・2年	秋学期		
演劇学特論 II A	2		1・2年	春学期		兼任講師 伊藤 明子
演劇学特論 II B	2		1・2年	秋学期		
日本演劇特論 I A	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(文学) 矢内 賢二
日本演劇特論 I B	2		1・2年	秋学期		
日本演劇特論 II A	2		1・2年	春学期		専任教授 伊藤 真紀
日本演劇特論 II B	2		1・2年	秋学期		
西洋劇文学史特論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
西洋劇文学史特論 I B	2		1・2年	半 期		
西洋劇文学史特論 II A	2		1・2年	春学期		
西洋劇文学史特論 II B	2		1・2年	秋学期		
西洋劇文学史特論 III A	2		1・2年	春学期		専任教授 井上 優
西洋劇文学史特論 III B	2		1・2年	秋学期		
言語芸術論 特論 A	2		1・2年	春学期		兼任講師 京谷 啓徳
言語芸術論 特論 B	2		1・2年	秋学期		
特 定 科 目						
演劇学特別指定講義 I	2		1・2年	半 期		
演劇学特別指定講義 II	2		1・2年	半 期		

文芸メディア専攻

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
主 要 科 目						
文芸メディア演習 I A		2	1年	春学期	○	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子
文芸メディア演習 I B		2	1年	秋学期		
文芸メディア演習 I C		2	2年	春学期		
文芸メディア演習 I D		2	2年	秋学期		
文芸メディア演習 II A		2	1年	春学期	○	専任教授 内村 和至
文芸メディア演習 II B		2	1年	秋学期		
文芸メディア演習 II C		2	2年	春学期		
文芸メディア演習 II D		2	2年	秋学期		
文芸メディア演習 III A		2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜
文芸メディア演習 III B		2	1年	秋学期		
文芸メディア演習 III C		2	2年	春学期		
文芸メディア演習 III D		2	2年	秋学期		
文芸メディア演習 IV A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子
文芸メディア演習 IV B		2	1年	秋学期		
文芸メディア演習 IV C		2	2年	春学期		
文芸メディア演習 IV D		2	2年	秋学期		
文芸メディア演習 V A		2	1年	春学期	○	専任講師 相良 剛
文芸メディア演習 V B		2	1年	秋学期		
文芸メディア演習 V C		2	2年	春学期		
文芸メディア演習 V D		2	2年	秋学期		
文芸メディア演習 VI A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(芸術学) 伊藤 氏貴
文芸メディア演習 VI B		2	1年	秋学期		
文芸メディア演習 VI C		2	2年	春学期		
文芸メディア演習 VI D		2	2年	秋学期		
特 修 科 目						
文芸メディア特論 I A	2		1・2年	春学期		専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子
文芸メディア特論 I B	2		1・2年	秋学期		
文芸メディア特論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論 II B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論 III A	2		1・2年	春学期		専任准教授 博士(学術) 能地 克宜
文芸メディア特論 III B	2		1・2年	秋学期		
文芸メディア特論 IV A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論 IV B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論 V A	2		1・2年	春学期		専任講師 相良 剛
文芸メディア特論 V B	2		1・2年	秋学期		
文芸メディア特論 VI A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論 VI B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日本文芸史特論 A	2		1・2年	春学期		専任教授 内村 和至
日本文芸史特論 B	2		1・2年	秋学期		
表象文化特論 A	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(社会学) 中江 桂子
表象文化特論 B	2		1・2年	秋学期		
表現創作特論 A	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(芸術学) 伊藤 氏貴
表現創作特論 B	2		1・2年	秋学期		
メディア分析特論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
メディア分析特論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近現代文芸特論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近現代文芸特論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
伝承文学特論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
伝承文学特論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 定 科 目						
文芸メディア特別指定講義 I	2		1・2年	半 期		
文芸メディア特別指定講義 II	2		1・2年	半 期		

史 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
主 要 科 目						
日 本 史 学 研 究 I A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(工学) 松 山 恵
日 本 史 学 研 究 I B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 I C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 I D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 II A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 野 尻 泰 弘
日 本 史 学 研 究 II B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 II C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 II D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 III A	2	2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(史学) 中 村 友 一
日 本 史 学 研 究 III B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 III C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 III D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 IV A	2	2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(史学) 清 水 有 子
日 本 史 学 研 究 IV B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 IV C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 IV D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 V A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 山 田 朗
日 本 史 学 研 究 V B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 V C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 V D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VI A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 高 橋 一 樹
日 本 史 学 研 究 VI B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VI C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 VI D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VII A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 落 合 弘 樹 (2024年度特別研究)
日 本 史 学 研 究 VII B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VII C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 VII D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VIII A	2		1年	春学期		兼任講師 趙 景 達
日 本 史 学 研 究 VIII B	2		1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VIII C	2		2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 VIII D	2		2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 IX A	2		1年	春学期		兼任講師 博士(文学) 仁 藤 敦 史
日 本 史 学 研 究 IX B	2		1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 IX C	2		2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 IX D	2		2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 X A	2	2	1年	春学期	○	専任講師 博士(歴史学) 富 山 仁 貴
日 本 史 学 研 究 X B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 X C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 X D	2	2	2年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 I A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 高 田 幸 男
ア ジ ア 史 研 究 I B	2	2	1年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 I C	2	2	2年	春学期		
ア ジ ア 史 研 究 I D	2	2	2年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 II A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 江 川 ひかり (2024年度特別研究)
ア ジ ア 史 研 究 II B	2	2	1年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 II C	2	2	2年	春学期		
ア ジ ア 史 研 究 II D	2	2	2年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 III A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 櫻 井 智 美
ア ジ ア 史 研 究 III B	2	2	1年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 III C	2	2	2年	春学期		
ア ジ ア 史 研 究 III D	2	2	2年	秋学期		

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
ア ジ ア 史 研 究 I V A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 高 村 武 幸
ア ジ ア 史 研 究 I V B	2	2	1年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 I V C	2	2	2年	春学期		
ア ジ ア 史 研 究 I V D	2	2	2年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 V A	2	2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(文学) 鈴 木 開
ア ジ ア 史 研 究 V B	2	2	1年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 V C	2	2	2年	春学期		
ア ジ ア 史 研 究 V D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 I A	2	2	1年	春学期	○	専任准教授 古 山 夕 城
西 洋 史 学 研 究 I B	2	2	1年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 I C	2	2	2年	春学期		
西 洋 史 学 研 究 I D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 II A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 Dr.Phil. 水 野 博 子
西 洋 史 学 研 究 II B	2	2	1年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 II C	2	2	2年	春学期		
西 洋 史 学 研 究 II D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 III A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 青 谷 秀 紀
西 洋 史 学 研 究 III B	2	2	1年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 III C	2	2	2年	春学期		
西 洋 史 学 研 究 III D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 IV A	2	2	1年	春学期	○	専任准教授 鱒 淵 秀 一
西 洋 史 学 研 究 IV B	2	2	1年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 IV C	2	2	2年	春学期		
西 洋 史 学 研 究 IV D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 V A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 豊 川 浩 一
西 洋 史 学 研 究 V B	2	2	1年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 V C	2	2	2年	春学期		
西 洋 史 学 研 究 V D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 VI A	2	2	1年	半 期		(本年度休講)
西 洋 史 学 研 究 VI B	2	2	1年	半 期		
西 洋 史 学 研 究 VI C	2	2	2年	半 期		
西 洋 史 学 研 究 VI D	2	2	2年	半 期		
考 古 学 研 究 I A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 石 川 日 出 志
考 古 学 研 究 I B	2	2	1年	秋学期		
考 古 学 研 究 I C	2	2	2年	春学期		
考 古 学 研 究 I D	2	2	2年	秋学期		
考 古 学 研 究 II A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 阿 部 芳 郎
考 古 学 研 究 II B	2	2	1年	秋学期		
考 古 学 研 究 II C	2	2	2年	春学期		
考 古 学 研 究 II D	2	2	2年	秋学期		
考 古 学 研 究 III A	2	2	1年	秋学期	○	専任教授 Ph.D. 佐々木 憲 一 (2024年度春学期在外研究)
考 古 学 研 究 III B	2	2	1年	秋学期		
考 古 学 研 究 III C	2	2	2年	秋学期		
考 古 学 研 究 III D	2	2	2年	秋学期		
考 古 学 研 究 IV A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 藤 山 龍 造
考 古 学 研 究 IV B	2	2	1年	秋学期		
考 古 学 研 究 IV C	2	2	2年	春学期		
考 古 学 研 究 IV D	2	2	2年	秋学期		
考 古 学 研 究 V A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 若 狭 徹
考 古 学 研 究 V B	2	2	1年	秋学期		
考 古 学 研 究 V C	2	2	2年	春学期		
考 古 学 研 究 V D	2	2	2年	秋学期		

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
特 修 科 目						
日 本 史 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 久留島 典 子
日 本 史 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
日 本 史 特 論 II A	2		1・2年	春学期		兼任教授 博士(文学) 須 田 努
日 本 史 特 論 II B	2		1・2年	秋学期		
文 化 史 特 論 A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(史学) 三 舟 隆 之
文 化 史 特 論 B	2		1・2年	秋学期		
思 想 史 特 論 A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(文学) 若 尾 政 希
思 想 史 特 論 B	2		1・2年	秋学期		
ア ジ ア 史 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(文学) 津 田 資 久
ア ジ ア 史 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
ア ジ ア 史 特 論 II A	2		1・2年	春学期		兼任講師 平 野 豊
ア ジ ア 史 特 論 II B	2		1・2年	秋学期		
西 洋 史 特 論 I A	2		1・2年	春学期集中		兼任講師 小 澤 弘 明
西 洋 史 特 論 I B	2		1・2年	秋学期集中		
西 洋 史 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
西 洋 史 特 論 II B	2		1・2年	半 期		
考 古 学 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(理学) 米 田 穰
考 古 学 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
考 古 学 特 論 II A	2		1・2年	春学期		兼任講師 小 澤 正 人
考 古 学 特 論 II B	2		1・2年	秋学期		
考 古 学 特 論 III A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
考 古 学 特 論 III B	2		1・2年	半 期		
考 古 学 フィールドワーク A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
考 古 学 フィールドワーク B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 定 科 目						
史 学 特 別 指 定 講 義 I	2		1・2年	半 期		
史 学 特 別 指 定 講 義 II	2		1・2年	半 期		

地 理 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配 当 学 年	開 講 期	研 究 指 導	担 当 者
	講 義	演 習				
主 要 科 目						
自 然 地 理 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 理学博士 梅 本 亨
自 然 地 理 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
自 然 地 理 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
自 然 地 理 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
自 然 地 理 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○	専任講師 博士(環境学) 佐々木 夏来
自 然 地 理 学 演 習 II B		2	1年	秋学期		
自 然 地 理 学 演 習 II C		2	2年	春学期		
自 然 地 理 学 演 習 II D		2	2年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(理学) 川 口 太 郎
人 文 地 理 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
人 文 地 理 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 大 城 直 樹
人 文 地 理 学 演 習 II B		2	1年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 II C		2	2年	春学期		
人 文 地 理 学 演 習 II D		2	2年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 III A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(学術) 中 澤 高 志
人 文 地 理 学 演 習 III B		2	1年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 III C		2	2年	春学期		
人 文 地 理 学 演 習 III D		2	2年	秋学期		
地 誌 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(社会学) 荒 又 美 陽
地 誌 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
地 誌 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
地 誌 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
地 誌 学 演 習 II A		2	1年	半 期		(本年度休講)
地 誌 学 演 習 II B		2	1年	半 期		
地 誌 学 演 習 II C		2	2年	半 期		
地 誌 学 演 習 II D		2	2年	半 期		
地 理 学 合 同 演 習 A		2	1年	春学期		専任教授 博士(理学) 川 口 太 郎 専任教授 理学博士 梅 本 亨 専任教授 博士(文学) 大 城 直 樹 専任教授 博士(学術) 中 澤 高 志 専任教授 博士(社会学) 荒 又 美 陽 専任教授 Ph.D. 山 本 大 策 (秋学期のみ) 専任講師 博士(環境学) 佐々木 夏来
地 理 学 合 同 演 習 B		2	1年	秋学期		
地 理 学 合 同 演 習 C		2	2年	春学期		
地 理 学 合 同 演 習 D		2	2年	秋学期		

授 業 科 目	単 位		配 当 学 年	開 講 期	研 究 指 導	担 当 者
	講 義	演 習				
特 修 科 目						
自 然 地 理 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
自 然 地 理 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		
自 然 地 理 学 特 論 II A	2		1・2年	春 学 期	兼任講師 博士(理学)	須 貝 俊 彦
自 然 地 理 学 特 論 II B	2		1・2年	秋 学 期		
人 文 地 理 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
人 文 地 理 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		
人 文 地 理 学 特 論 II A	2		1・2年	春 学 期	兼任講師 博士(学術)	箸 本 健 二
人 文 地 理 学 特 論 II B	2		1・2年	秋 学 期		
地 誌 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
地 誌 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		
地 誌 学 特 論 II A	2		1・2年	春 学 期	兼任教授 博士(地理学)	中 川 秀 一
地 誌 学 特 論 II B	2		1・2年	秋 学 期		
地 理 学 フィールドワーク A	2		1・2年	春 学 期 集 中	専任教授 博士(理学) 川 口 太 郎 専任教授 理学博士 梅 本 亨 専任教授 博士(文学) 大 城 直 樹 専任教授 博士(学術) 中 澤 高 志 専任教授 博士(社会学) 荒 又 美 陽 専任教授 Ph.D. 山 本 大 策 専任講師 博士(環境学) 佐々木 夏 来	
地 理 学 フィールドワーク B	2		1・2年	秋 学 期 集 中		
特 定 科 目						
地 理 学 特 別 指 定 講 義 I	2		1・2年	半 期		
地 理 学 特 別 指 定 講 義 II	2		1・2年	半 期		

臨床人間学専攻

授業科目	単位			配当 学年	開講期	研究 指導	担当者					
	講義	演習	実習									
専攻必修科目												
臨床人間学総合演習 A		2		1年	春学期	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士(教育学) 専任教授 博士(人間学) 専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士 (コミュニティ福祉学) 専任准教授 博士(教育学) 専任准教授 博士(心理学) 専任准教授 博士(医学) 専任教授 専任教授 専任准教授 博士(社会学) 専任准教授 博士(政策科学) 専任教授 専任教授 専任教授 博士(図書館情報学) 専任教授 専任教授 博士(歴史学) 専任教授 専任教授 博士(教育学) 専任教授 博士(教育学) 専任准教授 博士(教育学) 専任准教授 Ph.D.	岡諸伊高瀬加竹佐々木濱川大平内昔宇小齋高青平駒三山伊関井	安富藤瀬藤松木田島畑山藤農田林藤野柳川見浦下藤根上	孝祥直由尚志掌祥義裕満朝英和泰和英景和太達貴宏由	弘彦樹嗣子乃子高嗣紀雄明子繁則子治子夫郎也昭朗佳	
臨床人間学総合演習 B		2		1年	秋学期	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士(教育学) 専任教授 博士(人間学) 専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士 (コミュニティ福祉学) 専任准教授 博士(教育学) 専任准教授 博士(心理学) 専任准教授 博士(医学) 専任教授 専任教授 専任准教授 博士(社会学) 専任准教授 博士(政策科学) 専任教授 専任教授 専任教授 博士(図書館情報学) 専任教授 専任教授 博士(歴史学) 専任教授 専任教授 博士(教育学) 専任教授 博士(教育学) 専任准教授 博士(教育学) 専任准教授 Ph.D.	岡諸伊高瀬加竹佐々木濱川大平内昔宇小齋高青平駒三山伊関井	安富藤瀬藤松木田島畑山藤農田林藤野柳川見浦下藤根上	孝祥直由尚志掌祥義裕満朝英和泰和英景和太達貴宏由	弘彦樹嗣子乃子高嗣紀雄明子繁則子治子夫郎也昭朗佳	
臨床人間学総合演習 C		2		2年	春学期	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士(教育学) 専任教授 博士(人間学) 専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士 (コミュニティ福祉学) 専任准教授 博士(教育学) 専任准教授 博士(心理学) 専任准教授 博士(医学) 専任教授 専任教授 専任准教授 博士(社会学) 専任准教授 博士(政策科学) 専任教授 専任教授 専任教授 博士(図書館情報学) 専任教授 専任教授 博士(歴史学) 専任教授 専任教授 博士(教育学) 専任教授 博士(教育学) 専任准教授 博士(教育学) 専任准教授 Ph.D.	岡諸伊高瀬加竹佐々木濱川大平内昔宇小齋高青平駒三山伊関井	安富藤瀬藤松木田島畑山藤農田林藤野柳川見浦下藤根上	孝祥直由尚志掌祥義裕満朝英和泰和英景和太達貴宏由	弘彦樹嗣子乃子高嗣紀雄明子繁則子治子夫郎也昭朗佳	
臨床人間学総合演習 D		2		2年	秋学期	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士(教育学) 専任教授 博士(人間学) 専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士 (コミュニティ福祉学) 専任准教授 博士(教育学) 専任准教授 博士(心理学) 専任准教授 博士(医学) 専任教授 専任教授 専任准教授 博士(社会学) 専任准教授 博士(政策科学) 専任教授 専任教授 専任教授 博士(図書館情報学) 専任教授 専任教授 博士(歴史学) 専任教授 専任教授 博士(教育学) 専任教授 博士(教育学) 専任准教授 博士(教育学) 専任准教授 Ph.D.	岡諸伊高瀬加竹佐々木濱川大平内昔宇小齋高青平駒三山伊関井	安富藤瀬藤松木田島畑山藤農田林藤野柳川見浦下藤根上	孝祥直由尚志掌祥義裕満朝英和泰和英景和太達貴宏由	弘彦樹嗣子乃子高嗣紀雄明子繁則子治子夫郎也昭朗佳	
臨床心理学専修科目												
(専修必修科目)												
臨床心理学特論 A	2			1・2年	秋学期		専任准教授 博士(心理学)	濱田祥子				
臨床心理学特論 B	2			1・2年	春学期		専任准教授 博士(教育学)	佐々木掌子				
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(心理学) 専任准教授	岡安孝弘 竹松志乃				
臨床心理面接特論 II	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(教育学)	諸富祥彦				
臨床心理基礎実習 A		2		1年	春学期		専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士(教育学) 兼任講師 博士(人間学) 兼任講師 兼任講師	岡安孝弘 諸小富 小岩粥 高井田夏子				
臨床心理基礎実習 B		2		1年	秋学期		専任教授 博士(教育学) 専任准教授 博士(教育学) 兼任講師 博士(人間学) 兼任講師 兼任講師	諸富祥彦 佐々木掌子 小岩粥 高井田夏子				
臨床心理実習 I (心理実践実習 I)		2		2年	秋学期		専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士(人間学) 専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士 (コミュニティ福祉学) 専任准教授 博士(心理学) 専任准教授 博士(医学)	岡安孝弘 伊藤瀬藤 高加竹佐々木濱川				
臨床心理実習 II		2		2年	春学期		専任教授 博士(人間学) 専任教授 博士(心理学) 専任教授 博士 (コミュニティ福祉学) 専任准教授 博士(教育学) 専任准教授 博士(心理学) 専任教授 博士(医学)	伊高瀬藤 高加竹佐々木濱川				
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践I)		2		1年	春学期		専任教授 博士(心理学)	高瀬由嗣				
臨床心理査定演習 II		2		1年	秋学期		専任教授 博士(心理学)	高瀬由嗣				

臨床人間学専攻(2022年度以前入学者)

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
(選択必修科目)							
A群							
心理学研究法特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅳ)	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(人間学) 伊藤直樹
心理統計法特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅲ)	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
B群							
発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅱ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(心理学) 眞榮城 和美
人格心理学特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 佐藤秀行
C群							
社会心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2			1・2年	春学期		兼任講師 博士(社会学) 西田公昭
犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2			1・2年	春学期		兼任講師 博士(心理学) 室城隆之
D群							
精神医学特論Ⅰ (保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(医学) 道喜将太郎
心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ)	2			1・2年	春学期		兼任講師 竹内伸
障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ)	2			1・2年	春学期		兼任講師 山崎晃史
健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(心理学) 岡安孝弘
E群							
心理療法特論	2			1・2年	春学期集中		兼任講師 富士見ユキオ
グループアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(人間学) 藤岡孝志
コミュニティアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ)	2			1・2年	春学期		専任教授 博士 (コミュニティ福祉学) 加藤尚子
学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(教育学) 諸富祥彦
投映法特論 A	2			2年	春学期		兼任講師 岩井昌也
投映法特論 B	2			2年	秋学期		兼任講師 加藤佑昌
臨床心理特別実習ⅠA (心理実践実習ⅡA)			2	1年	春学期		兼任講師 増沢高樹
臨床心理特別実習ⅠB (心理実践実習ⅡB)			2	1年	秋学期		専任教授 博士(人間学) 伊藤直樹 専任准教授 博士(医学) 川島義高
臨床心理特別実習ⅡA (心理実践実習ⅢA)			2	2年	春学期		兼任講師 吾妻ゆかり
臨床心理特別実習ⅡB (心理実践実習ⅢB)			2	2年	秋学期		専任教授 博士(心理学) 高瀬由嗣 専任准教授 竹松志乃
臨床社会学専修科目							
(専修必修科目)							
臨床社会学実習Ⅱ			1	2年	春学期集中		大畑 裕嗣、平山 満紀、内藤 朝雄、 昔農 英明、宇田 和子、小林 繁、 齋藤 泰則、高野 和子、青柳 英治、 平川 景子、駒見 和夫、三浦 太郎、 山下 達也、伊藤 貴昭、関根 宏明、 井上 由佳

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
(選択必修科目)							
臨 床 社 会 学 演 習 I A		2		1・2年	春学期		専任准教授 博士(社会学) 昔 農 英 明
臨 床 社 会 学 演 習 I B		2		1・2年	秋学期		
臨 床 社 会 学 演 習 II A		2		1・2年	春学期		専任教授 大 畑 裕 嗣
臨 床 社 会 学 演 習 II B		2		1・2年	秋学期		
臨 床 社 会 学 演 習 III A		2		1・2年	春学期		専任准教授 博士(政策科学) 宇 田 和 子
臨 床 社 会 学 演 習 III B		2		1・2年	秋学期		
臨 床 社 会 学 演 習 IV A		2		1・2年	春学期		専任准教授 内 藤 朝 雄
臨 床 社 会 学 演 習 IV B		2		1・2年	秋学期		
臨 床 社 会 学 演 習 V A		2		1・2年	春学期		専任教授 平 山 満 紀
臨 床 社 会 学 演 習 V B		2		1・2年	秋学期		
臨 床 教 育 学 演 習 I A		2		1・2年	半 期		(本年度休講)
臨 床 教 育 学 演 習 I B		2		1・2年			
臨 床 教 育 学 演 習 II A		2		1・2年	半 期		(本年度休講)
臨 床 教 育 学 演 習 II B		2		1・2年			
臨 床 教 育 学 演 習 III A		2		1・2年	半 期		(本年度休講)
臨 床 教 育 学 演 習 III B		2		1・2年			
臨 床 教 育 学 演 習 IV A		2		1・2年	半 期		(本年度休講)
臨 床 教 育 学 演 習 IV B		2		1・2年			
臨 床 教 育 学 演 習 V A		2		1・2年	半 期		(本年度休講)
臨 床 教 育 学 演 習 V B		2		1・2年			
臨 床 教 育 学 演 習 VI A		2		1・2年	半 期		(本年度休講)
臨 床 教 育 学 演 習 VI B		2		1・2年			
臨 床 教 育 学 演 習 VII A		2		1・2年	半 期		(本年度休講)
臨 床 教 育 学 演 習 VII B		2		1・2年			
臨 床 教 育 学 演 習 VIII A		2		1・2年	半 期		(本年度休講)
臨 床 教 育 学 演 習 VIII B		2		1・2年			
臨 床 教 育 学 演 習 IX A		2		1・2年	半 期		(本年度休講)
臨 床 教 育 学 演 習 IX B		2		1・2年			
(選択科目)							
共 生 ネットワーク論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
バ イ オ ポ リ テ ィ ッ ク ス 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
社 会 福 祉 論	2			1・2年	春学期集中	兼任講師 博士 (社会学福祉学)	永 田 祐
N P O 市 民 活 動 論	2			1・2年	春学期	兼任教授	塚 本 一 郎
コ ミ ュ ニ テ ィ ビ ジ ネ ス 論	2			1・2年	春学期	兼任講師	田 中 夏 子
コ ミ ュ ニ テ ィ 人 間 関 係 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
コ ミ ュ ニ テ ィ ・ デ ザ イン 論	2			1・2年	春学期	兼任講師	鈴 木 久 美 子
地 域 開 発 論	2			1・2年	秋学期	兼任講師 理学博士	山 田 晴 通

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
地 方 自 治 論	2			1・2年	春学期		兼担教授 牛 山 久仁彦
教 育 シ ス テ ム 論	2			1・2年	春学期集中		兼任講師 前 原 健 二
思 春 期 ・ 青 年 期 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(人間学) 伊 藤 直 樹
教 師 教 育 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 高 野 和 子
教 育 人 間 学	2			1・2年	春学期		専任准教授 博士(教育学) 関 根 宏 朗
教 育 社 会 史 特 論	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(教育学) 山 下 達 也
教 授 学 習 心 理 学 特 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(教育学) 伊 藤 貴 昭
社 会 教 育 実 践 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 平 川 景 子
生 涯 学 習 特 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 小 林 繁
博 物 館 学 特 論	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(歴史学) 駒 見 和 夫
博 物 館 経 営 論 特 論	2			1・2年	春学期		兼任講師 博士(歴史学) 金 山 喜 昭
博 物 館 教 育 論 特 論	2			1・2年	秋学期		専任准教授 Ph.D. 井 上 由 佳
博 物 館 資 料 論 特 論	2			1・2年	秋学期		兼任講師 <small>博士 (システムデザイン・マネジメント学)</small> 本 間 浩 一
博 物 館 展 示 論 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
図 書 館 情 報 学 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
専 門 図 書 館 特 論	2			1・2年	春学期		専任教授 <small>博士 (図書館情報学)</small> 青 柳 英 治
情 報 サ ー ビ ス 特 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 齋 藤 泰 則
図 書 館 経 営 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
図 書 館 文 化 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 特 論	2			1・2年	春学期		専任教授 三 浦 太 郎
特 定 科 目							
臨床人間学特別指定講義Ⅰ	2			1・2年	半 期		
臨床人間学特別指定講義Ⅱ	2			1・2年	半 期		

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
(選択必修科目)							
A群							
心理学研究法特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅳ)	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(人間学) 伊 藤 直 樹
心理統計法特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅲ)	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
B群							
発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅱ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(心理学) 眞榮城 和 美
人格心理学特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 佐 藤 秀 行
C群							
社会心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2			1・2年	春学期		兼任講師 博士(社会学) 西 田 公 昭
犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2			1・2年	春学期		兼任講師 博士(心理学) 室 城 隆 之
D群							
精神医学特論Ⅰ (保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(医学) 道 喜 将 太 郎
心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ)	2			1・2年	春学期		兼任講師 竹 内 伸
障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ)	2			1・2年	春学期		兼任講師 山 崎 晃 史
健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(心理学) 岡 安 孝 弘
E群							
心理療法特論	2			1・2年	春学期集中		兼任講師 富士見 ユキオ
グループアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(人間学) 藤 岡 孝 志
コミュニティアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ)	2			1・2年	春学期		専任教授 博士 (コミュニティ福祉学) 加 藤 尚 子
学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(教育学) 諸 富 祥 彦
投 映 法 特 論 A	2			2年	春学期		兼任講師 岩 井 昌 也
投 映 法 特 論 B	2			2年	秋学期		兼任講師 加 藤 佑 昌
臨床心理特別実習ⅠA (心理実践実習ⅡA)			2	1年	春学期		兼任講師 増 沢 高 専任教授 博士(人間学) 伊 藤 直 樹 専任准教授 博士(医学) 川 島 義 高
臨床心理特別実習ⅠB (心理実践実習ⅡB)			2	1年	秋学期		
臨床心理特別実習ⅡA (心理実践実習ⅢA)			2	2年	春学期		兼任講師 吾 妻 ゆかり 専任教授 博士(心理学) 高 瀬 由 嗣 専任准教授 竹 松 志 乃
臨床心理特別実習ⅡB (心理実践実習ⅢB)			2	2年	秋学期		
現代社会学専修科目							
(専修必修科目)							
現代社会学総合演習A		2		1年	秋学期集中		大畑 裕嗣、平山 満紀、内藤 朝雄、 昔農 英明、宇田 和子
現代社会学総合演習B		2		2年	秋学期集中		

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
(選択必修科目)							
現代社会学演習ⅠA		2		1年	春学期	○	専任准教授 博士(社会学) 昔 農 英 明
現代社会学演習ⅠB		2		1年	秋学期		
現代社会学演習ⅠC		2		2年	春学期		
現代社会学演習ⅠD		2		2年	秋学期		
現代社会学演習ⅡA		2		1年	春学期	○	専任教授 大 畑 裕 嗣
現代社会学演習ⅡB		2		1年	秋学期		
現代社会学演習ⅡC		2		2年	春学期		
現代社会学演習ⅡD		2		2年	秋学期		
現代社会学演習ⅢA		2		1年	春学期	○	専任准教授 博士(政策科学) 宇 田 和 子
現代社会学演習ⅢB		2		1年	秋学期		
現代社会学演習ⅢC		2		2年	春学期		
現代社会学演習ⅢD		2		2年	秋学期		
現代社会学演習ⅣA		2		1年	春学期	○	専任准教授 内 藤 朝 雄
現代社会学演習ⅣB		2		1年	秋学期		
現代社会学演習ⅣC		2		2年	春学期		
現代社会学演習ⅣD		2		2年	秋学期		
現代社会学演習ⅤA		2		1年	春学期	○	専任教授 平 山 満 紀
現代社会学演習ⅤB		2		1年	秋学期		
現代社会学演習ⅤC		2		2年	春学期		
現代社会学演習ⅤD		2		2年	秋学期		
(選択科目)							
共生ネットワーク論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
バイオポリティクス論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
社会福祉論	2			1・2年	春学期集中	兼任講師 博士 (社会福祉学)	永 田 祐
NPO市民活動論	2			1・2年	春学期	兼任教授	塚 本 一 郎
コミュニティビジネス論	2			1・2年	春学期	兼任講師	田 中 夏 子
コミュニティ人間関係論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
コミュニティ・デザイン論	2			1・2年	春学期	兼任講師	鈴 木 久 美 子
地域開発論	2			1・2年	秋学期	兼任講師 理学博士	山 田 晴 通
地方自治論	2			1・2年	春学期	兼任教授	牛 山 久 仁 彦
教育学専修科目							
(専修必修科目)							
教育学総合演習A		2		1年	秋学期集中	小林 繁、齋藤 泰則、高野 和子、 青柳 英治、平川 景子、駒見 和夫、 三浦 太郎、山下 達也、伊藤 貴昭、 関根 宏朗、井上 由佳	
教育学総合演習B		2		2年	秋学期集中		

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
(選択必修科目)							
A群(教育学領域)							
教 育 学 演 習 I A		2		1年	春学期	○	専任教授 高野和子
教 育 学 演 習 I B		2		1年	秋学期		
教 育 学 演 習 I C		2		2年	春学期		
教 育 学 演 習 I D		2		2年	秋学期		
教 育 学 演 習 II A		2		1年	春学期	○	専任准教授 博士(教育学) 関根宏朗
教 育 学 演 習 II B		2		1年	秋学期		
教 育 学 演 習 II C		2		2年	春学期		
教 育 学 演 習 II D		2		2年	秋学期		
教 育 学 演 習 III A		2		1年	春学期	○	専任教授 博士(教育学) 山下達也
教 育 学 演 習 III B		2		1年	秋学期		
教 育 学 演 習 III C		2		2年	春学期		
教 育 学 演 習 III D		2		2年	秋学期		
教 育 学 演 習 IV A		2		1年	春学期	○	専任教授 博士(教育学) 伊藤貴昭
教 育 学 演 習 IV B		2		1年	秋学期		
教 育 学 演 習 IV C		2		2年	春学期		
教 育 学 演 習 IV D		2		2年	秋学期		
B群(社会教育学領域)							
社 会 教 育 学 演 習 I A		2		1年	春学期	○	専任教授 平川景子
社 会 教 育 学 演 習 I B		2		1年	秋学期		
社 会 教 育 学 演 習 I C		2		2年	春学期		
社 会 教 育 学 演 習 I D		2		2年	秋学期		
社 会 教 育 学 演 習 II A		2		1年	春学期	○	専任教授 小林繁
社 会 教 育 学 演 習 II B		2		1年	秋学期		
社 会 教 育 学 演 習 II C		2		2年	春学期		
社 会 教 育 学 演 習 II D		2		2年	秋学期		
C群(博物館学領域)							
博 物 館 学 演 習 I A		2		1年	春学期	○	専任教授 博士(歴史学) 駒見和夫
博 物 館 学 演 習 I B		2		1年	秋学期		
博 物 館 学 演 習 I C		2		2年	春学期		
博 物 館 学 演 習 I D		2		2年	秋学期		
博 物 館 学 演 習 II A		2		1年	春学期	○	専任准教授 Ph.D. 井上由佳
博 物 館 学 演 習 II B		2		1年	秋学期		
博 物 館 学 演 習 II C		2		2年	春学期		
博 物 館 学 演 習 II D		2		2年	秋学期		

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
D群(図書館情報学領域)							
図 書 館 情 報 学 演 習 I A		2		1年	春学期	○	専任教授 <small>博士 (図書館情報学)</small> 青 柳 英 治
図 書 館 情 報 学 演 習 I B		2		1年	秋学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 I C		2		2年	春学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 I D		2		2年	秋学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 II A		2		1年	春学期	○	専任教授 齋 藤 泰 則
図 書 館 情 報 学 演 習 II B		2		1年	秋学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 II C		2		2年	春学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 II D		2		2年	秋学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 III A		2		1年	春学期	○	専任教授 三 浦 太 郎
図 書 館 情 報 学 演 習 III B		2		1年	秋学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 III C		2		2年	春学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 III D		2		2年	秋学期		
(選択科目)							
A群(教育学領域)							
教 育 シ ス テ ム 論	2			1・2年	春学期中		兼任講師 前 原 健 二
思 春 期 ・ 青 年 期 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(人間学) 伊 藤 直 樹
教 師 教 育 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 高 野 和 子
教 育 人 間 学	2			1・2年	春学期		専任准教授 博士(教育学) 関 根 宏 朗
教 育 社 会 史 特 論	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(教育学) 山 下 達 也
教 育 学 習 心 理 学 特 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(教育学) 伊 藤 貴 昭
B群(社会教育学領域)							
社 会 教 育 実 践 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 平 川 景 子
生 涯 学 習 特 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 小 林 繁
C群(博物館学領域)							
博 物 館 学 特 論	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(歴史学) 駒 見 和 夫
博 物 館 マ ネ ジ メ ン ト 特 論	2			1・2年	春学期		兼任講師 博士(歴史学) 金 山 喜 昭
博 物 館 教 育 論 特 論	2			1・2年	秋学期		専任准教授 Ph.D. 井 上 由 佳
博 物 館 メ デ ィ ア 論 特 論	2			1・2年	秋学期		兼任講師 <small>博士 (システムデザイン・マネジメント学)</small> 本 間 浩 一
地 域 博 物 館 論 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
D群(図書館情報学領域)							
図 書 館 情 報 学 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
専 門 図 書 館 特 論	2			1・2年	春学期		専任教授 <small>博士 (図書館情報学)</small> 青 柳 英 治
情 報 サ ー ビ ス 特 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 齋 藤 泰 則
図 書 館 経 営 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
図 書 館 文 化 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 特 論	2			1・2年	春学期		専任教授 三 浦 太 郎

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
E群(社会学領域:現代社会学専修設置選択科目)							
共 生 ネットワーク論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
バイオポリティクス論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
社 会 福 祉 論	2			1・2年	春学期中	兼任講師 博士 (社会福祉学)	永 田 祐
N P O 市 民 活 動 論	2			1・2年	春学期	兼担教授	塚 本 一 郎
コミュニティビジネス論	2			1・2年	春学期	兼任講師	田 中 夏 子
コミュニティ人間関係論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
コミュニティ・デザイン論	2			1・2年	春学期	兼任講師	鈴 木 久 美 子
地 域 開 発 論	2			1・2年	秋学期	兼任講師 理学博士	山 田 晴 通
地 方 自 治 論	2			1・2年	春学期	兼担教授	牛 山 久 仁 彦
特定科目							
臨床人間学特別指定講義Ⅰ	2			1・2年	半 期		
臨床人間学特別指定講義Ⅱ	2			1・2年	半 期		

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
共通特修科目		備考	
科目名	総合史学研究 I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(史学)	伊勢 弘志	

授業の概要・到達目標

概要

国内外での議論や社会的関心・政治問題となっている課題に着目し、現代社会における歴史認識・歴史教育を考察する。

1. 「戦後史」が現代史の研究の中でどのように進められ、何を明らかにしてきたか、その研究史上の位置づけを理解する。
とりわけ戦後史が各時期の経済的動向や現代思想から如何に影響を受けて進歩したかを理解する。
2. 「戦後歴史学」が何を背景に展開され、現在までにどのような課題を残しているか理解する。
3. 国内外の戦争認識・戦争責任論の問題において何が問われているのかを学習する。
4. 2022年度より全国の高校で開始された「歴史総合」教育と、社会科の教員育成について、実証史学の考え方とともにその展望や課題を学習する。

到達目標

- ① 高度な専門知識に加えて、上の課題を理解することで、近現代史研究に求められる社会的な意義と役割を理解できる。
- ② 教科書記述を素材に、教科書に反映されている近年までの研究潮流を把握する(記述のどこに・どのような研究成果が影響しているのか理解する)。
- ③ 社会科の教員を目指す場合には、教科としての「歴史」が常に授業内容のアップデートを求められる教科であることを理解し、教育実践が始まった後にも、自ら学習して自己点検・更新していく方法を身につける。

授業内容

・「戦後歴史学」(研究史上の論争/叙述の方法/社会史と「歴史学的思考法」)
 ・「研究史」(現代思想の影響と、史学研究の方法・課題)
 ・国際関係と「歴史認識」・「戦争責任論」(中国・韓国・欧米での歴史認識問題)
 ・「歴史教育」(教科書問題/「歴史総合」/4観点評価/愛国教育・道徳教育)
 「近現代史」が担う社会的役割とそこで問われている諸問題を、講義と報告によって学習する。
 さらなる詳細は履修者の人数・関心に依りて定める。

履修上の注意

履修者には報告を実施してもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書では、「歴史総合」の視点から、近年までの研究史を踏まえて近現代史を描いています。
 教科書を読んで、高校の歴史教科書記述の背景にある問題意識や研究動向が読み取れるように、これまで自身が学習した内容と比較して何がポイントとなるのか理解に努めること。模擬授業案を作成するなどして各要点を抑えておくこと。

教科書

伊勢弘志『明日のための近代史 - 世界史と日本史が織りなす史実』[増補新版](芙蓉書房出版, 2023年)。

参考書

教科書に記載されている主要参考文献を参照のこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間の前後に教室で行う。他は履修者と相談する。

成績評価の方法

授業内での報告と、レポートで評価する。初回の授業時に詳しく説明する。

その他

授業の課題・内容を何のために学習しようとしているのか、自身の理由や答えを持って臨むこと。

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
共通特修科目		備考	
科目名	総合史学研究 I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(史学)	伊勢 弘志	

授業の概要・到達目標

概要

国内外での議論や社会的関心・政治問題となっている課題に着目し、現代社会における歴史認識・歴史教育を考察する。

1. 「戦後史」が現代史の研究の中でどのように進められ、何を明らかにしてきたか、その研究史上の位置づけを理解する。
とりわけ戦後史が各時期の経済的動向や現代思想から如何に影響を受けて進歩したかを理解する。
2. 「戦後歴史学」が何を背景に展開され、現在までにどのような課題を残しているか理解する。
3. 国内外の戦争認識・戦争責任論の問題において何が問われているのかを学習する。
4. 2022年度より全国の高校で開始された「歴史総合」教育と、社会科の教員育成について、実証史学の考え方とともにその展望や課題を学習する。

到達目標

- ① 高度な専門知識に加えて、上の課題を理解することで、近現代史研究に求められる社会的な意義と役割を理解できる。
- ② 教科書記述を素材に、教科書に反映されている近年までの研究潮流を把握する(記述のどこに・どのような研究成果が影響しているのか理解する)。
- ③ 社会科の教員を目指す場合には、教科としての「歴史」が常に授業内容のアップデートを求められる教科であることを理解し、教育実践が始まった後にも、自ら学習して自己点検・更新していく方法を身につける。

授業内容

・「戦後歴史学」(研究史上の論争/叙述の方法/社会史と「歴史学的思考法」)
 ・「研究史」(現代思想の影響と、史学研究の方法・課題)
 ・国際関係と「歴史認識」・「戦争責任論」(中国・韓国・欧米での歴史認識問題)
 ・「歴史教育」(教科書問題/「歴史総合」/4観点評価/愛国教育・道徳教育)
 「近現代史」が担う社会的役割とそこで問われている諸問題を、講義と報告によって学習する。
 さらなる詳細は履修者の人数・関心に依りて定める。

履修上の注意

履修者には報告を実施してもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書では、「歴史総合」の視点から、近年までの研究史を踏まえて近現代史を描いています。
 教科書を読んで、高校の歴史教科書記述の背景にある問題意識や研究動向が読み取れるように、これまで自身が学習した内容と比較して何がポイントとなるのか理解に努めること。模擬授業案を作成するなどして各要点を抑えておくこと。

教科書

伊勢弘志『明日のための現代史 - 歴史総合の視点で学ぶ世界大戦』[上・下](芙蓉書房出版, 2023年)。

参考書

教科書に記載されている主要参考文献を参照のこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間の前後に教室で行う。他は履修者と相談する。

成績評価の方法

授業内での報告と、レポートで評価する。初回の授業時に詳しく説明する。

その他

授業の課題・内容を何のために学習しようとしているのか、自身の理由や答えを持って臨むこと。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
共通特修科目		備考	
科目名	総合史学研究ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	石川日出志、山崎健司、高橋一樹		

授業の概要・到達目標

現代の研究は、文学・文献史学・考古学を問わず、必ずしも各分野の領域では完結できないような拡がりを持ってきた。他分野の研究を理解し、自らの研究に取り込むには、その研究手法に精通する必要がある。ⅡBでは他分野の研究成果を主に学習するのに対し、本授業では他分野の基礎的研究方法を実践しつつ理解することを目的とする。その目的達成のため、文学・文献史学・考古学の各々の分野固有の史資料に実際に触れる機会を恒常的に設ける。

授業内容

日本文学・日本史学・考古学を専攻する院生の中で主に古代を研究領域とする者を対象に、各分野固有の史資料に触れることを通じて、文学研究・文献史学研究・考古学研究の基礎的方法の差異を学び、自己の研究の発展を目指す新たな糸口とすることを旨とする。授業スケジュールとその内容の詳細は新年度になってから公表する。

- 第1回：総合古代史学の基礎
- 第2回：原史考古学の方法論1
- 第3回：原史考古学の方法論2
- 第4回：原史考古学の方法論3
- 第5回：文献史学の方法論1
- 第6回：文献史学の方法論2
- 第7回：古代文学の方法論1
- 第8回：古代文学の方法論2
- 第9回：古代文学の方法論3
- 第10回：院生による研究発表1
- 第11回：院生による研究発表2
- 第12回：院生による研究発表3
- 第13回：院生による研究発表4
- 第14回：総括討論

履修上の注意

受講者全てに報告を課すことを原則とする。
「原史考古学の方法論」の授業1回は、高崎市内で行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献は事前に精読しておくこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

授業への貢献度と報告の出来に基づく。

その他

文化継承学ⅠAと合同で授業を行う。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
共通特修科目		備考	
科目名	総合史学研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	石川日出志、山崎健司、高橋一樹		

授業の概要・到達目標

現代の研究は、文学・歴史学・考古学を問わず、必ずしも各分野の領域では完結できないような、拡がりを持ってきた。他分野の研究を理解し、自らの研究に取り込むには、その研究手法に精通する必要がある。本授業では、各分野の基本文献を学習し、自らの立脚点の再構築をはかる。

授業内容

日本文学・日本史学及び考古学を専攻する院生の中で、主に古代を研究領域とする者を対象に、各分野の基本文献の読解を通じて、文学研究・歴史学研究・考古学研究の方法の関係を学び、自己の研究の発展をめざす新たな糸口とさせることを目指す。授業スケジュールとその内容の詳細はⅡAの授業の後半になってから公表する。

- 第1回：総合史学の意義
- 第2回：弥生時代の基本文献の研究
- 第3回：古墳時代の基本文献の研究1
- 第4回：奈良・平安時代史の基本文献の研究1
- 第5回：奈良・平安時代史の基本文献の研究2
- 第6回：古墳時代の基本文献の研究2
- 第7回：歴史考古学の基本文献の研究
- 第8回：古代文学の基本文献の研究1
- 第9回：古代文学の基本文献の研究2
- 第10回：院生による研究発表1
- 第11回：院生による研究発表2
- 第12回：院生による研究発表3
- 第13回：院生による研究発表4
- 第14回：総括討論

履修上の注意

受講者全てに報告を課すことを原則とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献は事前に精読しておくこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

授業への貢献度と報告の出来に基づく。

その他

文化継承学ⅠBと合同で授業を行う。

科目ナンバー：(AL) HIS521J			
共通特修科目		備考	
科目名	総合史学研究ⅢA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美	

授業の概要・到達目標

10世紀～15世紀の東アジアの歴史変容、及びモンゴル帝国史・中国近世史の諸問題を中心に、アジア史の研究史や研究方法、特徴的な史料、近年の研究トレンドと問題点について講述する。

授業を通して、日本におけるアジア史研究の特徴を理解し、履修者自身の研究分野における方法論との違いを考察し、自身の専門分野に応用できるようにすることを目標とする。

授業内容

- 第1回 日本のアジア史研究の曙—1850年-1950年
- 第2回 西洋史の中のアジア史、日本史の中のアジア史
- 第3回 グローバルヒストリーとアジア史
- 第4回 中国史における時代区分と「近世」
- 第5回 討論・意見交換(1)歴史理論と研究史
- 第6回 「モンゴル時代」概念と中国の王朝交替
- 第7回 Song-Yuan-Ming Transitionと「東部ユーラシア」
- 第8回 アジアの中の日本中世
- 第9回 モンゴル帝国史や中国史の新しい見方
- 第10回 討論・意見交換(2)：近年の研究トレンド
- 第11回 中国類書の世界
- 第12回 石刻史料の研究
- 第13回 多言語文書の研究
- 第14回 討論・意見交換(3)：研究史料と総括

各回のテーマに沿って解説する。「討論・意見交換」の時間には、履修者全員が授業の内容について簡単なレジュメを用意して意見を述べる。その中の一つ的话题をとり上げて、学期末にレポートとして提出する。履修者の専門分野によって内容・順序等を変更する場合がある。

履修上の注意

特に学部でアジア史を専攻しなかった者の履修を歓迎する。問題意識を持って授業に臨み、受講者自身の専門分野の状況と比較し、積極的に発言することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

できるだけ事前にプリントを配布するので、授業までに内容を確認して疑問点を明らかにしておく。講義の内容を「討論・意見交換」に結びつけられるよう、授業後に論点を確認しておく。また、上記授業内容に関連する読書を勧める。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書

『論点・東洋史学』(吉澤誠一郎監修、ミネルヴァ書房)

課題に対するフィードバックの方法

コメント機能を用いる。

成績評価の方法

授業への貢献度50%とレポート50%。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS541J			
共通特修科目		備考	
科目名	総合史学研究ⅣB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	青谷 秀紀	

授業の概要・到達目標

中世ヨーロッパ史を中心とする歴史研究方法論

中世ヨーロッパ史を中心に、歴史研究の方法について学んでいく。中世史研究の様々なアプローチを吸収し、履修生自身の対象地域・時代に応用可能な方法を模索すること、あるいはそれらを合わせ鏡として、自身が専門とする分野の方法論的特徴を自覚的に把握することを目標とする。

授業内容

前半は中世ヨーロッパ史に関する文献の講読と議論を行い、後半は履修生が自身の専門分野で、それらの文献が示す方法・アプローチに対応するような研究に関して報告を行う。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第7回：文献講読とディスカッション
- 第8回～第13回：受講生による報告
- 第14回：総括

*履修生の数により、授業内容を変更する可能性がある。

履修上の注意

授業には毎回出席し、積極的に発言することが求められる。報告の際には、他の専門分野の履修生にも理解しやすい形でプレゼンテーションを行うよう心がけてもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講読文献は事前に熟読しておくこと。

教科書

講読文献は授業時に配布する。

参考書

成績評価の方法

授業への貢献度50% + レポート50%

その他

科目ナンバー：(AL) IND911J			
共通特修科目	備考		
科目名	総合地域研究ⅠA		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	専任教授	石川 日出志	

授業の概要・到達目標

本科目は、大学院GP〈複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム〉の基幹をなす科目である。各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野を備えた「複眼性」をもって臨む力を養うことを目標とする。本科目では、日本古代社会の中心一周縁性の分析視覚を実地に体得する教育としてフィールドプログラム「東北日本プログラム」を実施する。

授業内容

2024年度は宮城県域の古墳時代から平安時代までの遺跡およびそれに関する博物館・資料等に関するフィールドワークを実施する。①. 事前講義、②. フィールドワーク対象地域の考古学・古代史に関する事前研究とそれに関する議論、③. フィールドワーク、④. 事後レポートの4種で構成する。

- ①. 第1～3回：考古学・古代史の手法による古代東北日本地域史に関する事前講義。内容は、東北地方の弥生文化・古墳文化、律令国家と北方世界に関するものとする。
- ②. 第4～7回：フィールドワーク対象地域の遺跡に関する調査情報の収集、研究論文の読解、およびその研修成果に関する報告・議論を行う。
- ③. 第8～14回相当：2泊3日の日程によるフィールドワークを行う。見学・資料調査対象地は、現地の事情および履修者の研究対象等により若干の変更を行うことがある。

〈1日目〉東北歴史博物館・多賀城市文化センター・多賀城跡・多賀城碑・多賀城廃寺跡・市川橋遺跡など多賀城市域の遺跡・博物館の見学。

〈2日目〉伊治城跡(国史跡)・入の沢遺跡・築館出土文化財センター・宮沢遺跡・東山官衙遺跡群・山畑横穴墓(国史跡)・日の出山瓦窯跡など栗原・大崎市域一帯の遺跡・博物館の見学。

〈3日目〉雷神山古墳・小塚古墳・飯野坂古墳群・遠見塚古墳・郡山遺跡・法領塚古墳・陸奥国分寺跡など、仙台・名取市域の遺跡の見学。

履修上の注意

考古学・古代史2分野の総合による古代の地域史研究を進めることに留意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

フィールドワーク対象地域の古代史に関する考古学・古代史研究に関する調査・研究成果を、遺跡発掘調査報告書および研究論文等の分析・読解を行う。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、多数にのぼる。

成績評価の方法

調査報告および実施後のレポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) IND911N			
共通特修科目	備考		
科目名	総合地域研究ⅡB		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	専任教授	博士(文学)	牧野 淳司

授業の概要・到達目標

本科目は、大学院GP〈複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム〉の基幹をなす科目である。各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野を備えた「複眼性」と「国際性」を養うことを目標とする。総合地域研究ⅡBでは、隣国である韓国の最新の古代学研究成果を実地に吸収することを通して学際性と国際性を体得する教育として「高麗大学校プログラム」を実施する。

授業内容

授業は担当教員の他に専任教員が補佐し、高麗大学校他の外部講師を含む共同授業とフィールド調査とから成る。内容の概要は次の通りの予定である。

- ①韓国語集中講座4回。ハングル学習と初級会話(初学者のみ)。
- ②明治大学における講義3回。韓国古代史・韓国文学・日韓比較文学をテーマとする。本学教員のほか外部講師を招聘し、講義と質疑討論をおこなう。授業は公開で行う。
- ③高麗大学校における講義・研究発表5回分。高麗大などの教員による韓国仏教、儒教、伝統文化、パンソリについて公開講義、および明治大学教員と大学院生による研究発表を行う。公開講義・研究発表を基にして明治大院生と高麗大院生との討論を行う。
- ④フィールド調査はソウル市内および周辺の史跡の実地見学・資料調査を行う。

履修上の注意

各自の研究テーマに即して韓国との関わりを考える項目を提出し、事後にはレポートの提出を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

フィールド調査対象地の遺跡群に関する資料の収集と検討を事前に行なっておくこと。

教科書

なし

参考書

韓国古代史、古代文学、古典文学、伝統文化等に関する著書・論文を逐次提示する。

成績評価の方法

成績評価は、授業への貢献度(50%)、及びフィールドワークに関する事後レポート(50%)による。

その他

科目ナンバー：(AL) IND911N			
共通特修科目	備考		
科目名	総合地域研究ⅡC		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	専任教授 石川 日出志		

授業の概要・到達目標

本科目は、大学院GP〈複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム〉の基幹をなす科目である。各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野を備えた「複眼性」と「国際性」を養うことを目標とする。総合地域研究ⅡCでは、中国の北京大学・清華大学・中国社会科学院・南京大学等との連携により、最新の古代学研究成果を実地に吸収することを通して、学際性と国際性を体得する教育として「中国プログラム」を実施する。

授業内容

授業は担当教員の他に専任教員が補佐し、外部講師を含む公開授業と現地での学術研究会・フィールド調査とから成る。内容の概要は次の通りの予定である。

- ①明治大学における講義3回。中国考古学・古代史をテーマとする。本学教員のほか外部講師を招聘し、講義と質疑討論をおこなう。授業は公開で行う。
- ②中国社会科学院・北京大学、または南京大学との連携による国際学術交流会2日間。両校および明治大学の教員と大学院生による研究発表を行い、相互に討論を行う。
- ③フィールド調査は、北京または南京の博物館および史跡の見学・資料調査を行う。

履修上の注意

フィールド調査は、事前に各自の調査の主眼項目を事前に提出し、事後にレポートの提出を求める。学術研究会の報告も事前に準備会を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

フィールド調査に先立って各自の調査項目を事前に提出し、学術研究会の報告準備会への参加すること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しないが、フィールド調査関連の参考文献は多数に上るので、逐次提示する。

成績評価の方法

成績評価は授業への貢献度と学術交流会の報告、及び提出されたフィールドワークに関するレポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) LAN521N			
共通特修科目	備考		
科目名	特修ドイツ語Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 福間 具子		

授業の概要・到達目標

本授業は、学部3、4年(2023年度までの入学者)においては「中級ドイツ語Ⅱ」、大学院においては「特修外国語Ⅰ」となります。
 ■ドイツ語の初級文法を終え、中級から上級のドイツ語力を習得したいと希望する学生を対象に、文法に力点をおきつつ、難易度の高い文章を読めるようにすることを到達目標としています。
 ■教材とするドイツ語テキストをどのような分野のものにするかは、基本的にはドイツ語圏の文化や社会事情を知るものを想定していますが、初めに履修者の希望を聞き、柔軟に対応してゆくつもりです。
 ■基本的な動詞、形容詞の格変化や現在完了、受動態の形は理解していても、助動詞の多様な用法や接続法、非人称のesの用法など、初級の教科書には出てこない文法はたくさんあり、それらを理解しないと難易度の高い文章を正しく読むことができません。そのため、この授業では通常の講義の授業よりも、文法の解説に多くの時間を費やす予定です。
 ■しかし、語学学習のモチベーションを高めてくれるのはやはりドイツ語圏への関心です。そのため、ドイツ語圏の文化や社会を知ることのできるテキストを選び、理解を深めてくれる動画なども随時紹介してゆく予定です。

授業内容

- 第一回 授業の進め方の説明と、使用テキストについての話し合い
- 第二回 テキスト読解と「冠詞の用法」の解説(※文法解説項目は暫定的に入れたものですが、一般に皆さんが苦手な項目を挙げておきます)
- 第三回 テキスト読解と「形容詞の格変化」の解説
- 第四回 テキスト読解と「人称代名詞」の解説
- 第五回 テキスト読解と「現在完了形」の解説
- 第六回 テキスト読解と「受動態」の解説
- 第七回 テキスト読解と「接続法Ⅰ式(間接話法)」の解説
- 第八回 テキスト読解と「接続法Ⅰ式(要求話法)」の解説
- 第九回 テキスト読解と「接続法Ⅱ式(非現実話法)」の解説
- 第十回 テキスト読解と「接続法Ⅱ式(外交的接続法)」の解説
- 第十一回 テキスト読解と「心態詞」の解説
- 第十二回 テキスト読解と「非人称のes」の解説
- 第十三回 テキスト読解と「知覚動詞」の解説
- 第十四回 春学期試験と解説

履修上の注意

履修を制限するものではありませんが、ドイツ語検定では3級程度、ゲテドイツ語技能試験ではA2程度の文法知識、読解力を持っていることを前提としたレベル設定にしています。(検定を受けている必要はなく、あくまでもレベルの目安として提示しています。)そのレベルに達していない場合、最初のうちは予習に時間がかかると思われるので、その覚悟を持って臨んでください。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に担当を決めておくやり方ではないので、十分な予習をしてきてください。

教科書

教科書としてではなく、参考書として指定する文法書はありますが、購入は必須ではありません。文法の解説の際に役立つので、1年次の文法教科書を持参することが望ましいです。

参考書

中島・平尾・朝倉：必携ドイツ文法総まとめ(白水社) 2003年
 教科書の項目で書いたように購入は必須ではありませんが、初級の教科書に載っていないような中級の文法内容を扱っている文法書です。ドイツ語を今後も必要とするならば、手元に置くことをお勧めします。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業において口頭でフィードバックを行います。別の方法を希望する場合は出来る限り対応します。

成績評価の方法

通常授業時の訳読における内容の理解度、授業への積極的な参加姿勢(発言など)から総合的に判断する平常点が2割。
 第十四回で行うペーパー試験の点数が8割。ペーパー試験の実施方法は、履修者数によって通常授業時の訳読担当回数が多いか少ないかにもよるが(極端に履修者が少なく、毎週訳読担当が当たるなど、通常授業時の負担が多いようであれば試験の免除も検討します)、基本的には辞書の持ち込みを認めないという筆記試験を行う予定です。

その他

科目ナンバー：(AL) LAN521N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修ドイツ語Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	福間 具子	

授業の概要・到達目標

本授業は、学部3、4年(2023年度までの入学者)においては「中級ドイツ語Ⅱ・B」、大学院においては「特修外国語Ⅱ」となります。
 ■ドイツ語の初級文法を終え、中級から上級のドイツ語力を習得したいと希望する学生を対象に、文法に力点をおきつつ、難易度の高い文章を読めるようにすることを到達目標としています。
 ■教材とするドイツ語テキストをどのような分野のものにするかは、基本的にはドイツ語圏の文化や社会事情を知るものを想定していますが、初回に履修者の希望を聞き、柔軟に対応してゆくつもりです。
 ■基本的な動詞、形容詞の格変化や現在完了、受動態の形は理解していても、助動詞の多様な用法や接続法、非人称のesの用法など、初級の教科書には出てこない文法はたくさんあり、それらを理解しないと難易度の高い文章を正しく読むことができません。そのため、この授業では通常の講読の授業よりも、文法の解説に多くの時間を費やす予定です。
 ■しかし、語学学習のモチベーションを高めてくれるのはやはりドイツ語圏への関心です。そのため、ドイツ語圏の文化や社会を知ることのできるテキストを選び、理解を深めてくれる動画なども随時紹介してゆく予定です。

授業内容

- 第一回 授業の進め方の説明と、使用テキストについて話し合い
- 第二回 テキスト読解と「冠詞の用法」の解説 ※文法解説項目は暫定的に入れたものですが、一般に皆さんが苦手な項目を挙げておきます)
- 第三回 テキスト読解と「不規則変化動詞」の解説
- 第四回 テキスト読解と「定冠詞類・不定冠詞類」の解説
- 第五回 テキスト読解と「指示代名詞」の解説
- 第六回 テキスト読解と「関係代名詞・不定関係代名詞」の解説
- 第七回 テキスト読解と「助動詞の主観的用法」の解説
- 第八回 テキスト読解と「接続法Ⅰ式(要求語法)」の解説
- 第九回 テキスト読解と「相関関係詞」の解説
- 第十回 テキスト読解と「接続法Ⅱ式(非現実語法の様々な形)」の解説
- 第十一回 テキスト読解と「心態詞」の解説
- 第十二回 テキスト読解と「形式主語・形式目的語」の解説
- 第十三回 テキスト読解と「lassen」の解説
- 第十四回 秋学期試験と解説

履修上の注意

履修を制限するものではありませんが、ドイツ語検定では3級程度、ゲテドイツ語技能試験ではA2程度の文法知識、読解力を持っていることを前提したレベル設定にしています。(検定を受けている必要はなく、あくまでもレベルの目安として提示しています。) そのレベルに達していない場合、最初のうちは予習に時間がかかると思われるので、その覚悟は持って臨んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に担当を決めておくやり方ではないので、十分な予習をしてきてください。

教科書

教科書としてではなく、参考書として指定する文法書はありますが、購入は必須ではありません。
 文法の解説の際に役立つので、1年次の文法教科書を持参することが望ましいです。

参考書

中島・平尾・朝倉:必携ドイツ文法総まとめ(白水社) 2003年

教科書の項目で書いたように購入は必須ではありませんが、初級の教科書に載っていないような中級の文法内容を扱っている文法書です。ドイツ語を今後も必要とするならば、手元に置くことをお勧めします。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業において口頭でフィードバックを行います。別の方法を希望する場合は出来る限り対応します。

成績評価の方法

通常授業時の訳読における内容の理解度、授業への積極的な参加姿勢(発言など)から総合的に判断する平常点が2割。
 第十四回で行うペーパー試験の点数が8割。ペーパー試験の実施方法は履修者数によって通常授業時の訳読担当回数が多いか少ないかにもよるが(極端に履修者が少なく、毎週訳読担当が当たるなど、通常授業時の負担が多いようであれば試験の免除も検討します)、基本的には辞書の持ち込みを認めないというので筆記試験を行う予定です。

その他

科目ナンバー：(AL) LAN531N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修フランス語Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(日本語・日本文化)	ベルアト, クリス	

授業の概要・到達目標

Ce cours vise à donner aux étudiants une plus grande aisance en français, dans la perspective de faciliter leurs recherches en études françaises et francophones. L'accent sera mis sur les compétences nécessaires à la compréhension de travaux universitaires ainsi qu'à différents types d'exercices relevant de la production académique : résumé, synthèse, analyse, présentation, etc. Nous nous efforcerons cependant de ne pas nous limiter aux seules compétences écrites, et nous travaillerons l'ensemble des compétences linguistiques (compréhension orale, compréhension écrite, production orale, production écrite). De même, nous ne nous bornerons pas à la sphère académique dans notre choix des documents utilisés. Nous utiliserons des textes journalistiques et des articles universitaires, mais également des objets culturels comme des chansons et des films.

Au premier semestre, nous aborderons principalement trois exercices : le résumé d'un texte, la présentation d'un objet culturel (chanson) et l'analyse d'articles universitaires. Ce programme ainsi que le rythme de progression pourront varier en fonction du nombre des étudiants.

Dans tous les cas, un travail régulier et une participation active seront exigés.

授業内容

- 1) Présentation du cours
- 2) Le résumé d'un texte (1) : introduction
- 3) Le résumé d'un texte (2) : exercices
- 4) Le résumé d'un texte (3) : présentations des étudiants et discussion (1/2)
- 5) Le résumé d'un texte (4) : présentations des étudiants et discussion (2/2)
- 6) La présentation d'une chanson (1) : introduction
- 7) La présentation d'une chanson (2) : exercices
- 8) La présentation d'une chanson (3) : présentations des étudiants et discussion (1/2)
- 9) La présentation d'une chanson (4) : présentations des étudiants et discussion (2/2)
- 10) L'article universitaire (1) : introduction
- 11) L'article universitaire (2) : exercices (1/2)
- 12) L'article universitaire (3) : exercices (2/2)
- 13) L'article universitaire (4) : présentations des étudiants et discussion (1/2)
- 14) L'article universitaire (5) : présentations des étudiants et discussion (2/2)

履修上の注意

Comme un séminaire, ce cours exige une participation et un travail réguliers.

Il sera nécessaire de bien gérer votre temps pour bien lire les textes et bien préparer les exercices demandés.

準備学習(予習・復習等)の内容

Comme mentionné ci-dessus, il sera absolument nécessaire de prendre le temps de lire et de préparer les textes.

L'enseignant souhaite également que les textes et autres documents présentés ne soient pas considérés comme de simples exercices ou devoirs, mais comme des pistes à explorer, des liens vers d'autres textes et d'autres œuvres.

Soyez sérieux, mais soyez aussi curieux !

教科書

Des photocopies des textes seront distribués en classe.

参考書

Les références nécessaires seront données en classe.

成績評価の方法

Devoirs écrits 60%, présentations en classe 40%

その他

科目ナンバー：(AL) LAN531N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修フランス語Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(日本語・日本文化) ヘルアド, クリス		

授業の概要・到達目標

Ce cours vise à donner aux étudiants une plus grande aisance en français, dans la perspective de faciliter leurs recherches en études françaises et francophones. L'accent sera mis sur les compétences nécessaires à la compréhension de travaux universitaires ainsi qu'à différents types d'exercices relevant de la production académique : résumé, synthèse, analyse, présentation, etc. Nous nous efforcerons cependant de ne pas nous limiter aux seules compétences écrites, et nous travaillerons l'ensemble des compétences linguistiques (compréhension orale, compréhension écrite, production orale, production écrite). De même, nous ne nous bornerons pas à la sphère académique dans notre choix des documents utilisés. Nous utiliserons des textes journalistiques et des articles universitaires, mais également des objets culturels comme des chansons et des films.

Au second semestre, nous aborderons principalement trois exercices : la synthèse de documents, la présentation d'un objet culturel (film) et l'analyse d'articles universitaires (évidemment différent de ceux étudiés au premier semestre). Ce programme ainsi que le rythme de progression pourront varier en fonction du nombre des étudiants.

Dans tous les cas, un travail régulier et une participation active seront exigés.

授業内容

- 1) Présentation du cours
- 2) La synthèse (1) : introduction
- 3) La synthèse (2) : exercices
- 4) La synthèse (3) : présentations des étudiants et discussion (1/2)
- 5) La synthèse (4) : présentations des étudiants et discussion (2/2)
- 6) La présentation d'un court-métrage (1) : introduction
- 7) La présentation d'un court-métrage (2) : exercices
- 8) La présentation d'un court-métrage (3) : présentations des étudiants et discussion (1/2)
- 9) La présentation d'un court-métrage (4) : présentations des étudiants et discussion (2/2)
- 10) L'article universitaire (1) : introduction
- 11) L'article universitaire (2) : exercices (1/2)
- 12) L'article universitaire (3) : exercices (2/2)
- 13) Lecture d'un article universitaire (4) : présentations des étudiants et discussion (1/2)
- 14) Lecture d'un article universitaire (5) : présentations des étudiants et discussion (2/2)

履修上の注意

Comme un séminaire, ce cours exige une participation et un travail réguliers.

Il sera nécessaire de bien gérer votre temps pour bien lire les textes et bien préparer les exercices demandés.

準備学習（予習・復習等）の内容

Comme mentionné ci-dessus, il sera absolument nécessaire de prendre le temps de lire et de préparer les textes.

L'enseignant souhaite également que les textes et autres documents présentés ne soient pas considérés comme de simples exercices ou devoirs, mais comme des pistes à explorer, des liens vers d'autres textes et d'autres œuvres.

Soyez sérieux, mais soyez aussi curieux !

教科書

Des photocopies des textes seront distribués en classe.

参考書

Les références nécessaires seront données en classe.

成績評価の方法

Devoirs écrits 60%, présentations en classe 40%

その他

科目ナンバー：(AL) LAN561N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修中国語Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師		永井 弥人

授業の概要・到達目標

読解を中心とし、やや高度な文献を読みこなす力を養うことを目的とします。

文献の内容は、時事、文化、歴史、文学などなるべく多岐に渉る様に心掛けたいと考えております。

簡体字文献のみならず、繁体字文献や文語体の文章にも積極的に取り組みたいと考えております。

授業内容

- 第1回 長文1 (時事)
- 第2回 長文1 (時事)
- 第3回 長文2 (時事)
- 第4回 長文2 (時事)
- 第5回 長文3 (文化)
- 第6回 長文3 (文化)
- 第7回 長文4 (文化)
- 第8回 長文4 (文化)
- 第9回 長文5 (歴史)
- 第10回 長文5 (歴史)
- 第11回 長文6 (思想)
- 第12回 長文6 (思想)
- 第13回 長文7 (文語体の文章)
- 第14回 長文7 (文語体の文章)

履修上の注意

積極的に授業にご参加下さい。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習をして授業に臨む様にして下さい。

教科書

教材は、その都度、Oh-o! Meiji上に掲載致します。

参考書

特になし。

成績評価の方法

学期末のレポート(指定文献の和訳) 50% + 平常点50%
※平常点は、授業中の姿勢を中心とします。

その他

進度に多少遅速が生じたり、文献を読む順番が入れ替わったりする可能性があります。

科目ナンバー：(AL) LAN561N			
共通特修科目	備考		
科目名	特修中国語Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 永井 弥人		

授業の概要・到達目標

読解を中心とし、やや高度な文献を読みこなす力を養うことを目的とします。
 文献の内容は、時事、文化、歴史、文学などなるべく多岐に渉る様に心掛けたいと考えております。
 簡体字文献のみならず、繁体字文献や文語体の文章にも積極的に取り組みたいと考えております。

授業内容

- 第1回 長文(時事)
- 第2回 長文(時事)
- 第3回 長文(宗教)
- 第4回 長文(宗教)
- 第5回 長文(歴史)
- 第6回 長文(歴史)
- 第7回 長文(文化)
- 第8回 長文(文化)
- 第9回 長文(雑記その他)
- 第10回 長文(雑記その他)
- 第11回 長文(雑記その他)
- 第12回 長文(文語体の文章)
- 第13回 長文(文語体の文章)
- 第14回 長文(文語体の文章)

履修上の注意

積極的に授業にご参加下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習をして授業に臨んで下さい。

教科書

教材は、その都度Oh-ol Meiji上に掲載致します。

参考書

特になし。

成績評価の方法

学期末のレポート(指定文献の和訳)50%+平常点50%
 ※平常点は授業中の姿勢を中心とします。

その他

進度に多少遅速が生じたり、文献を読む順番が入れ替わったりする可能性があります。

科目ナンバー：(AL) LAN571N			
共通特修科目	備考		
科目名	特修朝鮮語Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 平野 鶴子		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本授業では、20世紀の朝鮮半島の歴史文化に関する現代韓国・朝鮮語の文献を精読する。これにより、朝鮮語の基礎的な読解訓練を行うとともに、朝鮮近現代史の諸問題に対する理解を深めていく。春学期は、主に、韓国で今日までに歴史的に象徴的な「場」として記憶されてきた空間や風景に関する文献を取り上げる。

【到達目標】

研究を進める上で必要となる朝鮮語読解力を習得し、つ、参照すべき文献を把握し活用できるようになる。

授業内容

- 第1回 概説・導入／発表担当決定
- 第2回 文献講読1
- 第3回 文献講読2
- 第4回 文献講読3
- 第5回 文献講読4
- 第6回 文献講読5
- 第7回 文献講読6
- 第8回 文献講読7
- 第9回 文献講読8
- 第10回 文献講読9
- 第11回 文献講読10
- 第12回 文献講読11
- 第13回 文献講読12
- 第14回 まとめ／総括

履修上の注意

朝鮮語の文章の構造は比較的日本語と類似しているため、初級程度を履修していれば、やや難解な文章に挑むことも可能であろう。しかしながら、朝鮮語独特の語彙や表現を理解し、正確に読解するためには辞書の活用は欠かせない。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に文献を精読し、自らの解釈を述べられるように準備しておくこと。

教科書

『근대를 산책하다-문화유산으로 보는 한국 근현대사 150년』김종록, (다산초당, 2012)ほか。
 必要部分を配布するので、とくに購入の必要はない。ただし、テキストについては状況に応じて変更することがあるので、その場合は授業で説明する。

参考書

成績評価の方法

平常点(授業への主体的な取り組み、授業への貢献度)(60%)を重視するが、訳読の正確さや厳密さ等(40%)を総合的に評価する。ただし、原則として3回以上欠席した場合、評価の対象とみなさない。

その他

今まで朝鮮語文献をあまり読んだことのない人も、受講者のレベルに応じて解説しますので安心して下さい。

科目ナンバー：(AL) LAN571N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修朝鮮語Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 平野 鶴子		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本授業では、20世紀の朝鮮半島の歴史文化に関する現代韓国・朝鮮語の文献を精読する。これにより、朝鮮語の基礎的な読解訓練を行うとともに、朝鮮近現代史の諸問題に対する理解を深めていく。秋学期は、主に、20世紀の朝鮮半島の人々にとって身近な日常的事象に関する文献を取り上げる。

【到達目標】

研究を進める上で必要となる朝鮮語読解力を習得しつづ、参照すべき文献を把握し活用できるようになる。

授業内容

- 第1回 概説・導入／発表担当決定
- 第2回 文献講読1
- 第3回 文献講読2
- 第4回 文献講読3
- 第5回 文献講読4
- 第6回 文献講読5
- 第7回 文献講読6
- 第8回 文献講読7
- 第9回 文献講読8
- 第10回 文献講読9
- 第11回 文献講読10
- 第12回 文献講読11
- 第13回 文献講読12
- 第14回 まとめ／総括

履修上の注意

春学期から継続して履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に文献を精読し、自らの解釈を述べられるように準備しておくこと。

教科書

『식탁 위의 한국사-메뉴로 본 20세기 한국 음식문화사』 주영하, (휴머니스트, 2013)ほか。
必要部分を配布するので、とくに購入の必要はない。ただし、テキストについては状況に応じて変更することがあるので、その場合は授業で説明する。

参考書

成績評価の方法

平常点（授業への主体的な取り組み、授業への貢献度）(60%)を重視するが、訳読の正確さや厳密さ等(40%)を総合的に評価する。ただし、原則として3回以上欠席した場合、評価の対象とみなさない。

その他

今まで朝鮮語文献をあまり読んだことのない人も、受講者のレベルに応じて解説しますので安心してください。

科目ナンバー：(AL) LAN551N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修ロシア語Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士DEA(スラヴ学専攻) 杉山 春子		

授業の概要・到達目標

到達目標は2つです。第一に、統辞論的なアプローチによって、これまでのロシア語学習で得た基礎知識を再統合していくことで、ロシア語の素養をより確実なものとする。第二に、上記のアプローチを応用したテキストの読解、分析によって、実践力をつけることです。授業では、実用的な統辞論の観点からロシア語の構造を段階的に学んでいきます。この授業のもう一つの課題は、ロシア語統辞論の応用です。受講生の希望を活かして、歴史、地理、文化、社会に関わる任意のテーマを選び、このテーマを扱った原語テキストを丁寧に研究し、ロシア語で質疑応答するプロセスによって語学力のステップ・アップを図ります。ロシアの現地映像、視聴覚教材等を使用します。

授業内容

- 第1回 ガイダンス: 1) ロシア語「統辞論」について講義
2) 歴史、文化、社会、芸術の分野から希望するテーマについて意見交換
- 第2回 名詞の諸格と前置詞の結合
- 第3回 名詞の諸格の組み合わせ
- 第4回 動詞の不定法(完了体、不完了体)の結合
- 第5回 人称代名詞の諸格を用いた表現
- 第6回 動詞の直接法現在と不定法の結合
- 第7回 быть とその他の動詞における否定生格の結合
- 第8回 仮定法の諸相
- 第9回 無人称文、普遍人称文、不定人称文の諸相
- 第10回 疑問詞、不定代名詞による強調表現
- 第11回 形容詞の諸格の結合
- 第12回 形容詞的代名詞の諸格の結合
- 第13回 形容詞の名詞転化、形容詞と不定代名詞、否定代名詞との結合
- 第14回 a.課題または試験、b.春学期のふり返りと正答解説

履修上の注意

受講資格としてロシア語検定3級程度の語学力を有すること。ロシア語の場合、最初の2年間で文法学習がほぼ終了し、本講座のような実践を重ねることで言葉の世界を、より楽しめるようになります。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に適宜、指示します。

教科書

オリジナル・プリントを配布。『ロシア文法の基礎』木村 彰一著、白水社を購入のこと。

参考書

『博友社ロシア語辞典、改訂新版』博友社、『研究社露和辞典』研究社など。

成績評価の方法

授業への貢献度10%、出席40%、ワークショップ、レポート、小テストの総合点50%

その他

受講希望者は、初回ガイダンスに出席のこと。出席できない場合、クラスウェブにて連絡のこと。

科目ナンバー：(AL) LAN551N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修ロシア語Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士DEA(スラヴ学専攻) 杉山 春子		

授業の概要・到達目標

到達目標は2つです。第一に、統辞論的なアプローチによって、これまでのロシア語学習で得た基礎知識を再統合していくことで、ロシア語の素養をより確実なものとする。第二に、上記のアプローチを応用したテキストの読解、分析によって、実践力をつけることです。授業では、実用的な統辞論の観点からロシア語の構造を段階的に学んでいきます。この授業のもう一つの課題は、ロシア語統辞論の応用です。受講生の希望を活かして、歴史、地理、文化、社会に関わる任意のテーマを選び、このテーマを扱った原語テキストを丁寧に研究し、ロシア語で質疑応答するプロセスによって語学力のステップ・アップを図ります。ロシアの現地映像、視聴覚教材等を使用します。

授業内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 同一接続詞の繰り返し構文
- 第3回 接続詞と助詞等の組み合わせ構文
- 第4回 接続詞 что による構文
- 第5回 接続詞 что とその他の品詞の組み合わせ構文
- 第6回 接続詞 чтобы による構文
- 第7回 関係代名詞 что、кто による接続構文
- 第8回 関係代名詞 который による接続構文
- 第9回 関係代名詞 какой による接続構文
- 第10回 能動形動詞現在、能動形動詞過去による関係代名詞の省略文
- 第11回 被動形動詞現在、被動形動詞過去による関係代名詞の省略文
- 第12回 副動詞現在と副動詞過去による接続詞の省略文
- 第13回 慣用句的な特殊重要構文
- 第14回 a.課題または試験 b.秋学期のふり返りと正答解説

履修上の注意

受講資格としてロシア語検定3級程度の語学力を有すること。ロシア語の場合、最初の2年間で文法学習がほぼ終了し、本講座のような実践を重ねることで言葉の世界を、より楽しめるようになります。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に適宜、指示します。

教科書

オリジナル・プリントを配布。『ロシア文法の基礎』木村彰一著、白水社を購入のこと。

参考書

『博友社ロシア語辞典 改訂新版』博友社、『研究社露和辞典』研究社など。

成績評価の方法

授業への貢献度10%、出席40%、ワークショップ、レポート、小テストの総合点50%

その他

受講希望者は、初回ガイダンスに出席のこと。春学期からの継続受講をお勧めします。

科目ナンバー：(AL) LAN541N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修スペイン語I		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D.博士(哲学) バリエントスロドリゲス		

授業の概要・到達目標

この授業ではすでに獲得しているスペイン語の力を伸ばし、更に様々な会話表現を身につけることを目指します。正確に言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解できるよう、話すことと聞くことに重点をおき、会話の幅を広げてゆきます。また履修者の興味に応じてスペイン語圏の様々な文化も授業でとりあげます。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：El trabajo（仕事や勉強について話す）
- 第3回：El trabajo（交通手段について話す、頻度を表わす表現を使い話す）
- 第4回：Planes（将来の計画について話す）
- 第5回：Planes（義務や必要性について話す）
- 第6回：Comidas（店で商品について尋ねる、商品の値段を聞く）
- 第7回：Comidas（レストランで注文する、レストランで要求を伝える）
- 第8回：Un dia normal（最近したことを話す）
- 第9回：Un dia normal（謝る、言い訳をする）
- 第10回：Experiencias（個人的な体験について話す）
- 第11回：Opiniones（意見を伝える、賛成・反対する）
- 第12回：Ropa（着ている服を説明する、服の比較をする）
- 第13回：Ropa（店で服を買う）
- 第14回：a. 春学期末試験 b. 春学期のまとめ

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

言語を学ぶ際に音読することは大切であるので、積極的にスペイン語を声に出して読むこと。辞書を持参すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱うテーマについて事前に考え、必要な単語を調べておくこと。また、配付プリントを読み、わからない点は質問を準備しておくこと。

教科書

プリントを配付します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

試験(40%)、授業参加(60%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) LAN541N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修スペイン語Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D.博士(哲学) バリエントス ロドリゲス		

授業の概要・到達目標

この授業ではすでに獲得しているスペイン語の力を伸ばし、更に様々な会話表現を身につけることを目指します。正確に言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解できるように、話すことと聞くことに重点をおき、会話の幅を広げてゆきます。また履修者の興味に応じてスペイン語圏の様々な文化も授業でとりあげます。

授業内容

- 第1回：En una fiesta (していることを話す、お祝いを言う、贈り物をあげる)
- 第2回：En una fiesta (物事について感想を言う、食べ物や飲み物をすすめる、すすめを承諾する・断る、日にちを言う)
- 第3回：Un viaje (過去について話す)
- 第4回：Un viaje (旅行について話す)
- 第5回：Famosos (歴史上の著名人、今の著名人について話す)
- 第6回：Permisos (許可を求める、許可を与える、可能か不可能かを尋ねる)
- 第7回：Favores (頼みごとをする、頼みごとをきく・断る、借りる)
- 第8回：Ir de viaje (座席の好み等について話し比較をする、交通手段についての情報を尋ねる・与える、天気について話す)
- 第9回：El fin de semana (先週末に何をしたか話す、過去の出来事について感想を言う)
- 第10回：La infancia (過去の人物、場所について説明する、過去の習慣について話す)
- 第11回：Regalos (事物を説明する、贈り物について話す)
- 第12回：El mundo (未来について話す)
- 第13回：El mundo (未来について予想する)
- 第14回：a. 秋学期末試験 b. 秋学期のまとめ

*授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

言語を学ぶ際に音読することは大切であるので、積極的にスペイン語を声に出して読むこと。辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテーマについて事前に考え、必要な単語を調べておくこと。また、配付プリントを読み、わからない点は質問を準備しておくこと。

教科書

プリントを配付します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

試験(40%)、授業参加(60%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) LAN591N			
共通特修科目		備考	
科目名	古典ギリシア語中級		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授	古山 夕城	

授業の概要・到達目標

古典ギリシア語初級で習得された、初等文法・基礎文法を前提にして、さらに中級文法の学習を行ない、ギリシア語古典文献の散文を読解できる能力を養う。

授業内容

- 古典ギリシア語初級で使用されていた教科書を引き続き学習する。多様な活用だけでなく、古典ギリシア語独特の表現や慣用語、および文脈による解釈の違いに慣れ親しみ、テキストを正確に読み取る作業を経験してもらいたい。授業スケジュールは、およそ次の通り。ただし、履修学生の学習状況に合わせて対応する。
- 1～2. 初等・基礎文法の復習確認
 - 3～4. 接続法(能相・中受動相)の法の用法(勧奨思案・目的・恐怖危惧)
 - 5～6. 条件文の諸形式(1)不問想定・反実仮想・予想的未来
 - 7～8. 不定法の用法(目的意図・結果予想・独立的)
 - 9～10. 関係代名詞の諸形式(同化・逆の同化)
 - 11～12. 希求法(能動・中受動)の用法(目的・恐怖危惧・配慮計画)
 - 13～14. 分詞(能動・中動・受動)の用法(情況・補語的・独立的)

履修上の注意

古典ギリシア語初級あるいは、古典ギリシア語Ⅰ(または学部間共通外国語の古典ギリシア語)の単位を取得し、中級文法の前提となる基礎学力を有していること。場合によっては、初回授業時に学力確認の試験を実施し、基礎学力が著しく低い場合は、履修を勧めないこともありうる。

準備学習(予習・復習等)の内容

原則として毎週、関連する学習課題の短い動画2～3本をクラスウェブに掲載するので、授業開始までにそれを視聴し、対応する練習問題を解いておくこと。事前の予習が語学習得の必須条件であることは、古典ギリシア語についても変わらない。

教科書

田中美知太郎・松平千秋 『ギリシア語入門 改訂版』(岩波全書)

参考書

とくになし。中級文法の段階でも、教科書の学習に辞書は必要ありません。秋学期にテキスト講読へ進む前に、辞書辞典類の紹介を行ないます。

課題に対するフィードバックの方法

欠席時間のテキスト練習問題をレポート解答として提出した場合は、添削の上、返送する。

成績評価の方法

授業への取り組み(評価基準=練習問題の解答率)によって、成績を評定する。ただし、出席率80%以上を必須条件とします。試験は行なわない予定。

その他

指導テーマ

本講義は、対面授業であるが、全14回中、第2～第7回まではZoomミーティングを利用したリアルタイム型のオンライン形式で実施する。それ以降は、履修生と相談の上、対面授業で行う予定である。

進行計画

このシラバスは、2023年11月段階での計画を載せたものであり、2024年度の授業開始時に一部または多くが変更されることがあります。変更については、授業開始時に説明し、履修生と相談します。

科目ナンバー：(AL) LAN591N			
共通特修科目		備考	
科目名	古典ギリシア語講読		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授		古山 夕城

授業の概要・到達目標

古典ギリシア語中級で習得された、文法学習を前提にして、さらに高度な文法の知識を身につけ、ギリシア語古典文献の散文テキストを読解できる能力を養う。

授業内容

まず、中級文法のおさらいと、文法テキストの残り部分の読了を果たす。
その後、古典文献の中からふさわしいテキストを選択し、講読授業へと進んでいく予定。
授業スケジュールはおおよ次の通り。
1～2. 命令法(能動・中動・受動)の用法
3～4. 間接話法、否定の表現
5～6. 特殊活用のmi動詞の用法
7～14. テキスト講読

履修上の注意

本講義は、対面授業として計画していますが、全14回のうち最初の6回分をリアルタイム型のオンライン形式で実施します。ただし、その後の対面授業については、履修学生との相談により、実施方法を決めていきます。

履修条件として、古典ギリシア語中級の単位を取得していること。場合によっては、中級文法の学力を確認する試験を行い、著しく学力が低い場合は、履修を勧めないこともあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前のテキスト予習は必須です。
各課の内容を説明は授業内で行いますが、それを踏まえた練習問題の読解は必ず事前に準備しておくこと。
大学院特修科目として実施するこの授業は、単なる語学文法・テキスト読解だけでなく、その背後にある古代ギリシアの文化・社会・国家制度・歴史的背景なども学習することが重要であるため、それらについても授業の予習として調べておくこと。

教科書

田中美知太郎・松平千秋 『ギリシア語入門 改訂版』(岩波全書)
講読テキストについては、履修学生と相談のうえ決めます。

参考書

中級文法の段階でも、教科書の学習に辞書は必要ありませんが、古典テキスト講読には必要となるので、その前に初学者にふさわしい辞書・辞典類を紹介します。文法書巻末の語彙集ではまったく不十分であることを留意しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

欠席時間のテキスト練習問題、あるいは講読テキストの部分をレポート解答として提出した場合は、添削の上、返送する。

成績評価の方法

授業への取り組み(評価基準＝練習問題・テキスト講読の解答率)によって、成績を評価する。
ただし、単位取得の要件は出席率80%以上とします。

試験は行わない予定。

その他

このシラバスは前年11月段階の計画であり、実際の授業がすべてこのとおりに行なわれることを保証するものではありません。9月の授業開始時に、進め方と内容の一部について変更することがありますので「シラバスの補足」を必ず参照してください。

科目ナンバー：(AL) LAN591N			
共通特修科目		備考	
科目名	ラテン語中級講読A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		小島 久和

授業の概要・到達目標

ラテン語IABの授業で学習した基本的な文法事項を確認しながら、中級者向けの比較的易しい短文集を丁寧に読んでいきます。これによってラテン語の文章読解に慣れて、より長い文章を読むための基礎的能力を習得します。

授業内容

以下に14回分の授業内容を列挙します。ただし、授業の進捗状況に応じて変化します。

- (第1回) 初級文法の総復習
- (第2回) De Gallicis divis.
- (第3回) De Romae origine.
- (第4回) De Cambysis filii Cyri expeditione.
- (第5回) De patronis.
- (第6回) De priscis Romanis.
- (第7回) De primis bibliothecis.
- (第8回) Pythagoras Crotonienses ad usum frugalitatis revocat.
- (第9回) Sapiens opes contemnit.
- (第10回) Fames optimum condimentum.
- (第11回) De gloria Augusti bellica.
- (第12回) Trajanus.
- (第13回) De Athenarum initiis.
- (第14回) Asinus et Lyra.

履修上の注意

ラテン語IABを修了している学生のみ履修してください。
辞書は『Lexicon Latino-Japonicum(羅和辞典 改訂版)』水谷智洋編(研究社)、または『古典ラテン辞典』國原吉之助著(大学書林)を参考にしてください。また、中央図書館に羅英・羅仏・羅独・羅伊などが開架されていますので、十分に活用してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

文章の内容理解に十分な時間をかけてください。辞書で単語の意味を調べるときには、語義のすべてに目を通してください。動詞を調べるときには、どのような構文を取るのか、前置詞や不定詞を従えるのかなどを丁寧に確認してください。

教科書

『ラテン語読本』 松本悦治著 (駿河台出版社)

参考書

『ラテン広文典』泉井久之助著(白水社)
『新ラテン文法』松平千秋, 國原吉之助著(東洋出版)
『古典ラテン語文典』中山恒夫著(白水社)

成績評価の方法

授業参加の積極性、丁寧な単語調べ・読解の正確さ(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LAN691N			
共通特修科目		備考	
科目名	ラテン語中級講読B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 小島 久和		

授業の概要・到達目標

ラテン語IABで学習したラテン語の基礎的文法事項を確認しながら、短文集を読み進めます。文章の内容は春学期のものより難しくなっていますので、単語を一つ一つ確認しながら、ラテン語の読解能力を高めていきます。

授業内容

以下に14回分の授業内容を列挙します。ただし、授業の進捗状況に応じて変化します。

- (第1回) De Draconis et Solonis legibus contra latrones.
- (第2回) Pisistratus.
- (第3回) Miltiades Lemno potitur.
- (第4回) De Britannia.
- (第5回) Euripides.
- (第6回) Euripides.
- (第7回) Cyri regis sepulcrum.
- (第8回) Scythes Alexandri ambitionem accusat.
- (第9回) Casus miraculum efficit.
- (第10回) Demetrius Poliorcetes et tabula Protogenis pictoris.
- (第11回) De prima victoria navali Romanorum.
- (第12回) Hannibal Cretae avaritiam Gortyniorum fallit.
- (第13回) De M. Catonis laudibus.
- (第14回) Pomponius Atticus.

履修上の注意

ラテン語IABを修了している学生のみ履修してください。辞書は『Lexicon Latino-Japonicum(羅和辞典 改訂版)』水谷智洋編 (研究社)、または『古典ラテン辞典』國原吉之助著(大学書林)を参考にしてください。また、中央図書館に羅英・羅仏・羅独・羅伊などが開架されていますので、十分に活用してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習に十分時間をかけて、文章の内容をしっかりと把握してください。動詞を調べるときには、意味だけでなく、動詞の取る構文を丁寧に確認してください。

教科書

『ラテン語読本』 松本悦治著 (駿河台出版社)

参考書

- 『ラテン広文典』 泉井久之助著 (白水社)
- 『新ラテン文法』 松平千秋, 國原吉之助著 (東洋出版)
- 『古典ラテン語文典』 中山恒夫著 (白水社)

成績評価の方法

授業参加の積極性・丁寧な単語調べ・読解の正確さ(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LAN591N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修アラビア語A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 狩野 希望		

授業の概要・到達目標

この授業は、アラビア語の基礎文法を学び終えた学生を対象に、中級レベルのアラビア語文献の講読を行う授業です。

現代及び古典の文献講読を通じて、母音記号のない文章を自ら読めるような読解力を身に付けることを目標とします。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第3回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第4回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第5回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第6回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第7回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第8回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第9回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第10回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第11回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第12回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第13回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第14回 半期の授業のまとめ

履修上の注意

授業は、履修者による輪読形式で行います。毎回、授業の予習をしてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習では、文章に母音記号を振り、和訳をし、音読の練習をしてください。また、文献の著者や文献中に登場する専門用語等についてもあらかじめ調べてください。

教科書

プリント教材を授業内で配布します。

参考書

授業内で適宜紹介します。

成績評価の方法

平常点評価(出席の状況、予習の程度、授業への参加度)

その他

履修者の習熟度等により、授業で扱う文献や授業内容を調整することがあります。

科目ナンバー：(AL) LAN691N			
共通特修科目	備考		
科目名	特修アラビア語B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 狩野 希望		

授業の概要・到達目標

この授業は、アラビア語の基礎文法を学び終えた学生を対象に、中級レベルの古典アラビア語文献の講読を行う授業です。思想系の古典文献の講読を通じて、母音記号のない文章を自ら読めるような読解力を身に付けるとともに、イスラム思想の知識を深めることを目標とします。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第3回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第4回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第5回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第6回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第7回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第8回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第9回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第10回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第11回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第12回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第13回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第14回 半期の授業のまとめ

履修上の注意

授業は、履修者による輪読形式で行います。毎回、授業の予習をしてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習では、文章に母音記号を振り、和訳をし、音読の練習をしてください。また、文献の著者や文献中に登場する専門用語等についてもあらかじめ調べてください。

教科書

プリント教材を授業内で配布します。

参考書

授業内で適宜紹介します。

成績評価の方法

平常点評価(出席の状況、予習の程度、授業への参加度)

その他

履修者の習熟度等により、授業で扱う文献や授業内容を調整することがあります。

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本古代文学演習IA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 山崎 健司		

授業の概要・到達目標

古代文学に関する最新の研究論文を読み、批判を加えながら、今日的な問題点をさぐる。

ここ10年ほどの間に発表された論文の中から、各自の問題意識に即して数編を選び、そこに引用された用例の適否、論述の内容などについて、批判的に読み込み、みずから分析してその成果を発表する。また、研究史にも触れ、残された課題が奈辺にあるかを考えることを通して、論文執筆を念頭に置いた問題発見力を涵養する。

授業全体を通し、批判力・分析力・論文執筆能力を高めることをめざす。併せて修士論文執筆予定者に対しては、論文指導の時間を兼ねる。

授業内容

- 第1回：論文の選び方について
- 第2回：論文紹介と研究発表(1)
- 第3回：論文紹介と研究発表(2)
- 第4回：論文紹介と研究発表(3)
- 第5回：論文紹介と研究発表(4)
- 第6回：論文紹介と研究発表(5)
- 第7回：論文紹介と研究発表(6)
- 第8回：論文紹介と研究発表(7)
- 第9回：論文紹介と研究発表(8)
- 第10回：論文紹介と研究発表(9)
- 第11回：論文紹介と研究発表(10)
- 第12回：論文紹介と研究発表(11)
- 第13回：論文紹介と研究発表(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

演習担当者(発表者)は事前(発表する前の回)に取り上げる論文について予告をし、その論文をコピーして参加者に配布する。担当者以外の参加者は、その論文が取り上げている素材(作品等)について事前に目を通しておくことにより、発表後の討論が活発に行われることが望まれる。なお、ここで取り上げる論文は、原則査読を経たものであること。発表担当者は、パワーポイントやプリント資料の利用など、プレゼンテーションの仕方にも注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】

担当者は、準備に際し、論文の要約と評価すべき点・問題点をわかりやすく指摘してプリント等にまとめること。

また、発表担当者以外の参加者も事前に配布された論文をじっくり読んで読み込み、授業に臨むこと。

【復習】(特に担当者以外の参加者)

各回の発表内容が、各自の研究にどのような接点を持つか、役立つかを考えて、記録に留めておくこと。

教科書

特に用いることはせず、担当者が配布するプリント等による。

参考書

選択された論文に関連する文献を随時紹介する。

成績評価の方法

演習の発表内容と討論への参加状況、レポートによる総合評価。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本古代文学演習ⅠB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 山崎 健司		

授業の概要・到達目標

古代文学に関する最新の研究論文を読み、批判を加えながら、今日的な問題点をさぐる。

ここ10年ほどの間に発表された論文の中から、各自の問題意識に即して数編を選び、そこに引用された用例の適否、論述の内容などについて、批判的に読み込み、みずから分析してその成果を発表する。また、研究史にも触れ、残された課題が奈辺にあるかを考えることを通して、論文執筆を念頭に置いた問題発見力を涵養する。

授業全体を通し、批判力・分析力・論文執筆能力を高めることをめざす。併せて修士論文執筆予定者に対しては、論文指導の時間を兼ねる。

授業内容

- 第1回：論文の選び方について
- 第2回：論文紹介と研究発表(1)
- 第3回：論文紹介と研究発表(2)
- 第4回：論文紹介と研究発表(3)
- 第5回：論文紹介と研究発表(4)
- 第6回：論文紹介と研究発表(5)
- 第7回：論文紹介と研究発表(6)
- 第8回：論文紹介と研究発表(7)
- 第9回：論文紹介と研究発表(8)
- 第10回：論文紹介と研究発表(9)
- 第11回：論文紹介と研究発表(10)
- 第12回：論文紹介と研究発表(11)
- 第13回：論文紹介と研究発表(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

演習担当者(発表者)は事前(発表する前の回)に取り上げる論文について予告をし、その論文をコピーして参加者に配布する。担当者以外の参加者は、その論文が取り上げている素材(作品等)について事前に目を通しておくことにより、発表後の討論が活発に行われることが望まれる。なお、ここで取り上げる論文は、原則査読を経たものであること。発表担当者は、パワーポイントやプリント資料の利用など、プレゼンテーションの仕方にも注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】

担当者は、準備に際し、論文の要約と評価すべき点・問題点をわかりやすく指摘してプリント等にまとめること。

また、発表担当者以外の参加者も事前に配布された論文をじゅうぶんに読み込み、授業に臨むこと。

【復習】(特に担当者以外の参加者)

各回の発表内容が、各自の研究にどのような接点を持つか、役立つかを考えて、記録に留めておくこと。

教科書

特に用いることはせず、担当者が配布するプリント等による。

参考書

選択された論文に関連する文献を随時紹介する。

成績評価の方法

演習の発表内容と討論への参加状況、レポートによる総合評価。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本古代文学演習ⅠC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 山崎 健司		

授業の概要・到達目標

古代文学に関する最新の研究論文を読み、批判を加えながら、今日的な問題点をさぐる。

ここ10年ほどの間に発表された論文の中から、各自の問題意識に即して数編を選び、そこに引用された用例の適否、論述の内容などについて、批判的に読み込み、みずから分析してその成果を発表する。また、研究史にも触れ、残された課題が奈辺にあるかを考えることを通して、論文執筆を念頭に置いた問題発見力を涵養する。

授業全体を通し、批判力・分析力・論文執筆能力を高めることをめざす。併せて修士論文執筆予定者に対しては、論文指導の時間を兼ねる。

授業内容

- 第1回：論文の選び方について
- 第2回：論文紹介と研究発表(1)
- 第3回：論文紹介と研究発表(2)
- 第4回：論文紹介と研究発表(3)
- 第5回：論文紹介と研究発表(4)
- 第6回：論文紹介と研究発表(5)
- 第7回：論文紹介と研究発表(6)
- 第8回：論文紹介と研究発表(7)
- 第9回：論文紹介と研究発表(8)
- 第10回：論文紹介と研究発表(9)
- 第11回：論文紹介と研究発表(10)
- 第12回：論文紹介と研究発表(11)
- 第13回：論文紹介と研究発表(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

演習担当者(発表者)は事前(発表する前の回)に取り上げる論文について予告をし、その論文をコピーして参加者に配布する。担当者以外の参加者は、その論文が取り上げている素材(作品等)について事前に目を通しておくことにより、発表後の討論が活発に行われることが望まれる。なお、ここで取り上げる論文は、原則査読を経たものであること。発表担当者は、パワーポイントやプリント資料の利用など、プレゼンテーションの仕方にも注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】

担当者は、準備に際し、論文の要約と評価すべき点・問題点をわかりやすく指摘してプリント等にまとめること。

また、発表担当者以外の参加者も事前に配布された論文をじゅうぶんに読み込み、授業に臨むこと。

【復習】(特に担当者以外の参加者)

各回の発表内容が、各自の研究にどのような接点を持つか、役立つかを考えて、記録に留めておくこと。

教科書

特に用いることはせず、担当者が配布するプリント等による。

参考書

選択された論文に関連する文献を随時紹介する。

成績評価の方法

演習の発表内容と討論への参加状況、レポートによる総合評価。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本古代文学演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	山崎 健司	

授業の概要・到達目標

古代文学に関する最新の研究論文を読み、批判を加えながら、今日的な問題点をさぐる。

ここ10年ほどの間に発表された論文の中から、各自の問題意識に即して数編を選び、そこに引用された用例の適否、論述の内容などについて、批判的に読み込んでその成果を発表する。また、研究史の中で、みずからの研究成果がどのように位置づけられるかを考える。

授業全体として、批判力・分析力・論文執筆能力の向上をめざすとともに、前期課程2年次配当の演習Dでは、修士論文完成に向けた最終確認の場としての意味あいをもつ。

授業内容

- 第1回：論文の選び方について
- 第2回：論文紹介と研究発表(1)
- 第3回：論文紹介と研究発表(2)
- 第4回：論文紹介と研究発表(3)
- 第5回：論文紹介と研究発表(4)
- 第6回：論文紹介と研究発表(5)
- 第7回：論文紹介と研究発表(6)
- 第8回：論文紹介と研究発表(7)
- 第9回：論文紹介と研究発表(8)
- 第10回：論文紹介と研究発表(9)
- 第11回：論文紹介と研究発表(10)
- 第12回：論文紹介と研究発表(11)
- 第13回：論文紹介と研究発表(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

演習担当者(発表者)は事前(発表する前の回)に取り上げる論文について予告をし、その論文をコピーして配布する。担当者以外の参加者は、その論文が取り上げている素材(作品等)について事前に目を通しておくことにより、発表後の討論が活発に行われることが望まれる。なお、ここで取り上げる論文は原則として査読を経たものであること。また、発表担当者は、パワーポイントやプリント資料など、プレゼンテーションの仕方にも注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】

担当者は、準備に際して、論文の要約と評価すべき点・問題点をわかりやすく指摘してプリント等にまとめること。

また、発表担当者以外の参加者も事前に配布された論文をじっくり読んで読み込み、授業に臨むこと。

【復習】(特に担当者以外の参加者)

各回の発表内容が、各自の研究にどのような接点を持つか、役立つかを考えて、記録に留めておくこと。特に、修士論文執筆予定者においては、考えたことを文章化する習慣を身につけることが肝要である。

教科書

特に用いることはせず、演習担当者が配布するプリント等による。

参考書

選択された論文に関連する文献を随時紹介する。

成績評価の方法

演習の発表内容と討論への参加状況、レポートによる総合評価。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本古代文学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学)	湯浅 幸代	

授業の概要・到達目標

『源氏物語』薄雲巻を対象に演習を行う。薄雲巻では、主人公・光源氏が大堰の邸に住んでいる明石の君に、娘の引き取りを提案する場面から始まる。光源氏と明石の君の娘である姫君をを、光源氏が同居する妻・紫の上の養女にするというのである。姫君は都に住む光源氏夫妻に引き取られ、実の母子の別れが物語に描かれる。また、この巻では、光源氏の初恋の人である父帝の後・藤壺が崩御する。藤壺の死は、政界の重鎮・太政大臣の死に続いて語られ、世の天変地異もしきりであった。光源氏が藤壺と密通して生まれた不義の子・冷泉帝へのさとしとしてあらわれたこれらの事象は、やがて夜居の僧都の密奏により、真実が帝に告げられることで次第におさまっていく。また巻の終わりには、斎宮女御の動静が語られ、後の六条院建設につながる春秋優劣論も話題に上がる。このように、薄雲巻は、藤壺の死の前後に、光源氏の子供たちの成長と変化が語られる巻と言える。

この巻について、注釈書や資料(史料)、研究論文を参照し、本文の確定、語句の読解につとめる。その上で、物語独自の表現を指摘し、読み解く力を身につける。

発表者は、割り振られた担当箇所を精読した上で、各自、問題を設定しつつ、テーマを決めて発表してもらう。その際、古注釈が指摘する問題点も視野に入れて考察する。

授業内容

- 第1回：『源氏物語』薄雲巻の概説、演習のための参考文献紹介
- 第2回：日本古代文学の研究状況について概説
- 第3回：薄雲巻の演習発表と質疑1
- 第4回：薄雲巻の演習発表と質疑2
- 第5回：薄雲巻の演習発表と質疑3
- 第6回：薄雲巻の演習発表と質疑4
- 第7回：薄雲巻の演習発表と質疑5
- 第8回：薄雲巻の演習発表と質疑6
- 第9回：薄雲巻の演習発表と質疑7
- 第10回：薄雲巻の演習発表と質疑8
- 第11回：薄雲巻の演習発表と質疑9
- 第12回：薄雲巻の演習発表と質疑10
- 第13回：薄雲巻の演習発表と質疑11
- 第14回：総括

履修上の注意

薄雲巻前後の内容については、各自あらかじめ概略をしっかりと把握しておくこと。また履修する場合(聴講の場合も同様)、担当教員が認めた特別な理由を除き、講義回数(の三分の一以上)遅刻・欠席した場合、それ以降の出席を認めないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に次回担当範囲の本文を読んでおくこと。

教科書

新編日本古典文学全集『源氏物語』2(小学館)の本文をもとに担当者を割り振るが、持参するテキストは各自自由。

読むテキストを写本とするかどうかは、履修者のメンバーを確認してから決めることとする。

参考書

授業時に指示する。

成績評価の方法

演習発表(1回以上)と考察レポート(1回)80% 質疑応答20%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本古代文学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

春学期の演習内容を踏まえた上で、各自、平安文学に関する演習発表を行ってもらう(春学期同様、『源氏物語』の発表も可)。注釈書や資料(史料)、研究論文を参照し、本文の確定、語句の読解につとめる。その上で、物語独自の表現を指摘し、新見を提示できる力を養う。

授業内容

- 第1回：日本古代文学の研究状況について概説
- 第2回：平安文学に関する演習発表と質疑1
- 第3回：平安文学に関する演習発表と質疑2
- 第4回：平安文学に関する演習発表と質疑3
- 第5回：平安文学に関する演習発表と質疑4
- 第6回：平安文学に関する演習発表と質疑5
- 第7回：平安文学に関する演習発表と質疑6
- 第8回：平安文学に関する演習発表と質疑7
- 第9回：平安文学に関する演習発表と質疑8
- 第10回：平安文学に関する演習発表と質疑9
- 第11回：平安文学に関する演習発表と質疑10
- 第12回：平安文学に関する演習発表と質疑11
- 第13回：平安文学に関する演習発表と質疑12
- 第14回：総括

履修上の注意

各自、演習発表者が事前に告知した作品の登場人物、内容について、できるかぎり事前に把握しておくこと。
また履修する場合(聴講の場合も同様)、担当教員が認めた特別な理由を除き、講義回数数の三分の一以上遅刻・欠席した場合、それ以降の出席を認めないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習発表者が発表対象とする作品の内容について把握する。

教科書

演習発表者は事前に発表対象とする作品名を参加者に告知すること。参加者は、各自、告知された作品テキストを持参すること。

参考書

授業時に指示する。

成績評価の方法

演習発表(1回以上)と考察レポート(1回) 80% 質疑応答20%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本古代文学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

『源氏物語』薄雲巻を対象に演習を行う。薄雲巻では、主人公・光源氏が大堰の邸に住んでいる明石の君に、娘の引き取りを提案する場面から始まる。光源氏と明石の君の娘である姫君をを、光源氏が同居する妻・紫の上の養女にするというのである。姫君は都に住む光源氏夫妻に引き取られ、実の母子の別れが物語に描かれる。また、この巻では、光源氏の初恋の人である父帝の後・藤壺が崩御する。藤壺の死は、政界の重鎮・太政大臣の死に続いて語られ、世の天変地異もしきりであった。光源氏が藤壺と密通して生まれた不義の子・冷泉帝へのさとしとしてあらわれたこれらの事象は、やがて夜居の僧都の密奏により、真実が帝に告げられることで次第におさまっていく。また巻の終わりには、斎宮女御の動静が語られ、後の六条院建設につながる春秋優劣論も話題に上がる。このように、薄雲巻は、藤壺の死の前後に、光源氏の子供たちの成長と変化が語られる巻と言える。

この巻について、注釈書や資料(史料)、研究論文を参照し、本文の確定、語句の読解につとめる。その上で、物語独自の表現を指摘し、読み解く力を身につける。

発表者は、割り振られた担当箇所を精読した上で、各自、問題を設定しつつ、テーマを決めて発表してもらう。その際、古注釈が指摘する問題点も視野に入れて考察する。

授業内容

- 第1回：『源氏物語』薄雲巻の概説、演習のための参考文献紹介
- 第2回：日本古代文学の研究状況について概説
- 第3回：薄雲巻の演習発表と質疑1
- 第4回：薄雲巻の演習発表と質疑2
- 第5回：薄雲巻の演習発表と質疑3
- 第6回：薄雲巻の演習発表と質疑4
- 第7回：薄雲巻の演習発表と質疑5
- 第8回：薄雲巻の演習発表と質疑6
- 第9回：薄雲巻の演習発表と質疑7
- 第10回：薄雲巻の演習発表と質疑8
- 第11回：薄雲巻の演習発表と質疑9
- 第12回：薄雲巻の演習発表と質疑10
- 第13回：薄雲巻の演習発表と質疑11
- 第14回：総括

履修上の注意

薄雲巻前後の内容については、各自あらかじめ概略をしっかりと把握しておくこと。また履修する場合(聴講の場合も同様)、担当教員が認めた特別な理由を除き、講義回数数の三分の一以上遅刻・欠席した場合、それ以降の出席を認めないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に次回担当範囲の本文を読んでおくこと。

教科書

新編日本古典文学全集『源氏物語』2(小学館)の本文をもとに担当者を割り振るが、持参するテキストは各自自由。

読むテキストを写本とするかどうかは、履修者のメンバーを確認してから決めることとする。

参考書

授業時に指示する。

成績評価の方法

演習発表(1回以上)と考察レポート(1回) 80% 質疑応答20%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本古代文学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

春学期の演習内容を踏まえた上で、各自、平安文学に関する演習発表を行ってもらう(春学期同様、『源氏物語』の発表も可)。注釈書や資料(史料)、研究論文を参照し、本文の確定、語句の読解につとめる。その上で、物語独自の表現を指摘し、新見を提示できる力を養う。

授業内容

- 第1回：日本古代文学の研究状況について概説
- 第2回：平安文学に関する演習発表と質疑1
- 第3回：平安文学に関する演習発表と質疑2
- 第4回：平安文学に関する演習発表と質疑3
- 第5回：平安文学に関する演習発表と質疑4
- 第6回：平安文学に関する演習発表と質疑5
- 第7回：平安文学に関する演習発表と質疑6
- 第8回：平安文学に関する演習発表と質疑7
- 第9回：平安文学に関する演習発表と質疑8
- 第10回：平安文学に関する演習発表と質疑9
- 第11回：平安文学に関する演習発表と質疑10
- 第12回：平安文学に関する演習発表と質疑11
- 第13回：平安文学に関する演習発表と質疑12
- 第14回：総括

履修上の注意

各自、演習発表者が事前に告知した作品の登場人物、内容について、できるかぎり事前に把握しておくこと。
また履修する場合(聴講の場合も同様)、担当教員が認めた特別な理由を除き、講義回数の三分の一以上遅刻・欠席した場合、それ以降の出席を認めないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習発表者が発表対象とする作品の内容について把握する。

教科書

演習発表者は事前に発表対象とする作品名を参加者に告知すること。参加者は、各自、告知された作品テキストを持参すること。

参考書

授業時に指示する。

成績評価の方法

演習発表(1回以上)と考察レポート(1回) 80% 質疑応答20%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本中世文学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 牧野 淳司		

授業の概要・到達目標

授業の概要
唱導と注釈を扱う。唱導資料と古注釈を読解しつつ、日本古典文学との関係性を追究する。

唱導とは、仏の教えを広く人々に説き聞かせることを指す。仏教伝来以来、僧侶による唱導説経は盛んに行われた。しかし、口頭での説経はその場限りの営みであり、記録されることが少なかったため、奈良時代・平安時代の説経の実態は不明な点が多い。しかし、平安時代末(院政期)になると、説経を文字として記録することが行われるようになる。その結果、院政期から鎌倉時代以降の唱導説経資料が数多く残されることとなった。これらは、文学史的・文化史的価値の高いものであるが、日本文学・日本史学・仏教史学など関連諸分野で十分に読解・活用されているとは言えない。

また中世には、大量の注釈書が生み出された。古今注・伊勢注・源氏注・朗詠注の領域が開拓されて数十年が経過した。「中世日本紀」や「中世史記」の世界も広がっている。中世文学がこれらと深い関係を持つことはよく知られているが、じゅうぶんに読解されていない資料も多い。古注釈の世界に分け入りながら、中世文学を見直す作業が必要である。

本授業では、唱導資料や古注釈を読解しつつ、日本の古典文学との関係性を追究していく。

到達目標

日本中世の唱導資料・古注釈を通して、資料解読能力を身に付ける。日本中世の唱導資料や古注釈の文学史的・文化史的意義を理解する。唱導・注釈と日本古典文学との関係性を追究しつつ、古典文学を見る目を養う。

授業内容

- (1) 唱導の世界
- (2) 中国の唱導・講経
- (3) 唱導資料について
- (4) 平安時代の説経
- (5) 院政期の唱導—澄憲・弁晧・貞慶—
- (6) 澄憲の唱導資料読解—鎮護国家の唱導
- (7) 澄憲の唱導資料読解—追善仏事の唱導
- (8) 弁晧の唱導資料読解—内乱と政治思想
- (9) 弁晧の唱導資料読解—後白河法皇との関係
- (10) 貞慶の唱導資料読解—神仏への信仰の形
- (11) 貞慶の唱導資料読解—講式という形
- (12) 鎌倉時代の唱導資料
- (13) 南北朝・室町時代の唱導資料
- (14) まとめ

履修上の注意

資料に粘り強く、正面から向き合う真摯な姿勢が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当する資料について読解資料を作成し報告する。また関連資料を調査し提示する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiにレポートについて講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度60% レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本中世文学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	牧野 淳司	

授業の概要・到達目標

授業の概要
 唱導と注釈を扱う。唱導資料と古注釈を読解しつつ、日本古典文学との関係性を追究する。

唱導とは、仏の教えを広く人々に説き聞かせることを指す。仏教伝来以来、僧侶による唱導説経は盛んに行われた。しかし、口頭での説経はその場限りの営みであり、記録されることが少なかったため、奈良時代・平安時代の説経の実態は不明な点が多い。しかし、平安時代末(院政期)になると、説経を文字として記録することが行われるようになる。その結果、院政期から鎌倉時代以降の唱導説経資料が数多く残されることとなった。これらは、文学史的・文化史的価値の高いものであるが、日本文学・日本史学・仏教史学など関連諸分野で十分に読解・活用されているとは言えない。

また中世には、大量の注釈書が生み出された。古今注・伊勢注・源氏注・朗詠注の領域が開拓されて数十年が経過した。「中世日本紀」や「中世史記」の世界も広がっている。中世文学がこれらと深い関係を持つことはよく知られているが、じゅうぶんに読解されていない資料も多い。古注釈の世界に分け入りながら、中世文学を見直す作業が必要である。

本授業では、唱導資料や古注釈を読解しつつ、日本の古典文学との関係性を追究していく。

到達目標
 日本中世の唱導資料・古注釈を通して、資料解読能力を身に付ける。
 日本中世の唱導資料や古注釈の文学史的・文化史的意義を理解する。
 唱導・注釈と日本古典文学との関係性を追究しつつ、古典文学を見る目を養う。

授業内容

- (1) 注釈の世界
- (2) 注釈と物語
- (3) 注釈の作成と古典化の営み
- (4) 歌人と注釈
- (5) 古注釈の読解—歌道家との関わり
- (6) 古注釈の読解—伝授
- (7) 古注釈の読解—神話
- (8) 古注釈の読解—儀礼
- (9) 古注釈の読解—寺院文化圏の中で
- (10) 注釈世界の広がり
- (11) 注釈世界と学問の展開
- (12) 注釈の地方的展開
- (13) 注釈と文化的権威
- (14) まとめ

履修上の注意

資料に粘り強く、正面から向き合う真摯な姿勢が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当する資料について読解資料を作成し報告する。また関連資料を調査し提示する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiにレポートについて講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度60% レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本中世文学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	牧野 淳司	

授業の概要・到達目標

授業の概要
 唱導と注釈を扱う。唱導資料と古注釈を読解しつつ、日本古典文学との関係性を追究する。

唱導とは、仏の教えを広く人々に説き聞かせることを指す。仏教伝来以来、僧侶による唱導説経は盛んに行われた。しかし、口頭での説経はその場限りの営みであり、記録されることが少なかったため、奈良時代・平安時代の説経の実態は不明な点が多い。しかし、平安時代末(院政期)になると、説経を文字として記録することが行われるようになる。その結果、院政期から鎌倉時代以降の唱導説経資料が数多く残されることとなった。これらは、文学史的・文化史的価値の高いものであるが、日本文学・日本史学・仏教史学など関連諸分野で十分に読解・活用されているとは言えない。

また中世には、大量の注釈書が生み出された。古今注・伊勢注・源氏注・朗詠注の領域が開拓されて数十年が経過した。「中世日本紀」や「中世史記」の世界も広がっている。中世文学がこれらと深い関係を持つことはよく知られているが、じゅうぶんに読解されていない資料も多い。古注釈の世界に分け入りながら、中世文学を見直す作業が必要である。

本授業では、唱導資料や古注釈を読解しつつ、日本の古典文学との関係性を追究していく。

到達目標
 日本中世の唱導資料・古注釈を通して、資料解読能力を身に付ける。
 日本中世の唱導資料や古注釈の文学史的・文化史的意義を理解する。
 唱導・注釈と日本古典文学との関係性を追究しつつ、古典文学を見る目を養う。

授業内容

- (1) 唱導の世界
- (2) 中国の唱導・講経
- (3) 唱導資料について
- (4) 平安時代の説経
- (5) 院政期の唱導—澄憲・弁晧・貞慶—
- (6) 澄憲の唱導資料読解—鎮護国家の唱導
- (7) 澄憲の唱導資料読解—追善仏事の唱導
- (8) 弁晧の唱導資料読解—内乱と政治思想
- (9) 弁晧の唱導資料読解—後白河法皇との関係
- (10) 貞慶の唱導資料読解—神仏への信仰の形
- (11) 貞慶の唱導資料読解—講式という形
- (12) 鎌倉時代の唱導資料
- (13) 南北朝・室町時代の唱導資料
- (14) まとめ

履修上の注意

資料に粘り強く、正面から向き合う真摯な姿勢が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当する資料について読解資料を作成し報告する。また関連資料を調査し提示する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiにレポートについて講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度60% レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本中世文学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	牧野 淳司	

授業の概要・到達目標

授業の概要
 唱導と注釈を扱う。唱導資料と古注釈を読解しつつ、日本古典文学との関係性を追究する。
 唱導とは、仏の教えを広く人々に説き聞かせることを指す。仏教伝来以来、僧侶による唱導説経は盛んに行われた。しかし、口頭での説経はその場限りの営みであり、記録されることが少なかった。奈良時代・平安時代の説経の実態は不明な点が多い。しかし、平安時代末(院政期)になると、説経を文字として記録することが行われるようになる。その結果、院政期から鎌倉時代以降の唱導説経資料が数多く残されることとなった。これらは、文学史的・文化史的価値の高いものであるが、日本文学・日本史学・仏教史学など関連諸分野で十分に読解・活用されているとは言えない。
 また中世には、大量の注釈書が生み出された。古今注・伊勢注・源氏注・朗詠注の領域が開拓されて数十年が経過した。「中世日本紀」や「中世史記」の世界も広がっている。中世文学がこれらと深い関係を持つことはよく知られているが、じゅうぶんに読解されていない資料も多い。古注釈の世界に分け入りながら、中世文学を見直す作業が必要である。
 本授業では、唱導資料や古注釈を読解しつつ、日本の古典文学との関係性を追究していく。
到達目標
 日本中世の唱導資料・古注釈を通して、資料読解能力を身に付ける。
 日本中世の唱導資料や古注釈の文学史的・文化史的意義を理解する。
 唱導・注釈と日本古典文学との関係性を追究しつつ、古典文学を見る目を養う。

授業内容

- (1) 注釈の世界
- (2) 注釈と物語
- (3) 注釈の作成と古典化の営み
- (4) 歌人と注釈
- (5) 古注釈の読解—歌道家との関わり
- (6) 古注釈の読解—伝授
- (7) 古注釈の読解—神話
- (8) 古注釈の読解—儀礼
- (9) 古注釈の読解—寺院文化圏の中で
- (10) 注釈世界の広がり
- (11) 注釈世界と学問の展開
- (12) 注釈の地方的展開
- (13) 注釈と文化的権威
- (14) まとめ

履修上の注意

資料に粘り強く、正面から向き合う真摯な姿勢が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当する資料について読解資料を作成し報告する。また関連資料を調査し提示する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiにレポートについて講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度60% レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近世文学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	杉田 昌彦	

授業の概要・到達目標

日本近世文学に関して、院生各自の研究対象を追究する演習を行う。その場合、どのジャンル・作家・作品を取り扱う場合においても、活字化されていない原資料(写本・板本・草稿類等)を扱うことが必須となる。
 そのため、前期課程1年生、とりわけその春学期においては、この演習を通じて、草書体で書かれた原資料を読みこなし、それらを十二分に扱える力を養成することを、第一の目標とする。また、各自の修士論文作成に向けて、二年間を見通した研究計画を立案してもらう。

授業内容

1. イントロダクション
2. 原資料講読演習①
3. 原資料講読演習②
4. 原資料講読演習③
5. 原資料講読演習④
6. 原資料講読演習⑤
7. 原資料講読演習⑥
8. 原資料講読演習⑦
9. 修士論文研究計画作成①
10. 修士論文研究計画作成②
11. 修士論文研究計画作成③
12. 修士論文研究計画作成④
13. 修士論文研究計画作成⑤
14. 修士論文研究計画作成⑥

履修上の注意

草書体で記された古典一次資料を扱う演習となるので、そうした原資料を用いた学習に意欲的な学生の履修が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習担当者は十分な調査・準備を行った上で発表に臨み、発表をふまえ、レポートの作成までにさらなる調査・分析を行うこと。また発表者以外の学生も、原資料の講読箇所などについて十分な予習を行うこと。

教科書

テキストは、授業時に資料を適宜配布する。

参考書

授業時に適時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にて適宜指示する。

成績評価の方法

演習発表およびレポートなどの努力度・理解度・習熟度などを基準とする評価(70%)に加え、授業時の学習態度なども評価の対象(30%)とする。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近世文学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	杉田 昌彦	

授業の概要・到達目標

日本近世文学に関して、院生各自の研究対象を追究する演習を行う。

前期課程1年生の秋学期においては、春学期から学んできた原資料や作品を読みこなし、それらを取り扱える力をより十分なものにするとともに、具体的な仮説の形成・先行研究の整理・批判など、各自の論文作成に向けての指導を行っていく。

授業内容

1. インTRODクシヨン
2. 資料・作品講読演習①
3. 資料・作品講読演習②
4. 資料・作品講読演習③
5. 資料・作品講読演習④
6. 資料・作品講読演習⑤
7. 資料・作品講読演習⑥
8. 資料・作品講読演習⑦
9. 論文仮説形成指導①
10. 論文仮説形成指導②
11. 論文仮説形成指導③
12. 論文仮説形成指導④
13. 論文仮説形成指導⑤
14. 論文仮説形成指導⑥

履修上の注意

草書体で記された古典一次資料を扱う演習となるので、そうした原資料を用いた学習に意欲的な学生の履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習担当者は十分な調査・準備を行った上で発表に臨み、発表をふまえ、レポートの作成までにさらなる調査・分析を行うこと。また発表者以外の学生も、原資料や作品の講読箇所などについて十分な予習を行うこと。

教科書

テキストは、授業時に資料を適宜配布する。

参考書

授業時に適時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にて適宜指示する。

成績評価の方法

演習発表およびレポートなどの努力度・理解度・習熟度などを基準とする評価(70%)に加え、授業時の学習態度なども評価の対象(30%)とする。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近世文学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	杉田 昌彦	

授業の概要・到達目標

日本近世文学に関して、院生各自の研究対象を追究する演習を行う。

前期課程2年生の春学期においては、原資料を縦横に駆使し、古典文学を「解釈」し「読む」ということの意味合いについてさらに深い考究を行うとともに、自身の研究テーマに即して資料を批判し考察する応用力を付けていってほしい。また、先行研究の批判をふまえた仮説の検証など、各自の論文作成に向けての指導も行っていきたい。

授業内容

1. インTRODクシヨン
2. 資料・作品考察演習①
3. 資料・作品考察演習②
4. 資料・作品考察演習③
5. 資料・作品考察演習④
6. 資料・作品考察演習⑤
7. 資料・作品考察演習⑥
8. 資料・作品考察演習⑦
9. 論文考証内容指導①
10. 論文考証内容指導②
11. 論文考証内容指導③
12. 論文考証内容指導④
13. 論文考証内容指導⑤
14. 論文考証内容指導⑥

履修上の注意

草書体で記された古典一次資料を扱う演習となるので、そうした原資料を用いた学習に意欲的な学生の履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習担当者は十分な調査・準備を行った上で発表に臨み、発表をふまえ、レポートの作成までにさらなる調査・分析を行うこと。また発表者以外の学生も、原資料や作品の講読箇所などについて十分な予習を行うこと。

教科書

テキストは、授業時に資料を適宜配布する。

参考書

授業時に適時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にて適宜指示する。

成績評価の方法

演習発表およびレポートなどの努力度・理解度・習熟度などを基準とする評価(70%)に加え、授業時の学習態度なども評価の対象(30%)とする。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近世文学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	杉田 昌彦	

授業の概要・到達目標

日本近世文学に関して、院生各自の研究対象を追究する演習を行う。

前期課程2年生の秋学期においては、原資料を用いて古典文献を研究するという手法を完全に我がものとするともに、それを自身の研究テーマの完成に結びつけていてもらいたい。また、各自の修士論文の執筆・完成に向けて、この授業中における指導・支援を役立ててもらえれば幸いである。

授業内容

1. イントロダクション
2. 古典文献研究演習①
3. 古典文献研究演習②
4. 古典文献研究演習③
5. 古典文献研究演習④
6. 古典文献研究演習⑤
7. 古典文献研究演習⑥
8. 古典文献研究演習⑦
9. 修士論文執筆指導①
10. 修士論文執筆指導②
11. 修士論文執筆指導③
12. 修士論文執筆指導④
13. 修士論文執筆指導⑤
14. 修士論文執筆指導⑥

履修上の注意

草書体で記された古典一次資料を扱う演習となるので、そうした原資料を用いた学習に意欲的な学生の履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習担当者は十分な調査・準備を行った上で発表に臨み、発表をふまえ、レポートの作成までにさらなる調査・分析を行うこと。また発表者以外の学生も、原資料や作品の講読箇所などについて十分な予習を行うこと。

教科書

テキストは、授業時に資料を適宜配布する。

参考書

授業時に適時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にて適宜指示する。

成績評価の方法

演習発表およびレポートなどの努力度・理解度・習熟度などを基準とする評価(70%)に加え、授業時の学習態度なども評価の対象(30%)とする。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近代文学演習I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学)	竹内 栄美子	

授業の概要・到達目標

東アジアのなかの近代日本を問いながら、19世紀後半から20世紀前半にかけての中国、台湾、朝鮮半島における「日本人」の体験を考察した論文を読むことで「日本」「近代」「文学」を再検討する。

人文学と批評の意義を考え、日本近代文学研究をグローバルな観点から批判的に考察する視点を養う。また、修士論文作成に向けて学生諸君の研究テーマに従った発表をおこない、各自研究テーマの考究につとめることを目的とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 スケジュールおよび発表者の担当決定
 - 第3回 論文の批判的読解1
 - 第4回 論文の批判的読解2
 - 第5回 論文の批判的読解3
 - 第6回 論文の批判的読解4
 - 第7回 論文の批判的読解5
 - 第8回 論文の批判的読解6
 - 第9回 論文の批判的読解7
 - 第10回 修士論文作成のための発表1
 - 第11回 修士論文作成のための発表2
 - 第12回 修士論文作成のための発表3
 - 第13回 修士論文作成のための発表4
 - 第14回 修士論文作成のための発表5
- *学習成果を高めるために、授業内容は適宜変更する場合があります。

履修上の注意

発表者の報告をもとにした議論をおこなう。報告にあたってはレジュメを用意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表者以外の参加者も事前に論文あるいはテキストを読んで問題点を検討しておいてほしい。事前学習として、テキストの該当箇所を読み、今回の授業内容に関係する専門用語や社会的背景について調べておくこと。事後学習として、授業で扱った該当箇所を復習すること。

教科書

参考書

日本社会文学会編『社会文学の三〇年』(菁柿堂)、朴裕河『引揚げ文学論序説』(人文書院)、坪井秀人編『戦後日本を読みかえる』(臨川書店)、西成彦『外地巡礼「越境的」日本語文学論』(みすず書房)、和田博文・黄翠娥編『〈異郷〉としての大連・上海・台北』(勉誠出版)、金哲著・渡辺直紀訳『植民地の腹話術師たち』(平凡社)、ジャック・デリダ『たった一つの、私のものではない言葉』(岩波書店)、岩崎稔・島村輝・成田龍一編『アジアの戦争と記憶』(勉誠出版)、田中ひかる編『アナキズムを読む』(皓星社)、飯田祐子・中谷いずみ・笹尾佳代編『プロレタリア文学とジェンダー』(青弓社)ほか。

成績評価の方法

発表内容および考察レポート70%、授業中の発言や授業への取り組み姿勢30%によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 竹内 栄美子		

授業の概要・到達目標

東アジアのなかの近代日本を問いながら、19世紀後半から20世紀前半にかけての中国、台湾、朝鮮半島における「日本人」の体験を考察した論文を読むことで「日本」「近代」「文学」を再検討する。

人文学と批評の意義を考え、日本近代文学研究をグローバルな観点から批判的に考察する視点を養う。また、修士論文作成に向けて学生諸君の研究テーマに従った発表をおこない、各自研究テーマの考究につとめることを目的とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 スケジュールおよび発表者の担当決定
 - 第3回 論文の批判的読解1
 - 第4回 論文の批判的読解2
 - 第5回 論文の批判的読解3
 - 第6回 論文の批判的読解4
 - 第7回 論文の批判的読解5
 - 第8回 論文の批判的読解6
 - 第9回 論文の批判的読解7
 - 第10回 修士論文作成のための発表1
 - 第11回 修士論文作成のための発表2
 - 第12回 修士論文作成のための発表3
 - 第13回 修士論文作成のための発表4
 - 第14回 修士論文作成のための発表5
- *学習成果を高めるために、授業内容は適宜変更する場合があります。

履修上の注意

発表者の報告をもとにした議論をおこなう。報告にあたってはレジュメを用意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表者以外の参加者も事前に論文あるいはテキストを読んで問題点を検討しておいてほしい。事前学習として、テキストの該当箇所を読み、今回の授業内容に関係する専門用語や社会的背景について調べておくこと。事後学習として、授業で扱った該当箇所を復習すること。

教科書

参考書

日本社会文学会編『社会文学の三〇年』（菁柿堂）、朴裕河『引揚げ文学論序説』（人文書院）、坪井秀人編『戦後日本を読みかえる』（臨川書店）、西成彦『外地巡礼「越境的」日本語文学論』（みすず書房）、和田博文・黄翠娥編『〈異郷〉としての大連・上海・台北』（勉誠出版）、金哲著・渡辺直紀訳『植民地の腹話術師たち』（平凡社）、ジャック・デリダ『たった一つの、私のものではない言葉』（岩波書店）、岩崎稔・島村輝・成田龍一編『アジアの戦争と記憶』（勉誠出版）、田中ひかる編『アナキズムを読む』（皓星社）、飯田祐子・中谷いずみ・笹尾佳代編『プロレタリア文学とジェンダー』（青弓社）ほか。

成績評価の方法

発表内容および考察レポート70%、授業中の発言や授業への取り組み姿勢30%によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習 I C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 竹内 栄美子		

授業の概要・到達目標

東アジアのなかの近代日本を問いながら、19世紀後半から20世紀前半にかけての中国、台湾、朝鮮半島における「日本人」の体験を考察した論文を読むことで「日本」「近代」「文学」を再検討する。

人文学と批評の意義を考え、日本近代文学研究をグローバルな観点から批判的に考察する視点を養う。また、修士論文作成に向けて学生諸君の研究テーマに従った発表をおこない、各自研究テーマの考究につとめることを目的とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 スケジュールおよび発表者の担当決定
 - 第3回 論文の批判的読解1
 - 第4回 論文の批判的読解2
 - 第5回 論文の批判的読解3
 - 第6回 論文の批判的読解4
 - 第7回 論文の批判的読解5
 - 第8回 論文の批判的読解6
 - 第9回 論文の批判的読解7
 - 第10回 修士論文作成のための発表1
 - 第11回 修士論文作成のための発表2
 - 第12回 修士論文作成のための発表3
 - 第13回 修士論文作成のための発表4
 - 第14回 修士論文作成のための発表5
- *学習成果を高めるために、授業内容は適宜変更する場合があります。

履修上の注意

発表者の報告をもとにした議論をおこなう。報告にあたってはレジュメを用意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表者以外の参加者も事前に論文あるいはテキストを読んで問題点を検討しておいてほしい。事前学習として、テキストの該当箇所を読み、今回の授業内容に関係する専門用語や社会的背景について調べておくこと。事後学習として、授業で扱った該当箇所を復習すること。

教科書

参考書

日本社会文学会編『社会文学の三〇年』（菁柿堂）、朴裕河『引揚げ文学論序説』（人文書院）、坪井秀人編『戦後日本を読みかえる』（臨川書店）、西成彦『外地巡礼「越境的」日本語文学論』（みすず書房）、和田博文・黄翠娥編『〈異郷〉としての大連・上海・台北』（勉誠出版）、金哲著・渡辺直紀訳『植民地の腹話術師たち』（平凡社）、ジャック・デリダ『たった一つの、私のものではない言葉』（岩波書店）、岩崎稔・島村輝・成田龍一編『アジアの戦争と記憶』（勉誠出版）、田中ひかる編『アナキズムを読む』（皓星社）、飯田祐子・中谷いずみ・笹尾佳代編『プロレタリア文学とジェンダー』（青弓社）ほか。

成績評価の方法

発表内容および考察レポート70%、授業中の発言や授業への取り組み姿勢30%によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 竹内 栄美子		

授業の概要・到達目標

東アジアのなかの近代日本を問いながら、19世紀後半から20世紀前半にかけての中国、台湾、朝鮮半島における「日本人」の体験を考察した論文を読むことで「日本」「近代」「文学」を再検討する。

人文学と批評の意義を考え、日本近代文学研究をグローバルな観点から批判的に考察する視点を養う。また、修士論文作成に向けて学生諸君の研究テーマに従った発表をおこない、各自研究テーマの考究につとめることを目的とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨソ
 - 第2回 スケジュールおよび発表者の担当決定
 - 第3回 論文の批判的読解1
 - 第4回 論文の批判的読解2
 - 第5回 論文の批判的読解3
 - 第6回 論文の批判的読解4
 - 第7回 論文の批判的読解5
 - 第8回 論文の批判的読解6
 - 第9回 論文の批判的読解7
 - 第10回 修士論文作成のための発表1
 - 第11回 修士論文作成のための発表2
 - 第12回 修士論文作成のための発表3
 - 第13回 修士論文作成のための発表4
 - 第14回 修士論文作成のための発表5
- *学習成果を高めるために、授業内容は適宜変更する場合があります。

履修上の注意

発表者の報告をもとにした議論をおこなう。報告にあたってはレジユメを用意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表者以外の参加者も事前に論文あるいはテキストを読んで問題点を検討しておいてほしい。事前学習として、テキストの該当箇所を読み、次回の授業内容に関係する専門用語や社会的背景について調べておくこと。事後学習として、授業で扱った該当箇所を復習すること。

教科書

参考書

日本社会文学会編『社会文学の三〇年』（菁柿堂）、朴裕河『引揚げ文学論序説』（人文書院）、坪井秀人編『戦後日本を読みかえる』（臨川書店）、西成彦『外地巡礼「越境的」日本語文学論』（みすず書房）、和田博文・黄翠娥編『異郷』としての大連・上海・台北』（勉誠出版）、金哲著・渡辺直紀訳『植民地の腹話術師たち』（平凡社）、ジャック・デリダ『たった一つの、私のものではない言葉』（岩波書店）、岩崎稔・島村輝・成田龍一編『アジアの戦争と記憶』（勉誠出版）、田中ひかる編『アナキズムを読む』（皓星社）、飯田祐子・中谷いずみ・笹尾佳代編『プロレタリア文学とジェンダー』（青弓社）ほか。

成績評価の方法

発表内容および考察レポート70%、授業中の発言や授業への取り組み姿勢30%によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

近現代詩に関する評論（詩論）や研究論文を読み、詩の概念や創作における諸実践を歴史的な連関において捉える。それによって、日本近・現代文学とその研究を多層的に把握し直すことを目標とする。またそれと並行して履修者が各自の研究テーマを探求し、口頭発表と議論を通して修士論文の構想を具体化することを目指す。

授業内容

- 第1回: 概説・導入
 - 第2回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(1)
 - 第3回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(2)
 - 第4回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(3)
 - 第5回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(4)
 - 第6回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(5)
 - 第7回: 中間レビュー
 - 第8回: 修士論文に向けての作業報告(1)
 - 第9回: 修士論文に向けての作業報告(2)
 - 第10回: 修士論文に向けての作業報告(3)
 - 第11回: 修士論文に向けての作業報告(4)
 - 第12回: 修士論文に向けての作業報告(5)
 - 第13回: 期末レビュー
 - 第14回: まとめ
- ※履修人数や議論の進捗状況に応じて計画を変更することがあります。

履修上の注意

授業は各回の発表担当者による報告とフロアの議論に基づいて進行する。発表担当者は、適宜必要な配布物を用意するとともに、適切な事前予告（目を通してほしい文献や資料などの指示）を行うこと。他の履修者はその予告内容に従い、聴く準備を十全に整えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業時に、次回のテーマや報告に関する予告を行うので、その都度の指示にそって指定された文献や資料をあらかじめ読み込んでくること。また、当該の授業内で扱った話題や情報について、理解が不十分な箇所がある場合は文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

各回の授業の中で必要に応じて指示する。

成績評価の方法

発表60%、平常点40%で評価する。平常点は、発言や出席状況、議論への参加姿勢によって総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

近現代詩に関する評論(詩論)や研究論文を読み、詩の概念や創作における諸実践を歴史的な連関において捉える。それによって、日本近・現代文学とその研究を多層的に把握し直すことを目標とする。またそれと並行して履修者が各自の研究テーマを探究し、口頭発表と議論を通して修士論文の構想を具体化することを目指す。

授業内容

第1回：概説・導入
 第2回：近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(1)
 第3回：近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(2)
 第4回：近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(3)
 第5回：近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(4)
 第6回：近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(5)
 第7回：中間レビュー
 第8回：修士論文に向けての作業報告(1)
 第9回：修士論文に向けての作業報告(2)
 第10回：修士論文に向けての作業報告(3)
 第11回：修士論文に向けての作業報告(4)
 第12回：修士論文に向けての作業報告(5)
 第13回：期末レビュー
 第14回：まとめ
 ※履修人数や議論の進捗状況に応じて計画を変更することがあります。

履修上の注意

授業は各回の発表担当者による報告とフロアの議論に基づいて進行する。発表担当者は、適宜必要な配布物を用意するとともに、適切な事前予告(目を通しておいてほしい文献や資料などの指示)を行うこと。他の履修者はその予告内容に従い、聴く準備を十全に整えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業時に、次回のテーマや報告に関する予告を行うので、その都度の指示にそって指定された文献や資料をあらかじめ読み込んでくること。また、当該の授業内で扱った話題や情報について、理解が不十分な箇所がある場合は文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

各回の授業の中で必要に応じて指示する。

成績評価の方法

発表60%、平常点40%で評価する。平常点は、発言や出席状況、議論への参加姿勢によって総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

近現代詩に関する評論(詩論)や研究論文を読み、詩の概念や創作における諸実践を歴史的な連関において捉える。それによって、日本近・現代文学とその研究を多層的に把握し直すことを目標とする。またそれと並行して履修者が各自の研究テーマを探究し、口頭発表と議論を通して修士論文の構想を具体化することを目指す。

授業内容

第1回：概説・導入
 第2回：近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(1)
 第3回：近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(2)
 第4回：近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(3)
 第5回：近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(4)
 第6回：近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(5)
 第7回：中間レビュー
 第8回：修士論文に向けての作業報告(1)
 第9回：修士論文に向けての作業報告(2)
 第10回：修士論文に向けての作業報告(3)
 第11回：修士論文に向けての作業報告(4)
 第12回：修士論文に向けての作業報告(5)
 第13回：期末レビュー
 第14回：まとめ
 ※履修人数や議論の進捗状況に応じて計画を変更することがあります。

履修上の注意

授業は各回の発表担当者による報告とフロアの議論に基づいて進行する。発表担当者は、適宜必要な配布物を用意するとともに、適切な事前予告(目を通しておいてほしい文献や資料などの指示)を行うこと。他の履修者はその予告内容に従い、聴く準備を十全に整えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業時に、次回のテーマや報告に関する予告を行うので、その都度の指示にそって指定された文献や資料をあらかじめ読み込んでくること。また、当該の授業内で扱った話題や情報について、理解が不十分な箇所がある場合は文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

各回の授業の中で必要に応じて指示する。

成績評価の方法

発表60%、平常点40%で評価する。平常点は、発言や出席状況、議論への参加姿勢によって総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近代文学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

近現代詩に関する評論(詩論)や研究論文を読み、詩の概念や創作における諸実践を歴史的な連関において捉える。それによって、日本近・現代文学とその研究を多層的に把握し直すことを目標とする。またそれと並行して履修者が各自の研究テーマを探求し、口頭発表と議論を通して修士論文の構想を具体化することを目指す。

授業内容

- 第1回: 概説・導入
 - 第2回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(1)
 - 第3回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(2)
 - 第4回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(3)
 - 第5回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(4)
 - 第6回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(5)
 - 第7回: 中間レビュー
 - 第8回: 修士論文に向けての作業報告(1)
 - 第9回: 修士論文に向けての作業報告(2)
 - 第10回: 修士論文に向けての作業報告(3)
 - 第11回: 修士論文に向けての作業報告(4)
 - 第12回: 修士論文に向けての作業報告(5)
 - 第13回: 期末レビュー
 - 第14回: まとめ
- ※履修人数や議論の進捗状況に応じて計画を変更することがあります。

履修上の注意

授業は各回の発表担当者による報告とフロアの議論に基づいて進行する。発表担当者は、適宜必要な配布物を用意するとともに、適切な事前予告(目を通しておいてほしい文献や資料などの指示)を行うこと。他の履修者はその予告内容に従い、聴く準備を十全に整えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業時に、次回のテーマや報告に関する予告を行うので、その都度の指示にそって指定された文献や資料をあらかじめ読み込んでくること。また、当該の授業内で扱った話題や情報について、理解が不十分な箇所がある場合は文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

各回の授業の中で必要に応じて指示する。

成績評価の方法

発表60%, 平常点40%で評価する。平常点は、発言や出席状況、議論への参加姿勢によって総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近代文学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 生方 智子		

授業の概要・到達目標

日本近代文学研究における近年までの研究成果を踏まえ、優れた修士論文を書くために必要な知識と技術を身に着けることを目標とする。授業は演習形式で行い、受講者には学会誌「日本近代文学」の掲載論文に関する分析・報告、および、修士論文のテーマの報告や中間発表を求める。また、適宜、最新の研究論文を取り上げて検証していく予定。

授業内容

- 第1回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その1
- 第2回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その2
- 第3回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その3
- 第4回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その4
- 第5回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その5
- 第6回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その6
- 第7回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その7
- 第8回: 修士論文に向けたテーマ発表—その1
- 第9回: 修士論文に向けたテーマ発表—その2
- 第10回: 修士論文に向けたテーマ発表—その3
- 第11回: 修士論文に向けたテーマ発表—その4
- 第12回: 修士論文中間発表—その1
- 第13回: 修士論文中間発表—その2
- 第14回: 論文構想最終発表

※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

日本近代文学関係の学会誌には常に目を通しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、事前に調査しておくこと。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

発表内容(70%), ディスカッションの貢献度(30%)で評価する。

その他

特になし

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 生方 智子		

授業の概要・到達目標

日本近代文学研究における近年までの研究成果を踏まえ、優れた修士論文を書くために必要な知識と技術を身につけることを目標とする。授業は演習形式で行い、受講者には学会誌「日本近代文学」の掲載論文に関する分析・報告、および、修士論文のテーマの報告や中間発表を求める。また、適宜、最新の研究論文を取り上げて検証していく予定。

授業内容

- 第1回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その1
- 第2回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その2
- 第3回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その3
- 第4回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その4
- 第5回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その5
- 第6回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その6
- 第7回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その7
- 第8回: 修士論文に向けたテーマ発表—その1
- 第9回: 修士論文に向けたテーマ発表—その2
- 第10回: 修士論文に向けたテーマ発表—その3
- 第11回: 修士論文に向けたテーマ発表—その4
- 第12回: 修士論文中間発表—その1
- 第13回: 修士論文中間発表—その2
- 第14回: 論文構想最終発表

※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

日本近代文学関係の学会誌には常に目を通しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に調査しておくこと。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

発表内容(70%)、ディスカッションの貢献度(30%)で評価する。

その他

特になし

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 生方 智子		

授業の概要・到達目標

日本近代文学研究における近年までの研究成果を踏まえ、優れた修士論文を書くために必要な知識と技術を身につけることを目標とする。授業は演習形式で行い、受講者には学会誌「日本近代文学」の掲載論文に関する分析・報告、および、修士論文のテーマの報告や中間発表を求める。また、適宜、最新の研究論文を取り上げて検証していく予定。

授業内容

- 第1回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その1
- 第2回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その2
- 第3回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その3
- 第4回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その4
- 第5回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その5
- 第6回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その6
- 第7回: 「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その7
- 第8回: 修士論文に向けたテーマ発表—その1
- 第9回: 修士論文に向けたテーマ発表—その2
- 第10回: 修士論文に向けたテーマ発表—その3
- 第11回: 修士論文に向けたテーマ発表—その4
- 第12回: 修士論文中間発表—その1
- 第13回: 修士論文中間発表—その2
- 第14回: 論文構想最終発表

※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

日本近代文学関係の学会誌には常に目を通しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に調査しておくこと。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

発表内容(70%)、ディスカッションの貢献度(30%)で評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 生方 智子		

授業の概要・到達目標

日本近代文学研究における近年までの研究成果を踏まえ、優れた修士論文を書くために必要な知識と技術を身につけることを目標とする。授業は演習形式で行い、受講者には学会誌「日本近代文学」の掲載論文に関する分析・報告、および、修士論文のテーマの報告や中間発表を求める。また、適宜、最新の研究論文を取り上げて検証していく予定。

授業内容

- 第1回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その1
- 第2回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その2
- 第3回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その3
- 第4回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その4
- 第5回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その5
- 第6回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その6
- 第7回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その7
- 第8回：修士論文に向けたテーマ発表—その1
- 第9回：修士論文に向けたテーマ発表—その2
- 第10回：修士論文に向けたテーマ発表—その3
- 第11回：修士論文に向けたテーマ発表—その4
- 第12回：修士論文中間発表—その1
- 第13回：修士論文中間発表—その2
- 第14回：論文構想最終発表

※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

日本近代文学関係の学会誌には常に目を通しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に調査しておくこと。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

発表内容(70%)、ディスカッションの貢献度(30%)で評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) LIN532J			
日本文学専攻		備考	
科目名	国語学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 小野 正弘		

授業の概要・到達目標

研究論文の作成ならびに読解・評価の方法を学ぶ。先行研究の内容が理解でき、問題点を指摘できるとともに、無理のない論理展開の論文を作成できるようになることが到達目標となる。

授業内容

演習担当者が、自分の研究分野に関する論文(内容は、語学的な問題を扱ったもの)を1本選び、全体的な内容を報告した後、少しずつ区切りながら説明を行なって、質疑に応じるというスタイルを通して、研究論文を読む際の視点、また、論文執筆上、配慮すべき点を学ぶ。

また、後期課程の院生および前期課程2年による、それぞれの研究テーマに関する、演習時間内の発表を聴講して、積極的な質疑を行なうことにより、発表に対する姿勢や聴き方を学ぶ。

全体として、論文を作成するという点についての意識を高め、修士論文・雑誌論文等を執筆するための基礎力を養うことを目的とする。前期課程1年次配当の演習Aでは、修士論文を作成するための基礎力を養うことに主眼を置く。

1. 研究論文を作成する、とは？(aモジュールで終了)
2. 受講生による論文・研究発表(1—12)
3. まとめ

履修上の注意

国語学専攻以外の専攻生でも、語学的な論文を持ち寄って、多人数の中で共に読むことにより、一人では気づかないようなところも判明することもあろうかと思われるので、積極的な参加を望みたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

1. 過不足のないレジюме(資料)を作成、問題点等をチェックしておく(発表者)。発表者の予告に基づいて関係論文を読んでおく(その他の受講者)。
2. 理解が曖昧な術語・概念については、参考書をもとにして確認しておく。

[復習]

1. 授業中に生まれた問題等について、他の研究論文などをさらに読んでみる。
2. 授業中に出てきた術語・概念等を、後述の辞典等で確認しておく。

教科書

用いない。演習担当者の配布するプリント(資料)、および、教員の適宜配布するプリント(資料)。

参考書

飛田良文他編『日本語学研究事典』(明治書院)
日本語学会編『日本語学大辞典』(東京堂出版)

成績評価の方法

期末レポート1回(60%)と平常点(40%、演習発表：30%および質問等参加状況：10%)で、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) LIN532J			
日本文学専攻	備考		
科目名	国語学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	小野 正弘	

授業の概要・到達目標

研究論文の作成ならびに読解・評価の方法を学ぶ。無理のない論理展開の論文を作成できるようになることが到達目標となる。

授業内容

演習担当者が、自分の研究分野に関する論文（内容は、語学的な問題を扱ったもの）を1本選び、全体的な内容を報告した後、少しずつ区切りながら説明を行なって、質疑に応じるというスタイルを通して、研究論文を読む際の視点、また、論文執筆上、配慮すべき点を学ぶ。

また、後期課程の院生および前期課程2年による、それぞれの研究テーマに関する、演習時間内の発表を聴講して、積極的な質疑を行なうことにより、発表に対する姿勢や聴き方を学ぶ。

全体として、論文を作成するということについての意識を高め、修士論文・雑誌論文等を執筆するための基礎力を養うことを目的とする。前期課程1年次配当の演習Bでは、修士論文作成の構想を立てていくことに主眼を置く。

1. 先行研究をどう読み解くか(aモジュールで終了)
2. 受講生による論文・研究発表(1—12)
3. まとめ

履修上の注意

国語学専攻以外の専攻生でも、語学的な論文を持ち寄って、多人数の中で共に読むことにより、一人では気づかないようなところも判明することもあるかと思われるので、積極的な参加を望みたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

1. 過不足のないレジュメ(資料)を作成、問題点等をチェックしておく(発表者)。発表者の予告に基づいて関係論文を読んでおく(その他の受講者)。
2. 理解が曖昧な術語・概念については、参考書をもとにして確認しておく。

[復習]

1. 授業中に生まれた問題等について、他の研究論文などをさらに読んでみる。
2. 授業中に出てきた術語・概念等を、後述の辞典等で確認しておく。

教科書

用いない。演習担当者の配布するプリント(資料)、および、教員の適宜配布するプリント(資料)。

参考書

飛田良文他編『日本語学研究事典』(明治書院)
日本語学会編『日本語学大辞典』(東京堂出版)

成績評価の方法

期末レポート1回(60%)と平常点(40%、演習発表：30%および質問等参加状況：10%)で、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) LIN632J			
日本文学専攻	備考		
科目名	国語学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	小野 正弘	

授業の概要・到達目標

研究論文の作成ならびに読解・評価の方法を学ぶ。無理のない論理展開の論文を作成できるようになることが到達目標となる。

授業内容

演習担当者が、自分の研究分野に関する論文（内容は、語学的な問題を扱ったもの）を1本選び、全体的な内容を報告した後、少しずつ区切りながら説明を行なって、質疑に応じるというスタイルを通して、研究論文を読む際の視点、また、論文執筆上、配慮すべき点を学ぶ。

また、後期課程の院生および前期課程2年による、それぞれの研究テーマに関する、演習時間内の発表を聴講して、積極的な質疑を行なうことにより、発表に対する姿勢や聴き方を学ぶ。

全体として、論文を作成するということについての意識を高め、修士論文・雑誌論文等を執筆するための基礎力を養うことを目的とする。前期課程2年次配当の演習Cでは、修士論文作成を実際に進めていくことに資することをあわせて目的とする。

1. 先行研究をどう読み解くか(aモジュールで終了)
2. 受講生による論文・研究発表(1—12)
3. まとめ

履修上の注意

国語学専攻以外の専攻生でも、語学的な論文を持ち寄って、多人数の中で共に読むことにより、一人では気づかないようなところも判明することもあるかと思われるので、積極的な参加を望みたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

1. 過不足のないレジュメ(資料)を作成、問題点等をチェックしておく(発表者)。発表者の予告に基づいて関係論文を読んでおく(その他の受講者)。
2. 理解が曖昧な術語・概念については、参考書をもとにして確認しておく。

[復習]

1. 授業中に生まれた問題等について、他の研究論文などをさらに読んでみる。
2. 授業中に出てきた術語・概念等を、後述の辞典等で確認しておく。

教科書

用いない。演習担当者の配布するプリント(資料)、および、教員の適宜配布するプリント(資料)。

参考書

飛田良文他編『日本語学研究事典』(明治書院)
日本語学会編『日本語学大辞典』(東京堂出版)

成績評価の方法

期末レポート1回(60%)と平常点(40%、演習発表：30%および質問等参加状況：10%)で、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) LIN632J			
日本文学専攻		備考	
科目名	国語学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		小野 正弘

授業の概要・到達目標

研究論文の作成ならびに読解・評価の方法を学ぶ。無理のない論理展開の論文を作成できるようになることが到達目標となる。

授業内容

演習担当者が、自分の研究分野に関する論文（内容は、語学的な問題を扱ったもの）を1本選び、全体的な内容を報告した後、少しずつ区切りながら説明を行なって、質疑に応じるというスタイルを通して、研究論文を読む際の視点、また、論文執筆上、配慮すべき点を学ぶ。

また、後期課程の院生および前期課程2年による、それぞれの研究テーマに関する、演習時間内の発表を聴講して、積極的な質疑を行なうことにより、発表に対する姿勢や聴き方を学ぶ。

全体として、論文を作成するということについての意識を高め、修士論文・雑誌論文等を執筆するための基礎力を養うことを目的とする。前期課程2年次配当の演習Dでは、修士論文を完成させる最終チェックを行なうための時間という位置づけを持つ。

1. 先行研究をどう読み解くか(aモジュールで終了)
2. 受講生による論文・研究発表(1—12)
3. まとめ

履修上の注意

国語学専攻以外の専攻生でも、語学的な論文を持ち寄って、多人数の中で共に読むことにより、一人では気づかないようなところも判明することもあるかと思われるので、積極的な参加を望みたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

1. 過不足のないレジュメ(資料)を作成、問題点等をチェックしておく(発表者)。発表者の予告に基づいて関係論文を読んでおく(その他の受講者)。
2. 理解が曖昧な術語・概念については、参考書をもとにして確認しておく。

[復習]

1. 授業中に生まれた問題等について、他の研究論文などをさらに読んでみる。
2. 授業中に出てきた術語・概念等を、後述の辞典等で確認しておく。

教科書

用いない。演習担当者の配布するプリント(資料)、および、教員の適宜配布するプリント(資料)。

参考書

飛田良文他編『日本語学研究事典』(明治書院)
日本語学会編『日本語学大辞典』(東京堂出版)

成績評価の方法

期末レポート1回(70%)と平常点(30%、演習発表および参加状況)を総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT542J			
日本文学専攻		備考	
科目名	漢文学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 甲斐 雄一		

授業の概要・到達目標

『文選』は、中国・梁代に編纂された、詩文をジャンル別に分類したアンソロジーである。中国では官吏任用試験である科挙受験の必読書となり、また日本においても広く流行した、中国古典文学の歴史的展開を考える上で重要な地位を占める書物である。

本授業では、『文選』所収作品を、詩を中心に読んでいく。本文及び注釈(旧注)を対象に、テキストの校勘(日本伝存の旧鈔本・和刻本を含む)を行って訓読・日本語訳を作成し、本文批判を中心とした文献学の知識・技術、訓読を含めた中国古典の文言文テキストの読解力を養成することを身につけることを目標とする。さらに、先行する日本語訳3種を比較することで、解釈が分かれる箇所及びその原因について把握し、文学テキストに対して問いを立てるための着眼点を養うことを目指す。

授業内容

- 第01回：『文選』について—内容・編纂の背景・受容・諸テキスト
 - 第02回：漢文訓読の基礎知識(日本語と漢語・訓点)
 - 第03回：漢文訓導の基礎知識(再読文字・返読文字)
 - 第04回：『文選』所収作品読解1
 - 第05回：『文選』所収作品読解2
 - 第06回：『文選』所収作品読解3
 - 第07回：『文選』所収作品読解4
 - 第08回：『文選』所収作品読解5
 - 第09回：『文選』所収作品読解6
 - 第10回：『文選』所収作品読解7
 - 第11回：『文選』所収作品読解8
 - 第12回：『文選』所収作品読解9
 - 第13回：『文選』所収作品読解10
 - 第14回a:まとめ(五言詩の成立と発展について、詩と典故について)
- *具体的な読解対象は、受講者の専門・関心・リクエストを考慮に入れて決定する。
*一回の読解量は、注釈と併せて半丁(半葉)を目安とする。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を重視する。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表担当者は作品の校勘・訓読・日本語訳と注釈(旧注及び担当者注)を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。その他の参加者も次回読む箇所を予習しておき、授業後不明な・誤読していた箇所は辞書等を使って確認しておくこと。

教科書

なし。

参考書

内田泉之助・網祐次・中島千秋『文選』(新釈漢文大系、明治書院)
小尾郊一著『文選』(全釈漢文大系、集英社)
川合康三等『文選 詩篇』(岩波文庫)
富永一登『文選李善注の研究』(研文出版)
岡村繁『文選の研究』(岩波書店)
清水凱夫『新文選学—『文選』の新研究—』(研文出版)

成績評価の方法

演習発表(55%)、質疑応答における発言(参加態度を含む、45%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhoneアプリ有)。
ジャパンナレッジの大漢和辞典と「本棚」の新釈漢文大系に触れておくことを推奨する。

科目ナンバー：(AL) LIT542J			
日本文学専攻		備考	
科目名	漢文学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 甲斐 雄一		

授業の概要・到達目標

『文選』は、中国・梁代に編纂された、詩文をジャンル別に分類したアンソロジーである。中国では官吏任用試験である科挙受験の必読書となり、また日本においても広く流行した、中国古典文学の歴史的展開を考える上で重要な地位を占める書物である。

本授業では、『文選』巻29所収作品を読む。本文及び注釈(旧注)を対象に、テキストの校勘(日本伝存の旧鈔本・和刻本を含む)を行って訓読・日本語訳を作成し、本文批判を中心とした文献学の知識・技術、訓読を含めた中国古典の文言文テキストの読解力を養成することを身につけることを目標とする。さらに、先行する日本語訳3種を比較することで、解釈が分かれる箇所及びその原因について把握し、文学テキストに対して問いを立てるための着眼点を養うことを目指す。

授業内容

- 第01回a:『文選』李善注について1:李善以前の文選注
 - 第02回:『文選』李善注について2:李善と「文選学」
 - 第03回:張協(張景陽)「雜詩十首」その三 第1-8句読解
 - 第04回:張協(張景陽)「雜詩十首」その三 第9-14句読解
 - 第05回:張協(張景陽)「雜詩十首」その四読解
 - 第06回:張協(張景陽)「雜詩十首」その五 第1-6句読解
 - 第07回:張協(張景陽)「雜詩十首」その五 第7-14句読解
 - 第08回:研究報告会
 - 第09回:張協(張景陽)「雜詩十首」その六 第1-8句読解
 - 第10回:張協(張景陽)「雜詩十首」その六 第9-16句読解
 - 第11回:張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第1-10句読解
 - 第12回:張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第11-16句読解
 - 第13回:張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第17-20句読解
 - 第14回:研究報告会
- *発表担当者数や注釈の多寡に合わせて進行を調整することができる。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を重視する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は作品の校勘・訓読・日本語訳と注釈(旧注及び担当者注)を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。その他の参加者も次回読む箇所を予習しておき、授業後不明な・誤読していた箇所は辞書等を使って確認しておくこと。

教科書

なし。

参考書

- 内田泉之助・網祐次・中島千秋『文選』(新釈漢文大系, 明治書院)
- 小尾郊一著『文選』(全釈漢文大系, 集英社)
- 川合康三等『文選 詩篇』(岩波文庫)
- 岡村繁『文選の研究』(岩波書店)

成績評価の方法

演習発表(55%), 質疑応答における発言(参加態度を含む, 45%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhoneアプリ有)。

科目ナンバー：(AL) LIT642J			
日本文学専攻		備考	
科目名	漢文学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 甲斐 雄一		

授業の概要・到達目標

『文選』は、中国・梁代に編纂された、詩文をジャンル別に分類したアンソロジーである。中国では官吏任用試験である科挙受験の必読書となり、また日本においても広く流行した、中国古典文学の歴史的展開を考える上で重要な地位を占める書物である。

本授業では、『文選』所収作品を、詩を中心に読んでいく。本文及び注釈(旧注)を対象に、テキストの校勘(日本伝存の旧鈔本・和刻本を含む)を行って訓読・日本語訳を作成し、本文批判を中心とした文献学の知識・技術、訓読を含めた中国古典の文言文テキストの読解力を養成することを身につけることを目標とする。さらに、先行する日本語訳3種を比較することで、解釈が分かれる箇所及びその原因について把握し、文学テキストに対して問いを立てるための着眼点を養うことを目指す。

授業内容

- 第01回a:『文選』受容に関して
 - 第02回:『文選』に関する基礎知識
 - 第03回:『文選』所収作品読解1
 - 第04回:『文選』所収作品読解2
 - 第05回:『文選』所収作品読解3
 - 第06回:『文選』所収作品読解4
 - 第07回:『文選』所収作品読解5
 - 第08回:『文選』所収作品読解6
 - 第09回:『文選』所収作品読解7
 - 第10回:『文選』所収作品読解8
 - 第11回:『文選』所収作品読解9
 - 第12回:『文選』所収作品読解10
 - 第13回:『文選』所収作品読解11
 - 第14回:『文選』所収作品読解12
- *具体的な読解対象は、受講者の専門・関心・リクエストを考慮に入れて決定する。
- *一回の読解量は、注釈と併せて半丁(半葉)を目安とする。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を重視する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は作品の校勘・訓読・日本語訳と注釈(旧注及び担当者注)を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。その他の参加者も次回読む箇所を予習しておき、授業後不明な・誤読していた箇所は辞書等を使って確認しておくこと。

教科書

なし。

参考書

- 内田泉之助・網祐次・中島千秋『文選』(新釈漢文大系, 明治書院)
- 小尾郊一著『文選』(全釈漢文大系, 集英社)
- 川合康三等『文選 詩篇』(岩波文庫)
- 富永一登『文選李善注の研究』(研文出版)
- 岡村繁『文選の研究』(岩波書店)
- 清水凱夫『新文選学—『文選』の新研究—』(研文出版)

成績評価の方法

演習発表(55%), 質疑応答における発言(参加態度を含む, 45%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhoneアプリ有)。
ジャパンナレッジの大漢和辞典と「本棚」の新釈漢文大系に触れておくことを推奨する。

科目ナンバー：(AL) LIT642J			
日本文学専攻		備考	
科目名	漢文学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 甲斐 雄一		

授業の概要・到達目標

『文選』は、中国・梁代に編纂された、詩文をジャンル別に分類したアンソロジーである。中国では官吏任用試験である科挙受験の必読書となり、また日本においても広く流行した。中国古典文学の歴史的展開を考える上で重要な地位を占める書物である。

本授業では、『文選』巻29所収作品を読む。本文及び注釈(旧注)を対象に、テキストの校勘(日本伝存の旧鈔本・和刻本を含む)を行って訓読・日本語訳を作成し、本文批判を中心とした文献学の知識・技術、訓読を含めた中国古典の文言文テキストの読解力を養成することを身につけることを目標とする。さらに、先行する日本語訳3種を比較することで、解釈が分かれる箇所及びその原因について把握し、文学テキストに対して問いを立てるための着眼点を養うことを目指す。

授業内容

- 第01回 a:『文選』李善注について1:李善以前の文選注
 - 第02回:『文選』李善注について2:李善と「文選学」
 - 第03回:張協(張景陽)「雜詩十首」その三 第1-8句読解
 - 第04回:張協(張景陽)「雜詩十首」その三 第9-14句読解
 - 第05回:張協(張景陽)「雜詩十首」その四読解
 - 第06回:張協(張景陽)「雜詩十首」その五 第1-6句読解
 - 第07回:張協(張景陽)「雜詩十首」その五 第7-14句読解
 - 第08回:研究報告会
 - 第09回:張協(張景陽)「雜詩十首」その六 第1-8句読解
 - 第10回:張協(張景陽)「雜詩十首」その六 第9-16句読解
 - 第11回:張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第1-10句読解
 - 第12回:張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第11-16句読解
 - 第13回:張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第17-20句読解
 - 第14回:研究報告会
- * 発表担当者数や注釈の多寡に合わせて進行を調整することがある。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を重視する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は作品の校勘・訓読・日本語訳と注釈(旧注及び担当者注)を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。その他の参加者も次回読む箇所を予習しておき、授業後不明な・誤読していた箇所は辞書等を使って確認しておくこと。

教科書

なし。

参考書

- 内田泉之助・網祐次・中島千秋『文選』(新釈漢文大系, 明治書院)
- 小尾郊一著『文選』(全釈漢文大系, 集英社)
- 川合康三等『文選 詩篇』(岩波文庫)
- 岡村繁『文選の研究』(岩波書店)

成績評価の方法

演習発表(55%), 質疑応答における発言(参加態度を含む, 45%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhoneアプリ有)。

科目ナンバー：(AL) CUL521J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文化学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 郭 南燕		

授業の概要・到達目標

「日本文化に与えた西洋の影響」をテーマとする。古代から現在まで、日本文化は常に海外からの影響を受けてきている。日本文化に対する理解は、アジア、欧州、アメリカ大陸などからの影響を無視しては、得られないものである。本演習は、日本の言語、文学、社会、宗教におけるキリスト教の役割に焦点を当て、日本文化の多層的様相を見詰め、詳しく考察する。主な課題は、①西洋人の日本語研究；②南蛮文化の展開；③宣教師の文化的貢献、である。指定教科書を読み通し、授業で議論を重ねて、期末レポートにおいて、研究成果をまとめる。

授業内容

- 第1回 テーマと課題、履修の心得、発表と論文執筆の方法を紹介。ザビエルの日本語能力の検討
- 第2回 西洋人の日本語研究(キリシタン世紀)
- 第3回 西洋人の日本語研究(ロシア)
- 第4回 西洋人の日本語研究(オランダ)
- 第5回 西洋人の日本語研究(東洋学者)
- 第6回 西洋人の日本語研究(幕末の宣教師)
- 第7回 南蛮文化の展開(キリシタン文学1)
- 第8回 南蛮文化の展開(キリシタン文学2)
- 第9回 南蛮文化の展開(キリシタン文学3)
- 第10回 宣教師の文化的貢献(聖書の翻訳と日本語1)
- 第11回 宣教師の文化的貢献(聖書の翻訳と日本語2)
- 第12回 宣教師の文化的貢献(日本語著述1)
- 第13回 宣教師の文化的貢献(日本語著述2)
- 第14回 最終発表と総括

履修上の注意

配布資料と指定教科書の熟読を前提とし、参考書を利用し、関連文献の調査方法を学び、研究内容を発表し、討論を行い、理解を深め、期末レポートを書き、最終発表をする。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定教科書を熟読し、関連文献を独自で調べ、教員と相談し、有意義な研究テーマを見つける。

教科書

- ①杉本つとむ『西洋人の日本語発見』(講談社、2008年)
- ②海老沢有道『キリシタン南蛮文学入門』(教文館、1991年)
- ③鈴木範久『聖書の日本語』(岩波書店、2006)
- ④郭南燕『ザビエルの夢を紡ぐ』(平凡社、2018年)

授業開始までに、各自で購入する(書店かネット)。

参考書

- ①海老沢有道『南蛮文化 日欧文化交渉』(至文堂、1958)
- ②豊島正之『キリシタンと出版』(八木書店、2013)

成績評価の方法

授業参加：50%、最終発表：20%、期末レポート(6,000字前後)：30%
 期末レポートの提出メ切:2024年7月16日(火曜)、20:00。

その他

科目ナンバー：(AL) CUL521J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文化学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 郭 南燕		

授業の概要・到達目標

「外国人の日本観察（中世から近現代へ）」をテーマとする。日本は長らく、来日外国人に観察され、記録されてきた国である。他者の目に映った日本は、日本人にとって客観的で、驚異的である一方、はたして何を射たものかどうかわかるとされる部分もある。本演習は、日本語に堪能で、日本人と頻りに交流し、日本社会と深く関わっている知識人である宣教師の著述を取り上げて、日本文化がどのように理解されているのかを検討し、異文化交流の核心に迫る。

授業内容

- 第1回 演習テーマの紹介、履修の心得、発表の方法、論文執筆の方法 16世紀の日本観察(F.ザビエル) 1
- 第2回 16世紀の日本観察(F.ザビエル) 2
- 第3回 16世紀の日本観察(F.ザビエル) 3
- 第4回 16世紀の日本観察(A.ヴァリニャーノ) 1
- 第5回 16-17世紀の日本観察(A.ヴァリニャーノ) 2
- 第6回 19世紀の日本観察(J.ロドリゲス) 1
- 第7回 1950年代の日本観察(J.ロドリゲス) 2
- 第8回 1950年代の日本観察(J.ロドリゲス) 3
- 第9回 1950-70年代の日本観察(F.リギョール)
- 第10回 1950-90年代の日本観察(S.カンドウ) 1
- 第11回 1970-80年代の日本観察(S.カンドウ) 2
- 第12回 1970-1990年代の日本観察(H.ホイヴェルス) 1
- 第13回 1960-1990年代の日本観察(H.ホイヴェルス) 2
- 第14回 最終発表と総括

履修上の注意

配布資料の熟読を前提とし、参考書を利用し、関連文献の調査方法を学び、研究内容を発表し、討論を行い、理解を深め、期末レポートを書き、最終発表をする。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料を熟読し、関連文献を独自で調べ、教員と相談し、有意義な研究テーマを見つける。

教科書

主に配布資料を用いる。

参考書

- ① 松田毅一『南蛮のバテレン』（朝文社、1993年）
- ② キリスト教史学会編『宣教師と日本人』（教文館、2012年）
- ③ 郭南燕編『宣教師の日本語文学 研究と目録』（勉誠出版、2023年）

課題に対するフィードバックの方法

- 1、発表に対して、教員がコメントする。
- 2、期末レポートに対して、詳細なコメントを記入してから、学生に返却する。

成績評価の方法

授業参加：50%、最終発表：20%、期末レポート(6,000字前後)：30%
 期末レポートの提出メ切：2025年1月14日(火曜) 20:00

その他

科目ナンバー：(AL) CUL522J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文化学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 郭 南燕		

授業の概要・到達目標

「日本文化に与えた西洋の影響」をテーマとする。古代から現在まで、日本文化は常に海外からの影響を受けてきている。日本文化に対する理解は、アジア、欧州、アメリカ大陸などからの影響を無視しては、得られないものである。本演習は、日本の言語、文学、社会、宗教におけるキリスト教の役割に焦点を当て、日本文化の多層的様相を見詰め、詳しく考察する。主な課題は、①西洋人の日本語研究；②南蛮文化の展開；③宣教師の文化的貢献、である。指定教科書を読み通し、授業で議論を重ねて、期末レポートにおいて、研究成果をまとめる。

授業内容

- 第1回 テーマと課題、履修の心得、発表と論文執筆の方法を紹介。ザビエルの日本語能力の検討
- 第2回 西洋人の日本語研究(キリシタン世紀)
- 第3回 西洋人の日本語研究(ロシア)
- 第4回 西洋人の日本語研究(オランダ)
- 第5回 西洋人の日本語研究(東洋学者)
- 第6回 西洋人の日本語研究(幕末の宣教師)
- 第7回 南蛮文化の展開(キリシタン文学1)
- 第8回 南蛮文化の展開(キリシタン文学2)
- 第9回 南蛮文化の展開(キリシタン文学3)
- 第10回 宣教師の文化的貢献(聖書の翻訳と日本語1)
- 第11回 宣教師の文化的貢献(聖書の翻訳と日本語2)
- 第12回 宣教師の文化的貢献(日本語著述1)
- 第13回 宣教師の文化的貢献(日本語著述2)
- 第14回 最終発表と総括

履修上の注意

配布資料と指定教科書の熟読を前提とし、参考書を利用し、関連文献の調査方法を学び、研究内容を発表し、討論を行い、理解を深め、期末レポートを書き、最終発表をする。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定教科書を熟読し、関連文献を独自で調べ、教員と相談し、有意義な研究テーマを見つける。

教科書

- ① 杉本つとむ『西洋人の日本語発見』（講談社、2008年）
 - ② 海老沢有道『キリシタン南蛮文学入門』（教文館、1991年）
 - ③ 鈴木範久『聖書の日本語』（岩波書店、2006）
 - ④ 郭南燕『ザビエルの夢を紡ぐ』（平凡社、2018年）
- 授業開始までに、各自で購入する(書店かネット)。

参考書

- ① 海老沢有道『南蛮文化 日欧文化交渉』（至文堂、1958）
- ② 豊島正之『キリシタンと出版』（八木書店、2013）

課題に対するフィードバックの方法

- 1、発表に対して、教員がコメントする。
- 2、期末レポートに対して、詳細なコメントを記入してから、学生に返却する。

成績評価の方法

授業参加：50%、最終発表：20%、期末レポート(6,000字前後)：30%
 期末レポートの提出メ切：2024年7月16日(火曜)、20:00。

その他

科目ナンバー：(AL) CUL522J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 郭 南燕		

授業の概要・到達目標

「外国人の日本観察（中世から近現代へ）」をテーマとする。日本は長らく、来日外国人に観察され、記録されてきた国である。他者の目に映った日本は、日本人にとって客観的で、驚異的である一方、はたして射たものかどうかと思われる部分もある。本演習は、日本語に堪能で、日本人と頻りに交流し、日本社会と深く関わっている知識人である宣教師の著述を取り上げて、日本文化がどのように理解されているのかを検討し、異文化交流の核心に迫る。

授業内容

- 第1回 演習テーマの紹介、履修の心得、発表の方法、論文執筆の方法 16世紀の日本観察(F.ザビエル) 1
- 第2回 16世紀の日本観察(F.ザビエル) 2
- 第3回 16世紀の日本観察(F.ザビエル) 3
- 第4回 16世紀の日本観察(A.ヴァリニャーノ) 1
- 第5回 16-17世紀の日本観察(A.ヴァリニャーノ) 2
- 第6回 19世紀の日本観察(J.ロドリゲス) 1
- 第7回 1950年代の日本観察(J.ロドリゲス) 2
- 第8回 1950年代の日本観察(J.ロドリゲス) 3
- 第9回 1950-70年代の日本観察(F.リギョール)
- 第10回 1950-90年代の日本観察(S.カンドウ) 1
- 第11回 1970-80年代の日本観察(S.カンドウ) 2
- 第12回 1970-1990年代の日本観察(H.ホイヴェルス) 1
- 第13回 1960-1990年代の日本観察(H.ホイヴェルス) 2
- 第14回 最終発表と総括

履修上の注意

配布資料の熟読を前提とし、参考書を利用し、関連文献の調査方法を学び、研究内容を発表し、討論を行い、理解を深め、期末レポートを書き、最終発表をする。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料を熟読し、関連文献を独自で調べ、教員と相談し、有意義な研究テーマを見つける。

教科書

主に配布資料を用いる。

参考書

- ① 松田毅一『南蛮のバテレン』（朝文社、1993年）
- ② キリスト教史学会編『宣教師と日本人』（教文館、2012年）
- ③ 郭南燕編『宣教師の日本語文学 研究と目録』（勉誠出版、2023年）

課題に対するフィードバックの方法

- 1、発表に対して、教員がコメントする。
- 2、期末レポートに対して、詳細なコメントを記入してから、学生に返却する。

成績評価の方法

授業参加：50%、最終発表：20%、期末レポート(6,000字前後)：30%
 期末レポートの提出メ切：2025年1月14日(火曜) 20:00

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本古代文学特論IA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 山崎 健司		

授業の概要・到達目標

萬葉歌人研究 大伴家持とその周辺
 本年度は歌人としての大伴家持と、かれを取り巻く人びとについて、作品を通じた考察を展開する。
 萬葉集中に最多の歌をのこす大伴家持は、さまざまな人物との交流の軌跡も歌によって示す。萬葉集の時間の流れに沿った配列を押さえ、作品同士の関係性を分析することによって、ことばを通じた人間関係を浮かび上がらせることが可能である。具体的には、のちに妻となる大伴坂上大嬢との結婚前のやりとりと、越中時代における大伴池主とのやりとりを取り上げて、作品にこめられたメッセージを丁寧に読み取りつつ、それぞれの人物像を明らかにしていきたい。

この授業では、研究の基礎となる文献学を理解し、先行研究の取り扱い方、ことばに即してテキストを読解する方法、具体的な調査分析の仕方を身につけることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回a 本授業の目標と進め方について
- 第2回 大伴家持の作歌活動概観
- 第3回 家持と坂上大嬢(1) 出合い
- 第4回 家持と坂上大嬢(2) 離絶数年以降(1)
- 第5回 家持と坂上大嬢(3) 離絶数年以降(2)
- 第6回 家持と坂上大嬢(4) 越中時代
- 第7回 家持と女性
- 第8回 家持と池主(1) 越中以前
- 第9回 家持と池主(2) 天平十八年
- 第10回 家持と池主(3) 天平十九年(1)
- 第11回 家持と池主(4) 天平十九年(2)
- 第12回 家持と池主(5) 天平二十年以降
- 第13回 家持と越中時代の人びと
- 第14回 まとめ

履修上の注意

文学部の「日本文学講義IIA」と合同の授業である。
 第1回～第7回は山崎による講義。
 第8回以降、院生が各テーマについて調査結果を授業の中で報告していく。

準備学習（予習・復習等）の内容

【予習】
 (学部生) 同じテーマを扱う後の回の授業の前には、必ず前の回の授業内容を振り返っておくこと。
 (院生) のテーマについての調査を行い、報告に向けての準備をすること。
 【復習】
 授業後にOh-ol Meijiのクラスウェブを利用して考えたことを書くことによって、次の回の予習につなげていく。

教科書

佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著『補訂版 萬葉集本文篇』（塙書房）
 坂本信幸・毛利正守編『万葉事始』（和泉書院）
 また、プリントによる補助資料を随時配布する。

参考書

山崎健司『大伴家持の歌群と編纂』（塙書房）
 芳賀紀雄『萬葉集における中国文学の受容』（塙書房）
 その他、授業の中で随時紹介する予定。

成績評価の方法

レポート(50%)、授業中の発言内容(25%)、授業後のリアクション(25%)により評価。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本古代文学特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(文学) 湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

江戸中期の有職故実家である岡山藩士・土肥経平の『深山桜』(写本)を読む。『深山桜』(宝暦六年/1756)は、経平が京都から、郷里である岡山に帰る際、有馬に遊んだ時のことを記した紀行文である。

その道中で経平は、歌枕や文学・歴史にまつわる地をたずね、遠くいにしえに思いを馳せている。そのありようを読み解くことで、現代の「古代文学研究」について問い直す。

授業内容

- 第1回：『深山桜』の概説1
- 第2回：『深山桜』の概説2
- 第3回：『深山桜』の読解と報告1
- 第4回：『深山桜』の読解と報告2
- 第5回：『深山桜』の読解と報告3
- 第6回：『深山桜』の読解と報告4
- 第7回：『深山桜』の読解と報告5
- 第8回：『深山桜』の読解と報告6
- 第9回：『深山桜』の読解と報告7
- 第10回：『深山桜』の読解と報告8
- 第11回：『深山桜』の読解と報告9
- 第12回：『深山桜』の読解と報告10
- 第13回：『深山桜』の読解と報告11
- 第14回：まとめ

履修上の注意

履修する場合(聴講の場合も同様)、担当教員が認めた特別な理由を除き、講義回数数の三分の一以上遅刻・欠席した場合、それ以降の出席を認めないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に次回担当範囲の本文を読んでおくこと。

教科書

テキストのコピーを配布する。

参考書

授業時に指示する。

成績評価の方法

こちらから指示した小報告(1回以上)・学期末のレポート80%、授業時の質疑20%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本中世文学特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 牧野 淳司		

授業の概要・到達目標

授業の概要

日本古典文学と仏教との関係性について考える。
日本古典文学を理解するためには仏教について知る必要がある。「文学」と「仏教」とを切り離すのではなく、仏教と出会うことで文学がどのような性質を獲得したか、仏教によりどのような文学の可能性が開けたのかを追究する。中世文学を中心に扱うが、平安時代からの流れも重視する。仏教については、最澄・空海・安然・源信・法然・親鸞・道元ら先徳祖師の思想ばかりでなく、唱導説経(仏の教えを広く説くこと)の場にも注目する。文学との関係性が深いのは、むしろ後者であると考えられるからである。

到達目標

日本中世の文学が仏教と出会うことで獲得した性質を理解する。
日本古代中世における仏教のあり方について理解を深める。
日本中世に盛んであった唱導説経とその資料に触れ、その文化について知る。

授業内容

- (1)日本仏教研究について
- (2)日本の唱導説経資料
- (3)法華経とその説経
- (4)譬喩・因縁・物語
- (5)和歌と仏教
- (6)歌論における仏教
- (7)寺社の芸能
- (8)勸進の場と芸能
- (9)宗教劇としての能
- (10)寺院における和歌
- (11)寺院における学問
- (12)儀礼への注目
- (13)注釈の諸相
- (14)古代中世文学史の課題

履修上の注意

講義内容に関連する事柄について、積極的な調査と報告を求めらる。

準備学習(予習・復習等)の内容

扱うテキスト・資料を事前に読むこと。
講義に関連する事柄についての調査と報告。

教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書

参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

レポートの講評をOh-ol Meijiに掲示する。

成績評価の方法

授業への参加度(調査報告、問題提起など)60% レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近世文学特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 杉田 昌彦		

授業の概要・到達目標

曲亭馬琴作・萩原広道補作の『開卷驚奇侠客伝』を、輪読を中心とする形式で読み進めていく。

各自の発表担当箇所については、精密な現代語訳ができることを目標とする。

その中から、馬琴の稗史創作の到達点を探るとともに、広道に受け継がれたものを浮き彫りにすることを試みたい。

※受講状況等によって、授業内容および対象作品を大きく変更することもあり得る。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：曲亭馬琴についてⅠ
- 第3回：曲亭馬琴についてⅡ
- 第4回：萩原広道についてⅠ
- 第5回：萩原広道についてⅡ
- 第6回：『開卷驚奇侠客伝』についてⅠ
- 第7回：『開卷驚奇侠客伝』についてⅡ
- 第8回：『開卷驚奇侠客伝』輪読①
- 第9回：『開卷驚奇侠客伝』輪読②
- 第10回：『開卷驚奇侠客伝』輪読③
- 第11回：『開卷驚奇侠客伝』輪読④
- 第12回：『開卷驚奇侠客伝』輪読⑤
- 第13回：『開卷驚奇侠客伝』輪読⑥
- 第14回：『開卷驚奇侠客伝』輪読⑦

履修上の注意

日本古典文学、とりわけ近世文学を学ぶことに情熱のある学生の参加を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

輪読形式をとるので、発表者はもちろん、それ以外の学生も各自輪読担当箇所の予習を十分に行って授業に臨むこと。

発表担当者は、担当箇所の精密な現代語訳を発表までに必ず作成して授業に臨むこと。

教科書

新日本古典文学大系87『開卷驚奇侠客伝』（岩波書店）を使用する予定。

参考書

授業時に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にて適宜指示する。

成績評価の方法

レポートなどを適宜課すことにより努力度・理解度・習熟度などを基準とする評価(70%)を行うとともに、授業時の学習態度なども評価の対象(30%)とする。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学特論ⅠA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 竹内 栄美子		

授業の概要・到達目標

戦後文化運動と雑誌メディアをテーマとする。1945年の敗戦を契機として、日本の各地に展開したさまざまな文化運動のなかには、戦時翼賛文化から継続しているものもあれば、戦前のプロレタリア文化の復活を意図したものもあった。文化はそのときどきの政治体制や政治意識と結びつく場合が多いが、敗戦を一区切りとして民主主義、平和思想、人権思想を掲げた文化運動が広範な広がりを見せたことは否定できない。本講義では、中野重治や花田清輝らの「新日本文学」、平野謙や本多秋五らの「近代文学」、秋山清や小野十三郎らの「コスモス」を取り上げて1940年代後半からの戦後文学の諸相を考察する。中国との関係において戦争責任問題を、朝鮮との関係において植民地問題をそれぞれ検討し、これまで宮本百合子『播州平野』、佐多稲子『私の東京地図』、石牟礼道子『苦海浄土』、堀田善衛『時間』『若き日の詩人たちの肖像』などを読んできたが、現在は黒川創編『(外地)の日本語文学選』の「朝鮮」「満州」の巻に取り組んでいる。

文化運動や戦後思想の観点から日本近代文学をより深く学ぶことを目的とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「新日本文学」1
- 第3回 「新日本文学」2
- 第4回 「新日本文学」3
- 第5回 「新日本文学」4
- 第6回 「新日本文学」5
- 第7回 「近代文学」1
- 第8回 「近代文学」2
- 第9回 「近代文学」3
- 第10回 「近代文学」4
- 第11回 「コスモス」1
- 第12回 「コスモス」2
- 第13回 「コスモス」3
- 第14回 「コスモス」4

*学習効果を高めるために、授業内容を適宜変更する場合がある。

履修上の注意

文学史的な背景を把握しておいてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前学習として、授業で扱う文献の専門用語や社会的背景について調べておくこと。事後学習として、授業で扱った内容の関連書籍を読むこと。

教科書

使用しない。

参考書

『物語戦後文学史』本多秋五(岩波書店・同時代ライブラリー)、栗原幸夫『未来形の過去から』(インパクト出版会)、赤澤史朗・北河賢三・黒川みどり編『戦後知識人と民衆観』(影書房)、宇野田尚哉・川口隆行・坂口博・鳥羽耕史・中谷いずみ・道場親信編『「サークルの時代」を読む 戦後文化運動研究への招待』(影書房)、竹内栄美子『中野重治と戦後文化運動 デモクラシーのために』(論創社)、竹内栄美子編『コレクション戦後詩誌9 大衆とサークル誌』(ゆまに書房)、竹内栄美子・丸山珪一編『中野重治・堀田善衛往復書簡1953-1979』(影書房)、竹内栄美子編『新編日本女性文学全集』第9巻(六花出版)、牧原憲夫『牧原憲夫著作選集』上下巻(有志舎)、黒川創編『(外地)の日本語文学選』(新宿書房)など。

成績評価の方法

期末レポートおよび授業中の提出物などによる。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近代文学特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

田村隆一(1923 - 1998)の詩、詩論、日記、エッセイ等を読む。田村は、戦後詩を代表する詩人として後進に多大な影響を与え、英・仏語などへの翻訳も多く、現在まで高い関心を寄せられている。とりわけ、旧約聖書の洪水神話と第二次世界大戦の経験とを重ね合わせた『四千の日と夜』(1956)は戦後詩の記念碑的詩集であるが、体系的な考察ははまだ尽くされていないと言えよう。生涯を通じて詩風の変化の幅も大きく、書誌整備も含めた本格的な研究はこれからの課題であると言えよう。

本授業では、まずは田村の詩篇に向き合いつつ、その時々々の詩論や評論、エッセイ、日記その他のテキストを総合的に検証して、そこから新たに見えてくる問題を探りたい。

授業内容

- 第1回：概説・導入
 - 第2回：田村隆一論の現在(1)
 - 第3回：田村隆一論の現在(2)
 - 第4回：レビュー【1】
 - 第5回：田村隆一『四千の日と夜』を読む(1)
 - 第6回：田村隆一『四千の日と夜』を読む(2)
 - 第7回：田村隆一『四千の日と夜』を読む(3)
 - 第8回：田村隆一『四千の日と夜』を読む(4)
 - 第9回：レビュー【2】
 - 第10回：田村隆一『言葉のない世界』を読む(1)
 - 第11回：田村隆一『言葉のない世界』を読む(2)
 - 第12回：田村隆一『言葉のない世界』を読む(3)
 - 第13回：レビュー【3】
 - 第14回：まとめ
- ※履修人数や進捗状況に応じて計画を変更する場合があります。

履修上の注意

授業内で局所的に取り上げた資料や文献についても、各自で積極的に全体を読んで把握に努めてほしい。また授業の双方向的な進行のため、履修者にはそれぞれ塚本に關係するテキストのうち興味のあるものをとりあげ、授業内で発表・報告する作業を求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業ごとに指定された文献や資料がある場合はあらかじめ読み込んでくること。また、当該の授業内で扱った話題や情報について、理解が不十分な箇所がある場合は文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

『田村隆一全集 全6冊』(河出書房新社、2010~2011)、『田村隆一：20世紀詩人の肖像』(河出書房新社2010)、『現代詩読本・特装版 田村隆一』(思潮社2000)など。その他、各回の授業時に必要に応じて指示する。

成績評価の方法

期末レポート50%、平常点50%で評価する。平常点は、出席状況、授業内の提出物、授業への参加姿勢によって総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近代文学特論ⅢA		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	生方	智子

授業の概要・到達目標

さまざまな文学理論、批評理論を学ぶことを通して、今日、文学作品を読むためにどのような方法が可能であるのか、また、新たな批評的枠組みを踏まえることで、文学作品の読みがどのように変化するかを探求する。授業では、文学作品を分析的に読むことを通して、受講者が理論的で緻密な読解力をつけることを目標とする。今学期は、主に現代日本の文学作品を取り上げ、グローバル化する世界の中で現代日本文学がどのような特徴を備えることになったかを検証する。

授業内容

- 第1回：近代という枠組みについて
- 第2回：テキスト読解の方法(1)
- 第3回：テキスト読解の方法(2)
- 第4回：テキスト読解の方法(3)
- 第5回：テキスト読解の方法(4)
- 第6回：テキスト読解の方法(5)
- 第7回：テキスト読解の方法(6)
- 第8回：テキスト読解の方法(7)
- 第9回：テキスト読解の方法(8)
- 第10回：テキスト読解の方法(9)
- 第11回：テキスト読解の方法(10)
- 第12回：テキスト読解の方法(11)
- 第13回：テキスト読解の方法(12)
- 第14回：総まとめと振り返り

履修上の注意

先行研究や文学理論・現代思想に関する文献を積極的にリサーチすること、方法論の意識を持って文学作品を読むことを求める。取り上げる理論書や文学作品については、適宜授業時に指示する。

準備学習(予習・復習等)の内容

今回の授業範囲について、事前に調査しておくこと。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に使用しない。

参考書

大橋洋一『新文学入門』(岩波書店)、ジョナサン・カラー『文学理論』(岩波書店)ほか、必要に応じて授業時に指示する。

成績評価の方法

授業の議論への貢献度(70%)に加え、授業の最終回に文学作品の理論的読解を行ったレポートを求める(30%)。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) LIN531J			
日本文学専攻	備考		
科目名	国語学特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	小野 正弘	

授業の概要・到達目標

テーマ：翻訳作品のオノマトペ
 翻訳作品における、訳語オノマトペと、その原文（原語）との関係を調査して、整理し、データベース化する。

授業内容

前年度に引き続き、アガサ・クリスティーの『スリーピング・マーダー』における、訳語としてのオノマトペについて、原文、ならびに原語との対応を調査考察して、Excelファイルにまとめ、それを利用して、オノマトペ翻訳の方法を追究していく。もし期間内に終わった場合は、別のものを追加する予定である。

1. 翻訳とオノマトペ[aモジュール]
2. 『スリーピング・マーダー』のオノマトペとその採取法
3. 受講生による、調査・分析報告(1-11)
4. 全体のまとめ—翻訳にとってオノマトペとは何か—

履修上の注意

語学的な方法を中心とはするが、表現論的な問題も考慮していくので、他専修・他専攻からの参加も大いに歓迎したい。

準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

1. 翻訳書ならびに原文の全体を通読して、話の流れを把握しておく。
2. 次回範囲を通読して、オノマトペによる訳語と原語との対応をチェックする。

[復習]

1. 授業中に生まれた問題等について、他の研究論文などをさらに読んでみる。
2. 授業で問題になった術語・概念について、後述の辞書等によって再確認する。

教科書

アガサ・クリスティー／綾川梓訳『スリーピング・マーダー』（ハヤカワ文庫）
 Agatha Christie, *Sleeping Murder*, 1976
 上記を、各自、適宜入手しておくこと

参考書

亀井孝他編『言語学大辞典』（三省堂）
 飛田良文他編『日本語学研究事典』（明治書院）
 日本語学会編『日本語学大辞典』（東京堂出版）

成績評価の方法

期末レポート1回(70%)と平常点(30%、演習発表および質問等の参加状況)を総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) CUL522J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特論B		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(人文科学) 郭 南燕	

授業の概要・到達目標

本講義は、「日本の文学と映画におけるキリスト教のイメージ」をテーマとして、近代文学の名作6本にあるキリスト教の概念が、映画やテレビドラマでどのように造形され、幅広い聴衆層を獲得し、日本社会にキリスト教の精神を定着させたのかを考える。本講義を通して、日本文化とキリスト教との深い関係を理解することを目的とする。

授業内容

- 第1回 遠藤周作の小説『わたしが・棄てた・女』(1964)を読む。
- 第2回 映画『わたしが・棄てた・女』(1969)を見る。
- 第3回 映画『愛する』(1997)を観る。
- 第4回 遠藤周作の小説『沈黙』(1966)を読む。
- 第5回 映画『沈黙』(1971)を観る。
- 第6回 映画『サイレンス』(2017)を観る。
- 第7回 三浦綾子の小説『塩狩峠』(1968)を読む。
- 第8回 映画『塩狩峠』(1973)を観る。
- 第9回 三浦綾子の小説『細川ガラシャ夫人』(1975)を読む。
- 第10回 ガラシャが登場するNHK大河ドラマを観る。
- 第11回 今東光の小説『お吟さま』(1957)を読む。
- 第12回 加賀乙彦の小説『高山右近』(1999)を読む。
- 第13回 映画『お吟さま』(1962)を観る。
- 第14回 期末レポートについて発表する。

履修上の注意

指定作品(小説6本)の熟読と映画・テレビドラマの鑑賞を前提とし、参考書を利用し、キリスト教の概念がいかに視覚化されたのかを、細かく観察することが要求される。関連文献の調査方法を学び、研究内容を発表し、討論を行い、理解を深め、期末レポートを書く。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定作品を熟読し、関連文献を独自で調べ、教員と相談し、有意義な研究テーマを見つける。

教科書

- 1) 遠藤周作『わたしが・棄てた・女』
- 2) 遠藤周作『沈黙』
- 3) 三浦綾子『塩狩峠』
- 4) 三浦綾子『細川ガラシャ夫人』
- 5) 今東光『お吟さま』
- 6) 加賀乙彦『高山右近』

参考書

池田敏雄『人物中心の日本カトリック史』（サンパウロ、1998）
 『キリスト教文化事典』（丸善出版、2022）
 長濱拓磨『戦後文学と聖書』（かんよう出版、2022）

課題に対するフィードバックの方法

教員は、期末レポートの口頭発表に対してコメントし、レポートに詳細な意見を書く。

成績評価の方法

授業参加:50%、
 期末レポート(6,000字前後):40%、
 期末レポートの口頭発表:10%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT541J			
日本文学専攻		備考	
科目名	漢文学特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(文学) 甲斐 雄一		

授業の概要・到達目標

漢文訓読と翻訳

中国古典の訳注書、例えば明治書院の新釈漢文大系を開いてみれば、白文(あるいは返り点が入った訓読文)・書き下し文・通釈が記されている。漢文訓読が翻訳の一スタイルである、という観点からこれを見れば、原文(古典中国語)・文語訳・口語訳と言い換えることができるだろう。本講義では、複数の訳注書(あるいは日本の古典に引用されたもの)を比較していくことで、古典中国語(文言文)から日本語への翻訳という営みを捉え、翻訳としての訓読について考察していくことを目的とする。また日本語で論文を執筆する際に、訳注書をどう活用すべきかについても考えてみたい。

授業内容

第01回：翻訳としての漢文訓読1

第02回：翻訳としての漢文訓読2

第03回：訳注書比較1

第04回：訳注書比較2

第05回：訳注書比較3

第06回：訳注書比較4

第07回：訳注書比較5

第08回：訳注書比較6

第09回：訳注書比較7

第10回：訳注書比較8

第11回：訳注書比較9

第13回：訳注書比較10

第14回a: まとめ b: 期末試験

(注) 訳注書の比較については、今期は、前半は杜甫、後半は李白を対象とする予定。

履修上の注意

講義形式の授業ではあるが、演習同様に積極的な質問・意見の提出を望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

漢文訓読については、参考書に挙げている諸書を読んでおくことよ。

また、訳注書比較で扱う作品についてのリクエストも歓迎する。

教科書

なし。

参考書

古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』(明治書院、2011年)

中川論『漢文を基礎から学ぶ』(東方書店、2023年)

他、授業中に適宜紹介する。

成績評価の方法

期末試験(55%)、毎回の授業における質問・意見などの発言(参加態度を含む、45%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhoneアプリ有)。

ジャパナレッジの大漢和辞典と「本棚」の新釈漢文大系に触れておくことを推奨する。

科目ナンバー：(AL) ART531J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本演劇特論I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(文学)	矢内 賢二

授業の概要・到達目標

河竹黙阿弥の作品を中心に、幕末・明治期の歌舞伎台帳や合巻を演習形式で輪読する。

各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。

時代背景、先行作品、社会風俗、役者・観客・興行・作者の事情等、様々な要素が編み込まれた複雑な構築物として作品をとらえ、先行研究はもとより、同時代の錦絵・写真・新聞・雑誌・文芸作品等、多様な資料を駆使して報告を行ってみたい。

各自の得意分野を生かした自由な視点からの発表を期待する。

取り上げる作品については初回に相談のうえ決定したい。

演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：作者と作品に関する基礎知識

第3回：講読(1)

第4回：講読(2)

第5回：講読(3)

第6回：講読(4)

第7回：講読(5)

第8回：講読(6)

第9回：講読(7)

第10回：講読(8)

第11回：講読(9)

第12回：講読(10)

第13回：講読(11)

第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。

受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本演劇特論ⅠB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	矢内 賢二	

授業の概要・到達目標

河竹黙阿弥の作品を中心に、幕末・明治期の歌舞伎台帳や合巻を演習形式で輪読する。各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。時代背景、先行作品、社会風俗、役者・観客・興行・作者の事情等、様々な要素が編み込まれた複雑な構築物として作品をとらえ、先行研究はもとより、同時代の錦絵・写真・新聞・雑誌・文芸作品等、多様な資料を駆使して報告を行ってほしい。各自の得意分野を生かした自由な視点からの発表を期待する。取り上げる作品については初回に相談のうえ決定したい。演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：作者と作品に関する基礎知識
- 第3回：講読(1)
- 第4回：講読(2)
- 第5回：講読(3)
- 第6回：講読(4)
- 第7回：講読(5)
- 第8回：講読(6)
- 第9回：講読(7)
- 第10回：講読(8)
- 第11回：講読(9)
- 第12回：講読(10)
- 第13回：講読(11)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本演劇特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	伊藤 真紀	

授業の概要・到達目標

日本の演劇が、近代においてどのような課題に向き合いながら今日に至ったのか、そのプロセスについて考察する。具体的には「女優」の存在に注目し、近代以前の女性芸能者の姿も視野に入れつつ、近代以降、西欧演劇の影響を受けて誕生し、成長する「女優」の実態について検討したい。春学期のA、秋学期のBともに基本的には舞台上で活躍した「女優」にスポットを当てて、春学期のAでは主として、近代以前の女性芸能者のあり方について考え、各時代の社会全体の状況も考慮しつつ検討し、女性をめぐる「民俗」の分野についても触れる。以上の研究のために「女優」に関係する様々な言説をとりあげる予定だが、それらの資料をできるだけ時代順に読みすすめることとし、その変遷についても考えることができるようにしたい。特に近代の「女優」に関しては、現在までに刊行されている「女優」、および女性芸能者についての評伝等のほかに、同時代の新聞・雑誌資料なども用いながらすすめる。

授業内容

- 第1回：「女性芸能者」の活躍
- 第2回：女性芸能の展開・概説(1)幕末の芸能
- 第3回：女性芸能の展開・概説(2)近代の始まり
- 第4回：女性芸能の展開・概説(3)「女優」の活躍
- 第5回：女性芸能の展開・概説(4)近代戯曲と「女優」
- 第6回：女性芸能者と信仰(1)巫女の役割
- 第7回：女性芸能者と信仰(2)巫女の展開
- 第8回：女性芸能者と信仰(3)宗教儀礼と女性
- 第9回：女性芸能者と信仰(4)儀礼の場と女性
- 第10回：女性芸能者の特色(1)「女優」への道筋
- 第11回：女性芸能者の特色(2)「女優」と「男優」
- 第12回：女性芸能者の特色(3)女師匠の活躍
- 第13回：女性芸能者の特色(4)「女優」と教育
- 第14回：女性芸能者の特色(5)「女優」のジレンマ

履修上の注意

女性にスポットを当てた研究には様々な方法論があると思われるが、できるだけ自由な発想で受講して欲しい。各自の研究の進捗状況を見ながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な予習をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」(発表)について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的には、舞台上で活躍した「女優」について考えるが、広い視野で捉えてほしい。場合によっては映像メディアで活躍した「女優」も考察の対象とする。

科目ナンバー：(AL) ART531J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本演劇特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	伊藤 真紀	

授業の概要・到達目標

日本の演劇が、近代においてどのような課題に向き合いながら今日に至ったのか、そのプロセスについて考察する。具体的には「女優」の存在に注目し、近代以前の女性芸能者の姿も視野に入れつつ、近代以降、西欧演劇の影響を受けて誕生し、成長する「女優」の実態について検討したい。春学期のA、秋学期のBともに基本的には舞台上で活躍した「女優」にスポットを当てるが、春学期のAでは主として、近代以前の女性芸能者のあり方について考え、各時代の社会全体の状況も考慮しつつ検討し、女性をめぐる「民俗」の分野についても触れる。

以上の研究のために「女優」に関係する様々な言説をとりあげる予定だが、それらの資料をできるだけ時代順に読みすすめることとし、その変遷についても考えることができるようにしたい。特に近代の「女優」に関しては、現在までに刊行されている「女優」、および女性芸能者についての評伝等のほかに、同時代の新聞・雑誌資料なども用いながらすすめる。

授業内容

- 第1回：「女性芸能者」の活躍
- 第2回：女性芸能の展開・概説(1)幕末の芸能
- 第3回：女性芸能の展開・概説(2)近代の始まり
- 第4回：女性芸能の展開・概説(3)「女優」の活躍
- 第5回：女性芸能の展開・概説(4)近代戯曲と「女優」
- 第6回：女性芸能者と信仰(1)巫女の役割
- 第7回：女性芸能者と信仰(2)巫女の展開
- 第8回：女性芸能者と信仰(3)宗教儀礼と女性
- 第9回：女性芸能者と信仰(4)儀礼の場と女性
- 第10回：女性芸能者の特色(1)「女優」への道筋
- 第11回：女性芸能者の特色(2)「女優」と「男優」
- 第12回：女性芸能者の特色(3)女師匠の活躍
- 第13回：女性芸能者の特色(4)「女優」と教育
- 第14回：女性芸能者の特色(5)「女優」のジレンマ

履修上の注意

女性にスポットを当てた研究には様々な方法論があると思われるが、できるだけ自由な発想で受講して欲しい。

各自の研究の進捗状況を見ながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な予習をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」（発表）について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的には、舞台上で活躍した「女優」について考えるが、広い視野で捉えてほしい。場合によっては映像メディアで活躍した「女優」も考察の対象とする。

科目ナンバー：(AL) LIT522J			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	Ph.D.	大山 るみこ

授業の概要・到達目標

Literature and Multimodality

近年教育現場での読解力の問題が指摘されていますが、このクラスではまず「テキスト」とは何か、そして「テキスト」を「読む」とはどのようなことなのか、という問題から出発します。英語で書かれた文学テキストを読む際、文法訳読方式は1つの有効な方法ですが、このクラスでは文字以外の媒体(画像・映像・音像など)を対象テキストの読解や解釈の過程に介在させる「マルチモーダルな読み」を試みます。「作家-作品(テキスト)-読者」の関係性について受容理論やBarthesの「作家の死」論などを今一度読み直した上で、文体論及び認知詩学の基礎をカバーします。毎回の授業では1) 関連理論の方法論の理解、2) 1)をベースにした文学テキスト(主にショートストーリー)分析実践を行います。

授業内容

- 第1回：Ways of Reading (Introduction: Issues to be addressed)
- 第2回：Introduction to Stylistics (Ch.1 What is stylistics?)
- 第3回：Introduction to Stylistics (Ch.2 Developing Stylistics Toolkit)
- 第4回：Analytical Framework-1 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第5回：Analytical Framework-2 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第6回：Analytical Framework-3 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第7回：Reading Practice-1
- 第8回：Reading Practice-2
- 第9回：Cognitive Poetics-1 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第10回：Cognitive Poetics-2 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第11回：Cognitive Poetics-3 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第12回：Term-end Presentation
- 第13回：Term-end Paper Feedback and discussion
- 第14回：General Review: Multimodal ways of reading literary texts

履修上の注意

授業では毎時間英語でのディスカッションも一部取り入れます。日本語だけでなく英語で自分の考えを簡潔かつ的確に表現するための練習です。専門領域の知識の習得をめざすとともに、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションのスキル上達も念頭に入れた指導をします。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回指定された箇所(理論・方法論および文学テキスト)は必ず読んでくること。特に指定の文学テキストについてはその表現・内容についての質問を最低3点は用意した上で授業にのぞむこと。

教科書

『The Language of Literature: An Introduction to Stylistics』Giovanelli, Marcello and Jessica Mason 著 (Cambridge University Press) 2018年

参考書

- 『The Act of Reading: A Theory of Aesthetic Response』Iser, Wolfgang 著 (Johns Hopkins University Press) 1978年
- 『Cognitive Poetics: An introduction』Stockwell, Peter 著 (Routledge) 2002年
- 『Image, Music, Text』Barthes, Roland 著 (Fontana) 1977年
- 『Multimodality, Cognition, and Experimental Literature』Gibbons, Alison 著 (Routledge) 2012年
- 『Ways of Reading: Advanced Reading Skills for Students of English Literature 4th edition』Montgomery, Martin 他 (Routledge) 2013年

成績評価の方法

Written assignments and contribution to discussion 50%
Term-end paper/presentation 50%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT522J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	大山 るみこ	

授業の概要・到達目標

Reading multimodal texts
このクラスでは前学期に修得した文体論的、認知詩学的方法論の基礎を確認した上で、マルチ・モーダル分析理論の基礎を学んでいきます。背景理論として体系機能文法 (Systemic Functional Linguistics), social semiotics(社会記号学)にも軽く触れます。取り扱うテキスト媒体は新聞、広告、雑誌、インターネット記事などのnon-literary texts がメインとなります。文字と図像・映像、そして音像が共存するこれらのテキストをどのような手法で分析考察していったら良いかを関連理論に参照しながら考えていきます。また、これらのマルチ・モーダルテキスト分析に比較文化的視点も取り入れ、特に英国と日本のテキストデータの比較なども行います。このようなマルチ・モーダルテキストの分析実践を通じて、身の回りに溢れるあらゆるマルチモーダルな情報を受動的に受け取るだけでなく、複眼的かつ批判的(クリティカルに)「読む」ことができるようになるマルチ・モーダリティの習得をめざします。

授業内容

- 第1回: Ways of reading and multimodality (Introduction)
- 第2回: Multimodality (Ch.1: Navigating the diverse field)
- 第3回: Multimodality (Ch.1-Ch.2 continued)
- 第4回: Why engaged in multimodality?
- 第5回: Systemic Functional Linguistics and its application to textual analysis
- 第6回: Social semiotics and its application to textual analysis
- 第7回: Reading Images (visual semiotics)-1
- 第8回: Reading Images (visual semiotics)-2
- 第9回: Reading Images (visual semiotics)-3
- 第10回: Reading practice-1
- 第11回: Reading practice-2
- 第12回: Term-end Presentation
- 第13回: Term-end Paper Feedback and discussion
- 第14回: General Review: Multimodal ways of reading

履修上の注意

授業では毎時間英語でのディスカッションも一部取り入れます。日本語だけでなく英語で自分の考えを簡潔かつ的確に表現するための練習です。専門領域の知識の習得をめざすと同時に、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションのスキル上達も念頭に入れた指導をします。

準備学習 (予習・復習等) の内容

毎回指定された箇所(理論・方法論および文学テキスト)は必ず読んでくること。授業で扱うテキストについては、こちらが用意するものだけでなく、履修者が自ら収集・選択したものも併せて使用していく。テキスト選定の根拠がすでに分析考察の入り口となるため、なぜそのテキストを選んだのかを明確に説明できるようにしておくこと。

教科書

『Introducing Multimodality』Jewitte, Carey, Kay O'Halloran, and Jeff Bessemer著 (Routledge) 2016年

参考書

- 『Cognitive Poetics: An introduction』Stockwell, Peter著 (Routledge) 2002年
- 『Image, Music, Text』Barthes, Roland著 (Fontana) 1977年
- 『Ways of Reading: Advanced Reading Skills for Students of English Literature 4th edition』Montgomery, Martin他 (Routledge) 2013年
- 『Reading Images: The grammar of visual design 3rd ed.』Kress, Gunther and Theo van Leeuwen著 (Routledge) 2021年

成績評価の方法

- Written assignments and contribution to discussion 50%
- Term-end paper/presentation 50%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT622J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	大山 るみこ	

授業の概要・到達目標

Literature and Multimodality
近年教育現場での読解力の問題が指摘されていますが、このクラスではまず「テキスト」とは何か、そして「テキスト」を「読む」とはどういうことなのか、という問題から出発します。英語で書かれた文学テキストを読む際、文法訳読方式は1つの有効な方法ですが、このクラスでは文字以外の媒体(図像・映像・音像など)を対象テキストの読解や解釈の過程に介在させる「マルチモーダルな読み」を試みます。「作家—作品(テキスト)—読者」の関係性について受容理論やBarthesの「作家の死」論などを今一度読み直した上で、文体論及び認知詩学の基礎をカバーします。毎回の授業では1) 関連理論の方法論の理解、2) 1) をベースにした文学テキスト(主にショートストーリー)分析実践を行います。

授業内容

- 第1回: Ways of Reading (Introduction: Issues to be addressed)
- 第2回: Introduction to Stylistics (Ch.1 What is stylistics?)
- 第3回: Introduction to Stylistics (Ch.2 Developing Stylistics Toolkit)
- 第4回: Analytical Framework-1 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第5回: Analytical Framework-2 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第6回: Analytical Framework-3 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第7回: Reading Practice-1
- 第8回: Reading Practice-2
- 第9回: Cognitive Poetics-1 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第10回: Cognitive Poetics-2 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第11回: Cognitive Poetics-3 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第12回: Term-end Presentation
- 第13回: Term-end Paper Feedback and discussion
- 第14回: General Review: Multimodal ways of reading literary texts

履修上の注意

授業では毎時間英語でのディスカッションも一部取り入れます。日本語だけでなく英語で自分の考えを簡潔かつ的確に表現するための練習です。専門領域の知識の習得をめざすと同時に、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションのスキル上達も念頭に入れた指導をします。

準備学習 (予習・復習等) の内容

毎回指定された箇所(理論・方法論および文学テキスト)は必ず読んでくること。特に指定の文学テキストについては表現・内容についての質問を最低3点は用意した上で授業にのぞむこと。

教科書

『The Language of Literature: An Introduction to Stylistics』Giovannelli, Marcello and Jessica Mason著 (Cambridge University Press) 2018年

参考書

- 『The Act of Reading: A Theory of Aesthetic Response』Iser, Wolfgang著 (Johns Hopkins University Press) 1978年
- 『Cognitive Poetics: An introduction』Stockwell, Peter著 (Routledge) 2002年
- 『Image, Music, Text』Barthes, Roland著 (Fontana) 1977年
- 『Multimodality, Cognition, and Experimental Literature』Gibbons, Alison著 (Routledge) 2012年
- 『Ways of Reading: Advanced Reading Skills for Students of English Literature 4th edition』Montgomery, Martin他 (Routledge) 2013年

成績評価の方法

- Written assignments and contribution to discussion 50%
- Term-end paper/presentation 50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT622J			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 大山 るみこ		

授業の概要・到達目標

Reading multimodal texts
 このクラスでは前学期に修得した文体論的、認知詩学的方法論の基礎を確認した上で、マルチ・モーダル分析理論の基礎を学んでいきます。背景理論として体系機能文法 (Systemic Functional Linguistics) , social semiotics (社会記号学) にも軽く触れます。取り扱うテキスト媒体は新聞、広告、雑誌、インターネット記事などのnon-literary texts がメインとなります。文字と画像・映像、そして音像が共存するこれらのテキストをどのような手法で分析考察していったら良いかを関連理論に参照しながら考えていきます。また、これらのマルチ・モーダルテキスト分析に比較文化的視点も取り入れ、特に英国と日本のテキストデータの比較なども行います。このようなマルチ・モーダルテキストの分析実践を通じて、身の回りに溢れるあらゆるマルチ・モーダルな情報を受動的に受け取るだけでなく、複眼的かつ批判的(クリティカルに)「読む」ことができるようになるマルチ・モーダルリテラシーの習得をめざします。

授業内容

- 第1回：Ways of reading and multimodality (Introduction)
- 第2回：Multimodality (Ch.1: Navigating the diverse field)
- 第3回：Multimodality (Ch.1-Ch.2 continued)
- 第4回：Why engaged in multimodality?
- 第5回：Systemic Functional Linguistics and its application to textual analysis
- 第6回：Social semiotics and its application to textual analysis
- 第7回：Reading Images (visual semiotics)-1
- 第8回：Reading Images (visual semiotics)-2
- 第9回：Reading Images (visual semiotics)-3
- 第10回：Reading practice-1
- 第11回：Reading practice-2
- 第12回：Term-end Presentation
- 第13回：Term-end Paper Feedback and discussion
- 第14回：General Review: Multimodal ways of reading

履修上の注意

授業では毎時間英語でのディスカッションも一部取り入れます。日本語だけでなく英語で自分の考えを簡潔かつ的確に表現するための練習です。専門領域の知識の習得をめざすとともに、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションのスキル上達も念頭に入れた指導をします。

準備学習 (予習・復習等) の内容

毎回指定された箇所(理論・方法論および文学テキスト)は必ず読んでおくこと。授業で扱うテキストについては、こちらが用意するものだけでなく、履修者が自ら収集・選択したものも併せて使用していく。テキスト選定の根拠がすでに分析考察の入り口となるため、なぜそのテキストを選んだのかを明確に説明できるようにしておくこと。

教科書

『Introducing Multimodality』Jewitte, Carey, Kay O'Halloran, and Jeff Bessemer著 (Routledge) 2016年

参考書

- 『Cognitive Poetics: An introduction』Stockwell, Peter著 (Routledge) 2002年
- 『Image, Music, Text』Barthes, Roland著 (Fontana) 1977年
- 『Ways of Reading: Advanced Reading Skills for Students of English Literature 4th edition』Montgomery, Martin他 (Routledge) 2013年
- 『Reading Images: The grammar of visual design 3rd ed.』Kress, Gunther and Theo van Leeuwen著 (Routledge) 2021年

成績評価の方法

- Written assignments and contribution to discussion 50%
- Term-end paper/presentation 50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT522E			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil. ワトソン, アレックス		

授業の概要・到達目標

Literature as Intermedia
 This interdisciplinary course examines literature's relationships with different media and art forms, drawing on W. J. T. Mitchell's insight that "all arts are composite arts (both text and image); all media are mixed media" (*Picture Theory*, 1995). Intermedia studies investigates the links between media, media combinations (computer installations, illuminated manuscripts and opera) medial transposition (film adaptations and novelizations) and intermedial references (references to a piece of music in a film).
 Students on this course will explore literature's status within a broader cultural framework of diverse media. They will engage with cutting-edge scholarly discussions about the nature of the printed book: the relationship between texts and images; adaptation: the book as communicative tool; and digitization. The course will enhance students' ability to relate texts to their broader contexts, to understand and apply complex theoretical writing independently, to present original, relevant perspectives on different texts and to contribute to complex discussions to the level of a scholarly discussion at an international conference) in English. Students will also gain a broader historical understanding of literature in English and its relationships with history, technology, science and other cultural forms, including art, cinema, graphic novels and television.
 As well as appealing to students of literature, this course is designed to address the needs of students with interests in art, design, cinema, hypertext, linguistics and media, as well as providing a foundation for postgraduate research in digital humanities, adaptation studies and the history of the book.
 For more details, please see the webpage explaining this course on my website available at: <https://www.alexwatson.info/teaching>

授業内容

- Literature as Intermedia: Term 1: Text and Image**
1. What is intermedia? Introduction 1
Gabriele Rippl "Introduction", *Handbook of Intermediality: Literature, Image, Sound, Music* (De Gruyter, 2015) 1-31.
 2. Remediation
Jay David Bolter and Richard Grusin, "Introduction: The Double Logic of Remediation" *Remediation: Understanding New Media* (The MIT Press, 2000) pp. 2-20.
 3. The Book as Intermedia Event 1
Tom Mole, "Book Thing" and "Interlude: Carravaggio, St. Jerome" in *The Secret Life of Books: Why They Mean More Than Words* (London: Elliot and Thompson Limited, 2019) 23-53.
 4. The Book as Intermedia Event 2
Kenya Hara, "Paper" in *White*, Jooyeon Rhee (trans) (Zurich, Switzerland: Lars Muller, 2010) pp. 13-34.
 5. Text and Image 1: The Illuminated Manuscript
Keith Houston, "Saints and Scribes: The rise of the illuminated manuscript", *The Book: A Cover-to-Cover Exploration of the Most Powerful Object of our Time* (New York: Norton, 2016) 155-74.
 6. Text and Image 2: Woodcuts
Alexandra Franklin, "Woodcuts" in *Bookparts*, Dennis Duncan and Adam Smyth (eds) (Oxford: Oxford University Press, 2019) pp. 209-223.
 7. Text and Image 3: The Nineteenth-Century Illustrated Novel
Johanna, Harman, "The Nineteenth-century Illustrated Novel", Rippl, Handbook, 378-400.
 8. Text and Image Presentations
 9. Paratexts 1
Gerald Genette, "Introduction" in *Paratexts: Thresholds of Interpretation*, Jane E. Lewin (ed.) Richard Macksey (foreword) (Cambridge: Cambridge University Press) pp.1-16.
 10. Paratexts 2
Anthony Grafton, "Footnotes: The Origin of a Species" *The Footnote: A Curious History* (Harvard, Harvard University Press, 1997) pp. 1-34.
 11. Literature and Art as Intermedia 1 Picture Theory
W. J. T. Mitchell, "Picture Theory", *Picture Theory: Essays on Verbal and Visual Representation*, (Chicago: University of Chicago Press, 1995) 11-35.
 12. Literature and Art as Intermedia 2 Case Studies
Dick Higgins, "Intermedia" in *Intermedia, Fluxus and the Something Else Press: Selected Writings* Steven Clay and Ken Freedman (eds) (New York: Siglio, 2018).
Rene Magritte, *The Treachery of Images* (1929).
Joseph Kosuth, *One and Three Chairs* (1965).
John Cage, Roaratorio, an Irish circus on Finnegan's Wake (1979).
 13. Comics and Graphic Novels 1
Jan-Noel Thon, "Comics and Graphic Novels", pp. 420-39
 14. Comics and Graphic Novels 2
Rosalind Atkinson, A Japanese Blake: Embodied Visions in William Blake's *The Marriage of Heaven and Hell* (1790) and Tezuka Osamu's Phoenix (1967-88) in Alex Watson and Laurence Williams (eds) *British Romanticism in Asia: The Reception, Translation and Transformation of Romantic Literature in India and East Asia* (London: Palgrave, 2019) pp. 341-360.

履修上の注意

All reading and discussion will be conducted in English. Students are welcome to consult translated texts in their original language, but the version used for class discussion will be in English.

準備学習 (予習・復習等) の内容

In addition to assessed essays and presentations, there will be regular homeworks and students will be required to read extracts of set texts for class.

教科書

The main course text is Gabriele Rippl (ed) *Handbook of Intermediality: Literature, Image, Sound, Music* (De Gruyter, 2015). This is an expensive book so a digital version is available via the university library and students are not expected to purchase it.

参考書

- Other reading comes from the following books, which will be made available to students: Rosalind Atkinson, A Japanese Blake: Embodied Visions in William Blake's *The Marriage of Heaven and Hell* (1790) and Tezuka Osamu's Phoenix (1967-88) in Alex Watson and Laurence Williams (eds) *British Romanticism in Asia: The Reception, Translation and Transformation of Romantic Literature in India and East Asia* (London: Palgrave, 2019).
- Jay David Bolter and Richard Grusin, *Remediation: Understanding New Media* (The MIT Press, 2000).
- Dennis Duncan and Adam Smyth (eds) *Bookparts* (Oxford: Oxford University Press, 2019).
- Gerald Genette, *Paratexts: Thresholds of Interpretation*, Jane E. Lewin (ed.) Richard Macksey (foreword) (Cambridge: Cambridge University Press).
- Anthony Grafton, *The Footnote: A Curious History* (Harvard, Harvard University Press, 1997).
- Kenya Hara, *White*, Jooyeon Rhee (trans) (Zurich, Switzerland: Lars Muller, 2010).
- Dick Higgins, *Intermedia, Fluxus and the Something Else Press: Selected Writings* Steven Clay and Ken Freedman (eds) (New York: Siglio, 2018).
- Keith Houston, *The Book: A Cover-to-Cover Exploration of the Most Powerful Object of our Time* (New York: Norton, 2016).
- Tom Mole, *The Secret Life of Books: Why They Mean More Than Words* (London: Elliot and Thompson Limited, 2019).
- W. J. T. Mitchell, *Picture Theory: Essays on Verbal and Visual Representation* (Chicago: University of Chicago Press, 1995).

成績評価の方法

40 per cent presentations; 10 per cent regular homeworks; 50 per cent mid-term and end-of-term essay.

その他

In the first term, students will explore the relationship between text and image, considering the intermedial nature of the printed book, the status of images within written texts and the connections between literature and the visual arts. In the second term, students will focus on adaptation, exploring the play and film versions of *Macbeth* and the novel, film and television versions of *Never Let Me Go*, as well as the theme of how information is represented in printed and digital texts. Students can select to participate in one of the two terms but it is more coherent for them if they study both.
 I would encourage graduate students taking majors outside of literature to also join this course. However, please note that eligibility to take the course depends on the rules of the department in which the student is majoring. If you are interested, please double-check with your department and advisor if this is possible.

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) LIT522E			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学演習IVB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil. ワトソン, アレックス		

授業の概要・到達目標

Literature as Intermedia
This interdisciplinary course examines literature's relationships with different media and art forms, drawing on W. J. T. Mitchell's insight that "all arts are 'composite' arts (both text and image); all media are mixed media" (*Picture Theory*, 1995). Intermedia studies investigates the links between media: media combinations (computer installations, illuminated manuscripts and opera) medial transposition (film adaptations and novelizations) and intermedial references (references to a piece of music in a film).
Students on this course will explore literature's status within a broader cultural framework of diverse media. They will engage with cutting-edge scholarly discussions about the nature of the printed book; the relationship between texts and images; adaptation; the book as communicative tool; and digitization. The course will enhance students' ability to relate texts to their broader contexts, to understand and apply complex theoretical writing independently, to present original, relevant perspectives on different texts and to contribute to complex discussions (to the level of a scholarly discussion at an international conference) in English. Students will also gain a broader historical understanding of literature in English and its relationships with history, technology, science and other cultural forms, including art, cinema, graphic novels and television.
As well as appealing to students of literature, this course is designed to address the needs of students with interests in art, design, cinema, hypertext, linguistics and media, as well as providing a foundation for postgraduate research in digital humanities, adaptation studies and the history of the book.
For more details, please see the webpage explaining this course on my website available at: <https://www.alexwaton.info/teaching>

授業内容

- Literature as Intermedia 2. Intermedia as Adaptation**
1. Discussion: Intermedia as Adaptation
 2. Adaptation
Christine Schwanecke, "Adaptation-Remediation-Transmediality", in Rippl, *Handbook*, 249-86.
 3. Adaptation Case Study 1: *Macbeth* 1
William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015).
William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015).
Justin Kurzel, dir.2015 113 minutes 1.
 4. Adaptation Case Study 1: *Macbeth* 2
William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015).
William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015).
Justin Kurzel, dir.2015 113 minutes 2.
 5. Adaptation Case Study 1: *Macbeth* 3
William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015).
Throne of Blood (蜘蛛巣城) (Akira Kurosawa)1957 110 minutes 1.
 6. Adaptation Case Study 1: *Macbeth* 4
William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015).
Throne of Blood (蜘蛛巣城) (Akira Kurosawa)1957 110 minutes 2.
 7. Adaptation Case Study 2: *Never Let Me Go* 1
Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go* (London: Faber, 2005)
Never Let Me Go (Mark Romanek, dir.2010 103 minutes).
 8. Adaptation Case Study 2: *Never Let Me Go* 2
Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go* (London: Faber, 2005)
Never Let Me Go (Mark Romanek, dir.2010 103 minutes).
 9. Adaptation Case Study 2: *Never Let Me Go* 3
Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go* (London: Faber, 2005)
Never Let Me Go (Mark Romanek, dir.2010 103 minutes).
 10. Adaptation Case Study 2: *Never Let Me Go* 4
わたしを離さないで (2016 NHK series, Episode 1) 60 minutes.
 11. Adapting Information 1: Literature and Science as Intermedia 1
Bernard Smith, "Style, Information, Art and Image in the Art of Cook's Voyages" in *Imagining the Pacific: In the Wake of Cook's Voyages* (Hong Kong: Library of Congress, 1992)73-92.
 12. Adapting Information 1: Literature and Science as Intermedia 2
Nicholas Thomas, "Objects of Knowledge: Oceanic Artifacts in European Engravings" in *Oceania: Visions, Artifacts, Histories* (North Carolina: Duke University Press, 1987)93-132.
 13. Adapting Information 1: Digitization 1
Amaranth Borsuk, "The Book as Interface", *The Book* (London, Cambridge: The MIT Press, 2018)pp. 197-258.
 14. Adapting Information 2: Digitization 2
Anne Burdick, Johanna Drucker, Peter Lunenfeld, Todd Presner, and Jeffrey Schnapp, "Humanities to Digital Humanities", *Digital Humanities* (Cambridge, MA: MIT Press, 2018)1-26.

履修上の注意

Films will be screened in class. All reading and discussion will be conducted in English. Students are welcome to consult translated texts in their original language, but the version used for class discussion will be in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

In addition to the assessed essays and presentations, there will be regular homeworks and students will be required to read extracts of set texts for class.

教科書

The main course text is Gabriele Rippl (ed.)*Handbook of Intermediality: Literature, Image, Sound, Music* (De Gruyter, 2015). This is an expensive book so a digital version is available via the university library and students are not expected to purchase it.
Students should purchase the following books:
William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015) ISBN-10: 1904271413 ISBN-13: 978-1904271413, 1377 yen.
Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go* (London: Faber, 2005)ISBN-10: 9780571258093 ISBN-13: 978-0571258093, 1377 yen.

参考書

The following films and tv episodes will be screened. It is advisable that students purchase their own copies for their own reference:
Macbeth (Justin Kurzel, dir.2015 113 minutes).
Throne of Blood (蜘蛛巣城) (Akira Kurosawa)1957 110 minutes.
Never Let Me Go (Mark Romanek, dir.2010 103 minutes).
わたしを離さないで (2016 NHK series, Episode 1) 60 minutes per episode.
Other reading comes from the following books, which will be made available to students:
Amaranth Borsuk, *The Book* (London, Cambridge: The MIT Press, 2018)pp. 197-258.
Anne Burdick, Johanna Drucker, Peter Lunenfeld, Todd Presner, and Jeffrey Schnapp, *Digital Humanities* (Cambridge, MA: MIT Press, 2018).
Bernard Smith, *Imagining the Pacific: In the Wake of Cook's Voyages* (Hong Kong: Library of Congress, 1992)
Nicholas Thomas, "Objects of Knowledge: Oceanic Artifacts in European Engravings" in *Oceania: Visions, Artifacts, Histories* (North Carolina: Duke University Press, 1987).

成績評価の方法

40 per cent presentations; 10 per cent regular homeworks; 50 per cent mid-term and end-of-term essay.

その他

In the first term, students will explore the relationship between text and image, considering the intermedial nature of the printed book; the status of images within written texts and the connections between literature and the visual arts. In the second, students will focus on adaptation, exploring the play and film versions of *Macbeth* and the novel, film and television versions of *Never Let Me Go*, as well as the theme of how information is represented in printed and digital texts. Students can select to participate in one of the two terms but it is more coherent for them if they study both.
I would encourage graduate students taking majors outside of literature to also join this course. However, please note that eligibility to take the course depends on the rules of the department in which the student is majoring. If you are interested, please double-check with your department and advisor if this is possible.

科目ナンバー：(AL) LIT622E			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学演習IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil. ワトソン, アレックス		

授業の概要・到達目標

Literature as Intermedia
This interdisciplinary course examines literature's relationships with different media and art forms, drawing on W. J. T. Mitchell's insight that "all arts are 'composite' arts (both text and image); all media are mixed media" (*Picture Theory*, 1995). Intermedia studies investigates the links between media: media combinations (computer installations, illuminated manuscripts and opera) medial transposition (film adaptations and novelizations) and intermedial references (references to a piece of music in a film).
Students on this course will explore literature's status within a broader cultural framework of diverse media. They will engage with cutting-edge scholarly discussions about the nature of the printed book; the relationship between texts and images; adaptation; the book as communicative tool; and digitization. The course will enhance students' ability to relate texts to their broader contexts, to understand and apply complex theoretical writing independently, to present original, relevant perspectives on different texts and to contribute to complex discussions (to the level of a scholarly discussion at an international conference) in English. Students will also gain a broader historical understanding of literature in English and its relationships with history, technology, science and other cultural forms, including art, cinema, graphic novels and television.
As well as appealing to students of literature, this course is designed to address the needs of students with interests in art, design, cinema, hypertext, linguistics and media, as well as providing a foundation for postgraduate research in digital humanities, adaptation studies and the history of the book.
For more details, please see the webpage explaining this course on my website available at: <https://www.alexwaton.info/teaching>

授業内容

- Literature as Intermedia Term 1: Text and Image**
1. What is intermedia? Introduction
Gabriele Rippl "Introduction", *Handbook of Intermediality: Literature, Image, Sound, Music* (De Gruyter, 2015) 1-31.
 2. Remediation
Jay David Bolter and Richard Grusin, "Introduction: The Double Logic of Remediation" *Remediation: Understanding New Media* (The MIT Press, 2000) pp. 2-20.
 3. The Book as Intermedia Event 1
Tom Mole, "Book Things" and "Interlude: Carravaggio, St. Jerome" in *The Secret Life of Books: Why They Mean More Than Words* (London: Elliot and Thompson Limited, 2019) 23-53.
 4. The Book as Intermedia Event 2
Kenya Hara, "Paper" in *White*, Jooyeon Rhee (trans) (Zurich, Switzerland: Lars Muller, 2010) pp. 13-34.
 5. Text and Image 1: The Illuminated Manuscript
Keith Houston, "Saints and Scribes: The rise of the illuminated manuscript", *The Book: A Cover-to-Cover Exploration of the Most Powerful Object of our Time* (New York: Norton, 2016) 155-74.
 6. Text and Image 2: Woodcuts
Alexandra Franklin, "Woodcuts" in *Bookparts*, Dennis Duncan and Adam Smyth (eds) (Oxford: Oxford University Press, 2019) pp. 209-223.
 7. Text and Image 3: The Nineteenth-Century Illustrated Novel
Johanna, Harmann, "The Nineteenth-century Illustrated Novel", Rippl, *Handbook*, 378-400.
 8. Text and Image Presentations
 9. Paratexts 1
Gerald Genette, "Introduction" in *Paratexts: Thresholds of Interpretation*, Jane E. Lewin (ed.) Richard Macksey (foreword) (Cambridge: Cambridge University Press) pp. 1-16.
 10. Paratexts 2
Anthony Grafton, "Footnotes: The Origin of a Species" *The Footnote: A Curious History* (Harvard, Harvard University Press, 1997) pp. 1-34.
 11. Literature and Art as Intermedia 1 Picture Theory
W. J. T. Mitchell, "Picture Theory", *Picture Theory: Essays on Verbal and Visual Representation*, (Chicago: University of Chicago Press, 1989) 11-35.
 12. Literature and Art as Intermedia 2: Case Studies
Dick Higgins, "Intermedia" in *Intermedia, Fluxus and the Something Else Press: Selected Writings* Steven Clay and Ken Freedman (eds) (New York: Siglio, 2018).
Rene Magritte, *The Treachery of Images* (1929).
Rosalind Atkinson, *One and Three Chairs* (1965).
John Cage, *Roaratorio*, an Irish circus on Finnegan's Wake (1979).
 13. Comics and Graphic Novels 1
Jan-Noel Thon, "Comics and Graphic Novels", pp. 420-39
 14. Comics and Graphic Novels 2
Rosalind Atkinson, A Japanese Blake: Embodied Visions in William Blake's *The Marriage of Heaven and Hell* (1790) and Tezuka Osamu's *Phoenix* (1967-88) in Alex Watson and Laurence Williams (eds) *British Romanticism in Asia: The Reception, Translation and Transformation of Romantic Literature in India and East Asia* (London: Palgrave, 2019) pp. 341-360.

履修上の注意

All reading and discussion will be conducted in English. Students are welcome to consult translated texts in their original language, but the version used for class discussion will be in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

In addition to assessed essays and presentations, there will be regular homeworks and students will be required to read extracts of set texts for class.

教科書

The main course text is Gabriele Rippl (ed.) *Handbook of Intermediality: Literature, Image, Sound, Music* (De Gruyter, 2015). This is an expensive book so a digital version is available via the university library and students are not expected to purchase it.

参考書

Other reading comes from the following books, which will be made available to students: Rosalind Atkinson, A Japanese Blake: Embodied Visions in William Blake's *The Marriage of Heaven and Hell* (1790) and Tezuka Osamu's *Phoenix* (1967-88) in Alex Watson and Laurence Williams (eds) *British Romanticism in Asia: The Reception, Translation and Transformation of Romantic Literature in India and East Asia* (London: Palgrave, 2019).
Jay David Bolter and Richard Grusin, *Remediation: Understanding New Media* (The MIT Press, 2000).
Dennis Duncan and Adam Smyth (eds) *Bookparts* (Oxford: Oxford University Press, 2019).
Gerald Genette, *Paratexts: Thresholds of Interpretation*, Jane E. Lewin (ed.) Richard Macksey (foreword) (Cambridge: Cambridge University Press).
Anthony Grafton, *The Footnote: A Curious History* (Harvard, Harvard University Press, 1997).
Kenya Hara, *White*, Jooyeon Rhee (trans) (Zurich, Switzerland: Lars Muller, 2010).
Dick Higgins, *Intermedia, Fluxus and the Something Else Press: Selected Writings* Steven Clay and Ken Freedman (eds) (New York: Siglio, 2018).
Keith Houston, *The Book: A Cover-to-Cover Exploration of the Most Powerful Object of our Time* (New York: Norton, 2016).
Tom Mole, *The Secret Life of Books: Why They Mean More Than Words* (London: Elliot and Thompson Limited, 2019).
W. J. T. Mitchell, *Picture Theory: Essays on Verbal and Visual Representation* (Chicago: University of Chicago Press, 1995).

成績評価の方法

40 per cent presentations; 10 per cent regular homeworks; 50 per cent mid-term and end-of-term essay.

その他

In the first term, students will explore the relationship between text and image, considering the intermedial nature of the printed book; the status of images within written texts and the connections between literature and the visual arts. In the second, students will focus on adaptation, exploring the play and film versions of *Macbeth* and the novel, film and television versions of *Never Let Me Go*, as well as the theme of how information is represented in printed and digital texts. Students can select to participate in one of the two terms but it is more coherent for them if they study both.
I would encourage graduate students taking majors outside of literature to also join this course. However, please note that eligibility to take the course depends on the rules of the department in which the student is majoring. If you are interested, please double-check with your department and advisor if this is possible.

科目ナンバー：(AL) LIT622E			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学演習ⅣD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil. ワトソン, アレックス		

授業の概要・到達目標

Literature as Intermedia
 This interdisciplinary course examines literature's relationships with different media and art forms, drawing on W. J. T. Mitchell's insight that "all arts are 'composite' arts (both text and image); all media are mixed media" (*Picture Theory*, 1995). Intermedia studies investigates the links between media: media combinations (computer installations, illuminated manuscripts and opera) medial transposition (film adaptations and novelizations) and intermedial references (references to a piece of music in a film).
 Students on this course will explore literature's status within a broader cultural framework of diverse media. They will engage with cutting-edge scholarly discussions about the nature of the printed book; the relationship between texts and images; adaptation; the book as communicative tool; and digitization. The course will enhance students' ability to relate texts to their broader contexts, to understand and apply complex theoretical writing independently, to present original, relevant perspectives on different texts and to contribute to complex discussions (to the level of a scholarly discussion at an international conference) in English. Students will also gain a broader historical understanding of literature in English and its relationships with history, technology, science and other cultural forms, including art, cinema, graphic novels and television.
 As well as appealing to students of literature, this course is designed to address the needs of students with interests in art, design, cinema, hypertext, linguistics and media, as well as providing a foundation for postgraduate research in digital humanities, adaptation studies and the history of the book.
 For more details, please see the webpage explaining this course on my website available at: <https://www.alexwaton.info/teaching>

授業内容

- Literature as Intermedia 2: Intermedia as Adaptation**
1. Discussion: Intermedia as Adaptation
 2. Adaptation
Christine Schwanecke, "Adaptation-Remediation-Transmediality", in Rippl, *Handbook*, 249-86.
 3. Adaptation Case Study 1: *Macbeth* 1
William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015). *Macbeth* (Justin Kurzel, dir) 2015 113 minutes 1.
 4. Adaptation Case Study 1: *Macbeth* 2
William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015). *Macbeth* (Justin Kurzel, dir) 2015 113 minutes 2.
 5. Adaptation Case Study 1: *Macbeth* 3
William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015). *Throne of Blood* (梶塚英城) (Akira Kurosawa) 1957 110 minutes 1.
 6. Adaptation Case Study 1: *Macbeth* 4
William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015). *Throne of Blood* (梶塚英城) (Akira Kurosawa) 1957 110 minutes 2.
 7. Adaptation Case Study 2: *Never Let Me Go* 1
Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go* (London: Faber, 2005). *Never Let Me Go* (Mark Romanek, dir) 2010 103 minutes.
 8. Adaptation Case Study 2: *Never Let Me Go* 2
Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go* (London: Faber, 2005). *Never Let Me Go* (Mark Romanek, dir) 2010 103 minutes.
 9. Adaptation Case Study 2: *Never Let Me Go* 3
Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go* (London: Faber, 2005). *Never Let Me Go* (Mark Romanek, dir) 2010 103 minutes.
 10. Adaptation Case Study 2: *Never Let Me Go* 4
わたしを離さないで (2016 NHK series, Episode 1) 60 minutes.
 11. Adapting Information 1: Literature and Science as Intermedia 1
Bernard Smith, "Style, Information, Art and Image in the Art of Cook's Voyages" in *Imagining the Pacific: In the Wake of Cook's Voyages* (Hong Kong: Library of Congress, 1992) 173-92.
 12. Adapting Information 1: Literature and Science as Intermedia 2
Nicholas Thomas, "Objects of Knowledge: Oceanic Artifacts in European Engravings" in *Oceania: Visions, Artifacts, Histories* (North Carolina: Duke University Press, 1887) 93-132.
 13. Adapting Information 1: Digitization 1
Amaranth Borsuk, "The Book as Interface", *The Book* (London, Cambridge: The MIT Press, 2018) pp. 197-258.
 14. Adapting Information 2: Digitization 2
Anne Burdick, Johanna Drucker, Peter Lunenfeld, Todd Presner, and Jeffrey Schnapp, "Humanities to Digital Humanities", *Digital Humanities* (Cambridge, MA: MIT Press, 2018) 1-26.

履修上の注意

Films will be screened in class. All reading and discussion will be conducted in English. Students are welcome to consult translated texts in their original language, but the version used for class discussion will be in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

In addition to the assessed essays and presentations, there will be regular homeworks and students will be required to read extracts of set texts for class.

教科書

The main course text is Gabriele Rippl (ed), *Handbook of Intermediality: Literature, Image, Sound, Music* (De Gruyter, 2015). This is an expensive book so a digital version is available via the university library and students are not expected to purchase it.
 Students should purchase the following books:
 William Shakespeare, *Macbeth*, Sandra Clark and Pamela Mason (eds) (London: Arden, 2015) ISBN-10: 1904271413 ISBN-13: 978-1904271413, 1377 yen.
 Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go* (London: Faber, 2005) ISBN-10: 9780571258093 ISBN-13: 978-0571258093, 1377 yen.

参考書

The following films and tv episodes will be screened. It is advisable that students purchase their own copies for their own reference:
Macbeth (Justin Kurzel, dir) 2015 113 minutes.
Throne of Blood (梶塚英城) (Akira Kurosawa) 1957 110 minutes.
Never Let Me Go (Mark Romanek, dir) 2010 103 minutes.
 わたしを離さないで (2016 NHK series, Episode 1) 60 minutes per episode.
 Other reading comes from the following books, which will be made available to students:
 Amaranth Borsuk, *The Book* (London, Cambridge: The MIT Press, 2018) pp. 197-258.
 Anne Burdick, Johanna Drucker, Peter Lunenfeld, Todd Presner, and Jeffrey Schnapp, *Digital Humanities* (Cambridge, MA: MIT Press, 2018).
 Bernard Smith, *Imagining the Pacific: In the Wake of Cook's Voyages* (Hong Kong: Library of Congress, 1992)
 Nicholas Thomas, "Objects of Knowledge: Oceanic Artifacts in European Engravings" in *Oceania: Visions, Artifacts, Histories* (North Carolina: Duke University Press, 1887).

成績評価の方法

40 per cent presentations; 10 per cent regular homeworks; 50 per cent mid-term and end-of-term essay.

その他

In the first term, students will explore the relationship between text and image, considering the intermedial nature of the printed book, the status of images within written texts and the connections between literature and the visual arts. In the second, students will focus on adaptation, exploring the play and film versions of *Macbeth* and the novel, film and television versions of *Never Let Me Go*, as well as the theme of how information is represented in printed and digital texts. Students can select to participate in one of the two terms but it is more coherent for them if they study both.
 I would encourage graduate students taking majors outside of literature to also join this course. However, please note that eligibility to take the course depends on the rules of the department in which the student is majoring. If you are interested, please double-check with your department and advisor if this is possible.

科目ナンバー：(AL) LIT522J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 Ph.D.	横山 晃	

授業の概要・到達目標

文学批評理論、あるいは批評理論について書かれた文章を読み、それが文学作品の解釈にどのように生かせるか、またアプローチの仕方がどのように変わるか、ということを考えます。毎回、異なる批評理論のキーワードをとりあげ、テキスト分析を行います。対象となるテキストは文学作品だけでなく、映像作品も含まれます。
 発表担当者は決めずに、毎回ポイントとなる箇所や単語・フレーズの正確な意味、作品の文化・歴史的背景について、クラス内で考察を深めていきます。最終的にはクラス内で扱った批評理論をベースに、特定のテキストを分析し、文学批評としてレポートにまとめる方法論を確立することを目指します。

授業内容

- 第1回 イントロダクション(進め方について)
- 第2回 批評のキーワード(1)
- 第3回 批評のキーワード(2)
- 第4回 批評のキーワード(3)(批評のリサーチについて)
- 第5回 批評のキーワード(4)
- 第6回 批評のキーワード(5)
- 第7回 批評のキーワード(6)(批評のリサーチまとめ)
- 第8回 批評のキーワード(7)
- 第9回 批評のキーワード(8)
- 第10回 批評のキーワード(9)(プロポーザル提出予定)
- 第11回 批評のキーワード(10)
- 第12回 批評のキーワード(11)
- 第13回 批評のキーワード(12)
- 第14回 批評のキーワード(13)

履修上の注意

辞書がなければ作品を精読することは困難です。新英和大辞典やリーダーズ+プラスを引いて意味を調べてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

分からない箇所を把握する、という作業が重要です。意味の取り方の分からない単語、解釈が難しい会話のやり取りなど、分からなかった点がどこかを把握することが肝要です。

教科書

授業時に決定します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

成績評価の方法

平常点30%、批評まとめ・プロポーザル30%、最終レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT522J			
英文学専攻	備考		
科目名	米文学演習IB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 Ph.D.	横山 晃	

授業の概要・到達目標

文学批評理論、あるいは批評理論について書かれた文章を読み、それが文学作品の解釈にどのように生かせるか、またアプローチの仕方がどのように変わるか、ということを考えます。毎回、異なる批評理論のキーワードをとりあげ、テキスト分析を行います。対象となるテキストは文学作品だけでなく、映像作品も含まれます。

発表担当者は決めずに、毎回ポイントとなる箇所や単語・フレーズの正確な意味、作品の文化・歴史的背景について、クラス内で考察を深めていきます。最終的にはクラス内で扱った批評理論をベースに、特定のテキストを分析し、文学批評としてレポートにまとめる方法論を確立することを目指します。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン(進め方について)
- 第2回 批評のキーワード(1)
- 第3回 批評のキーワード(2)
- 第4回 批評のキーワード(3)(批評のリサーチについて)
- 第5回 批評のキーワード(4)
- 第6回 批評のキーワード(5)
- 第7回 批評のキーワード(6)(批評のリサーチまとめ)
- 第8回 批評のキーワード(7)
- 第9回 批評のキーワード(8)
- 第10回 批評のキーワード(9)(プロポーザル提出予定)
- 第11回 批評のキーワード(10)
- 第12回 批評のキーワード(11)
- 第13回 批評のキーワード(12)
- 第14回 批評のキーワード(13)

履修上の注意

辞書がなければ作品を精読することは困難です。新英和大辞典やリーダーズ+プラスを引いて意味を調べてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

分からない箇所を把握する、という作業が重要です。意味の取り方の分からない単語、解釈が難しい会話のやり取りなど、分からなかった点がどこかを把握することが肝要です。

教科書

授業時に決定します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

成績評価の方法

平常点30%、批評まとめ・プロポーザル30%、最終レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT622J			
英文学専攻	備考		
科目名	米文学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 Ph.D.	横山 晃	

授業の概要・到達目標

文学批評理論、あるいは批評理論について書かれた文章を読み、それが文学作品の解釈にどのように生かせるか、またアプローチの仕方がどのように変わるか、ということを考えます。毎回、異なる批評理論のキーワードをとりあげ、テキスト分析を行います。対象となるテキストは文学作品だけでなく、映像作品も含まれます。

発表担当者は決めずに、毎回ポイントとなる箇所や単語・フレーズの正確な意味、作品の文化・歴史的背景について、クラス内で考察を深めていきます。最終的にはクラス内で扱った批評理論をベースに、特定のテキストを分析し、文学批評としてレポートにまとめる方法論を確立することを目指します。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン(進め方について)
- 第2回 批評のキーワード(1)
- 第3回 批評のキーワード(2)
- 第4回 批評のキーワード(3)(批評のリサーチについて)
- 第5回 批評のキーワード(4)
- 第6回 批評のキーワード(5)
- 第7回 批評のキーワード(6)(批評のリサーチまとめ)
- 第8回 批評のキーワード(7)
- 第9回 批評のキーワード(8)
- 第10回 批評のキーワード(9)(プロポーザル提出予定)
- 第11回 批評のキーワード(10)
- 第12回 批評のキーワード(11)
- 第13回 批評のキーワード(12)
- 第14回 批評のキーワード(13)

履修上の注意

辞書がなければ作品を精読することは困難です。新英和大辞典やリーダーズ+プラスを引いて意味を調べてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

分からない箇所を把握する、という作業が重要です。意味の取り方の分からない単語、解釈が難しい会話のやり取りなど、分からなかった点がどこかを把握することが肝要です。

教科書

授業時に決定します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

成績評価の方法

平常点30%、批評まとめ・プロポーザル30%、最終レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT622J			
英文学専攻	備考		
科目名	米文学演習 I D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 Ph.D.	横山 晃	

授業の概要・到達目標

文学批評理論、あるいは批評理論について書かれた文章を読み、それが文学作品の解釈にどのように生かせるか、またアプローチの仕方がどのように変わるか、ということを考えます。毎回、異なる批評理論のキーワードをとりあげ、テキスト分析を行います。対象となるテキストは文学作品だけでなく、映像作品も含まれます。

発表担当者は決めずに、毎回ポイントとなる箇所や単語・フレーズの正確な意味、作品の文化・歴史的背景について、クラス内で考察を深めていきます。最終的にはクラス内で扱った批評理論をベースに、特定のテキストを分析し、文学批評としてレポートにまとめる方法論を確立することを目指します。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨN(進め方について)
- 第2回 批評のキーワード(1)
- 第3回 批評のキーワード(2)
- 第4回 批評のキーワード(3) (批評のリサーチについて)
- 第5回 批評のキーワード(4)
- 第6回 批評のキーワード(5)
- 第7回 批評のキーワード(6) (批評のリサーチまとめ)
- 第8回 批評のキーワード(7)
- 第9回 批評のキーワード(8)
- 第10回 批評のキーワード(9) (プロポーザル提出予定)
- 第11回 批評のキーワード(10)
- 第12回 批評のキーワード(11)
- 第13回 批評のキーワード(12)
- 第14回 批評のキーワード(13)

履修上の注意

辞書がなければ作品を精読することは困難です。新英和大辞典やリーダーズ+プラスを引いて意味を調べてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

分からない箇所を把握する、という作業が重要です。意味の取り方の分からない単語、解釈が難しい会話のやり取りなど、分からなかった点がどこかを把握することが肝要です。

教科書

授業時に決定します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

成績評価の方法

平常点30%、批評まとめ・プロポーザル30%、最終レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT522E			
英文学専攻	備考		
科目名	米文学演習 II A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	サトウ, ゲイルK.	

授業の概要・到達目標

Two keywords—R.E.A.D.I.N.G. and narrative therapy—frame this seminar's examination of the ways in which Asian/American narratives of the Asia Pacific War perform their artistic, psychological, and political work, and what this work means for the author and readers of the text in addition to the text's fictionalized or autobiographical characters. R.E.A.D.I.N.G. is an acronym for a definition of a liberal arts education: Read a lot; Examine the reading; Analyze the examination; Discuss the analysis; Imagine reading as muscle training; Navigate your life; Germinate your own words.

In this seminar, R.E.A.D.I.N.G. is applied to the analysis of plots of narrative literacy in Murakami Haruki's KAFKA ON THE SHORE. Specifically, the first phenomenology of R.E.A.D.I.N.G.—“Read a lot”—will be deployed to make sense of this novel's hyper-abundant references to verbal and musical texts or their authors and performers, and to interpret the many conversations about reading that occur in libraries. This entire representation of “reading a lot” will be examined as an expression of Murakami's inquiry into the meaning of remembering WWII, in Tokyo, in the first decade of the 21st century.

授業内容

- 1. Our Everyday Memory of the Asia Pacific War
- 2. War Memory in Murakami's Corpus
- 3. Story: Libraries
- 4. Reading I: Kafka
- 5. Reading II: Natsume Sōseki & ARABIAN NIGHTS
- 6. Story: Oshima & Miss Saeki
- 7. Story: Johnnie Walker & Colonel Sanders
- 8. Reading III: Carl von Clausewitz & Adolf Eichmann
- 9. Story: Nakata & Cats
- 10. Story: Hoshino & “The Archduke Trio”
- 11. Reading IV: Prince, Beethoven, Schubert, Etc.
- 12. Reading V: OEDIPUS & ANTI-OEDIPUS
- 13. Reading VI: SNOW WHITE AND THE SEVEN DWARFS
- 14. 1941–1945 & 1968–1969

履修上の注意

The following language skills and experience are needed to do well in this seminar:

- (1) Reading: You can read at least 50 pages of history, criticism, or literature in English per week without too much trouble. You have read at least 50 whole works of American, British, or other Anglophone literature (individual novels, memoirs, collections of poetry, essays, stories) in the original or in translation.
- (2) Writing: Your undergraduate thesis was written in English, or you have written at least one 10-page academic paper in English.
- (3) Speaking and listening: You are comfortable conversing entirely in English.

準備学習(予習・復習等)の内容

There is never enough time to read everything. I recommend the Oxford University Press series, VERY SHORT INTRODUCTIONS, as one way to fill holes in your knowledge of global cultures, histories, and the history of ideas. Here is how the series describes itself: “Very Short Introductions are for anyone wanting a stimulating and accessible way in to a new subject. They are written by experts, and have been published in more than 25 languages worldwide. The series began in 1995, and now represents a wide variety of topics in history, philosophy, religion, science, and the humanities.”

教科書

Print copies of KAFKA ON THE SHORE in both Japanese and English translation are required.

参考書

Upon request, I can suggest additional reading to advance your understanding of Asian North American literature and its treatment of WWII.

成績評価の方法

50% PPT presentation/s and Class Participation
 50% Final Paper (minimum length is 3,000 words in English)
 *If there is evidence of plagiarism in any form or to any extent, you will receive a grade of “F” for the entire course. It is your responsibility to understand what plagiarism means. Saying “I didn't know I was committing plagiarism” will not be considered a valid excuse.

その他

I think it's important to not lose sight of the basics when teaching or taking a graduate course. For me, that means staying anchored to the ethics of narrative literacy and response-able citizenship, no matter where one is on the spectrum from novice to expert reader. What does it mean to be a good human being? What is social justice? What are the relationships between personal goodness, social justice, and narrative literacy?

科目ナンバー：(AL) LIT522E			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	サトウ, ゲイルK.	

授業の概要・到達目標

Two keywords—R.E.A.D.I.N.G. and narrative therapy—frame this seminar's examination of the ways in which Asian/American narratives of the Asia Pacific War perform their artistic, psychological, and political work, and what this work means for the author and readers of the text in addition to the text's fictionalized or autobiographical characters. R.E.A.D.I.N.G. is an acronym for a definition of a liberal arts education: Read: a lot; Examine: the reading; Analyze: the examination; Discuss: the analysis; Imagine: reading as muscle training; Navigate: your life; Germinate: your own words.

In this seminar, R.E.A.D.I.N.G. is applied to Ruth Ozeki's novel *A TALE FOR THE TIME BEING*, which depicts a relationship between a novice reader/writer who, as an antidote to suicide, starts writing a diary in a hollowed-out copy of Proust's *IN SEARCH OF LOST TIME*, and an expert reader/writer, a novelist who, suffering from a years-long writer's block and the death of her mother to Alzheimer's and cancer, reads and responds to the diary without ever meeting its author or knowing what has become of her. We will examine the relationship of motifs and plots of the seventh phenomenology of R.E.A.D.I.N.G., "Germinate: your own words," to the novel's critical remembering of 3/11, 9/11, the War in Afghanistan, and Kamikaze pilots.

授業内容

1. Our Everyday Memory of Catastrophes
2. War Memory in Ruth Ozeki's *Corpus*
3. Story: Ruth & Ruth Ozeki
4. Story: Oliver & Oliver Kellhammer
5. Germination I: *IN SEARCH OF LOST TIME*
6. Story: 9/11 & Masako's Alzheimer Disease
7. Germination II: *HOW PROUST CAN CHANGE YOUR LIFE*
8. Story: Haruki #1's Letters & Diary
9. Germination III: *KAMIKAZE DIARIES*
10. Germination IV: *TREASURY OF THE TRUE DHARMA EYE*
11. Germination V: *STRONG IN THE RAIN*
12. Story: Crows
13. Story: Ruth as Editor
14. Readers & Writers, Novice & Expert

履修上の注意

The following language skills and experience are needed to do well in this seminar:

- (1) Reading: You can read at least 50 pages of history, criticism, or literature in English per week without too much trouble. You have read at least 50 whole works of American, British, or other Anglophone literature (individual novels, memoirs, collections of poetry, essays, stories) in the original or in translation.
- (2) Writing: Your undergraduate thesis was written in English, or you have written at least one 10-page academic paper in English.
- (3) Speaking and listening: You are comfortable conversing entirely in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

There is never enough time to read everything. I recommend the Oxford University Press series, *VERY SHORT INTRODUCTIONS*, as one way to fill holes in your knowledge of global cultures, histories, and the history of ideas. Here is how the series describes itself: "Very Short Introductions are for anyone wanting a stimulating and accessible way in to a new subject. They are written by experts and have been published in more than 25 languages worldwide. The series began in 1995, and now represents a wide variety of topics in history, philosophy, religion, science, and the humanities."

教科書

A print copy in English of *A TALE FOR THE TIME BEING* is required.

参考書

Upon request, I can suggest additional reading to advance your understanding of Asian North American literature and its treatment of WWII.

成績評価の方法

50% PPT presentation/s and Class Participation
 50% Final Paper (minimum length is 3,000 words in English)
 "If there is evidence of plagiarism in any form or to any extent, you will receive a grade of "F" for the entire course. It is your responsibility to understand what plagiarism means. Saying "I didn't know I was committing plagiarism" will not be considered a valid excuse.

その他

I think it's important to not lose sight of the basics when teaching or taking a graduate course. For me, that means staying anchored to the ethics of narrative literacy and response-able citizenship, no matter where one is on the spectrum from novice to expert reader. What does it mean to be a good human being? What is social justice? What are the relationships between personal goodness, social justice, and narrative literacy?

科目ナンバー：(AL) LIT622E			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	サトウ, ゲイルK.	

授業の概要・到達目標

Two keywords—R.E.A.D.I.N.G. and narrative therapy—frame this seminar's examination of the ways in which Asian/American narratives of the Asia Pacific War perform their artistic, psychological, and political work, and what this work means for the author and readers of the text in addition to the text's fictionalized or autobiographical characters. R.E.A.D.I.N.G. is an acronym for a definition of a liberal arts education: Read: a lot; Examine: the reading; Analyze: the examination; Discuss: the analysis; Imagine: reading as muscle training; Navigate: your life; Germinate: your own words.

In this seminar, R.E.A.D.I.N.G. is applied to Wing Tek Lum's *THE NANJING MASSACRE: POEMS*, in which historical studies, memoir and oral history, public and private collections of photographs, and other forms of testimony provide a basis for the author's sustained act of postmemory witnessing of the Nanjing Massacre. Lum's treatment of his subject is intensely graphic, producing a kind of "atrocity photo poetry" for which the third phenomenology of R.E.A.D.I.N.G.—"Examine: the reading"—provides a useful analytical tool. We will examine Lum's Nanjing poems up close and in depth to see how he has turned the act itself of scanner-like examination into a poetic methodology of ethical seeing, which by re-attaching humanity and meaningfulness to victims and perpetrators alike, restores that narrative dimension identified by Susan Sontag in *REGARDING THE PAIN OF OTHERS* as a necessary antidote to the otherwise numbing power of photographs of atrocity.

授業内容

1. Our Everyday Memory of the Nanjing Massacre
2. Story: Part I
3. Examination I: Iris Chang
4. Examination II: Shi Young & James Yin
5. Story: Part II
6. Examination III: Katsuchi Honda
7. Examination IV: Yasukuni Shrine
8. Story: Part III, Part IV
9. Examination V: Histories of the Nanjing Massacre
10. Examination VI: Elaine Scarry, Susan Sontag, Marianne Hirsch
11. Story: Part V
12. Story: Dedication + Epilogue
13. Examination VII: Auto-Bio-Graphical Witnessing
14. Lum's Post-Nanjing Poetry

履修上の注意

The following language skills and experience are needed to do well in this seminar:

- (1) Reading: You can read at least 50 pages of history, criticism, or literature in English per week without too much trouble. You have read at least 50 whole works of American, British, or other Anglophone literature (individual novels, memoirs, collections of poetry, essays, stories) in the original or in translation.
- (2) Writing: Your undergraduate thesis was written in English, or you have written at least one 10-page academic paper in English.
- (3) Speaking and listening: You are comfortable conversing entirely in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

There is never enough time to read everything. I recommend the Oxford University Press series, *VERY SHORT INTRODUCTIONS*, as one way to fill holes in your knowledge of global cultures, histories, and the history of ideas. Here is how the series describes itself: "Very Short Introductions are for anyone wanting a stimulating and accessible way in to a new subject. They are written by experts and have been published in more than 25 languages worldwide. The series began in 1995, and now represents a wide variety of topics in history, philosophy, religion, science, and the humanities."

教科書

A print copy in English of *THE NANJING MASSACRE: POEMS* is required.

参考書

Upon request, I can suggest additional reading to advance your understanding of Asian North American literature and its treatment of WWII.

成績評価の方法

50% PPT presentation/s and Class Participation
 50% Final Paper (minimum length is 3,000 words in English)
 "If there is evidence of plagiarism in any form or to any extent, you will receive a grade of "F" for the entire course. It is your responsibility to understand what plagiarism means. Saying "I didn't know I was committing plagiarism" will not be considered a valid excuse.

その他

I think it's important to not lose sight of the basics when teaching or taking a graduate course. For me, that means staying anchored to the ethics of narrative literacy and response-able citizenship, no matter where one is on the spectrum from novice to expert reader. What does it mean to be a good human being? What is social justice? What are the relationships between personal goodness, social justice, and narrative literacy?

科目ナンバー：(AL) LIT622E			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	サトウ, ゲイルK.	

授業の概要・到達目標

Two keywords—R.E.A.D.I.N.G. and narrative therapy—frame this seminar's examination of the ways in which Asian/American narratives of the Asia Pacific War perform their artistic, psychological, and political work, and what this work means for the author and readers of the text in addition to the text's fictionalized or autobiographical characters. R.E.A.D.I.N.G. is an acronym for a definition of a liberal arts education: Read: a lot; Examine: the reading; Analyze: the examination; Discuss: the analysis; Imagine: reading as muscle training; Navigate: your life; Germinate: your own words.

In this seminar, the third phenomenology of R.E.A.D.I.N.G.—“Analyze: the examination”—will be applied to Kerri Sakamoto's novel ONE HUNDRED MILLION HEARTS, which narrates a Canadian Sansei's discovery that she has a sister living in Japan who shares the same father, a Nisei who survived recruitment as a Kamikaze pilot. A story about the re-visioning of family history becomes a vehicle for North American Sansei and their same-generation counterparts in Japan to re-see themselves within the history of prewar and wartime Japanese empire. The sister in Japan is a visual artist who has turned the wall of her bedroom into a canvas for obsessive configuration and reconfiguration of her ties to a lost father. But this private form of psycho-analysis that plays out on the wall of the room where the artist-sister sleeps and dreams corresponds to a national, public form of psycho-analysis of Japanese empire through the woman's involvement with memorial ceremonies at Yasukuni Shrine.

授業内容

1. Our Everyday Memory of Manchuria
2. War Memory in Kerri Sakamoto's Corpus
3. Story: Miyo's Disabled Body
4. Story: Hana's Art
5. Story: Two Boyfriends
6. Story: Supporting Cast
7. Analysis I: Yasukuni Shrine as Non/Fictional Site
8. Analysis II (history): John Dower
9. Analysis III (cultural anthropology): Emiko Ohnuki-Tierney
10. Analysis IV (cultural anthropology): Emiko Ohnuki-Tierney
11. Analysis V (Marxist theory): Mark Driscoll
12. Analysis VI (Marxist theory): Mark Driscoll
13. Analysis VII (Marxist theory): Mark Driscoll
14. Manchuria and Sansei War Memory

履修上の注意

The following language skills and experience are needed to do well in this seminar:

- (1) Reading: You can read at least 50 pages of history, criticism, or literature in English per week without too much trouble. You have read at least 50 whole works of American, British, or other Anglophone literature (individual novels, memoirs, collections of poetry, essays, stories) in the original or in translation.
- (2) Writing: Your undergraduate thesis was written in English, or you have written at least one 10-page academic paper in English.
- (3) Speaking and listening: You are comfortable conversing entirely in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

There is never enough time to read everything. I recommend the Oxford University Press series, VERY SHORT INTRODUCTIONS, as one way to fill holes in your knowledge of global cultures, histories, and the history of ideas. Here is how the series describes itself: “Very Short Introductions are for anyone wanting a stimulating and accessible way in to a new subject. They are written by experts and have been published in more than 25 languages worldwide. The series began in 1995, and now represents a wide variety of topics in history, philosophy, religion, science, and the humanities.”

教科書

A print copy in English of ONE HUNDRED MILLION HEARTS is required.

参考書

Upon request, I can suggest additional reading to advance your understanding of Asian North American literature and its treatment of WWII.

成績評価の方法

50% PPT presentation/s and Class Participation
 50% Final Paper (minimum length is 3,000 words in English)
 *If there is evidence of plagiarism in any form or to any extent, you will receive a grade of “F” for the entire course. It is your responsibility to understand what plagiarism means. Saying “I didn't know I was committing plagiarism” will not be considered a valid excuse.

その他

I think it's important to not lose sight of the basics when teaching or taking a graduate course. For me, that means staying anchored to the ethics of narrative literacy and response-able citizenship, no matter where one is on the spectrum from novice to expert reader. What does it mean to be a good human being? What is social justice? What are the relationships between personal goodness, social justice, and narrative literacy?

科目ナンバー：(AL) LIT522J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	梶原 照子	

授業の概要・到達目標

〈神話の再読と再創造①—アメリカ女性詩人を中心に—〉
 現代作家が古典や神話を再読し、自らの作品として再創造するとき何が起るのか。この授業では、アメリカ女性詩人達の神話再読・再創造を意図した詩作品多数取り挙げて考察する。とくに焦点をあてる神話はPersephone(ペルセフォネ)とMedusa(メデューサ)である。1960年代のラディカル・フェミニズムに連動して、この時期の女性詩人達が父権制社会による既存の神話の再読(re-vision)と異議申し立てを詩作品を通して行ったことは、アリシア・オストライカーが検証した。しかし、この時期に限らず、今世紀においても、神話とくにペルセフォネとメデューサを題材にした詩作品は次々に生みだされている。その主題も、父権制社会への異議申し立てに限らず、母=娘の愛憎に満ちた支配従属関係を描くルイーズ・グリュックの『アヴェルノ』やシルヴィア・プラスの『メデューサ』など多様に展開する。母の愛の諸相を描いたリタ・ダヴの『母の愛』もデメテル-ペルセフォネ-ハデスの神話の三角関係を取り挙げており、娘への愛の支配権は父と夫の間ではなく母と夫の間で争奪されることが示唆される。多様な詩作品を通して、〈男/女〉の関係だけでなく母=娘〉の関係が絡む複雑さを読み込もう。また、典型的な抒情詩の一人称の語り手とは異なり、神話の女性を三人称で客体化して語る詩人の立ち位置をどのように考えるのか、詩の(声)の特徴について分析してみよう。

授業内容

ペルセフォネについては、ギリシア神話のペルセフォネの物語を前面に出したLouise Glück, *Averno* (2006)を中心に、Rita Dove, “Persephone, Falling”; “Demeter's Prayer to Hades”(1992); “Hades' Pitch”(1996)を読む。その他、A. E. Starlings, “Persephone Writes a Letter to Her Mother”(1997)やMarie Howe, “Persephone 3”(2023)など多くの詩人の作品を紹介する。

メデューサについては、Louise Bogan, “Medusa” (1923)とSylvia Plath, “Medusa” (1962)を中心に読み、その他May Sarton, “The Muse as Medusa”, Amy Clampitt, “Medusa” (1985), Tiffany Higgins, “Medusa on Sansome and Pine” (2013) など多くの作品を紹介する。男性詩人もメデューサを題材に詩作しており、それを比較するのも面白いだろう。

全体を通して、テキストを分析・批評し、学術論文を書く技術については、授業中の発表(担当する詩作品・散文の精読・分析、批評の紹介)と最終レポートの作成を通して、具体的に学ぶ。

授業予定

1. イントロダクション: Muriel Rukeyser, “The Birth of Venus”; “Myth”
2. ペルセフォネ①Rita Dove, “Persephone, Falling”; “Demeter's Prayer to Hades”; “Hades' Pitch”
3. ペルセフォネ②Louise Glück, “Persephone the Wanderer”第一詩篇
4. ペルセフォネ③Louise Glück, “A Myth of Innocence”
5. ペルセフォネ④Louise Glück, “A Myth of Devotion”
6. ペルセフォネ⑤Louise Glück, “Persephone the Wanderer”第二詩篇
7. ペルセフォネ⑥A. E. Starlings, “Persephone Writes a Letter to Her Mother”やMarie Howe, “Persephone 3”など
8. メデューサ①Louise Bogan, “Medusa”; “Cassandra”
9. メデューサ②Sylvia Plath, “Medusa”; “Two Sisters of Persephone”
10. メデューサ③May Sarton, “The Muse as Medusa”, Amy Clampitt, “Medusa” (1985), Tiffany Higgins, “Medusa on Sansome and Pine”など
11. メデューサ④
12. 批評①
13. 批評②
14. 全体講評会

履修者の習熟度や関心に合わせて上記の予定表には多少の変更あり。

履修上の注意

授業は担当者の発表を中心に進められるが、担当者以外の学生も授業前に作品を精読し、積極的に議論に参加してもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表担当者は配布資料の作成と共に口頭発表の準備をする。各自、詩作品を精読し、自分なりの問いを明確に持って授業に臨む。

教科書

- ①Louise Glück, *Averno* (Farrar, Straus and Giroux, 2006).
- ②グリュック以外の詩人の詩作品は、入手可能なウェブサイトやPDFファイルを提示する。Poetry Foundationのサイトを多く活用する。

参考書

- ③Rita Dove, *Mother Love: Poems* (W. W. Norton, 1996).
 - ④Alicia Ostriker, *Stealing the Language* (Beacon Press, 1986).
- アリシア・オストライカー 『言葉を盗む女たち(アメリカ女性詩人論)』池内靖子訳 (土曜美術社, 1990)

成績評価の方法

最終レポート 50%。平常点(口頭発表, 議論への参加, 出席) 50%。原則として全授業回数の3分の2以上の出席が必要。

その他

アメリカ詩を今まであまり読んでこなかった人も、関心のある人は是非参加して下さい。これまでの知識の有無ではなく、授業参加後の積極性・努力を評価します。

科目ナンバー: (AL) LIT522J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習IVB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	梶原 照子	

授業の概要・到達目標

〈神話の再読と再創造②—Ursula K. Le Guin, *Lavinia*を中心に—〉
 現代作家が古典や神話を再読し、自らの作品として再創造するとき何が起るのか。この授業では、Ursula K. Le Guin, *Lavinia*を通して、現代アメリカ女性作家の神話再読・再創造について考察する。ローマ古典文学ウエルギリウスの叙事詩『アエネーイス』の後半六歌を基に、SFの大家ル＝グウィンが英雄アエネーアスの妻ラウィーニアを主人公に創作した長編小説が『ラウィーニア』である。『アエネーイス』では僅かしか触れられないアエネーアスの妻を主人公にして、ル＝グウィンが想像力を働かせて自由に人物造形したラウィーニアは、ル＝グウィン独自の創作と言える。女性の視点から神話的世界を再構築した、と解説されるが、ル＝グウィン自身が後書きで述べるように、「ウエルギリウスの作品を改良したり、批判したりすること」は彼女の意図ではない。ル＝グウィンは「ウエルギリウスの詩作品は、非常に深いレベルで音楽的なので、その美しさは音の響きと語順に深く結びついており、本質的に翻訳不可能だ」と考えるが、「このテキストと一体化したい」という翻訳者の渴望から「異なる形式に翻訳した」ものとして、自作を捉えている。詩人ウエルギリウスがラウィーニアの前に登場し、女主人公にとって夫アエネーアスと並べて「どちらがわたしの真の恋人なのだろうか？」と自問する根源的な存在となる。また、ル＝グウィンはラウィーニアに「わたしが女を代表して男に対する憤りを表明する語り手である、あなたがたは思っているかもしれないが、その期待には添えない」と語らせており、一辺倒なフェミニズム批評を拒絶する。物語の序盤でラウィーニアを抑圧し、恐怖の対象となるのは、息子を亡くしてから娘を憎む母であり、父は寛容で愛情深い。もちろん、母＝娘関係の根深い愛憎は、父権制社会の副産物としてフェミニズム批評で照射することも可能ではあるが、ル＝グウィンの詩的なイメージに満ちながらローマ史を俯瞰する『ラウィーニア』は、そもそも批評枠に抵抗するテキストに思える。語り手の視点について、詩の〈声〉の特徴を紐解くように分析することを試みたいが、履修者はそれぞれの観点で読み込んでもらいたい。

授業内容

Ursula K. Le Guin, *Lavinia*を読解していく。
 全体を通して、テキストを分析・批評し、学術論文を書く技術については、授業中の発表(担当する箇所の要約・精読・分析、批評の紹介)と最終レポートの作成を通して、具体的に学ぶ。
 授業予定
 1. イントロダクション
 2. *Lavinia* ①
 3. *Lavinia* ②
 4. *Lavinia* ③
 5. *Lavinia* ④
 6. *Lavinia* ⑤
 7. *Lavinia* ⑥
 8. 評論①
 9. *Lavinia* ⑦
 10. *Lavinia* ⑧
 11. *Lavinia* ⑨
 12. *Lavinia* ⑩
 13. 評論②
 14. 全体講評会
 履修者の習熟度や関心に合わせて、上記の予定表には多少の変更あり。

履修上の注意

授業は担当者の発表を中心に進められるが、担当者以外の学生も授業前に作品を精読し、積極的に議論に参加してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は配布資料の作成と共に口頭発表の準備をする。各自、テキストを精読し、自分なりの問いを明確に持って授業に臨む。

教科書

①Ursula K. Le Guin, *Lavinia* (Weidenfeld & Nicolson, 2010).

参考書

- ②アーシュラ・K・ル＝グウィン(Ursula K. Le Guin)『ラウィーニア』谷垣暁美 訳(河出文庫, 2020)
- ③Ursula K. Le Guin, *Cheek by Jowl: talks & essays on how & why fantasy matters* (Aqueduct Press, 2009).
- ④Ursula K. Le Guin, *No Time to Sapre: Thinking about What Matters* (Mariner Books, 2019).

成績評価の方法

最終レポート 50%。平常点(口頭発表、議論への参加、出席) 50%。原則として全授業回数の3分の2以上の出席が必要。

その他

秋学期だけ履修することは可能ですが、春学期の〈神話の再読と再創造①—アメリカ女性詩人を中心に—〉の授業から主題は継続しています。春学期の授業も参加すると、現代アメリカ女性作家による神話の再創造について多角的に考察できるかと思います。

科目ナンバー: (AL) LIT622J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	梶原 照子	

授業の概要・到達目標

〈神話の再読と再創造①—アメリカ女性詩人を中心に—〉
 現代作家が古典や神話を再読し、自らの作品として再創造するとき何が起るのか。この授業では、アメリカ女性詩人達の神話再読・再創造を意図した詩作品多数取り挙げて考察する。とくに焦点をあてる神話はPersephone(ペルセフォネ)とMedusa(メデューサ)である。1960年代のラディカル・フェミニズムに連動して、この時代の女性詩人達が父権制社会による既存の神話の再読(re-vision)と異議申し立てを詩作品を通して行ったことは、アリシア・オストライカーが検証した。しかし、この時期に限らず、今世紀においても、神話とくにペルセフォネとメデューサを題材にした詩作品は次々に生みだされている。その主題も、父権制社会への異議申し立てに限らず、母＝娘の愛憎に満ちた支配従属関係を描くルイーザ・グリュックの『アヴェルノ』やシルヴィア・プラスの『メデューサ』など多様に展開する。母の愛の諸相を描いたリタ・ダヴの『母の愛』もデメテル・ペルセフォネーハダスの神話の三角関係を取り挙げており、娘への愛の支配権は父と夫の間ではなく母と夫の間で争奪されることが示唆される。多様な詩作品を通して、〈男/女〉の関係だけでなく母＝娘との関係が絡む複雑さを読み込もう。また、典型的な抒情詩の一人称の語り手とは異なり、神話の女性を三人称で客体化して語る詩人の立ち位置をどのように考えるのか、詩の(声)の特徴について分析してみよう。

授業内容

ペルセフォネについては、ギリシア神話のペルセフォネの物語を前面に出したLouise Glück, *Averno* (2006)を中心に、Rita Dove, "Persephone, Falling"; "Demeter's Prayer to Hades"(1992); "Hades' Pitch"(1996)を読む。その他、A. E. Starlings, "Persephone Writes a Letter to Her Mother" (1997)やMarie Howe, "Persephone 3" (2023)など多くの詩人の作品を紹介する。
 メデューサについては、Louise Bogan, "Medusa" (1923)とSylvia Plath, "Medusa" (1962)を中心に読み、その他May Sarton, "The Muse as Medusa"; Amy Clampitt, Medusa (1985), Tiffany Higgins, "Medusa on Sansome and Pine" (2013) など多くの作品を紹介する。男性詩人もメデューサを題材に詩作しており、それを比較するのも面白いだろう。
 全体を通して、テキストを分析・批評し、学術論文を書く技術については、授業中の発表(担当する詩作品・散文の精読・分析、批評の紹介)と最終レポートの作成を通して、具体的に学ぶ。
 授業予定
 1. イントロダクション: Muriel Rukeyser, "The Birth of Venus"; "Myth"
 2. ペルセフォネ①Rita Dove, "Persephone, Falling"; "Demeter's Prayer to Hades"; "Hades' Pitch"
 3. ペルセフォネ②Louise Glück, "Persephone the Wanderer"第一詩篇
 4. ペルセフォネ③Louise Glück, "A Myth of Innocence"
 5. ペルセフォネ④Louise Glück, "A Myth of Devotion"
 6. ペルセフォネ⑤Louise Glück, "Persephone the Wanderer"第二詩篇
 7. ペルセフォネ⑥A. E. Starlings, "Persephone Writes a Letter to Her Mother"やMarie Howe, "Persephone 3"など
 8. メデューサ①Louise Bogan, "Medusa"; "Cassandra"
 9. メデューサ②Sylvia Plath, "Medusa"; "Two Sisters of Persephone"
 10. メデューサ③May Sarton, "The Muse as Medusa"; Amy Clampitt, Medusa (1985), Tiffany Higgins, "Medusa on Sansome and Pine"など
 11. メデューサ④
 12. 批評①
 13. 批評②
 14. 全体講評会
 履修者の習熟度や関心に合わせて上記の予定表には多少の変更あり。

履修上の注意

授業は担当者の発表を中心に進められるが、担当者以外の学生も授業前に作品を精読し、積極的に議論に参加してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は配布資料の作成と共に口頭発表の準備をする。各自、詩作品を精読し、自分なりの問いを明確に持って授業に臨む。

教科書

- ①Louise Glück, *Averno* (Farrar, Straus and Giroux, 2006).
- ②グリュック以外の詩人の詩作品は、入手可能なウェブサイトやPDFファイルで提示する。Poetry Foundationのサイトを多く活用する。

参考書

- ③Rita Dove, *Mother Love: Poems* (W. W. Norton, 1996).
- ④Alicia Ostriker, *Stealing the Language* (Beacon Press, 1986).
- アリシア・オストライカー 『言葉を盗む女たち(アメリカ女性詩人論)』池内靖子 訳(土曜美術社, 1990)

成績評価の方法

最終レポート 50%。平常点(口頭発表、議論への参加、出席) 50%。原則として全授業回数の3分の2以上の出席が必要。

その他

アメリカ詩を今まであまり読んでこなかった人も、関心のある人は是非参加して下さい。これまでの知識の有無ではなく、授業参加後の積極性・努力を評価します。

科目ナンバー: (AL) LIT622J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習IV D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 梶原 照子		

授業の概要・到達目標

〈神話の再読と再創造②—Ursula K. Le Guin, *Lavinia*を中心に—〉
 現代作家が古典や神話を再読し、自らの作品として再創造するとき何が起ころのか。この授業では、Ursula K. Le Guin, *Lavinia*を通して、現代アメリカ女性作家の神話再読・再創造について考察する。ローマ古典文学ウェルギリウスの叙事詩『アエネーイス』の後半六歌を基に、SFの大家ル＝グウィンが英雄アエネーアスの妻ラウィーニアを主人公に創作した長編小説が『ラウィーニア』である。『アエネーイス』では僅かしか触れられないアエネーアスの妻を主人公にして、ル＝グウィンが想像力を働かせて自由に人物造形したラウィーニアは、ル＝グウィン独自の創作と言える。女性の視点から神話的世界を再構築した、と解説されるが、ル＝グウィン自身が後書きで述べるように、「ウェルギリウスの作品を改良したり、批判したりすること」は彼女の意図ではない。ル＝グウィンは「ウェルギリウスの詩作品は、非常に深いレベルで音楽的なので、その美しさは音の響きと語順に深く結びついており、本質的に翻訳不可能だ」と考えるが、「このテキストと一体化したいという翻訳者の渴望」から「異なる形式に翻訳した」ものとして、自作を捉えている。詩人ウェルギリウスがラウィーニアの前に登場し、女主人公にとって夫アエネーアスと並べて「どちらがわたしの真の恋人なのだろうか？」と自問する根源的な存在となる。また、ル＝グウィンはラウィーニアに「わたしが女を代表して男に対する憤りを表明する語り手である、あなたがたは思っているかもしれないが、その期待には添えない」と語り、一辺倒なフェミニズム批評を拒絶する。物語の序盤でラウィーニアを抑圧し、恐怖の対象となるのは、息子を亡くしてから娘を憎む母であり、父は寛容で愛情深い。もちろん、母＝娘関係の根深い愛憎は、父権制社会の副産物としてフェミニズム批評で照射することも可能ではあるが、ル＝グウィンの詩的なイメージに満ちながらローマ史を俯瞰する『ラウィーニア』は、そもそも批評枠に抵抗するテキストに思える。語り手の視点について、詩の〈声〉の特徴を紐解くように分析することを試みたいが、履修者はそれぞれの観点で読み込んでもらいたい。

授業内容

Ursula K. Le Guin, *Lavinia* を読解していく。
 全体を通して、テキストを分析・批評し、学術論文を書く技術については、授業中の発表(担当する箇所の要約・精読・分析、批評の紹介)と最終レポートの作成を通して、具体的に学ぶ。

授業予定

1. イントロダクション
2. *Lavinia* ①
3. *Lavinia* ②
4. *Lavinia* ③
5. *Lavinia* ④
6. *Lavinia* ⑤
7. *Lavinia* ⑥
8. 評論①
9. *Lavinia* ⑦
10. *Lavinia* ⑧
11. *Lavinia* ⑨
12. *Lavinia* ⑩
13. 評論②
14. 全体講評会

履修者の習熟度や関心に合わせて、上記の予定表には多少の変更あり。

履修上の注意

授業は担当者の発表を中心に進められるが、担当者以外の学生も授業前に作品を精読し、積極的に議論に参加してもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表担当者は配布資料の作成と共に口頭発表の準備をする。各自、テキストを精読し、自分なりの問いを明確に持って授業に臨む。

教科書

- ① Ursula K. Le Guin, *Lavinia* (Weidenfeld & Nicolson, 2010).

参考書

- ② アーシュラ・K・ル＝グウィン (Ursula K. Le Guin) 『ラウィーニア』谷垣暁美 訳 (河出文庫, 2020)
- ③ Ursula K. Le Guin, *Cheek by Jowl: talks & essays on how & why fantasy matters* (Aqueduct Press, 2009).
- ④ Ursula K. Le Guin, *No Time to Sapre: Thinking about What Matters* (Mariner Books, 2019).

成績評価の方法

最終レポート 50%。平常点(口頭発表、議論への参加、出席) 50%。原則として全授業回数3分の2以上の出席が必要。

その他

秋学期だけ履修することは可能ですが、春学期の〈神話の再読と再創造①—アメリカ女性詩人を中心に—〉の授業から主題は継続しています。春学期の授業も参加すると、現代アメリカ女性作家による神話の再創造について多角的に考察できるとおもいます。

科目ナンバー: (AL) LIN542J			
英文学専攻		備考	
科目名	英語学演習I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 新城 真里奈		

授業の概要・到達目標

この授業は、英語音声学・音韻論に関する専門性の高い英語論文を読み解く場とします。履修学生に自身の研究に必要な論文を持ち寄っていただき、英文を正確に理解するだけでなく、論文で用いられている手法や結果・考察についてを批判的に検討する力を養います。英語音声学の中級程度の知識があることを前提として進めます。論文は英語音声学に関するものであれば、トピックは問いません。ご自身の研究テーマに合った論文を選んでください。自身の興味のあるテーマに関する知識を深めるだけでなく、他の履修者が持ち寄る論文を通して様々な研究上の手法や理論に触れ、幅広い知識を身に付けることを目標とします。

履修を希望する場合は、必ず初回の授業に出席してください。特殊な事情で出席できない場合は、必ずメール等で連絡すること。

授業内容

授業の内容や進度は受講者にあわせて調整する可能性があるが、以下の通りに予定している。

- 第1回
ガイダンス
- 第2～13回
英語論文を批判的に読む
(持ち寄る論文によって調整しますが、2週に1本程度のペースを予定しています。履修者全員が事前に論文を読んできていることを前提として授業を進めます。)
- 第14回
春学期のまとめ

履修上の注意

英語音声学に関する中級程度の知識を前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分が選んだ論文はもちろんのこと、他の学生が選んだ論文も事前に読んで来る必要があります。事前の予習の段階で、疑問点や批判点を見つけて、議論に参加できる状態で授業に出席すること。

教科書

特にありません。履修者に論文を選んでいただきます。

参考書

成績評価の方法

授業内発表30%、学期末レポート70%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN542J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師	新城 真里奈	

授業の概要・到達目標

この授業は、英語音声学・音韻論に関する専門性の高い英語論文を読み解く場とします。履修学生に自身の研究に必要な論文を持ち寄っていただき、英文を正確に理解するだけでなく、論文で用いられている手法や結果・考察についてを批判的に検討する力を養います。英語音声学の中級程度の知識があることを前提として進めます。論文は英語音声学に関するものであれば、トピックは問いません。ご自身の研究テーマに合った論文を選んでください。自身の興味のあるテーマに関する知識を深めるだけでなく、他の履修者が持ち寄る論文を通して様々な研究上の手法や理論に触れ、幅広い知識を身に付けることを目標とします。

履修を希望する場合は、必ず初回の授業に出席してください。特殊な事情で出席できない場合は、必ずメール等で連絡すること。

授業内容

授業の内容や進度は受講者にあわせて調整する可能性があるが、以下の通りに予定している。

第1回

ガイダンス

第2～13回

英語論文を批判的に読む

(持ち寄る論文によって調整しますが、2週に1本程度のペースを予定しています。履修者全員が事前に論文を読んできていることを前提として授業を進めます。)

第14回

秋学期のまとめ

履修上の注意

英語音声学に関する中級程度の知識を前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分が選んだ論文はもちろんのこと、他の学生が選んだ論文も事前に読んで来る必要があります。事前の予習の段階で、疑問点や批判点を見つけて、議論に参加できる状態で授業に出席すること。

教科書

特にありません。履修者に論文を選んでいただきます。

参考書

成績評価の方法

授業内発表30%、学期末レポート70%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習 I C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師	新城 真里奈	

授業の概要・到達目標

この授業は、英語音声学・音韻論に関する専門性の高い英語論文を読み解く場とします。履修学生に自身の研究に必要な論文を持ち寄っていただき、英文を正確に理解するだけでなく、論文で用いられている手法や結果・考察についてを批判的に検討する力を養います。英語音声学の中級程度の知識があることを前提として進めます。論文は英語音声学に関するものであれば、トピックは問いません。ご自身の研究テーマに合った論文を選んでください。自身の興味のあるテーマに関する知識を深めるだけでなく、他の履修者が持ち寄る論文を通して様々な研究上の手法や理論に触れ、幅広い知識を身に付けることを目標とします。

履修を希望する場合は、必ず初回の授業に出席してください。特殊な事情で出席できない場合は、必ずメール等で連絡すること。

授業内容

授業の内容や進度は受講者にあわせて調整する可能性があるが、以下の通りに予定している。

第1回

ガイダンス

第2～13回

英語論文を批判的に読む

(持ち寄る論文によって調整しますが、2週に1本程度のペースを予定しています。履修者全員が事前に論文を読んできていることを前提として授業を進めます。)

第14回

春学期のまとめ

履修上の注意

英語音声学に関する中級程度の知識を前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分が選んだ論文はもちろんのこと、他の学生が選んだ論文も事前に読んで来る必要があります。事前の予習の段階で、疑問点や批判点を見つけて、議論に参加できる状態で授業に出席すること。

教科書

特にありません。履修者に論文を選んでいただきます。

参考書

成績評価の方法

授業内発表30%、学期末レポート70%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習 I D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師	新城 真里奈	

授業の概要・到達目標

この授業は、英語音声学・音韻論に関する専門性の高い英語論文を読み解く場とします。履修学生に自身の研究に必要な論文を持ち寄っていただき、英文を正確に理解するだけでなく、論文で用いられている手法や結果・考察についてを批判的に検討する力を養います。英語音声学の中級程度の知識があることを前提として進めます。論文は英語音声学に関するものであれば、トピックは問いません。ご自身の研究テーマに合った論文を選んでください。自身の興味のあるテーマに関する知識を深めるだけでなく、他の履修者が持ち寄る論文を通して様々な研究上の手法や理論に触れ、幅広い知識を身に付けることを目標とします。

履修を希望する場合は、必ず初回の授業に出席してください。特殊な事情で出席できない場合は、必ずメール等で連絡すること。

授業内容

授業の内容や進度は受講者にあわせて調整する可能性があるが、以下の通りに予定している。

第1回

ガイダンス

第2～13回

英語論文を批判的に読む

(持ち寄る論文によって調整しますが、2週に1本程度のペースを予定しています。履修者全員が事前に論文を読んできていることを前提として授業を進めます。)

第14回

秋学期のまとめ

履修上の注意

英語音声学に関する中級程度の知識を前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分が選んだ論文はもちろんのこと、他の学生が選んだ論文も事前に読んで来る必要があります。事前の予習の段階で、疑問点や批判点を見つけて、議論に参加できる状態で授業に出席すること。

教科書

特にありません。履修者に論文を選んでいただきます。

参考書

成績評価の方法

授業内発表30%、学期末レポート70%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN542J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習 II A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	石井 透	

授業の概要・到達目標

この授業では、Radford (2023) Analyzing English Sentence Structure: An Intermediate Course in Syntaxを用いて、生成文法理論の統語論における基本的な概念及び生成文法理論の現在の枠組みである極小モデルで用いられている概念を、具体的な統語現象の分析を通じて徐々に身に付けていきます。具体的には、A Movement, Agreement, The Clause Peripheryを概観します。

授業内容

1. Organization Meeting
2. Background (1)
3. Background (2)
4. A Movement (1)
5. A Movement (2)
6. A Movement (3)
7. A Movement (4)
8. Agreement (1)
9. Agreement (2)
10. Agreement (3)
11. Agreement (4)
12. The Clause Periphery (1)
13. The Clause Periphery (2)
14. The Clause Periphery (3)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の該当箇所は事前に読んで下さい。

教科書

Andrew Radford (2023) Analyzing English Sentence Structure: An Intermediate Course in Syntax. Cambridge: Cambridge University Press.

参考書

特になし。

成績評価の方法

Presentations and Class Participation 20% , Homework 30% , Take-home Mid-term 20% , Final Squib 30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN542J			
英文学専攻		備考	
科目名	英語学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	石井 透	

授業の概要・到達目標

この授業では、Radford (2023) Analyzing English Sentence Structure: An Intermediate Course in Syntaxを用いて、生成文法理論の統語論における基本的な概念及び生成文法理論の現在の枠組みである極小モデルで用いられている概念を、具体的な統語現象の分析を通じて徐々に身に付けていきます。具体的には、More Peripheral Constituents, Subperiphery, Abbreviated Registersを概観します。

授業内容

1. The Clause Periphery (4)
2. More Peripheral Constituents (1)
3. More Peripheral Constituents (2)
4. More Peripheral Constituents (3)
5. More Peripheral Constituents (4)
6. Subperiphery (1)
7. Subperiphery (2)
8. Subperiphery (3)
9. Subperiphery (4)
10. Abbreviated Registers (1)
11. Abbreviated Registers (2)
12. Abbreviated Registers (3)
13. Abbreviated Registers (4)
14. Review

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の該当箇所は事前に読んで下さい。

教科書

Andrew Radford (2023) Analyzing English Sentence Structure: An Intermediate Course in Syntax. Cambridge: Cambridge University Press.

参考書

特になし。

成績評価の方法

Presentations and Class Participation 20% , Homework 30% , Take-home Mid-term 20% , Final Squib 30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻		備考	
科目名	英語学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	石井 透	

授業の概要・到達目標

この授業では、Radford (2023) Analyzing English Sentence Structure: An Intermediate Course in Syntaxを用いて、生成文法理論の統語論における基本的な概念及び生成文法理論の現在の枠組みである極小モデルで用いられている概念を、具体的な統語現象の分析を通じて徐々に身に付けていきます。具体的には、A Movement, Agreement, The Clause Peripheryを概観します。

授業内容

1. Organization Meeting
2. Background (1)
3. Background (2)
4. A Movement (1)
5. A Movement (2)
6. A Movement (3)
7. A Movement (4)
8. Agreement (1)
9. Agreement (2)
10. Agreement (3)
11. Agreement (4)
12. The Clause Periphery (1)
13. The Clause Periphery (2)
14. The Clause Periphery (3)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の該当箇所は事前に読んで下さい。

教科書

Andrew Radford (2023) Analyzing English Sentence Structure: An Intermediate Course in Syntax. Cambridge: Cambridge University Press.

参考書

特になし。

成績評価の方法

Presentations and Class Participation 20% , Homework 30% , Take-home Mid-term 20% , Final Squib 30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	石井 透	

授業の概要・到達目標

この授業では、Radford (2023) *Analyzing English Sentence Structure: An Intermediate Course in Syntax*を用いて、生成文法理論の統語論における基本的な概念及び生成文法理論の現在の枠組みである極小モデルで用いられている概念を、具体的な統語現象の分析を通じて徐々に身に付けていきます。具体的には、More Peripheral Constituents, Subperiphery, Abbreviated Registersを概観します。

授業内容

1. The Clause Periphery (4)
2. More Peripheral Constituents (1)
3. More Peripheral Constituents (2)
4. More Peripheral Constituents (3)
5. More Peripheral Constituents (4)
6. Subperiphery (1)
7. Subperiphery (2)
8. Subperiphery (3)
9. Subperiphery (4)
10. Abbreviated Registers (1)
11. Abbreviated Registers (2)
12. Abbreviated Registers (3)
13. Abbreviated Registers (4)
14. Review

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の該当箇所は事前に読んで下さい。

教科書

Andrew Radford (2023) *Analyzing English Sentence Structure: An Intermediate Course in Syntax*. Cambridge: Cambridge University Press.

参考書

特になし。

成績評価の方法

Presentations and Class Participation 20%, Homework 30%, Take-home Mid-term 20%, Final Squib 30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN542J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授	久保田 俊彦	

授業の概要・到達目標

計量的なテキスト分析の応用分野の中から、著者推定問題を扱う。重要な論文の講読し、使用された手法の意味を理解してもらう。期間中あるいは期末のレポートとして受講者による分析例を報告してもらう。

授業内容

以下の進行を予定している。

1. 計量的著者推定とは
 - 1.1 史的概観 (1)
 - 1.2 史的概観 (2)
 - 1.3 手法入門 (1) テキスト操作
 - 1.4 手法入門 (2) 数値・統計
 - 1.5 手法入門 (3) 数値・統計
2. 文学作品と著者推定
 - 2.1 論文1 (1)
 - 2.2 論文1 (2)
 - 2.3 論文2 (1)
 - 2.4 論文2 (2)
 - 2.5 まとめ
3. より高度な著者推定
 - 3.1 論文3 (1)
 - 3.2 論文3 (2)
 - 3.3 論文4 (1)
 - 3.4 論文4 (2)

履修上の注意

この分野についてある程度の知識を持っていることが望ましいが、実際の受講者のレベルに応じて内容、進度を調整する。

準備学習（予習・復習等）の内容

分析対象のテキストについて、よく理解しておくこと。

教科書

研究論文を使用するため特定の書籍教科書は使用しない予定。

参考書

Oakes, M. P. (2014) *Literary Detective Work on the Computer*. Amsterdam: John Benjamins.

石川慎一郎他 (2010) 『言語研究のための統計入門』東京：くろしお出版。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

授業内での発表等65%, レポート35%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN542J			
英文学専攻		備考	
科目名	英語学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 久保田 俊彦		

授業の概要・到達目標

英語文法の代表的な論点について、Quirk et al. (1985) 以降の英国を中心とした記述文法・伝統文法の系譜と、日本の英語文法教育の系譜にあるアプローチを紹介、分析する。Aarts (2018) の分析を出発点に、生成文法的なアプローチとこれらのアプローチの異同を確認し、その後、伝統的・教育的文法の中のバリエーションを確認する。また英国内で英語（すなわち国語）文法がどのように教えられているかにも注目する。高校英語教員を志望する受講者には特に有益な内容となるはずである。

授業内容

以下の進行を予定している。

- 「文型」論
 - Aarts (2018) の分析
 - (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (1)
 - (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (2)
 - (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (3)
 - 日本の英語英語文法の分析 (1)
 - 日本の英語英語文法の分析 (2)
- 「フレーズ」論
 - Aarts (2018) の分析
 - (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (1)
 - (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (2)
 - (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (3)
 - 日本の英語英語文法の分析 (1)
 - 日本の英語英語文法の分析 (2)
- その他の各論
 - トピック1
 - トピック2

履修上の注意

同じ講師の担当する「英語学演習ⅢA」とは独立した内容となっている。履修者がAarts (2018) の内容を理解していることを前提とする。随時受講者による報告・発表を行なってもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

自身が高校で使用した教科書、参考書の記述も確認すると良い。

教科書

Aarts, B. (2018). *English Syntax and Argumentation* (5th ed.). London: Palgrave Macmillan.
Aarts, B., Cushing, I., & Hudson, R. (2018). *How to Teach Grammar*. Oxford: Oxford University Press.

参考書

Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S., & Finegan, E. (1999). *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson Education.
Huddleston, R. D., & Pullum, G. K. (2002). *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G., & Svartvik, J. (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Harlow: Longman.
各種日本の文法書。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

授業内での発表等65%、レポート35%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻		備考	
科目名	英語学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 久保田 俊彦		

授業の概要・到達目標

計量的なテキスト分析の応用分野の中から、著者推定問題を扱う。重要な論文の講読し、使用された手法の意味を理解してもらう。期間中あるいは期末のレポートとして受講者による分析例を報告してもらう。

授業内容

以下の進行を予定している。

- 計量的著者推定とは
 - 史的概観 (1)
 - 史的概観 (2)
 - 手法入門 (1) テキスト操作
 - 手法入門 (2) 数値・統計
 - 手法入門 (3) 数値・統計
- 文学作品と著者推定
 - 論文1 (1)
 - 論文1 (2)
 - 論文2 (1)
 - 論文2 (2)
 - まとめ
- より高度な著者推定
 - 論文3 (1)
 - 論文3 (2)
 - 論文4 (1)
 - 論文4 (2)

履修上の注意

この分野についてある程度の知識を持っていることが望ましいが、実際の受講者のレベルに応じて内容、進度を調整する。

準備学習（予習・復習等）の内容

分析対象のテキストについて、よく理解しておくこと。

教科書

研究論文を使用するため特定の書籍教科書は使用しない予定。

参考書

Oakes, M. P. (2014) *Literary Detective Work on the Computer*. Amsterdam: John Benjamins.
石川慎一郎他 (2010) 『言語研究のための統計入門』東京：くろしお出版。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

授業内での発表等65%、レポート35%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻		備考	
科目名	英語学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 久保田 俊彦		

授業の概要・到達目標

英語文法の代表的な論点について、Quirk et al. (1985) 以降の英国を中心とした記述文法・伝統文法の系譜と、日本の英語文法教育の系譜にあるアプローチを紹介、分析する。Aarts (2018) の分析を出発点に、生成文法的なアプローチとこれらのアプローチの異同を確認し、その後、伝統的・教育的文法の中のバリエーションを確認する。また英国内で英語（すなわち国語）文法がどのように教えられているかにも注目する。高校英語教員を志望する受講者には特に有益な内容となるはずである。

授業内容

- 以下の進行を予定している。
- 1. 「文型」論
 - 1.1 Aarts (2018) の分析
 - 1.2 (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (1)
 - 1.3 (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (2)
 - 1.4 (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (3)
 - 1.5 日本の英語英語文法の分析 (1)
 - 1.6 日本の英語英語文法の分析 (2)
- 2. 「フレーズ」論
 - 2.1 Aarts (2018) の分析
 - 2.2 (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (1)
 - 2.3 (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (2)
 - 2.4 (英国) 記述文法・伝統文法の分析 (3)
 - 2.5 日本の英語英語文法の分析 (1)
 - 2.6 日本の英語英語文法の分析 (2)
- 3. その他の各論
 - 3.1 トピック1
 - 3.2 トピック2

履修上の注意

同じ講師の担当する「英語学演習ⅢC」とは独立した内容となっている。履修者がAarts (2018) の内容を理解していることを前提とする。随時受講者による報告・発表を行なってもらおう。

準備学習（予習・復習等）の内容

自身が高校で使用した教科書、参考書の記述も確認すると良い。

教科書

Aarts, B. (2018). *English Syntax and Argumentation* (5th ed.). London: Palgrave Macmillan.
 Aarts, B., Cushing, I., & Hudson, R. (2018). *How to Teach Grammar*. Oxford: Oxford University Press.

参考書

Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S., & Finegan, E. (1999). *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson Education.
 Huddleston, R. D., & Pullum, G. K. (2002). *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
 Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G., & Svartvik, J. (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Harlow: Longman.
 各種日本の文法書。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

授業内での発表等65%, レポート35%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT521J			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学特論ⅠA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任教授 辻 昌宏		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》エリザベス朝から18世紀末にいたる英詩を時代順に選んで精読しながら、詩の形式、リズムと詩らしい表現の味わい方を習得する。個々の詩を精読すると同時に、詩人の生涯及び詩人の生きた時代についても理解を深めていく。
 《到達目標》英詩の韻律の基礎を理解し、詩の形式の特徴を理解し、詩が産み出された各時代の政治的・文化的背景、詩人の生涯を調べながら、詩の歴史の概要を把握する。つまり、詩をめぐって、詩の表現技法を把握する手法を身につけると同時に、詩を生み出す個人、時代、詩の伝統を総合的に理解できるようにする。

授業内容

- 英詩の基礎的な約束事、レトリックを理解し、16世紀から18世紀にわたる英詩の特徴をとらえていく。
- 第1回 イントロダクション(詩とは何だろうか?)
 - 第2回 16, 17世紀のソネット その1
 - 第3回 16, 17世紀のソネット その2
 - 第4回 16, 17世紀のソネット その3
 - 第5回 形而上詩人の詩 その1
 - 第6回 形而上詩人の詩 その2
 - 第7回 形而上詩人の詩 その3
 - 第8回 ミルトン その1
 - 第9回 ミルトン その2
 - 第10回 ミルトン その3
 - 第11回 ドライデン その1
 - 第12回 ドライデン その2
 - 第13回 ドライデン その3
 - 第14回 まとめと総括

履修上の注意

詩を読む際には、あらゆる感覚を全開にして、なぜ「この表現」あるいはこのレトリックが選ばれたのかを考えながら読むようにして欲しい。また、どんな韻を用いているか、あるいは自由詩(無韻)なのかを区別しながら読みすすめていく。詩を読んだ経験は前提とせず、詩を読む基礎からすすめていく。詩人の生涯、生きた時代についても関心を持ち調べることを。
 授業内容は暫定的なもので、履修者が読むことを希望する詩人があれば、可能なかぎり希望に応じます。遠慮なく申し出てください。

準備学習（予習・復習等）の内容

詩を音読し、リズムや韻の響きあいを感じてみることを。
 詩人の生涯やその時代について文学辞典やインターネットで調べてみることを。

教科書

プリントを配布する。

参考書

Margaret Ferguson, Tim Kendall ed. *The Norton Anthology of Poetry*を基本とし、詩人ごとに順次紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

メールでコメントを付して返却する。

成績評価の方法

- 1. 授業で自分が担当した詩や批評に関する発表 50%
- 2. 授業中の意見・解釈表明や質問 25%
- 3. レポート(半期に1回の予定) 25%

その他

詩を読むことに不慣れな人、ほとんど読んだ経験のない人も歓迎します。詩の基本的形式・レトリックについては、初歩から丁寧に説明していきます。

科目ナンバー：(AL) LIT521J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特論I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任教授		辻 昌宏

授業の概要・到達目標

《授業の概要》18世紀の詩、ロマン派の詩、19世紀末の詩そして現代詩にいたる様々な時代、多様なジャンルの英詩を精読しながら、詩の表現、リズム、韻律を学んでいく。ロマン主義については、それを産み出した時代の状況、思想についても深掘りしていく。

《到達目標》英詩の韻律の基本を理解する。その上で、さらに、韻律の基本から逸脱したフリーヴァースを理解し、味わい方を習得する。定型詩とフリーヴァースそれぞれの特徴を解析し、味わえるようにする。ロマン主義の特徴とそれが出現した時代状況を理解する。各詩人の生涯を知り、詩人の詩作品と生涯、時代の相互に入り組んだ関係を把握する。

授業内容

- 第1回 ポープの詩 その1
- 第2回 ポープの詩 その2
- 第3回 ポープの詩 その3
- 第4回 ロマン派の詩 その1
- 第5回 ロマン派の詩 その2
- 第6回 ロマン派の詩 その3
- 第7回 ロマン派の詩 その4
- 第8回 ヴィクトリア朝詩人の詩 その1
- 第9回 ヴィクトリア朝詩人の詩 その2
- 第10回 ヴィクトリア朝詩人の詩 その3
- 第11回 世紀末詩人の詩
- 第12回 20世紀の詩 その1
- 第13回 20世紀の詩 その2
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

詩を読む際には、あらゆる感覚を全開にして、なぜ「この表現」あるいは「このレトリック」が選びとられたのかを考えてみよう。

詩人の生涯を調べ、生きた時代を知り、詩人の個性、詩の表現の形成された背景を知ろう。

取り上げる詩については、受講者の希望を尊重します。

準備学習（予習・復習等）の内容

詩の音読をすること。

詩人の生涯を文学辞典やインターネットで調べること。

教科書

プリントを配布する。

参考書

Margaret Ferguson, Tim Kendall ed. *The Norton Anthology of Poetry* を基本とし、詩人ごとに順次紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

メールでコメントを付して返却する。

成績評価の方法

1. 授業で自分が担当した詩や批評に関する発表 50%
2. 授業中の意見・解釈表明や質問 25%
3. レポート(半期に1回の予定) 25%

その他

詩を読むことに不慣れな人、経験の乏しい人も歓迎します。詩の基本的形式・レトリックについては、初歩から説明していきます。楽しく詩を読み、それぞれの時代に詩人はどう個性的だったか、時には差別を受けたりしたのか、どういう悩みや抑圧があったのか、それが転じてユニークな言語表現を産出するにいたったのかを考察してみよう。

科目ナンバー：(AL) LIN541J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	市橋 久美子	

授業の概要・到達目標

課題とされた論文を読み進めながら、意味論・語用論に関する基本的な概念を学ぶ。その知識をもとに、英語の様々な現象を、特に意味や機能・認知の観点から分析できるようにすることを目標とする。

授業内容

課題とされた論文を担当者が発表し、必要な解説を加えたうえでディスカッションを行う。下記に授業計画の1例を挙げるが、参加者の基礎知識レベルや興味に応じ、内容については柔軟に対応していく。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 1. Categories in thought and language
- 第3回 1. Categories in thought and language
- 第4回 2. Cognitive operations in thought and language
- 第5回 2. Cognitive operations in thought and language
- 第6回 3. From thought to language: Cognitive Grammar
- 第7回 3. From thought to language: Cognitive Grammar
- 第8回 4. Types of things: Nouns
- 第9回 4. Types of things: Nouns
- 第10回 4. Types of things: Nouns
- 第11回 5. Grounding things: Reference
- 第12回 5. Grounding things: Reference
- 第13回 5. Grounding things: Reference
- 第14回 Presentation

履修上の注意

言語学の基礎知識があると望ましいが、必須ではない。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に教科書または論文の該当箇所を読んでおくこと。

教科書

Cognitive English Grammar by G. Radden and R. Dirven, 2007 (John Benjamins)
(変更の可能性あり)

参考書

Grammar, Meaning and Pragmatics, edited by F. Brisard, et. al. 2009 (John Benjamins)
「認知言語学と談話機能言語学の有機的接点」 中山俊秀・大谷直輝 編、2020 (ひつじ書房)
「ファンダメンタル認知言語学」 野村益寛、2014 (ひつじ書房)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説・講評を行う。

成績評価の方法

授業への取り組み:60%
レポート:40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIN541J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 市橋 久美子		

授業の概要・到達目標

課題とされた論文を読み進めながら、意味論・語用論に関する基本的な概念を学ぶ。その知識をもとに、英語の様々な現象を、特に意味や機能・認知の観点から分析できるようにすることを目標とする。

授業内容

課題とされた論文を担当者が発表し、必要な解説を加えたうえでディスカッションを行う。下記に授業計画の1例を挙げるが、参加者の基礎知識レベルや興味に応じ、内容については柔軟に対応していく。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 6. Quantifying things: Quantifiers
- 第3回 6. Quantifying things: Quantifiers
- 第4回 6. Quantifying things: Quantifiers
- 第5回 7. Quantifying things: Modifiers
- 第6回 7. Quantifying things: Modifiers
- 第7回 7. Quantifying things: Modifiers
- 第8回 11. Event schemas* Sentence patterns
- 第9回 11. Event schemas* Sentence patterns
- 第10回 11. Event schemas* Sentence patterns
- 第11回 12. Space and extensions of space: Complements and adjuncts
- 第12回 12. Space and extensions of space: Complements and adjuncts
- 第13回 12. Space and extensions of space: Complements and adjuncts
- 第14回 Presentation

履修上の注意

春学期のAから続けての履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に教科書または論文の該当箇所を読んでおくこと。

教科書

Cognitive English Grammar by G. Radden and R. Dirven, 2007 (John Benjamins)
(変更の可能性あり)

参考書

Grammar, Meaning and Pragmatics, edited by F. Brisard, et. al. 2009 (John Benjamins)
「認知言語学と談話機能言語学の有機的接点」 中山俊秀・大谷直輝 編、2020 (ひつじ書房)
「ファンダメンタル認知言語学」 野村益寛、2014 (ひつじ書房)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説・講評を行う。

成績評価の方法

授業への取り組み:60%
レポート:40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIN561J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語教職特論I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 吉村 由佳		

授業の概要・到達目標

普遍文法を科学的に記述しようとする「生成文法」とは違い、いわゆる「学校文法」は言語の用法を重視し、対象言語を習得するにあたって必要とされる文法といえる。本科目は主に英語教員志望の学生を想定し、Quirk et al. (1985) やHuddleston and Pullum (2002, 2005)などに見られる伝統文法の枠組みを理解することで、英語の習得に資する文法理論を概観する。また、英語学習者が知るべき言語現象が辞書ではどのように記述されているかを見ることで、中学・高校などの教育現場で活用できる英文法への理解を深める。

授業内容

毎回、授業初めに復習内容についての小テストを行います。その後、教科書と配布資料を使って講義を行ないます。また、英文の配布資料は担当者を決めて、事前に要約を提出してもらいます。

- 第1回 文法理論とは何か?
- 第2回 第一章前半、英文資料 1
- 第3回 第一章後半、英文資料 2
- 第4回 第二章前半、英文資料 3
- 第5回 第二章後半、英文資料 4
- 第6回 第三章前半、英文資料 5
- 第7回 第三章後半、英文資料 6
- 第8回 第四章前半、英文資料 7
- 第9回 第四章後半、英文資料 8
- 第10回 第五章前半、英文資料 9
- 第11回 第五章後半、英文資料 10
- 第12回 第六章、英文資料 11
- 第13回 ここまでの達成度確認
- 第14回 a試験, bまとめ, 解説

履修上の注意

理由のない欠席が3分の1を超える場合、単位認定はできません。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習部分や復習部分は毎週指示します。課題についてもその都度、指示します。

教科書

『英米の文法書に学ぶ 英文法基礎論』田子内 健介著(開拓社)
ISBN: 978-4758922944

参考書

- 1 辞書
学習英和辞典(『ウィズダム英和辞典』『ジーニアス英和辞典』など)や学習英英辞典(Longman Dictionary of Contemporary Englishなど)を必ず持参すること。紙の辞書・電子辞書・アプリ・オンライン辞書などメディアにはこだわりますが、用法や例文を確認できるものを用意すること。
- 2 本
Biber, Johansson, Leech, Conrad, and Finegan (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Longman.
Huddleston and Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge University Press.
Huddleston and Pullum (2005) *A Student's Introduction to English Grammar*. Cambridge University Press.
南出康世 (1998) 『英語の辞書と辞書学』大修館書店。
Quirk et al. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
Swan, M. (2017) *Practical English Usage (4th)*. Oxford University Press.
八木克正 (2011) 『英語の疑問 新解決法—伝統文法と言語理論を統合して』三省堂。

課題に対するフィードバックの方法

授業内もしくはOh-ol Meijiを使って説明する。

成績評価の方法

平常点(小テスト・発言・提出物・授業への貢献度など)50%, 期末試験50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN561J			
英文学専攻		備考	
科目名	英語教職特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 中村 文紀		

授業の概要・到達目標

このクラスでは、英語の分析において役立つ意味論と語用論について学びます。言葉の意味は一見当たり前のように思えますが、厳密に分析しようとするとき捉えどころがないものです。このような言葉の意味を探索する分野が意味論です。また、表現の持つ意味を理解したとしても、実際の使用状況においては別の意味で使われることがあります。この文字通りの意味と使用状況における意味の違いを分析するのに役立つ概念を学ぶのが語用論です。

この授業では、学んだ内容を応用して問題解決ができることを目標にします。意味論と語用論における概念や手法を、実際の言語現象に適用して説明することが評価の基準になります。理解と実践の間に存在するギャップは、思われているよりも大きいものです。この授業を通じて、単に意味論や語用論を知っているだけでなく、具体的な問題を解決するための実用的な知識と知恵を身につけていただきたいと思います。

授業内容

初回に担当者（グループ）を決めて、発表してもらい形で進めます。各回の授業進行は大まかには以下のように予定しています。

1. 担当者による教科書担当箇所を発表によって理解する。(理解)
2. 教員による発展的内容・具体的な研究事例の紹介によって使い方を考える。(発展)
3. 実際の(日)英語の例題・文例を用いて、実際に分析を試みる。(応用)

- 第1週 ガイダンス(担当者決め)、(目には見えない)意味とは何か？
- 第2週 Textbook Chapter 1 Studying meaning
- 第3週 Textbook Chapter 2 Sense relations
- 第4週 Textbook Chapter 3 Nouns
- 第5週 Textbook Chapter 4 Adjectives
- 第6週 Textbook Chapter 5 Verbs
- 第7週 Textbook Chapter 6 Tense and aspect
- 第8週 Textbook Chapter 7 Modality, scope and quantification
- 第9週 意味論と語用論の連続性: Today's semantics is yesterday's pragmatics.
- 第10週 Textbook Chapter 8 Pragmatic Inference
- 第11週 Textbook Chapter 9 Figurative language
- 第12週 Textbook Chapter 10 Utterance in context
- 第13週 Textbook Chapter 11 Doing things with words
- 第14週 意味の拡がり、最終課題発表

受講者の人数・理解度によって授業方法・速度について変更があります。

履修上の注意

関連する授業(統語論、音声学、コーパス言語学、意味論)を取っておくと言語学全体における意味論・語用論の位置付けと有用性がより明確に理解できると思います。

準備学習(予習・復習等)の内容

<予習>

担当しているかどうかに関わらず、教科書の指定範囲を必ず読んで下さい。章末の Exercisesについても担当者は(間違っても良いので)解答して下さい。

<復習>

学んだ内容と関連する日英語の実例を集め、分析してください。その時、どのようなデータが適切か考え選択できることも、意味論・語用論を使う上で重要な技能になります。

教科書

Griffiths, Patrick. (2023). An Introduction to English Semantics and Pragmatics, 3rd edition. Edinburgh University Press. ISBN: 9781399504614

参考書

関連する文献は、授業内で適宜紹介しますが、授業全体を通しては以下の書籍を参考文献として紹介します。

- Cruse, Alan D. (2006). Glossary of Semantics and Pragmatics. Edinburgh University Press.
- Cruse, Alan D. (2011). Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics. Oxford University Press. (片岡宏仁(訳). (2012). 『言語における意味: 意味論と語用論』. 東京電機大学出版局.)
- Lyons, John. (1977) Semantics. 2vols. Cambridge University Press.

課題に対するフィードバックの方法

発表については、その場でコメントします。書かれたものについてはフィードバックを書き込んで返却する予定です。

成績評価の方法

50%授業内課題(コメントシート、小テスト、担当箇所発表)、50%最終課題

その他

言葉の意味は、誰しもが話すことができる以上、知っていると思われがちですが、少し考えてみると多くの謎があります。たとえば、「恋」と「愛」の違いについて自信をもって説明できますか？「sweet」と「甘い」は、何が同じで何が異なるのでしょうか？「Good morning」や「Hello」という表現の意味は何でしょうか？「How are you?」や「What do you do?」には、単語と文法だけでは解釈できない特別な意味が含まれています。「I wish I could.」や「行けたら行くわ。」が断りの意味を持つのはなぜでしょうか？これらは言語の謎のほんの一部に過ぎません。これらの素朴な疑問に答えるために、意味論や語用論を含む言語学という学問は、時間をかけて必要な概念やツール、実証方法を開発してきました。言語の謎に言語学のツールを用いて挑むことで、研究という活動の難しさと面白さを体験していただきたいと思います。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	近代仏文学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 小島 久和		

授業の概要・到達目標

フランス・ルネサンス期の女流詩人Pernette du Guilletの作品を精読していきます。これによってリヨン派に属した詩人の作品の特長を理解すると同時に、16世紀フランス語の文法と語彙の習得を目指します。

授業内容

Pernette du Guilletの*Rymes* (1545) をテキストに選んで、精読していきます。この作品は10音綴10行詩(エピグラム)を基本構造とする「恋愛詩」で、リヨン派を代表する作品の一つに数えられています。16世紀のフランス語は現代のフランス語と文法(統辞法)や綴字法に違いがあるので、一つ一つの単語を丁寧に調べて文の構造を分析してください。

<授業の進度> 1回の授業で2編のエピグラムを読解します。

(第1回) Pernette du Guilletの文学史上の位置について

- (第2回) Epigramme I, II
- (第3回) Epigramme III, IV
- (第4回) Epigramme V, VI
- (第5回) Epigramme VII, VIII
- (第6回) Epigramme IX, X
- (第7回) Epigramme XI, XII
- (第8回) Epigramme XIII, XIV
- (第9回) Epigramme XV, XVI
- (第10回) Epigramme XVII, XVIII
- (第11回) Epigramme XIX, XX
- (第12回) Epigramme XXI, XXII
- (第13回) Epigramme XXIII, XXIV
- (第14回) Epigramme XXV, XXVI

履修上の注意

慣れない16世紀フランス語で書かれたテキストを読むには、それなりの時間をかけなければなりません。語句の意味を調べるためには、手持ちの辞書の他に、Edmond Huguet, *Dictionnaire de la Langue française du Seizieme siecle*, A. J. Greimas, T. M. Keane, *Dictionnaire du Moyen français (la Renaissance)*を必ず参照してください。これらの辞書は明治大学中央図書館に開架されています。

また、文法事項の確認のためには、『新フランス文法事典』朝倉季雄著、木下光一校閲(白水社)や『フランス語統辞論』島岡茂著(大学書林)を参照すると良いでしょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容の項で記したように、毎回2編のエピグラムを精読しますので、複数の辞書を使って、単語を丁寧に調べる必要があります。特に、現代のフランス語では当たり前の文型や語順が守られているとは限りませんので、文の構造をよく調べてください。

教科書

Pernette du Guillet, *Rymes*, Edition de Françoise Charpentier, Gallimard, 1983.
プリント配布の予定です。

参考書

参考書は適宜紹介します。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(単語の丁寧な下調べ、訳文の正確さ)(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻	備考		
科目名	近代仏文学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	小島 久和	

授業の概要・到達目標

フランス・ルネサンス期の詩作品の中から、Pernette du Guilletの*Rymes* (1545)をテキストに選んで、精読していきます。これによって、リヨン派に属した詩人の作品の特長を理解すると同時に、16世紀フランス語の文法と語彙の習得を目標とします。

授業内容

Pernette du Guilletの*Rymes* (1545)をテキストに選んで、精読していきます。この作品は10音綴10行詩(エピグラム)を基本構造とする「恋愛詩」で、リヨン派を代表する作品の一つに数えられています。16世紀のフランス語は現代のフランス語と文法(統辞法)や綴字法に違いがあるので、一つ一つの単語を丁寧に調べて文の構造を分析してください。
 〈授業の進度〉1回の授業で2編のエピグラムを読解します。
 (第1回) Pernette du Guilletの文学史上の位置について再確認。
 (第2回) Epigramme XXIV, XXVI
 (第3回) Epigramme XXVII, XXVIII
 (第4回) Epigramme XXIX, XXX
 (第5回) Epigramme XXXI, XXXII
 (第6回) Epigramme XXXIII, XXXIV
 (第7回) Epigramme XXXV, XXXVI
 (第8回) Epigramme XXXVII, XXXVIII
 (第9回) Epigramme XXXIX, XL
 (第10回) Epigramme XLI, XLII
 (第11回) Epigramme XLIII, XLIV
 (第12回) Epigramme XLV, XLVI
 (第13回) Epigramme XLVII, XLVIII
 (第14回) Epigramme XLIX, L

履修上の注意

慣れないフランス語で書かれたテキストを読むには、それなりの時間をかけなければなりません。語句の意味を調べるためには、手持ちの辞書の他に、Edmond Huguet, *Dictionnaire de la Langue française du Seizieme siecle*, A. J. Greimas, T. M. Keane, *Dictionnaire du Moyen français (la Renaissance)*を必ず参照してください。これらの辞書は明治大学中央図書館に開架されています。
 また、文法事項の確認のためには、『新フランス文法事典』朝倉季雄著、木下光一校閲(白水社)や『フランス語統辞論』島岡茂著(大学書林)を参照すると良いでしょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回2編のエピグラムを精読しますので、事前に複数の辞書を使って、単語を丁寧に調べてください。

教科書

Pernette du Guillet, *Rymes*, Edition de Françoise Charpentier, Gallimard, 1983
 プリント配布の予定です。

参考書

参考書は適宜紹介します。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(70%), レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻	備考		
科目名	近代仏文学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	小島 久和	

授業の概要・到達目標

フランス・ルネサンス期の詩作品の中から、Pernette du Guilletの*Rymes*を選び、精読していきます。これによって、作品の理解並びに16世紀フランス語の文法と語彙の習得を目指します。

授業内容

Pernette du Guilletの*Rymes* (1545)をテキストに選んで、精読していきます。この作品は10音綴10行詩(エピグラム)を基本構造とする「恋愛詩」で、リヨン派を代表する作品の一つに数えられています。16世紀のフランス語は現代のフランス語と文法(統辞法)や綴字法に違いがあるので、一つ一つの単語を丁寧に調べて文の構造を分析してください。
 〈授業の進度〉1回の授業で2編のエピグラムを読解します。
 (第1回) Pernette du Guilletの文学史上の位置について説明。
 (第2回) Epigramme I, II
 (第3回) Epigramme III, IV
 (第4回) Epigramme V, VI
 (第5回) Epigramme VII, VIII
 (第6回) Epigramme IX, X
 (第7回) Epigramme XI, XII
 (第8回) Epigramme XIII, XIV
 (第9回) Epigramme XV, XVI
 (第10回) Epigramme XVII, XVIII
 (第11回) Epigramme XIX, XX
 (第12回) Epigramme XXI, XXII
 (第13回) Epigramme XXIII, XXIV
 (第14回) Epigramme XXV, XXVI

履修上の注意

慣れないフランス語で書かれたテキストを読むには、それなりの時間をかけなければなりません。語句の意味を調べるためには、手持ちの辞書の他に、Edmond Huguet, *Dictionnaire de la Langue française du Seizieme siecle*, A. J. Greimas, T. M. Keane, *Dictionnaire du Moyen français (la Renaissance)*を必ず参照してください。これらの辞書は明治大学中央図書館に開架されています。
 また、文法事項の確認のためには、朝倉季雄著、木下光一校閲『新フランス文法事典』(白水社)や島岡茂『フランス語統辞論』(大学書林)を参照すると良いでしょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容の項で記したように、毎回2編のエピグラムを精読しますので、複数の辞書を使って、単語を丁寧に調べる必要があります。
 また、現代のフランス語では当たり前の文型や語順が守られているとは限りませんので、文の構造を調べてください。

教科書

Pernette du Guillet, *Rymes*, Edition de Françoise Charpentier, Gallimard, 1983
 プリント配布の予定です。

参考書

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法

平常点(予習の緻密さ)(70%), レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	近代仏文学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 小島 久和		

授業の概要・到達目標

フランス・ルネサンス期の詩作品を精読し、リヨン派に属した詩人の作品の特長を理解すると同時に、16世紀フランス語の文法と語彙の習得を目標とします。

授業内容

Pernette du Guilletの*Rymes* (1545)をテキストに選んで、精読していきます。この作品は10音綴10行詩(エピグラム)を基本構造とする「恋愛詩」で、リヨン派を代表する作品の一つに数えられています。16世紀のフランス語は現代のフランス語とや文法(統辞法)や綴字法に違いがあるので、一つ一つの単語を丁寧に調べて文の構造を分析してください。

〈授業の進度〉1回の授業で2編のエピグラムを読解します。
 (第1回) Pernette du Guilletの文学史上の位置について解説。
 (第2回) Epigramme XXV, XXVI
 (第3回) Epigramme XXVII, XXVIII
 (第4回) Epigramme XXIX, XXX
 (第5回) Epigramme XXXI, XXXII
 (第6回) Epigramme XXXIII, XXXIV
 (第7回) Epigramme XXXV, XXXVI
 (第8回) Epigramme XXXVII, XXXVIII
 (第9回) Epigramme XXXIX, XL
 (第10回) Epigramme XLI, XLII
 (第11回) Epigramme XLIII, XLIV
 (第12回) Epigramme XLV, XLVI
 (第13回) Epigramme XLVII, XLVIII
 (第14回) Epigramme XLIX, L

履修上の注意

慣れないフランス語で書かれたテキストを読むには、それなりの時間をかけなければなりません。語句の意味を調べるためには、手持ちの辞書の他に、Edmond Huguet, *Dictionnaire de la Langue française du Seizieme siecle*, A. J. Greimas, T. M. Keane, *Dictionnaire du Moyen français (la Renaissance)*を必ず参照してください。これらの辞書は明治大学中央図書館に開架されています。

また、文法事項の確認のためには、朝倉季雄著、木下光一校閲『新フランス文法事典』(白水社)や島岡茂『フランス語統辞論』(大学書林)を参照すると良いでしょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回2編のエピグラムを精読しますので、事前に複数の辞書を使って、単語を丁寧に調べてください。

教科書

Pernette du Guillet, *Rymes*, Edition de Françoise Charpentier, Gallimard, 1983.
 プリント配布の予定です。

参考書

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法

平常点(予習の緻密さ)(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	近代仏文学演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(フランス文学・文明) 奥 香織		

授業の概要・到達目標

身体性や感受性という観点から、18世紀フランスの芸術(主として演劇と絵画)について検討していきます。演劇と絵画、両者の関わり合いにも目を向けながら作品や理論的著作を分析し、また現代に書かれた論考も精読しながら、この時代の感性や美学の傾向について考えていきます。春学期は、主としてデイドロ『サロン』の抜粋を読み解き、芸術作品の具体的な分析も行いながら考察を深めていきます。この他にも、履修者のみなさんの関心領域の著作(原文の抜粋等)を読んだり、発表してもらったりする機会も設け、ディスカッションをしながら授業を進めていきます。

授業内容

以下のように進める予定ですが、受講者のみなさんの興味・関心を聞きながら、初回に調整を行います。

第1回：18世紀のフランスにおける演劇と絵画の関わり合い
 第2回：Boucher et pastorales, Salon de 1761 (1)
 第3回：Boucher et pastorales, Salon de 1761 (2)
 第4回：Boucher, Jupiter et Callisto, Salon de 1765 (1)
 第5回：Boucher, Jupiter et Callisto, Salon de 1765 (2)
 第6回：発表とディスカッション
 第7回：発表とディスカッション
 第8回：Vernet et paysages (1)
 第9回：Vernet et paysages (2)
 第10回：Greuze et pathétique bourgeois, Salon de 1765 (1)
 第11回：Greuze et pathétique bourgeois, Salon de 1765 (2)
 第12回：発表とディスカッション
 第13回：発表とディスカッション
 第14回：全体のまとめ

履修上の注意

必ず予習をしてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の予習のほか、関連する文献も積極的に読んでください。

教科書

初回の授業で指示します。また必要に応じてプリントを配布します。

参考書

授業で随時提示します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時あるいは個別にフィードバック(コメント)を行います。

成績評価の方法

平常点70%(授業への意欲的な参加)
 レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	近代仏文学演習ⅣB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(フランス文学・文明) 奥 香織		

授業の概要・到達目標

身体性や感受性という観点から、18世紀後半～19世紀前半フランスの芸術(主として演劇と絵画)について検討していきます。演劇と絵画、両者の関わり合いにも目を向けながら作品や理論的著作を分析し、また現代に書かれた論考も精読しながら、この時代の感性や美学の傾向について考えていきます。秋学期は、とくにle tragique, le pathétiqueを軸に、革命期～帝政期の演劇と絵画およびその関係性を中心に考察していきます。この他にも、履修者のみなさんの関心領域の著作(原文の抜粋等)を読んだり、発表してもらったりする機会も設け、ディスカッションをしながら授業を進めていきます。

授業内容

以下のように進める予定ですが、受講者のみなさんの興味・関心聞きながら、初回に調整を行います。

- 第1回：演劇と絵画における le tragique, le pathétique
- 第2回：革命期の演劇と悲劇性・悲壮さ
- 第3回：M.-J. Chénier, Charles IX, lecture 1
- 第4回：M.-J. Chénier, Charles IX, lecture 2
- 第5回：M.-J. Chénier, Charles IX, lecture 3
- 第6回：M.-J. Chénier, Charles IX, lecture 4
- 第7回：M.-J. Chénier, Charles IX, lecture 5
- 第8回：革命期の舞台とpathétique 1 (発表とディスカッション)
- 第9回：革命期の舞台とpathétique 2 (発表とディスカッション)
- 第10回：俳優タルマと画家ダヴィッド
- 第11回：革命期の演劇と身体
- 第12回：発表とディスカッション
- 第13回：発表とディスカッション
- 第14回：全体のまとめ

履修上の注意

必ず予習をしてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の予習のほか、関連する文献も積極的に読んでください。

教科書

初回の授業で指示します。また必要に応じてプリントを配布します。

参考書

授業で随時提示します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時あるいは個別にフィードバック(コメント)を行います。

成績評価の方法

平常点70%(授業への意欲的な参加)
レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	近代仏文学演習ⅣC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(フランス文学・文明) 奥 香織		

授業の概要・到達目標

身体性や感受性という観点から、18世紀フランスの芸術(主として演劇と絵画)について検討していきます。演劇と絵画、両者の関わり合いにも目を向けながら作品や理論的著作を分析し、また現代に書かれた論考も精読しながら、この時代の感性や美学の傾向について考えていきます。春学期は、主としてデイドロ『サロン』の抜粋を読み解き、芸術作品の具体的な分析も行いながら考察を深めていきます。この他にも、履修者のみなさんの関心領域の著作(原文の抜粋等)を読んだり、発表してもらったりする機会も設け、ディスカッションをしながら授業を進めていきます。

授業内容

以下のように進める予定ですが、受講者のみなさんの興味・関心聞きながら、初回に調整を行います。

- 第1回：18世紀のフランスにおける演劇と絵画の関わり合い
- 第2回：Boucher et pastorales, Salon de 1761 (1)
- 第3回：Boucher et pastorales, Salon de 1761 (2)
- 第4回：Boucher, Jupiter et Callisto, Salon de 1765 (1)
- 第5回：Boucher, Jupiter et Callisto, Salon de 1765 (2)
- 第6回：発表とディスカッション
- 第7回：発表とディスカッション
- 第8回：Vernet et paysages (1)
- 第9回：Vernet et paysages (2)
- 第10回：Greuze et pathétique bourgeois, Salon de 1765 (1)
- 第11回：Greuze et pathétique bourgeois, Salon de 1765 (2)
- 第12回：発表とディスカッション
- 第13回：発表とディスカッション
- 第14回：全体のまとめ

履修上の注意

必ず予習をしてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の予習のほか、関連する文献も積極的に読んでください。

教科書

初回の授業で指示します。また必要に応じてプリントを配布します。

参考書

授業で随時提示します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時あるいは個別にフィードバック(コメント)を行います。

成績評価の方法

平常点70%(授業への意欲的な参加)
レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	近代仏文学演習ⅣD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(フランス文学・文明) 奥 香織		

授業の概要・到達目標

身体性や感受性という観点から、18世紀後半～19世紀前半フランスの芸術(主として演劇と絵画)について検討していきます。演劇と絵画、両者の関わり合いにも目を向けながら作品や理論的著作を分析し、また現代に書かれた論考も精読しながら、この時代の感性や美学の傾向について考えていきます。秋学期は、とくにle tragique, le pathétiqueを軸に、革命期～帝政期の演劇と絵画およびその関係性を中心に考察していきます。この他にも、履修者のみなさんの関心領域の著作(原文の抜粋等)を読んだり、発表してもらったりする機会も設け、ディスカッションをしながら授業を進めていきます。

授業内容

以下のように進める予定ですが、受講者のみなさんの興味・関心を聞きながら、初回に調整を行います。

- 第1回：演劇と絵画における le tragique, le pathétique
- 第2回：革命期の演劇と悲劇性・悲壮さ
- 第3回：M.-J. Chénier, Charles IX, lecture 1
- 第4回：M.-J. Chénier, Charles IX, lecture 2
- 第5回：M.-J. Chénier, Charles IX, lecture 3
- 第6回：M.-J. Chénier, Charles IX, lecture 4
- 第7回：M.-J. Chénier, Charles IX, lecture 5
- 第8回：革命期の舞台とpathétique 1 (発表とディスカッション)
- 第9回：革命期の舞台とpathétique 2 (発表とディスカッション)
- 第10回：俳優タルマと画家ダヴィッド
- 第11回：革命期の演劇と身体
- 第12回：発表とディスカッション
- 第13回：発表とディスカッション
- 第14回：全体のまとめ

履修上の注意

必ず予習をしてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の予習のほか、関連する文献も積極的に読んでください。

教科書

初回の授業で指示します。また必要に応じてプリントを配布します。

参考書

授業で随時提示します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時あるいは個別にフィードバック(コメント)を行います。

成績評価の方法

平常点70%(授業への意欲的な参加)
レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) PHL612J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	合田 正人	

授業の概要・到達目標

16世紀フランスの文学者モンテーニュと17世紀オランダの哲学者スピノザについて考える。正確な読解能力を養うとともに、みずからの関心に即して問題を立て、それについて推論する能力を錬成することが本講義の目標である。

授業内容

- 第1回：講義の概要と進め方
- 第2回：モンテーニュの生涯と著作
- 第3回：スピノザの生涯と著作
- 第4回：モンテーニュ『エッセー』を読む①
- 第5回：続き②
- 第6回：続き③
- 第7回：続き④
- 第8回：続き⑤
- 第9回：続き⑥
- 第10回：メルロ＝ポンティのモンテーニュ論を読む①
- 第11回：続き②
- 第12回：続き③
- 第13回：受講者による研究発表①
- 第14回：続き②

履修上の注意

受講者には、講義で取り上げるテキストの訳読やささまざまな調査を担当してもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

読解するテキストの当該箇所についてあらかじめしっかり調査し、担当でない場合にも訳文を作成し、問題点をまとめておくこと。また、講義後にも、そこで問題となった諸点について思考を継続すること。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書

適宜指示する。資料も適宜配布する。

成績評価の方法

授業への貢献度

その他

科目ナンバー：(AL) PHL612J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅠC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 合田 正人		

授業の概要・到達目標

16世紀フランスの文学者モンテーニュと17世紀オランダの哲学者スピノザについて考える。正確な読解能力を養うとともに、みずからの関心に即して問題を立て、それについて推論する能力を錬成することが本講義の目標である。

授業内容

- 第1回：講義の概要と進め方
- 第2回：モンテーニュの生涯と著作
- 第3回：スピノザの生涯と著作
- 第4回：モンテーニュ『エッセー』を読む①
- 第5回：続き②
- 第6回：続き③
- 第7回：続き④
- 第8回：続き⑤
- 第9回：続き⑥
- 第10回：メルロ＝ポンティのモンテーニュ論を読む①
- 第11回：続き②
- 第12回：続き③
- 第13回：受講者による研究発表①
- 第14回：続き②

履修上の注意

受講者には、講義で取り上げるテキストの訳読やさまざまな調査を担当してもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

読解するテキストの当該箇所についてあらかじめしっかり調査し、担当でない場合にも訳文を作成し、問題点をまとめておくこと。また、講義後にも、そこで問題となった諸点について思考を継続すること。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書

適宜指示する。資料も適宜配布する。

成績評価の方法

授業への貢献度

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632F			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 学術博士 根本 美作子		

授業の概要・到達目標

Ce semestre, nous allons lire un récit de Balzac, probablement "Adieu", en essayant de dégager la thématique du même, de l'identité et de la perte.

授業内容

- 1) Présentation d'Adieu
- 2) ~ 14) Lecture du récit en analysant à chaque fois les ressorts narratifs et leurs effets sur l'économie du texte.

履修上の注意

Bien préparer le cours. Ne pas seulement traduire et lire, mais tenter d'élever le niveau de lecture à une vision et apprendre à analyser le dispositif narratif.

準備学習（予習・復習等）の内容

Ibidem.

教科書

Imprimés

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Tout se passe en cours. Mais évidemment, vous pouvez vous adresser à moi à tout moment (sauf pendant les vacances et jours fériés) par email et nous parlerons de vos travaux.

成績評価の方法

Participation au cours (50%), travail écrit final (50%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632F			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	学術博士	根本 美作子

授業の概要・到達目標

Ce semestre, nous lirons l'essai "Sur la lecture" de Marcel Proust avec pour thème le proche et le lointain. Tout en essayant de dégager cette thématique à l'œuvre dans cet essai, nous verrons comment ce texte court annonce toute "La Recherche" (Ce programme est susceptible de modifications selon le niveau des participants).

授業内容

- 1) - 3) Présentation du livre et du travail que nous effectuerons.
- 4) ~ 13) Lecture "Sur la lecture".
- 14) Séance récapitulative où on discutera de l'apport du texte à nos propres lectures.

履修上の注意

Bien préparer les cours. Bien préparer le texte à lire qui est difficile. Donc bien écouter pendant le cours. Participer activement. Faire une lecture engagée du texte.

準備学習（予習・復習等）の内容

Ibidem.
Lire et s'informer.
Chaque étudiant préparera également un résumé de chaque cours précédant, pour marquer les étapes de notre compréhension du texte.

教科書

Marcel Proust, "Sur la lecture". Je distribuerai le texte en PDF.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Discussions actives en cours. Vous êtes également libres de prendre rendez-vous avec moi par email à tout moment de l'année sauf les vacances et jours fériés.

成績評価の方法

70% de participation, 30% de travail écrit final

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632F			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	学術博士	根本 美作子

授業の概要・到達目標

Ce semestre, nous allons lire un récit de Balzac, probablement "Adieu", en essayant de dégager la thématique du même, de l'identité et de la perte.

授業内容

- 1) Présentation d'Adieu
- 2) ~ 14) Lecture du récit en analysant à chaque fois les ressorts narratifs et leurs effets sur l'économie du texte.

履修上の注意

Bien préparer les cours. Ne pas seulement traduire et lire, mais tenter d'élever le niveau de lecture à une vision et apprendre à analyser le dispositif narratif.

準備学習（予習・復習等）の内容

Ibidem.

教科書

Imprimés

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Tout se passe en cours. Mais évidemment, vous pouvez vous adresser à moi à tout moment (sauf pendant les vacances et jours fériés) par email et nous parlerons de vos travaux.

成績評価の方法

Participation au cours (50%), travail écrit final (50%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632F			
仏文学専攻	備考		
科目名	現代仏文学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 学術博士 根本 美作子		

授業の概要・到達目標

Ce semestre, nous lirons l'essai "Sur la lecture" de Marcel Proust avec pour thème le proche et le lointain. Tout en essayant de dégager cette thématique à l'œuvre dans cet essai, nous verrons comment ce texte court annonce toute "La Recherche" (Ce programme est susceptible de modifications selon le niveau des participants).

授業内容

- 1) - 3) Présentation du livre et du travail que nous effectuerons.
- 4) ~ 13) Lecture "Sur la lecture".
- 14) Séance récapitulative où on discutera de l'apport du texte à nos propres lectures.

履修上の注意

Bien préparer les cours. Bien préparer le texte à lire qui est difficile. Donc bien écouter pendant le cours. Participer activement. Faire une lecture engagée du texte.

準備学習（予習・復習等）の内容

Ibidem.
Lire et s'informer.
Chaque étudiant préparera également un résumé de chaque cours précédant, pour marquer les étapes de notre compréhension du texte.

教科書

Marcel Proust, "Sur la lecture". Je distribuerai le texte en PDF.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Discussions actives en cours. Vous êtes également libres de prendre rendez-vous avec moi par email à tout moment de l'année sauf les vacances et jours fériés.

成績評価の方法

70% de participation, 30% de travail écrit final

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻	備考		
科目名	現代仏文学演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 谷口 亜沙子		

授業の概要・到達目標

Alain Parrau, *Écrire les camps*, Belin, 1995を講読しながら、「収容所文学」が提起する問題について考えます。収容所における極限体験やそれをめぐる言葉について考えることは、人間存在、表現、記憶、歴史、フィクション等について考えることでもあります。授業は訳読、要約、発表、対話によって進めますが、毎回なんらかのかたちで、各人が自分自身の論文執筆のためのヒントや手掛かりを引き出してください。

授業内容

- 第1回 Témoignage et survivant
- 第2回 Témoignage et vérité
- 第3回 Le survivant: Autour d'Eliahs Canetti
- 第4回 Modèle raciste et modèle guerrier
- 第5回 Une écriture sous condition
- 第6回 Savoir et vérité de l'inhumain
- 第7回 Travail de la fiction
- 第8回 Langage et oppression
- 第9回 La littérature comme résistance à l'inhumain
- 第10回 La littérature dans les camps
- 第11回 Littérature et survie
- 第12回 Littérature abaissée, littérature complice
- 第13回 L'exemple d'Essenine
- 第14回 Ethique de la science et "Lyrisme"

履修上の注意

毎週の授業の進め方は履修者と相談しながら決めますので、変更もありえます。

準備学習（予習・復習等）の内容

この本を読みながら気になったもの（他の著作、映画、歴史書等）に、なんであれ手を伸ばすようにしてみてください。

教科書

Alain Parrau, *Écrire les camps*, Belin, 1995

参考書

ロバート・イーグルストン『ホロコーストとポストモダン』田尻芳樹・太田晋訳、みすず書房、2013年。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題を課した場合には、ワードコメントで添削を行い、教室でアドバイスをします。

成績評価の方法

平常点（課題に対する取り組み方、音読の正確さ、訳読の達成度、解釈における厳密さ、ディスカッションにおける主体性等）。学期中に小レポートを課す可能性もあります。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅣB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 谷口 亜沙子		

授業の概要・到達目標

春学期の講義で得た知識を土台として、様々な収容所文学や証言作品、日記等を取りあげます。とくに、女性の書き手による作品を中心に、文学と証言の境界、詩的言語と声、等の問題について考えます。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Primo Levi, *Si c'est un homme*
- 第3回 Sarah Helm, *Si c'est une femme*
- 第4回 Micheline Maurel, *Un camp tres ordinaire Poche*
- 第5回 Charlotte Delbo, *Auschwitz et apres*
- 第6回 Helene Berr, *Journal*
- 第7回 Magda Hollander-Lafon, *Quatre petits bouts de pain*
- 第8回 Sarah Kofman, *Rue Ordener, rue Labat*
- 第9回 Germaine Tillion, *Ravensbruck*
- 第10回 Margarete Buber-neumann, *Deportee a Ravensbruck*
- 第11回 Simone Veil, *Une vie, une jeunesse au temps de la Shoah*
- 第12回 Madeleine Goldstein, *On se retrouvera*
- 第13回 Annette Muller, *La petite fille du Vel d'Hiv*
- 第14回 Valentine Goby, *Kinderzimmer: roman*

履修上の注意

春学期から継続して履修することが望ましいです。

準備学習（予習・復習等）の内容

翻訳でもよいので、授業で扱う本をなるべくたくさん読み、関連する映画やドキュメンタリーに触れるように心がけてください。

教科書

Charlotte Delbo, *Auschwitz et apres I, II, III*, Minuit, 1970, 1971. 他

参考書

ジャン＝F・フォルジュ『21世紀の子どもたちにアウシュヴィッツをいかに教えるか』高橋武智訳、作品社、2000年。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題を出した場合には、ワードのコメント機能等で添削を行い、教室でアドバイス等を行います。

成績評価の方法

平常点（課題に対する取り組み方、音読の正確さ、訳読の達成度、解釈における厳密さ、ディスカッションにおける主体性等）。学期中に小レポートを課す可能性もあります。小レポートを課す可能性もあります。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅣC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 谷口 亜沙子		

授業の概要・到達目標

Alain Parrau, *Écrire les camps*, Belin, 1995を講読しながら、「収容所文学」が提起する問題について考えます。収容所における極限体験やそれをめぐる言葉について考えることは、人間存在、表現、記憶、歴史、フィクション等について考えることでもあります。授業は訳読、要約、発表、対話によって進めますが、毎回なんらかのかたちで、各人が自分自身の論文執筆のためのヒントや手掛かりを引き出してください。

授業内容

- 第1回 Témoin et survivant
- 第2回 Témoignage et vérité
- 第3回 Le survivant: Autour d'Elías Canetti
- 第4回 Modèle raciste et modèle guerrier
- 第5回 Une écriture sous condition
- 第6回 Savoir et vérité de l'inhumain
- 第7回 Travail de la fiction
- 第8回 Langage et oppression
- 第9回 La littérature comme résistance a l'inhumain
- 第10回 La littérature dans les camps
- 第11回 Littérature et survie
- 第12回 Littérature abaissée, littérature complice
- 第13回 L'exemple d'Essenine
- 第14回 Ethique de la science et "Lyrisme"

履修上の注意

毎週の授業の進め方は履修者と相談しながら決めますので、変更もあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

この本を読みながら気になったもの（他の著作、映画、歴史書等）に、なんであれ手を伸ばすようにしてみてください。

教科書

Alain Parrau, *Écrire les camps*, Belin, 1995

参考書

ロバート・イーグルストン『ホロコーストとポストモダン』田尻芳樹・太田晋訳、みすず書房、2013年。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題を課した場合には、ワードコメントで添削を行い、教室でアドバイスをします。

成績評価の方法

平常点（課題に対する取り組み方、音読の正確さ、訳読の達成度、解釈における厳密さ、ディスカッションにおける主体性等）。学期中に小レポートを課す可能性もあります。学期中に小レポートを課す可能性もあります。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅣD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 谷口 亜沙子		

授業の概要・到達目標

春学期の講義で得た知識を土台として、様々な収容所文学や証言作品、日記等を取りあげます。とくに、女性の書き手による作品を中心に、文学と証言の境界、詩的言語と声、等の問題について考えます。

授業内容

- 第1回 Introduction
 第2回 Primo Levi, *Si c'est un homme*
 第3回 Sarah Helm, *Si c'est une femme*
 第4回 Micheline Maurel, *Un camp tres ordinaire Poche*
 第5回 Charlotte Delbo, *Auschwitz et apres*
 第6回 Helene Berr, *Journal*
 第7回 Magda Hollander-Lafon, *Quatre petits bouts de pain*
 第8回 Sarah Kofman, *Rue Ordener, rue Labat*
 第9回 Germaine Tillion, *Ravensbruck*
 第10回 Margarete Buber-neumann, *Deportée a Ravensbruck*
 第11回 Simone Veil, *Une vie, une jeunesse au temps de la Shoah*
 第12回 Madeleine Goldstein, *On se retrouvera*
 第13回 Annette Muller, *La petite fille du Vel d'Hiv*
 第14回 Valentine Goby, *Kinderzimmer: roman*

履修上の注意

春学期から継続して履修することが望ましいです。

準備学習（予習・復習等）の内容

翻訳でもよいので、授業で扱う本をなるべくたくさん読み、関連する映画やドキュメンタリーに触れるように心がけてください。

教科書

Charlotte Delbo, *Auschwitz et apres I, II, III*, Minuit, 1970, 1971. 他

参考書

ジャン＝F・フォルジュ『21世紀の子どもたちにアウシュヴィッツをいかに教えるか』高橋武智訳, 作品社, 2000年。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題を出した場合には、ワードのコメント機能等で添削を行い、教室でアドバイス等を行います。

成績評価の方法

平常点（課題に対する取り組み方、音読の正確さ、訳読の達成度、解釈における厳密さ、ディスカッションにおける主体性等）。学期中に小レポートを課す可能性もあります。小レポートを課す可能性もあります。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT631J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学特論ⅣA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	ドゥヴォス, バトリック	

授業の概要・到達目標

Ce cours a pour but d'aider les apprenants à améliorer leur maîtrise des techniques de rédaction de textes à visée argumentative en langue française. Différentes compétences seront travaillées à travers divers exercices: traduire en français, résumer et commenter un texte, exposer un sujet et ses enjeux, en développer la problématique de façon dynamique en l'appuyant sur des exemples ou en la confrontant à des points de vue différents. Les textes qui serviront de base aux exercices seront explorés au préalable et choisis parmi divers genres: conte, théâtre, poésie, roman, texte théorique ou critique. Le choix des textes proposés cidessous pourra être révisé en fonction des centres d'intérêt des étudiant.e.s. Dans un second temps, il sera proposé aux étudiants de rédiger des textes portant sur leurs sujets de recherches et de les soumettre à la discussion sous forme d'exposés. Un travail écrit sera exigé très régulièrement.

授業内容

- 第1回: Introduction: présentation de la méthode de travail et des textes de référence
 第2回: lecture d'un conte d'Amadou Koumba.
 第3回: Examen des propositions de résumé du conte d'Amadou Koumba
 第4回: Présentation et lecture d'un extrait d'un conte de Ken Bugul (ou d'un autre auteur africain)
 第5回: Résumé et développement autour du conte de Ken Bugul
 第6回: Extrait 1 d'un ouvrage de théorie critique de P. Bayard "Le plagiat par anticipation I"
 第7回: Extrait 2 du "Plagiat par anticipation": une théorie de la lecture
 第8回: Le paradoxe comme principe d'argumentation et d'invention théorique chez P. Bayard
 第9回: La construction des chapitres 2 & 3 du "Plagiat par anticipation"
 第10回: Création conceptuelle et argumentation
 第11回: Partage et discussion des propositions écrites
 第12回: Présentation d'une œuvre de théâtre: "Pour un oui ou pour un non" de Nathalie Sarraute
 第13回: lecture d'un passage de "Pour un oui ou pour un non"
 第14回: discussion sur les travaux soumis par les étudiants

履修上の注意

Une participation au cours et un travail régulier seront exigés.

準備学習（予習・復習等）の内容

Lire très attentivement les textes proposés comme base pour les exercices d'écriture et préparer des questions à leur sujet.

教科書

Photopies

参考書

Jean Pappé & Daniel Roche, "La dissertation littéraire", Nathan, 1995.
 Paul Désalmand & Patrick Tort, "Vers le commentaire composé", Hatier, 1992.

成績評価の方法

Devoirs écrits 60% ; activités en cours 40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT631J			
仏文学専攻	備考		
科目名	現代仏文学特論ⅣB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 ドゥヴォス, パトリック		

授業の概要・到達目標

Ce cours a pour but d'aider les apprenants à améliorer leur maîtrise des techniques de rédaction de textes à visée argumentative en langue française. Différentes compétences seront travaillées à travers divers exercices: traduire en français, résumer et commenter un texte, exposer un sujet et ses enjeux, en développer la problématique de façon dynamique en l'appuyant sur des exemples ou en la confrontant à des points de vue différents. Les textes qui serviront de base aux exercices seront explorés au préalable et choisis parmi divers genres: conte, théâtre, poésie, roman, texte théorique ou critique. Le choix des textes proposés cidessous pourra être révisé en fonction des centres d'intérêt des étudiant.e.s. Dans un second temps, il sera proposé aux étudiants de rédiger des textes portant sur leurs sujets de recherches et de les soumettre à la discussion sous forme d'exposés. Un travail écrit sera exigé très régulièrement.

授業内容

- 第1回: Lecture d'une description chez Flaubert (Salammbô).
- 第2回: analyse des propositions des étudiants pour un commentaire composé de la description du texte de Flaubert
- 第3回: Dynamique du monologue: lecture de "Oh les beaux jours" de Samuel Beckett.
- 第4回: Analyse des propositions des étudiants pour un commentaire composé d'un passage de la pièce de Beckett.
- 第5回: Poétique d'un genre dit mineur: la chanson. J-B. Clément, G.Brassens et L.Ferre
- 第6回: Eléments pour la rédaction d'un commentaire composé sur une des chansons lues.
- 第7回: Logique de l'énonciation dans le dialogue théâtral: introduction à la lecture d'un extrait d'une pièce de B-M. Koltès
- 第8回: Extrait de "Dans la solitude des champs de coton" de Koltès.
- 第9回: Lecture d'un essai de Roland Barthes: "L'empire des signes"
- 第10回: Analyse et discussion sur un chapitre de "L'empire des signes"
- 第11回: Préparation du commentaire composé: agencement et dynamique du développement.
- 第12回: Exposés par les étudiants sur leurs propres recherches et discussion 1
- 第13回: Exposés par les étudiants et discussion 2
- 第14回: Exposés par les étudiants et discussion 3

履修上の注意

Une participation au cours et un travail régulier seront exigés.

準備学習（予習・復習等）の内容

Lire très attentivement les textes proposés comme base pour les exercices d'écriture et préparer des questions à leur sujet.

教科書

Photocopies

参考書

Jean Pappé & Daniel Roche, *La dissertation littéraire*, Nathan, 1995.

Paul Désalmand & Patrick Tort, *Vers le commentaire composé*, Hatier, 1992.

成績評価の方法

Devoirs écrits 60% ; activités en cours 40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT632J			
仏文学専攻	備考		
科目名	フランス文学理論・思想研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 文学博士 田母神 顯二郎		

授業の概要・到達目標

主として20世紀以降のフランスの文学理論や思想について研究し、研究に必要な基本的な知識を身につけるとともに、それを自分自身の研究に応用したり、活かしたりできるようにする。

授業内容

大学院では初めて設置される授業なのでいろいろ迷っているが、とりあえず春学期は、現代フランス文学研究の古典の一つと言える、Roman JakobsonとClaude Lévi-Straussの《Les Chats de Baudelaire》を読んでいきたいと思う。JakobsonはSaussureの言語学を発展させただけでなく、独自の「詩学」を確立し、文学作品の基本的分析法への道を開いた言語学者である。一方、Lévi-StraussはJakobsonとの密接な親交によって、構造主義的人類学を打ち立てた二十世紀の「知の巨人」の一人であるが、Baudelaireの《Les Chats》の分析は、両者のコラボレーションの輝かしい成果の一つである。このテキストの読解を通し、受講者は「言語論的転回」を特徴とする20世紀現代思想の基礎知識や構造主義全般の理解を深めていくことになる。

履修上の注意

授業では、フランス語のテキストの読解を主としながら、20世紀の思想潮流やキーコンセプト、キーパーソンなどについて調べ、発表も行ってもらうので、かなりの作業量になるかと思う。またこの授業は、学部・研究科連携授業の一つなので、学部生、大学院生それぞれに応じた課題を課していくつもりである。いろいろなサポートは行うが、基本的に「自分で調べ、自分で学ぶ」という姿勢が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

上に掲げたテキストを毎回輪読形式で読み進めるので、フランス語原文を訳せるように下調べしておくことが必要である。また、分担を決めてキーコンセプトやキーパーソン、その他の重要事項について調べてきてもらい、それを授業で発表してもらおうという形を取ろうと思っているので、こちらの作業も必要になる。

教科書

Roman Jakobson & Claude Lévi-Strauss, 《Les Chats de Baudelaire》のプリントを開講時に配布する予定である。

参考書

最初の授業で紹介する他、適宜、授業中に指示する。できれば、Saussure以降の現代言語学やLévi-Straussら構造主義関連の本を幾つか読んでおくと授業の理解も増すとと思う。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表についてはその場でアドバイスを与え、レポートなど提出物については添削し、コメントを付して返却するつもりである。

成績評価の方法

平常点 (60%)および学期末レポート(40%)によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	フランス文学理論・思想研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 文学博士 田母神 顯二郎		

授業の概要・到達目標

主として20世紀以降のフランスの文学理論や思想について研究し、研究に必要な基本的な知識を身につけるとともに、それを自分自身の研究に応用したり、活かしたりできるようにする。

授業内容

秋学期は、Roland Barthes のテキストを読んでいきたいと思う。候補としては今のところ未定である。後期の *Le plaisir du texte* を考えているが、受講生と相談の上、Barthesの他のテキストに変更する可能性もある。

履修上の注意

授業では、フランス語のテキストの読解を主としながら、20世紀の思想潮流やキーコンセプト、キーパーソンなどについて調べ、発表も行ってもらうので、かなりの作業量になるかと思う。またこの授業は、学部・研究科連携授業の一つなので、学部生、大学院生それぞれに応じた課題を課していくつもりである。いろいろなサポートは行うが、基本的に「自分で調べ、自分で学ぶ」という姿勢が必要である。また春学期の授業を受講していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

上に掲げたテキストを毎回輪読形式で読み進めるので、フランス語原文を訳せるように下調べしておく必要がある。また、分担を決めてキーコンセプトやキーパーソン、その他の重要事項について調べてきてもらい、それを授業で発表してもらおうという形を取ろうと思っているので、こちらの作業も必要になる。

教科書

Roland Barthes, *Le Plaisir du texte* の抜粋プリントを開講時に配布する予定である。

参考書

最初の授業で紹介する他、適宜、授業中に指示する。できれば、Saussure以降の現代言語学や Lévi-Straussら構造主義関連の本を幾つか読んでおくことで授業の理解も増すと思う。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表についてはその場でアドバイスを与え、レポートなど提出物については添削し、コメントを付して返却するつもりである。

成績評価の方法

平常点 (60%)および学期末レポート(40%)によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	近代独文学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 岡本 和子		

授業の概要・到達目標

20世紀のドイツ戦間期の作品を読みます。
第一次大戦敗戦後から、次の戦争にまで至る1920年代のドイツは、見方によって、その相貌が大きく変わります。以下のベルリンを舞台とする著作のうちからいくつかを読み、当時の作家たちがこの時代と都市をどのように捉えていたのかを探りつつ、この時空間は現代から見てどのように捉えることができるのかを考えます。読むテキストは履修者と相談のうえ決定します。
一語も漏らさず、原典を正確に読んだうえで、時代が抱えていた問題とその射程、その表現のあり方について、みずからの考えを明確にし、それを表現することを目標とします。

Julius Berstl: Berlin Schlesischer Bahnhof (um 1930)

Ernst Haffner: Blutsbrueder (1932)

Arthur Landsberger: Berlin ohne Juden (1925)

授業内容

第1回：20世紀戦間期ドイツの作家たち

第2回：ベルリン小説読解1

第3回：ベルリン小説読解2

第4回：ベルリン小説読解3

第5回：ベルリン小説読解4

第6回：ベルリン小説読解5

第7回：ベルリン小説読解6

第8回：ベルリン小説読解7

第9回：ベルリン小説読解8

第10回：ベルリン小説読解9

第11回：ベルリン小説読解10

第12回：ベルリン小説読解11

第13回：ベルリン小説読解12

第14回：レポートの発表と討論

履修上の注意

同時代のほかの作家の作品にも親しんでおくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、原文読解のていねいな予習をしてくること。

教科書

Julius Berstl: Berlin. Schlesischer Bahnhof (Quintus-Verlag)
ISBN: 978-3969820513

Ernst Haffner: Blutsbrueder (Independently published)
ISBN: 979-8764405544

Arthur Landsberger: Berlin ohne Juden. (Weidle Verlag)1998, ISBN 3-931135-34-9.
またはプリントを配布。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に提出するレポートはコメントを付して返却する。

成績評価の方法

授業中の発表内容60%、レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ⅠB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	岡本 和子	

授業の概要・到達目標

20世紀のドイツ戦間期の作品を読みます。
 第一次大戦敗戦後から、次の戦争にまで至る1920年代のドイツは、見方によって、その相貌が大きく変わります。以下のベルリンを舞台とする著作のうちからいくつかを読み、当時の作家たちがこの時代と都市をどのように捉えていたのかを探りつつ、この時空間は現代から見てどのように捉えることができるのかを考えます。読むテキストは履修者と相談のうえ決定します。
 一語も漏らさず、原典を正確に読んだうえで、時代が抱えていた問題とその射程、その表現のあり方について、みずからの考えを明確にし、それを表現することを目標とします。

Julius Berstl: Berlin Schlesischer Bahnhof (um 1930)
 Ernst Haffner: Blutsbrueder (1932)
 Arthur Landsberger: Berlin ohne Juden (1925)

授業内容

- 第1回：十一月革命に関わった作家たち
- 第2回：ベルリン小説読解1 3
- 第3回：ベルリン小説読解1 4
- 第4回：ベルリン小説読解1 5
- 第5回：ベルリン小説読解1 6
- 第6回：ベルリン小説読解1 7
- 第7回：ベルリン小説読解1 8
- 第8回：ベルリン小説読解1 9
- 第9回：ベルリン小説読解2 0
- 第10回：ベルリン小説読解2 1
- 第11回：ベルリン小説読解2 2
- 第12回：ベルリン小説読解2 3
- 第13回：ベルリン小説読解2 4
- 第14回：レポートの発表と討論

履修上の注意

同時代のほかの作家の作品にも親しんでおくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、原文読解のていねいな予習をしてくること。

教科書

Julius Berstl: Berlin. Schlesischer Bahnhof (Quintus-Verlag)
 ISBN: 978-3969820513
 Ernst Haffner: Blutsbrueder (Independently published)
 ISBN: 979-8764405544
 Arthur Landsberger: Berlin ohne Juden. (Weidle Verlag)1998, ISBN 3-931135-34-9.
 またはプリントを配布。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に提出するレポートはコメントを付して返却する。

成績評価の方法

授業中の発表内容60%, レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ⅠC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	岡本 和子	

授業の概要・到達目標

20世紀のドイツ戦間期の作品を読みます。
 第一次大戦敗戦後から、次の戦争にまで至る1920年代のドイツは、見方によって、その相貌が大きく変わります。以下のベルリンを舞台とする著作のうちからいくつかを読み、当時の作家たちがこの時代と都市をどのように捉えていたのかを探りつつ、この時空間は現代から見てどのように捉えることができるのかを考えます。読むテキストは履修者と相談のうえ決定します。
 一語も漏らさず、原典を正確に読んだうえで、時代が抱えていた問題とその射程、その表現のあり方について、みずからの考えを明確にし、それを表現することを目標とします。

Julius Berstl: Berlin Schlesischer Bahnhof (um 1930)
 Ernst Haffner: Blutsbrueder (1932)
 Arthur Landsberger: Berlin ohne Juden (1925)

授業内容

- 第1回：20世紀戦間期ドイツの作家たち
- 第2回：ベルリン小説読解1
- 第3回：ベルリン小説読解2
- 第4回：ベルリン小説読解3
- 第5回：ベルリン小説読解4
- 第6回：ベルリン小説読解5
- 第7回：ベルリン小説読解6
- 第8回：ベルリン小説読解7
- 第9回：ベルリン小説読解8
- 第10回：ベルリン小説読解9
- 第11回：ベルリン小説読解1 0
- 第12回：ベルリン小説読解1 1
- 第13回：ベルリン小説読解1 2
- 第14回：レポートの発表と討論

履修上の注意

同時代のほかの作家の作品にも親しんでおくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、原文読解のていねいな予習をしてくること。

教科書

Julius Berstl: Berlin. Schlesischer Bahnhof (Quintus-Verlag)
 ISBN: 978-3969820513
 Ernst Haffner: Blutsbrueder (Independently published)
 ISBN: 979-8764405544
 Arthur Landsberger: Berlin ohne Juden. (Weidle Verlag)1998, ISBN 3-931135-34-9.
 またはプリントを配布。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に提出するレポートはコメントを付して返却する。

成績評価の方法

授業中の発表内容60%, レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	岡本	和子

授業の概要・到達目標

20世紀のドイツ戦間期の作品を読みます。
 第一次大戦敗戦後から、次の戦争にまで至る1920年代のドイツは、見方によって、その相貌が大きく変わります。以下のベルリンを舞台とする著作のうちからいくつかを読み、当時の作家たちがこの時代と都市をどのように捉えていたのかを探りつつ、この時空間は現代から見てどのように捉えることができるのかを考えます。読むテキストは履修者と相談のうえ決定します。
 一語も漏らさず、原典を正確に読んだうえで、時代が抱えていた問題とその射程、その表現のあり方について、みずからの考えを明確にし、それを表現することを目標とします。

Julius Berstl: Berlin Schlesischer Bahnhof (um 1930)
 Ernst Haffner: Blutsbrueder (1932)
 Arthur Landsberger: Berlin ohne Juden (1925)

授業内容

- 第1回：十一月革命に関わった作家たち
- 第2回：ベルリン小説読解1 3
- 第3回：ベルリン小説読解1 4
- 第4回：ベルリン小説読解1 5
- 第5回：ベルリン小説読解1 6
- 第6回：ベルリン小説読解1 7
- 第7回：ベルリン小説読解1 8
- 第8回：ベルリン小説読解1 9
- 第9回：ベルリン小説読解2 0
- 第10回：ベルリン小説読解2 1
- 第11回：ベルリン小説読解2 2
- 第12回：ベルリン小説読解2 3
- 第13回：ベルリン小説読解2 4
- 第14回：レポートの発表と討論

履修上の注意

同時代のほかの作家の作品にも親しんでおくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、原文読解のていねいな予習をしてくること。

教科書

Julius Berstl: Berlin. Schlesischer Bahnhof (Quintus-Verlag)
 ISBN: 978-3969820513
 Ernst Haffner: Blutsbrueder (Independently published)
 ISBN: 979-8764405544
 Arthur Landsberger: Berlin ohne Juden. (Weidle Verlag)1998, ISBN 3-931135-34-9.
 またはプリントを配布。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に提出するレポートはコメントを付して返却する。

成績評価の方法

授業中の発表内容60%、レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	富重	与志生

授業の概要・到達目標

AI化が進む現代、次第にあらわになっているのは人間の道具化の先鋭化であると同時に、そこから逃れようとしつつも逃れられない人間の姿だろう。この人間の道具化が始まったのが、いわゆる近代とともにであるとすれば、十九世紀という時代はまさにその近代たけなわの時代だったとすることができる。この時代の文学作品は、したがってきわめて現代的といってもよいだろう。とりわけドイツ文学は、その波に乗ることができない者の苦闘の記録として読むことができるものである。そのような十九世紀の文学作品の中から、参加者に各自作家作品を選んでもらい、これを読んでいくことによって、自分なりの読みの力を養ってもらうことが目標である。

これと合わせて、ロマン、ノヴェレ、枠物語等の代表的な文芸学上の概念について理解し、作品を分析し解釈するための道具を手に入れることも目標とする。

授業内容

授業は、参加者が十九世紀ドイツ文学作品の中から、上の目標に沿って特に考察してみたい作家と作品を選んでもらい、これを精読した上で、レポートしていただく。

履修上の注意

精読をするということもだが、あわせてスピーディーに読んでいくことも心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、その回に読む範囲を十分読解しておくこと。

教科書

クラスウェブにテキストをアップする。他、適宜必要に応じてプリント等配布する。

参考書

必要があれば授業中に指示する。

成績評価の方法

この演習への熱意(遅刻なき出席)と貢献度(担当・発言)によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	富重 与志生	

授業の概要・到達目標

AI化が進む現代、次第にあらわになっているのは人間の道具化の先鋭化であると同時に、そこから逃れようとしつつも逃れられない人間の姿だろう。この人間の道具化が始まったのが、いわゆる近代とともにであるとすれば、十九世紀という時代はまさにその近代たけなわの時代だったとすることができる。この時代の文学作品は、したがってきわめて現代的といってもよいだろう。とりわけドイツ文学は、その波に乗ることができない者の苦闘の記録として読むことができるものである。そのような十九世紀の文学作品の中から、参加者に各自作家作品を選んでもらい、これを読んでいくことによって、自分なりの読みの力を養ってもらうことが目標である。

これと合わせて、ロマン、ノヴェレ、粹物語等の代表的な文芸学上の概念について理解し、作品を分析し解釈するための道具を手に入れることも目標とする。

授業内容

授業は、参加者が十九世紀ドイツ文学作品の中から、上の目標に沿って特に考察してみたい作家と作品を選んでもらい、これを精読した上で、レポートしていただく。

履修上の注意

精読をするということもだが、あわせてスピーディーに読んでいくことも心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、その回に読む範囲を十分読解しておくこと。

教科書

クラスウェブにテキストをアップする。他、適宜必要に応じてプリント等配布する。

参考書

必要があれば授業中に指示する。

成績評価の方法

この演習への熱意（遅刻なき出席）と貢献度（担当・発言）によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	富重 与志生	

授業の概要・到達目標

AI化が進む現代、次第にあらわになっているのは人間の道具化の先鋭化であると同時に、そこから逃れようとしつつも逃れられない人間の姿だろう。この人間の道具化が始まったのが、いわゆる近代とともにであるとすれば、十九世紀という時代はまさにその近代たけなわの時代だったとすることができる。この時代の文学作品は、したがってきわめて現代的といってもよいだろう。とりわけドイツ文学は、その波に乗ることができない者の苦闘の記録として読むことができるものである。そのような十九世紀の文学作品の中から、参加者に各自作家作品を選んでもらい、これを読んでいくことによって、自分なりの読みの力を養ってもらうことが目標である。

これと合わせて、ロマン、ノヴェレ、粹物語等の代表的な文芸学上の概念について理解し、作品を分析し解釈するための道具を手に入れることも目標とする。

授業内容

授業は、参加者が十九世紀ドイツ文学作品の中から、上の目標に沿って特に考察してみたい作家と作品を選んでもらい、これを精読した上で、レポートしていただく。

履修上の注意

精読をするということもだが、あわせてスピーディーに読んでいくことも心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、その回に読む範囲を十分読解しておくこと。

教科書

クラスウェブにテキストをアップする。他、適宜必要に応じてプリント等配布する。

参考書

必要があれば授業中に指示する。

成績評価の方法

この演習への熱意（遅刻なき出席）と貢献度（担当・発言）によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	富重 与志生	

授業の概要・到達目標

AI化が進む現代、次第にあらわになっているのは人間の道具化の先鋭化であると同時に、そこから逃れようとしつつも逃れられない人間の姿だろう。この人間の道具化が始まったのが、いわゆる近代とともにであるとすれば、十九世紀という時代はまさにその近代たけなわの時代だったとすることができる。この時代の文学作品は、したがってきわめて現代的といってもよいだろう。とりわけドイツ文学は、その波に乗ることができない者の苦闘の記録として読むことができるものである。そのような十九世紀の文学作品の中から、参加者に各自作家作品を選んでもらい、これを読んでいくことによって、自分なりの読みの力を養ってもらうことが目標である。

これと合わせて、ロマン、ノヴェレ、粹物語等の代表的な文芸学上の概念について理解し、作品を分析し解釈するための道具を手に入れることも目標とする。

授業内容

授業は、参加者が十九世紀ドイツ文学作品の中から、上の目標に沿って特に考察してみたい作家と作品を選んでもらい、これを精読した上で、レポートしていただく。

履修上の注意

精読をするということもだが、あわせてスピーディーに読んでいくことも心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、その回に読む範囲を十分読解しておくこと。

教科書

クラスウェブにテキストをアップする。他、適宜必要に応じてプリント等配布する。

参考書

必要があれば授業中に指示する。

成績評価の方法

この演習への熱意（遅刻なき出席）と貢献度（担当・発言）によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	現代独文学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	博士（文学）	福間 具子

授業の概要・到達目標

ユダヤ系詩人の作品研究

昨年度に引き続き、ドイツ語圏のユダヤ系詩人の作品読解を行う。

昨年は春学期にヴォルフスケール、秋学期は出席者の希望に応じて（ユダヤ系ではないが）ノサック、ゼーバルトの詩を読んだ。

そこで感じたことは、多様な詩を読むことの重要性である。詩人により作風や主題、主題の表現方法が実に多種多様であり、詩を知るためには複数読むことが肝要であると考えさせられた。

そこで、とりあえずは2023年10月に出版されたローベルト・シンデルの最新詩集『Flussgang』を読むことにするが、その他希望に応じて20世紀以降の詩をたくさん読んでみたい。シラバスには便宜的にブコヴィナ地方出身のユダヤ系詩人を入れておくが、変更の可能性もあることをご承知おき頂きたい。その際、詩の基本的解釈方法、伝統的な分析方法、資料の調べ方、新しい観点からの捉え方など、研究方法を随時指導していきたい。

授業内容

- 第一回 イントロダクション—詩を読むとは何か。
- 第二回 ローベルト・シンデルの生涯について
- 第三回 シンデルの詩篇(1)読解と鑑賞
- 第四回 シンデルの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第五回 シンデルの詩篇(3)読解と鑑賞
- 第六回 ブコヴィナの詩人たちについて
- 第七回 シュペルバーの詩篇(1) 読解と鑑賞
- 第八回 シュペルバーの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第九回 ヴァイスグラースの詩篇(1)読解と鑑賞
- 第十回 ヴァイスグラースの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第十一回 アルフレート・ゴングの詩篇(初期)読解と鑑賞
- 第十二回 アルフレート・ゴングの詩篇(中期)読解と鑑賞
- 第十三回 アルフレート・ゴングの詩篇(後期)読解と鑑賞
- 第十四回 総括としてのディスカッション—詩における〈ユダヤ性〉

履修上の注意

春学期と秋学期を合わせて、通年で履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

履修者の人数によるが、基本的には担当者は作品の和訳を作成してやる。授業では訳読をし、そのうえで全員で解釈を行うので、全員が事前に読んでくれることが望ましい。

教科書

特に指定しない。
適宜コピーを配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業で口頭で行うが、希望に応じて、メール等で返信することも可能である。

成績評価の方法

平常点（訳読や資料読解などを通じての授業への貢献度などから総合的に判断）70%、担当時の発表内容30%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	現代独文学演習IB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	福間 具子	

授業の概要・到達目標

ユダヤ系詩人の作品研究
 昨年度に引き続き、ドイツ語圏のユダヤ系詩人の作品読解を行う。
 昨年は春学期にヴォルフスケール、秋学期は出席者の希望に応じて(ユダヤ系ではないが)ノサク、ゼーバルトの詩を読んだ。
 そこで感じたことは、多様な詩を読むことの重要性である。詩人により作風や主題、主題の表現方法が実に多種多様であり、詩を知るためには複数読むことが肝要であると考えさせられた。
 そこで、とりあえずは2023年10月に出版されたローベルト・シンデルの最新詩集『Flussgang』を読むことにするが、その他希望に応じて20世紀以降の詩をたくさん読んでみたい。シラバスには便宜的にブコヴィナ地方出身のユダヤ系詩人を入れておくが、変更の可能性もあることをご承知おきたい。その際、詩の基本的解釈方法、伝統的な分析方法、資料の調べ方、新しい観点からの捉え方など、研究方法を随時指導していきたい。

授業内容

- 第一回 イントロダクション—詩を読むとは何か。
- 第二回 ローベルト・シンデルの後期詩篇について
- 第三回 シンデルの詩篇(1)読解と鑑賞
- 第四回 シンデルの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第五回 シンデルの詩篇(3)読解と鑑賞
- 第六回 ブコヴィナの詩人たちについて
- 第七回 シュペルバーの詩篇(1) 読解と鑑賞
- 第八回 シュペルバーの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第九回 ヴァイスグラースの詩篇(1)読解と鑑賞
- 第十回 ヴァイスグラースの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第十一回 アルフレート・ゴングの詩篇(初期)読解と鑑賞
- 第十二回 アルフレート・ゴングの詩篇(中期)読解と鑑賞
- 第十三回 アルフレート・ゴングの詩篇(後期)読解と鑑賞
- 第十四回 総括としてのディスカッション—詩の形式と主題の関係について

履修上の注意

春学期と秋学期を合わせて、通年で履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者の人数によるが、基本的には担当者は作品の和訳を作成して行く。授業では訳読をし、そのうえで全員で解釈を行うので、全員が事前に読んでくれることが望ましい。

教科書

特に指定しない。
 適宜コピーを配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業で口頭で行うが、希望に応じて、メール等で返信することも可能である。

成績評価の方法

平常点(訳読や資料読解などを通じての授業への貢献度などから総合的に判断)70%、担当時の発表内容30%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	現代独文学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	福間 具子	

授業の概要・到達目標

ユダヤ系詩人の作品研究
 昨年度に引き続き、ドイツ語圏のユダヤ系詩人の作品読解を行う。
 昨年は春学期にヴォルフスケール、秋学期は出席者の希望に応じて(ユダヤ系ではないが)ノサク、ゼーバルトの詩を読んだ。
 そこで感じたことは、多様な詩を読むことの重要性である。詩人により作風や主題、主題の表現方法が実に多種多様であり、詩を知るためには複数読むことが肝要であると考えさせられた。
 そこで、とりあえずは2023年10月に出版されたローベルト・シンデルの最新詩集『Flussgang』を読むことにするが、その他希望に応じて20世紀以降の詩をたくさん読んでみたい。シラバスには便宜的にブコヴィナ地方出身のユダヤ系詩人を入れておくが、変更の可能性もあることをご承知おきたい。その際、詩の基本的解釈方法、伝統的な分析方法、資料の調べ方、新しい観点からの捉え方など、研究方法を随時指導していきたい。

授業内容

- 第一回 イントロダクション—詩を読むとは何か。
- 第二回 ローベルト・シンデルの生涯について
- 第三回 シンデルの詩篇(1)読解と鑑賞
- 第四回 シンデルの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第五回 シンデルの詩篇(3)読解と鑑賞
- 第六回 ブコヴィナの詩人たちについて
- 第七回 シュペルバーの詩篇(1) 読解と鑑賞
- 第八回 シュペルバーの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第九回 ヴァイスグラースの詩篇(1)読解と鑑賞
- 第十回 ヴァイスグラースの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第十一回 アルフレート・ゴングの詩篇(初期)読解と鑑賞
- 第十二回 アルフレート・ゴングの詩篇(中期)読解と鑑賞
- 第十三回 アルフレート・ゴングの詩篇(後期)読解と鑑賞
- 第十四回 総括としてのディスカッション—詩における<ユダヤ性>

履修上の注意

春学期と秋学期を合わせて、通年で履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者の人数によるが、基本的には担当者は作品の和訳を作成して行く。授業では訳読をし、そのうえで全員で解釈を行うので、全員が事前に読んでくれることが望ましい。

教科書

特に指定しない。
 適宜コピーを配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業で口頭で行うが、希望に応じて、メール等で返信することも可能である。

成績評価の方法

平常点(訳読や資料読解などを通じての授業への貢献度などから総合的に判断)70%、担当時の発表内容30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	現代独文学演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 福間 具子		

授業の概要・到達目標

ユダヤ系詩人の作品研究
 昨年度に引き続き、ドイツ語圏のユダヤ系詩人の作品読解を行う。
 昨年は春学期にヴォルフスケール、秋学期は出席者の希望に応じて(ユダヤ系ではないが)ノサク、ゼーバルトの詩を読んだ。
 そこで感じたことは、多様な詩を読むことの重要性である。詩人により作風や主題、主題の表現方法が実に多種多様であり、詩を知るためには複数読むことが肝要であると考えさせられた。
 そこで、とりあえずは2023年10月に出版されたローベルト・シンデルの最新詩集『Flussgang』を読むことにするが、その他希望に応じて20世紀以降の詩をたくさん読んでみたい。シラバスには便宜的にブコヴィナ地方出身のユダヤ系詩人を入れておくが、変更の可能性もあることをご承知おきたい。その際、詩の基本的解釈方法、伝統的な分析方法、資料の調べ方、新しい観点からの捉え方など、研究方法を随時指導していきたい。

授業内容

- 第一回 イントロダクション—詩を読むとは何か。
- 第二回 ローベルト・シンデルの後期詩篇について
- 第三回 シンデルの詩篇(1)読解と鑑賞
- 第四回 シンデルの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第五回 シンデルの詩篇(3)読解と鑑賞
- 第六回 ブコヴィナの詩人たちについて
- 第七回 シュペルバーの詩篇(1) 読解と鑑賞
- 第八回 シュペルバーの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第九回 ヴァイスグラースの詩篇(1)読解と鑑賞
- 第十回 ヴァイスグラースの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第十一回 アルフレート・ゴングの詩篇(初期)読解と鑑賞
- 第十二回 アルフレート・ゴングの詩篇(中期)読解と鑑賞
- 第十三回 アルフレート・ゴングの詩篇(後期)読解と鑑賞
- 第十四回 総括としてのディスカッション—詩の形式と主題の関係について

履修上の注意

春学期と秋学期を合わせて、通年で履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者の人数によるが、基本的には担当者は作品の和訳を作成してくれる。授業では訳読をし、そのうえで全員で解釈を行うので、全員が事前に読んでくれることが望ましい。

教科書

特に指定しない。
 適宜コピーを配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業で口頭で行うが、希望に応じて、メール等で返信することも可能である。

成績評価の方法

平常点(訳読や資料読解などを通じての授業への貢献度などから総合的に判断)70%、担当時の発表内容30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	現代独文学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 新本 史斉		

授業の概要・到達目標

現代ドイツ語圏越境文学における脱領土的思考の展開(1)
 前期の授業では、Terezia Mora、Ilma Rakusa、Christina Viragh、Zsuzanna Gahseなど、ハンガリーからドイツへ越境してきたドイツ語作家をとりあげ、その作品を構成している諸要素(オーストリア・ハンガリー帝国の記憶、多言語経験、翻訳経験etc.)について、小説抜粋、エッセイ、インタビューなどを読みつつ考察していきます。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：Terezia Moraの散文を読む(1)
- 第3回：Terezia Moraの散文を読む(2)
- 第4回：Terezia Moraの散文を読む(3)
- 第5回：Ilma Rakusaの散文を読む(1)
- 第6回：Ilma Rakusaの散文を読む(2)
- 第7回：Ilma Rakusaの散文を読む(3)
- 第8回：Christina Viraghの散文を読む(1)
- 第9回：Christina Viraghの散文を読む(2)
- 第10回：Christina Viraghの散文を読む(3)
- 第11回：Zsuzanna Gahseの散文を読む(1)
- 第12回：Zsuzanna Gahseの散文を読む(2)
- 第13回：Zsuzanna Gahseの散文を読む(3)
- 第14回：まとめの議論

履修上の注意

まずは日本語に訳されている、ハンガリーからの越境作家の作品を読んでみてください。(参考書の欄を参照。)

準備学習(予習・復習等)の内容

それぞれの回のドイツ語テキストを丁寧に読んでから参加すること。

教科書

- Terezia Mora:
 Muna oder Die Haelfte des Lebens (Luchterhand 2023)
 Nicht Sterben (Random House 2015)
- Ilma Rakusa:
 Gedankenspiele über die Eleganz. (Droschl 2021)
- Christina Viragh:
 Montag bis Mittwoch (Dorlemann 2023)
- Zsuzanna Gahse:
 Andererseits (Sonderzahl 2020)
 などから抜粋したテキストを読みます。

参考書

- I・ラクーザ(編)『ヨーロッパは書く』(鳥影社 2008)
- I・ラクーザ『ラングザマー』(共和国 2016)
- I・ラクーザ『もっと、海を』(鳥影社 2018)
- T・モーラ『よそ者たちの愛』(白水社 2020)など

課題に対するフィードバックの方法

Oh!o Meijiのクラスウェブを使って、授業で考えたことを言語化してもらい、次週の授業でコメントします。

成績評価の方法

授業中の発表 60%、レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	現代独文学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		新本 史斉

授業の概要・到達目標

現代ドイツ語圏越境文学における脱領土的思考の展開 (2)
後期の授業では、ポーランドからの越境作家Artur Beckerをとりあげ、その作品の越境性を構成している諸要素（ポーランド文学の伝統、西欧中心的リベラリズムとの批判的対峙etc.）について、論考、エッセイを読みつつ、考察していきます。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨク
- 第2回 Artur Beckerのエッセイを読む(1)
- 第3回 Artur Beckerのエッセイを読む(2)
- 第4回 Artur Beckerのエッセイを読む(3)
- 第5回 Artur Beckerのエッセイを読む(4)
- 第6回 Artur Beckerのエッセイを読む(5)
- 第7回 Artur Beckerの詩を読む(1)
- 第8回 Artur Beckerの詩を読む(2)
- 第9回 Artur Beckerの論考を読む(1)
- 第10回 Artur Beckerの論考を読む(2)
- 第11回 Artur Beckerの論考を読む(3)
- 第12回 Artur Beckerの論考を読む(4)
- 第13回 Artur Beckerの論考を読む(5)
- 第14回 まとめの議論 (Artur Beckerとの対話)

履修上の注意

まずは20世紀前半のドイツ-東欧-バルト三国の歴史について、概要を学んでください。(参考書の欄を参照。)

準備学習（予習・復習等）の内容

それぞれの回のドイツ語テキストを丁寧に読んだ上で参加すること。

教科書

Artur Becker:
Kosmopolen (Weissbooks 2016)
Bartel und Gustabald. Gedichte (Parasitenpresse 2019)
Links: Ende und Anfang einer Utopie. (Westend-Verlag 2022)
から抜粋したテキストを読みます。

参考書

『ヨーロッパは書く』(ウルズラ・ケラー/イルマ・ラクーザ編 新本史斉、吉岡潤他訳、鳥影社 2008)
『ポーランド文学史』(C・ミウオシユ、関口時正他編、未知谷 2006)
『チェスワフ・ミウオシユ詩集』(関口時正他編、成文社 2011)
『世界』(C・ミウオシユ、つかだみちこ他訳、港の人 2015)

課題に対するフィードバックの方法

Oh!-o Meijiのクラスウェブを使って、授業で考えたことを言語化してもらい、次週の授業でコメントします。

成績評価の方法

授業中の発表 60%, レポート40%

その他

Artur Becker自身との対話を予定しています。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	現代独文学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		新本 史斉

授業の概要・到達目標

現代ドイツ語圏越境文学における脱領土的思考の展開 (1)
前期の授業では、Terezia Mora、Ilma Rakusa、Christina Viragh、Zsuzanna Gahseなど、ハンガリーからドイツへ越境してきたドイツ語作家をとりあげ、その作品を構成している諸要素（オーストリア・ハンガリー帝国の記憶、多言語経験、翻訳経験etc.）について、小説抜粋、エッセイ、インタビューなどを読みつつ考察していきます。

授業内容

- 第1回：INTROクシヨク
- 第2回：Terezia Moraの散文を読む(1)
- 第3回：Terezia Moraの散文を読む(2)
- 第4回：Terezia Moraの散文を読む(3)
- 第5回：Ilma Rakusaの散文を読む(1)
- 第6回：Ilma Rakusaの散文を読む(2)
- 第7回：Ilma Rakusaの散文を読む(3)
- 第8回：Christina Viraghの散文を読む(1)
- 第9回：Christina Viraghの散文を読む(2)
- 第10回：Christina Viraghの散文を読む(3)
- 第11回：Zsuzanna Gahseの散文を読む(1)
- 第12回：Zsuzanna Gahseの散文を読む(2)
- 第13回：Zsuzanna Gahseの散文を読む(3)
- 第14回：まとめの議論

履修上の注意

まずは日本語に訳されている、ハンガリーからの越境作家の作品を読んでみてください。(参考書の欄を参照。)

準備学習（予習・復習等）の内容

それぞれの回のドイツ語テキストを丁寧に読んだ上で参加すること。

教科書

Terezia Mora:
Muna oder Die Haelfte des Lebens (Luchterhand 2023)
Nicht Strerben (Random House 2015)
Ilma Rakusa:
Gedankenspiele über die Elegnaz. (Droschl 2021)
Christina Viragh:
Montag bis Mittwoch (Dorlemann 2023)
Zsuzanna Gahse:
Andererseits (Sonderzahl 2020)
などから抜粋したテキストを読みます。

参考書

I・ラクーザ(編)『ヨーロッパは書く』(鳥影社 2008)
I・ラクーザ『ラングザマー』(共和国 2016)
I・ラクーザ『もっと、海を』(鳥影社 2018)
T・モーラ『よそ者たちの愛』(白水社 2020)など

課題に対するフィードバックの方法

Oh!-o Meijiのクラスウェブを使って、授業で考えたことを言語化してもらい、次週の授業でコメントします。

成績評価の方法

授業中の発表 60%, レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	現代独文学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		新本 史斉

授業の概要・到達目標

現代ドイツ語圏越境文学における脱領土的思考の展開 (2)
後期の授業では、ポーランドからの越境作家Artur Beckerをとりあげ、その作品の越境性を構成している諸要素（ポーランド文学の伝統、西欧中心的リベラリズムとの批判的対峙 etc.）について、論考、エッセイを読みつつ、考察していきます。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 Artur Beckerのエッセイを読む(1)
- 第3回 Artur Beckerのエッセイを読む(2)
- 第4回 Artur Beckerのエッセイを読む(3)
- 第5回 Artur Beckerのエッセイを読む(4)
- 第6回 Artur Beckerのエッセイを読む(5)
- 第7回 Artur Beckerの詩を読む(1)
- 第8回 Artur Beckerの詩を読む(2)
- 第9回 Artur Beckerの論考を読む(1)
- 第10回 Artur Beckerの論考を読む(2)
- 第11回 Artur Beckerの論考を読む(3)
- 第12回 Artur Beckerの論考を読む(4)
- 第13回 Artur Beckerの論考を読む(5)
- 第14回 まとめの議論 (Artur Beckerとの対話)

履修上の注意

まずは20世紀前半のドイツ－東欧－バルト三国の歴史について、概要を学んでください。（参考書の欄を参照。）

準備学習（予習・復習等）の内容

それぞれの回のドイツ語テキストを丁寧に読んで上で参加すること。

教科書

Artur Becker:
Kosmopoliten (Weissbooks 2016)
Bartel und Gustabald. Gedichte (Parasitenpresse 2019)
Links: Ende und Anfang einer Utopie. (Westend-Verlag 2022)
から抜粋したテキストを読みます。

参考書

『ヨーロッパは書く』（ウルズラ・ケラー／イルマ・ラクーザ編 新本史斉、吉岡潤他訳、鳥影社 2008）
『ポーランド文学史』（C・ミウオシユ、関口時正他編、未知谷 2006）
『チェスワフ・ミウオシユ詩集』（関口時正他編、成文社 2011）
『世界』（C・ミウオシユ、つかだみちこ他訳、港の人 2015）

課題に対するフィードバックの方法

Oh!-o Meijiのクラスウェブを使って、授業で考えたことを言語化してもらい、次週の授業でコメントします。

成績評価の方法

授業中の発表 60%，レポート40%

その他

Artur Becker自身との対話を予定しています。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	ドイツ文芸思想史演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil マンデラルツ, ミヒヤエル		

授業の概要・到達目標

Klassische und romantische Kunsttheorie, Teil I / Gesprächsforum Abschlussarbeiten
Das Seminar bietet neben der Arbeit am Thema Kunsttheorie die Gelegenheit, Referate zum vorläufigen Stand der Magisterarbeiten bzw. Dissertationen auf Deutsch vorzutragen und zu diskutieren. – Zum Thema:
Neben Philosophie und Geschichte ist die Kunstgeschichte vielleicht das wichtigste Nachbarfach der Literaturwissenschaft. Anhand der Epoche um 1800 diskutieren wir grundlegende Fragen der Ästhetik und Kunstwissenschaft.
Die Aufklärung brach ab der Mitte des 18. Jahrhunderts mit der Kunstauffassung des Barock. Wichtig waren dafür insbesondere Johann Joachim Winckelmanns Schriften, die für Goethe seit der Italienreise maßgebend waren. Gegen Ende des Jahrhunderts traten zunächst Wackenroder, Tieck und Novalis für eine neue, gefühlbetonte, christliche und nationale Literatur und Kunst ein und wirkten bald auch auf die bildende Kunst. Goethe verdeutlichte dagegen seine Auffassungen in der Zeitschrift Propyläen (1798-1800). Der Künstler solle die antiken Vorbilder studieren, um sich von seiner beschränkten Vorbildung lösen und das überzeitlich gültige Ideal darstellen zu können. Mit dem Versuch, auf Caspar David Friedrich und Philipp Otto Runge einzuwirken, scheiterte er allerdings weitgehend. (Fortsetzung siehe Wintersemester)

授業内容

- (1) Einleitung
- (2) Anton Raphael Mengs: Von der Schönheit (1762)
- (3) Johann Joachim Winckelmann: Gedanken über die Nachahmung (1755)
- (4) Immanuel Kant: Kritik der Urteilskraft (1790), § 49
- (5) Karl Philipp Moritz: Über die bildende Nachahmung des Schönen (1788)
- (6) Goethe: Einfache Nachahmung der Natur, Manier, Stil (1789)
- (7) Goethe: Über Laokoon (1798)
- (8) Ludwig Tieck: William Lovell (1795/96)
- (9) Wackenroder: Herzensergießungen eines kunstliebenden Klosterbruders (1796)
- (10) Goethe: Einleitung in die Propyläen (1798)
- (11) August Wilhelm Schlegel: Die Gemälde (1799) / Der Bund der Kirche mit den Künsten (1800)
- (12) Friedrich Schlegel: Vom Raffael (1803)
- (13) Goethe und Ph. O. Runge zur Kunstaussstellung in Weimar 1802
- (14) Rückblick

履修上の注意

Regelmäßige Teilnahme ist erwünscht.

準備学習（予習・復習等）の内容

Neben Übersetzung und Diskussion sollten gelegentlich Referate gehalten werden. Die Sitzungen sollten regelmäßig in kurzen Protokollen festgehalten werden, die zu Beginn der folgenden Sitzung vorgelesen werden.

教科書

-

参考書

- Beyer, Andreas: Die Kunst des Klassizismus und der Romantik. München: Beck 2011
- Beyrodt, Werner (Hrsg.): Kunsttheorie und Kunstgeschichte des 19. Jahrhunderts. Texte und Dokumente. Bd. I. Stuttgart: Reclam 1982
- Bibliothek der Kunstliteratur. Frankfurt a. M.: Deutscher Klassiker Verlag. Bd. 2: Frühklassizismus. 1995 - Bd. 3: Klassik und Klassizismus. 1995 - Bd. 4: Romantische Kunstlehre. 1992
- Busch, Werner: Caspar David Friedrich. Ästhetik und Religion. München: Beck 2008
- Büttner, Frank: Philipp Otto Runge. München: Beck 2010. ISBN: 9783406600920
- Büttner, Frank: Der Streit um die die Neu-deutsche religio-patriotische Kunst. In: Aurora. Jahrbuch der Eichendorff-Gesellschaft 43 (1983), S. 55-76
- Büttner, Frank: Schinkel, Goethe und die "Gefährlichkeit der Landschaftsmalerei". In: Geschichte und Ästhetik. Hrsg. v. Margit Kern u. a. München 2004, S. 331-348
- Goethe-Handbuch. Supplemente Bd. 3: Kunst. Hrsg. v. Andreas Beyer und Ernst Osterkamp. Stuttgart, Weimar: Metzler 2011
- Hinz, Sigrid (Hrsg.): Caspar David Friedrich in Briefen und Bekenntnissen. Berlin: Henschel 1968
(Fortsetzung s. Wintersemester)

成績評価の方法

Die Benotung erfolgt nach mündlicher und schriftlicher Mitarbeit an den Sitzungen, Protokollen, Referaten und Anwesenheit.

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	ドイツ文芸思想史演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil マンデラルツ, ミヒヤエル		

授業の概要・到達目標

Klassische und romantische Kunsttheorie, Teil II / Gesprächsforum Abschlussarbeiten
 Das Seminar bietet neben der Arbeit am Thema Kunsttheorie die Gelegenheit, Referate zum vorläufigen Stand der Magisterarbeiten bzw. Dissertationen auf Deutsch vorzutragen und zu diskutieren. - Zum Thema:
 (Fortsetzung vom Sommersemester) Während der Napoleonischen Kriege verfestigten sich die Positionen weiter. Friedrich und August Wilhelm Schlegel begründeten das Bündnis zwischen Religion und Kunst theoretisch und historisch. Der sog. „Ramdohr-Streit“ um C. D. Friedrichs Tetschener Altar (1808) zeigte, dass die Positionen - regelbasierte, intellektuelle, am „Fortschritt“ der Kunst orientierte gegen subjektive, gefühlsbetonte und von der Kunstgeschichte absehende Kunstauffassung - nicht mehr zu vermitteln waren. Johann Heinrich Meyers und Goethes Aufsatz Neu-deutsch religiös-patriotische Kunst von 1817 ordnete die nationalen Tendenzen der Romantik historisch ein. 1819 eskalierte der Streit noch einmal um die Ausstellung der Nazarener im Palazzo Caffarelli in Rom, aber bald danach setzte sich die romantische Kunst in Deutschland durch. Ihre führenden Vertreter erhielten Stellen an den Kunstakademien.

授業内容

- (1) Andreas Beyer: Die Kunst des Klassizismus und der Romantik (2011)
- (2) Adam Müller: Etwas über Landschaftsmalerei (1808)
- (3) Heinrich von Kleist: Empfindungen vor Friedrichs Seelandschaft (1810)
- (4) Goethe: Ruysdael als Dichter (1816)
- (5) Carl Gustav Carus: Neun Briefe über Landschaftsmalerei (1815 / 1831)
- (6) Frank Büttner: Abwehr der Romantik (1994) / Der Streit um die die Neu-deutsche religiös-patriotische Kunst (1983) /
- (7) Heinrich Meyer: Neu-deutsche religiös-patriotische Kunst (1817)
- (8) Karl Friedrich Schinkel: Gedanken und Bemerkungen über Kunst (o. J.)
- (9) Frank Büttner: Schinkel, Goethe und die „... Landschaftsmalerei“ (2004)
- (10) Joseph Görres: Die Zeiten (zu: Ph. O. Runge) (1808)
- (11) Frank Büttner: Philipp Otto Runge (2010)
- (12) Carl Gustav Carus: Friedrich der Landschaftsmaler (1840) / Werner Busch: Caspar David Friedrichs Tetschener Altar (1998)
- (13) Werner Busch: Caspar David Friedrich. Ästhetik und Religion (2008)
- (14) Rückblick

履修上の注意

Regelmäßige Teilnahme ist erwünscht.

準備学習（予習・復習等）の内容

Neben Übersetzung und Diskussion sollten gelegentlich Referate gehalten werden. Die Sitzungen sollten regelmäßig in kurzen Protokollen festgehalten werden, die zu Beginn der folgenden Sitzung vorgelesen werden.

教科書

-

参考書

- (Fortsetzung vom Sommersemester)
 - Hofmann, Werner: Caspar David Friedrich. Naturwirklichkeit und Kunstwahrheit. München: Beck 2000
 - Schlegel, Friedrich: Kritische Friedrich-Schlegel-Ausgabe. Hrsg. v. Ernst Behler u. a. München, Paderborn, Wien: Schöningh 1958-1987, Bd. 4
 - Tieck, Ludwig: Werke in vier Bänden. Hrsg. v. Marianne Thalmann. München: Winkler 1963-1966
 - Schulze, Sabine (Hrsg.): Goethe und die Kunst. Katalog zur Ausstellung in der Schirn Kunsthalle. Stuttgart: Hatje 1994
 - Traeger, Jörg: Philipp Otto Runge und sein Werk. Monographie und kritischer Katalog. München: Prestel 1975
 - Wackenroder, Wilhelm Heinrich: Sämtliche Werke und Briefe. Historisch-kritische Ausgabe. Hrsg. v. Silvio Vietta. Heidelberg: Winter 1991

成績評価の方法

Die Benotung erfolgt nach Vorbereitung auf die Sitzungen, Referaten, mündlicher Mitarbeit und Anwesenheit.

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	ドイツ文芸思想史演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil マンデラルツ, ミヒヤエル		

授業の概要・到達目標

Klassische und romantische Kunsttheorie, Teil I / Gesprächsforum Abschlussarbeiten
 Das Seminar bietet neben der Arbeit am Thema Kunsttheorie die Gelegenheit, Referate zum vorläufigen Stand der Magisterarbeiten bzw. Dissertationen auf Deutsch vorzutragen und zu diskutieren. - Zum Thema:
 Neben Philosophie und Geschichte ist die Kunstgeschichte vielleicht das wichtigste Nachbarfach der Literaturwissenschaft. Anhand der Epoche um 1800 diskutieren wir grundlegende Fragen der Ästhetik und Kunstwissenschaft.
 Die Aufklärung brach ab der Mitte des 18. Jahrhunderts mit der Kunstauffassung des Barock. Wichtig waren dafür insbesondere Johann Joachim Winckelmanns Schriften, die für Goethe seit der Italienreise maßgebend waren. Gegen Ende des Jahrhunderts traten zunächst Wackenroder, Tieck und Novalis für eine neue, gefühlsbetonte, christliche und nationale Literatur und Kunst ein und wirkten bald auch auf die bildende Kunst. Goethe verdeutlichte dagegen seine Auffassungen in der Zeitschrift Propyläen (1798-1800). Der Künstler solle die antiken Vorbilder studieren, um sich von seiner beschränkten Vorbildung lösen und das überzeitlich gültige Ideal darstellen zu können. Mit dem Versuch, auf Caspar David Friedrich und Philipp Otto Runge einzuwirken, scheiterte er allerdings weitgehend. (Fortsetzung siehe Wintersemester)

授業内容

- (1) Einleitung
- (2) Anton Raphael Mengs: Von der Schönheit (1762)
- (3) Johann Joachim Winckelmann: Gedanken über die Nachahmung (1755)
- (4) Immanuel Kant: Kritik der Urteilskraft (1790), § 49
- (5) Karl Philipp Moritz: Über die bildende Nachahmung des Schönen (1788)
- (6) Goethe: Einfache Nachahmung der Natur, Manier, Stil (1789)
- (7) Goethe: Über Laokoon (1798)
- (8) Ludwig Tieck: William Lovell (1795/96)
- (9) Wackenroder: Herzensergießungen eines kunstliebenden Klosterbruders (1796)
- (10) Goethe: Einleitung in die Propyläen (1798)
- (11) August Wilhelm Schlegel: Die Gemälde (1799) / Der Bund der Kirche mit den Künsten (1800)
- (12) Friedrich Schlegel: Vom Raffael (1803)
- (13) Goethe und Ph. O. Runge zur Kunstaussstellung in Weimar 1802
- (14) Rückblick

履修上の注意

Regelmäßige Teilnahme ist erwünscht.

準備学習（予習・復習等）の内容

Neben Übersetzung und Diskussion sollten gelegentlich Referate gehalten werden. Die Sitzungen sollten regelmäßig in kurzen Protokollen festgehalten werden, die zu Beginn der folgenden Sitzung vorgelesen werden.

教科書

-

参考書

- Beyer, Andreas: Die Kunst des Klassizismus und der Romantik. München: Beck 2011
 - Beyrodt, Werner (Hrsg.): Kunsttheorie und Kunstgeschichte des 19. Jahrhunderts. Texte und Dokumente. Bd. I. Stuttgart: Reclam 1982
 - Bibliothek der Kunstliteratur. Frankfurt a. M.: Deutscher Klassiker Verlag. Bd. 2: Frühklassizismus. 1995 - Bd. 3: Klassik und Klassizismus. 1995 - Bd. 4: Romantische Kunstlehre. 1992
 - Busch, Werner: Caspar David Friedrich. Ästhetik und Religion. München: Beck 2008
 - Büttner, Frank: Philipp Otto Runge. München: Beck 2010. ISBN: 9783406600920
 - Büttner, Frank: Der Streit um die die Neu-deutsche religiös-patriotische Kunst. In: Aurora. Jahrbuch der Eichendorff-Gesellschaft 43 (1983), S. 55-76
 - Büttner, Frank: Schinkel, Goethe und die "Gefährlichkeit der Landschaftsmalerei". In: Geschichte und Ästhetik. Hrsg. v. Margit Kern u. a. München 2004, S. 331-348
 - Goethe-Handbuch. Supplemente Bd. 3: Kunst. Hrsg. v. Andreas Beyer und Ernst Osterkamp. Stuttgart, Weimar: Metzler 2011
 - Hinz, Sigrid (Hrsg.): Caspar David Friedrich in Briefen und Bekenntnissen. Berlin: Henschel 1968
 (Fortsetzung s. Wintersemester)

成績評価の方法

Die Benotung erfolgt nach mündlicher und schriftlicher Mitarbeit an den Sitzungen, Protokollen, Referaten und Anwesenheit.

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	ドイツ文芸思想史演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil マンデラルツ, ミヒヤエル		

授業の概要・到達目標

Klassische und romantische Kunsttheorie, Teil II / Gesprächsforum Abschlussarbeiten
 Das Seminar bietet neben der Arbeit am Thema Kunsttheorie die Gelegenheit, Referate zum vorläufigen Stand der Magisterarbeiten bzw. Dissertationen auf Deutsch vorzutragen und zu diskutieren. - Zum Thema:
 (Fortsetzung vom Sommersemester) Während der Napoleonischen Kriege verfestigten sich die Positionen weiter. Friedrich und August Wilhelm Schlegel begründeten das Bündnis zwischen Religion und Kunst theoretisch und historisch. Der sog. ‚Ramdohr-Streit‘ um C. D. Friedrichs Tetschener Altar (1808) zeigte, dass die Positionen - regelbasierte, intellektuelle, am ‚Fortschritt‘ der Kunst orientierte gegen subjektive, gefühlbetonte und von der Kunstgeschichte absehende Kunstauffassung - nicht mehr zu vermitteln waren. Johann Heinrich Meyers und Goethes Aufsatz Neu-deutsch religiös-patriotische Kunst von 1817 ordnete die nationalen Tendenzen der Romantik historisch ein. 1819 eskalierte der Streit noch einmal um die Ausstellung der Nazarener im Palazzo Caffarelli in Rom, aber bald danach setzte sich die romantische Kunst in Deutschland durch. Ihre führenden Vertreter erhielten Stellen an den Kunstakademien.

授業内容

- (1) Andreas Beyer: Die Kunst des Klassizismus und der Romantik (2011)
- (2) Adam Müller: Etwas über Landschaftsmalerei (1808)
- (3) Heinrich von Kleist: Empfindungen vor Friedrichs Seelandschaft (1810)
- (4) Goethe: Ruysdael als Dichter (1816)
- (5) Carl Gustav Carus: Neun Briefe über Landschaftsmalerei (1815 / 1831)
- (6) Frank Büttner: Abwehr der Romantik (1994) / Der Streit um die die Neu-deutsche religiös-patriotische Kunst (1983) /
- (7) Heinrich Meyer: Neu-deutsche religiös-patriotische Kunst (1817)
- (8) Karl Friedrich Schinkel: Gedanken und Bemerkungen über Kunst (o. J.)
- (9) Frank Büttner: Schinkel, Goethe und die „... Landschaftsmalerei“ (2004)
- (10) Joseph Görres: Die Zeiten (zu: Ph. O. Runge) (1808)
- (11) Frank Büttner: Philipp Otto Runge (2010)
- (12) Carl Gustav Carus: Friedrich der Landschaftsmaler (1840) / Werner Busch: Caspar David Friedrichs Tetschener Altar (1998)
- (13) Werner Busch: Caspar David Friedrich. Ästhetik und Religion (2008)
- (14) Rückblick

履修上の注意

Regelmäßige Teilnahme ist erwünscht.

準備学習（予習・復習等）の内容

Neben Übersetzung und Diskussion sollten gelegentlich Referate gehalten werden. Die Sitzungen sollten regelmäßig in kurzen Protokollen festgehalten werden, die zu Beginn der folgenden Sitzung vorgelesen werden.

教科書

-

参考書

- (Fortsetzung vom Sommersemester)
 - Hofmann, Werner: Caspar David Friedrich. Naturwirklichkeit und Kunstwahrheit. München: Beck 2000
 - Schlegel, Friedrich: Kritische Friedrich-Schlegel-Ausgabe. Hrsg. v. Ernst Behler u. a. München, Paderborn, Wien: Schöningh 1958-1987. Bd. 4
 - Tieck, Ludwig: Werke in vier Bänden. Hrsg. v. Marianne Thalmann. München: Winkler 1963-1966
 - Schulze, Sabine (Hrsg.): Goethe und die Kunst. Katalog zur Ausstellung in der Schirn Kunsthalle. Stuttgart: Hatje 1994
 - Traeger, Jörg: Philipp Otto Runge und sein Werk. Monographie und kritischer Katalog. München: Prestel 1975
 - Wackenroder, Wilhelm Heinrich: Sämtliche Werke und Briefe. Historisch-kritische Ausgabe. Hrsg. v. Silvio Vietta. Heidelberg: Winter 1991

成績評価の方法

Die Benotung erfolgt nach Vorbereitung auf die Sitzungen, Referaten, mündlicher Mitarbeit und Anwesenheit.

その他

科目ナンバー：(AL) LIN612J			
独文学専攻		備考	
科目名	独語学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	渡辺 学	

授業の概要・到達目標

学部段階で習得した中級ドイツ語の総合力（特に読解力）の礎となる知識を随時確認・強化しながら、現代ドイツ語の諸相（語彙・文法にも注意を払いつつ、とりわけ移民社会などを背景としたその変化の傾向に焦点を当てる）を把握するテキストを読む。適宜簡単な授業時課題の報告やディスカッションの機会を設ける。今学期はさしあたり、ドイツへの移民のドイツ語を論じたテキストを中心に読むことを考えている。

受講者がドイツ語の中級から上級段階の知識（主として語彙力、読解力）を得、合わせて、言語学に親しみ、その方法や視点・発想を身につけることが到達目標である。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 現代ドイツ語の傾向:文法, 語彙, 文体(その1)
- 第3回 現代ドイツ語の傾向:文法, 語彙, 文体(その2)
- 第4回 現代ドイツ語の傾向:文法, 語彙, 文体(その3)
- 第5回 現代ドイツ語の傾向:文法, 語彙, 文体(その4)
- 第6回 現代ドイツ語の変化と多様性(その1)
- 第7回 現代ドイツ語の変化と多様性(その2)
- 第8回 現代ドイツ語の変化と多様性(その3)
- 第9回 現代ドイツ語の変化と多様性(その4)
- 第10回 ことばと文化・社会の関係 (日独語対照も踏まえて)(その1)
- 第11回 ことばと文化・社会の関係 (日独語対照も踏まえて)(その2)
- 第12回 ことばと文化・社会の関係 (日独語対照も踏まえて)(その3)
- 第13回 ことばと文化・社会の関係 (日独語対照も踏まえて)(その4)
- 第14回 全体のまとめ

履修上の注意

春学期・秋学期のテーマが連動しているため、原則として通年で履修が望ましい。詳しい説明を行う第一回目の授業に出席のこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に配る資料にあらかじめ入念に目を通し、読解しておくこと。また、授業時の内容を言語学の術語・方法に注意しながら復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiを用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

授業への参加度等の平常点（40％）と学期末のレポート（60％）を総合して評価する。

その他

ドイツ語や言語(学)に関する本を日頃から積極的に読むことをお勧めする。言語感覚や言語意識を研ぎ澄ますためである。

科目ナンバー: (AL) LIN612J			
独文学専攻		備考	
科目名	独語学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		渡辺 学

授業の概要・到達目標

学部段階で習得した中級ドイツ語の総合力（特に読解力）の礎となる知識を随時確認・強化しながら、現代ドイツ語のさまざまな特性（なかでも話しことばとコミュニケーションのあり方）を把握するテキストを読む。理解を深めるため、適宜歴史的テキストも参照して行く。授業時には簡単な授業時課題の報告やディスカッションの機会を設ける。今学期はさしあたり、SNSのことばとジェンダー言語学に関わるテキストを中心に読み進める予定である。

受講者がドイツ語の中級から上級段階の知識（主として語彙力、読解力）を得、合わせて、言語学に親しみ、その方法や視点・発想を身につけることが到達目標である。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 現代ドイツ語の話しことばと書きことば(その1)
- 第3回 現代ドイツ語の話しことばと書きことば(その2)
- 第4回 現代ドイツ語の話しことばと書きことば(その3)
- 第5回 現代ドイツ語の話しことばと書きことば(その4)
- 第6回 現代ドイツ語圏におけるメディアとコミュニケーション(その1)
- 第7回 現代ドイツ語圏におけるメディアとコミュニケーション(その2)
- 第8回 現代ドイツ語圏におけるメディアとコミュニケーション(その3)
- 第9回 現代ドイツ語圏におけるメディアとコミュニケーション(その4)
- 第10回 異文化とコミュニケーション（言語の混交を視野に入れて）(その1)
- 第11回 異文化とコミュニケーション（言語の混交を視野に入れて）(その2)
- 第12回 異文化とコミュニケーション（言語の混交を視野に入れて）(その3)
- 第13回 異文化とコミュニケーション（言語の混交を視野に入れて）(その4)
- 第14回 全体のまとめ

履修上の注意

春学期・秋学期のテーマが連動しているため、原則として通年での履修が望ましい。詳しい説明を行う第一回目の授業に出席のこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に配る資料にあらかじめ念に目を通し、読解しておくこと。また、授業時の内容を言語学の術語・方法に注意しながら復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiを用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

授業への参加度等の平常点（40%）と学期末のレポート（60%）を総合して評価する。

その他

ドイツ語や言語（学）に関する本を日頃から積極的に読むことをお勧めする。言語感覚や言語意識を研ぎ澄ますためである。

科目ナンバー: (AL) LIN612J			
独文学専攻		備考	
科目名	独語学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		渡辺 学

授業の概要・到達目標

学部段階で習得した中級ドイツ語の総合力（特に読解力）の礎となる知識を随時確認・強化しながら、現代ドイツ語の諸相（語彙・文法にも注意を払いつつ、とりわけ移民社会などを背景としたその変化の傾向に焦点を当てる）を把握するテキストを読む。適宜簡単な授業時課題の報告やディスカッションの機会を設ける。今学期はさしあたり、ドイツへの移民のドイツ語を論じたテキストを中心に読むことを考えている。

受講者がドイツ語の中級から上級段階の知識（主として語彙力、読解力）を得、合わせて、言語学に親しみ、その方法や視点・発想を身につけることが到達目標である。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 現代ドイツ語の傾向:文法, 語彙, 文体(その1)
- 第3回 現代ドイツ語の傾向:文法, 語彙, 文体(その2)
- 第4回 現代ドイツ語の傾向:文法, 語彙, 文体(その3)
- 第5回 現代ドイツ語の傾向:文法, 語彙, 文体(その4)
- 第6回 現代ドイツ語の変化と多様性(その1)
- 第7回 現代ドイツ語の変化と多様性(その2)
- 第8回 現代ドイツ語の変化と多様性(その3)
- 第9回 現代ドイツ語の変化と多様性(その4)
- 第10回 ことばと文化・社会の関係（日独語対照も踏まえて）(その1)
- 第11回 ことばと文化・社会の関係（日独語対照も踏まえて）(その2)
- 第12回 ことばと文化・社会の関係（日独語対照も踏まえて）(その3)
- 第13回 ことばと文化・社会の関係（日独語対照も踏まえて）(その4)
- 第14回 全体のまとめ

履修上の注意

春学期・秋学期のテーマが連動しているため、原則として通年での履修が望ましい。詳しい説明を行う第一回目の授業に出席のこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に配る資料にあらかじめ念に目を通し、読解しておくこと。また、授業時の内容を言語学の術語・方法に注意しながら復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiを用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

授業への参加度等の平常点（40%）と学期末のレポート（60%）を総合して評価する。

その他

ドイツ語や言語（学）に関する本を日頃から積極的に読むことをお勧めする。言語感覚や言語意識を研ぎ澄ますためである。

科目ナンバー：(AL) LIN612J			
独文学専攻		備考	
科目名	独語学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		渡辺 学

授業の概要・到達目標

学阶段階で習得した中級ドイツ語の総合力（特に読解力）の礎となる知識を随時確認・強化しながら、現代ドイツ語のさまざまな特性（なかでも話しことばとコミュニケーションのあり方）を把握するテキストを読む。理解を深めるため、適宜歴史的テキストも参照して行く。授業時には簡単な授業時課題の報告やディスカッションの機会を設ける。今学期はさしあたり、SNSのことばとジェンダー言語学に関わるテキストを中心に読み進める予定である。

受講者がドイツ語の中級から上級段階の知識（主として語彙力、読解力）を得、合わせて、言語学に親しみ、その方法や視点・発想を身につけることが到達目標である。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 現代ドイツ語の話しことばと書きことば(その1)
- 第3回 現代ドイツ語の話しことばと書きことば(その2)
- 第4回 現代ドイツ語の話しことばと書きことば(その3)
- 第5回 現代ドイツ語の話しことばと書きことば(その4)
- 第6回 現代ドイツ語圏におけるメディアとコミュニケーション(その1)
- 第7回 現代ドイツ語圏におけるメディアとコミュニケーション(その2)
- 第8回 現代ドイツ語圏におけるメディアとコミュニケーション(その3)
- 第9回 現代ドイツ語圏におけるメディアとコミュニケーション(その4)
- 第10回 異文化とコミュニケーション（言語の混交を視野に入れて）(その1)
- 第11回 異文化とコミュニケーション（言語の混交を視野に入れて）(その2)
- 第12回 異文化とコミュニケーション（言語の混交を視野に入れて）(その3)
- 第13回 異文化とコミュニケーション（言語の混交を視野に入れて）(その4)
- 第14回 全体のまとめ

履修上の注意

春学期・秋学期のテーマが連動しているため、原則として通年での履修が望ましい。詳しい説明を行う第一回目の授業に出席のこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に配る資料にあらかじめ目を通し、読解しておくこと。また、授業時の内容を言語学の術語・方法に注意しながら復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiを用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

授業への参加度等の平常点（40%）と学期末のレポート（60%）を総合して評価する。

その他

ドイツ語や言語(学)に関する本を日頃から積極的に読むことをお勧めする。言語感覚や言語意識を研ぎ澄ますためである。

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	演劇学演習I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		井上 優

授業の概要・到達目標

各受講生の学習の目標（修士論文・博士論文の執筆、学会発表、日常の研究成果の研鑽）のための取り組みを行い、意見交換を行うことで受講生相互の見識を深めることを目標とする。

授業内容

手順としては、基本的に毎回分担を決め、担当者が分担箇所を報告し、それを基に全員で議論をしていく形をとる。進行予定は以下のとおり。

- 第1回：授業の概要の説明 分担決定
- 第2回～第13回：受講生の発表
- 第14回：最終討論、まとめ、振り返り。

履修上の注意

授業に関連した演劇公演、学外での催し（講演、学会など）には積極的に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講生相互の理解のため、事前に発表に関連して指示されたテキストを予習しておくこと。

また次回の討論のため、必ず毎回の授業内容（発表内容）は復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業内で指示する。

成績評価の方法

期末に小論文規模のレポートを課し、それをもって評価とする。ただし、演習ゆえ、積極的に議論に参加することが何よりも求められる。無断欠席も厳禁。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習IB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	井上 優	

授業の概要・到達目標

各受講生の学習の目標(修士論文・博士論文の執筆, 学会発表, 日常の研究成果の研鑽)のための取り組みを行い, 意見交換を行うことで受講生相互の見識を深めることを目標とする。

原則的に春学期の進行に準ずる。

授業内容

手順としては, 基本的に毎回分担を決め, 担当者が分担箇所を報告し, それを基に全員で議論をしていく形をとる。進行予定は以下のとおり。

第1回: 授業の概要の説明 分担決定

第2回~第13回: 受講生の発表

第14回: 最終討論, まとめ, 振り返り。

履修上の注意

授業に関連した演劇公演, 学外での催し(講演, 学会など)には積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生相互の理解のため, 事前に発表に関連して指示されたテキストを予習しておくこと。

また次回の討論のため, 必ず毎回の授業内容(発表内容)は復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業内で指示する。

成績評価の方法

期末に小論文規模のレポートを課し, それをもって評価とする。ただし, 演習ゆえ, 積極的に議論に参加することが何よりも求められる。無断欠席も厳禁。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	井上 優	

授業の概要・到達目標

各受講生の学習の目標(修士論文・博士論文の執筆, 学会発表, 日常の研究成果の研鑽)のための取り組みを行い, 意見交換を行うことで受講生相互の見識を深めることを目標とする。

授業内容

手順としては, 基本的に毎回分担を決め, 担当者が分担箇所を報告し, それを基に全員で議論をしていく形をとる。進行予定は以下のとおり。

第1回: 授業の概要の説明 分担決定

第2回~第13回: 受講生の発表

第14回: 最終討論, まとめ, 振り返り。

履修上の注意

授業に関連した演劇公演, 学外での催し(講演, 学会など)には積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生相互の理解のため, 事前に発表に関連して指示されたテキストを予習しておくこと。

また次回の討論のため, 必ず毎回の授業内容(発表内容)は復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業内で指示する。

成績評価の方法

期末に小論文規模のレポートを課し, それをもって評価とする。ただし, 演習ゆえ, 積極的に議論に参加することが何よりも求められる。無断欠席も厳禁。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習 I D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		井上 優

授業の概要・到達目標

各受講生の学習の目標(修士論文・博士論文の執筆, 学会発表, 日常の研究成果の研鑽)のための取り組みを行い, 意見交換を行うことで受講生相互の見識を深めることを目標とする。

原則的に春学期の進行に準ずる。

授業内容

手順としては, 基本的に毎回分担を決め, 担当者が分担箇所を報告し, それを基に全員で議論をしていく形をとる。進行予定は以下のとおり。

第1回: 授業の概要の説明 分担決定

第2回～第13回: 受講生の発表

第14回: 最終討論, まとめ, 振り返り。

履修上の注意

授業に関連した演劇公演, 学外での催し(講演, 学会など)には積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生相互の理解のため, 事前に発表に関連して指示されたテキストを予習しておくこと。

また次回の討論のため, 必ず毎回の授業内容(発表内容)は復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業内で指示する。

成績評価の方法

期末に小論文規模のレポートを課し, それをもって評価とする。ただし, 演習ゆえ, 積極的に議論に参加することが何よりも求められる。無断欠席も厳禁。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習 II A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	大林 のり子	

授業の概要・到達目標

演習は原則として大林ゼミの学生の個別指導が中心になる。授業内容はその一例として, 受講生により変更あり。演劇における多様性の表現が, 国際化する世界において常に様々に試行錯誤されているが, たとえば, 民族的な表象あるいは, 演劇と民族の関係がドラマや身体表現, 社会問題としていかに扱われてきたのかについて, 考えてみる。

授業内容

- 1 Introduction
- 2 Social protest and the politics of representation (1)
- 3 Social protest and the politics of representation (2)
- 4 Social protest and the politics of representation (3)
- 5 Social protest and the politics of representation (4)
- 6 Cultural traditions, cultural memory, and performance (1)
- 7 Cultural traditions, cultural memory, and performance (2)
- 8 Cultural traditions, cultural memory, and performance (3)
- 9 Cultural traditions, cultural memory, and performance (4)
- 10 Intersections of race and gender (1)
- 11 Intersections of race and gender (2)
- 12 Intersections of race and gender (3)
- 13 Intersections of race and gender (4)
- 14 まとめ

履修上の注意

演習については, 基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて, 必要な資料収集および講読を進めていく。英語のみならずドイツ語の文献にも目を配っていくこともある。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者は事前に該当テキストに関するレジュメを準備し, 参加者は同テキストに目を通しておくこと。

教科書

参考図書

- 1) Daphne A. Brooks, African American Performance and Theater History: A Critical Reader. Oxford University Press, 2001
- 2) Robbie Aitken, Black Germany, Cambridge University Press 2015

参考書

講義にて指示する。

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	大林 のり子	

授業の概要・到達目標

演習は原則として大林ゼミの学生の個別指導が中心になる。授業内容はその一例として、受講生により変更あり。欧米演劇における多様性の表現の中で、海外における日本または日本演劇についての考察を深める機会としたい。

授業内容

- 1 インTRODクシヨン 授業の進め方
- 2 “America’s Japan,” the Performing Arts, and Japan Society (1)
- 3 “America’s Japan,” the Performing Arts, and Japan Society (2)
- 4 “America’s Japan,” the Performing Arts, and Japan Society (3)
- 5 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (1)
- 6 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (2)
- 7 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (3)
- 8 Postdramatic theatre’s artistic thinking (1)
- 9 Postdramatic theatre’s artistic thinking (2)
- 10 Postdramatic theatre’s artistic thinking (3)
- 11 The viewpoint of non-white narratives (1)
- 12 The viewpoint of non-white narratives (2)
- 13 The viewpoint of non-white narratives (3)
- 14 まとめ

履修上の注意

演習については、基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて、必要な資料収集および講読を進めていく。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前にテキストについてのレジюмеを作成し、参加者はテキストに目を通しておくこと。

教科書

- 1) Barbara E. Thornbury, America’s Japan and Japan’s Performing Arts: Cultural Mobility and Exchange in New York, 1952-201, University of Michigan Press 2016
- 2) Sean Mayes, Conversations in Color: Exploring the World of Musical Theatre, Bloomsbury Methuen Drama 2022
- 3) Kai Tuchmann, Postdramatic Dramaturgies: Resonances Between Asia and Europe, Transcript Publishing 2022

参考書

講義にて指示する。

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	大林 のり子	

授業の概要・到達目標

演習は原則として大林ゼミの学生の個別指導が中心になる。授業内容はその一例として、受講生により変更あり。演劇における多様性の表現が、国際化する世界において常に様々に試行錯誤されてきたように思う。民族的な表象あるいは、演劇と民族の関係がドラマや身体表現、社会問題としていかに扱われてきたのかについて考える。

授業内容

- 1 Introduction
- 2 Social protest and the politics of representation (1)
- 3 Social protest and the politics of representation (2)
- 4 Social protest and the politics of representation (3)
- 5 Social protest and the politics of representation (4)
- 6 Cultural traditions, cultural memory, and performance (1)
- 7 Cultural traditions, cultural memory, and performance (2)
- 8 Cultural traditions, cultural memory, and performance (3)
- 9 Cultural traditions, cultural memory, and performance (4)
- 10 Intersections of race and gender (1)
- 11 Intersections of race and gender (2)
- 12 Intersections of race and gender (3)
- 13 Intersections of race and gender (4)
- 14 まとめ

履修上の注意

演習については、基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて、必要な資料収集および講読を進めていく。英語のみならずドイツ語の文献にも目を配っていくこともある。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前に該当テキストに関するレジюмеを準備し、参加者は同テキストに目を通しておくこと。

教科書

- 参考図書
- 1) Daphne A. Brooks, African American Performance and Theater History: A Critical Reader. Oxford University Press, 2001.
 - 2) Robbie Aitken, Black Germany, Cambridge University Press 2015.

参考書

講義にて指示する。

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	大林 のり子	

授業の概要・到達目標

演習は原則として大林ゼミの学生の個別指導が中心になる。授業内容はその一例として、受講生により変更あり。欧米演劇における多様性の表現の中で、海外における日本または日本演劇についての考察を深める。

授業内容

- 1 インTRODクシヨン 授業の進め方
- 2 “America’s Japan,” the Performing Arts, and Japan Society (1)
- 3 “America’s Japan,” the Performing Arts, and Japan Society (2)
- 4 “America’s Japan,” the Performing Arts, and Japan Society (3)
- 5 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (1)
- 6 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (2)
- 7 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (3)
- 8 Postdramatic theatre’s artistic thinking (1)
- 9 Postdramatic theatre’s artistic thinking (2)
- 10 Postdramatic theatre’s artistic thinking (3)
- 11 The viewpoint of non-white narratives (1)
- 12 The viewpoint of non-white narratives (2)
- 13 The viewpoint of non-white narratives (3)
- 14 まとめ

履修上の注意

演習については、基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて、必要な資料収集および講読を進めていく。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前にテキストについてのレジユメを作成し、参加者はテキストに目を通しておくこと。

教科書

- 1) Barbara E. Thornbury, America’s Japan and Japan’s Performing Arts: Cultural Mobility and Exchange in New York, 1952-201, University of Michigan Press 2016
- 2) Sean Mayes, Conversations in Color: Exploring the World of Musical Theatre, Bloomsbury Methuen Drama 2022
- 3) Kai Tuchmann, Postdramatic Dramaturgies: Resonances Between Asia and Europe, Transcript Publishing 2022

参考書

講義にて指示する。

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	日本演劇演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	伊藤 真紀	

授業の概要・到達目標

近代の日本演劇についての考察を中心とする。我が国の演劇は西欧の近代演劇の影響を受けつつ、新しい演劇観を構築してきた。演劇をとりまく環境も近代に入ると大きく変化する。こうした変化は様々な演劇ジャンルにおいてみられるものであるが、この演習では、近代の演劇人に焦点をあて、その自伝、評伝等を取りあげつつ、順番に発表を行うかたちで考えていくこととしたい。履修者は論点を整理して発表をするよう心がけること。

授業内容

- 第1回：近代の日本演劇・概説(1)自伝と評伝
- 第2回：近代の日本演劇・概説(2)人物と履歴
- 第3回：近代の日本演劇・概説(3)時代区分
- 第4回：近代の日本演劇・概説(4)資料収集
- 第5回：演劇人の自伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第6回：演劇人の自伝・発表と討議(2)レジユメ作成方法
- 第7回：演劇人の自伝・発表と討議(3)進行計画
- 第8回：演劇人の自伝・発表と討議(4)個人発表
- 第9回：演劇人の自伝・発表と討議(5)コメント
- 第10回：演劇人とその評伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第11回：演劇人とその評伝・発表と討議(2)レジユメ作成方法
- 第12回：演劇人とその評伝・発表と討議(3)進行計画
- 第13回：演劇人とその評伝・発表と討議(4)個人発表
- 第14回：演劇人とその評伝・発表と討議(5)コメント

履修上の注意

各自の研究の進捗状況を見ながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な準備をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」(発表等)について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的に「演劇」関係の自伝・評伝等を扱うが、「演劇」の領域を広く捉えてよい。周辺領域の人物も含めて考察してほしい。

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習IB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 伊藤 真紀		

授業の概要・到達目標

近代の日本演劇についての考察を中心とする。我が国の演劇は西欧の近代演劇の影響を受けつつ、新しい演劇観を構築してきた。演劇をとりまく環境も近代に入ると大きく変化する。こうした変化は様々な演劇ジャンルにおいてみられるものであるが、この演習では、近代の演劇人に焦点をあて、その随筆、戯曲作品等を取りあげつつ、順番に発表を行うかたちで考えていくこととしたい。履習者は論点を整理して発表をするよう心がけること。

授業内容

- 第1回：近代の日本演劇・概説(1)戯曲作品のジャンル
- 第2回：近代の日本演劇・概説(2)代表的戯曲作品
- 第3回：近代の日本演劇・概説(3)演劇関係者の随筆
- 第4回：近代の日本演劇・概説(4)資料収集
- 第5回：演劇人の自伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第6回：演劇人の自伝・発表と討議(2)レジюме作成方法
- 第7回：演劇人の自伝・発表と討議(3)進行計画
- 第8回：演劇人の自伝・発表と討議(4)個人発表
- 第9回：演劇人の自伝・発表と討議(5)コメント
- 第10回：演劇人とその評伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第11回：演劇人とその評伝・発表と討議(2)レジюме作成方法
- 第12回：演劇人とその評伝・発表と討議(3)進行計画
- 第13回：演劇人とその評伝・発表と討議(4)個人発表
- 第14回：演劇人とその評伝・発表と討議(5)コメント

履修上の注意

各自の研究の進捗状況を見ながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な準備をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」(発表等)について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的に「演劇」関係の随筆や戯曲作品を扱うが、「演劇」の領域を広く捉えてよい。周辺領域の人物による随筆や、「脚色台本」なども含めて考察してほしい。

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 伊藤 真紀		

授業の概要・到達目標

近代の日本演劇についての考察を中心とする。我が国の演劇は西欧の近代演劇の影響を受けつつ、新しい演劇観を構築してきた。演劇をとりまく環境も近代に入ると大きく変化する。こうした変化は様々な演劇ジャンルにおいてみられるものであるが、この演習では、近代の演劇人に焦点をあて、その自伝、評伝等を取りあげつつ、順番に発表を行うかたちで考えていくこととしたい。履習者は論点を整理して発表をするよう心がけること。

授業内容

- 第1回：近代の日本演劇・概説(1)自伝と評伝
- 第2回：近代の日本演劇・概説(2)人物と履歴
- 第3回：近代の日本演劇・概説(3)時代区分
- 第4回：近代の日本演劇・概説(4)資料収集
- 第5回：演劇人の自伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第6回：演劇人の自伝・発表と討議(2)レジюме作成方法
- 第7回：演劇人の自伝・発表と討議(3)進行計画
- 第8回：演劇人の自伝・発表と討議(4)個人発表
- 第9回：演劇人の自伝・発表と討議(5)コメント
- 第10回：演劇人とその評伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第11回：演劇人とその評伝・発表と討議(2)レジюме作成方法
- 第12回：演劇人とその評伝・発表と討議(3)進行計画
- 第13回：演劇人とその評伝・発表と討議(4)個人発表
- 第14回：演劇人とその評伝・発表と討議(5)コメント

履修上の注意

各自の研究の進捗状況を見ながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な準備をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」(発表)について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的に「演劇」関係の自伝・評伝等を扱うが、「演劇」の領域を広く捉えてよい。周辺領域の人物も含めて考察してほしい。

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 伊藤 真紀		

授業の概要・到達目標

近代の日本演劇についての考察を中心とする。我が国の演劇は西欧の近代演劇の影響を受けつつ、新しい演劇観を構築してきた。演劇をとりまく環境も近代に入ると大きく変化する。こうした変化は様々な演劇ジャンルにおいてみられるものであるが、この演習では、近代の演劇人に焦点をあて、その随筆、戯曲作品等を取りあげつつ、順番に発表を行うかたちで考えていくこととしたい。履修者は論点を整理して発表をするよう心がけること。

授業内容

- 第1回：近代の日本演劇・概説(1)戯曲作品のジャンル
- 第2回：近代の日本演劇・概説(2)代表的戯曲作品
- 第3回：近代の日本演劇・概説(3)演劇関係者の随筆
- 第4回：近代の日本演劇・概説(4)資料収集
- 第5回：演劇人の自伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第6回：演劇人の自伝・発表と討議(2)レジюме作成方法
- 第7回：演劇人の自伝・発表と討議(3)進行計画
- 第8回：演劇人の自伝・発表と討議(4)個人発表
- 第9回：演劇人の自伝・発表と討議(5)コメント
- 第10回：演劇人とその評伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第11回：演劇人とその評伝・発表と討議(2)レジюме作成方法
- 第12回：演劇人とその評伝・発表と討議(3)進行計画
- 第13回：演劇人とその評伝・発表と討議(4)個人発表
- 第14回：演劇人とその評伝・発表と討議(5)コメント

履修上の注意

各自の研究の進捗状況をみながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な準備をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」（発表）について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的に「演劇」関係の随筆や戯曲作品を扱うが、「演劇」の領域を広く捉えてよい。周辺領域の人物による随筆や、「脚色台本」なども含めて考察してほしい。

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 矢内 賢二		

授業の概要・到達目標

日本古典演劇の戯曲または劇書を演習形式で輪読する。各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。取り上げる作品については初回に相談のうえ決定するので、もし希望があれば遠慮なく申し出ること。演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：作者と作品に関する基礎知識
- 第3回：講読(1)
- 第4回：講読(2)
- 第5回：講読(3)
- 第6回：講読(4)
- 第7回：講読(5)
- 第8回：講読(6)
- 第9回：講読(7)
- 第10回：講読(8)
- 第11回：講読(9)
- 第12回：講読(10)
- 第13回：講読(11)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。

受講者は論点の提供や質問を積極的にできるように、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	矢内 賢二	

授業の概要・到達目標

日本古典演劇の戯曲または劇書を演習形式で輪読する。各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。取り上げる作品については初回に相談のうえ決定するので、もし希望があれば遠慮なく申し出ること。また場合により参加者各自の研究テーマに関する発表を組み込み、論文執筆の一助としたい。演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：作者と作品に関する基礎知識
 第3回：講読(1)
 第4回：講読(2)
 第5回：講読(3)
 第6回：講読(4)
 第7回：講読(5)
 第8回：講読(6)
 第9回：講読(7)
 第10回：講読(8)
 第11回：講読(9)
 第12回：講読(10)
 第13回：講読(11)
 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	矢内 賢二	

授業の概要・到達目標

日本古典演劇の戯曲または劇書を演習形式で輪読する。各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。取り上げる作品については初回に相談のうえ決定するので、もし希望があれば遠慮なく申し出ること。演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：作者と作品に関する基礎知識
 第3回：講読(1)
 第4回：講読(2)
 第5回：講読(3)
 第6回：講読(4)
 第7回：講読(5)
 第8回：講読(6)
 第9回：講読(7)
 第10回：講読(8)
 第11回：講読(9)
 第12回：講読(10)
 第13回：講読(11)
 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 矢内 賢二		

授業の概要・到達目標

日本古典演劇の戯曲または劇書を演習形式で輪読する。各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。取り上げる作品については初回に相談のうえ決定するので、もし希望があれば遠慮なく申し出ること。また場合により参加者各自の研究テーマに関する発表を組み込み、論文執筆の一助としたい。演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：作者と作品に関する基礎知識
- 第3回：講読(1)
- 第4回：講読(2)
- 第5回：講読(3)
- 第6回：講読(4)
- 第7回：講読(5)
- 第8回：講読(6)
- 第9回：講読(7)
- 第10回：講読(8)
- 第11回：講読(9)
- 第12回：講読(10)
- 第13回：講読(11)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	演劇学特論ⅠA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師		上野 房子

授業の概要・到達目標

文献精読および作品映像の鑑賞を通して、パフォーマンス・アートとしてのダンスの特色を研究する。重要なエポックとして19世紀前半のロマンチック・バレエ、19世紀後半のロシア・バレエ、20世紀前半のバレエ・リュースに着目し、各々の代表的な作品を鑑賞し、考察する。映像の視聴に重点を置き、異なる演出による同一作品を緻密に視聴し、ダンス作品の理解力、分析力を高める。精読文献および視聴作品は、受講者の要望に応じて変更する場合がある。

授業内容

- 1) ロマンチック・バレエ概論
- 2) 『ジゼル』(アメリカン・バレエ・シアター)
- 3) 『ジゼル』(ミラノ・スカラ座)
- 4) 『ジゼル』(マツ・エック版)
- 5) ロシア・バレエ概論
- 6) 『バヤデール』(パリ・オペラ座)
- 7) 『白鳥の湖』(マリインスキー・バレエ)
- 8) 『白鳥の湖』(ポリショイ・バレエ)
- 9) 『白鳥の湖』(マシュー・ボーン版)
- 10) バレエ・リュース概論
- 11) フォーキン振付『ペトルーシュカ』
- 12) フォーキン振付『火の鳥』
- 13) ニジンスカ振付『結婚』
- 14) 各自のテーマに則した研究発表

精読文献(予定)：

- 1) Selma Jean Cohen, "Dance as a Theatre Art; Source Readings in Dance History from 1581 to the Present, Second Edition."
- 2) Sally Banes, "Dancing Women; Female Bodies on Stage."
- 3) Marcia B. Siegel, "The Shapes of Change."
- 4) 佐々木涼子「バレエ・ギャラリー」(学習研究社)

履修上の注意

ダンス研究において最も重要な資料である作品(映像)を徹底的に視聴し、鑑賞技術を磨く。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業内容に即した映像を各自で視聴し、関連資料を精読する。

教科書

上記文献他より、授業の際に指定する。視聴作品は、本学メディアライブラリーの所蔵映像等を用いる。

参考書

Debra Craine and Judith Mackrell, "Oxford Dictionary of Dance." Oxford: Oxford University Press, 2010.

成績評価の方法

授業時の積極性、春学期末に実施する研究発表などを総合的に判断して評価する。(授業への参加度70%、研究発表30%)

その他

踊ることを主たる表現手段とする「バレエ」の醍醐味を探求されたい。

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	演劇学特論ⅠB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 上野 房子		

授業の概要・到達目標

文献精読および作品映像の鑑賞を通して、パフォーマンス・アートとしてのダンスの特色を研究する。20世紀アメリカのダンスに着目し、バレエおよびモダンダンスの代表的な作品を重点的に鑑賞し、考察する。映像の視聴に重点を置き、ダンス作品の理解力、分析力を高める。精読文献および視聴作品は、受講者の要望に応じて変更する場合がある。

授業内容

- 1) ジョージ・バランシン概論
- 2) バランシン振付『放蕩息子』
- 3) バランシン振付『セレナーデ』
- 4) バランシン振付『テーマとヴァリエーション』
- 5) バランシン振付『ジュエルズ』
- 6) バランシン振付『フォー・テンペラメント』
- 7) モダンダンス概論
- 8) マーサ・グラハム振付『ナイト・ジャーニー』
- 9) マース・カニングハム振付『ポイント・イン・スペース』
- 10) アルウィン・ニコライ振付『イマーゴ』ほか
- 11) アルビン・エイリー振付『リヴェレーションズ』
- 12) トワイラ・サープ振付『プッシュ・カムズ・トゥ・ショヴ』
- 13) ケネス・マクミラン振付『ロメオとジュリエット』
- 14) 各自のテーマに則した研究発表

精読文献(予定)：

- 1) Selma Jean Cohen, "Dance as a Theatre Art; Source Readings in Dance History from 1581 to the Present, Second Edition."
- 2) Sally Banes, "Dancing Women; Female Bodies on Stage."
- 3) Marcia B. Siegel, "The Shapes of Change."

履修上の注意

ダンス研究において最も重要な資料である作品(映像)を徹底的に視聴し、鑑賞技術を磨く。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業内容に即した映像を各自で視聴し、関連資料を精読する。

教科書

上記文献他より、授業の際に指定する。視聴作品は、本学メディアライブラリー所蔵映像等を用いる。

参考書

Debra Craine and Judith Mackrell, "Oxford Dictionary of Dance." Oxford: Oxford University Press, 2010.

成績評価の方法

授業時の積極性、秋学期末に実施する研究発表などを総合的に判断して評価する。
(授業への参加度70%、研究発表30%)

その他

踊ることを主たる表現手段とする「ダンス」の醍醐味を探求されたい。

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	演劇学特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 伊藤 明子		

授業の概要・到達目標

総合芸術であるオペラの歴史と様式を理解し、舞台創造の諸要素—演出、舞台美術、照明などの働きも理解した上で、「演出家の時代」と言われる20世紀中盤以降の舞台作品を研究する。文献を精読して映像を視聴し、同一作品の異なる演出を比較研究する。必要に応じて、イタリア語台本、ドイツ語台本を参照する。オペラ作品への理解力を高める。作品に関する分析力を養い、独自の解釈を目指す。文献、視聴作品は、受講者の舞台作品鑑賞経験等の状況によって変更する場合がある。

授業内容

- 第1回：授業の取り組み方、作品視聴の姿勢と進行に関する説明
- 第2回：オペラ概説(1)オペラ誕生から現代まで
- 第3回：オペラ概説(2)劇場と上演様式
- 第4回：オペラ舞台創造の諸要素
- 第5回：オペラにおける演出家の時代(1)リヒャルト・ヴァーグナーのバイロイト祝祭劇場
- 第6回：オペラにおける演出家の時代(2)ヴァルター・フェルゼンシュタインのムジーク・テアター
- 第7回：モーツァルト「フィガロの結婚」概説
- 第8回：モーツァルト「フィガロの結婚」読解
- 第9回：「フィガロの結婚」フェルゼンシュタインの解釈と演出—1幕、2幕
- 第10回：「フィガロの結婚」フェルゼンシュタインの解釈と演出—3幕、4幕
- 第11回：作品比較研究「フィガロの結婚」(ピーター・セラーズ演出)
- 第12回：作品比較研究「フィガロの結婚」(デイヴィッド・マクヴィカー演出)
- 第13回：作品比較研究「フィガロの結婚」(クラウス・ゲート演出)
- 第14回：まとめ・読み替え演出について

履修上の注意

履修者どうしの意見交換を含みながら進める。秋学期 演劇学特論ⅡBを継続して受講することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布プリントを読み、理解を深めておくこと。視聴作品については、事前に視聴できるように提示するので、視聴しておくこと。

教科書

使用しない。授業時間内にプリントを配布する。

参考書

『音楽劇の演出』寺崎裕則(東京書籍)、『モーツァルト フィガロの結婚』小瀬村幸子訳 オペラ対訳ライブラリー(音楽之友社)、その他、必要に応じて随時紹介する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、学期末レポートの内容により評価する。授業への貢献度60%、レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 伊藤 明子		

授業の概要・到達目標

総合芸術であるオペラの歴史と様式を理解し、舞台創造の諸要素―演出、舞台美術、照明などの働きも理解した上で、「演出家の時代」と言われる20世紀中盤以降の舞台作品を研究する。文献を精読して映像を視聴し、同一作品の異なる演出を比較研究する。必要に応じて、イタリア語台本、ドイツ語台本を参照する。

オペラ作品への理解力を高める。作品に関する分析力を養い、独自の解釈を目指す。文献、視聴作品は、受講者の舞台作品鑑賞経験等の状況によって変更する場合がある。

授業内容

- 第1回：授業の取り組み方と進行に関する説明。各自の研究作品と到達目標について
- 第2回：モーツァルト受容の歴史1
- 第3回：モーツァルト受容の歴史2
- 第4回：モーツァルト「魔笛」作品概説
- 第5回：「魔笛」読解―様々な解釈
- 第6回：「魔笛」読解―ジャック・シャイエの解釈
- 第7回：作品比較研究 「魔笛」(ジョン・コックス演出)
- 第8回：作品比較研究 「魔笛」(ウィリアム・ケントリッジ演出)
- 第9回：作品比較研究 「魔笛」(リディア・スタイアー演出)
- 第10回：読み替え演出に関する作品研究1―各自の候補作品について（候補作品は第1回目の授業で決定）
- 第11回：読み替え演出に関する作品研究2―各自の分析と解釈
- 第12回：読み替え演出に関する作品研究3―各自の上演構想
- 第13回：各自のテーマの研究発表
- 第14回：まとめ―21世紀のオペラ演出

履修上の注意

履修者どうしの意見交換を含みながら進める。今期は、各自の研究作品と到達目標を第1回目の授業で話し合い、決定する予定。
春学期 演劇学特論ⅡAを受講することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布プリントを読み、理解を深めておくこと。
視聴作品については、事前に視聴できるように提示するので、視聴しておくこと。

教科書

使用しない。授業時間内にプリントを配布する。

参考書

『魔笛秘教オペラ』ジャック・シャイエ(白水社)、『モーツァルト 魔笛』荒井秀直訳 オペラ対訳ライブラリー（音楽之友社）、その他、必要に応じて随時紹介する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、学期末レポートの内容により評価する。
授業への貢献度60%、レポート40%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	日本演劇特論ⅠA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 矢内 賢二		

授業の概要・到達目標

河竹黙阿弥の作品を中心に、幕末・明治期の歌舞伎台帳や合巻を演習形式で輪読する。

各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。

時代背景、先行作品、社会風俗、役者・観客・興行・作者の事情等、様々な要素が編み込まれた複雑な構築物として作品をとらえ、先行研究はもとより、同時代の錦絵・写真・新聞・雑誌・文芸作品等、多様な資料を駆使して報告を行ってほしい。

各自の得意分野を生かした自由な視点からの発表を期待する。

取り上げる作品については初回に相談のうえ決定したい。演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：作者と作品に関する基礎知識
- 第3回：講読(1)
- 第4回：講読(2)
- 第5回：講読(3)
- 第6回：講読(4)
- 第7回：講読(5)
- 第8回：講読(6)
- 第9回：講読(7)
- 第10回：講読(8)
- 第11回：講読(9)
- 第12回：講読(10)
- 第13回：講読(11)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。
受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてこよう。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	日本演劇特論ⅠB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	矢内 賢二	

授業の概要・到達目標

河竹黙阿弥の作品を中心に、幕末・明治期の歌舞伎台帳や合巻を演習形式で輪読する。各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。時代背景、先行作品、社会風俗、役者・観客・興行・作者の事情等、様々な要素が編み込まれた複雑な構築物として作品をとらえ、先行研究はもとより、同時代の錦絵・写真・新聞・雑誌・文芸作品等、多様な資料を駆使して報告を行ってほしい。各自の得意分野を生かした自由な視点からの発表を期待する。取り上げる作品については初回に相談のうえ決定したい。演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：作者と作品に関する基礎知識
- 第3回：講読(1)
- 第4回：講読(2)
- 第5回：講読(3)
- 第6回：講読(4)
- 第7回：講読(5)
- 第8回：講読(6)
- 第9回：講読(7)
- 第10回：講読(8)
- 第11回：講読(9)
- 第12回：講読(10)
- 第13回：講読(11)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	日本演劇特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	伊藤 真紀	

授業の概要・到達目標

日本の演劇が、近代においてどのような課題に向き合いながら今日に至ったのか、そのプロセスについて考察する。具体的には「女優」の存在に注目し、近代以前の女性芸能者の姿も視野に入れつつ、近代以降、西欧演劇の影響を受けて誕生し、成長する「女優」の実態について検討したい。春学期のA、秋学期のBともに基本的には舞台上で活躍した「女優」にスポットを当てて、春学期のAでは主として、近代以前の女性芸能者のあり方について考え、各時代の社会全体の状況も考慮しつつ検討し、女性をめぐる「民俗」の分野についても触れる。以上の研究のために「女優」に関係する様々な言説をとりあげる予定だが、それらの資料をできるだけ時代順に読みすすめることとし、その変遷についても考えることができるようにしたい。特に近代の「女優」に関しては、現在までに刊行されている「女優」、および女性芸能者についての評伝等のほかに、同時代の新聞・雑誌資料なども用いながらすすめる。

授業内容

- 第1回：「女性芸能者」の活躍
- 第2回：女性芸能の展開・概説(1)幕末の芸能
- 第3回：女性芸能の展開・概説(2)近代の始まり
- 第4回：女性芸能の展開・概説(3)「女優」の活躍
- 第5回：女性芸能の展開・概説(4)近代戯曲と「女優」
- 第6回：女性芸能者と信仰(1)巫女の役割
- 第7回：女性芸能者と信仰(2)巫女の展開
- 第8回：女性芸能者と信仰(3)宗教儀礼と女性
- 第9回：女性芸能者と信仰(4)儀礼の場と女性
- 第10回：女性芸能者の特色(1)「女優」への道筋
- 第11回：女性芸能者の特色(2)「女優」と「男優」
- 第12回：女性芸能者の特色(3)女師匠の活躍
- 第13回：女性芸能者の特色(4)「女優」と教育
- 第14回：女性芸能者の特色(5)「女優」のジレンマ

履修上の注意

女性にスポットを当てた研究には様々な方法論があると思われるが、できるだけ自由な発想で受講して欲しい。各自の研究の進捗状況を見ながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な予習をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」(発表)について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的には、舞台上で活躍した「女優」について考えるが、広い視野で捉えてほしい。場合によっては映像メディアで活躍した「女優」も考察の対象とする。

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 伊藤 真紀		

授業の概要・到達目標

日本の演劇が、近代においてどのような課題に向き合いながら今日に至ったのか、そのプロセスについて考察する。具体的には「女優」の存在に注目し、近代以前の女性芸能者の姿も視野に入れつつ、近代以降、西欧演劇の影響を受けて誕生し、成長する「女優」の実態について検討したい。春学期のA、秋学期のBともに基本的には舞台上で活躍した「女優」にスポットを当てて、春学期のAでは主として、近代以前の女性芸能者のあり方について考え、各時代の社会全体の状況も考慮しつつ検討し、女性をめぐる「民俗」の分野についても触れる。

以上の研究のために「女優」に関係する様々な言説をとりあげる予定だが、それらの資料をできるだけ時代順に読みすすめることとし、その変遷についても考えることができるようにしたい。特に近代の「女優」に関しては、現在までに刊行されている「女優」、および女性芸能者についての評伝等のほかに、同時代の新聞・雑誌資料なども用いながらすすめる。

授業内容

- 第1回：「女性芸能者」の活躍
- 第2回：女性芸能の展開・概説(1)幕末の芸能
- 第3回：女性芸能の展開・概説(2)近代の始まり
- 第4回：女性芸能の展開・概説(3)「女優」の活躍
- 第5回：女性芸能の展開・概説(4)近代戯曲と「女優」
- 第6回：女性芸能者と信仰(1)巫女の役割
- 第7回：女性芸能者と信仰(2)巫女の展開
- 第8回：女性芸能者と信仰(3)宗教儀礼と女性
- 第9回：女性芸能者と信仰(4)儀礼の場と女性
- 第10回：女性芸能者の特色(1)「女優」への道筋
- 第11回：女性芸能者の特色(2)「女優」と「男優」
- 第12回：女性芸能者の特色(3)女師匠の活躍
- 第13回：女性芸能者の特色(4)「女優」と教育
- 第14回：女性芸能者の特色(5)「女優」のジレンマ

履修上の注意

女性にスポットを当てた研究には様々な方法論があると思われるが、できるだけ自由な発想で受講して欲しい。
各自の研究の進捗状況を見ながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な予習をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」（発表）について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的には、舞台上で活躍した「女優」について考えるが、広い視野で捉えてほしい。場合によっては映像メディアで活躍した「女優」も考察の対象とする。

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	西洋劇文学史特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 大林 のり子		

授業の概要・到達目標

20世紀以後、演劇の受容は、特定の閉じられたコミュニティから、広く一般大衆にも開かれたものへと変容していく。しかしながら、映画やテレビなどによる通信メディアによる受容の広がりに対して、いまだ演劇は劇場や特定の場所に足を運び、かつ、製作や運営にかかる労力などから、経済的にも時間的にも余裕のある層に閉じられたものであるかもしれない。あらためて現代における舞台芸術や演劇とはなにかを再考するため、この授業では、ポピュラーカルチャー、またはエンターテインメントに関する考察を深めたい。

授業内容

- 1 イントロダクション 授業の進め方について
- 2 Politics and performance in twentieth-century drama and Film.(1)
- 3 Politics and performance in twentieth-century drama and Film.(2)
- 4 Politics and performance in twentieth-century drama and Film.(3)
- 5 The politics of the popular?- from melodrama to television.
- 6 Public art/art's public.(1)
- 7 Public art/art's public.(2)
- 8 Sporting arenas and field of play.(1)
- 9 Sporting arenas and field of play.(2)
- 10 Culture shows. (1)
- 11 Culture shows. (2)
- 12 Power, politics and protest. (1)
- 13 Power, politics and protest. (2)
- 14 まとめ

履修上の注意

受講者は、それぞれ関心に近い論考を選択し、担当論文についての翻訳および内容把握した上で発表する。各回の論文読解を踏まえ、欧米の演出に関する現代的な問題点について理解を深める。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は担当論文を熟読した上で発表。事前にレジュメ等を準備する。参加者はテキストに目を通しておくこと。

教科書

- 1) D.Bradby, L. James and B.Sharratt(ed.), Performance and Politics in Popular Drama. Cambridge U.P. 1980.
- 2) Sharon Mazer, Performance in Popular Culture. Routledge 2024.
- 3) Millie Taylor, Musical Theatre, Realism and Entertainment. Routledge 2016.
- 4) Myron Matlaw(ed.), American Popular Entertainment-Papers and Proceedings of the Conference on the History of American Popular Entertainment. Greenwood Press 1977.
- 5) J.Dean and J. Gabiuet, European Readings of American Popular Culture. Greenwood Press 1996.

参考書

講義にて指示する。

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	西洋劇文学史特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	大林 のり子	

授業の概要・到達目標

現代の欧米演劇におけるアダプテーションは、文字テキストから文字テキストのみならず、文字テキストから上演テキスト、古典の現代化などさまざまなレベルで実践され、また研究が進んでいる。
その個別の事例を扱った英語論文を読む。

授業内容

- 1 イントロダクション 授業の進め方
- 2 Company and Directorial Approaches to Adaptation (1)
- 3 Company and Directorial Approaches to Adaptation (2)
- 4 Company and Directorial Approaches to Adaptation (3)
- 5 Re-mediate the Book to the Stage (1)
- 6 Re-mediate the Book to the Stage (2)
- 7 Re-mediate the Book to the Stage (3)
- 8 Reinscribing the Other in Contemporary Adaptation (1)
- 9 Reinscribing the Other in Contemporary Adaptation (2)
- 10 Reinscribing the Other in Contemporary Adaptation (3)
- 11 Postmodern Meta-Theatrical Adaptation (1)
- 12 Postmodern Meta-Theatrical Adaptation (2)
- 13 Postmodern Meta-Theatrical Adaptation (3)
- 14 まとめ

履修上の注意

演習については、基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて、必要な資料収集および講読を進めていく。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前にテキストについてのレジュメを作成し、参加者はテキストに目を通しておくこと。

教科書

- 1) Kara Reilly (ed.), Contemporary Approaches to Adaptation in Theatre, Palgrave Macmillan 2018

参考書

講義にて指示する。

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	西洋劇文学史特論ⅢA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	井上 優	

授業の概要・到達目標

近代演劇を特徴付ける重要な要素は、周知のとおり演出家という職能の確立であろう。この授業では、近代以降、古今東西の演出家たちがいかにかにシェイクスピアという劇作家と格闘したのかをたどる。いうまでもなく、シェイクスピアというユニヴァーサルなアイコンは、現代に至るまで演出家の活動の指標となっているからである。授業の中では、教科書に列挙された演出家の活動をたどると同時に、映像でその仕事の検証を行うことになる。

授業内容

- 第1回：授業の取り組みについての諸注意
 第2回：グレン・バイアム・ショウ1
 第3回：グレン・バイアム・ショウ2
 第4回：グレン・バイアム・ショウ3
 第5回：デクラン・ドネラン1
 第6回：デクラン・ドネラン2
 第7回：デクラン・ドネラン3
 第8回：ピーター・ジル1
 第9回：ピーター・ジル2
 第10回：ピーター・ジル3
 第11回：テリー・ハンズ1
 第12回：テリー・ハンズ2
 第13回：テリー・ハンズ3
 第14回：作品鑑賞 討論

履修上の注意

授業に関連した演劇公演には積極的に参加すること。特に教科書で取り上げられた作品が上演される場合、課外授業として鑑賞を課す。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの輪読であるため、入念な事前調査が必要となる。
また、次の回の議論のため、しっかり復習しておくこと。

教科書

- John Russel Brown, The Routledge Companion to Directors' Shakespeare

参考書

授業内で指示する。

成績評価の方法

平常点(日常的な発表)と期末のレポートの総合で判断する。比率は一對一だが、無断欠席を続けた受講生にはレポートの提出資格はない。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	西洋劇文学史特論ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		井上 優

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き古今東西の演出家たちがいかにシェイクスピアという劇作家と格闘したのかをたどる。授業の中では、教科書に列挙された演出家の活動をたどると同時に、映像でその仕事の検証を行うことになる。

授業内容

- 以下の項目を各自で分担する。
- 第1回：授業の取り組みについての諸注意
 - 第2回：春学期の復習
 - 第3回：デボラ・ウォーナー 1
 - 第4回：デボラ・ウォーナー 2
 - 第5回：デボラ・ウォーナー 3
 - 第6回：フリッツ・コルトナー 1
 - 第7回：フリッツ・コルトナー 2
 - 第8回：フリッツ・コルトナー 3
 - 第9回：ロベール・ルパージュ 1
 - 第10回：ロベール・ルパージュ 2
 - 第11回：ロベール・ルパージュ 3
 - 第12回：アイデン・ペイン 1
 - 第13回：アイデン・ペイン 2
 - 第14回：アイデン・ペイン 3

履修上の注意

授業に関連した演劇公演には積極的に参加すること。特に教科書で取り上げられた作品が上演される場合、課外授業として鑑賞を課す。上述したように、秋学期は特に上演面での効果の検証を目的としているため、劇場に足を運ぶことが重要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの輪読であるため、入念な事前調査が必要となる。
また、次の回の議論のため、しっかり復習しておくこと。

教科書

John Russel Brown, The Routledge Companion to Directors' Shakespeare

参考書

授業内で指示する。

成績評価の方法

平常点(日常的な発表)と期末のレポートの総合で判断する。比率は一對一だが、無断欠席を続けた受講生にはレポートの提出資格はない。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	言語芸術論特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師		京谷 啓徳

授業の概要・到達目標

この講義では活人画の歴史について論じる。活人画（タブロー・ヴィヴァン）とは、衣装を着けた人物が、絵画や歴史・物語場面を不動のポーズによって再現するパフォーマンスのことである。活人画の歴史についての理解を得ることを目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 仮設の文化
- 第3回 ルネサンス君主の入市式と活人画
- 第4回 ポッセツ(ローマ教皇の即位儀礼)と活人画 1
- 第5回 ポッセツと活人画 2
- 第6回 活人画の近代 1
- 第7回 活人画の近代 2
- 第8回 活人画の近代 3
- 第9回 活人画の近代 4
- 第10回 明治の活人画
- 第11回 額縁ショー～秦豊吉とハダカ
- 第12回 その後の活人画
- 第13回 森村泰昌の活動をめぐって
- 第14回 まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

配付資料で予習に努めること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

リアクションペーパー 30%、期末のレポート 70%

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	言語芸術論特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 京谷 啓徳		

授業の概要・到達目標

この講義では、明治末年より昭和初期にかけて流行した、うたと踊り、笑いとエロティシズムをともなう大衆芸能を紹介する。それは、オペラやレヴュー、ミュージカルといった欧米の舞台芸能を、近代日本がいかに受容したのかを検討する作業にもなるだろう。大衆芸能について理解を深めることを目標とする。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 帝国劇場について
- 第3回 帝劇の歌劇
- 第4回 帝劇の女優劇
- 第5回 浅草六区について
- 第6回 浅草オペラ1
- 第7回 浅草オペラ2
- 第8回 浅草レビュー
- 第9回 エノケン映画1
- 第10回 エノケン映画2
- 第11回 芸能とSPレコード1
- 第12回 芸能とSPレコード2
- 第13回 大衆演劇について
- 第14回 まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

配付資料で予習に努めること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

リアクションペーパー 30%、期末のレポート 70%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
文芸メディア専攻		備考	
科目名	文芸メディア演習IA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

お伽草子諸本の比較および整理と語釈を中心に、研究課題の発見と資料調査および考察を行う。取り上げるテキストは『貴船の本地』とする。数多い諸本を整理・検討するなかで、新たな読みの可能性を探りたい。

授業内容

- 第1回：イン트로ダクション
- 第2回：諸本の比較・整理(1)
- 第3回：諸本の比較・整理(2)
- 第4回：諸本の比較・整理(3)
- 第5回：諸本の比較・整理(4)
- 第6回：諸本の比較・整理(5)
- 第7回：問題の所在
- 第8回：先行研究の調査(1)
- 第9回：先行研究の調査(2)
- 第10回：お伽草子周辺資料の確認(1)
- 第11回：お伽草子周辺資料の確認(2)
- 第12回：語釈と研究報告(1)
- 第13回：語釈と研究報告(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

問題意識をもって臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習で取り上げる事柄に関する事前調査は必須。演習を実りある時間にするためには、受講生各自が積極的に準備をしていく必要がある。

教科書

なし。

参考書

中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。
『室町時代物語大成』全15巻、角川書店。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

授業への参加態度 50% 発表内容 50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習IB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

お伽草子『狭衣の草子』(奈良絵本)の翻刻と、諸本の比較および整理検討を行う。奈良絵本本文の位置づけを通して、新たな読みの可能性を探りたい。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：翻刻と諸本比較(1)
- 第3回：翻刻と諸本比較(2)
- 第4回：翻刻と諸本比較(3)
- 第5回：翻刻と諸本比較(4)
- 第6回：翻刻と諸本比較(5)
- 第7回：翻刻と諸本比較(6)
- 第8回：翻刻と諸本比較(7)
- 第9回：問題の所在
- 第10回：先行研究の調査(1)
- 第11回：先行研究の調査(2)
- 第12回：研究報告(1)
- 第13回：研究報告(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

問題意識をもって臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で取り上げる事柄に関する事前調査は必須。演習を実りある時間にするためには、受講生各自が積極的に準備をしていく必要がある。

教科書

なし。

参考書

中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。
『室町時代物語大成』全15巻、角川書店。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

授業への参加態度50% 発表内容50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

お伽草子諸本の比較および整理と語釈を中心に、研究課題の発見と資料調査および考察を行う。取り上げるテキストは『貴船の本地』とする。数多い諸本を整理・検討するなかで、新たな読みの可能性を探りたい。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：諸本の比較・整理(1)
- 第3回：諸本の比較・整理(2)
- 第4回：諸本の比較・整理(3)
- 第5回：諸本の比較・整理(4)
- 第6回：諸本の比較・整理(5)
- 第7回：問題の所在
- 第8回：先行研究の調査(1)
- 第9回：先行研究の調査(2)
- 第10回：お伽草子周辺資料の確認(1)
- 第11回：お伽草子周辺資料の確認(2)
- 第12回：語釈と研究報告(1)
- 第13回：語釈と研究報告(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

問題意識をもって臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で取り上げる事柄に関する事前調査は必須。演習を実りある時間にするためには、受講生各自が積極的に準備をしていく必要がある。

教科書

なし。

参考書

中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。
『室町時代物語大成』全15巻、角川書店。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

授業への参加態度50% 発表内容50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

お伽草子『狭衣の草子』(奈良絵本)の翻刻と、諸本の比較および整理検討を行う。奈良絵本本文の位置づけを通して、新たな読みの可能性を探りたい。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：翻刻と諸本比較(1)
- 第3回：翻刻と諸本比較(2)
- 第4回：翻刻と諸本比較(3)
- 第5回：翻刻と諸本比較(4)
- 第6回：翻刻と諸本比較(5)
- 第7回：翻刻と諸本比較(6)
- 第8回：翻刻と諸本比較(7)
- 第9回：問題の所在
- 第10回：先行研究の調査(1)
- 第11回：先行研究の調査(2)
- 第12回：研究報告(1)
- 第13回：研究報告(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

問題意識をもって臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で取り上げる事柄に関する事前調査は必須。演習を実りある時間にするためには、受講生各自が積極的に準備をしていく必要がある。

教科書

なし。

参考書

中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。
『室町時代物語大成』全15巻、角川書店。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

授業への参加態度50% 発表内容50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	内村 和至	

授業の概要・到達目標

井原西鶴『好色一代男』を考究する。春学期は、西鶴の生涯と著作を概観した後、原本の複製を用いて、巻一冒頭から順次、受講生の発表を中心として考察していく。

授業内容

- 第1回 井原西鶴の生涯と著作活動
- 第2回 巻一「けした所が戀はじめ」第一回
- 第3回 巻一「けした所が戀はじめ」第二回
- 第4回 巻一「けした所が戀はじめ」第三回
- 第5回 巻一「はづかしながら文言葉」第一回
- 第6回 巻一「はづかしながら文言葉」第二回
- 第7回 巻一「はづかしながら文言葉」第三回
- 第8回 巻一「人には見せぬところ」第一回
- 第9回 巻一「人には見せぬところ」第二回
- 第10回 巻一「人には見せぬところ」第三回
- 第11回 巻一「袖の時雨はかゝるが幸」第一回
- 第12回 巻一「袖の時雨はかゝるが幸」第二回
- 第13回 巻一「袖の時雨はかゝるが幸」第三回
- 第14回 近世文学研究における作家論の位相と可能性

履修上の注意

原本複製本を用いるので、変体仮名や崩し字にある程度習熟していない者の受講はできない。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱う編以外は自ら読み、また、西鶴の他の作品をも読まなければならない。

教科書

複製本を複製して配布する。

参考書

前田金五郎『好色一代男全注釈』上下(角川書店)

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)・レポート(20%)・定期試験(30%)の三点について評価を下す。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	内村 和至	

授業の概要・到達目標

井原西鶴『好色一代男』を考究する。春学期に引き続き、原本の複製を用いて、受講生の発表を中心として考察していく。なお、Bでは、関係論文の相互検討を行い、自らの作品論を構築する一助とする。

授業内容

- 第1回 巻一「たづねてきくほどちぎり」第一回
- 第2回 巻一「たづねてきくほどちぎり」第二回
- 第3回 巻一「たづねてきくほどちぎり」第三回
- 第4回 巻一「ほんのうの垢かき」第一回
- 第5回 巻一「ほんのうの垢かき」第二回
- 第6回 巻一「ほんのうの垢かき」第三回
- 第7回 巻一「わかれば當座はらひ」第一回
- 第8回 巻一「わかれば當座はらひ」第二回
- 第9回 巻一「わかれば當座はらひ」第三回
- 第10回 「『好色一代男』関係論文を読む」第一回
- 第11回 「『好色一代男』関係論文を読む」第二回
- 第12回 「『好色一代男』関係論文を読む」第三回
- 第13回 近世文学における作品論の位相
- 第14回 近世文学における作品論の可能性

履修上の注意

原本複製本を用いるので、変体仮名や崩し字にある程度習熟していない者の受講はむずかしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う編以外は自ら読み、また、西鶴の他の作品をも読まなければならない。

教科書

複製本を複写して配布する。

参考書

前田金五郎『好色一代男全注釈』上下(角川書店)

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)・レポート(20%)・定期試験(30%)の三点について評価を下す。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	内村 和至	

授業の概要・到達目標

井原西鶴『好色一代男』を考究する。春学期は、西鶴の生涯と著作を概観した後、原本の複製を用いて、巻一冒頭から順次、受講生の発表を中心として考察していく。

授業内容

- 第1回 井原西鶴の生涯と著作活動
- 第2回 巻一「けした所が戀はじめ」第一回
- 第3回 巻一「けした所が戀はじめ」第二回
- 第4回 巻一「けした所が戀はじめ」第三回
- 第5回 巻一「はづかしながら文言葉」第一回
- 第6回 巻一「はづかしながら文言葉」第二回
- 第7回 巻一「はづかしながら文言葉」第三回
- 第8回 巻一「人には見せぬところ」第一回
- 第9回 巻一「人には見せぬところ」第二回
- 第10回 巻一「人には見せぬところ」第三回
- 第11回 巻一「袖の時雨はかゝるが幸」第一回
- 第12回 巻一「袖の時雨はかゝるが幸」第二回
- 第13回 巻一「袖の時雨はかゝるが幸」第三回
- 第14回 近世文学研究における作家論の位相と可能性

履修上の注意

原本複製本を用いるので、変体仮名や崩し字にある程度習熟していない者の受講はできない。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う編以外は自ら読み、また、西鶴の他の作品をも読まなければならない。

教科書

複製本を複写して配布する。

参考書

前田金五郎『好色一代男全注釈』上下(角川書店)

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)・レポート(20%)・定期試験(30%)の三点について評価を下す。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習IID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	内村 和至	

授業の概要・到達目標

井原西鶴『好色一代男』を考究する。春学期に引き続き、原本の複製を用いて、受講生の発表を中心として考察していく。なお、Dでは、関係論文の相互検討を行い、自らの作品論を構築する一助とする。

授業内容

- 第1回 巻一「たづねてきくほどちぎり」第一回
- 第2回 巻一「たづねてきくほどちぎり」第二回
- 第3回 巻一「たづねてきくほどちぎり」第三回
- 第4回 巻一「ほんのうの垢かき」第一回
- 第5回 巻一「ほんのうの垢かき」第二回
- 第6回 巻一「ほんのうの垢かき」第三回
- 第7回 巻一「わかれば當座はらひ」第一回
- 第8回 巻一「わかれば當座はらひ」第二回
- 第9回 巻一「わかれば當座はらひ」第三回
- 第10回 『『好色一代男』関係論文を読む』第一回
- 第11回 『『好色一代男』関係論文を読む』第二回
- 第12回 『『好色一代男』関係論文を読む』第三回
- 第13回 近世文学における作品論の位相
- 第14回 近世文学における作品論の可能性

履修上の注意

原本複製本を用いるので、変体仮名や崩し字にある程度習熟していない者の受講はむずかしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う編以外は自ら読み、また、西鶴の他の作品をも読まなければならない。

教科書

複製本を複写して配布する。

参考書

前田金五郎『好色一代男全注釈』上下(角川書店)

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)・レポート(20%)・定期試験(30%)の三点について評価を下す。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習III A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授	博士(学術)	能地 克宜

授業の概要・到達目標

演習担当者の指導のもとで受講者が修士論文を書くにあたり、日本近現代文学を主な分析対象とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講者の研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料読解・分析の方法、テーマに沿った考察の方法、答え(結論)の提示の仕方を、例えば以下のようなテーマに沿った演習活動を通して修得していく。

- ・室生犀星研究、犀星周辺作家の研究
- ・大正時代の文学、昭和初年代の文学
- ・浅草文芸研究、都市と文学の研究
- ・言葉と想像力をめぐる近現代文学研究
- ・文学教育をめぐる諸問題の研究

授業内容

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回: 演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回: 演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回: 演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回: 演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回: 演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回: 演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回: 演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回: 演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回: 演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回: 演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回: 演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回: まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表資料の作成に向けての諸々の準備をしておくこと。
扱うテキストや指定された論文を必ず読んでくること。
発表内容を論文化するための準備をしておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回発表に対する講評を行う。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜		

授業の概要・到達目標

演習担当者の指導のもとで受講者が修士論文を書くにあたり、日本近現代文学を主な分析対象とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講者の研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料読解・分析の方法、テーマに沿った考察の方法、答え(結論)の提示の仕方を、例えば以下のようなテーマに沿った演習活動を通して修得していく。

- ・室生犀星研究、犀星周辺作家の研究
- ・大正時代の文学、昭和初年代の文学
- ・浅草文芸研究、都市と文学の研究
- ・言葉と想像力をめぐる近現代文学研究
- ・文学教育をめぐる諸問題の研究

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回：演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回：演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回：演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回：演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回：演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回：演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回：演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回：演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回：演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回：演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回：演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

発表資料の作成に向けての諸々の準備をしておくこと。
扱うテキストや指定された論文を必ず読んでくること。
発表内容を論文化するための準備をしておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回発表に対する講評を行う。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜		

授業の概要・到達目標

演習担当者の指導のもとで受講者が修士論文を書くにあたり、日本近現代文学を主な分析対象とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講者の研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料読解・分析の方法、テーマに沿った考察の方法、答え(結論)の提示の仕方を、例えば以下のようなテーマに沿った演習活動を通して修得していく。

- ・室生犀星研究、犀星周辺作家の研究
- ・大正時代の文学、昭和初年代の文学
- ・浅草文芸研究、都市と文学の研究
- ・言葉と想像力をめぐる近現代文学研究
- ・文学教育をめぐる諸問題の研究

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回：演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回：演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回：演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回：演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回：演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回：演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回：演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回：演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回：演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回：演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回：演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

発表資料の作成に向けての諸々の準備をしておくこと。
扱うテキストや指定された論文を必ず読んでくること。
発表内容を論文化するための準備をしておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回発表に対する講評を行う。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜		

授業の概要・到達目標

演習担当者の指導のもとで受講者が修士論文を書くにあたり、日本近現代文学を主な分析対象とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講者の研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料読解・分析の方法、テーマに沿った考察の方法、答え(結論)の提示の仕方を、例えば以下のようなテーマに沿った演習活動を通して修得していく。

- ・室生犀星研究、犀星周辺作家の研究
- ・大正時代の文学、昭和初年代の文学
- ・浅草文芸研究、都市と文学の研究
- ・言葉と想像力をめぐる近現代文学研究
- ・文学教育をめぐる諸問題の研究

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 第2回：演習参加者による発表とディスカッション(1)
 第3回：演習参加者による発表とディスカッション(2)
 第4回：演習参加者による発表とディスカッション(3)
 第5回：演習参加者による発表とディスカッション(4)
 第6回：演習参加者による発表とディスカッション(5)
 第7回：演習参加者による発表とディスカッション(6)
 第8回：演習参加者による発表とディスカッション(7)
 第9回：演習参加者による発表とディスカッション(8)
 第10回：演習参加者による発表とディスカッション(9)
 第11回：演習参加者による発表とディスカッション(10)
 第12回：演習参加者による発表とディスカッション(11)
 第13回：演習参加者による発表とディスカッション(12)
 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

- 発表資料の作成に向けての諸々の準備をしておくこと。
- 扱うテキストや指定された論文を必ず読んでおくこと。
- 発表内容を論文化するための準備をしておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回発表に対する講評を行う。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL) SOC592J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子		

授業の概要・到達目標

メディア文化論やメディア史を主な研究領域とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講学生それぞれの研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料収集の方法と読み方、テーマの析出の仕方、そこから導かれる考察の方法、答え(結論)などについて、講読や議論を通じて個々が深めていくことを目標とする。たんにメディアといっても多様であるが、研究に際してテーマに関する文字資料のあるものとする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 第2回：演習参加者による発表とディスカッション(1)
 第3回：演習参加者による発表とディスカッション(2)
 第4回：演習参加者による発表とディスカッション(3)
 第5回：演習参加者による発表とディスカッション(4)
 第6回：演習参加者による発表とディスカッション(5)
 第7回：演習参加者による発表とディスカッション(6)
 第8回：演習参加者による発表とディスカッション(7)
 第9回：演習参加者による発表とディスカッション(8)
 第10回：演習参加者による発表とディスカッション(9)
 第11回：演習参加者による発表とディスカッション(10)
 第12回：演習参加者による発表とディスカッション(11)
 第13回：演習参加者による発表とディスカッション(12)
 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で扱う文献や論文は必ず読んでおくことが必須である。発表の際には、発表資料を準備すること。学んだことを自分の論文に反映させるための準備を日々おこなうこと。

教科書

演習内で指定する。

参考書

演習内で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

発表やディスカッションの中で講評する。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) SOC592J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅣB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子		

授業の概要・到達目標

メディア文化論やメディア史を主な研究領域とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講学生それぞれの研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料収集の方法と読み方、テーマの析出の仕方、そこから導かれる考察の方法、答え(結論)などについて、講読や議論を通じて個々が深めていくことを目標とする。たんにメディアといっても多様であるが、研究に際してテーマに関する文字資料のあるものとする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回：演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回：演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回：演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回：演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回：演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回：演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回：演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回：演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回：演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回：演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回：演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で扱う文献や論文は必ず読んでおくことが必須である。
発表の際には、発表資料を準備すること。
学んだことを自分の論文に反映させるための準備を日々おこなうこと。

教科書

演習内で指定する。

参考書

演習内で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

発表やディスカッションの中で講評する。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) SOC692J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅣC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子		

授業の概要・到達目標

メディア文化論やメディア史を主な研究領域とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講学生それぞれの研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料収集の方法と読み方、テーマの析出の仕方、そこから導かれる考察の方法、答え(結論)などについて、講読や議論を通じて個々が深めていくことを目標とする。たんにメディアといっても多様であるが、研究に際してテーマに関する文字資料のあるものとする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回：演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回：演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回：演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回：演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回：演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回：演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回：演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回：演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回：演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回：演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回：演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で扱う文献や論文は必ず読んでおくことが必須である。
発表の際には、発表資料を準備すること。
学んだことを自分の論文に反映させるための準備を日々おこなうこと。

教科書

演習内で指定する。

参考書

演習内で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

発表やディスカッションの中で講評する。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) SOC692J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習IV D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子		

授業の概要・到達目標

メディア文化論やメディア史を主な研究領域とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講学生それぞれの研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料収集の方法と読み方、テーマの析出の仕方、そこから導かれる考察の方法、答え(結論)などについて、講読や議論を通じて個々が深めていくことを目標とする。たんにメディアといっても多様であるが、研究に際してテーマに関する文字資料のあるものとする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回：演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回：演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回：演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回：演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回：演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回：演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回：演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回：演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回：演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回：演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回：演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で扱う文献や論文は必ず読んでおくことが必須である。発表の際には、発表資料を準備すること。学んだことを自分の論文に反映させるための準備を日々おこなうこと。

教科書

演習内で指定する。

参考書

演習内で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

発表やディスカッションの中で講評する。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) LIT592J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師	相良 剛	

授業の概要・到達目標

日本における「読書」といういとなみの歴史をふまえ、現状の問題点を考察する。

授業内容

- 第1回：発表について一準備の仕方、レジメの書式
- 第2回：出版のいとなみとは
- 第3回：発表1
- 第4回：発表2
- 第5回：発表3
- 第6回：発表4
- 第7回：資料確認1—文献前半の該当資料
- 第8回：レビュー1
- 第9回：発表5
- 第10回：発表6
- 第11回：発表7
- 第12回：発表8
- 第13回：資料確認2—文献後半の該当資料
- 第14回：レビュー2

履修上の注意

発表に際しては、基本文献以外の文献や、各種データを適宜調べてのぞむこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの各回の該当箇所事前に目を通し、質問を準備すること。また配布された発表資料を十分に復習すること。

教科書

演習内で示す。

参考書

川井良介『出版メディア入門(第2版)』日本評論社、2012、日本出版学会編『白書 出版産業2010 データとチャートで読む出版の現在』文化通信社、2010、ほか演習内で適宜、提示する。

成績評価の方法

演習での発表・質疑応答60%、レポート類40%。ただし授業への貢献度がきわめて悪い場合は、単位を認めないことがある。

その他

現代日本のおもな出版物・出版社や誌名、著者の人名に関して基本的知識があることを受講の前提とする。

科目ナンバー：(AL) LIT592J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師	相良 剛	

授業の概要・到達目標

日本における「読書」といういとなみの歴史をふまえ、現状の問題点を考察する。

授業内容

第1回：発表について一準備の仕方，レジメの書式
 第2回：編集のいとなみとは
 第3回：発表1
 第4回：発表2
 第5回：発表3
 第6回：発表4
 第7回：資料確認1—文献前半の該当資料
 第8回：レビュー1
 第9回：発表5
 第10回：発表6
 第11回：発表7
 第12回：発表8
 第13回：資料確認2—文献後半の該当資料
 第14回：レビュー2

履修上の注意

発表に際しては、基本文献以外の文献や、各種データを適宜調べてのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの各回の該当箇所事前に目を通し、質問を準備すること。また配布された発表資料を十分に復習すること。

教科書

演習内で示す。

参考書

川井良介『出版メディア入門(第2版)』日本評論社，2012，日本出版学会編『白書 出版産業2010 データとチャートで読む出版の現在』文化通信社，2010，ほか演習内で適宜提示する。

成績評価の方法

演習での発表・質疑応答60%，レポート類40%。ただし授業への貢献度がきわめて悪い場合は、単位を認めないことがある。

その他

現代日本のおもな出版物・出版社や誌名，著者の人名に関して基本的知識があることを受講の前提とする。

科目ナンバー：(AL) LIT692J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師	相良 剛	

授業の概要・到達目標

日本における「読書」といういとなみの歴史をふまえ、現状の問題点を考察する。

授業内容

第1回：発表について一準備の仕方，レジメの書式
 第2回：出版のいとなみとは
 第3回：発表1
 第4回：発表2
 第5回：発表3
 第6回：発表4
 第7回：資料確認1—文献前半の該当資料
 第8回：レビュー1
 第9回：発表5
 第10回：発表6
 第11回：発表7
 第12回：発表8
 第13回：資料確認2—文献後半の該当資料
 第14回：レビュー2

履修上の注意

発表に際しては、基本文献以外の文献や、各種データを適宜調べてのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの各回の該当箇所事前に目を通し、質問を準備すること。また配布された発表資料を十分に復習すること。

教科書

演習内で示す。

参考書

川井良介『出版メディア入門(第2版)』日本評論社，2012，日本出版学会編『白書 出版産業2010 データとチャートで読む出版の現在』文化通信社，2010，ほか演習内で適宜提示する。

成績評価の方法

演習での発表・質疑応答60%，レポート類40%。ただし授業への貢献度がきわめて悪い場合は、単位を認めないことがある。

その他

現代日本のおもな出版物・出版社や誌名，著者の人名に関して基本的知識があることを受講の前提とする。

科目ナンバー：(AL) LIT692J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師		相良 剛

授業の概要・到達目標

日本における「読書」といういとなみの歴史をふまえ、現状の問題点を考察する。

授業内容

- 第1回：発表について一準備の仕方、レジメの書式
- 第2回：編集のいとなみとは
- 第3回：発表1
- 第4回：発表2
- 第5回：発表3
- 第6回：発表4
- 第7回：資料確認1—文献前半の該当資料
- 第8回：レビュー1
- 第9回：発表5
- 第10回：発表6
- 第11回：発表7
- 第12回：発表8
- 第13回：資料確認2—文献後半の該当資料
- 第14回：レビュー2

履修上の注意

発表に際しては、基本文献以外の文献や、各種データを適宜調べてのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの各回の該当箇所事前に目を通し、質問を準備すること。また配布された発表資料を十分に復習すること。

教科書

演習内で示す。

参考書

川井良介『出版メディア入門(第2版)』日本評論社、2012、日本出版学会編『白書 出版産業2010 データとチャートで読む出版の現在』文化通信社、2010、ほか演習内で適宜提示する。

成績評価の方法

演習での発表・質疑応答60%、レポート類40%。ただし授業への貢献度がきわめて悪い場合は、単位を認めないことがある。

その他

現代日本のおもな出版物・出版社や誌名、著者の人名に関して基本的知識があることを受講の前提とする。

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VIA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	博士(芸術学)	伊藤 氏貴

授業の概要・到達目標

たとえば夏目漱石が「近代文学」の代表選手とであるということに異論は出ないだろうが、漱石自身がもともと考えていた「文学」と、漱石が代表するその後の「文学」とは、その指す内容が少しく異なっている。現在に至るまでの「文学」概念の変容の過程を捉えるにあたり、まずは近代における「文学」の誕生を見る。逍遙の『小説神髓』を、当時の「文学」概念の中に置きつつ、その意図したところを捉えるのを目標とする。

授業内容

近代における「文学」概念の成立とそのゆえ：われわれが現在「文学」というあまりに自明なものとして捉えている概念が、近代においていつどのように成立したのかを考える。坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『小説総論』、夏目漱石『文学論』などが、「文学」「小説」という新しいものとの出会いの中でいかに苦闘しつつ書かれたものかを見る。

授業計画

- 第1回：坪内逍遙『小説神髓』1 なぜこの書が書かれたのか
- 第2回：坪内逍遙『小説神髓』2 小説と戯作
- 第3回：坪内逍遙『小説神髓』3 小説と美術(藝術)
- 第4回：坪内逍遙『小説神髓』4 この書の与えた影響
- 第5回：坪内逍遙『小説神髓』5 逍遙の実作との関係
- 第6回：二葉亭四迷『小説総論』1 なぜこの書が書かれたのか
- 第7回：二葉亭四迷『小説総論』2 「小説」とは何か
- 第8回：二葉亭四迷『小説総論』3 ロシア文学の影響
- 第9回：二葉亭四迷『小説総論』4 二葉亭の実作との関係『浮雲』
- 第10回：二葉亭四迷『小説総論』5 二葉亭の実作との関係『平凡』
- 第11回：夏目漱石『文学論』1 なぜこの書が書かれたのか
- 第12回：夏目漱石『文学論』2 漢文学との異同
- 第13回：夏目漱石『文学論』3 英文学の影響
- 第14回：夏目漱石『文学論』4 漱石の実作との関係

履修上の注意

坪内逍遙『小説神髓』を通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

輪読の形をとるので、発表のときはもちろん、そうでないときにも予めテキストを読み、必要なら資料をもちいて解釈しておくこと。

教科書

坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『小説総論』、夏目漱石『文学論』

参考書

亀井秀雄『「小説」論』岩波書店

課題に対するフィードバックの方法

課題はその都度コメントをつけて返す。

成績評価の方法

発表の内容50%、その他討議への参加度50%。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VI B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(芸術学) 伊藤 氏貴		

授業の概要・到達目標

たとえば夏目漱石が「近代文学」の代表選手とであるということに異論は出ないだろうが、漱石自身がもともと考えていた「文学」と、漱石が代表するその後の「文学」とは、その指す内容が少しく異なっている。近代になり新たに整えられた「文学」概念も、そろそろ耐用年数が過ぎたのではないかという言説が巷間喧しい。拡散しつつある「文学の終焉」論の骨子を捉えることを目標とする。

授業内容

近代における「文学」概念の成立とそのゆくえ：われわれが現在「文学」というあまりに自明なものとして捉えている概念が、近代において成立した後、現在それがいかに揺らぎつつあるかを考える。柄谷行人『日本近代文学の起源』『近代文学の終り』を中心に、最近かまびすしい「文学の終焉」について考え、「文学」概念がどのような状況の下でどのように揺らいでいるのかを読み解く。

授業計画

- 第1回：「文学の終焉」論の実態
- 第2回：ヘーゲルの「芸術の終焉」論について
- 第3回：A.ダントの「芸術の終焉」論について
- 第4回：芸術と文学の関係について
- 第5回：柄谷行人『日本近代文学の起源』1 「内面」について
- 第6回：柄谷行人『日本近代文学の起源』2 「風景」について
- 第7回：柄谷行人『日本近代文学の起源』3 「子供の発見」について
- 第8回：柄谷行人『近代文学の終り』1 内面の終焉
- 第9回：柄谷行人『近代文学の終り』2 社会的影響力の終焉
- 第10回：柄谷行人『近代文学の終り』3 商品価値の終焉
- 第11回：他ジャンルの先例 1 物語
- 第12回：他ジャンルの先例 2 和歌、俳句、詩
- 第13回：新興ジャンルとの関連 1 演劇、映画
- 第14回：新興ジャンルとの関連 2 漫画

履修上の注意

柄谷公人『日本近代文学の起源』を通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

輪読の形をとるので、発表のときはもちろん、そうでないときにも予めテキストを読み、必要なら資料をもちいて解釈しておくこと。

教科書

柄谷行人『日本近代文学の起源』『近代文学の終り』

参考書

A Danto, the Philosophical disenfranchisement of art

課題に対するフィードバックの方法

課題はその都度コメントをつけて返す。

成績評価の方法

発表の内容50%、討議における発言50%。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VIC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(芸術学) 伊藤 氏貴		

授業の概要・到達目標

たとえば夏目漱石が「近代文学」の代表選手とであるということに異論は出ないだろうが、漱石自身がもともと考えていた「文学」と、漱石が代表するその後の「文学」とは、その指す内容が少しく異なっている。現在に至るまでの「文学」概念の変容の過程を捉えるにあたり、まずは近代における「文学」の誕生を見る。逍遙の『小説神髓』を、当時の「文学」概念の中に置きつつ、その意図したところを捉えるのを目標とする。

授業内容

近代における「文学」概念の成立とそのゆくえ：われわれが現在「文学」というあまりに自明なものとして捉えている概念が、近代においていつどのように成立したのかを考える。坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『小説総論』、夏目漱石『文学論』などが、「文学」「小説」という新しいものとの出会いの中でいかに苦闘しつつ書かれたものかを見る。

授業計画

- 第1回：坪内逍遙『小説神髓』1 なぜこの書が書かれたのか
- 第2回：坪内逍遙『小説神髓』2 小説と戯作
- 第3回：坪内逍遙『小説神髓』3 小説と美術(藝術)
- 第4回：坪内逍遙『小説神髓』4 この書の与えた影響
- 第5回：坪内逍遙『小説神髓』5 逍遙の実作との関係
- 第6回：二葉亭四迷『小説総論』1 なぜこの書が書かれたのか
- 第7回：二葉亭四迷『小説総論』2 「小説」とは何か
- 第8回：二葉亭四迷『小説総論』3 ロシア文学の影響
- 第9回：二葉亭四迷『小説総論』4 二葉亭の実作との関係『浮雲』
- 第10回：二葉亭四迷『小説総論』5 二葉亭の実作との関係『平凡』
- 第11回：夏目漱石『文学論』1 なぜこの書が書かれたのか
- 第12回：夏目漱石『文学論』2 漢文学との異同
- 第13回：夏目漱石『文学論』3 英文学の影響
- 第14回：夏目漱石『文学論』4 漱石の実作との関係

履修上の注意

坪内逍遙『小説神髓』を通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

輪読の形をとるので、発表のときはもちろん、そうでないときにも予めテキストを読み、必要なら資料をもちいて解釈しておくこと。

教科書

坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『小説総論』、夏目漱石『文学論』

参考書

亀井秀雄『「小説」論』岩波書店

課題に対するフィードバックの方法

課題はその都度コメントをつけて返す。

成績評価の方法

発表の内容50%、討議における発言50%。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(芸術学) 伊藤 氏貴		

授業の概要・到達目標

たとえば夏目漱石が「近代文学」の代表選手とであるということに異論は出ないだろうが、漱石自身がもともと考えていた「文学」と、漱石が代表するその後の「文学」とは、その指す内容が少しく異なっている。近代になり新たに整えられた「文学」概念も、そろそろ耐用年数が過ぎたのではないかという言説が巷間喧しい。拡散しつつある「文学の終焉」論の骨子を捉えることを目標とする。

授業内容

近代における「文学」概念の成立とそのゆくえ：われわれが現在「文学」というあまりに自明なものとして捉えている概念が、近代において成立した後、現在それがいかに揺らぎつつあるかを考える。柄谷行人『日本近代文学の起源』『近代文学の終り』を中心に、最近かまびすしい「文学の終焉」について考え、「文学」概念がどのような状況の下でどのように揺らいでいるのかを読み解く。

授業計画

- 第1回：「文学の終焉」論の実態
- 第2回：ヘーゲルの「芸術の終焉」論について
- 第3回：A.ダントの「芸術の終焉」論について
- 第4回：芸術と文学の関係について
- 第5回：柄谷行人『日本近代文学の起源』1 「内面」について
- 第6回：柄谷行人『日本近代文学の起源』2 「風景」について
- 第7回：柄谷行人『日本近代文学の起源』3 「子供の発見」について
- 第8回：柄谷行人『近代文学の終り』1 内面の終焉
- 第9回：柄谷行人『近代文学の終り』2 社会的影響力の終焉
- 第10回：柄谷行人『近代文学の終り』3 商品価値の終焉
- 第11回：他ジャンルの先例 1 物語
- 第12回：他ジャンルの先例 2 和歌、俳句、詩
- 第13回：新興ジャンルとの関連 1 演劇、映画
- 第14回：新興ジャンルとの関連 2 マンガ、アニメ

履修上の注意

柄谷公人『日本近代文学の起源』を通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

輪読の形をとるので、発表のときはもちろん、そうでないときにも予めテキストを読み、必要なら資料をもちいて解釈しておくこと。

教科書

柄谷行人『日本近代文学の起源』『近代文学の終り』

参考書

A Danto, the Philosophical disenfranchisement of art

課題に対するフィードバックの方法

課題はその都度コメントをつけて返す。

成績評価の方法

発表の内容50%、討議における発言50%。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア特論IA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

文字で記された記載文芸と口伝の口承文芸との接点を探り、相互の影響関係を検討することをテーマとする。

具体的には『今昔物語集』を取り上げ、「鬼」について考えてみたい。昨年度に読んだ、怪異譚を集めた巻第二十七と、その他の巻における怪異説話との比較を行うとともに、周辺の説話や口承文芸との関係を検討する。『今昔物語集』における怪異の描き方、特に「鬼」のありようを把握することを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：『今昔物語集』 17-26・42・43話
- 第3回：『今昔物語集』 17-47話、19-20・28話
- 第4回：『今昔物語集』 20- 7・10・15話
- 第5回：『今昔物語集』 20-18・19・33・37話
- 第6回：『今昔物語集』 24-16・24話、25- 7・11話
- 第7回：『今昔物語集』 26- 8話、28-29・35話
- 第8回：『今昔物語集』 28-44話、29-18話
- 第9回：典拠と周辺資料(1)
- 第10回：典拠と周辺資料(2)
- 第11回：仏教と鬼
- 第12回：山岳信仰と鬼
- 第13回：口承文芸と鬼
- 第14回：まとめ

履修上の注意

問題意識をもって授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを事前に読み、問題点となる事柄について調査してくることが求められる。

教科書

なし。

参考書

新日本古典文学大系『今昔物語集 五』岩波書店、など。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

授業への参加態度70% レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア特論IB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

文字で記された記載文芸と口伝の口承文芸との接点を探り、相互の影響関係を検討することをテーマとする。

具体的には『今昔物語集』を取り上げる。本集を締めくくる巻第三十一を読み、「雑事」と題されたこの巻に収録される説話の性格を把握することを目標とする。同時に、この巻に多い異郷訪問譚に関して周辺の説話や口承文芸との比較を行いながら、『今昔物語集』に描かれる異郷・異界のありようを考察する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：『今昔物語集』 31-11・12・13話(1)
- 第3回：『今昔物語集』 31-14・15・16話(2)
- 第4回：『今昔物語集』 31-17・18・19話(3)
- 第5回：『今昔物語集』 31-20・21・22話(4)
- 第6回：『今昔物語集』 31-23・24・25話(5)
- 第7回：『今昔物語集』 31-33・34・35話(6)
- 第8回：『今昔物語集』 31-36・37話(7)
- 第9回：典拠と周辺資料(1)
- 第10回：典拠と周辺資料(2)
- 第11回：『今昔物語集』における異郷・異界の様相(1)
- 第12回：『今昔物語集』における異郷・異界の様相(2)
- 第13回：口承文芸との比較(1)
- 第14回：口承文芸との比較(2)

履修上の注意

問題意識をもって授業に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストを事前に読み、問題点となる事柄について調査していただくことが求められる。

教科書

なし。

参考書

新日本古典文学大系『今昔物語集 五』岩波書店、など。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

授業への参加態度70% レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア特論ⅢA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》メディアは街をどう捉えてきたのかを探る。東京の代表的な観光地浅草を描いた観光案内・ルポルタージュ・小説・詩を主なテキストとし、それぞれの表現の特徴や浅草の街の特徴を学ぶ。また、街が文学をどのように取り込みそれを活用してきたかについても考察する。

《到達目標》メディアと街のかかわり、メディアごとの表現の特徴、メディアを通して見えてくる街の姿について、受講者が知識を深め説明できることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：観光案内の浅草(1) 戦前
- 第3回：観光案内の浅草(2) 戦後
- 第4回：ルポルタージュの浅草(3) 戦前
- 第5回：ルポルタージュの浅草(4) 戦後
- 第6回：小説の中の浅草(1) 凌雲閣
- 第7回：小説の中の浅草(2) 六区
- 第8回：小説の中の浅草(3) 瓢箪池
- 第9回：小説の中の浅草(4) 噴水
- 第10回：小説の中の浅草(5) 水族館
- 第11回：詩の中の浅草(1) 十二階下
- 第12回：詩の中の浅草(2) 乞食・踊子
- 第13回：タウン誌と浅草文芸(1) 『浅草紅団』
- 第14回：タウン誌と浅草文芸(2) 『浅草底流記』

履修上の注意

講義内容に対して関心を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテキストは事前に必ず読んでおくこと。授業後は扱ったテキスト相互の関係をふまえ、自分なりの見解をまとめておくこと。

教科書

特に使用しない。適宜、プリントを配布する。

参考書

金井景子・棚沢健・能地克宜・津久井隆・上田学・広岡祐『浅草文芸ハンドブック』(勉誠出版)

課題に対するフィードバックの方法

特論ⅢBを受講する者については、初回授業で添削したレポートを返却する。

成績評価の方法

レポート(80%)、授業への参加態度(20%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア特論ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》室生犀星研究、室生犀星周辺作家の研究、浅草文芸研究、都市と文学の研究、言葉と想像力をめぐる近現代文学研究、大正時代の文学研究、昭和初年代の文学研究、文学教育をめぐる諸問題の研究などに興味のある受講者が、これらの研究を実践的に進めていく上で必要なスキルを、受講者による発表とディスカッションを通して習得していく。

《到達目標》問いの立て方(テーマの設定方法)、資料読解・分析の方法、テーマに沿った考察の方法、答え(結論)の提示の仕方が明確な論文を作成することを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：室生犀星研究(1)
- 第3回：室生犀星研究(2)
- 第4回：室生犀星周辺作家の研究
- 第5回：浅草文芸研究(1)
- 第6回：浅草文芸研究(2)
- 第7回：都市と文学の研究(1)
- 第8回：都市と文学の研究(2)
- 第9回：言葉と想像力をめぐる近代文学研究
- 第10回：言葉と想像力をめぐる現代文学研究
- 第11回：大正時代の文学研究
- 第12回：昭和初年代の文学研究
- 第13回：文学教育をめぐる諸問題の研究
- 第14回：まとめ

履修上の注意

授業内容に対して関心を持ち、積極的な姿勢で臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテキストは事前に必ず読んでおくこと。授業後は扱ったテキスト相互の関係をふまえ、自分なりの見解をまとめておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回発表に対する講評を行う。

成績評価の方法

発表内容(40%)、レポート(60%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT591J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア特論VA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師	相良 剛	

授業の概要・到達目標

産業としての出版のいとなみの現状を把握し、出版の新しい形態の可能性を考える。

授業内容

- 第1回：出版といういとなみと出版産業
- 第2回：出版物の分類(1) 一書籍
- 第3回：出版物の分類(2) 一雑誌
- 第4回：出版産業の概況一売上高の推移
- 第5回：出版産業の構造
- 第6回：出版社(1) 一業務内容
- 第7回：出版社(2) 一規模、所在地
- 第8回：出版社(3) 一書籍出版社
- 第9回：出版社(4) 一雑誌出版社
- 第10回：出版流通(1) 一制度
- 第11回：出版流通(2) 一取次・書店
- 第12回：印刷・製本概説
- 第13回：電子出版の影響(1) 一可能性
- 第14回：電子出版の影響(2) 一問題点

履修上の注意

特論Aでは出版のいとなみを産業としてマクロにとらえる。出版全体に関心のある諸君は、編集・企画からとらえる特論Bと合わせて受講すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの各回の該当箇所事前に目を通し、質問を準備すること。また配布された補足・発表資料を十分に復習すること。

教科書

授業でプリントを配布する。

参考書

川井良介『出版メディア入門(第2版)』日本評論社、2012、日本出版学会編『白書 出版産業2010 データとチャートで読む出版の現在』文化通信社、2010年、ほか講義で適宜、提示する。

成績評価の方法

授業参加態度60%、レポート40%。ただし授業貢献度がきわめて悪い場合は単位を認めないことがある。

その他

現代日本のおもな出版物・出版社や誌名、著者の人名に関して基本的知識があることを受講の前提とする。

科目ナンバー：(AL) LIT591J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア特論VB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師	相良 剛	

授業の概要・到達目標

編集・企画の観点から、出版のいとなみの現状を把握し、出版の新しい形態の可能性を考える。

授業内容

- 第1回：出版のいとなみにおける編集・企画の位置
- 第2回：編集(1) 一執筆交渉から原稿入手まで
- 第3回：編集(2) 一原稿チェックの考え方
- 第4回：編集(3) 一原稿チェックの実際
- 第5回：事例研究(1)『人間失格』一原稿の扱い
- 第6回：事例研究(2)『人間失格』一ねらいと形
- 第7回：事例研究(3)『星の王子さま』一訳者
- 第8回：事例研究(4)『星の王子さま』一ねらいと形
- 第9回：事例研究(5)『よむ』一雑誌創刊の前提
- 第10回：事例研究(6)『よむ』一創刊準備
- 第11回：事例研究(7)『よむ』一1年目から2年目
- 第12回：事例研究(8)『よむ』一3年目から終刊まで
- 第13回：電子出版と編集(1) 一可能性
- 第14回：電子出版と編集(2) 一問題点

履修上の注意

特論Bでは出版のいとなみを編集・企画から具体的にとらえる。出版全体に関心のある諸君は、出版のいとなみを産業としてマクロにとらえる特論Aと合わせて受講すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの各回の該当箇所事前に目を通し、質問を準備すること。また配布された補足・発表資料を十分に復習すること。

教科書

授業でプリントを配布する。

参考書

川井良介『出版メディア入門(第2版)』日本評論社、2012、日本出版学会編『白書 出版産業2010 データとチャートで読む出版の現在』文化通信社、2010、ほか講義で適宜、提示する。

成績評価の方法

授業参加態度60%、レポート40%。ただし授業貢献度がさわめて悪い場合は単位を認めないことがある。

その他

現代日本のおもな出版物・出版社や誌名、著者の人名に関して基本的知識があることを受講の前提とする。

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	日本文芸史特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	内村 和至	

授業の概要・到達目標

日本の文芸思潮に大きな影響を与えたものの一つに仏教思想があることは言うまでもない。

春学期は鈴木大拙『禅と日本文化』を中心に、日本の文芸との禅の精神的連関を探る。

授業内容

- 第1回：禅とは何か—仏教の中における禅の位置
- 第2回：禅思想略史1:中国禅1—達磨から慧能まで
- 第3回：禅思想略史2:中国禅2—臨済・趙州を中心に
- 第4回：禅思想略史3:日本禅1—栄西・道元
- 第5回：禅思想略史4:日本禅2—五山・一休・白隠
- 第6回：鈴木大拙—その生涯と仕事
- 第7回：『禅と日本文化』第1章「禅の予備知識」
- 第8回：『禅と日本文化』第2章「禅と美術」
- 第9回：『禅と日本文化』第3章「禅と武士」
- 第10回：『禅と日本文化』第4章「禅と剣道」
- 第11回：『禅と日本文化』第5章「禅と儒教」
- 第12回：『禅と日本文化』第6章「禅と茶道」
- 第13回：『禅と日本文化』第7章「禅と俳句」
- 第14回：禅思想と日本文化—その功罪—

履修上の注意

禅文献についてレポートを課す。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う作品は予習段階でそれを読み、復習段階では関連文献に目を通さなければならない。

教科書

鈴木大拙著/北川桃雄訳『禅と日本文化』岩波新書 赤版 R20

参考書

上田閑照・岡村美穂子編『鈴木大拙とは誰か』(岩波現代文庫 2002)

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)・レポート(20%)・定期試験(30%)の三点について評価を下す。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	日本文芸史特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	内村 和至	

授業の概要・到達目標

日本の文芸思潮に大きな影響を与えたものの一つに仏教思想があることは言うまでもない。

秋学期は孤雲懷奘『正法眼蔵随聞記』を導きの杖として道元思想を探る。

授業内容

- 第1回：日本禅の源流
- 第2回：道元の生涯1—出生から出家まで
- 第3回：道元の生涯2—入宋から死まで
- 第4回：道元の著作
- 第5回：『正法眼蔵随聞記』の諸本
- 第6回：『正法眼蔵随聞記』第1講—出家について
- 第7回：『正法眼蔵随聞記』第2講—嗣子相承について
- 第8回：『正法眼蔵随聞記』第3講—典座教訓について
- 第9回：『正法眼蔵随聞記』第4講—只管打坐について
- 第10回：『正法眼蔵随聞記』第5講—如浄禅師について
- 第11回：『正法眼蔵随聞記』第6講—学道について
- 第12回：「弁道話」を読む
- 第13回：「晋勧坐禅儀」を読む
- 第14回：『正法眼蔵』『現成公案』を読む

履修上の注意

道元関連文献についてレポートを課す。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う作品は予習段階でそれを読み、復習段階では関連文献に目を通さなければならない。

教科書

孤雲懷奘『正法眼蔵随聞記』（岩波文庫）

参考書

道元『正法眼蔵』（岩波文庫）

成績評価の方法

授業への参加態度（50%）・レポート（20%）・定期試験（30%）の三点について評価を下す。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT591J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	表象文化特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士（社会学）中江 桂子	

授業の概要・到達目標

メディア文化論および文化社会学の古典を読み、研究の基礎をかためる。各学生の研究の構想へと発展させる。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
 - 第2回 メディア—聖と俗をむすぶもの
 - 第3回 のど自慢の文化史的系譜—芸能の起源と社会
 - 第4回 声・節・リズム—そのメディアとしての力を考える
 - 第5回 大地との対話—放浪の“弾き語り”の系譜をたどる
 - 第6回 唾蟬坊とフォークソング—近代文化史と社会心理
 - 第7回 中間のまとめ
 - 第8回 メディアとしての身体—“ダンスとメッセージ”を考える
 - 第9回 “からだ”のメッセージ性—スポーツは言語化できるか
 - 第10回 巫女・遊女・カリスマ・アイドル—“ひと”への社会的想像力
 - 第11回 アイドルの近代と現代—機能的肥大化の社会過程とその言葉について
 - 第12回 演じられるドラマ—上演される文芸のちから
 - 第13回 人間の具体的な発話—“ライブ”のメディア力を考える
 - 第14回 まとめ
- ただし、受講学生の研究関心にしたがい、多少の変更がありうる。

履修上の注意

出席、報告、および論文の進捗状況の連絡については、必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を読み、疑問点についてはあらかじめ調べたうえで授業に参加すること。
文芸と文化、だけではなく、そこに生きる人間のダイナミックな生き様を想像しながら、理解の努力をすること。

教科書

加藤秀俊『メディアの誕生』中央公論新社

参考書

授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的には個別にコメントする。共通する問題点や注意点は、授業の議論のなかでとりあげる。

成績評価の方法

平常点60%、レポート40%

その他

とくになし。

科目ナンバー：(AL) LIT591J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	表象文化特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子		

授業の概要・到達目標

メディア文化論および文化社会学の古典を読み、研究の基礎をかためる。各学生の研究の構想へと発展させる。

授業内容

- 第1回 夏休みの研究報告1
 - 第2回 後期の演習の主題にかんする基礎知識
 - 第3回 知的所有権の成立と共有されるメディアーその相克を考える
 - 第4回 「語り手」「読み手」の組織社会学
 - 第5回 旅するところー移動する人びとのメディアと文化
 - 第6回 国家統合と旅のメディアー旅から醸成される公共性とその比較文化
 - 第7回 中間のまとめ
 - 第8回 ノンフィクションの誕生ー記録・読み物・語り物
 - 第9回 感動という商品とその流通ー文芸史と社会史の交差点
 - 第10回 劇場の時代ー都市環境のなかの舞台の氾濫
 - 第11回 イベント文化と現在ースポーツ・劇場・物語、そして私たち
 - 第12回 江戸ー近代ー現代の文化史の変容とその意味
 - 第13回 構築物としての文芸・文化・芸能
 - 第14回 まとめ
- ただし、受講学生の研究関心のしつがい、多少の変更がありうる。

履修上の注意

出席、報告、および論文の進捗状況の連絡については、必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を読み、疑問点についてはあらかじめ調べたうえで授業に参加すること。
文芸や文化、だけではなく、そこに生きる人間の生きざまを含めて想像し、理解へつなげること。

教科書

加藤秀俊『メディアの誕生』中央公論新社

参考書

授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

個別にコメントを返す。また、共通の問題点や注意点などについては、授業の中でその講評などを取り上げて話題にする。

成績評価の方法

平常点60%、レポート40%

その他

とくになし。

科目ナンバー：(AL) LIT591J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	表現創作特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(芸術学) 伊藤 氏貴		

授業の概要・到達目標

「創作」、特に小説を書くことを目標にする。
そのために必要なのは、現代文学の動向やそれが今置かれている状況を知ることであり、今何を書くべきかを考えることである。戦後からこれまでの文学の動きをおさえることをとりあえずの到達目標とし、そこから自分で書くべきことをさぐってもらいたい。

授業内容

- 「創作」を目指し、まずそのための基礎を学ぶ。無からの創造は不可能だ。「新しい」ためにはすでになにがなされてきたのかを知らねばならない。現代文学がなにを目指しなにを成し遂げてきたのかを振り返り、同時代文学の書き手たちがいまなにをしようとしているのかを探る。
- 第1回：戦後文学のエコール1 第一次戦後派
 - 第2回：戦後文学のエコール2 第二次戦後派
 - 第3回：戦後文学のエコール3 第三の新人
 - 第4回：戦後文学のエコール4 内向の世代
 - 第5回：戦後文学のエコール5 エコールの解体
 - 第6回：大江健三郎の方法1 『小説の方法』
 - 第7回：大江健三郎の方法2 『飼育』
 - 第8回：大江健三郎の方法3 『万延元年のフットボール』
 - 第9回：大江健三郎の方法4 『取り替え子』
 - 第10回：島田雅彦の方法1 『小説作法ABC』
 - 第11回：島田雅彦の方法2 『優しいサヨクのための嬉遊曲』
 - 第12回：島田雅彦の方法3 『僕は模造人間』
 - 第13回：保坂和志の方法1 『小説の自由』
 - 第14回：保坂和志の方法2 『ブレーン・ソング』

履修上の注意

基本的には講義であるが、あくまで実践を目標とするため、創作あるいは批評に関心のある者の受講を望む。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書

上記の書物すべて。

参考書

授業の際に指示する。

成績評価の方法

提出作品、論文による。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT591J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	表現創作特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(芸術学) 伊藤 氏貴		

授業の概要・到達目標

「創作」、特に小説を書くことを目標にする。
 そのために必要なのは、現代文学の動向やそれが今置かれている状況を知ることであり、今何を書くべきかを考えることである。戦後からこれまでの文学の動きをおさえることをとりあえずの到達目標とし、そこから自分で書くべきことをさぐってもらいたい。

授業内容

「創作」を目指し、まずそのための基礎を学ぶ。無からの創造は不可能だ。「新しい」ためにはすでにながなされてきたのかを知らねばならない。現代文学がなにを目指しなにを成し遂げてきたのかを振り返り、同時代文学の書き手たちがいまなにをしようとしているのかを探る。同時代作家たちのデビュー作を読み、また視野を外国文学にも広げる。

授業計画

- 第1回：小川洋子の方法1 『物語の役割』
- 第2回：小川洋子の方法2 『博士の愛した数式』
- 第3回：小川洋子の方法3 『妊娠カレンダー』
- 第4回：村上春樹の方法 『風の歌を聴け』
- 第5回：村上龍の方法 『限りなく透明に近いブルー』
- 第6回：田中康夫の方法 『なんとなく、クリスタル』
- 第7回：石原慎太郎の方法 『太陽の季節』
- 第8回：笙野頼子の方法1 『極楽』
- 第9回：笙野頼子の方法2 『二百回忌』
- 第10回：笙野頼子の方法3 『海底八幡宮』
- 第11回：阿部和重の方法 『インディヴィジュアル・プロジェクト』
- 第12回：綿矢りさの方法 『インストール』
- 第13回：金原ひとみの方法 『蛇にピアス』
- 第14回：白岩玄の方法 『野ブタ。をプロデュース』

履修上の注意

基本的には講義であるが、あくまで実践を目標とするため、創作・批評の実作に関心のある者の受講を望む。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書

上記の書物すべて。

参考書

授業中に指示する。

成績評価の方法

提出物による。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究 I A		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(工学) 松山 恵		

授業の概要・到達目標

日本近代史の中でもおもに都市史・都市文化史に関する史料講読と基本文献の輪読、ならびに、受講生による研究報告によって授業を進める。

今年度は、明治大正期の東京を対象に、以下のようなテーマ・事象に焦点をあてる。史料については、これらの内容に則した明治期の東京府文書(「順立帳」など)を講読・検討する予定である。なお、受講生の問題関心や研究状況を勘案して、授業の進め方・内容を変更することもある。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：日本都市史全体の研究動向
- 第3回：日本近代都市史の研究動向
- 第4回：巨大城下町・江戸
- 第5回：東京「遷都」について(1)
- 第6回：同上(2)
- 第7回：文明開化の都市空間
- 第8回：明治初年における東京の諸相(1)
- 第9回：同上(2)
- 第10回：東京防火令
- 第11回：「東京」時代—明治初中期の地域社会—
- 第12回：都市下層の生活世界
- 第13回：東京改造の思想(1)
- 第14回：同上(2)

履修上の注意

演習において、報告担当者はかならずレジュメを作成し、無断欠席をしないこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告担当者のみならず他の受講生も、取りあげる箇所は予習し、論点・疑問点などを積極的に発言して欲しい(評価の対象として重視する)。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度および他者の報告に対する質疑などをもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究IB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(工学)	松山 恵	

授業の概要・到達目標

日本近代史の中でもおもに都市史・都市文化史に関する史料講読と基本文献の輪読、ならびに、受講生による研究報告によって授業を進める。

今年度は、明治大正期の東京を対象に、以下のようなテーマ・事象に焦点をあてる。史料については、これらの内容に則した明治期の東京府文書(「順立帳」など)を講読・検討する予定である。なお、受講生の問題関心や研究状況を勘案して、授業の進め方・内容を変更することもある。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：東京市区改正(1)
- 第3回：同上(2)
- 第4回：欧化主義と官庁集中計画(1)
- 第5回：同上(2)
- 第6回：土地制度と不動産経営(1)
- 第7回：同上(2)
- 第8回：百貨店の誕生
- 第9回：「大東京」空間の形成
- 第10回：「田園都市」と郊外文化(1)
- 第11回：同上(2)
- 第12回：関東大震災とその復興実態(1)
- 第13回：同上(2)
- 第14回：モダン東京の盛り場

履修上の注意

演習において、報告担当者はかならずレジュメを作成し、無断欠席をしないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者のみならず他の受講者も、取りあげる箇所は予習し、論点・疑問点などを積極的に発言して欲しい(評価の対象として重視する)。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度および他者の報告に対する質疑などをもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究IC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(工学)	松山 恵	

授業の概要・到達目標

日本近代史の中でもおもに都市史・都市文化史に関する史料講読と基本文献の輪読、ならびに、受講生による研究報告によって授業を進める。

今年度は、明治大正期の東京を対象に、以下のようなテーマ・事象に焦点をあてる。史料については、これらの内容に則した明治期の東京府文書(「順立帳」など)を講読・検討する予定である。なお、受講生の問題関心や研究状況を勘案して、授業の進め方・内容を変更することもある。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：日本都市史全体の研究動向
- 第3回：日本近代都市史の研究動向
- 第4回：巨大城下町・江戸
- 第5回：東京「遷都」について(1)
- 第6回：同上(2)
- 第7回：文明開化の都市空間
- 第8回：明治初年における東京の諸相(1)
- 第9回：同上(2)
- 第10回：東京防火令
- 第11回：「東京」時代—明治初中期の地域社会—
- 第12回：都市下層の生活世界
- 第13回：東京改造の思想(1)
- 第14回：同上(2)

履修上の注意

演習において、報告担当者はかならずレジュメを作成し、無断欠席をしないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者のみならず他の受講者も、取りあげる箇所は予習し、論点・疑問点などを積極的に発言して欲しい(評価の対象として重視する)。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度および他者の報告に対する質疑などをもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅠD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(工学)	松山 恵	

授業の概要・到達目標

日本近代史の中でもおもに都市史・都市文化史に関する史料講読と基本文献の輪読、ならびに、受講生による研究報告によって授業を進める。

今年度は、明治大正期の東京を対象に、以下のようなテーマ・事象に焦点をあてる。史料については、これらの内容に則した明治期の東京府文書(「順立帳」など)を講読・検討する予定である。なお、受講生の問題関心や研究状況を勘案して、授業の進め方・内容を変更することもある。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：東京市区改正(1)
- 第3回：同上(2)
- 第4回：欧化主義と官庁集中計画(1)
- 第5回：同上(2)
- 第6回：土地制度と不動産経営(1)
- 第7回：同上(2)
- 第8回：百貨店の誕生
- 第9回：「大東京」空間の形成
- 第10回：「田園都市」と郊外文化(1)
- 第11回：同上(2)
- 第12回：関東大震災とその復興実態(1)
- 第13回：同上(2)
- 第14回：モダン東京の盛り場

履修上の注意

演習において、報告担当者はかならずレジュメを作成し、無断欠席をしないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者のみならず他の受講者も、取りあげる箇所は予習し、論点・疑問点などを積極的に発言して欲しい(評価の対象として重視する)。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度および他者の報告に対する質疑などをもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	野尻 泰弘	

授業の概要・到達目標

史料整理・調査、史料講読・翻刻、研究報告によって授業を進める。

整理・調査対象の史料は近世・近代以降のものである。

史料講読・翻刻の史料は、幕領・藩領のものである。史料から基礎データを作成する。

演習については、受講生の問題関心に基づく研究報告を求めらる。

到達目標は、史料整理・調査についての基礎的手順の学習、史料の保存・公開・活用に対する理解の深化、修士論文に向けた精度の高い研究などである。

受講生の問題関心や研究状況により、授業の内容・進め方を若干変更する場合がある。

一回目の授業で進め方を相談する。

授業内容

1. 授業の進め方について
2. 史料の説明と配布
3. 史料整理・調査1
4. 史料講読・翻刻1
5. 研究報告1
6. 史料整理・調査2
7. 史料講読・翻刻2
8. 研究報告2
9. 史料整理・調査3
10. 史料講読・翻刻3
11. 研究報告3
12. 史料整理・調査4
13. 史料講読・翻刻、研究報告4
14. 考察とまとめ

履修上の注意

受講者全員の十分な予習と討論への積極的な参加を期待する。

国文学研究資料館主催のアーカイブズ・カレッジ(史料管理学会)や各種の史料調査・整理への参加が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

史料の事前調査、授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

特になし。

参考書

- 歴史学研究会編『日本史年表』(岩波書店)
- 児玉幸多編『くずし字解読辞典 普及版』(東京堂出版)
- 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

史料講読・翻刻、研究報告、調査中に適宜行う。

成績評価の方法

報告内容と討論への参加などをもとに、総合的に評価する。

その他

長期休暇中にまとまった史料整理・調査を行う場合がある。

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学) 野尻 泰弘		

授業の概要・到達目標

史料整理・調査，史料講読・翻刻，研究報告によって授業を進める。

整理・調査対象の史料は近世・近代以降のものである。

史料講読・翻刻の史料は、幕領・藩領のものである。史料から基礎データを作成する。

演習については、受講生の研究関心に基づく研究報告を求める。

到達目標は、史料整理・調査についての基礎的手順の学習，史料翻刻の実践，研究史の理解，修士論文に向けた精度の高い研究などである。

受講生の問題関心や研究状況により，授業の内容・進め方を若干変更する場合がある。

一回目の授業で進め方を相談する。

授業内容

1. 授業の進め方について
2. 史料の説明と配布
3. 史料整理・調査1
4. 史料講読・翻刻1
5. 研究報告1
6. 史料整理・調査2
7. 史料講読・翻刻2
8. 研究報告2
9. 史料整理・調査3
10. 史料講読・翻刻3
11. 研究報告3
12. 史料整理・調査4
13. 史料講読・翻刻、研究報告4
14. 考察と展望

履修上の注意

受講者全員の十分な予習と討論への積極的な参加を期待する。

国文学研究資料館主催のアーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会)や各種の史料調査・整理への参加が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

史料の事前調査，授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

特になし。

参考書

歴史学研究会編『日本史年表』(岩波書店)
 児玉幸多編『くずし字解読辞典 普及版』(東京堂出版)
 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

史料講読・翻刻、研究報告、調査中に適宜行う。

成績評価の方法

報告内容と討論への参加などをもとに、総合的に評価する。

その他

長期休暇中にまとまった史料整理・調査を行う場合がある。

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅡC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学) 野尻 泰弘		

授業の概要・到達目標

史料整理・調査，史料講読・翻刻，研究報告によって授業を進める。

整理・調査対象の史料は近世・近代以降のものである。

史料講読・翻刻の史料は、幕領・藩領のものである。史料から基礎データを作成する。

演習については、受講生の研究関心に基づく研究報告を求める。

到達目標は、史料整理・調査についての基礎的手順の学習，史料の保存・公開・活用に対する理解の深化，修士論文に向けた精度の高い研究などである。

受講生の問題関心や研究状況により，授業の内容・進め方を若干変更する場合がある。

一回目の授業で進め方を相談する。

授業内容

1. 授業の進め方について
2. 史料の説明と配布
3. 史料整理・調査1
4. 史料講読・翻刻1
5. 研究報告1
6. 史料整理・調査2
7. 史料講読・翻刻2
8. 研究報告2
9. 史料整理・調査3
10. 史料講読・翻刻3
11. 研究報告3
12. 史料整理・調査4
13. 史料講読・翻刻、研究報告4
14. 考察とまとめ

履修上の注意

受講者全員の十分な予習と討論への積極的な参加を期待する。

国文学研究資料館主催のアーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会)や各種の史料調査・整理への参加が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

史料の事前調査，授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

特になし。

参考書

歴史学研究会編『日本史年表』(岩波書店)
 児玉幸多編『くずし字解読辞典 普及版』(東京堂出版)
 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

史料講読・翻刻、研究報告、調査中に適宜行う。

成績評価の方法

報告内容と討論への参加などをもとに、総合的に評価する。

その他

長期休暇中にまとまった史料整理・調査を行う場合がある。

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅡD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学) 野尻 泰弘		

授業の概要・到達目標

史料整理・調査，史料講読・翻刻，研究報告によって授業を進める。

整理・調査対象の史料は近世・近代以降のものである。

史料講読・翻刻の史料は、幕領・藩領のものである。史料から基礎データを作成する。

演習については、受講生の研究関心に基づく研究報告を求める。

到達目標は、史料整理・調査についての基礎的手順の学習，史料翻刻の実践，研究史の理解，修士論文に向けた程度の高い研究などである。

受講生の問題関心や研究状況により，授業の内容・進め方を若干変更する場合がある。

一回目の授業で進め方を相談する。

授業内容

1. 授業の進め方について
2. 史料の説明と配布
3. 史料整理・調査1
4. 史料講読・翻刻1
5. 研究報告1
6. 史料整理・調査2
7. 史料講読・翻刻2
8. 研究報告2
9. 史料整理・調査3
10. 史料講読・翻刻3
11. 研究報告3
12. 史料整理・調査4
13. 史料講読・翻刻、研究報告4
14. 考察と展望

履修上の注意

受講者全員の十分な予習と討論への積極的な参加を期待する。

国文学研究資料館主催のアーカイブズ・カレッジ(史料管理学会)や各種の史料調査・整理への参加が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

史料の事前調査，授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

特になし。

参考書

- 歴史学研究会編『日本史年表』(岩波書店)
 児玉幸多編『くずし字解読辞典 普及版』(東京堂出版)
 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

史料講読・翻刻、研究報告、調査中に適宜行う。

成績評価の方法

報告内容と討論への参加などをもとに、総合的に評価する。

その他

長期休暇中にまとまった史料整理・調査を行う場合がある。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅢA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

日本古代における法制史料とりわけ行政法である令の私撰註釈集である『令集解』の注釈方式について講義を行う。おのの注釈スタイルなどを講義し，実例を用いて検討する。

古代史料には，引用が複数にわたり複雑かつ難解な文章が多数存在する。本講義を通じて，各論文執筆に向けた古代史料の読解力を高めることを目標とする。

授業内容

『令集解』における註釈，集解部分の記述に引用される諸註釈をそれぞれに抜き出して検討を加える。

各註釈の特性をつかみ，『令集解』読解の基礎となる構成を見抜く力と，実例を検討していくことで読解力全般をも養成していく。

- 第1回 『令義解』『令集解』について
- 第2回 写本・テキストについて
- 第3回 法令引用について
- 第4回 古記について
- 第5回 古令・古答について
- 第6回 令釈について
- 第7回 跡記について
- 第8回 穴記について(1)
- 第9回 穴記について(2)
- 第10回 讃記について
- 第11回 朱説について
- 第12回 額説他について
- 第13回 異質令集解について
- 第14回 構成の実践と惟宗直本の記述

履修上の注意

漢文の読解力や漢字の知識，古代史上の用語については平日頃から鍛錬をして授業に臨むこと。

履修者の欠席はなるべく避けること。教員，もしくは他の参加者に欠席理由を伝えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告などに当たる以外の受講者も『令集解』当該条を読みこんでおくこと。

授業内における項目については，史料・論考などを確認すること。

予習・復習にかかわらず，日本古代史に関する幅広い知識の習得に努めること。

教科書

レジュメ，使用史料プリントは各回配付する。
 国史大系『令集解』は個別に保持していることが望ましい。

参考書

戸川・新井・今駒編『令集解引書索引』訂正版，汲古書院，1995年。
 中野高行『令集解』の注釈書』山中裕・森田悌編『論争 日本古代史』河出書房新社，1991年。

成績評価の方法

報告や質疑応答などへの参加度による平常点を重視する。
 また，評価の一助として史料の読解や簡単な調査報告やレポートを課す。

その他

次の時限の演習と連続して受講すること。
 一部修士論文などの準備に当てることもある。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

日本古代における法制史料とその周縁の史料の注釈方式、法令引用について講義を行う。おのおのの注釈スタイルや先行法令の引用形式などを講義し、実例を用いて検討する。

古代史料には、引用が複数にわたり複雑かつ難解な文章が多数存在する。本講義を通じて、各論文執筆に向けた古代史料の読解力を高めることを目標とする。

授業内容

『令集解』に近い各種法制史料における注釈、先行法令の引用形式の記述スタイルの検討を通し、『令集解』読解に加え、古代法制史料全般の読解力をも養成していく。

- 第1回 古代法制史料について
- 第2回 『本朝月令』について(1)
- 第3回 『本朝月令』について(2)
- 第4回 『政事要略』について(1)
- 第5回 『政事要略』について(2)
- 第6回 『政事要略』について(3)
- 第7回 『法曹類林』について
- 第8回 『法曹至要抄』について(1)
- 第9回 『法曹至要抄』について(2)
- 第10回 年中行事書について(1)
- 第11回 年中行事書について(2)
- 第12回 年中行事書について(3)
- 第13回 『令抄』について
- 第14回 『令聞書』について

履修上の注意

漢文の読解力や漢字の知識、古代史上の用語については平日頃から鍛錬をして授業に臨むこと。

履修者の欠席はなるべく避けること。教員、もしくは他の参加者に欠席理由を伝えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告などに当たる以外の受講者も『令集解』当該条を読みこんでおくこと。

授業内における項目については、史料・論考などを確認すること。

予習・復習にかかわらず、日本古代史に関する幅広い知識の習得に努めること。

教科書

レジュメ、使用史料プリントは各回配付する。
群書類従6巻・続群書類従10上巻を個別に保持していることよ。

参考書

虎尾俊哉『古代典籍文書論考』吉川弘文館、1982年。
『国史大系書目解題』吉川弘文館や『群書解題』続群書類従完成会といった解題書。

成績評価の方法

報告や質疑応答などへの参加度による平常点を重視する。
また、評価の一助として史料の読解や簡単な調査報告やレポートを課す。

その他

次の時限の演習と連続して受講すること。
一部修士論文などの準備に当てることもある。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅢC		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

日本古代における法制史料とりわけ行政法である令の私撰注釈集である『令集解』の注釈方式について講義を行う。おのおのの注釈スタイルなどを講義し、実例を用いて検討する。

古代史料には、引用が複数にわたり複雑かつ難解な文章が多数存在する。本講義を通じて、各論文執筆に向けた古代史料の読解力を高めることを目標とする。

授業内容

『令集解』における注釈、集解部分の記述に引用される諸注釈をそれぞれに抜き出して検討を加える。

各注釈の特性をつかみ、『令集解』読解の基礎となる構成を見抜く力と、実例を検討していくことで読解力全般をも養成していく。

- 第1回 『令義解』『令集解』について
- 第2回 写本・テキストについて
- 第3回 法令引用について
- 第4回 古記について
- 第5回 古令・古答について
- 第6回 令釈について
- 第7回 跡記について
- 第8回 穴記について(1)
- 第9回 穴記について(2)
- 第10回 讚記について
- 第11回 朱説について
- 第12回 額説他について
- 第13回 異質令集解について
- 第14回 構成の実践と惟宗直本の記述

履修上の注意

漢文の読解力や漢字の知識、古代史上の用語については平日頃から鍛錬をして授業に臨むこと。

履修者の欠席はなるべく避けること。教員、もしくは他の参加者に欠席理由を伝えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告などに当たる以外の受講者も『令集解』当該条を読みこんでおくこと。

授業内における項目については、史料・論考などを確認すること。

予習・復習にかかわらず、日本古代史に関する幅広い知識の習得に努めること。

教科書

レジュメ、使用史料プリントは各回配付する。
国史大系『令集解』は個別に保持していることが望ましい。

参考書

戸川・新井・今駒編『令集解引書索引』訂正版、汲古書院、1995年。
中野高行『令集解』の注釈書』山中裕・森田悌編『論争 日本古代史』河出書房新社、1991年。

成績評価の方法

報告や質疑応答などへの参加度による平常点を重視する。
また、評価の一助として史料の読解や簡単な調査報告やレポートを課す。

その他

次の時限の演習と連続して受講すること。
一部修士論文などの準備に当てることもある。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅢD		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

日本古代における法制史料とその周縁の史料の注釈方式、法令引用について講義を行う。おのおのの注釈スタイルや先行法令の引用形式などを講義し、実例を用いて検討する。

古代史料には、引用が複数にわたり複雑かつ難解な文章が多数存在する。本講義を通じて、各論文執筆に向けた古代史料の読解力を高めることを目標とする。

授業内容

『令集解』に近い各種法制史料における注釈、先行法令の引用形式の記述スタイルの検討を通し、『令集解』読解に加え、古代法制史料全般の読解力をも養成していく。

- 第1回 古代法制史料について
- 第2回 『本朝月令』について(1)
- 第3回 『本朝月令』について(2)
- 第4回 『政事要略』について(1)
- 第5回 『政事要略』について(2)
- 第6回 『政事要略』について(3)
- 第7回 『法曹類林』について
- 第8回 『法曹至要抄』について(1)
- 第9回 『法曹至要抄』について(2)
- 第10回 年中行事書について(1)
- 第11回 年中行事書について(2)
- 第12回 年中行事書について(3)
- 第13回 『令抄』について
- 第14回 『令聞書』について

履修上の注意

漢文の読解力や漢字の知識、古代史上の用語については当日頃から鍛錬をして授業に臨むこと。

履修者の欠席はなるべく避けること。教員、もしくは他の参加者に欠席理由を伝えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告などに当たる以外の受講者も『令集解』当該条を読みこんでおくこと。

授業内における項目については、史料・論考などを確認すること。

予習・復習にかかわらず、日本古代史に関する幅広い知識の習得に努めること。

教科書

レジュメ、使用史料プリントは各回配付する。
群書類従6巻・続群書類従10上巻を個別に保持しているとよい。

参考書

虎尾俊哉『古代典籍文書論考』吉川弘文館、1982年。
『国史大系書目解題』吉川弘文館や『群書解題』続群書類従完成会といった解題書。

成績評価の方法

報告や質疑応答などへの参加度による平常点を重視する。
また、評価の一助として史料の読解や簡単な調査報告やレポートを課す。

その他

次の時限の演習と連続して受講すること。
一部修士論文などの準備に当てることもある。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

奈良から平安時代初期にかけて窺うことのできる法制史料『令集解』、とりわけ官人制の基礎となる選叙令を検討する。

史料の校訂作業について修練し、内容についても時代背景の差違や注釈スタイルの違いを見出し、古代史料全般に通じる読解力を養成する。

修士論文執筆能力の獲得と、研究者として自立的に研究活動できる能力を備えることを到達点とする。

授業内容

主に報告担当者がレジュメを準備、報告し、それに対して全員で質疑応答し、さらに報告者が補足報告を行う。
各写本とテキストの校訂作業をはじめに行う。

令本文、注釈である集解部分を適宜区切って書き下し、語句註や構成、解釈、論点整理を行う。

最後に大宝令の復原と唐令の復原試案を提示し、条文の意義付けを確定する。

関連史料はなるべく網羅し、参考文献も当該条文や語句註に関わるものを多数読み込むことが必要となる。

1. 『令集解』研究にあたって
2. 蔭皇親条より
- 3～14. 各条報告

履修上の注意

報告担当者はレジュメを人数分用意すること。
報告担当者の欠席は厳禁、他受講者も何らかの理由があつて欠席する場合は事前連絡をすること。

報告担当者はそれまでの報告を鑑み、レベルが落ちないよう努力すること。

担当者以外にも予習を行い、自身のテーマやそれ以外についても積極的に討論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

漢字の知識、辞書検索力は当然必須であり、すでに備わっている状態であること。

漢文の読解や独自の読み方などについては、最初に掲示する参考文献などを前もってよく読んでおくこと。

一度出てきた用語や読み方について、しっかり復習し、他人の報告や質疑応答についてもしっかり吸収すること。

教科書

新訂増補国史大系『令集解』(吉川弘文館)。
鷹司本『令集解』テキストデータ(古代学研究所ホームページ)。

参考書

第1回授業時に提示する。そのほか各条ごとに指示する。

成績評価の方法

報告内容や質疑応答への参加度など平常点による。
修士論文などの準備、経過報告などを実施し、成績に加味する。

その他

大学院のそのほかの活動や研究会などに積極的に参加すること。
学部生とは異なる授業に臨む姿勢を求めます。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

奈良から平安時代初期にかけて窺うことのできる法制史料『令集解』、とりわけ官人制の基礎となる選叙令を検討する。

史料の校訂作業について修練し、内容についても時代背景の差違や註釈スタイルの違いを見出し、古代史料全般に通じる読解力を養成する。

修士論文執筆能力の獲得と、研究者として自立的に研究活動できる能力を備えることを到達点とする。

授業内容

主に報告担当者がレジュメを準備、報告し、それに対して全員で質疑応答し、さらに報告者が補足報告を行う。

各写本とテキストの校訂作業をはじめに行う。

令本文、註釈である集解部分を適宜区切って書き下し、語句註や構成、解釈、論点整理を行う。

最後に大宝令の復原と唐令の復原試案を提示し、条文の意義付けを確定する。

関連史料はなるべく網羅し、参考文献も当該条文や語句註に関わるものを多数読み込むことが必要となる。

1. 『令集解』研究にあたって

2. 蔭皇親条より

3～14. 各条報告

履修上の注意

報告担当者はレジュメを人数分用意すること。

報告担当者の欠席は厳禁、他受講者も何らかの理由があつて欠席する場合は事前連絡をすること。

報告担当者はそれまでの報告を鑑み、レベルが落ちないよう努力すること。

担当者以外も予習を行い、自身のテーマやそれ以外についても積極的に討論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

漢字の知識、辞書検索力は当然必須であり、すでに備わっている状態であること。

漢文の読解や独自の読み方などについては、最初に掲示する参考文献などを前もってよく読んでおくこと。

一度出てきた用語や読み方について、しっかり復習し、他人の報告や質疑応答についてもしっかり吸収すること。

教科書

新訂増補国史大系『令集解』（吉川弘文館）。

鷹司本『令集解』テキストデータ（古代学研究所ホームページ）。

参考書

各条や内容ごとに指示する。

成績評価の方法

報告内容や質疑応答への参加度など平常点による。

修士論文などの準備、経過報告などを実施し、成績に加味する。

その他

大学院のそのほかの活動や研究会などに積極的に参加すること。

学部生とは異なる授業に臨む姿勢を求めます。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

奈良から平安時代初期にかけて窺うことのできる法制史料『令集解』、とりわけ官人制の基礎となる選叙令を検討する。

史料の校訂作業について修練し、内容についても時代背景の差違や註釈スタイルの違いを見出し、古代史料全般に通じる読解力を養成する。

修士論文執筆能力の獲得と、研究者として自立的に研究活動できる能力を備えることを到達点とする。

授業内容

主に報告担当者がレジュメを準備、報告し、それに対して全員で質疑応答し、さらに報告者が補足報告を行う。

各写本とテキストの校訂作業をはじめに行う。

令本文、註釈である集解部分を適宜区切って書き下し、語句註や構成、解釈、論点整理を行う。

最後に大宝令の復原と唐令の復原試案を提示し、条文の意義付けを確定する。

関連史料はなるべく網羅し、参考文献も当該条文や語句註に関わるものを多数読み込むことが必要となる。

1. 『令集解』研究にあたって

2. 蔭皇親条より

3～14. 各条報告

履修上の注意

報告担当者はレジュメを人数分用意すること。

報告担当者の欠席は厳禁、他受講者も何らかの理由があつて欠席する場合は事前連絡をすること。

報告担当者はそれまでの報告を鑑み、レベルが落ちないよう努力すること。

担当者以外も予習を行い、自身のテーマやそれ以外についても積極的に討論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

漢字の知識、辞書検索力は当然必須であり、すでに備わっている状態であること。

漢文の読解や独自の読み方などについては、最初に掲示する参考文献などを前もってよく読んでおくこと。

一度出てきた用語や読み方について、しっかり復習し、他人の報告や質疑応答についてもしっかり吸収すること。

教科書

新訂増補国史大系『令集解』（吉川弘文館）。

鷹司本『令集解』テキストデータ（古代学研究所ホームページ）。

参考書

第1回授業時に提示する。そのほか各条ごとに指示する。

成績評価の方法

報告内容や質疑応答への参加度など平常点による。

修士論文などの準備、経過報告などを実施し、成績に加味する。

その他

大学院のそのほかの活動や研究会などに積極的に参加すること。

学部生とは異なる授業に臨む姿勢を求めます。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

奈良から平安時代初期にかけて窺うことのできる法制史料『令集解』、とりわけ官人制の基礎となる選叙令を検討する。

史料の校訂作業について修練し、内容についても時代背景の差違や註釈スタイルの違いを見出し、古代史料全般に通じる読解力を養成する。

修士論文執筆能力の獲得と、研究者として自立的に研究活動できる能力を備えることを到達点とする。

授業内容

主に報告担当者がレジュメを準備、報告し、それに対して全員で質疑応答し、さらに報告者が補足報告を行う。

各写本とテキストの校訂作業をはじめに行う。

令本文、註釈である集解部分を適宜区切って書き下し、語句註や構成、解釈、論点整理を行う。

最後に大宝令の復原と唐令の復原試案を提示し、条文の意義付けを確定する。

関連史料はなるべく網羅し、参考文献も当該条文や語句註に関わるものを多数読み込むことが必要となる。

1. 『令集解』研究にあたって

2. 藤原親条より

3～14. 各条報告

履修上の注意

報告担当者はレジュメを人数分用意すること。

報告担当者の欠席は厳禁、他受講者も何らかの理由があつて欠席する場合は事前連絡をすること。

報告担当者はそれまでの報告を鑑み、レベルが落ちないよう努力すること。

担当者以外も予習を行い、自身のテーマやそれ以外についても積極的に討論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

漢字の知識、辞書検索力は当然必須であり、すでに備わっている状態であること。

漢文の読解や独自の読み方などについては、最初に掲示する参考文献などを前もってよく読んでおくこと。

一度出てきた用語や読み方について、しっかり復習し、他人の報告や質疑応答についてもしっかり吸収すること。

教科書

新訂増補国史大系『令集解』(吉川弘文館)。

鷹司本『令集解』テキストデータ(古代学研究所ホームページ)。

参考書

各条や内容ごとに指示する。

成績評価の方法

報告内容や質疑応答への参加度など平常点による。

修士論文などの準備、経過報告などを実施し、成績に加点する。

その他

大学院のそのほかの活動や研究会などに積極的に参加すること。

学部生とは異なる授業に臨む姿勢を求めます。

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅣA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 清水 有子		

授業の概要・到達目標

「統一政権期の政治・外交」をテーマに、重要史料を研究する授業です。今年度は豊臣政権末期を取り上げます。豊臣政権は大陸侵攻を目標に掲げ、九州を「五畿内同然」とみなして、島津氏をはじめとする諸大名に干渉し天下統一を進めていきました。

独自の領国統治・外交を展開していた戦国大名島津氏は、内部に根強く残る抵抗勢力を抱えつつ、結局は豊臣政権に服従する道を選び、徳川政権にも従いましたが、戦国大名が天下統一を受け入れた論理とは何だったのでしょうか。また島津氏は自らも従軍した朝鮮侵略戦争をどのように見ていたのでしょうか。このような問題について、島津家文書を収めた『旧記雑録 後編三』(文禄5年～)を輪読しながら考えていきます。秋学期は春学期の続きの部分を同じように輪読します。

この授業を通して武家文書を正確に読解する力、適切な問いをたてる力、主張を論理的に展開する三つの力をつけ、議論する力、質の高い論文作成の能力を獲得してほしいと思います。

授業内容

第1回 授業の説明・計画

第2回 テキスト輪読①

第3回 テキスト輪読②

第4回 テキスト輪読③

第5回 テキスト輪読④

第6回 テキスト輪読⑤

第7回 テキスト輪読⑥

第8回 テキスト輪読⑦

第9回 テキスト輪読⑧

第10回 テキスト輪読⑨

第11回 テキスト輪読⑩

第12回 テキスト輪読⑪

第13回 テキスト輪読⑫

第14回 論点の総括と議論

履修上の注意

中世ないし近世の古文書の基礎を学んでいることが受講要件になります。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講生全員が授業前にテキストの該当部分を精読し、当日の議論に備えておくこと、授業後はもう一度テキストを読解し議論を思い出して理解を定着させること、興味を持った点は積極的に関連文献を読むことを求めます。

教科書

テキストについてはコピーを配布します。

参考書

『島津氏の研究』(福島金治編、吉川弘文館、1983年)

山本博文『島津義弘の賭け』(中公文庫、2001年)

北島万次『壬辰倭乱と秀吉・島津・李舜臣』(校倉書房、2002年)

五味克夫『戦国・近世の島津一族と家臣』(戎光祥出版、2018年)

新名一仁『「不屈の両殿」島津義久・義弘－関ヶ原後も生き抜いた才智と武勇』(角川新書、2021年)ほか。

成績評価の方法

報告(6割)・議論の内容(4割)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅣB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 清水 有子		

授業の概要・到達目標

「統一政権期の政治・外交」をテーマに、重要史料を研究する授業です。今年度は豊臣政権末期を取り上げます。豊臣政権は大陸侵攻を目標に掲げ、九州を「五畿内同然」とみなして、島津氏をはじめとする諸大名に干渉し天下統一を進めていきました。

独自の領国統治・外交を展開していた戦国大名島津氏は、内部に根強く残る抵抗勢力を抱えつつ、結局は豊臣政権に服従する道を選び、徳川政権にも従いましたが、戦国大名が天下統一を受け入れた論理とは何だったのでしょうか。また島津氏は自らも従軍した朝鮮侵略戦争をどのように見ていたのでしょうか。このような問題について、島津家文書を収めた『旧記雑録 後編三』(文禄5年～)を輪読しながら考えていきます。秋学期は春学期の続きの部分を同じように輪読します。

この授業を通して武家文書を正確に読解する力、適切な問いをたてる力、主張を論理的に展開する三つの力をつけ、議論する力、質の高い論文作成の能力を獲得してほしいと思います。

授業内容

- 第1回 授業の説明・計画
- 第2回 テキスト輪読①
- 第3回 テキスト輪読②
- 第4回 テキスト輪読③
- 第5回 テキスト輪読④
- 第6回 テキスト輪読⑤
- 第7回 テキスト輪読⑥
- 第8回 テキスト輪読⑦
- 第9回 テキスト輪読⑧
- 第10回 テキスト輪読⑨
- 第11回 テキスト輪読⑩
- 第12回 テキスト輪読⑪
- 第13回 テキスト輪読⑫
- 第14回 論点の総括と議論

履修上の注意

中世ないし近世の古文書の基礎を学んでいることが受講要件になります。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講生全員が授業前にテキストの該当部分を精読し、当日の議論に備えておくこと、授業後はもう一度テキストを読解し議論を思い出して理解を定着させること、興味を持った点は積極的に関連文献を読むことを求めます。

教科書

テキストについてはコピーを配布します。

参考書

- 『島津氏の研究』(福島金治編、吉川弘文館、1983年)
- 山本博文『島津義弘の賭け』(中公文庫、2001年)
- 北島万次『壬辰倭乱と秀吉・島津・李舜臣』(校倉書房、2002年)
- 五味克夫『戦国・近世の島津一族と家臣』(戎光祥出版、2018年)
- 新名一仁『「不屈の両殿」島津義久・義弘－関ヶ原後も生き抜いた才智と武勇』(角川新書、2021年)ほか。

成績評価の方法

報告(6割)・議論の内容(4割)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅣC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 清水 有子		

授業の概要・到達目標

「統一政権期の政治・外交」をテーマに、重要史料を研究する授業です。今年度は豊臣政権末期を取り上げます。豊臣政権は大陸侵攻を目標に掲げ、九州を「五畿内同然」とみなして、島津氏をはじめとする諸大名に干渉し天下統一を進めていきました。

独自の領国統治・外交を展開していた戦国大名島津氏は、内部に根強く残る抵抗勢力を抱えつつ、結局は豊臣政権に服従する道を選び、徳川政権にも従いましたが、戦国大名が天下統一を受け入れた論理とは何だったのでしょうか。また島津氏は自らも従軍した朝鮮侵略戦争をどのように見ていたのでしょうか。このような問題について、島津家文書を収めた『旧記雑録 後編三』(文禄5年～)を輪読しながら考えていきます。秋学期は春学期の続きの部分を同じように輪読します。

この授業を通して武家文書を正確に読解する力、適切な問いをたてる力、主張を論理的に展開する三つの力をつけ、議論する力、質の高い論文作成の能力を獲得してほしいと思います。

授業内容

- 第1回 授業の説明・計画
- 第2回 テキスト輪読①
- 第3回 テキスト輪読②
- 第4回 テキスト輪読③
- 第5回 テキスト輪読④
- 第6回 テキスト輪読⑤
- 第7回 テキスト輪読⑥
- 第8回 テキスト輪読⑦
- 第9回 テキスト輪読⑧
- 第10回 テキスト輪読⑨
- 第11回 テキスト輪読⑩
- 第12回 テキスト輪読⑪
- 第13回 テキスト輪読⑫
- 第14回 論点の総括と議論

履修上の注意

中世ないし近世の古文書の基礎を学んでいることが受講要件になります。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講生全員が授業前にテキストの該当部分を精読し、当日の議論に備えておくこと、授業後はもう一度テキストを読解し議論を思い出して理解を定着させること、興味を持った点は積極的に関連文献を読むことを求めます。

教科書

テキストについてはコピーを配布します。

参考書

- 『島津氏の研究』(福島金治編、吉川弘文館、1983年)
- 山本博文『島津義弘の賭け』(中公文庫、2001年)
- 北島万次『壬辰倭乱と秀吉・島津・李舜臣』(校倉書房、2002年)
- 五味克夫『戦国・近世の島津一族と家臣』(戎光祥出版、2018年)
- 新名一仁『「不屈の両殿」島津義久・義弘－関ヶ原後も生き抜いた才智と武勇』(角川新書、2021年)ほか。

成績評価の方法

報告(6割)・議論の内容(4割)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅣD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 清水 有子		

授業の概要・到達目標

「統一政権期の政治・外交」をテーマに、重要史料を研究する授業となります。今年度は豊臣政権末期を取り上げます。豊臣政権は大陸侵攻を目標に掲げ、九州を「五畿内同然」とみなして、島津氏をはじめとする諸大名に干渉し天下統一を進めていきました。

独自の領国統治・外交を展開していた戦国大名島津氏は、内部に根強く残る抵抗勢力という矛盾を抱えつつ、結局は豊臣政権に服従する道を選び、徳川政権にも従いましたが、戦国大名が天下統一を受け入れた論理とは何だったのでしょうか。また島津氏は自らも従軍した朝鮮戦争をどのように見ていたのでしょうか。このような問題について、島津家文書を収めた『旧記雑録後編三』(文禄5年～)を輪読しながら考えていきます。秋学期は春学期の続きの部分と同じように輪読します。

この授業を通して武家文書を正確に読解する力、適切な問いをたてる力、主張を論理的に展開する三つの力をつけ、質の高い論文作成の能力を獲得してほしいと思います。

授業内容

- 第1回 授業の説明・計画
- 第2回 テキスト輪読①
- 第3回 テキスト輪読②
- 第4回 テキスト輪読③
- 第5回 テキスト輪読④
- 第6回 テキスト輪読⑤
- 第7回 テキスト輪読⑥
- 第8回 テキスト輪読⑦
- 第9回 テキスト輪読⑧
- 第10回 テキスト輪読⑨
- 第11回 テキスト輪読⑩
- 第12回 テキスト輪読⑪
- 第13回 テキスト輪読⑫
- 第14回 論点の総括と議論

履修上の注意

中世ないし近世の古文書の基礎を学んでいることが受講要件になります。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講生全員が授業前にテキストの該当部分を精読し、当日の議論に備えておくこと、授業後はもう一度テキストを読解し議論を思い出して理解を定着させること、興味を持った点は積極的に関連文献を読むことを求めます。

教科書

テキストについてはコピーを配布します。

参考書

- 『島津氏の研究』(福島金治編、吉川弘文館、1983年)
- 山本博文『島津義弘の賭け』(中公文庫、2001年)
- 北島万次『壬辰倭乱と秀吉・島津・李舜臣』(校倉書房、2002年)
- 上原兼善『島津氏の琉球侵略—もうひとつの慶長の役』(榕樹書林、2009年)
- 黒島敏『琉球王国と戦国大名—島津侵入までの半世紀』(吉川弘文館、2016年)
- 五味克夫『戦国・近世の島津一族と家臣』(戎光祥出版、2018年)
- 新名一仁『「不屈の尚殿」島津義久・義弘—関ヶ原後も生き抜いた才智と武勇』(角川新書、2021年)ほか。

成績評価の方法

報告・議論の内容(60%)とレポートの成績(40%)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅤA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学) 山田 朗		

授業の概要・到達目標

授業の概要

世界的な視野から日本現代史、とりわけ1920年代から1970年代までの政治・軍事・天皇制・植民地・戦争責任などの諸問題および現代における歴史教育・歴史叙述のあり方について検討する。

まず最初に、現代における政治史・天皇制研究の問題の所在を明らかにした著作を検討し、その後は、参加者の課題意識に応じて、協議の上でテキストとする著作・論文を決定する。授業計画は以下の通りであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

到達目標

現代史研究者としての研究作法、先行研究の評価の仕方、自らの研究の枠組の構築方法を修得する。

歴史教育者としての視点、問題意識、現在の歴史教育の方法論について修得する。

授業内容

- (1) イントロダクション(日程・報告者などの決定)
- (2) 近現代天皇制の検討Ⅰ(その1)
- (3) 同上(その2)
- (4) 同上(その3)
- (5) 近現代天皇制の検討Ⅱ(その1)
- (6) 同上(その2)
- (7) 同上(その3)
- (8) 近代日本の植民地・占領地支配の検討(その1)
- (9) 同上(その2)
- (10) 同上(その3)
- (11) 戦争責任論と戦後補償問題の検討(その1)
- (12) 同上(その2)
- (13) 同上(その3)
- (14) まとめ(総合討論)

履修上の注意

受講生は卒論報告と課題研究での報告を必ず行うこと。報告者は、原則として報告時間45分以内、レジュメ(史料含む)はA4用紙(片面)10枚以内にまとめること。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者は、必ず事前にテキストを精読し、ゼミに際しては必ず質問・意見を述べること。

教科書

歴史科学協議会編『天皇・天皇制をよむ』(東京大学出版会、2008年)

課題研究のテキストは、開講後ゼミ幹事と課題研究の担当者が中心となって、テーマにふさわしい著作・論文を決定する。また、教員が特に指定する場合もある。

参考書

- 歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』第8～10巻(東京大学出版会、2004～2005年)、『岩波講座 アジア・太平洋戦争』全8巻(岩波書店、2006年)、『岩波講座 日本歴史』近代・現代の巻(岩波書店、2015～2016年)を参考書あるいは課題研究のテキストとして使用する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのレポート機能を使って提出したレポート等は添削・採点の上、Oh-olMeijiで返却する。

成績評価の方法

成績は、授業への貢献度、ゼミでの報告内容と期末のレポートによって評価する。

授業への貢献度50%、ゼミでの報告内容・レポート合計50%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究VB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	山田 朗	

授業の概要・到達目標

授業の概要

世界史的な視野から日本現代史、とりわけ1920年代から1970年代までの政治・軍事・天皇制・植民地・戦争責任などの諸問題および現代における歴史教育・歴史叙述のあり方について検討する。

まず最初に、現代における政治史・天皇制研究の問題の所在を明らかにした著作を検討し、その後は、参加者の課題意識に応じて、協議の上でテキストとする著作・論文を決定する。授業計画は以下の通りであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

到達目標

現代史研究者としての研究作法、先行研究の評価の仕方、自らの研究の枠組の構築方法を修得する。

修論の構想を立てられるだけの方法論、資料分析の能力を修得する。

歴史教育者としての視点、問題意識、現在の歴史教育の方法論について修得する。

授業内容

- (1) イントロダクション(日程・報告者などの決定)
- (2) 近現代日本の軍事史に関する検討(その1)
- (3) 同上(その2)
- (4) 同上(その3)
- (5) 近代日本の国家戦略の検討 I (その1)
- (6) 同上(その2)
- (7) 同上(その3)
- (8) 近代日本の国家戦略の検討 II (その1)
- (9) 同上(その2)
- (10) 同上(その3)
- (11) 歴史教育・歴史叙述の諸問題の検討(その1)
- (12) 同上(その2)
- (13) 同上(その3)
- (14) まとめ(総合討論)

履修上の注意

受講生は修論構想報告と課題研究での報告を必ず行うこと。報告者は、原則として報告時間45分以内、レジュメ(史料含む)はA4用紙(片面)10枚以内にまとめること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は、必ず事前にテキストを精読し、ゼミに際しては必ず質問・意見を述べること。

教科書

歴史科学協議会編『天皇・天皇制をよむ』(東京大学出版会、2008年)

課題研究のテキストは、開講後ゼミ幹事と課題研究の担当者が中心となって、テーマにふさわしい著作・論文を決定する。また、教員が特に指定する場合もある。

参考書

歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』第8～10巻(東京大学出版会、2004～2005年)、『岩波講座 アジア・太平洋戦争』全8巻(岩波書店、2006年)、『岩波講座 日本歴史』近代・現代の巻(岩波書店、2015～2016年)を参考書あるいは課題研究のテキストとして使用する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのレポート機能を使って提出したレポート等は添削・採点の上、Oh-olMeijiで返却する。

成績評価の方法

成績は、授業への貢献度、ゼミでの報告内容と期末のレポートによって評価する。

授業への貢献度50%、ゼミでの報告内容・レポート合計50%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究VC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	山田 朗	

授業の概要・到達目標

授業の概要

世界史的な視野から日本現代史、とりわけ1920年代から1970年代までの政治・軍事・天皇制・植民地・戦争責任などの諸問題および現代における歴史教育・歴史叙述のあり方について検討する。

まず最初に、現代における政治史・天皇制研究の問題の所在を明らかにした著作を検討し、その後は、参加者の課題意識に応じて、協議の上でテキストとする著作・論文を決定する。授業計画は以下の通りであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

到達目標

現代史研究者としての研究作法、先行研究の評価の仕方、自らの研究の枠組の構築方法を修得する。

修士論文を作成するにあたって必要な方法論、資料分析能力を修得する。

歴史教育者としての視点、問題意識、現在の歴史教育の方法論について修得する。

授業内容

- (1) イントロダクション(日程・報告者などの決定)
- (2) 近現代天皇制の検討 I (その1)
- (3) 同上(その2)
- (4) 同上(その3)
- (5) 近現代天皇制の検討 II (その1)
- (6) 同上(その2)
- (7) 同上(その3)
- (8) 近代日本の植民地・占領地支配の検討(その1)
- (9) 同上(その2)
- (10) 同上(その3)
- (11) 戦争責任論と戦後補償問題の検討(その1)
- (12) 同上(その2)
- (13) 同上(その3)
- (14) まとめ(総合討論)

履修上の注意

受講生は修論中間報告(第1回)と課題研究での報告を必ず行うこと。報告者は、原則として報告時間45分以内、レジュメ(史料含む)はA4用紙(片面)10枚以内にまとめること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は、必ず事前にテキストを精読し、ゼミに際しては必ず質問・意見を述べること。

教科書

歴史科学協議会編『天皇・天皇制をよむ』(東京大学出版会、2008年)

課題研究のテキストは、開講後ゼミ幹事と課題研究の担当者が中心となって、テーマにふさわしい著作・論文を決定する。また、教員が特に指定する場合もある。

参考書

歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』第8～10巻(東京大学出版会、2004～2005年)、『岩波講座 アジア・太平洋戦争』全8巻(岩波書店、2006年)、『岩波講座 日本歴史』近代・現代の巻(岩波書店、2015～2016年)を参考書あるいは課題研究のテキストとして使用する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのレポート機能を使って提出したレポート等は添削・採点の上、Oh-olMeijiで返却する。

成績評価の方法

成績は、授業への貢献度、ゼミでの報告内容と期末のレポートによって評価する。

授業への貢献度50%、ゼミでの報告内容・レポート合計50%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究VD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	山田 朗	

授業の概要・到達目標

授業の概要

世界史的な視野から日本現代史、とりわけ1920年代から1970年代までの政治・軍事・天皇制・植民地・戦争責任などの諸問題および現代における歴史教育・歴史叙述のあり方について検討する。

まず最初に、現代における政治史・天皇制研究の問題の所在を明らかにした著作を検討し、その後は、参加者の課題意識に応じて、協議の上でテキストとする著作・論文を決定する。授業計画は以下の通りであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

到達目標

現代史研究者としての研究作法、先行研究の評価の仕方、自らの研究の枠組の構築方法を修得する。

修士論文を完成させるまでに方法論と資料分析の能力を高める。

歴史教育者としての視点、問題意識、現在の歴史教育の方法論について修得する。

授業内容

- (1) イントロダクション(日程・報告者などの決定)
- (2) 近現代日本の軍事史に関する検討(その1)
- (3) 同上(その2)
- (4) 同上(その3)
- (5) 近代日本の国家戦略の検討 I (その1)
- (6) 同上(その2)
- (7) 同上(その3)
- (8) 近代日本の国家戦略の検討 II (その1)
- (9) 同上(その2)
- (10) 同上(その3)
- (11) 歴史教育・歴史叙述の諸問題の検討(その1)
- (12) 同上(その2)
- (13) 同上(その3)
- (14) まとめ(総合討論)

履修上の注意

受講生は修論中間報告(第2回)を必ず行うこと。報告者は、原則として報告時間45分以内、レジュメ(史料含む)はA4用紙(片面)10枚以内にまとめること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は、必ず事前にテキストを精読し、ゼミに際しては必ず質問・意見を述べること。

教科書

山田朗『兵士たちの戦場』(岩波書店、2015年)、山田朗『昭和天皇の戦争』(岩波書店、2017年)

課題研究のテキストは、開講後ゼミ幹事と課題研究の担当者が中心となって、テーマにふさわしい著作・論文を決定する。また、教員が特に指定する場合もある。

参考書

歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』第8～10巻(東京大学出版会、2004～2005年)、『岩波講座 アジア・太平洋戦争』全8巻(岩波書店、2006年)、『岩波講座 日本歴史』近代・現代の巻(岩波書店、2015～2016年)を参考書あるいは課題研究のテキストとして使用する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのレポート機能を使って提出したレポート等は添削・採点の上、Oh-ol Meijiで返却する。

成績評価の方法

成績は、授業への貢献度、ゼミでの報告内容と期末のレポートによって評価する。

授業への貢献度50%、ゼミでの報告内容・レポート合計50%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究VI A		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	高橋 一樹	

授業の概要・到達目標

日本中世の転換期に位置する鎌倉時代後期(13世紀後半)の政治・外交・経済・社会・文化について考えるための基礎史料(古記録)のひとつである、『兼仲卿記』(『勘仲記』とも)を継続的に講読・検討する。

中世の記録史料を読解するうえでの基本的なスキルを身につけるとともに、この古記録の裏側に大量に残されている古文書(紙背文書)にも目を配り、日本中世の記録と文書の有機的な分析方法についても実践的に考察する。その際、国立歴史民俗博物館に所蔵される『兼仲卿記』原本の調査をも組み込む。

授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もありうる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス(テキストをめぐる先行研究、報告日程の決定)
- 第2回 『兼仲卿記』の輪読①
- 第3回 『兼仲卿記』の輪読②
- 第4回 『兼仲卿記』の輪読③
- 第5回 『兼仲卿記』の輪読④
- 第6回 『兼仲卿記』の輪読⑤
- 第7回 『兼仲卿記』の輪読⑥
- 第8回 『兼仲卿記』の輪読⑦
- 第9回 『兼仲卿記』の輪読⑧
- 第10回 『兼仲卿記』の輪読⑨
- 第11回 『兼仲卿記』の輪読⑩
- 第12回 『兼仲卿記』の輪読⑪
- 第13回 『兼仲卿記』の輪読⑫
- 第14回 成果と課題の集約・討論

履修上の注意

毎回報告者1名を決めて、語句・人名・地名の説明および現代語訳などからなるレジュメを作成してもらい(紙背文書も含む)、輪読形式で内容を検討していく。受講生は授業前にテキストを精読し、語句の意味などを調べて授業に臨むこと。詳細は履修者の数に応じて、相談することとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の報告者はもとより、他の受講生の十分な予習と報告をふまえたディスカッションへの積極的な参加を期待する。

教科書

テキストは、最新の良質な翻刻本である『史料纂集 勘仲記』第一(高橋秀樹他編、八木書店)を用いる。受講生は、事前に該当記事を複写するなどして入手しておくことをとめる。また、毎回の報告者はもちろん、すべての受講生は、国立歴史民俗博物館のHPを利用して、あらかじめ当該記事の原本画像を確認しておくこと。

参考書

毎回の授業で検討する当該記事・紙背文書に関する論文等を中心に、授業のなかで適宜、指示・紹介する。

成績評価の方法

ゼミでの報告や発言の内容を総合的に評価する。評価の基準や配点などは、第1回において説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅥB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	高橋	一樹

授業の概要・到達目標

日本中世の転換期に位置する鎌倉時代後期（13世紀後半）の政治・外交・経済・社会・文化について考えるための基礎史料（古記録）のひとつである、『兼仲卿記』（『勘仲記』とも）を継続的に講読・検討する。秋学期は、春学期に引き続いて読み進めていく。

中世の記録史料を読解するうえでの基本的なスキルを身につけるとともに、この古記録の裏側に大量に残されている古文書（紙背文書）にも目を配り、日本中世の記録と文書の有機的な分析方法についても実践的に考察する。その際、国立歴史民俗博物館に所蔵される『兼仲卿記』原本の調査をも組み込む。

授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もありうる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス（テキストをめぐる先行研究、報告日程の決定）
- 第2回 『兼仲卿記』の輪読①
- 第3回 『兼仲卿記』の輪読②
- 第4回 『兼仲卿記』の輪読③
- 第5回 『兼仲卿記』の輪読④
- 第6回 『兼仲卿記』の輪読⑤
- 第7回 『兼仲卿記』の輪読⑥
- 第8回 『兼仲卿記』の輪読⑦
- 第9回 『兼仲卿記』の輪読⑧
- 第10回 『兼仲卿記』の輪読⑨
- 第11回 『兼仲卿記』の輪読⑩
- 第12回 『兼仲卿記』の輪読⑪
- 第13回 『兼仲卿記』の輪読⑫
- 第14回 成果と課題の集約・討論

履修上の注意

毎回報告者1名を決めて、語句・人名・地名の説明および現代語訳などからなるレジュメを作成してもらい（紙背文書も含む）、輪読形式で内容を検討していく。受講生は授業前にテキストを精読し、語句の意味などを調べて授業に臨むこと。詳細は履修者の数に応じて、相談することとする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の報告者はもとより、他の受講生の十分な予習と報告をふまえたディスカッションへの積極的な参加を期待する。

教科書

テキストは、最新の良質な翻刻本である『史料纂集 勘仲記』第一（高橋秀樹他編、八木書店）を用いる。受講生は、事前に該当記事を複写するなどして入手しておくことをもとめる。また、毎回の報告者はもちろん、すべての受講生は、国立歴史民俗博物館のHPを利用して、あらかじめ当該記事の原本画像を確認しておくこと。

参考書

毎回の授業で検討する当該記事・紙背文書に関する論文等を中心に、授業のなかで適宜、指示・紹介する。

成績評価の方法

ゼミでの報告や発言の内容を総合的に評価する。評価の基準や配点などは、第1回において説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅥC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	高橋	一樹

授業の概要・到達目標

日本中世の転換期に位置する鎌倉時代後期（13世紀後半）の政治・外交・経済・社会・文化について考えるための基礎史料（古記録）のひとつである、『兼仲卿記』（『勘仲記』とも）を継続的に講読・検討する。

中世の記録史料を読解するうえでの基本的なスキルを身につけるとともに、この古記録の裏側に大量に残されている古文書（紙背文書）にも目を配り、日本中世の記録と文書の有機的な分析方法についても実践的に考察する。その際、国立歴史民俗博物館に所蔵される『兼仲卿記』原本の調査をも組み込む。

授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もありうる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス（テキストをめぐる先行研究、報告日程の決定）
- 第2回 『兼仲卿記』の輪読①
- 第3回 『兼仲卿記』の輪読②
- 第4回 『兼仲卿記』の輪読③
- 第5回 『兼仲卿記』の輪読④
- 第6回 『兼仲卿記』の輪読⑤
- 第7回 『兼仲卿記』の輪読⑥
- 第8回 『兼仲卿記』の輪読⑦
- 第9回 『兼仲卿記』の輪読⑧
- 第10回 『兼仲卿記』の輪読⑨
- 第11回 『兼仲卿記』の輪読⑩
- 第12回 『兼仲卿記』の輪読⑪
- 第13回 『兼仲卿記』の輪読⑫
- 第14回 成果と課題の集約・討論

履修上の注意

毎回報告者1名を決めて、語句・人名・地名の説明および現代語訳などからなるレジュメを作成してもらい（紙背文書も含む）、輪読形式で内容を検討していく。受講生は授業前にテキストを精読し、語句の意味などを調べて授業に臨むこと。詳細は履修者の数に応じて、相談することとする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の報告者はもとより、他の受講生の十分な予習と報告をふまえたディスカッションへの積極的な参加を期待する。

教科書

テキストは、最新の良質な翻刻本である『史料纂集 勘仲記』第一（高橋秀樹他編、八木書店）を用いる。受講生は、事前に該当記事を複写するなどして入手しておくことをもとめる。また、毎回の報告者はもちろん、すべての受講生は、国立歴史民俗博物館のHPを利用して、あらかじめ当該記事の原本画像を確認しておくこと。

参考書

毎回の授業で検討する当該記事・紙背文書に関する論文等を中心に、授業のなかで適宜、指示・紹介する。

成績評価の方法

ゼミでの報告や発言の内容を総合的に評価する。評価の基準や配点などは、第1回において説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅥD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	高橋	一樹

授業の概要・到達目標

日本中世の転換期に位置する鎌倉時代後期（13世紀後半）の政治・外交・経済・社会・文化について考えるための基礎史料（古記録）のひとつである、『兼仲卿記』（『勘仲記』とも）を継続的に講読・検討する。秋学期は、春学期に引き続いて読み進めていく。

中世の記録史料を読解するうえでの基本的なスキルを身につけるとともに、この古記録の裏側に大量に残されている古文書（紙背文書）にも目を配り、日本中世の記録と文書の有機的な分析方法についても実践的に考察する。その際、国立歴史民俗博物館に所蔵される『兼仲卿記』原本の調査をも組み込む。

授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もありうる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス（テキストをめぐる先行研究、報告日程の決定）
- 第2回 『兼仲卿記』の輪読①
- 第3回 『兼仲卿記』の輪読②
- 第4回 『兼仲卿記』の輪読③
- 第5回 『兼仲卿記』の輪読④
- 第6回 『兼仲卿記』の輪読⑤
- 第7回 『兼仲卿記』の輪読⑥
- 第8回 『兼仲卿記』の輪読⑦
- 第9回 『兼仲卿記』の輪読⑧
- 第10回 『兼仲卿記』の輪読⑨
- 第11回 『兼仲卿記』の輪読⑩
- 第12回 『兼仲卿記』の輪読⑪
- 第13回 『兼仲卿記』の輪読⑫
- 第14回 成果と課題の集約・討論

履修上の注意

毎回報告者1名を決めて、語句・人名・地名の説明および現代語訳などからなるレジюмеを作成してもらい（紙背文書も含む）、輪読形式で内容を検討していく。受講生は授業前にテキストを精読し、語句の意味などを調べて授業に臨むこと。詳細は履修者の数に応じて、相談することとする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の報告者はもとより、他の受講生の十分な予習と報告をふまえたディスカッションへの積極的な参加を期待する。

教科書

テキストは、最新の良質な翻刻本である『史料纂集 勘仲記』第一（高橋秀樹他編、八木書店）を用いる。受講生は、事前に該当記事を複写するなどして入手しておくことをもとめる。また、毎回の報告者はもちろん、すべての受講生は、国立歴史民俗博物館のHPを利用して、あらかじめ当該記事の原本画像を確認しておくこと。

参考書

毎回の授業で検討する当該記事・紙背文書に関する論文等を中心に、授業のなかで適宜、指示・紹介する。

成績評価の方法

ゼミでの報告や発言の内容を総合的に評価する。評価の基準や配点などは、第1回において説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅦA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	落合	弘樹

授業の概要・到達目標

明治維新を理解するためには、19世紀全体を見渡すレベルで国家体制や政治運動を幅広く把握することが必要である。当授業では、文久3年から慶応元年の『防長回天史』を輪読し、長州藩の藩論構築をめぐる政局の推移を検討していく。

授業内容

報告の箇所に合わせ、関連史料を用意し解説を加えること。また、当該時期の研究状況についても報告するように求める。

- (1) イントロダクション
- (2) 8月18日政変と木戸
- (3) 参与会議
- (4) 横浜鎖港体制と関門海峡封鎖
- (5) 進発論の台頭
- (6) 池田屋事件
- (7) 禁門の変1
- (8) 禁門の変2
- (9) 木戸の出石潜伏
- (10) 第一次征長
- (11) 俗論党の政権掌握
- (12) 高杉の挙兵
- (13) 武備恭順態勢
- (14) まとめとふりかえり

履修上の注意

全員が討論に参加することを原則とする。履修者相互の切磋琢磨を期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示した資料を事前に精読してくること。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜指示する。

成績評価の方法

報告・討論・レポート・授業への貢献度により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅦB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	落合 弘樹	

授業の概要・到達目標

明治維新を理解するためには、19世紀全体を見渡すレベルで国家体制や政治運動を幅広く把握することが必要である。当授業では慶応1年から2年の『防長回天史』を輪読し、攘夷論をめぐる政局の推移を検討していく。

授業内容

報告の箇所に合わせ、関連史料を用意し解説を加えること。また、当該時期の研究状況についても報告するように求める。

- (1) イントロダクション
- (2) 長州再征論
- (3) 長州藩の軍事改革
- (4) 薩長提携論
- (5) 井上・伊藤の長崎出張
- (6) 島津家との和解
- (7) 長州再征の勅
- (8) 木戸の京都潜入
- (9) 薩長の盟約
- (10) 広島での交渉
- (11) 四境戦争1
- (12) 四境戦争2
- (13) 将軍空位と長州藩
- (14) まとめとふりかえり

履修上の注意

全員が討論に参加することを原則とする。履修者相互の切磋琢磨を期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示した資料を事前に精読してくること。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜指示する。

成績評価の方法

報告・討論・レポート・授業への貢献度により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅦC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	落合 弘樹	

授業の概要・到達目標

明治維新を理解するためには、19世紀全体を見渡すレベルで国家体制や政治運動を幅広く把握することが必要である。当授業では、文久3年から慶応元年の『防長回天史』を輪読し、長州藩の藩論構築をめぐる政局の推移を検討していく。

授業内容

報告の箇所に合わせ、関連史料を用意し解説を加えること。また、当該時期の研究状況についても報告するように求める。

- (1) イントロダクション
- (2) 8月18日政変と木戸
- (3) 参与会議
- (4) 横浜鎖港体制と関門海峡封鎖
- (5) 進発論の台頭
- (6) 池田屋事件
- (7) 禁門の変1
- (8) 禁門の変2
- (9) 木戸の出石潜伏
- (10) 第一次征長
- (11) 俗論党の政権掌握
- (12) 高杉の挙兵
- (13) 武備恭順態勢
- (14) まとめとふりかえり

履修上の注意

全員が討論に参加することを原則とする。履修者相互の切磋琢磨を期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示した資料を事前に精読してくること。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜指示する。

成績評価の方法

報告・討論・レポート・授業への貢献度により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅦD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	落合 弘樹	

授業の概要・到達目標

明治維新を理解するためには、19世紀全体を見渡すレベルで国家体制や政治運動を幅広く把握することが必要である。当授業では、慶応1年から2年の『防長回天史』を輪読し、攘夷論をめぐる政局の推移を検討していく。

授業内容

報告の箇所に合わせ、関連史料を用意し解説を加えること。また、当該時期の研究状況についても報告するように求める。

- (1) イントロダクション
- (2) 長州再征論
- (3) 長州藩の軍事改革
- (4) 薩長提携論
- (5) 井上・伊藤の長崎出張
- (6) 島津家との和解
- (7) 長州再征の勅
- (8) 木戸の京都潜入
- (9) 薩長の盟約
- (10) 広島での交渉
- (11) 四境戦争1
- (12) 四境戦争2
- (13) 将軍空位と長州藩
- (14) まとめとふりかえり

履修上の注意

全員が討論に参加することを原則とする。履修者相互の切磋琢磨を期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示した資料を事前に精読してくること。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜指示する。

成績評価の方法

報告・討論・レポート・授業への貢献度により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅧA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	趙 景達	

授業の概要・到達目標

今年度は、アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトの『菊と刀』を講読する。本書は第2次大戦中になされたアメリカ戦時情報局の日本研究をもとに書かれた書物で、戦後における日本論の先駆をなすものであり、現在でも読み継がれている名著である。西欧が「罪の文化」であるのに対して、日本は「恥の文化」であるとした本書は批判もあるが、その分析は現在でも慧眼と思わざるを得ない点が多々ある。文化人類学の成果だが、本授業では歴史学的見地から、本書の主張点を検証していきたい。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：『菊と刀』①
- 第3回：同上②
- 第4回：同上③
- 第5回：同上④
- 第6回：同上⑤
- 第7回：同上⑥
- 第8回：同上⑦
- 第9回：同上⑧
- 第10回：同上⑨
- 第11回：同上⑩
- 第12回：同上⑪
- 第13回：同上⑫
- 第14回：同上⑬

履修上の注意

参加者は、テキストを読んだ上で参加し、毎回交替で報告をする。その上で問題点を出してもらい全員で討論する。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

『菊と刀』（講談社学術文庫）

参考書

成績評価の方法

授業への貢献度とする。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅧB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師		趙景達

授業の概要・到達目標

受講者の論文構想など、個人報告をしてもらう。受講者は互いの研究を建設的に批判しつつ、自己の研究の資としてもらいたい。報告内容は自身の研究とは一見違っていながらも、歴史研究というのは、あらゆるものが密接な関係を持っている。一国史に止まることの問題はもちろんだが、多様な側面から自身の研究を顧みる絶好の機会だと考え、参加してもらいたい。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：第1回報告者
- 第3回：第2回報告者
- 第4回：第3回報告者
- 第5回：第4回報告者
- 第6回：第5回報告者
- 第7回：第6回報告者
- 第8回：第7回報告者
- 第9回：第8回報告者
- 第10回：第9回報告者
- 第11回：第10回報告者
- 第12回：第11回報告者
- 第13回：第12回報告者
- 第14回：総括

履修上の注意

個人報告は、建設的な批判を糧とする。批判的議論をすべきことはもちろんだが、できたら対案的なことも提示できるように努めてもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者は、次回発表者の予告を聞いた上で、その予習をして参加してもらいたい。

教科書

特には指定しない。

参考書

特には指定しない。

成績評価の方法

授業への貢献度とする。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅧC		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師		趙景達

授業の概要・到達目標

今年度は、アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトの『菊と刀』を講読する。本書は第2次大戦中になされたアメリカ戦時情報局の日本研究をもとに書かれた書物で、戦後における日本論の先駆をなすものであり、現在でも読み継がれている名著である。西欧が「罪の文化」であるのに対して、日本は「恥の文化」であるとした本書は批判もあるが、その分析は現在でも慧眼と思わざるを得ない点が多々ある。文化人類学の成果だが、本授業では歴史学的見地から、本書の主張点を検証していきたい。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：『菊と刀』①
- 第3回：同上②
- 第4回：同上③
- 第5回：同上④
- 第6回：同上⑤
- 第7回：同上⑥
- 第8回：同上⑦
- 第9回：同上⑧
- 第10回：同上⑨
- 第11回：同上⑩
- 第12回：同上⑪
- 第13回：同上⑫
- 第14回：同上⑬

履修上の注意

参加者は、テキストを読んだ上で参加し、毎回交替で報告をする。その上で問題点を出してもらい全員で討論する。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

『菊と刀』（講談社学術文庫）

参考書

成績評価の方法

授業への貢献度とする。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅧD		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師		趙 景達

授業の概要・到達目標

受講者の論文構想など、個人報告をしてもらう。受講者は互いの研究を建設的に批判しつつ、自己の研究の資としてもらいたい。報告内容は自身の研究とは一見違っているが、歴史研究というのは、あらゆるものが密接な関係を持っている。一国史に止まることの問題はもちろんだが、多様な側面から自身の研究を顧みる絶好の機会だと考え、参加してもらいたい。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：第1回報告者
- 第3回：第2回報告者
- 第4回：第3回報告者
- 第5回：第4回報告者
- 第6回：第5回報告者
- 第7回：第6回報告者
- 第8回：第7回報告者
- 第9回：第8回報告者
- 第10回：第9回報告者
- 第11回：第10回報告者
- 第12回：第11回報告者
- 第13回：第12回報告者
- 第14回：総括

履修上の注意

個人報告は、建設的な批判を糧とする。批判的議論をするべきことはもちろんだが、できたら対案的なことも提示できるように努めてもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者は、次回発表者の予告を聞いた上で、その予習をして参加してもらいたい。

教科書

特には指定しない。

参考書

特には指定しない。

成績評価の方法

授業への貢献度とする。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅨA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(文学)	仁藤 敦史

授業の概要・到達目標

弘仁格の復原的研究【式部下篇】
 古代法令史料の扱いに習熟することを目標として『類聚三代格』等に収載された格文を『弘仁格抄』の配列に随って順次検討する。従来、律令と『延喜式』が古代法制史を検討する場合の二大史料として位置づけられてきた。その中間期に位置する「弘仁格」を「弘仁格抄」の配列に従って復原的に解釈することにより、両者とは異なる平安初期における法制と社会実態との緊張関係がうかがわれる新たな史料群としての位置づけを行いたい。弘仁期における有効法の視角を採用することにより、従来は編纂の下手際とされてきた正史と格との記載のズレについても整合的な解釈が可能となる。格式研究の現状を概観したのちに、前期は「弘仁格抄」の編目のうち「式部下」に掲載された格を中心とした検討を報告形式でおこなう。具体的な史料読解および史料操作を個々の格文の検討により習熟する。

授業内容

- 第1回 格式研究の概説
- 第2回 式下5の検討〈1〉格文の復元 郡司任用の国定制
- 第3回 同〈2〉制度史的検討
- 第4回 同〈3〉
- 第5回 式下6の検討〈1〉格文の復元 主政・主帳への同姓任用
- 第6回 同〈2〉制度史的検討
- 第7回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第8回 式下7の検討〈1〉格文の復元 転擬郡司の向京停止
- 第9回 同〈2〉制度史的検討
- 第10回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第11回 式下8の検討〈1〉格文の復元 転擬郡司の向京停止
- 第12回 同〈2〉制度史的検討
- 第13回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第14回 まとめ

履修上の注意

格式を検討するうえで必要な基礎的な律令の知識を習得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に格式関係の論考を学習し、毎週関係格の先行研究を予習しておくことが望ましい。

教科書

国史大系本『類聚三代格・弘仁格抄』（吉川弘文館）を活用する。

参考書

福井俊彦編『弘仁格の復原的研究』民部篇、(吉川弘文館)
 仁藤敦史『古代王権と官僚制』(臨川書店)
 『復原弘仁格史料集』(『国立歴史民俗博物館』研究報告135)

課題に対するフィードバックの方法

期末に報告内容のまとめレポートを提出して論評する。

成績評価の方法

授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)などにより総合的に判断する。

その他

講義中における議論への積極的参加を希望する。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅨB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学)	仁藤 敦史	

授業の概要・到達目標

弘仁格の復原的研究【式部下篇】
 古代法令史料の扱いに習熟することを目標として『類聚三代格』等に収載された格文を『弘仁格抄』の配列に随って順次検討する。従来、律令と『延喜式』が古代法制史を検討する場合の二大史料として位置づけられてきた。その中間期に位置する「弘仁格」を「弘仁格抄」の配列に従って復原的に解釈することにより、両者とは異なる平安初期における法制と社会実態との緊張関係がうかがわれる新たな史料群としての位置づけを行いたい。弘仁期における有効法の視角を採用することにより、従来は編纂の不手際とされてきた正史と格との記載のズレについても整合的な解釈が可能となる。格式研究の現状を概観したのちに、後期は「弘仁格抄」の編目のうち「式部下」に掲載された格を中心とした検討を報告形式でおこなう。具体的な史料読解および史料操作を個々の格文の検討により習熟する。

授業内容

- 第1回 格式研究の概説
- 第2回 式下9の検討〈1〉格文の復元 郡司の式部詮議
- 第3回 同〈2〉制度史的検討
- 第4回 同〈3〉
- 第5回 式下10の検討〈1〉格文の復元 出雲国意宇郡大領と国造の兼任
- 第6回 同〈2〉制度史的検討
- 第7回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第8回 式下11の検討〈1〉格文の復元 筑前国宗像郡大領と神主の兼任禁止
- 第9回 同〈2〉制度史的検討
- 第10回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第11回 式下12の検討〈1〉格文の復元 初任郡司の叙位
- 第12回 同〈2〉制度史的検討
- 第13回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第14回 まとめ

履修上の注意

格式を検討するうえで必要な基礎的な律令の知識を習得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に格式関係の論考を学習し、毎週関係格の先行研究を予習しておくことが望ましい。

教科書

国史大系本『類聚三代格・弘仁格抄』（吉川弘文館）を活用する。

参考書

福井俊彦編『弘仁格の復原的研究』民部篇、（吉川弘文館）
 仁藤敦史『古代王権と官僚制』（臨川書店）
 「復原弘仁格史料集」（『国立歴史民俗博物館』研究報告135）

課題に対するフィードバックの方法

期末に報告内容のレポートを提出し論評する。

成績評価の方法

授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)などにより総合的に判断する。

その他

講義中における議論への積極的参加を希望する。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅨC		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学)	仁藤 敦史	

授業の概要・到達目標

弘仁格の復原的研究【式部下篇】
 古代法令史料の扱いに習熟することを目標として『類聚三代格』等に収載された格文を『弘仁格抄』の配列に随って順次検討する。従来、律令と『延喜式』が古代法制史を検討する場合の二大史料として位置づけられてきた。その中間期に位置する「弘仁格」を「弘仁格抄」の配列に従って復原的に解釈することにより、両者とは異なる平安初期における法制と社会実態との緊張関係がうかがわれる新たな史料群としての位置づけを行いたい。弘仁期における有効法の視角を採用することにより、従来は編纂の不手際とされてきた正史と格との記載のズレについても整合的な解釈が可能となる。格式研究の現状を概観したのちに、前期は「弘仁格抄」の編目のうち「式部下」に掲載された格を中心とした検討を報告形式でおこなう。具体的な史料読解および史料操作を個々の格文の検討により習熟する。

授業内容

- 第1回 格式研究の概説
- 第2回 式下5の検討〈1〉格文の復元 郡司任用の国定制
- 第3回 同〈2〉制度史的検討
- 第4回 同〈3〉
- 第5回 式下6の検討〈1〉格文の復元 主政・主帳への同姓任用
- 第6回 同〈2〉制度史的検討
- 第7回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第8回 式下7の検討〈1〉格文の復元 転擬郡司の向京停止(1)
- 第9回 同〈2〉制度史的検討
- 第10回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第11回 式下8の検討〈1〉格文の復元 転擬郡司の向京停止(2)
- 第12回 同〈2〉制度史的検討
- 第13回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第14回 まとめ

履修上の注意

格式を検討するうえで必要な基礎的な律令の知識を習得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に格式関係の論考を学習し、毎週関係格の先行研究を予習しておくことが望ましい。

教科書

国史大系本『類聚三代格・弘仁格抄』（吉川弘文館）を活用する。

参考書

福井俊彦編『弘仁格の復原的研究』民部篇、（吉川弘文館）
 仁藤敦史『古代王権と官僚制』（臨川書店）
 「復原弘仁格史料集」（『国立歴史民俗博物館』研究報告135）

課題に対するフィードバックの方法

期末に報告内容のレポートを提出し論評する。

成績評価の方法

授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)などにより総合的に判断する。

その他

講義中における議論への積極的参加を希望する。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅩD		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学) 仁藤 敦史		

授業の概要・到達目標

弘仁格の復原的研究【式部下篇】
 古代法令史料の扱いに習熟することを目標として『類聚三代格』等に収載された格文を『弘仁格抄』の配列に随って順次検討する。従来、律令と『延喜式』が古代法制史を検討する場合の二大史料として位置づけられてきた。その中間期に位置する「弘仁格」を「弘仁格抄」の配列に従って復原的に解釈することにより、両者とは異なる平安初期における法制と社会実態との緊張関係がうかがわれる新たな史料群としての位置づけを行いたい。弘仁期における有効法の視角を採用することにより、従来は編纂の不手際とされてきた正史と格との記載のズレについても整合的な解釈が可能となる。格式研究の現状を概観したのちに、後期は「弘仁格抄」の編目のうち「式部下」に掲載された格を中心とした検討を報告形式でおこなう。具体的な史料読解および史料操作を個々の格文の検討により習熟する。

授業内容

- 第1回 格式研究の概説
- 第2回 式下9の検討〈1〉格文の復元 郡司の式部詮議
- 第3回 同〈2〉制度史的検討
- 第4回 同〈3〉
- 第5回 式下10の検討〈1〉格文の復元 出雲国意宇郡大領と国造の兼任
- 第6回 同〈2〉制度史的検討
- 第7回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第8回 式下11の検討〈1〉格文の復元 筑前国宗像郡大領と神主の兼任禁止
- 第9回 同〈2〉制度史的検討
- 第10回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第11回 式下12の検討〈1〉格文の復元 初任郡司の叙位
- 第12回 同〈2〉制度史的検討
- 第13回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第14回 まとめ

履修上の注意

格式を検討するうえで必要な基礎的な律令の知識を習得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に格式関係の論考を学習し、毎週関係格の先行研究を予習しておくことが望ましい。

教科書

国史大系本『類聚三代格・弘仁格抄』（吉川弘文館）を活用する。

参考書

福井俊彦編『弘仁格の復原的研究』民部篇、（吉川弘文館）
 仁藤敦史『古代王権と官僚制』（臨川書店）
 『復原弘仁格史料集』（『国立歴史民俗博物館』研究報告135）

課題に対するフィードバックの方法

期末に報告内容のレポートを提出し論評する。

成績評価の方法

授業への貢献度（70%）およびレポート（30%）などにより総合的に判断する。

その他

講義中における議論への積極的参加を希望する。

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅩA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師 博士(歴史学) 富山 仁貴		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)
 日本現代史とりわけ1940年代以降の社会・経済・政治・思想・教育・地域などの諸問題、および現代における歴史認識・歴史叙述のあり方について検討する。史料・文献の講読および受講生による研究報告によって授業を進める。
 春学期は、①歴史学方法論および社会史をめぐる諸問題に関する著作を検討し、②戦後日本の政治・社会思想について雑誌『思想』・『世界』・『中央公論』等を史料として講読する。なお、授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更することもありうる。
 (到達目標)

- ①歴史学の研究史を踏まえた研究枠組みの構築方法を修得する。
- ②歴史資料の調査手順および正確な批判・読解方法を修得する。
- ③修士論文の作成に向けた歴史認識・歴史叙述のあり方を修得する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 歴史学方法論(その1)
- 第3回 同上(その2)
- 第4回 同上(その3)
- 第5回 社会史をめぐる諸問題(その1)
- 第6回 同上(その2)
- 第7回 同上(その3)
- 第8回 戦後日本の政治・社会思想(その1)
- 第9回 同上(その2)
- 第10回 同上(その3)
- 第11回 同上(その4)
- 第12回 同上(その5)
- 第13回 同上(その6)
- 第14回 まとめ(総合討論)

履修上の注意

報告者は必ずレジュメを作成し、無断欠席しないこと。参加者は積極的に討論に参加し、質問・意見を述べること。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者は事前にテキストを精読し、討論に向けた疑問点・論点などを用意しておくこと。授業後は、論点を整理して必要な調査を行なうこと。

教科書

必要に応じてコピーまたはデータを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行なう。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度（討論への積極的な参加等）をもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究XB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師 博士(歴史学) 富山 仁貴		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

日本現代史とりわけ1940年代以降の社会・経済・政治・思想・教育・地域などの諸問題、および現代における歴史認識・歴史叙述のあり方について検討する。史料・文献の講読および受講生による研究報告によって授業を進める。

春学期は、①歴史学方法論および地域史をめぐる諸問題に関する著作を検討し、②戦後日本の経済・産業について『北海道現代史 資料編2(産業・経済)』を史料として講読する。なお、授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更することもありうる。

(到達目標)

- ①歴史学の研究史を踏まえた研究枠組みの構築方法を修得する。
- ②歴史資料の調査手順および正確な批判・読解方法を修得する。
- ③修士論文の作成に向けた歴史認識・歴史叙述のあり方を修得する。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 歴史学方法論(その1)
- 第3回 同上(その2)
- 第4回 同上(その3)
- 第5回 地域史をめぐる諸問題(その1)
- 第6回 同上(その2)
- 第7回 同上(その3)
- 第8回 戦後日本の経済・産業(その1)
- 第9回 同上(その2)
- 第10回 同上(その3)
- 第11回 同上(その4)
- 第12回 同上(その5)
- 第13回 同上(その6)
- 第14回 まとめ(総合討論)

履修上の注意

報告者は必ずレジュメを作成し、無断欠席しないこと。参加者は積極的に討論に参加し、質問・意見を述べること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は事前にテキストを精読し、討論に向けた疑問点・論点などを用意しておくこと。授業後は、論点を整理して必要な調査を行なうこと。

教科書

必要に応じてコピーまたはデータを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行なう。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度(討論への積極的な参加等)をもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究XC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師 博士(歴史学) 富山 仁貴		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

日本現代史とりわけ1940年代以降の社会・経済・政治・思想・教育・地域などの諸問題、および現代における歴史認識・歴史叙述のあり方について検討する。史料・文献の講読および受講生による研究報告によって授業を進める。

春学期は、①歴史学方法論および社会史をめぐる諸問題に関する著作を検討し、②戦後日本の政治・社会思想について雑誌『思想』・『世界』・『中央公論』等を史料として講読する。なお、授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更することもありうる。

(到達目標)

- ①歴史学の研究史を踏まえた研究枠組みの構築方法を修得する。
- ②歴史資料の調査手順および正確な批判・読解方法を修得する。
- ③修士論文の作成に向けた歴史認識・歴史叙述のあり方を修得する。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 歴史学方法論(その1)
- 第3回 同上(その2)
- 第4回 同上(その3)
- 第5回 社会史をめぐる諸問題(その1)
- 第6回 同上(その2)
- 第7回 同上(その3)
- 第8回 戦後日本の政治・社会思想(その1)
- 第9回 同上(その2)
- 第10回 同上(その3)
- 第11回 同上(その4)
- 第12回 同上(その5)
- 第13回 同上(その6)
- 第14回 まとめ(総合討論)

履修上の注意

報告者は必ずレジュメを作成し、無断欠席しないこと。参加者は積極的に討論に参加し、質問・意見を述べること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は事前にテキストを精読し、討論に向けた疑問点・論点などを用意しておくこと。授業後は、論点を整理して必要な調査を行なうこと。

教科書

必要に応じてコピーまたはデータを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行なう。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度(討論への積極的な参加等)をもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究XD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師 博士(歴史学) 富山 仁貴		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

日本現代史とりわけ1940年代以降の社会・経済・政治・思想・教育・地域などの諸問題、および現代における歴史認識・歴史叙述のあり方について検討する。史料・文献の講読および受講生による研究報告によって授業を進める。

春学期は、①歴史学方法論および地域史をめぐる諸問題に関する著作を検討し、②戦後日本の経済・産業について『北海道現代史 資料編2(産業・経済)』を史料として講読する。なお、授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更することもありうる。

(到達目標)

- ①歴史学の研究史を踏まえた研究枠組みの構築方法を修得する。
- ②歴史資料の調査手順および正確な批判・読解方法を修得する。
- ③修士論文の作成に向けた歴史認識・歴史叙述のあり方を修得する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 歴史学方法論(その1)
- 第3回 同上(その2)
- 第4回 同上(その3)
- 第5回 地域史をめぐる諸問題(その1)
- 第6回 同上(その2)
- 第7回 同上(その3)
- 第8回 戦後日本の経済・産業(その1)
- 第9回 同上(その2)
- 第10回 同上(その3)
- 第11回 同上(その4)
- 第12回 同上(その5)
- 第13回 同上(その6)
- 第14回 まとめ(総合討論)

履修上の注意

報告者は必ずレジュメを作成し、無断欠席しないこと。参加者は積極的に討論に参加し、質問・意見を述べること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は事前にテキストを精読し、討論に向けた疑問点・論点などを用意しておくこと。授業後は、論点を整理して必要な調査を行なうこと。

教科書

必要に応じてコピーまたはデータを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行なう。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度(討論への積極的な参加等)をもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究IA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授	高田 幸男	

授業の概要・到達目標

授業の概要

テーマ:教育史料から見た中国近現代史

近年、中国近現代史研究は大きく変わりつつある。史料公開の進展にとともに、档案とよばれる公文書や地域色豊かな地方志などの史料を駆使した研究が当たり前となってきた。一方、中国近現代史研究において、教育分野はまだ研究蓄積が比較的少ない分野である。だが、中国の地方行政や地域社会において、教育行政や教育事業は重要な構成要素であり、実際、教育行政に関する档案や教育関係の図書・雑誌は、教育史のみならず、近現代の地方政治や地域社会の実像を解明するための重要な史料となっている。本講義・演習では、日本を中心とした中国近現代史研究の歩みを概観したのち、研究方法や史料について紹介する。

到達目標

本講義・演習では、まず講義をおこなったのち、中国近現代史の教育史料をテキストとして講読をおこない、受講者が中国近現代史研究の現状を理解し、史料の収集・講読に習熟することを旨とする。

授業内容

- (1)中国近現代史研究とは
- (2)中国近現代史研究の歩み1—第二次世界大戦前
- (3)中国近現代史研究の歩み2—第二次世界大戦後から文化大革命まで
- (4)中国近現代史研究の歩み3—1980年代以降
- (5)中国近現代史研究の課題1—地域史からのアプローチ
- (6)中国近現代史研究の課題2—教育史からのアプローチ
- (7)研究の方法1—研究成果を公表する
- (8)研究の方法2—先行研究と向き合う
- (9)研究の方法3—研究の倫理・マナー
- (10)研究の方法4—研究会・学会
- (11)史料の収集分析1—IT時代の史料調査
- (12)史料の収集分析2—新史料の発掘
- (13)史料の収集分析3—オーラルヒストリー
- (14)まとめ

以上の授業計画は、受講者の研究課題に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

予習を前提に授業を進める。質問や意見があれば積極的に発言してほしい。「大学院研究科間共通科目 学際系総合研究A」を履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストをあらかじめよく読み、関連事項を調べておくこと。

教科書

研究史・研究課題についてのテキストは、『シリーズ20世紀中国史』全4巻、飯島渉ほか編、東京大学出版会。研究方法については、『大国化する中国の歴史と向き合う』、飯島渉編、研文出版。史料については、『新史料からみる中国現代史』、高田幸男・大澤肇編、東方書店。講読する史料は配付する。

参考書

『中国近現代史研究のスタンダード』、田中比呂志・飯島渉編、研文出版。また『中日大辞典』大修館書店は近現代史に関する語彙が多いので必ず購入すること。『中国歴史公文書読解辞典』、山腰敏寛編、汲古書院、2004年、も史料講読の参考になる。その他、参考文献は随時紹介する。

成績評価の方法

授業への参加度80%、レポート20%。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究IB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授		高田 幸男

授業の概要・到達目標

授業の概要

テーマ:教育史料から見た中国近現代史
 近年、中国近現代史研究は大きく変わりつつある。史料公開の進展にともない、档案とよばれる公文書や地域色豊かな地方志などの史料を駆使した研究が当たり前となってきた。一方、中国近現代史研究において、教育分野はまだ研究蓄積が比較的少ない分野である。だが、中国の地方行政や地域社会において、教育行政や教育事業は重要な構成要素であり、実際、教育行政に関する档案や教育関係の図書・雑誌は、教育史のみならず、近現代の地方政治や地域社会の実像を解明するための重要な史料となっている。

到達目標

本講義・演習では、アジア史研究IAにひきつづき、中国近現代史における教育と社会変容の問題、地域社会と地域エリートの問題などを、講義と史料講読を通じて検討し、受講者の問題意識を深め、史料分析能力を高めることを目指す。また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。受講者は中間報告をおこない、教員の指導や受講者相互の討論を通じて論文のテーマを確定し、論文構想の具体化を目指す。

授業内容

- (1)近代中国の中央・地方関係1—行政制度
- (2)近代中国の中央・地方関係2—江南地方の位置づけ
- (3)近代中国の中央・地方関係3—省・府・県・基層社会
- (4)近代中国の中央・地方関係4—宗族
- (5)近代中国の教育と社会変容1—科举制度
- (6)近代中国の教育と社会変容2—近代教育の導入と地域エリート
- (7)近代中国の教育と社会変容3—近代教育と社会改革
- (8)近代中国の教育と社会変容4—教育会と教育界
- (9)近代中国の教育と社会変容5—教育運動と地域社会
- (10)革命と教育1—中国共産党
- (11)革命と教育2—抗日戦争・49年革命と江南地方
- (12)革命と教育3—中華人民共和国初期の教育
- (13)革命と教育4—中華人民共和国期教育の変遷
- (14)まとめ

以上の授業計画は、受講生の研究課題に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

予習を前提に授業を進める。質問や意見があれば積極的に発言してほしい。「大学院研究科間共通科目 学際系総合研究A」を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストのほか中国近現代史の概説書をあらかじめよく読み、関連事項を調べておくこと。

教科書

研究史・研究課題についてのテキストは、『シリーズ20世紀中国史』全4巻、飯島渉ほか編、東京大学出版会。研究方法については、『大国化する中国の歴史と向き合う』、飯島渉編、研文出版。史料については、『新史料からみる中国現代史』、高田幸男・大澤肇編、東方書店。講読する史料は配付する。

参考書

『中国近現代史研究のスタンダード』、田中比呂志・飯島渉編、研文出版。また『中日大辞典』大修館書店は近現代史に関する語彙が多いので必ず購入すること。『中国歴史公文書読解辞典』、山腰敏寛編、汲古書院、2004年、も史料講読の参考になる。その他、参考文献は随時紹介する。

成績評価の方法

授業への参加度80%、レポート20%。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究IC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授		高田 幸男

授業の概要・到達目標

授業の概要

テーマ:教育史料から見た中国近現代史
 近年、中国近現代史研究は大きく変わりつつある。史料公開の進展にともない、档案とよばれる公文書や地域色豊かな地方志などの史料を駆使した研究が当たり前となってきた。一方、中国近現代史研究において、教育分野はまだ研究蓄積が比較的少ない分野である。だが、中国の地方行政や地域社会において、教育行政や教育事業は重要な構成要素であり、実際、教育行政に関する档案や教育関係の図書・雑誌は、教育史のみならず、近現代の地方政治や地域社会の実像を解明するための重要な史料となっている。本講義・演習では、日本を中心とした中国近現代史研究の歩みを概観したのち、研究方法や史料について紹介する。

到達目標

本講義・演習では、アジア史研究IBにひきつづき、中国近現代史の教育史料をテキストとして講読をおこない、受講者が中国近現代史における教育と社会・政治体制について理解を深め、史料の収集・講読・分析・考察に習熟することを目指す。

また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。受講者は中間報告をおこない、教員の指導や受講者相互の討論を通じて論文のテーマを確定し、論文構成を具体化する。

授業内容

- (1)中国近現代史研究とは
- (2)中国近現代史研究の歩み1—第二次世界大戦前
- (3)中国近現代史研究の歩み2—第二次世界大戦後から文化大革命まで
- (4)中国近現代史研究の歩み3—1980年代以降
- (5)中国近現代史研究の課題1—地域史からのアプローチ
- (6)中国近現代史研究の課題2—教育史からのアプローチ
- (7)研究の方法1—研究成果を公表する
- (8)研究の方法2—先行研究と向き合う
- (9)研究の方法3—研究の倫理・マナー
- (10)研究の方法4—研究会・学会
- (11)史料の収集分析1—IT時代の史料調査
- (12)史料の収集分析2—新史料の発掘
- (13)史料の収集分析3—オーラルヒストリー
- (14)まとめ

以上の授業計画は、受講者の研究課題に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

予習を前提に授業を進める。質問や意見があれば積極的に発言してほしい。「大学院研究科間共通科目 学際系総合研究A」を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストをあらかじめよく読み、関連事項を調べておくこと。

教科書

研究史・研究課題についてのテキストは、『シリーズ20世紀中国史』全4巻、飯島渉ほか編、東京大学出版会。研究方法については、『大国化する中国の歴史と向き合う』、飯島渉編、研文出版。史料については、『新史料からみる中国現代史』、高田幸男・大澤肇編、東方書店。講読する史料は配付する。

参考書

『中国近現代史研究のスタンダード』、田中比呂志・飯島渉編、研文出版。また『中日大辞典』大修館書店は近現代史に関する語彙が多いので必ず購入すること。『中国歴史公文書読解辞典』、山腰敏寛編、汲古書院、2004年、も史料講読の参考になる。その他、参考文献は随時紹介する。

成績評価の方法

授業への参加度80%、レポート20%。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS622J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究 I D		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授		高田 幸男

授業の概要・到達目標

授業の概要

テーマ:教育史料から見た中国近現代史
 近年、中国近現代史研究は大きく変わりつつある。史料公開の進展にともない、档案とよばれる公文書や地域色豊かな地方志などの史料を駆使した研究が当たり前となってきた。一方、中国近現代史研究において、教育分野はまだ研究蓄積が比較的少ない分野である。だが、中国の地方行政や地域社会において、教育行政や教育事業は重要な構成要素であり、実際、教育行政に関する档案や教育関係の図書・雑誌は、教育史のみならず、近現代の地方政治や地域社会の実像を解明するための重要な史料となっている。本講義・演習では、日本を中心とした中国近現代史研究の歩みを概観したのち、研究方法や史料について紹介する。

到達目標

本講義・演習では、アジア史研究 I C にひきつづき、中国近現代史における教育と社会変容の問題、地域社会と地域エリートの問題などを講義と史料講読を通じて検討し、受講者の問題意識を深め、史料分析能力を高めることを目指す。また、受講者各自の修士論文作成に重点を置き、個別に指導をおこなうと同時に、受講者の中間報告と受講者相互の討論によって、論文の構成等を確定し、執筆・完成させる。

授業内容

- (1) 近代中国の中央・地方関係1—行政制度
- (2) 近代中国の中央・地方関係2—江南地方の位置づけ
- (3) 近代中国の中央・地方関係3—省・府・県・基層社会
- (4) 近代中国の中央・地方関係4—宗族
- (5) 近代中国の教育と社会変容1—科举制度
- (6) 近代中国の教育と社会変容2—近代教育の導入と地域エリート
- (7) 近代中国の教育と社会変容3—近代教育と社会改革
- (8) 近代中国の教育と社会変容4—教会と教育界
- (9) 近代中国の教育と社会変容5—教育運動と地域社会
- (10) 革命と教育1—中国共産党
- (11) 革命と教育2—抗日戦争・49年革命と江南地方
- (12) 革命と教育3—中華人民共和国初期の教育
- (13) 革命と教育4—中華人民共和国期教育の変遷
- (14) まとめ

以上の授業計画は、受講生の研究課題に応じて変更する場合があります。

履修上の注意

予習を前提に授業を進める。質問や意見があれば積極的に発言してほしい。「大学院研究科間共通科目 学際系総合研究 A」を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストをあらかじめよく読み、関連事項を調べておくこと。

教科書

研究史・研究課題についてのテキストは、『シリーズ20世紀中国史』全4巻、飯島渉ほか編、東京大学出版会。研究方法については、『大国化する中国の歴史と向き合う』、飯島渉編、研文出版。史料については、『新史料からみる中国現代史』、高田幸男・大澤肇編、東方書店。講読する史料は配付する。

参考書

『中国近現代史研究のスタンダード』、田中比呂志・飯島渉編、研文出版。また『中日大辞典』大修館書店は近現代史に関わる語彙が多いので必ず購入すること。『中国歴史公文書読解辞典』、山腰敏寛編、汲古書院、2004年、も史料講読の参考になる。その他、参考文献は随時紹介する。

成績評価の方法

授業への参加度80%、レポート20%。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS522J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究 II A		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授		江川 ひかり

授業の概要・到達目標

日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における最新の研究動向を把握する。

授業内容

オスマン帝国支配下のアナトリアおよびバルカン地域(とくに16—19世紀)における社会経済史上の諸問題を総合的に研究する。本研究は、日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における研究動向を把握するために、英文およびトルコ文による著書・論文を取り上げて、これらを今日的視点から批判的に検討する。あわせて修士論文執筆の指導をおこなう。授業計画は以下のとおりであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

- (1) イントロダクション (授業の進め方、基本参考文献の紹介等)
- (2) Darling, Linda T., *A History of Social Justice and Political Power in the Middle East: The Circle of Justice from Mesopotamia to Globalization*(New York: Routledge, 2012)の輪読(その1)
- (3) 同上 (その2)
- (4) 同上 (その3)
- (5) 同上 (その4)
- (6) 同上 (その5)
- (7) 同上 (その6)
- (8) 同上 (その7)
- (9) H. Inalcik, *The Ottoman Empire Classical Age: 1300-1600*の輪読(その1)
- (10) 同上 (その2)
- (11) 15世紀の年代記『アーシュク・パシヤザーデの歴史』(オスマン語)の輪読(その1)
- (12) 同上 (その2)
- (13) 同上 (その3)
- (14) 総合討論:オスマン史研究の課題

履修上の注意

受講生は現代トルコ語、あるいはペルシア語、アラビア語を修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

講読するテキストの直筆ノートを作成・予習して授業に臨むことが不可欠である。

教科書

受講生の顔ぶれをみて決定し、プリントを配布する。

参考書

永田雄三(編著)『新版世界各国史西アジア史2イラン・トルコ』山川出版社、2002年。
 林佳世子『オスマン帝国500年の平和』(興亡の世界史10)講談社、2008年。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度50%、授業での報告・発表・取組の積極性50%

その他

科目ナンバー: (AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 江川 ひかり		

授業の概要・到達目標

日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における最新の研究動向を把握する。

授業内容

オスマン帝国支配下のアナトリアおよびバルカン地域(とくに16—19世紀)における社会経済史上の諸問題を総合的に研究する。本研究は、日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における研究動向を把握するために、英文およびトルコ文による著書・論文を取り上げて、これらを今日的視点から批判的に検討する。あわせて修士論文執筆の指導をおこなう。授業計画は以下のとおりであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

- (1) イントロダクション (授業の進め方, 基本参考文献の紹介等)
- (2) H. Inalcik & D. Quataert (eds.), *An Economic and Social History of the Ottoman Empire 1300-1914*. の輪読(その1)
- (3) 同上 (その2)
- (4) 同上 (その3)
- (5) 同上 (その4)
- (6) 同上 (その5)
- (7) 同上 (その6)
- (8) 同上 (その7)
- (9) 16世紀の年代記『セラーニキーの歴史』(オスマン語)(その1)
- (10) 同上 (その2)
- (11) 同上 (その3)
- (12) 同上 (その4)
- (13) 同上 (その5)
- (14) 総合討論: オスマン史研究の課題

履修上の注意

受講生は現代トルコ語、あるいはペルシア語、アラビア語を修得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講読するテキストの直筆ノートを作成・予習して授業に臨むことが不可欠である。

教科書

受講生の顔ぶれをみて決定し、プリントを配布する。

参考書

永田雄三(編著)『新版世界各国史西アジア史2イラン・トルコ』山川出版社, 2002年。
 林佳世子『オスマン帝国500年の平和』(興亡の世界史10)講談社, 2008年。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度50%, 授業での報告・発表・取組の積極性50%

その他

科目ナンバー: (AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅡC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 江川 ひかり		

授業の概要・到達目標

修士論文執筆に向けて、論文テーマの決定、論文の構成、研究動向の整理をおこなう。

授業内容

オスマン帝国支配下のアナトリアおよびバルカン地域(とくに16—19世紀)における社会経済史上の諸問題を総合的に研究する。本研究は、日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における研究動向を把握するために、英文およびトルコ文による著書・論文を取り上げて、これらを今日的視点から批判的に検討する。あわせて修士論文執筆の指導をおこなう。授業計画は以下のとおりであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

- (1) イントロダクション (授業の進め方, 基本参考文献の紹介等)
- (2) Suraiya N. Faroqhi (ed.), *The Cambridge History of Turkey: vol. 3 The Later Ottoman Empire, 1603-1839*. の輪読(その1)
- (3) 同上 (その2)
- (4) 同上 (その3)
- (5) 同上 (その4)
- (6) 同上 (その5)
- (7) 同上 (その6)
- (8) 同上 (その7)
- (9) 17世紀の年代記『ナイーマーの歴史』(オスマン語)(その1)
- (10) 同上 (その2)
- (11) 同上 (その3)
- (12) 同上 (その4)
- (13) 同上 (その5)
- (14) 総合討論: オスマン史研究の課題

履修上の注意

受講生は現代トルコ語、あるいはペルシア語、アラビア語を修得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講読するテキストの直筆ノートを作成・予習して授業に臨むことが不可欠である。

教科書

受講生の顔ぶれをみて決定し、プリントを配布する。

参考書

永田雄三(編著)『新版世界各国史西アジア史2イラン・トルコ』山川出版社, 2002年。
 林佳世子『オスマン帝国500年の平和』(興亡の世界史10)講談社, 2008年。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度50%, 授業での報告・発表・取組の積極性50%

その他

科目ナンバー: (AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅡD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授	江川 ひかり	

授業の概要・到達目標

修士論文執筆に向けて、論文テーマの決定、論文の構成、研究動向の整理をおこなう。

授業内容

オスマン帝国支配下のアナトリアおよびバルカン地域(とくに16—19世紀)における社会経済史上の諸問題を総合的に研究する。本研究は、日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における研究動向を把握するために、英文およびトルコ文による著書・論文を取り上げて、これらを今日的視点から批判的に検討する。あわせて修士論文執筆の指導をおこなう。授業計画は以下のとおりであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

- (1) イントロダクション (授業の進め方、基本参考文献の紹介等)
- (2) H. Inalcik & D. Quataert (eds.) *An Economic and Social History of the Ottoman Empire 1300-1914*. の輪読(その1)
- (3) 同上 (その2)
- (4) 同上 (その3)
- (5) 同上 (その4)
- (6) 同上 (その5)
- (7) 同上 (その6)
- (8) 同上 (その7)
- (9) 18世紀の年代記『ヴァースフの歴史』(オスマン語)(その1)
- (10) 同上 (その2)
- (11) 同上 (その3)
- (12) 同上 (その4)
- (13) 同上 (その5)
- (14) 総合討論: オスマン史研究の課題

履修上の注意

受講生は現代トルコ語、あるいはペルシア語、アラビア語を修得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講読するテキストの直筆ノートを作成・予習して授業に臨むことが不可欠である。

教科書

受講生の顔ぶれをみて決定し、プリントを配布する。

参考書

永田雄三(編著)『新版世界各国史西アジア史2 イラン・トルコ』山川出版社、2002年。

林佳世子『オスマン帝国500年の平和』(興亡の世界史10)講談社、2008年。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度50%、授業での報告・発表・取組の積極性50%

その他

科目ナンバー: (AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅢA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授	博士(文学)	櫻井 智美

授業の概要・到達目標

明代の政治と制度

明代史の研究は、中国の他時代の研究に比してけっして盛んとは言えない。なぜそのような状況になっているのかは、当時の史料編纂や流伝、その背景にある政治状況にさかのぼって考える必要がある。

そこで、本講義・演習では、明代史に関わる新旧の研究状況を把握し、政治や制度の諸問題およびその相互関係について、講義と史料講読を通じて自ら分析をおこなう。また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。

受講者は修士論文に向けて、資料読解能力を高めるとともに、中間報告を複数回おこない、論文の構想を練り、論文としての完成度を高めていくことが目標となる。

授業内容

- 第1回 明代史研究の諸論点
- 第2回 日本における明代史の新視点
- 第3回 海外における明代史と近年の諸課題
- 第4回 『明史』『明実録』『大明会典』の講読(1)
- 第5回 同上(2)
- 第6回 同上(3)
- 第7回 同上(4)
- 第8回 『明清史料』講読(1)
- 第9回 同上(2)
- 第10回 同上(3)
- 第11回 同上(4)
- 第12回 『皇明條法事類纂』の講読(1)
- 第13回 同上(2)
- 第14回 同上(3)

資料の講読箇所は履修者の研究テーマに応じて決定する。また、履修者は複数回中間報告を行う。履修者の研究テーマによって、講読の順序等を変更する場合がある。

履修上の注意

適切な漢和辞典・中国語辞典を準備すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎授業、履修者全員に無作為に当てて史料等を読み、関連事項について説明してもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書

研究動向や方法については、『中国歴史研究入門』(礪波護・岸本美緒・杉山正明編、名古屋大学出版会)。

課題に対するフィードバックの方法

添削して返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度60%、レポート40%。レポートは、学術雑誌等への投稿・掲載によって代えることもできる。総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美	

授業の概要・到達目標

元代の政治と文化

近年、日本における元代史研究は、モンゴルによるユーラシア各地の支配という視点を強調する流れとなっている。多言語史料を駆使し、漢文史料での記述との比較検討をおこなう方法論は、徐々に確立してきている。一方、いわゆる『元典章』やバイリンガル史料など、元朝にかかる漢文史料も、他の時代とは異なる特徴を持つ。これら史料や研究方法の多様性を熟知し、史料読解の能力を高めることは、元代史研究の出発点となり、次のステップへの具体的な準備ともなる。

本講義・演習では、元代の政治と文化について、とりわけ、中国文化と政権の係性を主眼において、講義と史料講読を通じて分析をおこなう。また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。

履修者は修士論文に向けて、資料読解能力を高めるとともに、中間報告を複数回おこない、論文の構想を練り、論文としての完成度を高めていくことが目標となる。

授業内容

- 第1回 元代史研究への扉を開く
- 第2回 元代史研究の新視点
- 第3回 『大元聖政国朝典章』の講読と分析(1)
- 第4回 同上(2)吏部
- 第5回 同上(3)戸部
- 第6回 同上(4)礼部
- 第7回 同上(5)兵部
- 第8回 同上(6)刑部
- 第9回 同上(7)工部
- 第10回 最新研究書の講読と分析
- 第11回 関連石刻史料の講読と分析(1)バイリンガル碑
- 第12回 同上(2)官庁碑刻
- 第13回 同上(3)祭祀碑刻
- 第14回 同上(4)神道碑と墓誌銘

資料の講読箇所は履修者の研究テーマに応じて決定する。また、履修者は複数回中間報告を行う。履修者の研究テーマによって、講読の順序等を変更する場合がある。

履修上の注意

適切な漢和辞典・中国語辞典を準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎授業、履修者全員に無作為に当てて史料等を読み、関連事項について説明してもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書

『元朝の歴史』（櫻井智美他編、勉誠出版）。研究動向や方法については、『中国歴史研究入門』（礪波護ら編、名古屋大学出版会）。

課題に対するフィードバックの方法

添削して返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度60%、レポート40%。レポートは、学術雑誌への投稿・掲載によって代えることもできる。総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅢC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美	

授業の概要・到達目標

明代の政治と制度

明代史の研究は、中国の他時代の研究に比してけっして盛んとは言えない。なぜそのような状況になっているのかは、当時の史料編纂や流伝、その背景にある政治状況にさかのぼって考える必要がある。

そこで、本講義・演習では、明代史に関わる新旧の研究状況を把握し、政治や制度の諸問題およびその相互関係について、講義と史料講読を通じて自ら分析をおこなう。また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。

受講者は修士論文に向けて、資料読解能力を高めるとともに、中間報告を複数回おこない、論文の構想を練り、論文としての完成度を高めていくことが目標となる。

授業内容

- 第1回 明代史研究の諸論点
- 第2回 日本における明代史の新視点
- 第3回 海外における明代史と近年の諸課題
- 第4回 『明史』『明実録』『大明会典』の講読(1)
- 第5回 同上(2)
- 第6回 同上(3)
- 第7回 同上(4)
- 第8回 『明清史料』講読(1)
- 第9回 同上(2)
- 第10回 同上(3)
- 第11回 同上(4)
- 第12回 『皇明條法事類纂』の講読(1)
- 第13回 同上(2)
- 第14回 同上(3)

資料の講読箇所は履修者の研究テーマに応じて決定する。また、履修者は複数回中間報告を行う。履修者の研究テーマによって、講読の順序等を変更する場合がある。

履修上の注意

適切な漢和辞典・中国語辞典を準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎授業、履修者全員に無作為に当てて史料等を読み、関連事項について説明してもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書

研究動向や方法については、『中国歴史研究入門』（礪波護・岸本美緒・杉山正明編、名古屋大学出版会）。

課題に対するフィードバックの方法

添削して返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度60%、レポート40%。レポートは、学術雑誌等への投稿・掲載によって代えることもできる。総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅢD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美	

授業の概要・到達目標

元代の政治と文化

近年、日本における元代史研究は、モンゴルによるユーラシア各地の支配という視点を強調する流れとなっている。多言語史料を駆使し、漢文史料での記述との比較検討をおこなう方法論は、徐々に確立してきている。一方、いわゆる『元典章』やバイリンガル史料など、元朝にかかる漢文史料も、他の時代とは異なる特徴を持つ。これら史料や研究方法の多様性を熟知し、史料読解の能力を高めることは、元代史研究の出発点となり、次のステップへの具体的な準備ともなる。

本講義・演習では、元代の政治と文化について、とりわけ、中国文化と政権の係争関係を主眼において、講義と史料講読を通じて分析をおこなう。また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。

履修者は修士論文に向けて、資料読解能力を高めるとともに、中間報告を複数回おこない、論文の構想を練り、論文としての完成度を高めていくことが目標となる。

授業内容

- 第1回 元代史研究への扉を開く
- 第2回 元代史研究の新視点
- 第3回 『大元聖政国朝典章』の講読と分析(1)
- 第4回 同上(2)吏部
- 第5回 同上(3)戸部
- 第6回 同上(4)礼部
- 第7回 同上(5)兵部
- 第8回 同上(6)刑部
- 第9回 同上(7)工部
- 第10回 最新研究書の講読と分析
- 第11回 関連石刻史料の講読と分析(1)バイリンガル碑
- 第12回 同上(2)官庁碑刻
- 第13回 同上(3)祭祀碑刻
- 第14回 同上(4)神道碑と墓誌銘

資料の講読箇所は履修者の研究テーマに応じて決定する。また、履修者は複数回中間報告を行う。履修者の研究テーマによって、講読の順序等を変更する場合がある。

履修上の注意

適切な漢和辞典・中国語辞典を準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎授業、履修者全員に無作為に当てて史料等を読み、関連事項について説明してもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書

『元朝の歴史』（櫻井智美他編、勉誠出版）。研究動向や方法については、『中国歴史研究入門』（礪波護ら編、名古屋大学出版会）。

課題に対するフィードバックの方法

添削して返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度60%、レポート40%。レポートは、学術雑誌への投稿・掲載によって代えることもできる。総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅣA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	高村 武幸	

授業の概要・到達目標

現在の中国古代史研究の現状を理解し、特に研究に欠かせない簡牘史料について、その史料性格を理解することを目的とする。

この授業では、第二次大戦後の日本における簡牘史料の研究状況を踏まえつつ、簡牘史料をどのように扱い、研究に用いるかを検討していく。単なる講義形式では表面的な知識を得るのみになってしまうので、実際の簡牘史料を講読しつつ、必要な知識を紹介する。現時点では、律令簡牘（胡家草場漢簡・岳麓秦簡）などを考えている。

授業内容

- 第一回 授業内容の説明と簡牘概説
- 第二回 秦漢律令簡牘の講読1
- 第三回 秦漢律令簡牘の講読2
- 第四回 秦漢律令簡牘の講読3
- 第五回 秦漢律令簡牘の講読4
- 第六回 秦漢律令簡牘の講読5
- 第七回 秦漢律令簡牘の講読6
- 第八回 秦漢律令簡牘の講読7
- 第九回 秦漢律令簡牘の講読8
- 第十回 秦漢律令簡牘の講読9
- 第十一回 秦漢律令簡牘の講読10
- 第十二回 秦漢律令簡牘の講読11
- 第十三回 秦漢律令簡牘の講読12
- 第十四回 秦漢律令簡牘の講読13

履修上の注意

初回時に受講者の関心に応じて、授業内容の調整を行う。特に、講読史料の決定を実施する。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習…事前に次回講読分の簡牘史料を書き下し・日本現代語訳しておく。

復習…講義中に説明した事柄については整理しておき、次回講義の際にそれを生かした予習を行えるようにしておく。

教科書

特定の教科書はなく、必要な資料は当方から配布する。

参考書

講義では参考書を使用しない。講義中に必要が生じた際に、個別の必要に応じた参考書の紹介を実施する。

成績評価の方法

講義へ出席の上での予習・議論の状況(70%) + レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅣB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	高村 武幸	

授業の概要・到達目標

現在の中国古代史研究に欠かせない簡牘史料について、その内容を理解し、研究に用いるための基礎力を獲得することを目的とする。
この授業では、秦代の簡牘「里耶秦簡」の講読を実施し、独力で中国古代の公文書を読解し、その内容の概要を理解できるようになることに努める。なお、公文書については受講者との相談で変更することもある。

授業内容

- 第一回 授業内容の説明
- 第二回 里耶秦簡の講読1
- 第三回 里耶秦簡の講読2
- 第四回 里耶秦簡の講読3
- 第五回 里耶秦簡の講読4
- 第六回 里耶秦簡の講読5
- 第七回 里耶秦簡の講読6
- 第八回 里耶秦簡の講読7
- 第九回 里耶秦簡の講読8
- 第十回 里耶秦簡の講読9
- 第十一回 里耶秦簡の講読10
- 第十二回 里耶秦簡の講読11
- 第十三回 里耶秦簡の講読12
- 第十四回 里耶秦簡の講読13

履修上の注意

初回講義時に受講者の関心に応じて講読史料を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習…次回講読分の史料の書き下し・現代日本語訳をししておく。
復習…講読史料を読み直して、次回講読分に類似のものが出た場合指摘できるようにする。

教科書

特定の教科書は使用せず、当方から配布する。

参考書

特定の参考書は使用せず、必要に応じて講義時に個別に紹介する。

成績評価の方法

講義へ出席の上での予習・議論の状況(70%) + レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅣC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	高村 武幸	

授業の概要・到達目標

現在の中国古代史研究の現状を理解し、特に研究に欠かせない簡牘史料を利用した研究を理解した上で、史料に基づいて批評できるようになることを目的とする。この授業では、第二次大戦後の日本を中心に、歴史学史料として簡牘を用いた中国古代史研究の代表的な研究を紹介するが、具体的な史料とともに各研究の意義を確認できないと意味がないため、律令簡牘を中心に講読しつつ、各研究を随時紹介する形をとる。

授業内容

- 第一回 授業内容の説明
 - 第二回 律令関係簡牘の講読(1)
 - 第三回 律令関係簡牘の講読(2)
 - 第四回 律令関係簡牘の講読(3)
 - 第五回 律令関係簡牘の講読(4)
 - 第六回 律令関係簡牘の講読(5)
 - 第七回 律令関係簡牘の講読(6)
 - 第八回 律令関係簡牘の講読(7)
 - 第九回 律令関係簡牘の講読(8)
 - 第十回 律令関係簡牘の講読(9)
 - 第十一回 律令関係簡牘の講読(10)
 - 第十二回 律令関係簡牘の講読(11)
 - 第十三回 律令関係簡牘の講読(12)
 - 第十四回 律令関係簡牘の講読(13)
- ※受講者との協議により、内容の変更や増減、回数的前後が発生することがある。

履修上の注意

初回授業時に受講者の関心に応じて内容を調整する。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習…前回の講義内容を理解した上で、次の範囲についてどのような内容になりそうかを予測しておくこと。
復習…講義内容についてまとめておくこと。適宜講義の中で内容を把握しているか問うことがある。

教科書

特定の教科書は使用せず、当方から必要な資料は配布する。

参考書

特定の参考書は使用しない。必要に応じて、講義の中で個別に紹介していく。

成績評価の方法

講義へ出席の上での予習・議論の状況(70%) + レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究ⅣD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	高村 武幸	

授業の概要・到達目標

現在の中国古代史研究に欠かせない簡牘史料について、その内容を理解した上で、自己の研究に適切な形で利用できるようなことを目的とする。

この授業では、公文書簡牘の講読を実施し、独力で中国古代文書・簿籍を読解し、その内容を把握した上で研究にどのように利用するかを考える。必要に応じて、典籍文献の講読または里耶秦簡以外の講読などに切り替えることがある。

授業内容

- 第一回 授業内容の説明と漢簡の概観
- 第二回 里耶秦簡の講読(1)
- 第三回 里耶秦簡の講読(2)
- 第四回 里耶秦簡の講読(3)
- 第五回 里耶秦簡の講読(4)
- 第六回 里耶秦簡の講読(5)
- 第七回 里耶秦簡の講読(6)
- 第八回 里耶秦簡の講読(7)
- 第九回 里耶秦簡の講読(8)
- 第十回 里耶秦簡の講読(9)
- 第十一回 里耶秦簡の講読(10)
- 第十二回 里耶秦簡の講読(11)
- 第十三回 里耶秦簡の講読(12)
- 第十四回 里耶秦簡の講読(13)

履修上の注意

初回授業時に講読内容について受講者と協議する。特に、簡牘史料は新しく公開されるものも多いため、その時点での簡牘史料の状況をみながら、随時切り替えることも検討する。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習…次回講読個所の書き下し・日本現代語訳をおこなう。
 復習…法律用語をはじめとする各種用語についてまとめておき、同様の事例が出てきた際にすぐに理解できるようにしておく。

教科書

特定の教科書は使用せず、当方から資料を配布する。

参考書

特定の参考書は使用せず、講義時に必要が生じたときに個別に紹介する。

成績評価の方法

講義へ出席の上での予習・議論の状況(70%) + レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究ⅤA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(文学)	鈴木 開	

授業の概要・到達目標

史料の読解と研究をつうじて、東アジア近世史を世界史的な観点からとらえなおすことを目標とする。資料の収集整理、先行研究の読解、フィールドワーク、史料講読の四方面から研究の進め方や歴史観の構築方法を学んでいく。資料の収集整理では明治大学中央図書館、フィールドワークでは関連史料の所蔵機関や史跡を訪問し、研究の進め方を体感しながら習得する。整備がすすむデジタル資料の活用についても議論する。先行研究の読解では、中国語、韓国語、英語の各言語圏の研究動向を把握するほか、1950年以前の著作をもとりあげ、史学史的な問題意識を涵養することを目指す。史料講読では、公牘体といわれる明清公文書の文体、朝鮮漢文、満洲語を習得するとともに、それら史料の研究に活用する方法論についても探究していく。

授業内容

- 第1回 概説 東アジア近世史の研究
- 第2・3・4回 資料の収集整理
- 第5・6・7回 先行研究の読解
- 第8・9・10回 フィールドワーク
- 第11・12・13回 史料講読
- 第14回 総括 東アジア近世史の新たな研究方向

履修上の注意

希望するテーマの研究状況についてあらかじめ調べておくこと

準備学習（予習・復習等）の内容

講読を希望する史料言語についてあらかじめ習熟しておくこと

教科書

特になし。

参考書

- 『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』（ミネルヴァ書房、2022年）
- 『ハンドブック近代中国外交史：明清交替から満洲事変まで』（ミネルヴァ書房、2019年）

成績評価の方法

出席状況、授業での報告内容、期末のレポートを総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究VB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 鈴木 開		

授業の概要・到達目標

明清と朝鮮の関係を軸に前近代東アジア国際関係の実態を解明する。法令、随筆、文学、地図、絵画、写真など幅広い資料に目配りし、近世から近代への時代の移りかわりを多様な観点から理解することを目標とする。档案に代表される手書き史料については、いわゆる「くずし字」の読解トレーニングも実施する。漢籍をはじめとする資料学分野の研究動向にも目配りする。明清史料、朝鮮史料、図像資料(地図、地誌含む)、手書き史料の四段階にわけて、史料読解の方法論を体得し、個々のテーマに沿って論文を作成する能力を身につける。

授業内容

第1回 はじめに一東アジア国際関係史の資料と方法
 第2・3・4回 明清史料の読解
 第5・6・7回 朝鮮史料の読解
 第8・9・10回 図像資料の読解
 第11・12・13回 手書き史料の読解
 第14回 おわりに一東アジア国際関係史の新視点

履修上の注意

とりあげてほしい資料がある場合には考慮するので、あらかじめ書誌情報などを調査しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考書をつうじて研究動向や史料状況を把握しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』(漢字文献情報処理研究会編, 好文出版, 2021年)
 『中国歴史公文書読解辞典』(山腰敏寛, 汲古書院, 2004年)
 『中国近世法制史料読解ハンドブック』(山本英史編, 2019年, <https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>よりダウンロード)

成績評価の方法

授業への貢献度, 出席, レポートなどを総合的に評価する。レポートでは自身の論文構想をまとめてもらう。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究VC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 鈴木 開		

授業の概要・到達目標

史料の読解と研究をつうじて、東アジア近世史を世界史的な観点からとらえなおすことを目標とする。資料の収集整理、先行研究の読解、フィールドワーク、史料講読の四方面から研究の進め方や歴史観の構築方法を学んでいく。資料の収集整理では明治大学中央図書館、フィールドワークでは関連史料の所蔵機関や史跡を訪問し、研究の進め方を体感しながら習得する。整備がすすむデジタル資料の活用についても議論する。先行研究の読解では、中国語、韓国語、英語の各言語圏の研究動向を把握するほか、1950年以前の著作をもとりあげ、史学史的な問題意識を涵養することを旨とする。史料講読では、公牘体といわれる明清公文書の文体、朝鮮漢文、満洲語を習得するとともに、それら史料を研究に活用する方法論についても探究していく。

授業内容

第1回 概説 東アジア近世史の研究
 第2・3・4回 資料の収集整理
 第5・6・7回 先行研究の読解
 第8・9・10回 フィールドワーク
 第11・12・13回 史料講読
 第14回 総括 東アジア近世史の新たな研究方向

履修上の注意

希望するテーマの研究状況についてあらかじめ調べておくこと

準備学習(予習・復習等)の内容

講読を希望する史料言語についてあらかじめ習熟しておくこと

教科書

特になし。

参考書

『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』(ミネルヴァ書房, 2022年)
 『ハンドブック近代中国外交史: 明清交替から満洲事変まで』(ミネルヴァ書房, 2019年)

成績評価の方法

出席状況, 授業での報告内容, 期末のレポートを総合して評価する。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究VD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 鈴木 開		

授業の概要・到達目標

明清と朝鮮の関係を軸に前近代東アジア国際関係の実態を解明する。法令、随筆、文学、地図、絵画、写真など幅広い資料に目配りし、近世から近代への時代の移りかわりを多様な観点から理解することを目標とする。档案に代表される手書き史料については、いわゆる「くずし字」の解読トレーニングも実施する。漢籍をはじめとする資料学分野の研究動向にも目配りする。明清史料、朝鮮史料、図像資料(地図、地誌含む)、手書き史料の四段階にわけて、史料読解の方法論を体得し、個々のテーマに沿って論文を作成する能力を身につける。

授業内容

- 第1回 はじめに一東アジア国際関係史の資料と方法
- 第2・3・4回 明清史料の読解
- 第5・6・7回 朝鮮史料の読解
- 第8・9・10回 図像資料の読解
- 第11・12・13回 手書き史料の読解
- 第14回 おわりに一東アジア国際関係史の新視点

履修上の注意

とりあげてほしい資料がある場合には考慮するので、あらかじめ書誌情報などを調査しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考書をつうじて研究動向や史料状況を把握しておくこと。

教科書

特にない。

参考書

- 『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』(漢字文献情報処理研究会編, 好文出版, 2021年)
- 『中国歴史公文書読解辞典』(山腰敏寛, 汲古書院, 2004年)
- 『中国近世法制史料読解ハンドブック』(山本英史編, 2019年, <https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>よりダウンロード)

成績評価の方法

授業への貢献度、出席、レポートなどを総合的に評価する。レポートでは自身の論文構想をまとめてもらう。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究 I A		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 古山 夕城		

授業の概要・到達目標

ギリシア古代世界のアルカイック期から古典期のポリスにおける国家制度と社会構造を考察するにあたり、必須の手掛かりとなる碑文史料のテキスト読解に必要な基礎的な技術と知識を体得することが目標である。

授業内容

- 第1回: イントロダクションA=ギリシア語碑文の諸特徴
- 第2回: 碑文テキストへのアプローチ(1)=支持体の種類分類
- 第3回: 碑文テキストへのアプローチ(2)=記載の形式
- 第4回: 碑文テキストへのアプローチ(3)=年代の推定
- 第5回: 碑文テキストへのアプローチ(4)=復元と捕逸
- 第6回: 碑文テキストへのアプローチ(5)=文字と方言
- 第7回: アッティカ方言(1)=民会決議
- 第8回: アッティカ方言(2)=財産没収競売碑文
- 第9回: アッティカ方言(3)=宗教関連碑文
- 第10回: アッティカ方言(4)=墓碑銘文
- 第11回: その他の方言碑文(1)=イオニア
- 第12回: その他の方言碑文(2)=アイオリス
- 第13回: その他の方言碑文(3)=ドーリス
- 第14回: エピローグA=春学期の授業まとめ

履修上の注意

事前の読み込み・事項の調査確認を十分行なっておくこと。古代ギリシア語テキストを教材にするため、古典ギリシア語・ラテン語・英語・フランス語・ドイツ語のすべてを読めることが履修の条件(イタリア語を読めることも望ましい)。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布するテキストを熟読し、十分な読解をしておくこと。

教科書

- R. Meiggs & D. Lewis eds. A Selection of Greek Historical Inscriptions to the End of the Fifth Century B. C. (1969)
 - M. N. Tod ed, Greek Historical Inscriptions from the Sixth Century B. C. to the Death of Alexander the Great. (1985)
- ほか、適宜必要な碑文史料を提示する。
読解実践のための碑文テキストについては、授業開始時に紹介し必要部分をコピーして配布するので、とくに購入の必要はない。

参考書

- 授業時に適宜、紹介するが、古典ギリシア語碑文の入門書として、次の書籍を参考にすること。
- A. G. Woodhead, The Study of Greek Inscriptions. 2nd edition (1981)
- E. Roberts, An Introduction to Greek Epigraphy (Cambridge Library Collection-Classics) (2011)
- C. D. Buck, Introduction to the Study of the Greek Dialects: Grammar, Selected Inscriptions, Glossary. (2009)

成績評価の方法

授業への取組姿勢(60%)を重視するが、テキストの理解度についても加味する(40%)。ただし、欠席の回数により減点する。

その他

このシラバスは、2023年11月段階の計画予定である。2024年度開始時期において、内容の一部または全部を変更することがある(その場合は開講時に説明する)。

科目ナンバー: (AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究IB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	古山 夕城	

授業の概要・到達目標

ギリシア古代世界のアルカイック期から古典期のポリスにおける国家制度と社会構造を考察するにあたり、必須の手掛かりとなる碑文史料のテキスト読解に必要な基礎的な技術と知識を体得することが目標である。

授業内容

- 第1回: イントロダクションA=ギリシア語碑文の諸特徴
 第2回: 碑文テキストへのアプローチ(1)=支持体の種類・分類
 第3回: 碑文テキストへのアプローチ(2)=記載の形式
 第4回: 碑文テキストへのアプローチ(3)=年代の推定
 第5回: 碑文テキストへのアプローチ(4)=復元と捕逸
 第6回: 碑文テキストへのアプローチ(5)=文字と方言
 第7回: アッティカ方言(1)=民会決議
 第8回: アッティカ方言(2)=財産没収競売碑文
 第9回: アッティカ方言(3)=宗教関連碑文
 第10回: アッティカ方言(4)=墓碑銘文
 第11回: その他の方言碑文(1)=イオニア
 第12回: その他の方言碑文(2)=アイオリス
 第13回: その他の方言碑文(3)=ドーリス
 第14回: エピローグA=春学期の授業まとめ

履修上の注意

事前の読み込み・事項の調査確認を十分行なっておくこと。古代ギリシア語テキストを教材にするため、古典ギリシア語・ラテン語・英語・フランス語・ドイツ語のすべてを読めることが履修の条件(イタリア語を読めることも望ましい)。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布するテキストを熟読し、十分な読解をしておくこと。

教科書

R. Meiggs & D. Lewis eds. *A Selection of Greek Historical Inscriptions to the End of the Fifth Century B. C.* (1969)
 M. N. Tod ed. *Greek Historical Inscriptions from the Sixth Century B. C. to the Death of Alexander the Great.* (1985)
 ほか、適宜必要な碑文史料を提示する。
 読解実践のための碑文テキストについては、授業開始時に紹介し必要部分をコピーして配布するので、とくに購入の必要はない。

参考書

授業時に適宜、紹介するが、古典ギリシア語碑文の入門書として、次の書籍を参考にすること。
 A. G. Woodhead, *The Study of Greek Inscriptions.* 2nd edition (1981)
 E. Roberts, *An Introduction to Greek Epigraphy* (Cambridge Library Collection-Classics) (2011)
 C. D. Buck, *Introduction to the Study of the Greek Dialects: Grammar, Selected Inscriptions, Glossary.* (2009)

成績評価の方法

授業への取組姿勢(60%)を重視するが、テキストの理解度についても加味する(40%)。ただし、欠席の回数により減点する。

その他

このシラバスは、2023年11月段階の計画予定である。2024年度開始時期において、内容の一部または全部を変更することがある(その場合は開講時に説明する)。

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究IC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	古山 夕城	

授業の概要・到達目標

ギリシア語古典史料の講読を行なう。古代ギリシア語の読解能力の習得と向上だけでなく、史料批判と史料分析の実践的学習を行なう。また、当該史料における記述内容の歴史的背景および他の資料からの情報との突き合わせによって、さらに踏み込んだ理解へのアプローチについても実践的に学習する。

授業内容

- 第1回: イントロダクション=テキストの概要
 第2回: 史料著者の略歴と作品の歴史的背景
 第3回: テキスト講読(1)=アカイア序章[1]
 第4回: テキスト講読(2)=アカイア序章[2]
 第5回: テキスト講読(3)=イオニア[1]
 第6回: テキスト講読(4)=イオニア[2]
 第7回: テキスト講読(5)=イオニア[3]
 第8回: テキスト講読(6)=イオニア[4]
 第9回: テキスト講読(7)=イオニア[5]
 第10回: テキスト講読(8)=イオニア[6]
 第11回: テキスト講読(9)=イオニア[7]
 第12回: テキスト講読(10)=イオニア[8]
 第13回: テキスト講読(11)=イオニア[9]
 第14回: まとめ=「イオニア」の総括

履修上の注意

ビデオ版テキストを利用するので、古典ギリシア語の能力だけでなく、フランス語の読解力も必要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布するテキストを熟読し、内容の報告ができるようにしておくこと。

教科書

Pausanias, *Description de la Grece. Livre VII: L'Achaïe.* (trad. et Comm. Yves Lafond 2000, Les Belles Lettres) 授業開始時に紹介し、必要部分を配布するので、とくに購入の必要はない。

参考書

とくに指定しないが、パウサニ阿斯およびイオニア地方に関する基本情報を得られる文献・論文を自分で調べて、史料の読解に必要な知識を獲得しておくこと。

成績評価の方法

授業への取り組み姿勢(50%)と読解のための事前準備(30%)を重視する。さらにテキストの理解度(20%)を加味する。

その他

このシラバスは、2023年11月段階の計画・予定である。2024年度の開始時期において、内容の一部または全部を変更することがある(その場合は開講時に説明する)。

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究 I D		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	古山 夕城	

授業の概要・到達目標

古典文献の史料利用に際して必要な技術と知識を身につけるため、散文テキスト講読を行なう。古代ギリシア語の読解能力の習得と向上だけでなく、史料批判と史料分析の実践的学習を行なう。また、当該史料における記述内容の歴史的背景および他の資料からの情報との突き合わせによって、さらに踏み込んだ理解へのアプローチについても実践的に学習する。

授業内容

- 第1回: テキスト講読(12) = アカイア本章[1]
- 第2回: テキスト講読(13) = アカイア本章[2]
- 第3回: テキスト講読(14) = アカイア本章[3]
- 第4回: テキスト講読(15) = アカイア本章[4]
- 第5回: テキスト講読(16) = アカイア本章[5]
- 第6回: テキスト講読(17) = アカイア本章[6]
- 第7回: テキスト講読(18) = アカイア本章[7]
- 第8回: テキスト講読(19) = アカイア本章[8]
- 第9回: テキスト講読(20) = アカイア本章[9]
- 第10回: テキスト講読(21) = アカイア終章[1]
- 第11回: テキスト講読(22) = アカイア終章[2]
- 第12回: テキスト講読(23) = アカイア終章[3]
- 第13回: テキスト講読(24) = アカイア終章[4]
- 第14回: まとめ = アカイア総括

履修上の注意

ビュテ版テキストを利用するので、古典ギリシア語の能力だけでなく、フランス語の読解力も必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に配布するテキストを熟読し、内容の報告ができるようにしておくこと。

教科書

Pausanias, *Description de la Grece. Livre VII: L'Achaïa*. (trad. et Comm. Yves Lafond 2000, Les Belles Lettres) 授業開始時に紹介し、必要部分を配布するので、とくに購入の必要はない。

ただし、テキストについては状況に応じて、法廷演説や演劇作品を採り上げていくことも考えている。

参考書

とくに指定しないが、アカイア地方およびテキストに登場する具体的名称に関する基本情報を自分で調べて、読解に必要な参考文献や学術論文を読んでおくこと。

成績評価の方法

取組姿勢(60%)を重視するが、テキストの理解度についても加味する(40%)。ただし、欠席の回数により減点する。

その他

このシラバスは、2023年11月段階の計画・予定である。2024年度の開始時期において、内容の一部または全部を変更することがある(その場合は開講時に説明する)。

科目ナンバー: (AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究 II A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、ドイツ語による西洋史の専門基本文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ウィーンという都市の歴史」を軸に、20世紀ヨーロッパ史の諸問題に関する主要理論の習得を目指す。とくに20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、ウィーンという都市の歴史に見られる国民の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。受講生によるテーマ報告を最低一回は行なってもらおう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(国民の境界論1)
- (3) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(国民の境界論2)
- (4) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(国民の境界論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーン市史1)
- (7) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーン市史2)
- (8) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーン市史3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ1)
- (11) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ2)
- (12) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語のテキストを扱うため、ドイツ語中級以上の学習歴があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

Dieter J. Hechter/Eleonore Lappin-Eppel/Michaela Raggam-Blesch (Hg.), *Topographie der Shoah. Gedächtnisorte des zerstörten jüdischen Wien*, 3. überarbeitete Aufl., Wien 2018(2015); Dieter J. Hecht/Michael Raggam-Blesch/Heidemarie Uhl (Hg.), *Letzte Orte. Die Wiener Sammellager und die Deportationen 1941/42*, Wien/Berlin 2019; Martin Krist/Albert Lichtblau, *Nationalsozialismus in Wien: Opfer. Täter. Gegner*, Innsbruck/Wien/Bozen 2017ほか。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションやコメントの返却を通じて定期的に行う予定である。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー: (AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、ドイツ語による西洋史の専門基本文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ウィーンという都市の歴史」を軸に、20世紀ヨーロッパ史の諸問題に関する主要理論の習得を目指す。とくに20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、ウィーンという都市の歴史に見られる国民の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。受講生によるテーマ報告を最低一回は行なってもらおう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(国民の境界論1)
- (3) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(国民の境界論2)
- (4) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(国民の境界論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーン市史1)
- (7) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーン市史2)
- (8) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーン市史3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ1)
- (11) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ2)
- (12) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語のテキストを扱うため、ドイツ語中級以上の学習歴があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

Dieter J. Hechter/Eleonore Lappin-Eppel/Michaela Raggam-Blesch (Hg.), Topographie der Shoah. Gedächtnisorte des zerstörten jüdischen Wien, 3. überarbeitete Aufl., Wien 2018(2015); Dieter J. Hecht/Michael Raggam-Blesch/Heidemarie Uhl (Hg.), Letzte Orte. Die Wiener Sammellager und die Deportationen 1941/42, Wien/Berlin 2019; Martin Krist/Albert Lichtblau, Nationalsozialismus in Wien: Opfer. Täter. Gegner, Innsbruck/Wien/Bozen 2017ほか。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションやコメントの返却を通じて定期的に行う予定である。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅡC		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、ドイツ語による西洋史の専門基本文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ウィーンという都市の歴史」を軸に、20世紀ヨーロッパ史の諸問題に関する主要理論の習得を目指す。とくに20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、ウィーンという都市の歴史に見られる国民の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。受講生によるテーマ報告を最低一回は行なってもらおう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(国民の境界論1)
- (3) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(国民の境界論2)
- (4) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(国民の境界論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーン市史1)
- (7) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーン市史2)
- (8) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーン市史3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ1)
- (11) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ2)
- (12) [20世紀ヨーロッパの歴史と国民]関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語のテキストを扱うため、ドイツ語中級以上の学習歴があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

Dieter J. Hechter/Eleonore Lappin-Eppel/Michaela Raggam-Blesch (Hg.), Topographie der Shoah. Gedächtnisorte des zerstörten jüdischen Wien, 3. überarbeitete Aufl., Wien 2018(2015); Dieter J. Hecht/Michael Raggam-Blesch/Heidemarie Uhl (Hg.), Letzte Orte. Die Wiener Sammellager und die Deportationen 1941/42, Wien/Berlin 2019; Martin Krist/Albert Lichtblau, Nationalsozialismus in Wien: Opfer. Täter. Gegner, Innsbruck/Wien/Bozen 2017ほか。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションやコメントの返却を通じて定期的に行う予定である。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅡD		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、ドイツ語による西洋史の専門基本文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ウィーンという都市の歴史」を軸に、20世紀ヨーロッパ史の諸問題に関する主要理論の習得を目指す。とくに20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、ウィーンという都市の歴史に見られる国民の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。受講生によるテーマ報告を最低一回は行なってもらおう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(国民の境界論1)
- (3) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(国民の境界論2)
- (4) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(国民の境界論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーン市史1)
- (7) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーン市史2)
- (8) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーン市史3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ1)
- (11) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ2)
- (12) 「20世紀ヨーロッパの歴史と国民」関連の文献講読と討論(ウィーンの中のマイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語のテキストを扱うため、ドイツ語中級以上の学習歴があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

Dieter J. Hechter/Eleonore Lappin-Eppel/Michaela Raggam-Blesch (Hg.), Topographie der Shoah. Gedächtnisorte des zerstörten jüdischen Wien, 3. überarbeitete Aufl., Wien 2018(2015); Dieter J. Hecht/Michael Raggam-Blesch/Heidemarie Uhl (Hg.), Letzte Orte. Die Wiener Sammlager und die Deportationen 1941/42, Wien/Berlin 2019; Martin Krist/Albert Lichtblau, Nationalsozialismus in Wien: Opfer. Täter. Gegner, Innsbruck/Wien/Bozen 2017ほか。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションやコメントの返却を通じて定期的に行う予定である。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、外国語(とくにドイツ語)による西洋史の専門文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「国民の境界」の観点から、近現代ヨーロッパ史の根幹とも言えるべき「国民社会」とその対立の歴史をユダヤ及びジェンダーを含むマイノリティの観点から掘り下げて議論することを目指す。

とくに20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、国民国家の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。また、受講生によるテーマ報告を最低一回は行ってもらおう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論1)
- (3) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論2)
- (4) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界1)
- (7) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界2)
- (8) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ1)
- (11) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ2)
- (12) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語中級以上を習得済みであること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

Elisabeth Fraller/ George Langnas (Hg.), Mignon. Tagebücher und Briefe einer jüdischen Krankenschwester in Wien 1938-1949, Innsbruck/Wien/Bozen 2010; Doron Rabinovici, Instanzen der Ohnmacht, Wien 1938-1945. Der Weg zum Judenrat. Historische Studie, Frankfurt am Main 2000; Lisa Hauff, Zur politischen Rolle von Judenräten, Benjamin Murelstein in Wien 1938-1942, Göttingen 2014; Kurt Bauer, Die dunklen Jahre. Politik und Alltag im nationalsozialistischen Österreich, 1938-1945, Frankfurt am Main 2017など。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション及びコメント返却を通して随時行う。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー: (AL) HIS532J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、外国語（とくにドイツ語）による西洋史の専門文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「国民の境界」の観点から、近現代ヨーロッパ史の根幹とも言えるべき「国民社会」とその対立の歴史をユダヤ及びジェンダーを含むマイノリティの観点から掘り下げて議論することを目指す。

とくに20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、国民国家の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。また、受講生によるテーマ報告を最低一回は行ってもらう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論1)
- (3) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論2)
- (4) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界1)
- (7) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界2)
- (8) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ1)
- (11) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ2)
- (12) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語中級以上を習得済みであること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

Elisabeth Fraller/ George Langnas (Hg.), Mignon. Tagebücher und Briefe einer jüdischen Krankenschwester in Wien 1938-1949. Innsbruck/Wien/Bozen 2010; Doron Rabinovici, Instanzen der Ohnmacht. Wien 1938-1945. Der Weg zum Judenrat. Historische Studie, Frankfurt am Main 2000; Lisa Hauff, Zur politischen Rolle von Judenräten. Benjamin Murrelstein in Wien 1938-1942, Göttingen 2014; Kurt Bauer, Die dunklen Jahre. Politik und Alltag im nationalsozialistischen Österreich, 1938-1945. Frankfurt am Main 2017など。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション及びコメント返却を通して随時行う。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらうレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、外国語（とくにドイツ語）による西洋史の専門文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「国民の境界」の観点から、近現代ヨーロッパ史の根幹とも言えるべき「国民社会」とその対立の歴史をユダヤ及びジェンダーを含むマイノリティの観点から掘り下げて議論することを目指す。

とくに20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、国民国家の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。また、受講生によるテーマ報告を最低一回は行ってもらう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論1)
- (3) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論2)
- (4) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界1)
- (7) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界2)
- (8) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ1)
- (11) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ2)
- (12) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語中級以上を習得済みであること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

Elisabeth Fraller/ George Langnas (Hg.), Mignon. Tagebücher und Briefe einer jüdischen Krankenschwester in Wien 1938-1949. Innsbruck/Wien/Bozen 2010; Doron Rabinovici, Instanzen der Ohnmacht. Wien 1938-1945. Der Weg zum Judenrat. Historische Studie, Frankfurt am Main 2000; Lisa Hauff, Zur politischen Rolle von Judenräten. Benjamin Murrelstein in Wien 1938-1942, Göttingen 2014; Kurt Bauer, Die dunklen Jahre. Politik und Alltag im nationalsozialistischen Österreich, 1938-1945. Frankfurt am Main 2017など。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション及びコメント返却を通して随時行う。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらうレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、外国語（とくにドイツ語）による西洋史の専門文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「国民の境界」の観点から、近現代ヨーロッパ史の根幹とも言えるべき「国民社会」とその対立の歴史をユダヤ及びジェンダーを含むマイノリティの観点から掘り下げて議論することを目指す。

とくに20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、国民国家の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。また、受講生によるテーマ報告を最低一回は行ってもらう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論1)
- (3) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論2)
- (4) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界1)
- (7) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界2)
- (8) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(境界3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ1)
- (11) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ2)
- (12) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語中級以上を習得済みであること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

Elisabeth Fraller/ George Langnas (Hg.), Mignon. Tagebücher und Briefe einer jüdischen Krankenschwester in Wien 1938-1949, Innsbruck/Wien/Bozen 2010; Doron Rabinovici, Instanzen der Ohnmacht. Wien 1938-1945. Der Weg zum Judenrat. Historische Studie, Frankfurt am Main 2000; Lisa Hauff, Zur politischen Rolle von Judenräten. Benjamin Murrelstein in Wien 1938-1942, Göttingen 2014; Kurt Bauer, Die dunklen Jahre. Politik und Alltag im nationalsozialistischen Österreich, 1938-1945, Frankfurt am Main 2017など。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション及びコメント返却を通して随時行う。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらうレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー: (AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅢA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	青谷 秀紀	

授業の概要・到達目標

中世末期、ヴァロワ・ブルゴーニュ公家はドイツとフランスの間に一大領域国家を形成する。公国はヴァロワ家四代の君主の死をもって崩壊するが、そこでは他地域に先駆けて華やかな宮廷文化が形成された。また、公家支配下のネーデルラント(現在のベルギー・オランダ地域)は当時のヨーロッパでもっとも都市化が進んだ地域であり、都市文化も大いに発展した。本講義では、これら宮廷文化と都市文化の発展を個別にたどるとともに、様々な儀礼や祝祭を題材にして両文化の接触と交流(そしてときに衝突)の諸相をも明らかにする。また、教会やギルド、兄弟団といった組織・社会集団を取りあげ、これらを結節点とする宮廷人と都市民の交流および社会的結合関係にも注目したい。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ブルゴーニュ公四代の歴史1
- 第3回 同上2
- 第4回 宮廷文化の開花 —騎士的理想と金羊毛騎士団—1
- 第5回 同上2
- 第6回 同上3
- 第7回 都市と祝祭 —プロセッションと競技会—1
- 第8回 同上2
- 第9回 同上3
- 第10回 文学・芸術と都市社会, 宮廷 —芸術の社会史—1
- 第11回 同上2
- 第12回 信仰と社会的結合 —教会と兄弟団—1
- 第13回 同上2
- 第14回 まとめ

履修上の注意

講義はパワーポイントを使用し、視聴覚的素材を利用しながら行う予定。授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらった場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に紹介する参考文献を講義の前後に読み、授業内容の理解を深めてほしい。

教科書

とくに使用しない。

参考書

授業時に紹介する。

成績評価の方法

平常点と定期試験に基づいて、総合的に評価を行う。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	青谷 秀紀	

授業の概要・到達目標

ブルゴーニュ公支配下のネーデルラントにおける政治文化を考察する。中世後期のヨーロッパでもっとも都市化が進んだこの地域を対象として、君主と都市、都市政府と市民の対立・友好関係のうちに確認できる彼らの政治的行動様式・思考様式の総体を明らかにするよう試みる。15世紀のネーデルラントが中心だが、比較的観点から考察し、歴史的展開を把握するために、14世紀のネーデルラントやイタリアにおける反乱もとりあげるつもりである。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 ブルゴーニュ期ネーデルラントの歴史概観1
- 第3回 同上2
- 第4回 ブルゴーニュ公の都市支配 ―フランドルとブラバントの比較―1
- 第5回 同上2
- 第6回 同上3
- 第7回 旗と雄弁、そして都市空間 ―都市反乱における政治集団の形成とそのメカニズム―1
- 第8回 同上2
- 第9回 同上3
- 第10回 政治的コミュニケーションの諸形態 ―儀礼と処罰―1
- 第11回 同上2
- 第12回 同上3
- 第13回 ハプスブルク支配への移行
- 第14回 まとめ

履修上の注意

講義はパワーポイントを使用し、視聴覚的素材を利用しながら行う予定。授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらおう場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に紹介する参考文献を講義の前後に読み、授業内容の理解を深めてほしい。

教科書

とくに使用しない。

参考書

授業時に紹介する。

成績評価の方法

平常点と定期試験に基づいて、総合的に評価を行う。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅢC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	青谷 秀紀	

授業の概要・到達目標

中世末期、ヴァロワ・ブルゴーニュ公家はドイツとフランスの間に一大領域国家を形成する。公国はヴァロワ家四代の君主の死をもって崩壊するが、そこでは他地域に先駆けて華やかな宮廷文化が形成された。また、公家支配下のネーデルラント(現在のベルギー・オランダ地域)は当時のヨーロッパでもっとも都市化が進んだ地域であり、都市文化も大いに発展した。本講義では、これら宮廷文化と都市文化の発展を個別にたどるとともに、様々な儀礼や祝祭を題材にして両文化の接触と交流(そしてときに衝突)の諸相をも明らかにする。また、教会やギルド、兄弟団といった組織・社会集団をとりあげ、これらを結節点とする宮廷人と都市民の交流および社会的結合関係にも注目したい。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 ブルゴーニュ公四代の歴史1
- 第3回 同上2
- 第4回 宮廷文化の開花 ―騎士的理想と金羊毛騎士団―1
- 第5回 同上2
- 第6回 同上3
- 第7回 都市と祝祭 ―プロセッションと競技会―1
- 第8回 同上2
- 第9回 同上3
- 第10回 文学・芸術と都市社会、宮廷 ―芸術の社会史―1
- 第11回 同上2
- 第12回 信仰と社会的結合 ―教会と兄弟団―1
- 第13回 同上2
- 第14回 まとめ

履修上の注意

講義はパワーポイントを使用し、視聴覚的素材を利用しながら行う予定。授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらおう場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に紹介する文献を講義の前後に読んで、授業内容の理解を深めてもらいたい。

教科書

とくに使用しない。

参考書

授業時に紹介する。

成績評価の方法

平常点と定期試験に基づいて、総合的に評価を行う。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅢD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	青谷 秀紀	

授業の概要・到達目標

ブルゴーニュ公支配下のネーデルラントにおける政治文化を考察する。中世後期のヨーロッパでもっとも都市化が進展したこの地域を対象として、君主と都市、都市政府と市民の対立・友好関係のうちに確認できる彼らの政治的行動様式・思考様式の総体を明らかにするよう試みる。15世紀のネーデルラントが中心だが、比較的観点から考察し、歴史的展開を把握するために、14世紀のネーデルラントやイタリアにおける反乱もとりあげるつもりである。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ブルゴーニュ期ネーデルラントの歴史概観1
- 第3回 同上2
- 第4回 ブルゴーニュ公の都市支配 ―フランドルとブラバントの比較―1
- 第5回 同上2
- 第6回 同上3
- 第7回 旗と雄弁、そして都市空間 ―都市反乱における政治集団の形成とそのメカニズム―1
- 第8回 同上2
- 第9回 同上3
- 第10回 政治的コミュニケーションの諸形態 ―儀礼と処罰―1
- 第11回 同上2
- 第12回 同上3
- 第13回 ハプスブルク支配への移行
- 第14回 まとめ

履修上の注意

講義はパワーポイントを使用し、視聴覚的素材を利用しながら行う予定。授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらう場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に紹介する参考文献を講義の前後に読み、授業内容の理解を深めてほしい。

教科書

とくに使用しない。

参考書

授業時に紹介する。

成績評価の方法

平常点と定期試験に基づいて、総合的に評価を行う。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅣA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	鰐淵 秀一	

授業の概要・到達目標

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。参加者は授業で取り上げる英語文献を毎週読み、数回に一度の報告を担当するとともに、関連する研究のレビューを提出することが求められる。英語文献を読みこなし、先行研究のマッピングや批判的読解といった歴史研究の基礎力を身につけることが目標となる。

授業内容

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。E. MorganやD. B. Davisの古典的研究から近年のenslaved peopleの主体性や反奴隷制運動に関する研究を批判的に検討し、今日どのようなアプローチから新たなアメリカ革命史像を描くことが可能になるのか模索する。

- (1) 授業の進め方と文献の紹介
- (2-14) 文献の輪読

履修上の注意

英語文献の読解をベースに授業を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎週30-50ページの英語文献をしっかり読むことが要求される。また、数回に一度レジюмеを作成し、授業中に報告することが求められる。期末には6000-8000字のレビューエッセイもしくはリサーチペーパーを提出する。

教科書

初回に指示する。

参考書

以下の文献を事前に読んでおくことが望ましい。

ブレンダ・スティーヴンソン、所 康弘訳『奴隷制の歴史』ちくま学芸文庫、2023年

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業中の報告に対するコメント
- ・ペーパーの添削

成績評価の方法

授業参加30%、報告30%、期末ペーパー 40%

その他

科目ナンバー: (AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅣB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	鰐淵 秀一	

授業の概要・到達目標

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。参加者は授業で取り上げる英語文献を毎週読み、数回に一度の報告を担当するとともに、関連する研究のレビューを提出することが求められる。英語文献を読みこなし、先行研究のマッピングや批判的読解といった歴史研究の基礎力を身につけることが目標となる。

授業内容

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。E. MorganやD. B. Davisの古典的研究から近年のenslaved peopleの主体性や反奴隷制運動に関する研究を批判的に検討し、今日どのようなアプローチから新たなアメリカ革命史像を描くことが可能になるのか模索する。

- (1) 授業の進め方と文献の紹介
- (2-14) 文献の輪読

履修上の注意

英語文献の読解をベースに授業を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎週30-50ページの英語文献をしっかり読むことが要求される。また、数回に一度レジюмеを作成し、授業中に報告することが求められる。期末には6000-8000字のレビューエッセイもしくはリサーチペーパーを提出する。

教科書

初回に指示する。

参考書

以下の文献を事前に読んでおくことが望ましい。

ブレンダ・スティーヴンソン、所 康弘訳『奴隷制の歴史』ちくま学芸文庫、2023年

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業中の報告に対するコメント
- ・ペーパーの添削

成績評価の方法

授業参加30%、報告30%、期末ペーパー 40%

その他

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅣC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	鰐淵 秀一	

授業の概要・到達目標

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。参加者は授業で取り上げる英語文献を毎週読み、数回に一度の報告を担当するとともに、関連する研究のレビューを提出することが求められる。英語文献を読みこなし、先行研究のマッピングや批判的読解といった歴史研究の基礎力を身につけることが目標となる。

授業内容

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。E. MorganやD. B. Davisの古典的研究から近年のenslaved peopleの主体性や反奴隷制運動に関する研究を批判的に検討し、今日どのようなアプローチから新たなアメリカ革命史像を描くことが可能になるのか模索する。

- (1) 授業の進め方と文献の紹介
- (2-14) 文献の輪読

履修上の注意

英語文献の読解をベースに授業を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎週30-50ページの英語文献をしっかり読むことが要求される。また、数回に一度レジюмеを作成し、授業中に報告することが求められる。期末には6000-8000字のレビューエッセイもしくはリサーチペーパーを提出する。

教科書

初回に指示する。

参考書

以下の文献を事前に読んでおくことが望ましい。

ブレンダ・スティーヴンソン、所 康弘訳『奴隷制の歴史』ちくま学芸文庫、2023年

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業中の報告に対するコメント
- ・ペーパーの添削

成績評価の方法

授業参加30%、報告30%、期末ペーパー 40%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅣD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	鰐淵 秀一	

授業の概要・到達目標

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。参加者は授業で取り上げる英語文献を毎週読み、数回に一度の報告を担当するとともに、関連する研究のレビューを提出することが求められる。英語文献を読みこなし、先行研究のマッピングや批判的読解といった歴史研究の基礎力を身につけることが目標となる。

授業内容

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。E. MorganやD. B. Davisの古典的研究から近年のenslaved peopleの主体性や反奴隷制運動に関する研究を批判的に検討し、今日どのようなアプローチから新たなアメリカ革命史像を描くことが可能になるのか模索する。

- (1) 授業の進め方と文献の紹介
- (2-14) 文献の輪読

履修上の注意

英語文献の読解をベースに授業を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎週30-50ページの英語文献をしっかり読むことが要求される。また、数回に一度レジюмеを作成し、授業中に報告することが求められる。期末には6000-8000字のレビューエッセイもしくはリサーチペーパーを提出する。

教科書

初回に指示する。

参考書

以下の文献を事前に読んでおくことが望ましい。

ブレンダ・スティーヴンソン、所 康弘訳『奴隷制の歴史』ちくま学芸文庫、2023年

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業中の報告に対するコメント
- ・ペーパーの添削

成績評価の方法

授業参加30%、報告30%、期末ペーパー 40%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究VA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	豊川 浩一	

授業の概要・到達目標

近代ロシアの国家と社会について、その歴史的な歩みを考えることによって、理解と分析能力を高めることを目標としている。そのための文献講読と発表が中心となる。

授業内容

近代ロシアの国家と社会について考察する。時代的には18世紀から20世紀初頭までを見通しながら、近代ロシアの特質を考えようとするものである。

講義では、近代ロシアの国制に関する研究文献（ロシア語ないしは英語）を読みながら問題点を探り出し、それについて受講者と一緒に考える。演習では、近代ロシアの社会の動向に注目して、それに関連する史料あるいは最新の研究（ロシア語ないしは英語）を読む。また、参加者自身の研究に沿った報告も行ってもらう予定である。なお、具体的なテキスト（史料・文献）や授業の進め方については受講者との話し合いの上で決める。以下は授業の進め方である。
 (1・2) 導入: 授業の方針について受講者と討議する。
 (3～14) 講読と報告

履修上の注意

受講者は毎回出席を原則とし、かつ授業への積極的参加が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

今回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

上に記したように、授業の初回に受講者との話し合いの上決定する。

参考書

テキストを決めた後、受講者と相談して決める。その際、受講者自身も授業に沿って何を読むべきか考え、その参考文献一覧表を作成する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、前回の授業内容と課題についてのフィードバックを口頭で行う。

成績評価の方法

毎回の授業への積極的参加の度合いによって判断する(100%)。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究VB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	豊川 浩一	

授業の概要・到達目標

近代ロシアの国家と社会について、その歴史的な歩みを考えることによって、理解と分析能力を高めることを目標としている。そのための文献講読と発表が中心となる。

授業内容

近代ロシアの国家と社会について考察する。時代的には18世紀から20世紀初頭までを見通しながら、近代ロシアの特質を考えようとするものである。

講義では、近代ロシアの国制に関する研究文献（ロシア語ないしは英語）を読みながら問題点を探り出し、それについて受講者と一緒に考える。演習では、近代ロシアの社会の動向に注目して、それに関連する史料あるいは最新の研究（ロシア語ないしは英語）を読む。また、参加者自身の研究に沿った報告も行ってもらう予定である。なお、具体的なテキスト（史料・文献）や授業の進め方については受講者との話し合いの上で決める。以下は授業の進め方である。
 (1・2) 導入：授業の方針について受講者と討議する。
 (3～14) 講読と報告

履修上の注意

受講者は毎回出席を原則とし、かつ授業への積極的参加が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

上に記したように、授業の初回に受講者との話し合いの上決定する。

参考書

テキストを決めた後、受講者と相談して決める。その際、受講者自身も授業に沿って何を読むべきか考え、その参考文献一覧表を作成する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、前回の授業内容と課題についてのフィードバックを口頭で行う。

成績評価の方法

毎回の授業への積極的参加の度合いによって判断する(100%)。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究VC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	豊川 浩一	

授業の概要・到達目標

近代ロシアの国家と社会について、その歴史的な歩みを考えることによって、理解と分析能力を高めることを目標としている。そのための文献講読と発表が中心となる。

授業内容

近代ロシアの国家と社会について考察する。時代的には18世紀から20世紀初頭までを見通しながら、近代ロシアの特質を考えようとするものである。

講義では、近代ロシアの国制に関する研究文献（ロシア語ないしは英語）を読みながら問題点を探り出し、それについて受講者と一緒に考える。演習では、近代ロシアの社会の動向に注目して、それに関連する史料あるいは最新の研究（ロシア語ないしは英語）を読む。また、参加者自身の研究に沿った報告も行ってもらう予定である。なお、具体的なテキスト（史料・文献）や授業の進め方については受講者との話し合いの上で決める。以下は授業の進め方である。
 (1・2) 導入：授業の方針について受講者と討議する。
 (3～14) 講読と報告

履修上の注意

受講者は毎回出席を原則とし、かつ授業への積極的参加が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

上に記したように、授業の初回に受講者との話し合いの上決定する。

参考書

テキストを決めた後、受講者と相談して決める。その際、受講者自身も授業に沿って何を読むべきか考え、その参考文献一覧表を作成する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、前回の授業内容と課題についてのフィードバックを口頭で行う。

成績評価の方法

毎回の授業への積極的参加の度合いによって判断する(100%)。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究VD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	豊川 浩一	

授業の概要・到達目標

近代ロシアの国家と社会について、その歴史的な歩みを考えることによって、理解と分析能力を高めることを目標としている。そのための文献講読と発表が中心となる。

授業内容

近代ロシアの国家と社会について考察する。時代的には18世紀から20世紀初頭までを見通しながら、近代ロシアの特質を考えようとするものである。

講義では、近代ロシアの国制に関する研究文献(ロシア語ないしは英語)を読みながら問題点を探り出し、それについて受講者と一緒に考える。演習では、近代ロシアの社会の動向に注目して、それに関連する史料あるいは最新の研究(ロシア語ないしは英語)を読む。また、参加者自身の研究に沿った報告も行ってもらう予定である。なお、具体的なテキスト(史料・文献)や授業の進め方については受講者との話し合いの上で決める。以下は授業の進め方である。(1・2)導入:授業の方針について受講者と討議する。(3～14)講読と報告

履修上の注意

受講者は毎回出席を原則とし、かつ授業への積極的参加が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

上に記したように、授業の初回に受講者との話し合いの上決定する。

参考書

テキストを決めた後、受講者と相談して決める。その際、受講者自身も授業に沿って何を読むべきか考え、その参考文献一覧表を作成する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、前回の授業内容と課題についてのフィードバックを口頭で行う。

成績評価の方法

毎回の授業への積極的参加の度合いによって判断する(100%)。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻	備考		
科目名	考古学研究IA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授	石川 日出志	

授業の概要・到達目標

〈弥生時代研究の基本問題〉

弥生時代研究の基本的事項について、これまでの研究の歴史と現状を、課題別に整理して、講義する。その組み立ては以下の通り。

授業内容

- 第1回：学史①:弥生式土器研究の幕開け
- 第2回：学史②:弥生時代観の構築
- 第3回：学史③:戦後の弥生時代研究
- 第4回：編年論①:大別と広域編年
- 第5回：編年論②:土器様式論
- 第6回：実年代論①:中国鏡と洛陽焼溝漢墓の編年研究
- 第7回：実年代論②:弥生時代の漢鏡と年代論
- 第8回：実年代論③:漢鏡によらない弥生時代年代論
- 第9回：青銅器論①:弥生時代の青銅器概論
- 第10回：青銅器論②:朝鮮半島青銅器文化
- 第11回：青銅器論③:朝鮮半島と北部九州・西日本の青銅器
- 第12回：青銅器論④:銅鐸の型式学と埋納論
- 第13回：鉄器論:鉄器の採用と普及
- 第14回：墓制論:朝鮮半島と弥生墓制

履修上の注意

各講義内容にかかわる概括的な文献を事前に提示するので、事前学習して質疑に活かすこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

各テーマに関する論文を事前に配布するので、十分に読解して臨むこと。

教科書

テキストは用いない。各講義内容にかかわる概括的な文献を事前に提示するので、事前学習して質疑に活かすこと。

参考書

毎回、関係文献を提示する。

成績評価の方法

質疑内容(50%)・課題レポート(50%)の評価による。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 石川 日出志		

授業の概要・到達目標

〈弥生時代の各地域における諸問題〉
 いくつかの地域を取り上げて、弥生時代の主要遺跡やそれらから浮かび上がる問題点について講じる。

授業内容

- 第1回：北部九州①：弥生早・前期の諸遺跡・諸問題
- 第2回：北部九州②：弥生中・後期の諸遺跡・諸問題
- 第3回：中国地方①：関門地域の諸遺跡・諸問題
- 第4回：中国地方②：山陽・山陰地域の諸遺跡・諸問題
- 第5回：近畿①：畿内地域の諸遺跡・諸問題
- 第6回：近畿②：北近畿の諸遺跡・諸問題
- 第7回：北陸①：弥生前・中期の諸遺跡・諸問題
- 第8回：北陸②：弥生後期の諸遺跡・諸問題
- 第9回：東海①：濃尾平野の諸遺跡・諸問題
- 第10回：東海②：静岡県域の諸遺跡・諸問題
- 第11回：中部高地：弥生時代の諸遺跡・諸問題
- 第12回：関東①：南関東の諸遺跡・諸問題
- 第13回：関東②：北関東の諸遺跡・諸問題
- 第14回：東北：東北の諸遺跡・諸問題

履修上の注意

各講義内容にかかわる概括的な文献を事前に提示するので、事前学習して質疑に活かすこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各テーマに関する論文を事前に配布する。

教科書

テキストは用いない。各講義内容にかかわる概括的な文献を事前に提示するので、事前学習して質疑に活かすこと。

参考書

毎回、関係文献を提示する。

成績評価の方法

質疑内容(50%)・課題レポート(50%)の評価による。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 石川 日出志		

授業の概要・到達目標

〈弥生時代研究の基本問題〉
 弥生時代研究の基本的事項について、これまでの研究の歴史と現状を、課題別に整理して、講義する。
 その組み立ては以下の通り。

授業内容

- 第1回：学史①：弥生式土器研究の幕開け
- 第2回：学史②：弥生時代観の構築
- 第3回：学史③：戦後の弥生時代研究
- 第4回：編年論①：大別と広域編年
- 第5回：編年論②：土器様式論
- 第6回：実年代論①：中国鏡と洛陽焼溝漢墓の編年研究
- 第7回：実年代論②：弥生時代の漢鏡と年代論
- 第8回：実年代論③：漢鏡によらない弥生時代年代論
- 第9回：青銅器論①：弥生時代の青銅器概論
- 第10回：青銅器論②：朝鮮半島青銅器文化
- 第11回：青銅器論③：朝鮮半島と北部九州・西日本の青銅器
- 第12回：青銅器論④：銅鐸の型式学と埋納論
- 第13回：鉄器論：鉄器の採用と普及
- 第14回：墓制論：朝鮮半島と弥生墓制

履修上の注意

各講義内容にかかわる概括的な文献を事前に提示するので、事前学習して質疑に活かすこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各テーマに関する論文を事前に配布するので、十分に読解して臨むこと。

教科書

テキストは用いない。各講義内容にかかわる概括的な文献を事前に提示するので、事前学習して質疑に活かすこと。

参考書

毎回、関係文献を提示する。

成績評価の方法

質疑内容(50%)・課題レポート(50%)の評価による。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅠD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 石川 日出志		

授業の概要・到達目標

〈弥生時代の各地域における諸問題〉
いくつかの地域を取り上げて、弥生時代の主要遺跡やそれらから浮かび上がる問題点について講じる。

授業内容

- 第1回：北部九州①：弥生早・前期の諸遺跡・諸問題
- 第2回：北部九州②：弥生中・後期の諸遺跡・諸問題
- 第3回：中国地方①：関門地域の諸遺跡・諸問題
- 第4回：中国地方②：山陽・山陰地域の諸遺跡・諸問題
- 第5回：近畿①：畿内地域の諸遺跡・諸問題
- 第6回：近畿②：北近畿の諸遺跡・諸問題
- 第7回：北陸①：弥生前・中期の諸遺跡・諸問題
- 第8回：北陸②：弥生後期の諸遺跡・諸問題
- 第9回：東海①：濃尾平野の諸遺跡・諸問題
- 第10回：東海②：静岡県域の諸遺跡・諸問題
- 第11回：中部高地：弥生時代の諸遺跡・諸問題
- 第12回：関東①：南関東の諸遺跡・諸問題
- 第13回：関東②：北関東の諸遺跡・諸問題
- 第14回：東北：東北の諸遺跡・諸問題

履修上の注意

各講義内容にかかわる概括的な文献を事前に提示するので、事前学習して質疑に活かすこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各テーマに関する論文を事前に配布する。

教科書

テキストは用いない。各講義内容にかかわる概括的な文献を事前に提示するので、事前学習して質疑に活かすこと。

参考書

毎回、関係文献を提示する。

成績評価の方法

質疑内容(50%)・課題レポート(50%)の評価による。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学) 阿部 芳郎		

授業の概要・到達目標

本科目は先史時代の研究の現状を理解し、自らの研究について年間で達成できる具体的なテーマを設定し、論文の作成を通じて相互に議論することで授業を構成する。また議論の過程で学生の興味に応じた事象やテーマについても適宜取り上げて研究の目的意識を高めることを目標とする。

授業内容

授業は以下のテーマに従い、進める。

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 専門とする時代の基礎認識の確認
- 第3回 研究テーマの提示
- 第4回 研究テーマの先行研究の確認
- 第5回 学史的な問題の研究法についての相談
- 第6回 学史的な関連研究の探索
- 第7回 分析テーマの学史的な位置の報告
- 第8回 分析試料の観察方法の確立
- 第9回 資料集成方法の相談
- 第10回 資料の試分析の結果報告
- 第11回 分析方法と研究目的の確認
- 第12回 研究の学術的意義の報告と相談
- 第13回 論文作成計画の最終確認
- 第14回 研究構想の発表

履修上の注意

毎回の授業の成果を各自の研究の目的と方法の中に位置づけて図式化できるように心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に課題として提示した論文や資料については、かならず読解・予習をおこない発表用のレジюмеやパワーポイントを作成しておくこと。

教科書

特にない。

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

第2回目以降、毎回の授業のはじめに、前回授業に対する質問や意見を取り上げてコメントし、毎回の授業の連続性を意識できるように配慮する。

成績評価の方法

成績は授業における各発表内容・毎回の授業態度と出席により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	阿部 芳郎	

授業の概要・到達目標

本科目は先史時代の研究の現状を理解し、自らの研究について年間で達成できる具体的なテーマを設定し、論文の作成を通じて相互に議論することで授業を構成する。また議論の過程で学生の興味に応じた事象やテーマについても適宜取り上げて研究の目的意識を高めることを目標とする。

授業内容

授業は以下のテーマに従い、進める。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 専門とする時代の基礎認識の確認
- 第3回 研究テーマの設定と相談
- 第4回 研究テーマの先行研究の確認
- 第5回 分析対象資料の観察方法の確認
- 第6回 資料集成的方法の相談
- 第7回 予測される結論についての討議
- 第8回 資料分析の結果報告
- 第9回 課題の修正に関わる相談
- 第10回 論文作成計画の最終確認
- 第11回 分析結果の報告
- 第12回 課題の確認
- 第13回 修正案の提示
- 第14回 論文の構想の発表

履修上の注意

毎回の授業の成果を各自の研究の目的と方法の中に位置づけて図式化できるように心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に課題として提示した論文や資料については、かならず読解・予習をおこない発表用のレジюмеやパワーポイントを作成しておくこと。

教科書

特にない。

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

第2回目以降、毎回の授業のはじめに、前回授業に対する質問や意見を取り上げてコメントし、毎回の授業の連続性を意識できるように配慮する。

成績評価の方法

成績は授業における各発表内容・毎回の授業態度と出席により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅡC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	阿部 芳郎	

授業の概要・到達目標

本科目は縄文時代の研究の現状を理解し、自らの研究に应用するための基礎的な内容についてテーマを設定し、相互に議論することを中心に授業を構成する。また議論の過程で学生の興味に応じた事象やテーマについても適宜取り上げて縄文文化研究の目的意識を高めることを目標とする。

授業内容

授業は以下のテーマに従い、進める。

- 第1回 縄文時代の道具に関する研究 型式学 1
- 第2回 縄文時代の道具に関する研究 型式学 2
- 第3回 縄文時代の道具に関する研究 型式学 3
- 第4回 縄文時代の道具に関する研究 型式学 4
- 第5回 縄文時代の道具に関する研究 型式学 5
- 第6回 縄文時代の道具に関する研究 型式学 6
- 第7回 縄文時代の道具に関する研究 土器製作
- 第8回 縄文時代の道具に関する研究 土器製作
- 第9回 縄文時代の道具に関する研究 土器製作
- 第10回 縄文時代の道具に関する研究 石器製作
- 第11回 縄文時代の社会に関する研究 石器製作
- 第12回 縄文時代の社会に関する研究 石器製作
- 第13回 縄文時代の社会に関する研究 骨角器製作
- 第14回 縄文時代の社会に関する研究 骨角器製作

履修上の注意

毎回具体的な研究事例を提示するので、各研究の目的と方法、結論を図式化して理解できるように心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に課題として提示した論文や資料については、かならず読解・予習をおこない発表用のレジюмеやパワーポイントを作成しておくこと。

教科書

特にない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する理解度と課題点は次回授業のはじめに取り上げて説明を加え、毎回の授業の連続性と理解が深められるように配慮する。

成績評価の方法

成績は授業における各発表内容・作成レジюмеの完成度・毎回の授業態度

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻	備考		
科目名	考古学研究ⅡD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	阿部 芳郎	

授業の概要・到達目標

基本的には修士論文であつかう資料の方法論の検討と基礎的な資料の蓄積に目標をおく。

授業内容

第1回～第14回 研究計画の策定方法と展開

授業では個人のテーマを主題にした発表をおこなう。そして先行研究の学史的な検討をおこないながら課題を整理し、研究を拡張する方向性について議論する。基本的には自身があつかう資料の分析事例を論文形式でまとめるが、学会誌などへの投稿も視野に入れた論文作成をおこなう。こうした研究は春学期から継続するものであるが、その過程で生まれてきた共通の課題や受講生が関連する共通の話題を議論のテーマとする授業をおこなうこともある。

授業は以下のテーマに従い、進める。

- 第1回 縄文時代の道具に関する研究 貝器製作1
- 第2回 縄文時代の道具に関する研究 貝器製作2
- 第3回 縄文時代の道具に関する研究 貝器製作3
- 第4回 縄文時代の道具に関する研究 遺構研究1
- 第5回 縄文時代の道具に関する研究 遺構研究2
- 第6回 縄文時代の道具に関する研究 遺構研究3
- 第7回 縄文時代の道具に関する研究 貝塚研究1
- 第8回 縄文時代の道具に関する研究 貝塚研究2
- 第9回 縄文時代の道具に関する研究 貝塚研究3
- 第10回 縄文時代の道具に関する研究 貝塚研究4
- 第11回 縄文時代の社会に関する研究 集落研究1
- 第12回 縄文時代の社会に関する研究 集落研究2
- 第13回 縄文時代の社会に関する研究 資源利用史研究1
- 第14回 縄文時代の社会に関する研究 資源利用史研究2

履修上の注意

大学院での研究はゼロからはじまるのではなく、すでに卒業論文の作成によってスタートしているものと考えること。そのためには、一度提出した論文を再検討し、自らの課題を見出すことが必要である。また、演習における個人発表と議論を通じて、自分の考え方や論理の展開を第3者に伝える技術を習得してほしい。春学期・秋学期を通じて、ほぼ各週で発表をおこなうスタイルで授業をおこなう。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業範囲にかかわる関連・先行研究について、把握しておくこと。

教科書

特には指定しないが、必要に応じてプリント・関連資料を作成・配布する。

参考書

特には指定しないが、必要に応じて紹介する。

成績評価の方法

成績評価は授業への貢献度と、授業における議論への参加態度によっておこなう。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻	備考		
科目名	考古学研究ⅢA		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 Ph.D.	佐々木 憲一	

授業の概要・到達目標

関東の古墳文化を詳しく検討することを目的とする。特に、畿内にはない、関東の特質を抽出し、関東在地豪族が中央の王権からは自律的に動いていた可能性を探る。

授業内容

- 第1回 様々な国家形成論：部族同盟論、首長同盟論、初期国家論
- 第2回 上野の古墳時代前・中期
- 第3回 上野の古墳時代後期
- 第4回 下野の古墳時代前・中期
- 第5回 下野の古墳時代後期
- 第6回 常陸の古墳時代前・中期
- 第7回 常陸の古墳時代後期(1)
- 第8回 常陸の古墳時代後期(2)
- 第9回 房総半島の古墳時代前・中期
- 第10回 房総半島の古墳時代後期
- 第11回 武蔵の古墳時代前・中期
- 第12回 武蔵の古墳時代後期
- 第13回 相模の古墳時代
- 第14回 総括：在地豪族の主体性・自律性

履修上の注意

講義・演習を同時に履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

考古学実習室でできる限り時間を過ごして、ナマの考古資料に触れる時間を意識して確保すること。

教科書

特になし

参考書

毎回紹介する。

成績評価の方法

レポート100%

その他

考古学研究ⅢCと合同で行う。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 Ph.D.	佐々木 憲一	

授業の概要・到達目標

修士論文作成に向けて、古墳時代考古学の方法論や理論的枠組みを改めて学ぶ。2年生は修士論文の進捗状況を、1年生は修士論文のテーマに関係のある論文や発掘調査報告書を選んで、その内容を発表する。

授業内容

- 第1回：古墳時代考古学の枠組み
- 第2回：墳丘の研究(1)
- 第3回：墳丘の研究(2)
- 第4回：墳丘の研究(3)
- 第5回：埋葬施設の研究(1)
- 第6回：埋葬施設の研究(2)
- 第7回：埋葬施設の研究(3)
- 第8回：青銅鏡の研究(1)
- 第9回：青銅鏡の研究(2)
- 第10回：鉄製武具の研究(1)
- 第11回：鉄製武具の研究(2)
- 第12回：馬具の研究(1)
- 第13回：馬具の研究(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

授業は演習形式で進められる。つまり、参加者が毎週レジメを準備して、発表すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表があたっていないとも、課せられた箇所は精読して授業に臨むこと。

教科書**参考書**

適宜紹介する。

成績評価の方法

毎回の発表レジメに基づく。

その他

考古学研究ⅢDと合同で行う。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅢC		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 Ph.D.	佐々木 憲一	

授業の概要・到達目標

関東の古墳文化を詳しく検討することを目的とする。特に、畿内にはない、関東の特質を抽出し、関東在地豪族が中央の王権からは自律的に動いていた可能性を探る。

授業内容

- 第1回 様々な国家形成論：部族同盟論、首長同盟論、初期国家論
- 第2回 上野の古墳時代前・中期
- 第3回 上野の古墳時代後期
- 第4回 下野の古墳時代前・中期
- 第5回 下野の古墳時代後期
- 第6回 常陸の古墳時代前・中期
- 第7回 常陸の古墳時代後期(1)
- 第8回 常陸の古墳時代後期(2)
- 第9回 房総半島の古墳時代前・中期
- 第10回 房総半島の古墳時代後期
- 第11回 武蔵の古墳時代前・中期
- 第12回 武蔵の古墳時代後期
- 第13回 相模の古墳時代
- 第14回 総括：在地豪族の主体性・自律性

履修上の注意

講義・演習を同時に履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

考古学実習室でナマの考古資料に触れる時間をできるだけ確保すること。

教科書

特になし

参考書

毎回紹介する。

成績評価の方法

レポート100%

その他

考古学研究ⅢAと合同で行う。

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅢD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 Ph.D.	佐々木 憲一	

授業の概要・到達目標

修士論文作成に向けて、古墳時代考古学の方法論や理論的枠組みを改めて学ぶ。2年生は修士論文の進捗状況を、1年生は修士論文のテーマに関係のある論文・発掘調査報告書を選んで、その内容を発表する。

授業内容

- 第1回：古墳時代考古学の枠組み
- 第2回：墳丘の研究(1)
- 第3回：墳丘の研究(2)
- 第4回：墳丘の研究(3)
- 第5回：埋葬施設の研究(1)
- 第6回：埋葬施設の研究(2)
- 第7回：埋葬施設の研究(3)
- 第8回：青銅鏡の研究(1)
- 第9回：青銅鏡の研究(2)
- 第10回：鉄製武具の研究(1)
- 第11回：鉄製武具の研究(2)
- 第12回：馬具の研究(1)
- 第13回：馬具の研究(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

授業は演習形式で進められる。つまり、参加者が毎週レジメを準備して、発表すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表があたっていない場合、課せられた箇所は精読して授業に臨むこと。

教科書

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法

毎回の発表レジメに基づく。

その他

考古学研究ⅢBと合同で行う。

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅣA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学)	藤山 龍造	

授業の概要・到達目標

先史考古学の諸問題と題して、研究の現状と課題を整理する。日本列島の旧石器時代(先土器時代)と縄文時代を中心に取り上げるが、必要に応じて海外の事例などへ目を向け、幅広い視野のもとに日本列島の先史時代を思考する予定である。

授業内容

- 第1回：総論
- 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
- 第14回：総括

履修上の注意

講義形式の授業であるが、受講生との意見交換を重視する。事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで講義に臨むこと。なお、受講生の興味関心に応じて、講義内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回のテーマに関して、あらかじめ課題を提示するため、入念な事前学習を求めたい。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢(50%)と課題レポート(50%)により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IVB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

先史考古学の諸問題と題して、研究の現状と課題を整理する。日本列島の旧石器時代(先土器時代)と縄文時代を中心に取り上げるが、必要に応じて海外の事例などへ目を向け、幅広い視野のもとに日本列島の先史時代を思考する予定である。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
 第14回：総括

履修上の注意

講義形式の授業であるが、受講生との意見交換を重視する。事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで講義に臨むこと。なお、受講生の興味関心に応じて、講義内容を調整することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回のテーマに関して、あらかじめ課題を提示するため、入念な事前学習を求めたい。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢(50%)と課題レポート(50%)により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IVC		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

先史考古学の諸問題と題して、研究の現状と課題を整理する。日本列島の旧石器時代(先土器時代)と縄文時代を中心に取り上げるが、必要に応じて海外の事例などへ目を向け、幅広い視野のもとに日本列島の先史時代を思考する予定である。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
 第14回：総括

履修上の注意

講義形式の授業であるが、受講生との意見交換を重視する。事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで講義に臨むこと。なお、受講生の興味関心に応じて、講義内容を調整することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回のテーマに関して、あらかじめ課題を提示するため、入念な事前学習を求めたい。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢(50%)と課題レポート(50%)により評価する。

その他

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IVD		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学)	藤山 龍造	

授業の概要・到達目標

先史考古学の諸問題と題して、研究の現状と課題を整理する。日本列島の旧石器時代(先土器時代)と縄文時代を中心に取り上げるが、必要に応じて海外の事例などへ目を向け、幅広い視野のもとに日本列島の先史時代を思考する予定である。

授業内容

第1回：総論
第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
第14回：総括

履修上の注意

講義形式の授業であるが、受講生との意見交換を重視する。事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで講義に臨むこと。なお、受講生の興味関心に応じて、講義内容を調整することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回のテーマに関して、あらかじめ課題を提示するため、入念な事前学習を求めたい。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢(50%)と課題レポート(50%)により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IVA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学)	藤山 龍造	

授業の概要・到達目標

大学院生による個人研究の深化を目標とする。関連文献の精読と討議を通じて、研究の現状と課題を把握し、同時に解決策を模索する。また、個人研究の成果発表と意見交換、さらには実際の資料操作を通じて、学外に向けた研究発表や論文作成を支援する。資料操作や成果発表の技法を含めて、研究者としての基盤を確立できるよう配慮したい。

授業内容

第1回：総論
第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
第14回：総括

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで臨むこと。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

成績評価の方法

研究発表の内容によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IVB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

大学院生による個人研究の深化を目標とする。関連文献の精読と討議を通じて、研究の現状と課題を把握し、同時に解決策を模索する。また、個人研究の成果発表と意見交換、さらには実際の資料操作を通じて、学外に向けた研究発表や論文作成を支援する。資料操作や成果発表の技法を含めて、研究者としての基盤を確立できるよう配慮したい。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
 第14回：総括

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで臨むこと。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

成績評価の方法

研究発表の内容によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

大学院生による個人研究の深化を目標とする。関連文献の精読と討議を通じて、研究の現状と課題を把握し、同時に解決策を模索する。また、個人研究の成果発表と意見交換、さらには実際の資料操作を通じて、学外に向けた研究発表や論文作成を支援する。資料操作や成果発表の技法を含めて、研究者としての基盤を確立できるよう配慮したい。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
 第14回：総括

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで臨むこと。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

成績評価の方法

研究発表の内容によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IVD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学)	藤山 龍造	

授業の概要・到達目標

大学院生による個人研究の深化を目標とする。関連文献の精読と討議を通じて、研究の現状と課題を把握し、同時に解決策を模索する。また、個人研究の成果発表と意見交換、さらには実際の資料操作を通じて、学外に向けた研究発表や論文作成を支援する。資料操作や成果発表の技法を含めて、研究者としての基盤を確立できるよう配慮したい。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
 第14回：総括

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで臨むこと。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

成績評価の方法

研究発表の内容によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究VA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、その現状と課題を整理する。
 あわせて、最新動向や担当教員の研究実践を取り上げる。必要に応じて朝鮮半島の事例などにも目を向ける。討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。
 また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する
 第14回：総括

履修上の注意

講義形式を基本とするが、受講生の積極的な授業参加を求める。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

若狭徹2017『前方後円墳と東国社会』吉川弘文館 ISBN 9784642068185
 若狭徹2021『古墳時代東国の地域経営』吉川弘文館 ISBN 9784642093613

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館見学や遺跡現地の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究VB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、その現状と課題を整理する。
あわせて、最新動向や担当教員の研究実践を取り上げる。必要に応じて朝鮮半島の事例などにも目を向ける。討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。
また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論
第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する
第14回：総括

履修上の注意

講義形式を基本とするが、受講生の積極的な授業参加を求める。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

若狭徹2017『前方後円墳と東国社会』吉川弘文館 ISBN 9784642068185
若狭徹2021『古墳時代東国の地域経営』吉川弘文館 ISBN 9784642093613

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館見学や遺跡現地の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究VC		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、その現状と課題を整理する。
あわせて、最新動向や担当教員の研究実践を取り上げる。必要に応じて朝鮮半島の事例などにも目を向ける。討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。
また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論
第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する
第14回：総括

履修上の注意

講義形式を基本とするが、受講生の積極的な授業参加を求める。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

若狭徹2017『前方後円墳と東国社会』吉川弘文館 ISBN 9784642068185
若狭徹2021『古墳時代東国の地域経営』吉川弘文館 ISBN 9784642093613

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館見学や遺跡現地の交通費などの経費は自己負担である。

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究VD		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、その現状と課題を整理する。

あわせて、最新動向や担当教員の研究実践を取り上げる。必要に応じて朝鮮半島の事例などにも目を向ける。討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。

また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論

第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する

第14回：総括

履修上の注意

講義形式を基本とするが、受講生の積極的な授業参加を求める。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

若狭徹2017『前方後円墳と東国社会』吉川弘文館 ISBN 9784642068185

若狭徹2021『古墳時代東国の地域経営』吉川弘文館 ISBN 9784642093613

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館見学や遺跡現地見学の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究VA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、学史や最新動向を踏まえつつ、履修生の研究課題解決のための演習を行う。発表、討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論

第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する

第14回：総括

履修上の注意

演習形式を基本とし、教員と受講生、受講生間の討議により研究課題の深化を諮る。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館・遺跡現地見学の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究VB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、学史や最新動向を踏まえつつ、履修生の研究課題解決のための演習を行う。発表、討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する
 第14回：総括

履修上の注意

演習形式を基本とし、教員と受講生、受講生間の討議により研究課題の深化を諮る。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館・遺跡現地見学の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究VC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、学史や最新動向を踏まえつつ、履修生の研究課題解決のための演習を行う。発表、討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する
 第14回：総括

履修上の注意

演習形式を基本とし、教員と受講生、受講生間の討議により研究課題の深化を諮る。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館・遺跡現地見学の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究VD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、学史や最新動向を踏まえつつ、履修生の研究課題解決のための演習を行う。発表、討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

- 第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する
 第14回：総括

履修上の注意

演習形式を基本とし、教員と受講生、受講生間の討議により研究課題の深化を諮る。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館・遺跡現地見学の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史特論I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	久留島 典子	

授業の概要・到達目標

本授業では日本中世の基本史料を取り上げ、その読解をしながら日本中世の社会のあり方について考えます。到達目標は下記の3点です。1)日本中世史料の内容・特色についての理解、2)日本中世史料に関する専門的読解力、3)史料をもとに日本中世社会の特質を考察する能力。具体的な史料としては、東寺百合文書中の僧侶組織の会議事録である「鎮守八幡宮評定引付」を取り上げて、順番に読み進めていきますが、この史料講読のなかで関連史料・参考文献も参照しつつ、日本中世社会の特質について考察します。春学期は永享2年(1430)年夏から始めます。授業計画は下記のとおりですが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もあります。

授業内容

授業計画は下記のとおりです。

- 第1回 ガイダンス1（授業形態と報告日程等の相談・決定）
 第2回 ガイダンス2「東寺関係史料のなかの『評定引付』」
 第3回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(1)
 第4回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(2)
 第5回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(3)
 第6回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(4)
 第7回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(5)
 第8回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(6)
 第9回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(7)
 第10回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(8)
 第11回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(9)
 第12回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(10)
 第13回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(11)
 第14回 総括

履修上の注意

毎回報告者を定め輪読形式で読み進めていきますので、報告者は必ずテキストの担当部分の読み、解釈、関係文書、問題点等に関するレジュメを作成し発表してください。なお授業形態の詳細は、履修者数に応じて、相談のうえ決定します。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告者はもちろん、それ以外の受講生も、必ずテキストを読み、自身の疑問点等を整理して、授業のデスクッションに臨むようにしてください。

教科書

京都府立京都学・歴史館が公開している東寺百合文書WEB (<https://hyakugo.pref.kyoto.lg.jp/>) 中の「東寺鎮守八幡宮評定引付」(東寺百合文書ワ函44～)をダウンロードしてテキストとします。

参考書

授業中に適宜紹介しますが、上記、東寺百合文書WEBが参考資料の中心です。

成績評価の方法

報告内容および授業中のデスクッションへの参加状況などを総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史特論I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 久留島 典子		

授業の概要・到達目標

本授業では日本中世の基本史料を取り上げ、その読解をしながら日本中世の社会のあり方について考えます。到達目標は下記の3点です。1) 日本中世史料の内容・特色についての理解、2) 日本中世史料に関する専門的読解力、3) 史料をもとに日本中世社会の特質を考察する能力。具体的な史料としては、東寺百合文書中の僧侶組織の会議議事録である「鎮守八幡宮評定引付」を取り上げて、順番に読み進めていきますが、この史料講読のなかで関連史料・参考文献も参照しつつ、日本中世社会の特質について考察します。秋学期は春学期の続きから始める予定です。授業計画は下記のとおりですが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もあります。

授業内容

授業計画は下記のとおりです。

- 第1回 ガイダンス1 (授業形態と報告日程等の相談・決定)
- 第2回 ガイダンス2「東寺関係史料のなかの『評定引付』」
- 第3回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(1)
- 第4回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(2)
- 第5回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(3)
- 第6回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(4)
- 第7回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(5)
- 第8回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(6)
- 第9回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(7)
- 第10回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(8)
- 第11回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(9)
- 第12回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(10)
- 第13回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(11)
- 第14回 総括

履修上の注意

毎回報告者を定め輪読形式で読み進めていきますので、報告者は必ずテキストの担当部分の読み、解釈、問題点等に関するレジュメを作成し発表してください。なお授業形態の詳細は、履修者数に応じて、相談のうえ決定します。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告者はもちろん、それ以外の受講生も、必ずテキストを読み、自身の疑問点等を整理して、授業のデスクッションに臨むようにしてください。

教科書

京都府立京都学・歴史館が公開している東寺百合文書WEB (<https://hyakugo.pref.kyoto.lg.jp/>) 中の「東寺鎮守八幡宮評定引付」(東寺百合文書ワ函45～)をダウンロードしてテキストとします。

参考書

授業中に適宜紹介しますが、上記、東寺百合文書WEBが参考資料の中心となります。

成績評価の方法

報告内容および授業中のデスクッションへの参加状況などを総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史特論II A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任教授 博士(文学) 須田 努		

授業の概要・到達目標

自立した日本史研究の能力を確立するために、ゼミ員全員で史学史に関連するテキストを講読します。「戦後歴史学」の方法論を批判的に学び、「現代歴史学」の切り口も理解します。2023年度は、昭和戦前期の史学史を学びました。下記はあくまでも参考です。大学院のゼミなので、臨機応変で、テキストはメンバーで決定しましょう。

授業内容

1. イントロダクション
2. 東京歴史学研究会編『歴史を学ぶ人々のために』(岩波書店, 2016)を読む(1)
3. 東京歴史学研究会編『歴史を学ぶ人々のために』(岩波書店, 2016)を読む(2)
4. 東京歴史学研究会編『歴史を学ぶ人々のために』(岩波書店, 2016)を読む(3)
5. 東京歴史学研究会編『歴史を学ぶ人々のために』(岩波書店, 2016)を読む(4)
6. 東京歴史学研究会編『歴史を学ぶ人々のために』(岩波書店, 2016)を読む(5)
7. 東京歴史学研究会編『歴史を学ぶ人々のために』(岩波書店, 2016)を読む(6)
8. 歴史科学協議会編『歴史学が挑んだ課題』(大月書店, 2016)を読む(1)
9. 歴史科学協議会編『歴史学が挑んだ課題』(大月書店, 2016)を読む(2)
10. 歴史科学協議会編『歴史学が挑んだ課題』(大月書店, 2016)を読む(3)
11. 歴史科学協議会編『歴史学が挑んだ課題』(大月書店, 2016)を読む(4)
12. 歴史科学協議会編『歴史学が挑んだ課題』(大月書店, 2016)を読む(5)
13. 歴史科学協議会編『歴史学が挑んだ課題』(大月書店, 2016)を読む(6)
14. まとめ

履修上の注意

史学史を「研究」することの意味を学びます。「戦後歴史学」のディシプリンを学び、「現代歴史学」の中での各人の研究の方向性を考えます。

準備学習（予習・復習等）の内容

当然ですが、ゼミ参加全員がテキストを精読する必要があります。

教科書

東京歴史学研究会編『歴史を学ぶ人々のために』(岩波書店, 2016)
歴史科学協議会編『歴史学が挑んだ課題』(大月書店, 2016)

参考書

毎回、指摘します。

成績評価の方法

報告、討論参加の様子を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任教授 博士(文学)		須田 努

授業の概要・到達目標

自立した日本史研究の能力を確立するために、ゼミ員全員で史学史に関連するテキストを講読します。「戦後歴史学」の方法論を批判的に学び、「現代歴史学」の切り口も理解します。2023年度は、昭和戦前期の史学史を学びました。

授業内容

1. イントロダクション
2. 歴史科学協議会編『歴史学が挑んだ課題』（大月書店、2016）を読む（7）
3. 歴史科学協議会編『歴史学が挑んだ課題』（大月書店、2016）を読む（8）
4. 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第1巻（續文堂出版、2016年）を読む（1）
5. 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第1巻（續文堂出版、2016年）を読む（2）
6. 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第1巻（續文堂出版、2016年）を読む（3）
7. 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第1巻（續文堂出版、2016年）を読む（4）止
8. 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第2巻（續文堂出版、2016年）を読む（1）
9. 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第2巻（續文堂出版、2016年）を読む（2）
10. 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第2巻（續文堂出版、2016年）を読む（3）止
11. 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第3巻（續文堂出版、2016年）を読む（1）
12. 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第3巻（續文堂出版、2016年）を読む（2）
13. 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第3巻（續文堂出版、2016年）を読む（3）
14. まとめ

履修上の注意

史学史を“研究”することの意味を学びます。「戦後歴史学」のディシプリンを学び、「現代歴史学」の中での各人の研究の方向性を考えます。

準備学習（予習・復習等）の内容

当然ですが、ゼミ参加全員がテキストを精読する必要があります。

教科書

歴史科学協議会編『歴史学が挑んだ課題』（大月書店、2016）
 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第1巻－第3巻（續文堂出版、2016年）

参考書

毎回、指摘します。

成績評価の方法

報告、討論参加の様子を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	文化史特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(史学)		三舟 隆之

授業の概要・到達目標

古代寺院の成立と展開を、古代王権の仏教受容と関連させて講述する。古代王権における仏教の受容が、やがてどのように在地社会に定着していくか、中央の寺院だけでなく地方寺院にも視点を置く。また寺院が在地社会の中でどのような機能を果たしていたかを、古代の仏教説話集である『日本霊異記』を取り上げてみていきたい。
 従来古代の仏教史研究は国家仏教研究が中心であったが、本授業では地方や民間仏教からのアプローチによって、古代仏教の解明を試みる。授業の内容に関係する方法論としては、文献史学だけでなく、考古学や文学などにも関連する学際的な方法で進めていきたい。そのため、関係する考古資料や文献史料はプリントを配布する。この授業では、従来学習してきた日本史学とは異なり、多様な歴史学的方法論を身につけることを到達目標とする。

授業内容

- 仏教の伝来によって、日本でも古代寺院が成立するが、その古代寺院の成立を中国・朝鮮半島の寺院と比較し、日本の古代寺院の特質を解明する。次に氏族仏教から国家仏教の変質を寺院から解説する。その上で現在の国家仏教研究の諸問題を取り上げ、地方仏教の性質についても触れ、寺院の成立がどのような意味を持つのかを述べる。従来古代の仏教史研究は国家仏教研究が中心であったが、本授業では地方や民間仏教からのアプローチによって、古代仏教の解明を試みる。
- 第1回：古代王権による仏教受容
日本古代において、仏教の受容がどのように行われたかを、朝鮮諸国と比較しながら解説する。
 - 第2回：百済と新羅の寺院
百済と新羅の寺院について、最近の調査結果からその特徴を理解し、日本との相違点を考える。
 - 第3回：飛鳥寺の造営
日本最初の寺院である飛鳥寺がどのように造営されたか、造営氏族の蘇我氏の性質と共に理解する。
 - 第4回：聖徳太子の寺院
若草伽藍・四天王寺などの聖徳太子関係寺院と法隆寺の諸問題を理解する。
 - 第5回：百済大寺の造営
日本最初の天皇家による寺院造営となった百済大寺の問題と、比定される吉備池廃寺の諸問題を考察する。
 - 第6回：大化改新と仏教
大化改新の諸問題と孝徳朝における仏教政策を理解し、大化の造寺奨励策を考える。
 - 第7回：大寺制の再検討
従来国家仏教の象徴である「大寺制」について、「大寺」の本来の意味とその諸問題を考える。
 - 第8回：古代寺院の成立—山田寺と川原寺
7世紀代の代表的な寺院である山田寺と川原寺の諸問題について理解すると共に、全国各地に山田寺式・川原寺式軒瓦が分布した理由を考える。
 - 第9回：国家仏教の成立
天武朝における国家仏教政策について、天武十四年三月壬申詔を中心にその意味を理解する。
 - 第10回：郡衙と寺院
地方豪族である郡司の拠点である郡衙と寺院の関係を理解する。
 - 第11回：国造氏族と寺院
評制の施行に当たって、大化前代から続く国造氏族がどのように仏教を受容していったかを、各地の国造の動向から考える。
 - 第12回：評制の成立と寺院—那須国造碑と寺院
大化改新以後の評制の施行と寺院の造営の意義について考察する。
 - 第13回：地方寺院の実態—『出雲国風土記』の新造院—
『出雲国風土記』に見える「新造院」の実態を理解する。
 - 第14回：まとめ

履修上の注意

3分の2以上の出席がなければ、成績評価を行わない。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で該当する史料は、事前に目を通しておくこと。

教科書

授業では毎回プリントを配布し、教材とする。必要に応じて、パワーポイントも使用する。

参考書

三舟隆之『日本霊異記 説話の地域史的研究』（法蔵館 2016）、『日本古代地方寺院の成立』吉川弘文館 2003年、同『日本古代の王権と寺院』名著刊行会 2013年、同『古代氏族と地方寺院』同成社 2020年、岡本東三『古代寺院の成立と展開』山川出版社 日本史リブレット 17 2002年など。その他、必要に応じて授業で指示する。

成績評価の方法

レポート100%で評価を行う。

その他

受講者の専門性によっては、講義内容を変更することもある。

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	文化史特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(史学) 三舟 隆之		

授業の概要・到達目標

古代寺院の成立と展開を、古代王権の仏教受容と関連させて講述する。古代王権における仏教の受容が、やがてどのように在地社会に定着していくか、中央の寺院だけでなく地方寺院にも視点を置く。また寺院が在地社会の中でどのような機能を果たしていたかを、古代の仏教説話集である『日本霊異記』を取り上げてみていきたい。

従来古代の仏教史研究は国家仏教研究が中心であったが、本授業では地方や民間仏教からのアプローチによって、古代仏教の解明を試みる。授業の内容に関係する方法論としては、文献史だけでなく、考古学や文学などにも関連する学際的な方法で進めていきたい。そのため、関係する考古資料や文献史料はプリントを配布する。この講義では、従来学習してきた日本史学とは異なり、多様な歴史学的方法論を身につけることを到達目標とする。

授業内容

国家仏教の成立は古代社会に大きな影響を与えたとされるが、地方仏教の本質について金石文から再考する。従来古代の仏教史研究は国家仏教研究が中心であったが、本授業では地方や民間仏教からのアプローチによって、古代仏教の解明を試みる。

第1回：山ノ上碑文と仏教
群馬県山ノ上碑から、古代地方豪族の仏教受容を考える。

第2回：金井沢碑文と知識
群馬県金井沢碑文に見える知識結の実態から、古代豪族の仏教受容を考える。

第3回：山上多重塔と仏教
群馬県山上多重塔から、古代仏教の受容を考える。

第4回：寺院と知識① 西琳寺縁起と氏寺
近年の知識寺院説を批判して、「西琳寺縁起」から「氏寺」とは何かを理解する。

第5回：寺院と知識② 「既多寺知識経」と氏寺
「既多寺知識経」の「知識」から、氏寺の構造を考える。

第6回：霊亀二年の寺院統制令
霊亀二年の寺院統制令の研究史を、資料の解釈から批判する。

第7回：国分寺建立詔と国分寺造営
国分寺建立詔の理解と国分寺造営を考える。

第8回：東国の国分寺①
上野・下野・常陸の国分寺跡の発掘調査から、国分寺の造営に関する問題を考える。

第9回：東国の国分寺②
上総・下総・武蔵・相模の国分寺跡の発掘調査から、国分寺の造営に関する諸問題を考える。

第10回：国分寺と山岳寺院
山岳寺院の問題点を考える。

第11回：『多度神宮寺伽藍縁起并資財帳』の検討
『多度神宮寺伽藍縁起并資財帳』から神仏習合と地方寺院の経営を考える。

第12回：「堂」と「寺」
文献史料から「堂」と「寺」の問題を考え、村落寺院との関係を検証する。

第13回：定額寺と地方寺院の変質
定額寺制の成立と平安時代における地方仏教の変質を考える。

第14回：まとめ

履修上の注意

3分の2以上の出席がなければ、成績評価を行わない。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で該当する史料は、事前に目を通しておくこと。

教科書

授業では毎回プリントを配布し、教材とする。必要に応じてパワーポイントを使用する。

参考書

三舟隆之『日本古代地方寺院の成立』吉川弘文館 2003年、同『日本古代の王権と寺院』名著刊行会 2013年、同『古代氏族と地方寺院』同成社2020年、岡本東三『古代寺院の成立と展開』山川出版社 日本史リブレット17 2002年など。その他、必要に応じて授業で指示する。

成績評価の方法

60%レポートと40%報告内容を勘案する。

その他

受講者の専門性によっては、講義内容を変更することもある。

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	思想史特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学) 若尾 政希		

授業の概要・到達目標

歴史を読み解く能力を身につける。

私は、人の意識・思想の焦点をあわせた歴史研究を思想史と呼んでいる。人類の歴史を研究対象とするとき、その主体である人の意識・思想を抜きにして、その歴史を語ることはできない。よって思想史の研究は、政治史・経済史・社会史……、いずれの分科史を専攻するにせよ、重要になってくると私は考えている。このような思想史研究の世界に、皆さん方を招待するとともに、優秀な歴史研究者を育てたいと思う。

授業内容

授業はゼミ形式で行う。参加人数によるが、受講生の研究報告を中心とする。

研究報告については、各自の研究の成果を報告してもらい、討議したい。また、適宜、史料所蔵機関等でフィールドワークを行いたい。

1. ガイダンス
2. 思想史とは何か
3. ゼミ報告1
4. ゼミ報告2
5. ゼミ報告3
6. ゼミ報告4
7. ゼミ報告5
8. ゼミ報告6
9. フィールドワーク1
10. ゼミ報告7
11. ゼミ報告8
12. フィールドワーク2
13. 文献輪読1
14. 文献輪読2

履修上の注意

ゼミ形式の授業であるので、必ず出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

受講生と相談して決めたい。

参考書

適宜、紹介する。

成績評価の方法

平常点(ゼミでの報告や発言)により評価する。

その他

私自身の専門は日本近世史ですが、日本以外の地域、あるいは近世以外の時代を専門とする院生の積極的な参加を期待しています。

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻	備考		
科目名	思想史特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(文学)	若尾 政希

授業の概要・到達目標

歴史を読み解く能力を身につける。
私は、人の意識・思想の焦点をあわせた歴史研究を思想史と呼んでいる。人類の歴史を研究対象とするとき、その主体である人の意識・思想を抜きにして、その歴史を語るができない。よって思想史の研究は、政治史・経済史・社会史……。いずれの分科史を専攻するにせよ、重要になってくると私は考えている。このような思想史研究の世界に、皆さん方を招待するとともに、優秀な歴史研究者を育てたいと思う。

授業内容

春学期に引き続き、授業はゼミ形式で行う。参加人数によるが、受講生の研究報告を中心とする。
研究報告については、各自の研究の成果を報告してもらい、討議したい。また、適宜、史料所蔵機関等でフィールドワークを行いたい。
研究報告については、各自の研究の成果を報告してもらい、討議したい。
1. ゼミ報告1
2. ゼミ報告2
3. ゼミ報告3
4. 思想史研究の現在
5. 「書物・出版と社会変容」研究の現在
6. 文献輪読1
7. 文献輪読2
8. 文献輪読3
9. フィールドワーク
10. ゼミ報告4
11. ゼミ報告5
12. 歴史研究の現在
13. 文献輪読4
14. 文献輪読5

履修上の注意

ゼミ形式の授業であるので、必ず出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

次の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

講読の文献は、ゼミ生と話しあって決めたい。

参考書

適宜、紹介する。

成績評価の方法

平常点(ゼミでの報告や発言)により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS621J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史特論I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(文学)	津田 資久

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕
本講義では、魏晋南北朝時代の文献史料に関する特徴を検討し、史料論という分析方法によって、どのように新たな歴史像が描けるのかを議論します。その材料として唐の姚察・姚思廉父子によって撰述された『梁書』・『陳書』を扱います。授業内では、漢文史料を用いた史料講読を伴います。議論に関しては履修者諸君にレジュメ作成を担当してもらうことがあります。
なお、具体的な講読箇所に関しては、ガイダンス時に改めて相談して決めることとします。
〔到達目標〕
以下の4点を設定します。
1. アジア史における中国魏晋南北朝時代の特徴を説明できる。
2. 魏晋南北朝史が、これまでどのような視座から議論されてきたかを具体的に説明できる。
3. 文献史料をふまえつつ、先行研究の成果と限界を指摘できる。
4. 文献史料をふまえつつ、自分なりの魏晋南北朝に関する議論を提示できる。

授業内容

第1回 ガイダンス：授業内容に関する概要の説明と以後の授業展開に関する打ち合わせ
第2回 『梁書』の史料的特徴：清・趙翼『廿二史劄記』の議論を通じて
第3回 『梁書』の編纂過程と同時代的な評価：唐・劉知幾『史通』の認識
第4回 『梁書』と『南史』：南北朝後半期をどう描いているのか？
第5回 『梁書』の描く南朝衰亡論：衰亡をもたらした戦犯は誰か？
第6回 『梁書』・『南史』・『建康実録』の侯景伝をめぐって：それぞれ何を意図して書かれているのか？
第7回 附論・新たな南朝史書『建康実録』の出現：唐の前半期から後半期へ
第8回 『陳書』の史料的特徴：清・趙翼『廿二史劄記』の議論を通じて
第9回 陳王朝を叙述する三つの歴史書：『陳書』・『南史』・『建康実録』の世界観
第10回 『陳書』本紀の正統観：姚察・姚思廉父子と魏魏の歴史観
第11回 『陳書』の描く対外政策：南北朝後期の国際秩序
第12回 『陳書』に見える「貴族」の実相：「六朝貴族社会」のその後
第13回 『陳書』の列伝記事の検討：何が読み解けるのか？
第14回 授業の総括

履修上の注意

漢文史料講読を伴うことから、履修者各自に当てて解釈や意見を聞くことがあるので、漢文読解に関する授業を既に修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布された漢文史料に関する事前の読解や当該時代に関する概説を予め読んでおくこと。また割り振られたテーマについて担当してもらうことがあるので、その場合はレジュメを作成すること。

教科書

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

参考書

授業内で適宜指示します。当面は、今回扱う文献史料がどのようなものであるかを図書館で検索し、その実物(様々な版本や標点本)を確認しておいてください。
また当該時代を扱う概説書は、多くありますが、『南北朝時代 五胡十六国から隋の統一まで』、会田大輔、中央公論新社・中公新書、2021年が平易かつ最新のものですので、一例として挙げておきます。

課題に対するフィードバックの方法

主に授業内での指摘や指示を通じて行いますが、問題が多岐にわたる場合や複雑な場合にはメールやプリントで整理して行うこともあります。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(史料読解、レジュメ作成を含む)：50%、レポート：50%

その他

なるべく双方向的なやり取りのできる授業展開にしたいと思っています。積極的な参加姿勢に期待します。

科目ナンバー：(AL) HIS621J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史特論ⅠB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学) 津田 資久		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

本講義では、魏晋南北朝時代の文献史料の性質とそこからどのような研究テーマが設定されてきたかについて、清・趙翼『廿二史劄記』の講読を通じて議論します。授業内では、漢文史料を用いた史料講読を伴います。議論に関しては、出典調べと併せて履修者諸君にレジュメ作成を担当してもらうことがあります。具体的な進め方に関しては、ガイダンス時に相談して決めることにします。

〔到達目標〕

以下の4点を設定します。

1. アジア史における中国魏晋南北朝時代の研究されてきた問題について説明できる。
2. 魏晋南北朝史の研究の基本的な枠組み設定と、『廿二史劄記』の果たした役割について具体的に説明できる。
3. 文献史料の読解を通じて、先行研究の成果と限界を指摘できる。
4. 文献史料を用いて、自分なりの魏晋南北朝に関する議論を提示できる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス:授業内容に関する概要の説明と以後の授業展開に関する打ち合わせ
- 第2回 清・趙翼『廿二史劄記』とは如何なる文献か?
- 第3回 卷6・「陳寿論諸葛亮」を読む
- 第4回 卷7・「魏晋禪代不同」を読む
- 第5回 卷8・「八王之乱」を読む
- 第6回 卷8・「九品中正」を読む
- 第7回 卷8・「建業有三城」を読む
- 第8回 卷9・「宋書書宋齊革易之際」を読む
- 第9回 卷10・「南北史子孫附伝之例」を読む
- 第10回 卷11・「宋世閭門無礼」を読む
- 第11回 卷12・「齊制典籤之權太重」を読む
- 第12回 卷13・「魏書多曲筆」を読む
- 第13回 卷14・「魏孝文遷洛」を読む
- 第14回 授業の総括

履修上の注意

漢文史料講読を伴うことから、履修者各自に当てて解釈や意見を聞くことがあるので、漢文読解に関する授業を既に修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布された漢文史料に関する事前の読解や当該時代に関する概説を予め読んでおくこと。また割り振られたテーマについて担当してもらうことがあるので、その場合はレジュメを作成すること。

教科書

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

参考書

授業内で適宜指示します。当面は、今回扱う文献史料がどういうものであるかを図書館で検索し、その実物(様々な版本や標点本)を確認しておいてください。
また当該時代を扱う概説書は、多くありますが、『南北朝時代五胡十六国から隋の統一まで』、会田大輔、中央公論新社・中公新書、2021年が平易かつ最新のものですので、一例として挙げておきます。

課題に対するフィードバックの方法

主に授業内での指摘や指示を通じて行いますが、問題が多岐にわたる場合や複雑な場合にはメールやプリントで整理して行うこともあります。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(史料読解、レジュメ作成を含む):50%、レポート:50%

その他

なるべく双方向的なやり取りのできる授業展開にしたいと思っています。積極的な参加姿勢に期待します。

科目ナンバー：(AL) HIS621J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 平野 豊		

授業の概要・到達目標

昨年度までにサファヴィー朝第3代君主シャー・イスマーイール2世(西暦1576-77年在位)の基本史料4点すべてについて、彼の即位から暗殺に至る全記事を読了した。今年度は、そのうちの一つである『アフサン・アッタワーリーフ』の(A.H.ナワーイー校訂・新版)にある「序文」を読む。

同書はヒジュラ暦985(西暦1578)年に成立したペルシア語年代記で、イスマーイール2世時代研究の中心に据えるべき史料だが、テキスト本文と脚注にある他写本の記事との異同が極めて多いという特徴がある。これは原本が失われているため、後年に書写された複数の写本記事を組み合わせることで校訂本を作ったという事情による。つまり、同書は校訂者による文献解題である「序文」を精読して初めて適切に活用できるものだといえよう。

〔到達目標〕

1. 先行するC.N.Seddon版本、および本書の底本、イニシャルM,N,S等の略号で脚注に登場する諸写本の素性を十分に理解すること。
2. テキスト本文にある*や**、[]や< >といった記号が持つ意味を正しく理解し、該当箇所がどの写本の記事なのか、容易に判断できるようになること。

授業内容

- 第1回: ガイダンス:授業の概要説明
- 第2回: 「第11巻 序文」の講読(pp.51-52)
- 第3回: 同(pp.53-54)
- 第4回: 同「著者の略伝」(pp.55-56)
- 第5回: 同(pp.57-58)
- 第6回: 同(pp.59-60)
- 第7回: 同(pp.61-62)
- 第8回: 同(pp.63-64)
- 第9回: 同『『アフサン・アッタワーリーフ』が依拠した先行史料」(pp.65-66)
- 第10回: 同(pp.67-68)
- 第11回: 同『『アフサン・アッタワーリーフ』の諸写本」(pp.69-70)
- 第12回: 同「本文校訂の方法」(pp.71-72)
- 第13回: 同(pp.73-74)
- 第14回: 同(p.75)

履修上の注意

基礎的なペルシア語文法を習得した上での参加が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

講読予定箇所について、ペルシア語原文にエザーフェ記号を書き加えたものとその訳文をレジュメにまとめて来ること。

教科書

テキストは事前にコピーを配布する。

参考書

論文抜刷を配布予定。

成績評価の方法

授業中の口頭発表の出来により評価する。(訳文の正確さ50%+レジュメの完成度50%)

その他

科目ナンバー：(AL) HIS621J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師		平野 豊

授業の概要・到達目標

昨年度までにサファヴィー朝第3代君主シャー・イスマーイール2世(西暦1576-77年在位)の基本史料4点すべてについて、彼の即位から暗殺に至る全記事を読了した。今年度は、そのうちの一つである『アフサン・アッタワーリーフ』の(A.H.ナワーイー校訂・新版)にある「序文」を読む。

同書はヒジュラ暦985(西暦1578)年に成立したペルシア語年代記で、イスマーイール2世時代研究の中心に据えるべき史料だが、テキスト本文と脚注にある他写本の記事との異同が極めて多いという特徴がある。これは原本が失われているため、後年に書写された複数の写本記事を組み合わせて校訂本を作ったという事情による。つまり、同書は校訂者による文献解題である「序文」を精読して初めて適切に活用できるものだけといえよう。

〔到達目標〕

1. 先行するC.N.Seddon版本、および本書の底本、イニシャルM,N,S等の略号で脚注に登場する諸写本の素性を十分に理解すること。
2. テキスト本文にある*や**、[]や〈 〉といった記号が持つ意味を正しく理解し、該当箇所がどの写本の記事なのか、容易に判断できるようになること。

授業内容

- 第1回：ガイダンス:授業の概要説明
 第2回：「第12巻 序文」の講読(pp.77-78)
 第3回：同(pp.79-80)
 第4回：同(pp.81-82)
 第5回：同(pp.83-84)
 第6回：同(pp.85-86)
 第7回：同(pp.87-88)
 第8回：同(pp.89-90)
 第9回：同(pp.91-92)
 第10回：同(pp.93-94)
 第11回：同「『アフサン・アッタワーリーフ』とその特筆すべき史料的価値」(pp.95-96)
 第12回：同(pp.97-98)
 第13回：同(pp.99-100)
 第14回：同(p.101)

履修上の注意

基礎的なペルシア語文法を習得した上での参加が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講読予定箇所について、ペルシア語原文にエザーフエ記号を書き加えたものとその訳文をレジユメにまとめて来ること。

教科書

テキストは事前にコピーを配布する。

参考書

論文抜刷を配布予定。

成績評価の方法

授業中の口頭発表の出来により評価する。(訳文の正確さ50%+レジユメの完成度50%)

その他

科目ナンバー：(AL) HIS531J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史特論ⅠA		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師		小澤 弘明

授業の概要・到達目標

長い19世紀から短い20世紀にかけてのヨーロッパ世界を中心とした近現代史の展開の特徴を理解するために、一次史料と二次文献の双方を批判的に読解する。これにより史料の特徴と研究史の現在の双方についての理解を深める。合わせて、参加者個々人の研究内容に応じて修士論文等の執筆に至る研究の計画と遂行についても指導を行う。

授業内容

- 第1回 授業全体の概要の説明
 第2回 ヨーロッパの民族(エトノス)と国民(ネーション)についての研究状況
 第3回 ヨーロッパのナショナリズムについての文献研究(1)
 第4回 ヨーロッパのナショナリズムについての文献研究(2)
 第5回 ヨーロッパのナショナリズムについての文献研究(3)
 第6回 ヨーロッパのエトノスについての文献研究(1)
 第7回 ヨーロッパのエトノスについての文献研究(2)
 第8回 ヨーロッパのエトノスについての文献研究(3)
 第9回 ヨーロッパの民衆生活・民衆世界に関する文献研究(1)
 第10回 ヨーロッパの民衆生活・民衆世界に関する文献研究(2)
 第11回 ヨーロッパの民衆生活・民衆世界に関する文献研究(3)
 第12回 ヨーロッパ近現代史に関わる個別報告(1)
 第13回 ヨーロッパ近現代史に関わる個別報告(2)
 第14回 春学期で取り上げた主題に関する総括討論

履修上の注意

欧文献の読解を基軸とする文献研究を行うため、英語、ドイツ語、フランス語などヨーロッパ諸語について履修済みであることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキスト等については前もって資料・文献一覧を配布するので、事前学習を行うこと。また、個別報告の準備を随時進めておくこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。nation/nationality, ethnic group/ethnicityに関わる文献を選択して使用テキストとする。

参考書

ベネディクト・アンダーソン、アーネスト・ゲルナー、エリック・ホブズボーム、二宮宏之の著作について調べておくことが望ましい。

成績評価の方法

テキスト読解にさいしての言語の運用能力(30%)、テキストの内容の理解度(30%)、個別研究報告の内容(40%)により評価する。

その他

主体的・能動的に参加することを期待している。適宜Slack等で情報を共有しながら授業を進める。

科目ナンバー：(AL) HIS531J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史特論I B		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師	小澤 弘明	

授業の概要・到達目標

長い19世紀から短い20世紀にかけてのヨーロッパ世界を中心とした近現代史の展開の特徴を理解するために、一次史料と二次文献の双方を批判的に読解する。これにより史料の特徴と研究史の現在の双方についての理解を深める。合わせて、参加者個々人の研究内容に応じて修士論文等の執筆に至る研究の計画と遂行についても指導を行う。

授業内容

- 第1回 授業全体の概要の説明
 第2回 ヨーロッパの社会変動に関する研究状況
 第3回 ヨーロッパの社会変動についての文献研究(1)
 第4回 ヨーロッパの社会変動についての文献研究(2)
 第5回 ヨーロッパの社会変動についての文献研究(3)
 第6回 ヨーロッパの社会運動に関する研究状況
 第7回 ヨーロッパの社会運動についての文献研究(1)
 第8回 ヨーロッパの社会運動についての文献研究(2)
 第9回 ヨーロッパの社会運動についての文献研究(3)
 第10回 世界史の中のヨーロッパに関する研究状況
 第11回 ヨーロッパ近現代史と世界史の連関についての文献研究(1)
 第12回 ヨーロッパ近現代史と世界史の連関についての文献研究(2)
 第13回 ヨーロッパ近現代史と世界史の連関についての文献研究(3)
 第14回 秋学期で取り上げた主題に関する総合討論

履修上の注意

欧文献の読解を基軸とする文献研究を行うため、英語、ドイツ語、フランス語などヨーロッパ諸語について履修済みであることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキスト等については前もって資料・文献一覧を配布するので、事前学習を行うこと。また、個別報告の準備を随時進めておくこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。social change, social movement, race/racismに関わる文献を選択してテキストとする。

参考書

授業冒頭で参考文献目録を配布するので、適宜、利用されたい。

成績評価の方法

テキスト読解にさいしての言語の運用能力(30%)、テキストの内容の理解度(30%)、個別研究報告の内容(40%)により評価する。

その他

主体的・能動的に参加することを期待している。適宜Slack等で情報を共有しながら授業を進める。

科目ナンバー：(AL) PAC521J			
史学専攻	備考		
科目名	考古学特論I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(理学)	米田 穰

授業の概要・到達目標

考古学は、過去の人々に関する情報を物理・化学・生物学的な方法で抽出する研究分野である。

我が国では「文化財科学」として、保存科学と一緒に論じられることが多いが、考古学と保存科学は大きく異なる。

保存科学は文化財の形状を復元維持するための技術であるのに対し、考古学は過去の人間活動についての情報を抽出し、より強い仮説を構築する歴史科学である。

この講義では、考古学の考え方と方法を学習することで科学の考え方を学び、そのデータを物質文化に関する伝統的な考古学と統合することによって、総合的な科学分野としての考古学に発展させる方法を考察する。

授業内容

- 1) 序論: 考古学と人類学の共通点と相違点
- 2) 進化論の基礎と人間行動生態学
- 3) 歴史科学としての進化論
- 4) なぜ年代測定が必要なのか
- 5) 放射性炭素年代測定の基礎
- 6) 放射性炭素年代測定の応用: 較正年代
- 7) 放射性炭素年代測定の展開: 海洋リザーバ効果の補正
- 8) 炭素年代データベースによる人口動態復元
- 9) 炭素・窒素同位体比による食性復元
- 10) 同位体生態学からみた縄文時代の多様性
- 11) 同位体生態学からみた弥生時代とその後の農耕社会
- 12) 歯エナメル質の同位体分析による移動復元
- 13) 動物遺存体・炭化植物による食料生産の研究
- 14) 土器付着炭化物の分析と問題点

履修上の注意

講義中の積極的な発言を評価します。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で配布する論文などの資料などを予習して、講義での議論に参加できるように準備すること。また、関連する文献などを復習として学習すること。

教科書

特に指定なし

参考書

講義単元に応じて、適宜紹介する。

成績評価の方法

平常点(授業への参加度) 75%, レポート 25%

その他

質問は適宜メールにて受け付ける。メールアドレスは Oh-oi Meiji クラスウェブ「シラバスの補足」を参照のこと。

科目ナンバー：(AL) PAC521J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学特論I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(理学)	米田 穰	

授業の概要・到達目標

考古学における生態学的なアプローチは、ヒトの生物学的な側面に着目する自然人類学と考古学を結ぶ有効な視点である。

特に、人間の行動や社会も自然選択によって形づくられるとする人間行動生態学の視点は、日本考古学でも有効であると期待されるが、その応用はほとんどない。本講義では、前学期に学習した進化の理論をもとに、人間の行動や社会の複雑化にどのような理論的予想がなりたつのかを考察し、日本先史学への応用可能性を議論する。

また、生物と生物、生物と非生物の関係に着目する生態学の考え方を学習して、先史社会に応用する方法について議論する。具体的に、過去の環境や生態系を復元する方法とその限界についても学習し、先行研究を批判的レビューする。

授業内容

- 1) 序論: 考古学における生態学的研究とその課題
- 2) 進化と生態学の関係
- 3) ヒトの生物学的特徴と進化的背景
- 4) ヒトの生態学的特徴
- 5) 考古学における生態学的研究
- 6) 人間行動生態学で予想される狩猟採集民の意思決定
- 7) 人間行動生態学で予想される農耕社会の受容と発展
- 8) 民族考古学と社会進化論的な視点
- 9) 縄文時代の海進・海退とハイドロアイソスタシー
- 10) 同位体による社会・集団レベルの応用研究
- 11) 同位体による個体レベルの応用研究
- 12) 先史社会における同位体比の個体差の意味
- 13) 動物考古学・考古植物学と保全生態学
- 14) 考古学を社会でどのように活かせるか

履修上の注意

講義中の積極的な発言を評価します。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で配布する論文などの資料などを予習して、講義での議論に参加できるように準備すること。また、関連する文献などを復習として学習すること。

教科書

特に指定なし

参考書

斎藤成也 編著『絵で分かる人類の進化』（講談社）
安田喜憲編(2004)『環境考古学ハンドブック』（朝倉書店）

成績評価の方法

平常点(授業への参加度) 75%, レポート 25%

その他

質問は適宜メールにて受け付ける。メールアドレスは Oh-o! Meiji クラスウェブ“シラバスの補足”を参照のこと。

科目ナンバー：(AL) PAC521J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学特論II A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	小澤 正人	

授業の概要・到達目標

テーマ：中国国家成立期の社会の検討～陵墓を資料として

この講義の目的は、階層上位者の墓葬である陵墓を資料として、中国先秦時代社会の特質と変遷を明らかにすることにある。

中国では紀元前2000年頃に都市国家が成立し初期王朝時代となり、やがて紀元前1300年頃には文字記録をもつ最初の国家である殷王朝が成立する。この講義では初期王朝時代から殷時代にいたる陵墓の変遷を検討することで、中国国家成立期社会の特質を明らかにしていきたいと考えている。

この授業では、①中国国家成立期の陵墓の変遷を理解すること、②中国国家成立期社会の特質を理解すること、を到達目標とする。

なお、授業の具体的な進め方は、受講生の状況を勘案して決定する。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：初期王朝時代以前の墓葬(1)
- 第3回：初期王朝時代以前の墓葬(2)
- 第4回：初期王朝時代以前の墓葬(3)
- 第5回：初期王朝時代の墓葬(1)
- 第6回：初期王朝時代の墓葬(2)
- 第7回：初期王朝時代の墓葬(3)
- 第8回：初期王朝時代の墓葬(4)
- 第9回：殷王朝の墓葬(1)
- 第10回：殷王朝の墓葬(2)
- 第11回：殷王朝の墓葬(3)
- 第12回：殷王朝の墓葬(4)
- 第13回：殷王朝の墓葬(5)
- 第14回：まとめ～中国国家成立期の社会

履修上の注意

中国史の概説を読んでおくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ読んでおいてもらいたい文献を指定することがある。

教科書

とくに指定しない。

参考書

岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫 2015 筑摩書房）
その他は授業中に提示する。

成績評価の方法

授業への参加度:80% レポート:20%

その他

科目ナンバー：(AL) PAC521J			
史学専攻	備考		
科目名	考古学特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 小澤 正人		

授業の概要・到達目標

テーマ：中国先秦時代社会の検討～陵墓を資料として
この講義の目的は、階層上位者の墓葬である陵墓を資料として、周時代から春秋戦国時代に到る中国先秦時代社会の特質を明らかにすることにある。

中国では紀元前1000年頃に都市国家連合である周王朝が成立し、その後春秋戦国時代になると都市国家は淘汰され領域国家が出現する。この講義では周時代から春秋戦国時代にいたる陵墓の変遷を検討することで、先秦時代社会の特質を明らかにしていきたいと考えている。

この授業では、①中国先秦時代の陵墓の変遷を理解すること、②中国先秦時代社会の特質を理解すること、を到達目標とする。

なお、授業の具体的な進め方は、受講生の状況を勘案して決定する。

授業内容

第1回：ガイダンス

第2回：周時代の墓葬(1)

第3回：周時代の墓葬(2)

第4回：周時代の墓葬(3)

第5回：周時代の墓葬(4)

第6回：春秋時代の墓葬(1)

第7回：春秋時代の墓葬(2)

第8回：春秋時代の墓葬(3)

第9回：春秋時代の墓葬(4)

第10回：戦国時代の墓葬(1)

第11回：戦国時代の墓葬(2)

第12回：戦国時代の墓葬(3)

第13回：戦国時代の墓葬(4)

第14回：まとめ～中国先秦時代社会

履修上の注意

中国史の概説を読んでおくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ読んでおいてもらいたい文献を指定することがある。

教科書

とくに指定しない。

参考書

岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫 2015 筑摩書房）

その他は授業中に提示する。

成績評価の方法

授業への参加度：80% レポート：20%

その他

科目ナンバー：(AL) GEO522J			
地理学専攻	備考		
科目名	自然地理学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士 梅本 亨		

授業の概要・到達目標

具体的な地域を対象とする自然地理学研究を行うための専門的な知識を身につけるとともに、最近の研究動向に対応できるような方法論について検討する。自然地理学の各分野のなかから、気候学、植生地理学という2本の柱を選び、相互の関連を研究事例について議論する。授業の形式は、当該分野の専門書(英語)の輪読と、重要な研究論文(多くの場合、英文である)の紹介・批判を柱とする室内での討論であるが、必要に応じてフィールドにおける現地討論を行うこともある。

授業内容

- 1) 履修者の卒業研究および大学院での研究課題の紹介
- 2) 輪読教科書とその報告分担決定
- 3) 輪読と討論①
- 4) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告①
- 5) 輪読と討論②
- 6) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告②
- 7) 輪読と討論③
- 8) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告③
- 9) 輪読と討論④
- 10) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告④
- 11) 輪読と討論⑤
- 12) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告⑤
- 13) 輪読と討論⑥
- 14) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告⑥

履修上の注意

自然地理学の基礎知識が十分であることを前提に演習を進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

2回目以降、気候学・植生地理学についての日本語の専門書の該当部分を熟読して基礎知識を再確認しておく必要がある。日本の事例を扱う場合には、日本語による自然地理学的な諸概念や専門用語についても熟知しておく必要があるからである。なお、輪読用教科書の予習には、日本語（および英語）の専門辞書が必要となる：『地学事典』（平凡社）、『理化学辞典』（岩波書店）、『生物学辞典』（岩波書店）、『気象の事典』（東京堂出版）、『生態学事典』（共立出版）程度が必要となる。

教科書

H.G. Jones, 2014: Plants and microclimate. A quantitative approach to environmental plant physiology. 3rd Edition, Cambridge University Press, 407pp.

参考書

- 1) D.L. Hartmann, 2016: Global Physical Climatology. 2nd Edition, Elsevier, 485pp.
 - 2) G. B. Bonnan, 2002: Ecological Climatology — Concepts and applications. Cambridge University Press, 678pp.
 - 3) R.M.M. Crawford, 2008: Plants at the margin. Ecological Limits and Climate Change. Cambridge University Press, 478pp.
- *和書については個別に適切なものを推薦する。

課題に対するフィードバックの方法

演習科目なのでオーラルコミュニケーションが主体となるが、発表時に提出するレジュメを添削し、コメントを付して返却する。

成績評価の方法

演習における報告内容および議論への参加状況を総合的に評価する。なお、報告時には必ず紙媒体の発表要旨（レジュメ）を人数分作成して配布すること。

その他

「準備学習」の項にも明記したが、授業参加のためには、その準備として各種の専門辞書を手元に置く必要がある。早めに入手しておくこと。

科目ナンバー：(AL) GEO522J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学演習IB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士	梅本 亨	

授業の概要・到達目標

自然地理学的研究(特に気候学と植生地理学)の国内外の論文等を多角的に検討し、ある地域に関する研究分野における既存研究を効率的効果的にレビューする方法論と、時空間的なスケールの取り扱いはについて考察する。履修者は、この討論を通じて修士論文の序論に収める先行研究のレビューを完璧なものとする事が求められる。

授業内容

- 1) 演習方針の説明と報告分担決定
- 2) 研究の位置づけに関する報告(広域研究分野：例えば気候学)①
- 3) 研究の位置づけに関する報告(広域研究分野：例えば植生地理学)②
- 4) 研究の位置づけに関する報告(狭域研究分野：例えば山地気候学)①
- 5) 研究の位置づけに関する報告(狭域研究分野：例えば亜高山帯の植生景観論)②
- 6) 研究の具体的テーマに関する研究史の報告①
- 7) 研究の具体的テーマに関する研究史の報告②
- 8) 研究の具体的テーマに関する方法論の報告①
- 9) 研究の具体的テーマに関する方法論の報告②
- 10) 修士論文の論理構造に関する報告①
- 11) 修士論文の論理構造に関する報告②
- 12) 研究成果の自己評価と応用の可能性に関する報告①
- 13) 研究成果の自己評価と応用の可能性に関する報告②
- 14) 研究成果の公表に関する展望の報告

履修上の注意

授業開始時までには、自身の研究分野に関する文献リストを作成しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

重要な文献の引用文献には、原則として全て目を通しておくこと。

教科書

使用せず。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

演習科目なのでオーラルコミュニケーションが主体となるが、発表時に提出するレジюмеを添削し、コメントを付して返却する。

成績評価の方法

演習における報告内容および議論への参加状況を総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO622J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士	梅本 亨	

授業の概要・到達目標

具体的な地域を対象とする自然地理学研究を行うための専門的な知識を身につけるとともに、最近の研究動向に対応できるような方法論について検討する。自然地理学の各分野のなかから、気候学、植生地理学という2本の柱を選び、相互の関連を研究事例について議論する。授業の形式は、当該分野の専門書(英語)の輪読と、重要な研究論文(多くの場合、英文である)の紹介・批判を柱とする室内での討論であるが、必要に応じてフィールドにおける現地討論を行うこともある。

授業内容

- 1) 履修者の卒業研究および大学院での研究課題の紹介
- 2) 輪読教科書とその報告分担決定
- 3) 輪読と討論①
- 4) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告①
- 5) 輪読と討論②
- 6) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告②
- 7) 輪読と討論③
- 8) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告③
- 9) 輪読と討論④
- 10) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告④
- 11) 輪読と討論⑤
- 12) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告⑤
- 13) 輪読と討論⑥
- 14) 輪読内容に関する最近の学術論文の報告⑥

履修上の注意

自然地理学の基礎知識が十分であることを前提に演習を進める。

準備学習(予習・復習等)の内容

2回目以降、気候学・植生地理学についての日本語の専門書の該当部分を熟読して基礎知識を再確認しておく必要がある。日本の事例を扱う場合には、日本語による自然地理学的な諸概念や専門用語についても熟知しておく必要があるからである。なお、輪読用教科書の予習には、日本語(および英語)の専門辞書が必要となる：『地学事典』(平凡社)、『理化学辞典』(岩波書店)、『生物学辞典』(岩波書店)、『気象の事典』(東京堂出版)、『生態学事典』(共立出版)程度が必要となる。

教科書

H.G. Jones, 2014: Plants and microclimate. A quantitative approach to environmental plant physiology. 3rd Edition, Cambridge University Press, 407pp.

参考書

- 1) D.L. Hartmann, 2016: Global Physical Climatology. 2nd Edition, Elsevier, 485pp.
 - 2) G. B. Bonnan, 2002: Ecological Climatology —Concepts and applications. Cambridge University Press, 678pp.
 - 3) R.M.M. Crawford, 2008: Plants at the margin. Ecological Limits and Climate Change. Cambridge University Press, 478pp.
- *和書については個別に適切なものを推薦する。

課題に対するフィードバックの方法

演習科目なのでオーラルコミュニケーションが主体となるが、発表時に提出するレジюмеを添削し、コメントを付して返却する。

成績評価の方法

演習における報告内容および議論への参加状況を総合的に評価する。なお、報告時には必ず紙媒体の発表要旨(レジюме)を人数分作成して配布すること。

その他

「準備学習」の項にも明記したが、授業参加のためには、その準備として各種の専門辞書を手元に置く必要がある。早めに入手しておくこと。

科目ナンバー：(AL) GEO622J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士	梅本 亨	

授業の概要・到達目標

自然地理学的研究(特に気候学と植生地理学)の国内外の論文等を多角的に検討し、ある地域に関する研究分野における既存研究を効率的効果的にレビューする方法論と、時空間的なスケールの取り扱いについて考察する。履修者は、この討論を通じて修士論文の序論に収める先行研究のレビューを完璧なものとする事が求められる。

授業内容

- 1) 演習方針の説明と報告分担当決定
- 2) 研究の位置づけに関する報告(広域研究分野：例えば気候学)①
- 3) 研究の位置づけに関する報告(広域研究分野：例えば植生学)②
- 4) 研究の位置づけに関する報告(狭域研究分野：例えば極地気候学)①
- 5) 研究の位置づけに関する報告(狭域研究分野：例えば亜高山帯の植生景観論)②
- 6) 研究の具体的テーマに関する研究史の報告①
- 7) 研究の具体的テーマに関する研究史の報告②
- 8) 研究の具体的テーマに関する方法論の報告①
- 9) 研究の具体的テーマに関する方法論の報告②
- 10) 修士論文の論理構造に関する報告①
- 11) 修士論文の論理構造に関する報告②
- 12) 研究成果の自己評価と応用の可能性に関する報告①
- 13) 研究成果の自己評価と応用の可能性に関する報告②
- 14) 研究成果の公表に関する展望の報告

履修上の注意

授業開始時までには、自身の研究分野に関する文献リストを作成しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

重要な文献の引用文献には、原則として全て目を通しておくこと。

教科書

使用せず。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

演習科目なのでオーラルコミュニケーションが主体となるが、発表時に提出するレジюмеを添削し、コメントを付して返却する。

成績評価の方法

演習における報告内容および議論への参加状況を総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO522J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(環境学)	佐々木 夏来	

授業の概要・到達目標

国内外の書籍・論文の精読を通して、研究テーマに関する専門的な知識を獲得するとともに、近年の研究動向を把握する。論文の精読では、各自が論文紹介を担当して効果的な研究発表の方法を学び、ディスカッションを通して論理的思考と批判的思考を身につけることを目標とする。さらに、履修者には、適宜、研究の進捗状況(調査・研究計画、調査結果)を報告することが求められる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス、輪読・論文紹介の担当決め
- 第2回 研究テーマの紹介(1)
- 第3回 研究テーマの紹介(2)
- 第4回 研究計画紹介
- 第5回 輪読(1)
- 第6回 輪読(2)
- 第7回 輪読(3)
- 第8回 輪読(4)
- 第9回 論文紹介とディスカッション(1)
- 第10回 論文紹介とディスカッション(2)
- 第11回 論文紹介とディスカッション(3)
- 第12回 論文紹介とディスカッション(4)
- 第13回 論文紹介とディスカッション(5)
- 第14回 論文紹介とディスカッション(6)

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の担当内容を十分に予習し、プレゼンテーションツールを用いて発表準備すること。発表担当者でない場合にも、教科書・論文を一読し、ディスカッションできるように準備しておくこと。

教科書

初回授業時に候補となる教科書を紹介する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

成績評価の方法

発表内容および議論への参加状況で総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO522J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(環境学) 佐々木 夏来		

授業の概要・到達目標

履修者自身の研究テーマに関連する国内外の学術論文をレビューし、近年の研究動向を把握するとともに、自身の研究の意義および位置付けを確認する。これまでの調査結果を多角的に検討し、ディスカッションを通して論理的思考と批判的思考を身につけることを目標とする。さらに、履修者には、適宜、研究の進捗状況(調査・研究計画、調査結果)を報告することが求められる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス、発表方法の説明、発表担当決め
- 第2回 研究内容に関する文献レビュー(1)
- 第3回 研究内容に関する文献レビュー(2)
- 第4回 研究発表(調査内容の報告)(1)
- 第5回 研究発表(調査内容の報告)(2)
- 第6回 研究発表(調査内容の報告)(3)
- 第7回 研究発表(調査内容の報告)(4)
- 第8回 論文構成に関する報告(全体、背景・目的・調査地概要)(1)
- 第9回 論文構成に関する報告(全体、背景・目的・調査地概要)(2)
- 第10回 論文構成に関する報告(方法・結果・考察)(1)
- 第11回 論文構成に関する報告(方法・結果・考察)(2)
- 第12回 研究発表(修士研究のまとめ)(1)
- 第13回 研究発表(修士研究のまとめ)(2)
- 第14回 研究テーマに関する残存課題と今後の展望

履修上の注意

学期中に複数回の報告が課せられる。また、討論への積極的な参加が必須である。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の担当回では、プレゼンテーションツールを用いて発表準備をすること。研究発表の場合には、発表要旨も作成すること。発表要旨の執筆方法は初回の授業で説明する。

教科書

使用しない

参考書

授業内で適宜紹介する。

成績評価の方法

発表内容および議論への参加状況で総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO622J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(環境学) 佐々木 夏来		

授業の概要・到達目標

国内外の書籍・論文の精読を通して、研究テーマに関する専門的な知識を獲得するとともに、近年の研究動向を把握する。論文の精読では、各自が論文紹介を担当して効果的な研究発表の方法を学び、ディスカッションを通して論理的思考と批判的思考を身につけることを目標とする。さらに、履修者には、適宜、研究の進捗状況(調査・研究計画、調査結果)を報告することが求められる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス、輪読・論文紹介の担当決め
- 第2回 研究テーマの紹介(1)
- 第3回 研究テーマの紹介(2)
- 第4回 研究計画紹介
- 第5回 輪読(1)
- 第6回 輪読(2)
- 第7回 輪読(3)
- 第8回 輪読(4)
- 第9回 論文紹介とディスカッション(1)
- 第10回 論文紹介とディスカッション(2)
- 第11回 論文紹介とディスカッション(3)
- 第12回 論文紹介とディスカッション(4)
- 第13回 論文紹介とディスカッション(5)
- 第14回 論文紹介とディスカッション(6)

履修上の注意

自身の修士論文研究に関わる複数回の報告が課せられる。また、討論への積極的な参加が必須である。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の担当内容を十分に予習し、プレゼンテーションツールを用いて発表準備すること。発表担当者でない場合にも、教科書・論文を一読し、ディスカッションできるように準備しておくこと。

教科書

初回授業時に候補となる教科書を紹介する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

成績評価の方法

発表内容および議論への参加状況で総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO622J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(環境学) 佐々木 夏来		

授業の概要・到達目標

履修者自身の研究テーマに関連する国内外の学術論文をレビューし、近年の研究動向を把握するとともに、自身の研究の意義および位置付けを確認する。これまでの調査結果を多角的に検討し、ディスカッションを通して論理的思考と批判的思考を身につけることを目標とする。さらに、履修者には、適宜、研究の進捗状況(調査・研究計画、調査結果)を報告することが求められる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス、発表方法の説明、発表担当決め
- 第2回 研究内容に関する文献レビュー(1)
- 第3回 研究内容に関する文献レビュー(2)
- 第4回 研究発表(調査内容の報告)(1)
- 第5回 研究発表(調査内容の報告)(2)
- 第6回 研究発表(調査内容の報告)(3)
- 第7回 研究発表(調査内容の報告)(4)
- 第8回 論文構成に関する報告(全体、背景・目的・調査地概要)(1)
- 第9回 論文構成に関する報告(全体、背景・目的・調査地概要)(2)
- 第10回 論文構成に関する報告(方法・結果・考察)(1)
- 第11回 論文構成に関する報告(方法・結果・考察)(2)
- 第12回 研究発表(修士研究のまとめ)(1)
- 第13回 研究発表(修士研究のまとめ)(2)
- 第14回 研究テーマに関する残存課題と今後の展望

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の担当回では、プレゼンテーションツールを用いて発表準備をすること。研究発表の場合には、発表要旨も作成すること。発表要旨の執筆方法は初回の授業で説明する。

教科書

使用しない

参考書

授業内で適宜紹介する。

成績評価の方法

発表内容および議論への参加状況で総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻		備考	
科目名	人文地理学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学) 川口 太郎		

授業の概要・到達目標

都市住民の生活行動や居住地移動、地域社会への参加や帰属意識などから、生活の場としての都市を考えていく。地理学の枠組みからいえば都市地理学、社会地理学、行動地理学の複合領域ということになるが、とりあえず、上述のテーマに即した地理学の基本文献を講読していく。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 都市地理学の基本文献講読①
- (3) 同上②
- (4) 同上③
- (5) 同上④
- (6) 同上⑤
- (7) 社会地理学の基本文献講読①
- (8) 同上②
- (9) 同上③
- (10) 同上④
- (11) 行動地理学の基本文献講読①
- (12) 同上②
- (13) 同上③
- (14) 同上④

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を果たすことが最低限の条件である。往々にして授業時間が延びるので、以後の時間を空けておくことが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告に際しては必ずレジメを用意すること。

教科書

「地理学評論」「人文地理」「経済地理学年報」掲載の論文

参考書

成績評価の方法

授業への参加状況を重視する。

その他

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅠB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学)	川口 太郎	

授業の概要・到達目標

人文地理学演習ⅠAに引き続いて同様の内容を追求し、各自の関心に応じて都市計画学や経済学、社会学、政治学、歴史学などの隣接分野の文献研究をもとに、あらたな問題提起を求めている。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 都市計画学の基本文献講読①
- (3) 同上②
- (4) 同上③
- (5) 都市社会学の基本文献講読①
- (6) 同上②
- (7) 同上③
- (8) 都市政治学の基本文献講読①
- (9) 同上②
- (10) 同上③
- (11) 各自の隣接分野の文献報告①
- (12) 同上②
- (13) 同上③
- (14) 同上④

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を果たすことが最低限の条件である。往々にして授業時間が延びるので、以後の時間を空けておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告に際しては予めレジメを用意すること。

教科書**参考書****成績評価の方法**

授業への参加状況を重視する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅠC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学)	川口 太郎	

授業の概要・到達目標

人文地理学演習ⅠA、ⅠBの履修によって培われた各自の問題意識のもとに、修士論文作成に向けて準備をしていく。受講者は研究の進捗状況について、定期的に報告を求められる。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 修士論文構想①
- (3) 同上②
- (4) 修士論文文献報告Ⅰ①
- (5) 同上②
- (6) 同上③
- (7) 同上④
- (8) 修士論文中間報告Ⅰ①
- (9) 同上②
- (10) 修士論文調査企画①
- (11) 同上②
- (12) 修士論文中間報告Ⅱ①
- (13) 同上②
- (14) 同上③

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を果たすことが最低限の条件である。往々にして授業時間が延びるので、以後の時間を空けておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告に際しては予めレジメを用意すること。

教科書**参考書****成績評価の方法**

授業への参加状況を重視する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学)	川口 太郎	

授業の概要・到達目標

人文地理学演習ⅠCに引き続き、修士論文の作成に向けて準備をしていく。受講者は研究の進捗状況について、定期的に報告を求められる。

授業内容

- (1) 夏休み調査報告①
- (2) 同上②
- (3) 修士論文文献報告Ⅱ①
- (4) 同上②
- (5) 同上③
- (6) 同上④
- (7) 修士論文中間報告Ⅲ①
- (8) 同上②
- (9) 修士論文調査報告①
- (10) 同上②
- (11) 同上③
- (12) 同上④
- (13) 修士論文最終報告①
- (14) 同上②

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を果たすことが最低限の条件である。往々にして授業時間が延びるので、以後の時間を空けておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告に際しては予めレジメを用意すること。

教科書

参考書

成績評価の方法

授業への参加状況を重視する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	大城 直樹	

授業の概要・到達目標

人文地理学、とくに1990年代以降の文化地理学の基礎概念をまず再確認し、それを踏まえつつ、関連文献を精読する。

それによって、現代社会における文化事象と地理的文脈との関係性を理解し、学(ディシプリン)としての地理学の意義を把握出来るようにする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：基礎概念の確認：場所
- 第3回：関連文献精読1：場所
- 第4回：関連文献精読2：場所
- 第5回：基礎概念の確認：景観
- 第6回：関連文献精読1：景観
- 第7回：関連文献精読2：景観
- 第8回：基礎概念の確認：物質性
- 第9回：関連文献精読1：物質性
- 第10回：関連文献精読2：物質性
- 第11回：基礎概念の確認：情動
- 第12回：関連文献精読1：情動
- 第13回：関連文献精読2：情動
- 第14回：文化地理学の文脈の再確認

履修上の注意

毎回出席し、事前に配分された担当課題をクリアしてもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者による質問に対応できるよう、十分な準備が望まれる。

教科書

特に用いない。

参考書

授業時にリストを配布する。

成績評価の方法

平常点(授業への積極的姿勢(30%) + 課題処理への積極的態度(70%))

その他

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻		備考	
科目名	人文地理学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	大城 直樹	

授業の概要・到達目標

人文地理学演習ⅡAに引き続き文化地理学の文献を精読していくが、近年の斯学の動向を整理し、それに影響を与えた隣接分野の文献についてもおさえていく。

まずは鍵概念を理解し、その文化地理学における展開の様相を把握していく。また文化地理学的なフィールドワークの在り方をその実践者たちに現地で説明してもらうことで、文化地理学の今日的位相を具体的に体得することを目指す。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：近年の文化地理学の動向整理1
- 第3回：近年の文化地理学の動向整理2
- 第4回：近年の文化地理学の動向整理3
- 第5回：鍵概念の整理1
- 第6回：鍵概念の整理2
- 第7回：鍵概念の整理3
- 第8回：隣接分野における展開の把握1
- 第9回：隣接分野における展開の把握2
- 第10回：隣接分野における展開の把握3
- 第11回：フィールドワーク1
- 第12回：フィールドワーク2
- 第13回：フィールドワーク3
- 第14回：フィールドワーク4

履修上の注意

毎回出席し、事前に配分された担当課題をクリアしてもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者による質問に対応できるよう、十分な準備が望まれる。

教科書

特に用いない。

参考書

授業時にリストを配布する。

成績評価の方法

平常点（授業への積極的姿勢（30%）+ 課題処理への積極的態度（70%））

その他

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻		備考	
科目名	人文地理学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	大城 直樹	

授業の概要・到達目標

人文地理学、とく1990年代以降の文化地理学の基礎概念をまず再確認し、それを踏まえつつ。関連文献を精読する。

それによって、現代社会における文化事象と地理的文脈との関係性を理解し、学(ディシプリン)としての地理学の意義を把握出来るようにする。

2年生対象なので、より深く精読することが求められる。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：基礎概念の確認:モダニティ
- 第3回：関連文献精読1:モダニティ
- 第4回：関連文献精読2:モダニティ
- 第5回：基礎概念の確認:地域文化
- 第6回：関連文献精読1:地域文化
- 第7回：関連文献精読2:地域文化
- 第8回：基礎概念の確認:アイデンティティ
- 第9回：関連文献精読1:アイデンティティ
- 第10回：関連文献精読2:アイデンティティ
- 第11回：基礎概念の確認:資本主義
- 第12回：関連文献精読1:資本主義
- 第13回：関連文献精読2:資本主義
- 第14回：文化地理学の文脈の再確認

履修上の注意

毎回出席し、事前に配分された担当課題をクリアしてもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者による質問に対応できるよう、十分な準備が望まれる。

教科書

特に用いない。

参考書

授業時にリストを配布する。

成績評価の方法

平常点（授業への積極的姿勢（30%）+ 課題処理への積極的態度（70%））

その他

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	大城 直樹	

授業の概要・到達目標

人文地理学演習ⅡCに引き続き文化地理学の文献を精読していくが、近年の斯学の動向を整理し、それに影響を与えた隣接分野の文献についてもおさえていく。

まずは鍵概念を理解し、その文化地理学における展開の様相を把握していく。また文化地理学的なフィールドワークの在り方をその実践者たちに現地で説明してもらうことで、文化地理学の今日的位相を具体的に体得することを目指す。

2年次なので、より深く読解することが求められる。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：近年の文化地理学の動向整理1
- 第3回：近年の文化地理学の動向整理2
- 第4回：近年の文化地理学の動向整理3
- 第5回：鍵概念の整理1
- 第6回：鍵概念の整理2
- 第7回：鍵概念の整理3
- 第8回：隣接分野における展開の把握1
- 第9回：隣接分野における展開の把握2
- 第10回：隣接分野における展開の把握3
- 第11回：フィールドワーク1
- 第12回：フィールドワーク2
- 第13回：フィールドワーク3
- 第14回：フィールドワーク4

履修上の注意

毎回出席し、事前に配分された担当課題をクリアしてもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者による質問に対応できるよう、十分な準備が望まれる。

教科書

特に用いない。

参考書

授業時にリストを配布する。

成績評価の方法

平常点（授業への積極的姿勢（30%）＋課題処理への積極的態度（70%））

その他

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	中澤 高志	

授業の概要・到達目標

担当者の研究は、平たくいえば住まいと仕事の地理学であり、生活様式を経済地理学的に検討することである。生活様式は、必然的に空間構造を伴い、地理的・歴史的固有性を帯びて組織化されている。人々は、生活様式の下で生活様式を変えながら、生きている。そのような生活様式を経済地理学的に検討するとは、いかなることであり、どのようにして可能になるのだろうか。こうした方法論的問いに対して、もとより正解はない。そこで、履修者が自分なりの回答に至る糸口を見いだすことを本演習の目標とし、浩瀚な文献を検討することでその達成を目指す。

授業内容

- 第1回 履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献リストの作成とその検討
- 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第7回 日本における経済地理学方法論のまとめ
- 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第12回 英語圏における経済地理学方法論のまとめ
- 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
- 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

文献を読むことを習慣化しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を詳細かつ批判的に検討することが演習の中心であるため、取り扱う文献については、事前に十分に読み込んでおくことが求められる。

教科書

履修者の研究課題を勘案し、それに適した文献を、主として方法論の観点から選択する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で行います。

成績評価の方法

担当回におけるレジュメ等の準備状況および演習への参加の積極性を、総合的に判断して行う。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻		備考	
科目名	人文地理学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 中澤 高志		

授業の概要・到達目標

担当者の研究は、平たくいえば住まいと仕事の地理学であり、生活様式を経済地理学的に検討することである。生活様式は、必然的に空間構造を伴い、地理的・歴史的固有性を帯びて組織化されている。人々は、生活様式の下で生活様式を変えながら、生きている。そのような生活様式を経済地理学的に検討するとは、いかなることであり、どのようにして可能になるのだろうか。こうした方法論的問いに対して、もとより正解はない。そこで、履修者が自分なりの回答に至る糸口を見いだすことを本演習の目標とし、浩瀚な文献を検討することでその達成を目指す。

授業内容

- 第1回 履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献リストの作成とその検討
- 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第7回 日本における経済地理学方法論のまとめ
- 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第12回 英語圏における経済地理学方法論のまとめ
- 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
- 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

文献を読むことを習慣化しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を詳細かつ批判的に検討することが演習の中心であるため、取り扱う文献については、事前に十分に読み込んでおくことが求められる。

教科書

履修者の研究課題を勘案し、それに適した文献を、主として方法論の観点から選択する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で行います。

成績評価の方法

担当回におけるレジュメ等の準備状況および演習への参加の積極性を、総合的に判断して行う。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻		備考	
科目名	人文地理学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 中澤 高志		

授業の概要・到達目標

担当者の研究は、平たくいえば住まいと仕事の地理学であり、生活様式を経済地理学的に検討することである。生活様式は、必然的に空間構造を伴い、地理的・歴史的固有性を帯びて組織化されている。人々は、生活様式の下で生活様式を変えながら、生きている。そのような生活様式を経済地理学的に検討するとは、いかなることであり、どのようにして可能になるのだろうか。こうした方法論的問いに対して、もとより正解はない。そこで、履修者が自分なりの回答に至る糸口を見いだすことを本演習の目標とし、浩瀚な文献を検討することでその達成を目指す。

授業内容

- 第1回 履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献リストの作成とその検討
- 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第7回 日本における経済地理学方法論のまとめ
- 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第12回 英語圏における経済地理学方法論のまとめ
- 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
- 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

文献を読むことを習慣化しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を詳細かつ批判的に検討することが演習の中心であるため、取り扱う文献については、事前に十分に読み込んでおくことが求められる。

教科書

履修者の研究課題を勘案し、それに適した文献を、主として方法論の観点から選択する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で行います。

成績評価の方法

担当回におけるレジュメ等の準備状況および演習への参加の積極性を、総合的に判断して行う。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻		備考	
科目名	人文地理学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 中澤 高志		

授業の概要・到達目標

担当者の研究は、平たくいえば住まいと仕事の地理学であり、生活様式を経済地理学的に検討することである。生活様式は、必然的に空間構造を伴い、地理的・歴史的固有性を帯びて組織化されている。人々は、生活様式の下で生活様式を変えながら、生きている。そのような生活様式を経済地理学的に検討するとは、いかなることであり、どのようにして可能になるのだろうか。こうした方法論的問いに対して、もとより正解はない。そこで、履修者が自分なりの回答に至る糸口を見いだすことを本演習の目標とし、浩瀚な文献を検討することでその達成を目指す。

授業内容

- 第1回 履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献リストの作成とその検討
- 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第7回 日本における経済地理学方法論のまとめ
- 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第12回 英語圏における経済地理学方法論のまとめ
- 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
- 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

文献を読むことを習慣化しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を詳細かつ批判的に検討することが演習の中心であるため、取り扱う文献については、事前に十分に読み込んでおくことが求められる。

教科書

履修者の研究課題を勘案し、それに適した文献を、主として方法論の観点から選択する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で行います。

成績評価の方法

担当回におけるレジュメ等の準備状況および演習への参加の積極性を、総合的に判断して行う。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO532J			
地理学専攻		備考	
科目名	地誌学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 荒又 美陽		

授業の概要・到達目標

春学期の演習は、地理学に関係の深い理論的な著作を輪読する。2024年度は、Tim Cresswell (2013) *Geographic Thought: A Critical Introduction*、Wiley-Blackwellを最初のテキストとしたい。学期の後半には、受講生の関心に従い、それぞれがProgress in Human Geography, Environment and Planning D, AAAGなどから文献一つを選び、発表することとする。

学期の最初は、年度の方針策定のために、修士1年は卒論の到達点と修論のテーマ、修士2年は修論の進捗報告を行うものとする。その際、修士論文作成のために必要な理論書があれば、それを優先的に読むことも検討したい。

理論の重要性について自分なりに理解することと、当面の研究の方向性を確定することを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション・大学院とは何か
- 第2回 卒論の発表と今後の方針の策定・2年生から修論の進捗を聞く
- 第3回 Geographic Thought
- 第4回 Geographic Thought
- 第5回 Geographic Thought
- 第6回 Geographic Thought
- 第7回 Geographic Thought
- 第8回 Geographic Thought
- 第9回 Progress in Human Geographyなど
- 第10回 Progress in Human Geographyなど
- 第11回 Progress in Human Geographyなど
- 第12回 Progress in Human Geographyなど
- 第13回 Progress in Human Geographyなど
- 第14回 Progress in Human Geographyなど

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表の準備を行うこと。それぞれの研究を進め、問題点があれば学期のいつでも相談すること。

教科書

Cresswell, T. (2013) *Geographic Thought: A Critical Introduction*, Wiley-Blackwell: Chichester.

参考書

授業内で指示する。

成績評価の方法

平常点で評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO532J			
地理学専攻		備考	
科目名	地誌学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 荒又 美陽		

授業の概要・到達目標

秋学期の演習は、都市に関するモノグラフ的研究を読んでいく。2024年度はピーターソン『アメリカ都市計画の誕生』鹿島出版会(2011)を候補とする。(現時点(12月)から授業開始までに新たに出版された本を受講生の了解のうえで選択する可能性もある。)また関連する英語圏の論文を数本読んでいく。そのほか学期はじめには研究の進捗報告を行い、学期末には修論の進捗と成果を報告する。都市研究の先輩たちの仕事を見本としながら、1年間の研究の成果を示すことを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 インTRODククション
- 第2回 夏季休暇中の進捗報告(全員)
- 第3回 テキスト1章
- 第4回 テキスト2章
- 第5回 テキスト3章
- 第6回 テキスト4章
- 第7回 テキスト5章
- 第8回 テキスト6章
- 第9回 テキスト7章
- 第10回 テキスト8章
- 第11回 テキスト9章
- 第12回 テキスト10章
- 第13回 テキスト11章
- 第14回 テキスト12章

履修上の注意

特になし。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の準備を行うこと。それぞれの研究を進め、問題点があれば学期のいつでも相談すること。

教科書

ピーターソン『アメリカ都市計画の誕生』鹿島出版会(2011)

参考書

授業内で指示する。

成績評価の方法

平常点で評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO632J			
地理学専攻		備考	
科目名	地誌学演習 I C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 荒又 美陽		

授業の概要・到達目標

春学期の演習は、地理学に関係の深い理論的な著作を輪読する。2024年度は、Tim Cresswell (2013) *Geographic Thought: A Critical Introduction*、Wiley-Blackwellを最初のテキストとしたい。学期の後半には、受講生の関心に従い、それぞれがProgress in Human Geography, Environment and Planning D, AAAGなどから文献の一つを選び、発表することとする。

学期の最初は、年度の方針策定のために、修士1年は卒論の到達点と修論のテーマ、修士2年は修論の進捗報告を行うものとする。その際、修士論文作成のために必要な理論書があれば、それを優先的に読むことも検討したい。

理論の重要性について自分なりに理解することと、当面の研究の方向性を確定することを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 インTRODククション・大学院とは何か
- 第2回 卒論の発表と今後の方針の策定・2年生から修論の進捗を聞く
- 第3回 Geographic Thought
- 第4回 Geographic Thought
- 第5回 Geographic Thought
- 第6回 Geographic Thought
- 第7回 Geographic Thought
- 第8回 Geographic Thought
- 第9回 Progress in Human Geographyなど
- 第10回 Progress in Human Geographyなど
- 第11回 Progress in Human Geographyなど
- 第12回 Progress in Human Geographyなど
- 第13回 Progress in Human Geographyなど
- 第14回 Progress in Human Geographyなど

履修上の注意

特になし。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の準備を行うこと。それぞれの研究を進め、問題点があれば学期のいつでも相談すること。

教科書

Cresswell, T. (2013) *Geographic Thought: A Critical Introduction*, Wiley-Blackwell: Chichester.

参考書

授業内で指示する。

成績評価の方法

平常点で評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO632J			
地理学専攻		備考	
科目名	地誌学演習 I D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 荒又 美陽		

授業の概要・到達目標

秋学期の演習は、都市に関するモノグラフ的研究を読んでいく。2024年度はピーターソン『アメリカ都市計画の誕生』鹿島出版会(2011)を候補とする。(現時点(12月)から授業開始までに新たに出版された本を受講生の了解のうえで選択する可能性もある。)また関連する英語圏の論文を数本読んでいく。そのほか学期はじめには研究の進捗報告を行い、学期末には修論の進捗と成果を報告する。都市研究の先輩たちの仕事を見本としながら、1年間の研究の成果を示すことを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 インTRODククシヨクン
- 第2回 夏季休暇中の進捗報告(全員)
- 第3回 テキスト1章
- 第4回 テキスト2章
- 第5回 テキスト3章
- 第6回 テキスト4章
- 第7回 テキスト5章
- 第8回 テキスト6章
- 第9回 テキスト7章
- 第10回 テキスト8章
- 第11回 テキスト9章
- 第12回 テキスト10章
- 第13回 テキスト11章
- 第14回 テキスト12章

履修上の注意

特になし。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の準備を行うこと。それぞれの研究を進め、問題点があれば学期のいつでも相談すること。

教科書

ピーターソン『アメリカ都市計画の誕生』鹿島出版会(2011)

参考書

授業内で指示する。

成績評価の方法

平常点で評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO592J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学合同演習 A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、荒又美陽、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学専攻の大学院生にとってもっとも重要な科目である。履修者は各自の研究計画に沿って文献研究による研究展望、国内外の調査分析の成果などを報告する。地理学専攻に属する全ての教員および院生が一堂に会し、その内容について討論し評価する。

授業内容

- (1) イントロダクシヨクン
- (2) 前期課程1年生による卒業論文(改訂版)発表1
- (3) 前期課程1年生による卒業論文(改訂版)発表2
- (4) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 1
- (5) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 2
- (6) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 3
- (7) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 1
- (8) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 2
- (9) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 3
- (10) 前期課程1年生による学習報告(その1) 1
- (11) 前期課程1年生による学習報告(その1) 2
- (12) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 1
- (13) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 2
- (14) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 3

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者は学習・研究計画について各自の指導教員と十分に打ち合わせをしておく必要がある。発表者は演習の年次計画にしたがい、予め十分に準備することはもとより、プレゼンテーションにも配慮する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

成績評価の方法

与えられた課題(口頭発表)を果たすことを最低限の条件とし、併せて討論への参加状況を加味して評価する。

その他

地理学合同演習Aにおける報告の成果は、討論の内容を加味して年度末までに論文形式でとりまとめ、担当教員に提出するものとする。

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) GEO592J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学合同演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、 荒又美陽、山口大策、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学合同演習Aに引き続き、履修者は各自の研究計画に沿って文献研究による研究展望、国内外の調査分析の成果などをふまえたうえで、学位論文の構想を報告する。地理学専攻に属する全ての教員および院生が一堂に会し、その内容について討論し評価する。

授業内容

- (1) 修士論文提出予定者による中間報告1
- (2) 修士論文提出予定者による中間報告2
- (3) 修士論文提出予定者による中間報告3
- (4) 前期課程1年生による学習報告(その2) 1
- (5) 前期課程1年生による学習報告(その2) 2
- (6) 前期課程1年生による学習報告(その2) 3
- (7) 博士論文提出予定者による包括的報告1
- (8) 博士論文提出予定者による包括的報告2
- (9) 博士論文提出予定者による包括的報告3
- (10) 前期課程1年生による修士論文構想報告1
- (11) 前期課程1年生による修士論文構想報告2
- (12) 修士論文提出予定者による最終報告1
- (13) 修士論文提出予定者による最終報告2
- (14) 修士論文公開報告会(終了後に別途口頭試問)

履修上の注意**準備学習(予習・復習等)の内容**

履修者は学習・研究計画について各自の指導教員と十分に打ち合わせをしておく必要がある。
発表者は演習の年次計画にしたがい、予め十分に準備することはもとより、プレゼンテーションにも配慮する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

成績評価の方法

与えられた課題(口頭発表)を果たすことを最低限の条件とし、併せて討論への参加状況を加味して評価する。

その他

地理学合同演習Bにおける報告の成果は、討論の内容を加味して年度末までに論文形式でとりまとめ、担当教員に提出するものとする。

科目ナンバー：(AL) GEO692J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学合同演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、 荒又美陽、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学合同演習Bに引き続き、履修者は各自の研究計画に沿って文献研究による研究展望、国内外の調査分析の成果などを踏まえたうえで、学位論文の具体的計画とその途中経過を報告する。地理学専攻に属する全ての教員および院生が一堂に会し、その内容について討論し評価する。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 前期課程1年生による卒業論文(改訂版)発表1
- (3) 前期課程1年生による卒業論文(改訂版)発表2
- (4) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 1
- (5) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 2
- (6) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 3
- (7) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 1
- (8) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 2
- (9) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 3
- (10) 前期課程1年生による学習報告(その1) 1
- (11) 前期課程1年生による学習報告(その1) 2
- (12) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 1
- (13) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 2
- (14) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 3

履修上の注意**準備学習(予習・復習等)の内容**

履修者は学習・研究計画について各自の指導教員と十分に打ち合わせをしておく必要がある。
発表者は演習の年次計画にしたがい、予め十分に準備することはもとより、プレゼンテーションにも配慮する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

成績評価の方法

与えられた課題(口頭発表)を果たすことを最低限の条件とし、併せて討論への参加状況を加味して評価する。

その他

地理学合同演習Cにおける報告の成果は、討論の内容を加味して年度末までに論文形式でとりまとめ、担当教員に提出するものとする。

科目ナンバー：(AL) GEO692J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学合同演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、荒又美陽、山口大策、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学合同演習Cに引き続き、履修者は各自の研究計画に沿って文献研究による研究展望、国内外の調査分析の成果などをふまえたうえで、学位論文の詳細な内容を報告する。地理学専攻の全教員および全院生が一堂に会し、その内容について討論し評価する。

授業内容

- (1) 修士論文提出予定者による中間報告1
- (2) 修士論文提出予定者による中間報告2
- (3) 修士論文提出予定者による中間報告3
- (4) 前期課程1年生による学習報告(その2) 1
- (5) 前期課程1年生による学習報告(その2) 2
- (6) 前期課程1年生による学習報告(その2) 3
- (7) 博士論文提出予定者による包括的報告1
- (8) 博士論文提出予定者による包括的報告2
- (9) 博士論文提出予定者による包括的報告3
- (10) 前期課程1年生による修士論文構想報告1
- (11) 前期課程1年生による修士論文構想報告2
- (12) 修士論文提出予定者による最終報告1
- (13) 修士論文提出予定者による最終報告2
- (14) 修士論文公開報告会(終了後に別途口頭試問)

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者は学習・研究計画について各自の指導教員と十分に打ち合わせをしておく必要がある。発表者は演習の年次計画にしたがい、予め十分に準備することはもとより、プレゼンテーションにも配慮する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

成績評価の方法

与えられた課題(口頭発表)を果たすことを最低限の条件とし、併せて討論への参加状況を加味して評価する。

その他

地理学合同演習Dにおける報告の成果は、討論の内容を加味して年度末までに論文形式でとりまとめ、担当教員に提出するものとする。

科目ナンバー：(AL) GEO521J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学特論II A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(理学)	須貝 俊彦

授業の概要・到達目標

自然地理学の最近の研究動向について地形学の研究論文やテキストを中心にレビューし、自然地理学研究の基本課題について展望する。

授業内容

- 第1回 自然地理学の最近の研究動向
- 第2回 湿潤熱帯地域の自然環境の研究動向(1)
- 第3回 湿潤熱帯地域の自然環境の研究動向(2)
- 第4回 乾湿の交代する熱帯モンスーン地域の自然環境の研究動向(1)
- 第5回 乾湿の交代する熱帯モンスーン地域の自然環境の研究動向(2)
- 第6回 乾燥地域の自然環境の研究動向(1)
- 第7回 乾燥地域の自然環境の研究動向(2)
- 第8回 湿潤温帯地域の自然環境の研究動向(1)
- 第9回 湿潤温帯地域の自然環境の研究動向(2)
- 第10回 寒冷地域の自然環境の研究動向(1)
- 第11回 寒冷地域の自然環境の研究動向(2)
- 第12回 自然環境史の研究動向(1)
- 第13回 自然環境史の研究動向(2)
- 第14回 総括

履修上の注意

論文紹介していただく機会を設ける。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

なし

参考書

なし

成績評価の方法

平常点で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO521J			
地理学専攻	備考		
科目名	自然地理学特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(理学)	須貝	俊彦

授業の概要・到達目標

自然地理学の系譜について研究論文やテキストを中心にレビューし、自然地理学の今後を展望する。

授業内容

- 第1回 自然哲学と自然地理学の萌芽
- 第2回 中世の自然地理学
- 第3回 大航海時代の自然地理学
- 第4回 近代自然地理学の成立(1) ヴァレニウスとステノ
- 第5回 近代自然地理学の成立(2) フンボルト
- 第6回 自然地理学の揺籃(1) リヒトフォーヘン、ベンク
- 第7回 自然地理学の揺籃(2) デービス、ギルバート
- 第8回 日本における自然地理学の成立
- 第9回 戦後復興期の自然地理学—地理調査所・資源研究所
- 第10回 高度経済成長期の自然地理学
- 第11回 1990年代の自然地理学—自然地理学の存在意義シンポジウム
- 第12回 21世紀の自然地理学—地球環境問題解決への貢献
- 第13回 自然地理学の未来
- 第14回 総括

履修上の注意

地理学史的内容を含みます

準備学習(予習・復習等)の内容

次の授業範囲に関係する文献等を読んでおくこと。

教科書

なし

参考書

なし

成績評価の方法

平常点で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO511J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(学術)	箸本	健二

授業の概要・到達目標

人文地理学特論Ⅰでは、第三次産業のうち特に商業立地と商業政策を取り扱う。このうちⅡAでは、チェーンストアを中心とする商業施設の立地や配送システムの空間構造を、地代、商圏特性、情報化、取引コストなどに注目しつつ主要な業態別に議論する。また、バブル経済崩壊や少子高齢化社会の到来など、1990年代以降の社会経済的な変化の中で、小売流通資本や既存業態の成長モデルがどのような課題を抱え、既存の業態がどのような課題を抱えているかを議論する。

なお、講義内容と講読文献は、履修者の研究テーマや関心をふまえ、相談の上で適宜変更する。

授業内容

- 第1回：総論(1)：小売商業立地と地理学
- 第2回：総論(2)：「流通革命」：業種の衰退と業態の台頭
- 第3回：高次消費財の供給：百貨店の立地とその変容
- 第4回：低次消費財の供給(1)：スーパーの立地モデル
- 第5回：低次消費財の供給(2)：コンビニの立地モデル
- 第6回：小売業の郊外シフトをめぐる企業戦略
- 第7回：商品配送と店舗立地(1)：時間最小化モデル
- 第8回：商品配送と店舗立地(2)：費用最小化モデル
- 第9回：消費財流通におけるパワーシフトと取引コスト
- 第10回：商業と地域コミュニティ(1)
- 第11回：商業と地域コミュニティ(2)
- 第12回：消費の「高質化」を支えるもの
- 第13回：高齢化社会と日本型フードデザート
- 第14回：春学期総括

履修上の注意

消費や流通は身近なテーマであり、日常の消費生活の中で気づいた点や生じた疑問を考察の切り口としてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の講義は、原則としていくつかの既出論文の知見に基づいて構成される。次の講義で取り上げる論文について毎回紹介するので、予習・復習に利用してほしい。

教科書

特に指定しない。原則として毎回レジユメを配布する。

参考書

荒井良雄・箸本健二『日本の流通と都市空間』(古今書院)、荒井良雄・箸本健二『流通空間の再構築』(古今書院)、土屋純・兼子純『小商圏時代の流通システム』(古今書院)。

成績評価の方法

授業への貢献度、討論への参加等を総合的に検討する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO511J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(学術) 箸本 健二		

授業の概要・到達目標

人文地理学特論Ⅰでは、第三次産業のうち特に商業立地と商業政策を取り扱う。このうちⅡBでは、日本の地方都市で深刻化している中心市街地の空洞化問題を取り上げ、その背景にある政策の是非をめぐる議論を行う。講義では、中心市街地における事業用不動産の低未利用化(空き不動産化)に軸足を置きつつ、日本の地方都市における中心市街地問題の構造と対応、そして政策課題について考察する。

なお、授業内容や講読論文は、履修者の研究テーマや興味関心をふまえ、適宜変更する。

授業内容

- 第1回：総論(1)：経済活動の縮退と地方都市
- 第2回：総論(2)：地方都市における空き不動産問題
- 第3回：日本の中心市街地政策(1)：大店法に基づく「調整」
- 第4回：日本の中心市街地政策(2)：まちづくり3法の矛盾
- 第5回：日本の中心市街地政策(3)：改正まちづくり3法の理念と現実的課題
- 第6回：立地適正化計画—コンパクトシティはなぜ実現が難しいか
- 第7回：ケーススタディ(1)：区画整理事業を軸とする従来型再開発手法の限界
- 第8回：ケーススタディ(2)：上下(所有—利用)分離とテナントミックス
- 第9回：ケーススタディ(3)：不動産証券化など新しい資金調達方法
- 第10回：ケーススタディ(4)：空きビル・空き店舗の「再生」
- 第11回：ケーススタディ(5)：中心市街地のダウンサイジング
- 第12回：ケーススタディ(6)：「まちづくり会社」の多様な役割
- 第13回：国の論理・地方の論理：まちづくりをめぐる「主体」の視点
- 第14回：秋学期総括

履修上の注意

中心市街地問題は日本の地方都市が直面する喫緊の課題であり、受講者にとって身近な出来事を講義内容と対照しながら考察してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の講義の骨子は、原則として、いくつかの研究書と学術論文に基づいて構成される。次回の講義で取り上げる書籍・論文について毎回紹介するので、予習・復習に利用してほしい。

教科書

特に指定しない。原則として毎回レジュメを配布する。

参考書

箸本健二・武者忠彦編『空き不動産問題から考える地方都市再生』(ナカニシヤ出版)

成績評価の方法

授業への貢献度、討論への参加等を総合的に検討する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO631J			
地理学専攻	備考		
科目名	地誌学特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任教授 博士(地理学) 中川 秀一		

授業の概要・到達目標

農村とは何か。自明のようで現代の農村の学術的な定義は必ずしも容易ではない。しかし、都市と農村とは、人類が作り出してきた定住形態として人々の思考や生活、さらには制度の基盤となってきた概念である。世界的に人口が増大してきた20世紀は、都市の時代とも呼ばれる。一方、21世紀の日本は縮小過程に入り、やがて世界人口も定常化すると推測されている。従来の都市とは異なる生活様式のあり方の価値を考えることが重要になってきている。本講義では、「農村」について、イギリスにおける研究書を手引きとして再考することによってこのテーマを検討したい。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション 問題の所在
- 第2回 「ポスト資本主義」論を読む
- 第3回 「ポスト資本主義」論の課題を検討
- 第4回 「ルーラル：農村とは何か」を読む
- 第5回 農村へのアプローチ
- 第6回 農村のイメージ
- 第7回 農村の開発
- 第8回 農村の消費
- 第9回 農村の発展
- 第10回 農村の暮らし
- 第11回 農村の演技
- 第12回 農村の政策
- 第13回 農村の再構築
- 第14回 日本農村についての議論

履修上の注意

テキストを用いるので準備すること。
適宜、各自の研究の進行状況を踏まえながら議論する。

準備学習(予習・復習等)の内容

予めテキストを読んで参加すること。

教科書

M. Woods (2011) *rural*, Routledge
高柳長直・中川秀一監訳『ルーラル：農村とは何か』農林統計、2018年。

参考書

講義中に提示する。まずは次のもの。佐々木雅幸ほか編(2014)『創造農村』学芸出版社。坪井伸広他編(2009)『現代のむら』農文協。岡本雅美監修(2014)『自立と連携の農村再生論』東京大学出版会。

成績評価の方法

講義での報告、提出レポートを評価基準とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO631J			
地理学専攻		備考	
科目名	地誌学特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任教授 博士(地理学) 中川 秀一		

授業の概要・到達目標

人口減少による縮小社会へと転じた日本の国土周辺地域の置かれている状況変化と地域からのその対応について考える。「地方消滅」や限界集落の考え方を検証し、地域再生、田園回帰、創造農村などの議論を照らし合わせながら講義を進める。文献演習を主としつつ、統計資料の分析の演習を交える。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション 問題の所在
- 第2回 「地方消滅」論を読む
- 第3回 「地方消滅」論のその後の経過
- 第4回 「限界集落」論を読む
- 第5回 人口動向についての統計分析を踏まえた演習1
- 第6回 国土政策の現状の検討
- 第7回 国土政策の動向の検討
- 第8回 「田園回帰」論を読む1
- 第9回 「田園回帰」論を読む2
- 第10回 人口動向についての統計分析を踏まえた演習2
- 第11回 「田園回帰がひらく新しい都市農山村関係」を読む1
- 第12回 「田園回帰がひらく新しい都市農山村関係」を読む2
- 第13回 「田園回帰がひらく新しい都市農山村関係」を読む3
- 第14回 総括

履修上の注意

可能な限り参考書を参照すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考文献にできるだけ目を通しておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

講義中に提示する。まずは次のもの。
 小田切徳美(2022)『新しい地域をつくる』。
 松永桂子(2012)『創造的地域社会』新評論。
 佐々木雅幸ほか編(2014)『創造農村』学芸出版社。
 増田寛也編(2014)『地方消滅』中公新書。
 筒井一伸編(2021)『田園回帰がひらく新しい都市農山村関係』ナカニシヤ出版。

成績評価の方法

講義での報告、提出レポートを評価基準とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO591J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学フィールドワークA		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、荒又美陽、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学研究において欠かせない野外調査および統計分析やGISなどを用いた地域研究に関する方法・手法について講義する。野外調査および地域研究は修士論文作成においても必須条件としているので、前期課程1年生はできる限り受講することが望ましい。なお、講義は各教員がそれぞれの専門分野における上記の方法・手法の基礎を概論的に講義するオムニバス形式で行う。

授業内容

- (1) イントロダクション…全員
- (2) 地理学におけるフィールドワーク方法論1(人文)…川口・大城・中澤
- (3) 地理学におけるフィールドワーク方法論2(自然)…梅本・佐々木
- (4) 地理学におけるフィールドワーク方法論3(地誌)…荒又・山本
- (5) 人文地理学のフィールド技法1…川口・大城・中澤
- (6) 人文地理学のフィールド技法2…川口・大城・中澤
- (7) 人文地理学のフィールド技法3…川口・大城・中澤
- (8) 自然地理学のフィールド技法1…梅本・佐々木
- (9) 自然地理学のフィールド技法2…梅本・佐々木
- (10) 自然地理学のフィールド技法3…梅本・佐々木
- (11) 地誌学のフィールド技法1…荒又・山本
- (12) 地誌学のフィールド技法2…荒又・山本
- (13) 地誌学のフィールド技法3…荒又・山本
- (14) 地理学におけるフィールドワーク技法総論…全員

履修上の注意

集中授業の形態をとっているが、合同演習の終了後に授業を行い、そこで講義およびフィールド調査構想の検討を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当教員が別途実施する学部での野外実習に参加し、担当教員の監督の下で学生指導の実習を行うが、そのための指導案を予め作成する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

成績評価の方法

授業への参加状況と討論への参加状況を加味して評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO591J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学フィールドワークB		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、荒又美陽、山口大策、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学研究において欠かせない野外調査および統計分析やGISなどを用いた地域研究に関する方法・手法について講義する。野外調査および地域研究は修士論文作成においても必須条件としているので、前期課程1年生はできる限り受講することが望ましい。なお、講義は各教員がそれぞれの専門分野における上記の方法・手法の応用的な内容を講義するオムニバス形式で行う。

授業内容

- (1) イントロダクション…全員
- (2) 地理学におけるフィールドワーク理論1(人文)…川口・大城・中澤
- (3) 地理学におけるフィールドワーク理論2(自然)…梅本・佐々木
- (4) 地理学におけるフィールドワーク理論3(地誌)…松橋・荒又
- (5) 人文地理学のフィールド分析1…川口・大城・中澤
- (6) 人文地理学のフィールド分析2…川口・大城・中澤
- (7) 人文地理学のフィールド分析3…川口・大城・中澤
- (8) 自然地理学のフィールド分析1…梅本・佐々木
- (9) 自然地理学のフィールド分析2…梅本・佐々木
- (10) 自然地理学のフィールド分析3…梅本・佐々木
- (11) 地誌学のフィールド分析1…松橋・荒又
- (12) 地誌学のフィールド分析2…松橋・荒又
- (13) 地誌学のフィールド分析3…松橋・荒又
- (14) 地理学におけるフィールドワーク分析総論…全員

履修上の注意

集中授業の形態をとっているが、合同演習の終了後に授業を行い、そこで講義およびフィールド調査構想の検討を行う。講義の内容を十分に理解するためには、基礎的な内容の概論をおこなう地理学フィールドワークAを履修しておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当教員が別途実施する学部の野外実習に参加し、担当教員の監督の下で学生指導の実習を行うが、そのための指導案を予め作成する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

成績評価の方法

授業への参加状況と討論への参加状況を加味して評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) IND512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学総合演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	臨床人間学専攻全専任教員		

授業の概要・到達目標

臨床心理学、社会学、教育学のさまざまな研究テーマについて、とりわけ本専攻の専任教員がカバーする研究領域のテーマについて、学際的な観点からの検討を行なう。そのことを通じて、臨床心理学・社会学・教育学の視点を有機的に結びつけ、本専攻の院生が単に臨床心理学あるいは社会学や教育学のそれぞれの専門性を身につけるだけでなく、心理-社会-教育の総合的な視野に立った臨床の専門家になることを主眼とする。臨床心理学・社会学・教育学の教員が共同で授業を担当し、受講生各自の研究テーマに基づく発表に対して指導・助言とディスカッションを受講生および教員間で双方向的に行なう。

授業内容

- 第1回：全体のオリエンテーション
 第2回～第5回：修士論文に関する研究報告とディスカッション

履修上の注意

基本的には、受講生が指導教員の下で取り組む研究テーマの推進とプレゼンテーションを軸に行われる。その際、学際的な広い視野を常に持ち続けることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前調査、授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時において教員から提示された課題に対する院生の回答については、当該教員より、講評する。

成績評価の方法

プレゼンテーション、ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、臨床人間学専攻の必修科目であり、他専攻の学生は受講できない。なお、本演習は、1年次・2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) IND512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学総合演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	臨床人間学専攻全専任教員		

授業の概要・到達目標

臨床心理学、社会学、教育学のさまざまな研究テーマについて、とりわけ本専攻の専任教員がカバーする研究領域のテーマについて、学際的な観点からの検討を行なう。そのことを通じて、臨床心理学・社会学・教育学の視点を有機的に結びつけ、本専攻の院生が単に臨床心理学あるいは社会学や教育学のそれぞれの専門性を身につけるだけでなく、心理－社会－教育の総合的な視野に立った臨床の専門家になることを主眼とする。臨床心理学・社会学・教育学の教員が共同で授業を担当し、受講生各自の研究テーマに基づく発表に対して指導・助言とディスカッションを受講生および教員間で双方向的に行なう。

授業内容

第1回：全体のオリエンテーション
 第2回～第5回：修士論文に関する研究報告とディスカッション

履修上の注意

基本的には、受講生が指導教員の下で取り組む研究テーマの推進とプレゼンテーションを軸に行われる。その際、学際的な広い視野を常に持ち続けることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前調査、授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

院生の発表内容について、教員より提示された課題に対する当該院生からの回答については、当該教員より、講評する。

成績評価の方法

プレゼンテーション、ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、臨床人間学専攻の必修科目であり、他専攻の学生は受講できない。なお、本演習は、1年次・2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) IND612J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学総合演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	臨床人間学専攻全専任教員		

授業の概要・到達目標

臨床心理学、社会学、教育学のさまざまな研究テーマについて、とりわけ本専攻の専任教員がカバーする研究領域のテーマについて、学際的な観点からの検討を行なう。そのことを通じて、臨床心理学・社会学・教育学の視点を有機的に結びつけ、本専攻の院生が単に臨床心理学あるいは社会学や教育学のそれぞれの専門性を身につけるだけでなく、心理－社会－教育の総合的な視野に立った臨床の専門家になることを主眼とする。臨床心理学・社会学・教育学の教員が共同で授業を担当し、受講生各自の研究テーマに基づく発表に対して指導・助言とディスカッションを受講生および教員間で双方向的に行なう。

授業内容

第1回：全体のオリエンテーション
 第2回～第5回：修士論文に関する研究報告とディスカッション

履修上の注意

基本的には、受講生が指導教員の下で取り組む研究テーマの推進とプレゼンテーションを軸に行われる。その際、学際的な広い視野を常に持ち続けることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前調査、授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

院生の発表内容について、教員より提示された課題に対する当該院生からの回答については、当該教員より、講評する。

成績評価の方法

プレゼンテーション、ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、臨床人間学専攻の必修科目であり、他専攻の学生は受講できない。なお、本演習は、1年次・2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) IND612J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学総合演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	臨床人間学専攻全専任教員		

授業の概要・到達目標

臨床心理学、社会学、教育学のさまざまな研究テーマについて、とりわけ本専攻の専任教員がカバーする研究領域のテーマについて、学際的な観点からの検討を行なう。そのことを通じて、臨床心理学・社会学・教育学の視点を有機的に結びつけ、本専攻の院生が単に臨床心理学あるいは社会学や教育学のそれぞれの専門性を身につけるだけでなく、心理-社会-教育の総合的な視野に立った臨床の専門家になることを主眼とする。臨床心理学・社会学・教育学の教員が共同で授業を担当し、受講生各自の研究テーマに基づく発表に対して指導・助言とディスカッションを受講生および教員間で双方向的に行なう。

授業内容

第1回：全体のオリエンテーション
 第2回～第5回：修士論文に関する研究報告とディスカッション

履修上の注意

基本的には、受講生が指導教員の下で取り組む研究テーマの推進とプレゼンテーションを軸に行われる。その際、学際的な広い視野を常に持ち続けることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前調査、授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

院生の発表内容について、教員より提示された課題に対する当該院生からの回答については、当該教員より、講評する。

成績評価の方法

プレゼンテーション、ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、臨床人間学専攻の必修科目であり、他専攻の学生は受講できない。なお、本演習は、1年次・2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理学特論A		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(心理学) 濱田 祥子		

授業の概要・到達目標

臨床実践や臨床心理士の職務内容の特徴について検討する。心理臨床を行う上で生じる問題についても検討し、心理臨床についての理解を深める。第7回までは心理臨床に関する基本的な内容を扱う。第8回以降は子どもの心理療法及び親面接に関する内容を扱う。これらを通して、心理臨床を行う上での基本的な姿勢、認識を養うことを目標とする。

授業内容

第1回：オリエンテーション、授業の進め方の説明、担当の決定
 第2回：第1章 カウンセリングとは何か
 第3回：第2章 カウンセリングの過程
 第4回：第3章 心の構造
 第5回：第4章 カウンセラーの態度と理論
 第6回：第5章 ひとつの事例
 第7回：第6章 カウンセリングの終結と評価
 第8回：第7章 カウンセラーの訓練と指導
 第9回：第8章 カウンセラーとクライアントの関係
 第10回：第9章 カウンセラーの仕事・付章 スーパーバイザーの役割
 第11回：遊戯療法の理論と実際1
 『遊戯療法』岩崎学術出版社V.M.アクスライン(著)小林治夫(訳)
 第12回：遊戯療法の理論と実際2
 『児童分析入門』岩崎学術出版社A.フロイト(著)岩村由美子・中沢たえ子(訳)
 第13回：遊戯療法の実際
 第14回：親面接(これまでの研究等について・事例検討)

履修上の注意

教科書、資料をもとに各回の課題について担当者がレジュメを作成する。担当者の発表をもとに、全体でディスカッションを行う。
 担当に関しては、初回の授業で決定する。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は指定された教科書以外の専門書をもとに、レジュメを準備すること。

教科書

第2回から第10回：『カウンセリングの実際問題』誠信書房 河合隼雄
 第11回から第14回の資料については、授業内で指示する。

参考書

『遊戯療法』岩崎学術出版社V.M.アクスライン(著)小林治夫(訳)
 『児童分析入門』岩崎学術出版社 アンナフロイト著作集 牧田清志・黒丸正二郎監修
 『開かれた小さな扉』日本エディタースクール出版部 V.M.アクスライン(著)岡本浜江(訳)

成績評価の方法

発表の内容(50%)、ディスカッションへの参加態度(50%)

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理学特論B		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(教育学) 佐々木 法子		

授業の概要・到達目標

ジェンダーとセクシュアリティに関する臨床心理学的援助について検討する。特に、心理職側の意識化できていない「性の規範」によって、クライアントにどのような影響が及ぼされるのか考えてもらう。ジェンダーやセクシュアリティの生きづらさに加え、うつや不安、発達障害などが併発しているケースについても取り扱っていききたい。到達目標は、各テーマに関する重要概念や理論を理解すること、実際の臨床実践における基本的な心理学的援助法の方向性をイメージできるようになること、そして自らの抱く「性の規範」をメタ認知できるようになること、である。

授業内容

- 第1回：性科学と臨床心理学(総論)
 - 第2回：性機能障害(1)
 - 第3回：性機能障害(2)
 - 第4回：生殖医療とカウンセリング
 - 第5回：性暴力被害
 - 第6回：性暴力加害
 - 第7回：セックスワーカーの性的健康
 - 第8回：HIV/AIDSカウンセリング
 - 第9回：性的指向とカウンセリング
 - 第10回：性的嗜好とパラフィリア
 - 第11回：性依存
 - 第12回：インターセックス/性分化疾患
 - 第13回：青年・成人期の性別違和
 - 第14回：小児・思春期の性別違和
- ※テーマは履修者の希望によって多少変動する

履修上の注意

発表担当者ではない人たちは予め発表者に対し質問や疑問を提出する。発表者はさまざまな文献を調べてテーマに関する理論や重要概念など内容をまとめ、さらに非発表者からの疑問に答える。

準備学習(予習・復習等)の内容

非発表者は、発表者が準備の時間を十分に取れるよう、余裕をもって質問を渡すこと。

教科書

指定しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

成績評価の方法

発表内容(50%)、ディスカッションの貢献度(50%)により行う。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理基礎実習A		
開講期	春学期	単位	実2
担当者	岡安孝弘、諸富祥彦、小粥宏美、岩井昌也、高田夏子		

授業の概要・到達目標

本専攻は公認心理師および臨床心理士養成を主目的としているが、そのためには心理臨床活動に関する体験的な学習が必須のものとなる。1年次に行われる臨床心理基礎実習Aは、これまで心理臨床活動の実際に触れたことのない受講生が、自らカウンセラーとクライアントの役割を体験する「試行カウンセリング実習」により、心理臨床活動に関する実感を養うことを目的とする。この基礎的な訓練を受けることによって、臨床心理基礎実習Bで予定されている、実際のクライアントを対象とした実習(面接・検査の施行など)がスムーズに行われることを狙っている。

授業内容

受講生が学内・学外の心理相談・治療機関において実習を受けることができるための準備を行なう。ロールプレイング、試行カウンセリングによって、心理面接に関する体験学習を行う。

- (1) ガイダンス
- (2) 臨床心理基礎実習概論
- (3) カウンセリング・ロールプレイ(1)
- (4) カウンセリング・ロールプレイ(2)
- (5) 試行カウンセリングの体験(その1)
- (6) 同上 (その2)
- (7) 同上 (その3)
- (8) スーパービジョン(その1)
- (9) 試行カウンセリングの体験(その4)
- (10) 同上 (その5)
- (11) 同上 (その6)
- (12) スーパービジョン(その2)
- (13) 試行カウンセリングの体験(その7)
- (14) 同上 (その8)

履修上の注意

試行カウンセリングは、時間割上の日程とは独立に行われる。受講生は、自分自身の内面を見つめることの必要性・重要性和難しさについて、覚悟と認識を持つこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

試行カウンセリングの指導時には面接を録音した逐語記録を資料として、毎回教員に提出することが求められる。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は指示する。

成績評価の方法

実習への参加状況と取り組みの質を総合的に勘案して評価する。

その他

本実習は、臨床心理学専修1年次の必修授業であり、かつ他専攻・専修の学生は受講することができない。

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理基礎実習B		
開講期	秋学期	単位	実2
担当者	諸富祥彦、佐々木掌子、小粥宏美、岩井昌也、高田夏子		

授業の概要・到達目標

臨床心理基礎実習Bは、臨床心理基礎実習Aと同様に、公認心理師および臨床心理士養成を目的として心理臨床活動に関する体験的学習を行うものである。臨床心理基礎実習Aで習得した基礎的な心理臨床技法や知識に基づいて、学内外における実際のクライアントを対象とした面接、心理検査の実施など、実践的な実習を行うことを通して、公認心理師および臨床心理士に必要なスキルを高めることを目標とする。

授業内容

学内・学外の心理相談・医療機関において、実際のクライアントを対象とした実習（面接や心理検査など）を行い、その実習記録に基づいたスーパービジョンを通して、心理臨床におけるスキルを高める。

- (1) ガイダンス
- (2) ～ (13) 学内外の心理相談、医療機関におけるカウンセリングや心理検査の実践とスーパービジョン
- (14) 総合的な事例検討会

履修上の注意

学内外での実習は、実習先の都合上、時間割の日程とは独立に行われる。受講生は、実際のクライアントに対応することになるため、大きな責任があることを自覚する必要がある。なお、何か問題を感じた場合には、些細なことでも必ず指導教員に相談すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

クライアントに対応する前には、事前に必ずクライアントの状態像を把握し、それに応じた適切な面接または心理検査ができるよう入念に準備すること。また、終了後には必ず面接記録を作成し、指導教員によるスーパービジョンを受けて、次の面接に臨むようにすること。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は指示する。

成績評価の方法

実習への参加状況と取り組みの質を総合的に勘案して評価する。

その他

本実習は、臨床心理学専修1年次の必修授業であり、かつ他専攻・専修の学生は受講することができない。

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理面接特論I (心理支援に関する理論と実践)		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	岡安孝弘、竹松志乃		

授業の概要・到達目標

本講義では、心理支援に関する主要な理論を確認し、事例研究や体験学習を通してさらに実践的に深く修得することを目的とする。

特論Iでは、まず岡安が行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法に関して、次に竹松が力動論に基づく心理療法の理論と方法、およびその他の心理療法の理論と方法に関して、それぞれ講義を担当するが、ケーススタディを通して、心理支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法を適宜選択・調整していくことの大切さを意識しながら、個人やその家族・周囲の地域社会に対する実際に即した心理支援的アプローチ方法をともに学んでいきたい。

また、臨床現場で心理支援を行う際に必要な臨床家としての基本姿勢を体験的に学習するために、代表的な非言語的面接技法である箱庭療法やコラージュ療法・描画法を各人に制作してもらい、支援を受ける側の疑似体験（「クライアント体験」、制作者以外の受講生にとっては「セラピスト体験」となる）を味わった後で、詳細なレポートにまとめてもらう予定である。

授業内容

現在のところ、以下のような構成で講義を進める予定である。

- 第1回 認知行動療法の基礎(岡安)
- 第2回 不安障害の認知行動療法(岡安)
- 第3回 うつ病の認知行動療法(岡安)
- 第4回 対人的問題における認知・行動変容(岡安)
- 第5回 その理論に関する理論と実践(1)(竹松)
- 第6回 力動論に関する理論と実践(1)(竹松)
- 第7回 力動論に関する理論と実践(2)(竹松)
- 第8回 クライアント理解を深める体験学習(箱庭制作1)(竹松)
- 第9回 クライアント理解を深める体験学習(箱庭制作2)(竹松)
- 第10回 クライアント理解を深める体験学習(箱庭制作3)(竹松)
- 第11回 クライアント理解を深める体験学習(コラージュ制作)(竹松)
- 第12回 クライアント理解を深める体験学習(箱庭・コラージュ制作のまとめ)(竹松)
- 第13回 クライアント理解を深める体験学習(描画法1)(竹松)
- 第14回 クライアント理解を深める体験学習(描画法2)、および全体のまとめ(竹松)

履修上の注意

本講義は1年生の「必修」授業であり、特に実際の体験学習では、グループ自体がそれぞれの参加者の「護り」として機能しなければならない。そのため、(1)「欠席や遅刻」は基本的に認められない、(2)実習外の場面で、実習中の自己および他者に関する体験について、軽々しく口外することは厳に慎むこと。

基本的に「全授業への積極的参加」が単位取得条件となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に資料を配布した場合、読後の感想・意見を各自がまとめて授業に持ち寄り、自分の言葉による活発なディスカッションへの積極的参加が期待される。

また、講義中に紹介する関連文献には積極的に目を通してほしい。

教科書

特に指定しない。講義中にプリントを配布する。

参考書

講義中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、提出者に対し、口頭や紙面へのコメントの形で伝達する。

成績評価の方法

必修であるため、毎回の授業への参加度はもちろんのこと、授業に関する感想レポートの内容(40%)、体験学習後に提出する大レポート(40%)、授業での発表・報告など(20%)から、総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理面接特論Ⅱ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学) 諸富 祥彦		

授業の概要・到達目標

臨床心理面接の基本的なアプローチのいくつかについて、その理論、背景となる思想、人格理論、技法論、臨床の実際などを学んでいく。本講義では、心理療法の代表的な方法の一つであり、我が国の学校カウンセリングや産業カウンセリングの分野において現在も多大な影響を与えつつあるクライエント中心療法について、さまざまな角度から学んでいく。また、この立場の代表的な方法の一つでもあるジェンドリンのフォーカシング指向心理療法についても、具体的に学んでいくこととする。

またその他にも、認知行動論、精神分析、ブリーフセラピーなどの考えや技法を取り入れながら、カウンセリングにおける統合論的なアプローチの考え方と実際に学んでいく。

授業内容

- (1) 臨床心理面接とは
- (2) 臨床心理面接の原理
- (3) 臨床心理面接の視点
- (4) 臨床心理面接のアプローチ(1)
- (5) 臨床心理面接のアプローチ(2)
- (6) クライエント中心療法の間人観
- (7) クライエント中心療法の理論
- (8) クライエント中心療法の技法(1)
- (9) クライエント中心療法の技法(2)
- (10) カウンセリングにおける統合的アプローチ(1)
- (11) カウンセリングにおける統合的アプローチ(2)
- (12) カウンセリングの初期
- (13) カウンセリングの中期
- (14) カウンセリングの後期と終結

履修上の注意

体験的な学習も盛り込むのでそのつもりで参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

体験的な学習の準備をすること。

教科書

諸富祥彦「カウンセリングの理論(上)」誠信書房

参考書

「ロジャーズ主要著作集」(1～3)岩崎学術出版
特に第3巻「自己実現の道」

成績評価の方法

授業への参加度とレポート
評価の基準と内容・配点などについては第1講において説明する。レポートの内容のみならず、授業への関与などすべて評価の対象となる。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅰ)		
開講期	秋学期	単位	実2
担当者	岡安孝弘、伊藤直樹、高瀬由嗣、加藤尚子、竹松志乃、濱田祥子、川島義高		

授業の概要・到達目標

学外の医療機関、教育機関、福祉機関等、ならびに学内に設けられた心理臨床センターでの実習を体験することが、本授業の主たる内容である。その到達目標は、第一に、実習を通して心理的援助の現場では具体的にどのような業務が行われているかを理解すること、第二に、臨床心理学的援助に必要な職業倫理、法的義務、アセスメントと援助に関する基礎的知識や技術を身につけることである。この実習は、学生がやがて勤務するであろうさまざまな職場で、一通りの援助業務が行えるようになるために必要不可欠なものである。

授業内容

まず事前学習(座学)を行う。事前学習では、実習を行うにあたっての心構え、実習先の各機関(主に保健医療・教育・福祉機関等)の業務内容、臨床心理学領域の高度専門職業人に求められる倫理及び法的義務について学ぶ。

その後、学内の実習機関(心理臨床センター)にて、実地のトレーニングを行う。ここでは、まずインテーク面接場面への陪席を通して、初期介入のあり方から、受理に至るまでの流れを体験的に学習する。ついで、心理アセスメントの実際(実施・結果の分析及解釈、報告書・支援計画等の作成、フィードバック等)を学ぶとともに、個別の事例に対する臨床心理学的援助(面接等)を実際に体験する。

学内で基礎的なトレーニングを終えたら、次に学外機関での実習を体験する。学外の実習機関は主に保健医療機関・教育機関・福祉機関である。

保健医療機関での実習は以下の内容を含む。(1) 施設見学、各種の業務見学を通じ、心理職の役割と他職種との連携について学ぶこと、(2) 診察場面への陪席を体験すること、(3) 集団療法場面への参加を体験すること、(4) 心理アセスメントの実際を学ぶこと、(5) 個別の事例に対する臨床心理学的援助(面接等)を実地に学ぶこと、などである。

さらに、教育機関・福祉機関においては、施設見学、各種業務への陪席等を通して、当該機関での臨床心理学的援助の実態や、地域との連携のあり方などを学ぶ。

学内外での実習を終えたら、学生は、すべての実習をふり返り、その内容を本専修の定める方法にしたがって報告するとともに、担当教員から指導を受ける。

※実習は全体で450時間以上におよぶ。ただし、学内実習機関での担当ケースの内容や状況、あるいは受入れ先の学外実習機関の事情等により、上記プログラムの順番や内容が変わることがあるので注意すること。なお、いずれの実習においても、事前・事後には、必ず本専修の指定するスーパーヴァイザーの指導を受けること(「臨床心理特別実習ⅠA・ⅠB(心理実践実習ⅡA・ⅡB)」及び「臨床心理特別実習ⅡA・ⅡB(心理実践実習ⅢA・ⅢB)」)。

履修上の注意

実習自体は1年次の春学期から開始されるが、単位認定は2年次の秋学期にすべての実習を終えた段階で行う。実習であるため、毎回必ず出席すること。また、クライエントや学外実習機関の都合により、所定の時間外に実習を行うこともあるので、適宜、教員の指示に従うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

実習を行う上での留意事項についての説明を受け、特に実習上の倫理的問題について熟知しておくこと。

教科書

特に指定しないが、必要があればその都度指示する。

参考書

特に指定しないが、必要があればその都度指示する。

成績評価の方法

実習への取り組みの状況を総合的に評価する。

その他

実習を行う度に、所定の実習記録表に実習内容を記録すること。

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理実習Ⅱ		
開講期	春学期	単位	実2
担当者	伊藤直樹、高瀬由嗣、加藤尚子、竹松志乃、佐々木掌子、濱田祥子、川島義高		

授業の概要・到達目標

学内外の病院や教育機関の実習を通して、心理的援助の現場で具体的にどのような援助が行われているかを体験することによって、将来勤務するであろう職場で、一通りの援助業務を行えるようになることを到達目標とする。

授業内容

心理臨床センターおよび学外施設において、各自割り当てられた実習を行う。

なお、学期の後半には、それまでに実施した実習内容についての総括的な報告会を開き、各学生が担当した事例等を題材としたディスカッションを行い、よりよい心理臨床のあり方についての理解を深める。

履修上の注意

実習であるため、毎回必ず出席すること。また、クライアントや学外施設の都合により、所定の時間外に実習を行うこともあるので、適宜、指導教員の指示に従うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

実習を行う上での留意事項についての説明を受け、特に実習上の倫理的問題について熟知しておくこと。また、実習後は適宜スーパーヴィジョンを受けること。

教科書

特に指定しないが、必要があればその都度指示する。

参考書

特に指定しないが、必要があればその都度指示する。

成績評価の方法

実習への取り組みの状況を総合的に評価する。

その他

実習を行う度に、所定の実習記録表に実習内容を記録すること。

科目ナンバー：(AL) PSY552J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(心理学) 高瀬 由嗣		

授業の概要・到達目標

臨床心理学的援助方法の1つである心理アセスメントについて学習する。

まず、インテーク面接における心理アセスメントのポイントを概観して、留意すべき点について検討する。ついで、心理検査(主に知能検査)を取り上げて学習する。本演習では特にインテーク面接と知能検査という2つのアセスメント技法の習得を目指す。

授業内容

第1回：オリエンテーション—心理アセスメントとは何か—

第2回：インテーク面接①—インテーク面接の目的と留意点—

第3回：インテーク面接②—インテーク面接で聴くべきこと—

第4回：インテーク面接③—臨床現場での適用(解説とディスカッションその1)—

第5回：インテーク面接④—臨床現場での適用(解説とディスカッションその2)—

第6回：インテーク面接⑤—まとめ(履修者の体験したインテーク面接に対する総評)—

第7回：知能検査の理論と実際①—WAIS-IVの実施その1—

第8回：知能検査の理論と実際②—WAIS-IVの実施その2—

第9回：知能検査の理論と実際③—WAIS-IVの実施その3—

第10回：知能検査の理論と実際④—WAIS-IVの実際のデータの分析—

第11回：知能検査の理論と実際⑤—WAIS-IVの実際のデータの解釈その1—

第12回：知能検査の理論と実際⑥—WAIS-IVの実際のデータの解釈その2—

第13回：フィードバック①—心理検査の報告書の書き方—

第14回：フィードバック②—検査対象者への結果のフィードバックとは—

履修上の注意

本授業では、履修者による実際のアセスメント体験に基づいて討論を進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

各単元について事前に予習し、討論に供えること。

教科書

- 『心理アセスメントの理論と実践』。高瀬由嗣、武藤翔太、関山徹。(岩崎学術出版社)。2020年。
- 『日本版WAIS-IV 理論・解釈マニュアル』。日本版WAIS-IV刊行委員会(日本文化科学社)。2018年。
- 『改訂・新・心理診断法』。片口安史。(金子書房)。1987年。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績評価の方法

アセスメント技法への取り組み50%、演習への参加度30%、レポート成績20%により、総合的に評価する。

その他

授業内容は、受講生の学習度および授業の進行によって変更することもある。

科目ナンバー：(AL) PSY552J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	臨床心理査定演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(心理学) 高瀬 由嗣		

授業の概要・到達目標

本演習では、臨床心理学援助のひとつである心理査定法について、特に投映法に焦点をあてて学習する。なかでも、投映法の代表格とされるロールシャッハ・テスト、文章完成法(SCT)、主題統覚検査(TAT)を取り上げ、その実施・分析・解釈の基礎的な技法を身につけることを目的とする。さらに、これらのテスト結果の伝達方法(検査依頼者への報告書作成、被検査者へのフィードバック)についても検討する。

授業内容

- (1) 投映法心理検査概論:投映法心理検査の定義、:歴史的・理論的背景の概観
- (2) 文章完成法(SCT)①:実施
- (3) 文章完成法(SCT)②:分析・解釈
- (4) ロールシャッハ・テスト①:スコアリング(領域と決定因)
- (5) ロールシャッハ・テスト②:スコアリング(決定因と形態水準)
- (6) ロールシャッハ・テスト③:スコアリング(内容、その他思考障害に関わるスコア)
- (7) ロールシャッハ・テスト④:解釈の理論と方法
- (8) ロールシャッハ・テスト⑤:事例の解釈(量的分析を中心に)
- (9) ロールシャッハ・テスト⑥:事例の解釈(継起分析を中心に)
- (10) 主題統覚検査(TAT)①:実施と解説
- (11) 主題統覚検査(TAT)②:解釈
- (12) 総合的なアセスメントについて—面接・行動観察・テストバッテリー等から得られた結果の統合—
- (13) アセスメント報告書の検討
- (14) 被検査者へのフィードバック方法の検討

履修上の注意

単元ごとに、各心理検査の分析・解釈結果を報告書として記述し、提出してもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

- (1) 各回、教科書・参考書の該当箇所を事前に通読しておくこと。
- (2) ロールシャッハ・テストのスコアリングと解釈に関しては、当該授業の前に、各自行っておくこと。

教科書

- (1) 『心理アセスメントの理論と実践』、高瀬由嗣・武藤翔太・関山徹。(岩崎学術出版社)。2020年。
- (2) 『臨床心理学の実践—アセスメント・支援・研究』、八尋華那雄(監修)高瀬由嗣・明翫光宣(編)。(金子書房)。2013年。
- (3) 『改定・新・心理診断法』、片口安史。(金子書房)。1987年。

参考書

- (1) Exner, J. E. 『The Rorschach; A comprehensive system』(John Wiley & Sons, Inc.)
- (2) グレゴリー・メイヤーほか著、高橋依子監訳『ロールシャッハ・アセスメントシステム』(金剛出版)
- (3) 鈴木睦夫『TATの世界—物語分析の実際』(誠信書房)

成績評価の方法

- (1) 報告書の内容
 - (2) 授業内での発言
- ※評価の基準、配点については第1回の授業の中で説明する。

その他

本授業は、臨床心理学専修博士前期課程1年次の必修授業であり、他専攻・専修の学生は受講することができない。

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	心理学研究法特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅳ)		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(人間学) 伊藤 直樹		

授業の概要・到達目標

本講義は、心理学の研究を行う際に必要となる基本的な知識を身につけることを目的とする。

具体的には、観察法、面接法、実験法、質問紙法などの特徴と、各研究法によって得られた結果の分析方法、さらに、研究遂行に必要な倫理について学ぶ。

また、教員による基本的な解説の後、受講者が各自の研究アイデアをもとに簡単な研究をデザインし、それをもとに分析を行うこともある。

これらの学習を通じて、修士論文作成に必要な研究法の基礎的事項について理解を深めることを目指す。

授業内容

- 第1講 「心理学の研究」とは
- 第2講 質的調査(1) —観察法—
- 第3講 質的調査(2) —面接法—
- 第4講 質的調査(3) —インタビューデータの分析法①:KJ法—
- 第5講 質的調査(4) —インタビューデータの分析法②:GTA—
- 第6講 質的調査(5) —インタビューデータの分析法③:TEM—
- 第7講 実験の方法(1) —実験の論理と種類—
- 第8講 実験の方法(2) —実験の進め方—
- 第9講 量的調査(1) —質問紙法①:質問紙の作り方—
- 第10講 量的調査(2) —質問紙法②:信頼性と妥当性—
- 第11講 量的調査(3) —質問紙法③:結果の基本的処理—
- 第12講 量的調査(4) —質問紙法④:結果の統計的分析—
- 第13講 研究をデザインする—レビュー・論文の作成・研究倫理—
- 第14講 まとめ—心理学の研究に向けて—

履修上の注意

ノートパソコン・ワード・エクセルを使用する授業を数回予定している。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前に、授業で扱う研究法に適したテーマを考えておくことが必要になる。

授業後に、教科書の該当箇所を読み、理解を深めることが望ましい。

教科書

指定しない。

参考書

- 南風原朝和他著 「心理学研究法入門」東京大学出版会 2001年
 吉田寿夫編著 「心理学研究法の新しいかたち」誠信書房 2006年
 三浦麻子著 「なるほど!心理学研究法」北大路書房 2017年
 村井潤一郎編著 「Progress & Application心理学研究法」サイエンス社 2012年
 川喜多二郎 「発想法—創造性開発のために—」中央公論社 1967年
 木下康仁著 「ライブ講義 M-G T A—実証的質的研究法 修正版 グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて—」弘文堂 2007年
 サトウタツヤ編著 「TEMではじめる質的研究—時間とプロセスを扱う研究をめざして—」誠信書房 2009年
 日本心理学会機関誌等編集委員会編 「執筆・投稿の手引き(2015年版)」日本心理学会 2015年
 日本心理学会倫理委員会編 公益財団法人日本心理学会倫理規程 日本心理学会 2011年
 ※その他、授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合には、原則として、次の回の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業で指示された課題に対する取り組み、授業への貢献度を総合的に判断して評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅱ)		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(心理学) 眞榮城 和美		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本授業では、「発達精神病理学」について理解し、福祉領域における支援活動に関わる予防心理学的理論と実践方法について学習する。「発達精神病理学」とは、人の発達がどのように生物学的、心理的、社会的要素によって影響を受けているかについて解明することを目指している学問領域である。教科書として指定している「発達精神病理学～子どもの精神病理の発達と家族関係～」や最新の発達精神病理学的研究知見が掲載されている論文を用い、発達精神病理学的研究アプローチおよび臨床的応用(予防と治療に関する見解)について学ぶ。その際、SEL (Social and Emotional Learning: 社会性と情動の学習の基礎/情動の役割と発達)の理論と展開についても学習する。

【到達目標】

- ①発達精神病理学とは何かについて理解する。
- ②発達精神病理学的研究アプローチを理解する。
- ③子どもの問題行動を予防するアプローチ(SEL: 社会性と情動の学習の基礎/情動の役割と発達)について理解する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション - 発達精神病理学とは何か -
- 第2回 発達精神病理学の独自性
「気質と個性：パーソナリティの発達」に関する視聴覚資料を用いた学習
- 第3回 精神病理の発達におけるダイナミックな過程の同定
- 第4回 発達精神病理学の方法論
- 第5回 発達における“道すじ”：発達の多元論について
- 第6回 影響の複雑なパターン：リスク因子と防御因子
- 第7回 子どもの発達と親のサブシステム
- 第8回 養育と子どもの発達に関する研究の新しい方向性
- 第9回 子どもの発達と夫婦のサブシステム
- 第10回 発達精神病理学の応用
- 第11回 子どもの問題の診断・分類・概念化
- 第12回 予防的アプローチ1 - ソーシャル・エモーショナル・ラーニングとは -
「社会・情動発達の基礎」を中心に
- 第13回 予防的アプローチ2 - 予防心理教育活動の理解・体験的学習 -
- 第14回 総括：まとめと振り返り

履修上の注意

履修に際しては、学部段階で学ぶ発達心理学的知識を踏まえていること。また、本授業履修前に、福祉分野での支援活動に関心を持ち、何らかの形で心理臨床的な実践に従事していること(実習も含む)が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業初回時に各自が発表を担当する章を確定し、毎回の授業で担当者が発表する形式で進めていく。発表者は、担当する章について要約した資料を作成し、発表する。発表者以外の履修者も積極的にコメントできるように、授業初回時に授業担当教員が配布(掲載)した資料を読み込んでくるようにすること。

教科書

授業時に適宜紹介する。

参考書

Cummings, Davies & Campbell, 2000 菅原ますみ(訳) 2006 発達精神病理学 - 子どもの精神病理の発達と家族関係 - ミネルヴァ書房
高橋三郎(監訳) 染矢俊幸・江川純(訳) 2018 DSM-5 児童・青年期診断面接ポケットマニュアル 医学書院
その他、授業中に適宜配布する。

成績評価の方法

授業最終レポート(40%)・発表時の要約資料(30%)・授業後課題への取り組み状況(20%)・授業時の積極的態度(10%)の評価を合わせ、総合評価60%以上であることを単位認定の最低基準とする。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	人格心理学特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ)		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 佐藤 秀行		

授業の概要・到達目標

パーソナリティ(人格)に関する理論、パーソナリティの発達、文化・社会からの影響について概説する。それらに基づき、パーソナリティを理解する方法としての心理的アセスメントの意義、理論と方法について体験を通して学ぶ。さらに、パーソナリティ障害の理解と治療・心理支援といった臨床心理士・公認心理師の業務にとって必要な専門的な知識についても学習する。

パーソナリティ理論、パーソナリティの発達、文化・社会の影響、パーソナリティ障害に関する知識を習得し、それらの知識を基盤として心理的アセスメントを実践するための基礎的な技術を身につけることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：パーソナリティ研究の歴史
- 第3回：パーソナリティの諸理論
- 第4回：パーソナリティの発達
- 第5回：パーソナリティと文化・社会
- 第6回：パーソナリティのアセスメント - 心理的アセスメントの目的・意義・倫理 -
- 第7回：パーソナリティのアセスメント - 心理的アセスメントに関する理論と方法(面接法) -
- 第8回：パーソナリティのアセスメント - 心理的アセスメントに関する理論と方法(質問紙法) -
- 第9回：パーソナリティのアセスメント - 心理的アセスメントに関する理論と方法(投映法) -
- 第10回：パーソナリティのアセスメント - 心理的アセスメントに関する理論と方法(テストバッテリー) -
- 第11回：精神分析理論に基づいたパーソナリティの理解
- 第12回：パーソナリティ障害の理解
- 第13回：パーソナリティ障害の治療と心理支援
- 第14回：まとめと総括

履修上の注意

学部で学修する「感情・人格心理学」、「パーソナリティ心理学」、「心理的アセスメント」の内容を理解していることを前提として授業を進めていくため、事前に復習しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、学部で学んだパーソナリティや心理的アセスメントの内容を復習しておくこと。復習としては、授業の内容について自分なり関心をもって文献等を調べたり、授業で紹介された文献を講読すること。また、心理検査を体験的に学ぶため、授業後に自身の結果を解釈するなどの学習を行うこと。

教科書

教科書は使用しない。適宜、文献を紹介する。

参考書

参考書は使用しない。適宜、文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(貢献度・参加度)(50%)、レポート(50%)を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(社会学) 西田 公昭		

授業の概要・到達目標

この授業は、他者や集団によって心理的支配や虐待を受けた被害者やその家族が抱える問題を社会心理学的に理解して臨床心理学的支援の対策を考える技能を身につけることを目的とする。すなわち、宗教・思想等集団のカルト、犯罪者、DV加害者やサイバシー的人格者などによって遂行される、いわゆる「マインド・コントロール」と呼ばれる心理操作についての全容を解説することによって、それを検討する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション：心理的支配現象の所在について
- 第2回 カルト事件の概要
- 第3回 カルトとは？：集団の特徴と定義
- 第4回 洗脳とマインド・コントロール1：思想改造プログラムの野心
- 第5回 洗脳とマインド・コントロール2：ハースト事件、北九州一家殲滅事件
- 第6回 世界平和統一家庭連合(旧統一教会)とは？
- 第7回 世界平和統一家庭連合の組織管理：マインド・コントロール勧誘と強化
- 第8回 オウム真理教1：なぜ人は集結したのか？
- 第9回 オウム真理教2：なぜメンバーは過激化したのか？
- 第10回 マインド・コントロールによる集団維持・強化および過激化
- 第11回 ママ友支配による児童虐待死事件やグルーミング的な性被害事件
- 第12回 カルトからの脱会とその後の苦悩
- 第13回 「宗教2世」の抱える問題
- 第14回 総括と対策の現状

履修上の注意

社会心理学についての理論や研究法についての基礎知識を身につけていることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業後については文献などで調べることと、次回の授業範囲について事前に基礎情報を調べておくこと。

教科書

使用しない

参考書

『「信じるころ」の科学』西田公昭(サイエンス社)他、授業中に紹介する。

成績評価の方法

授業への積極的な取組み(50%)と、毎回のリアクションレポート(50%)

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(心理学) 室城 隆之		

授業の概要・到達目標

犯罪者・非行少年に対する司法手続き、犯罪・非行の理論について学習した後、司法・犯罪分野の司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践について、各実践領域別に学習する。基本的にテキストや配付資料に基づいて、講義、事例検討、グループ・ディスカッション、ロールプレイなどを組み合わせて授業を進める。

この講義の到達目標は、以下の通りである。

1. 犯罪者・非行少年に対する司法手続きに関する知識を習得する。
2. 犯罪・非行の理論を学習し、実践に使えるようになる。
3. 司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践について理解する。

授業内容

- 第1回 犯罪・非行についての基本的知識
- 第2回 成人犯罪者処遇の流れと少年保護事件手続
犯罪・非行の理論(1)
- 第3回 犯罪・非行の理論(2)
- 第4回 犯罪・非行の理論(3)
- 第5回 犯罪捜査と心理学
犯罪予防と心理学
- 第6回 犯罪・非行の心理学的アセスメント・小テスト
- 第7回 児童相談所における非行への対応
- 第8回 家庭裁判所の在宅事件における非行への対応
- 第9回 保護観察所での犯罪・非行への対応と少年院での処遇
- 第10回 少年事件の面接(ロールプレイ)
- 第11回 刑事施設における成人犯罪者への教育・処遇・犯罪からの立ち直り
- 第12回 家事事件についての基本的知識
- 第13回 家事事件の面接(ロールプレイ)
- 第14回 犯罪被害についての基本的知識
まとめ・小テスト

履修上の注意

履修に当たっては、積極的な受講態度が望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習においては、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習においては、講義資料、テキスト、必要に応じて参考文献を読んで理解を定着させること。

教科書

- ・『司法・犯罪心理学』森丈弓ら著(サイエンス社)
- ・その他、毎回資料を配布する。

参考書

- ・『犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるのか』大淵憲一(培風館)
- ・その他、必要に応じて講義中に指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度(リアクション・ペーパー) 45%、レポート20%、小テスト35%

その他

大学で学ぶ司法・犯罪心理学よりも心理的支援の実践を重視した講義になる予定です。

科目ナンバー：(AL) MED511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	精神医学特論Ⅰ (保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ)		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(医学) 道喜 将太郎		

授業の概要・到達目標

精神医学の概論から学び、代表的な各疾患の病理、診断、治療、社会的支援について基本的な知識の理解を深める。特に、精神科医療の実践に触れるために、症例の診断や治療について議論を行う。後半では社会的に問題となっている災害時の精神医療や職域のメンタルヘルスを取り上げ、社会精神医学についても学ぶ。到達目標は、各疾患の基本的知識の習得と、臨床家がどのような考え方で治療にあたっているかの感覚を身につけることである。

授業内容

- 第1回：精神疾患概論(成因、症状、診断法)
- 第2回：統合失調症
- 第3回：気分障害(うつ病)
- 第4回：気分障害(双極性障害)
- 第5回：神経症性障害(不安障害、強迫性障害)
- 第6回：ストレス関連障害、睡眠障害
- 第7回：依存症
- 第8回：発達障害1
- 第9回：発達障害2
- 第10回：認知症
- 第11回：Case Study 1
- 第12回：災害時の精神医療
- 第13回：職域のメンタルヘルス1
- 第14回：職域のメンタルヘルス2

履修上の注意

精神医学の初学者も対象とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習の必要はない。但し、DSMやICDで授業範囲の疾患について診断基準を確認しておくことと理解が深まる。

教科書

特に定めないが、授業の中で資料を提供する。

参考書

参考書、参考文献は授業の中で示す。

成績評価の方法

レポート(30%)と授業への参加度・貢献度(70%)を評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) MED511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ)		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 竹内 伸		

授業の概要・到達目標

心身相関の基礎である「脳の仕組み」と「脳と身体つながり」について、神経細胞レベルからネットワークレベルまでを網羅し、脳の基礎から臨床まで、脳と身体相互作用について総合的に理解する。心理療法に取り入れられている身体的介入の基礎についても学習し、広汎な臨床応用に備える。

授業内容

- 第1回：心身相関とは？
- 第2回：神経細胞の働き
- 第3回：中枢神経の成り立ち
- 第4回：脳の構造と機能—脳幹と自律神経
- 第5回：脳の構造と機能—大脳辺縁系
- 第6回：脳の構造と機能—大脳新皮質
- 第7回：ポリヴェーガル理論
- 第8回：辺縁系の機能と心理
- 第9回：デフォルトモードネットワーク
- 第10回：扁桃体と皮質
- 第11回：脳の発達とトラウマ
- 第12回：身体化障害と身体表現性解離
- 第13回：身体疾患と心理
- 第14回：向精神薬の基礎

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

脳の部位についてなど聞きなれないと難しい用語も多いため、授業ごとにそれらを確認しておくこと。

教科書

参考書

授業の中で随時紹介する

成績評価の方法

授業への参加状況、発言、及び授業内でのレポートなどを総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開I)		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 山崎 晃史		

授業の概要・到達目標

障害(特に発達障害)をもつ児童や人の心理社会的課題を理解する。また、その支援について、障害福祉を中心に、保健、医療、教育、労働を含めた諸視点、諸制度をふまえながら検討できるようにする。加えて、インクルーシブな保育、教育の視点も参照できるようにする。

授業はテキストを分担して発表し、質疑、ディスカッションを行い、理解を深めていくスタイルである。発表者は関連する論文も紹介する。教員は臨床経験を元にさまざまな疑問に答え、補足して解説していく。これらにより、福祉分野に関わる公認心理師のあり方を具体的に考察していくことにもなる。

授業内容

- 第1回 障害領域における心理支援のあり方
- 第2回 発達障害をめぐる基礎知識
- 第3回 障害をもつ人の人権と障害理解のあり方
- 第4回 発達障害の原因を巡る諸視点
- 第5回 専門職連携協働実践を基盤とした心理支援
- 第6回 社会資源を知る
- 第7回 調査発表1
- 第8回 調査発表2
- 第9回 発達支援1
- 第10回 発達支援2
- 第11回 学童期の支援とインクルーシブ教育
- 第12回 青年期以降の支援1
- 第13回 青年期以降の支援2
- 第14回 まとめ

履修上の注意

知的障害を含めた広義の発達障害の理解と支援の基本を学んでいることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

知的発達症、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害の基本的知識を事前に整理しておくこと。

教科書

『公認心理師・臨床心理士のための発達障害論』大石幸二監修・山崎晃史編著、2019(学苑社)

参考書

- 『発達障害の心理臨床—子どもと家族を支える療育支援と心理臨床的援助』田中千穂子ほか、2005(有斐閣)
- 『軽度発達障害—繋がりがあって生きる』田中康雄、2008(金剛出版)
- 『子どもの感情コントロールと心理臨床』大河原美以、2015(日本評論社)
- 『発達障害のいま』杉山登志郎、2011(講談社)
- 『子ども虐待という第四の発達障害』杉山登志郎、2007(学習研究社)
- 『注意欠如・多動症-ADHD-の診断・治療ガイドライン第4版』ADHDの診断・治療指針に関する研究会・齊藤万比古編集、2016(じほう)
- 『発達障害の子のライフスキル・トレーニング』梅永雄二監修、2015(講談社)

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)および授業での報告発表内容(50%)により評価する。

その他

発達障害の理解と支援のあり方は成人を含めた他領域のさまざまな課題とも通じているので、発達領域を専門にしない場合でも受講することを推奨する。

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(心理学) 岡安 孝弘		

授業の概要・到達目標

心の病気を予防し、健康を増進することを目的とした健康心理学について、特に行動理論に基づいた健康リスクの高い行動の変容を目指す技法について解説する。また、受講者自身の健康リスク行動を同定し、それを変容するための実践を行う。それらを通して、被援助者に対する健康増進のための実践的な介入技法について習得することを目標とする。

授業内容

健康心理学における疾病予防および健康増進のための介入の具体的技法について、さまざまな文献を講読しながら解説する。主な内容は以下の通りである。

- (1)健康心理学の考え方と介入目標
- (2)健康心理学的アセスメント技法
- (3)不安のマネジメント技法(1)
- (4)不安のマネジメント技法(2)
- (5)うつ病のマネジメント技法(1)
- (6)うつ病のマネジメント技法(2)
- (7)不登校・ひきこもりの支援
- (8)ストレスマネジメントの基礎
- (9)職場におけるストレスマネジメント
- (10)学校におけるストレスマネジメント
- (11)ソーシャルスキル・トレーニング
- (12)アサーション・トレーニング
- (13)インターネット依存への支援
- (14)健康心理学的地域支援のあり方

履修上の注意

毎回必ず出席すること。各回において、提示された論文を輪読し、その内容についてディスカッションを行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回において講読した文献の内容に基づいて、それを臨床実践にどのように活用できるかを検討しておくこと。

教科書

授業開始時に指定する。

参考書

特に指定しないが、必要があればその都度紹介する。

成績評価の方法

授業における発表内容(40%)、レポートの内容(40%)、ディスカッションへの参加(20%)により評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	心理療法特論		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師	富士見 ユキオ	

授業の概要・到達目標

心理療法について、諸学派の基本姿勢、理論、技法、臨床の実践などについて、具体的な事例をもとに多角的に考察を加える。臨床への基本的な姿勢を、具体的なアプローチを通して学ぶ。

授業内容

- 第1回 心理療法とは
- 第2回 心理療法の基本姿勢
- 第3回 心理療法の本質(1)
- 第4回 心理療法の本質(2)
- 第5回 心理療法のパースペクティブ(1)
- 第6回 心理療法のパースペクティブ(2)
- 第7回 心理療法のアプローチ(1)
- 第8回 心理療法のアプローチ(2)
- 第9回 心理療法のアプローチ(3)
- 第10回 心理療法のアプローチ(4)
- 第11回 心理療法のアプローチ(5)
- 第12回 心理療法の技法(1)
- 第13回 心理療法の技法(2)
- 第14回 心理療法の実践

履修上の注意

集中講義のため、原則として全日参加が可能であること。
臨床心理の研修者として、真剣に、本気で学ぶ姿勢でくることが。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習は、藤見著を初回までに読んでおくこと。ミンデル著を最終回までに読んでおくこと。復習は、授業の後、毎回(A)授業のまとめ、質問、意見をA4レポート1枚にまとめ、提出すること。

教科書

藤見著『痛みと身体の心理学』(新潮社)

参考書

ミンデル著『うしろ向きに馬に乗る』(春秋社)

成績評価の方法

レポート50点、平常点50点(平常点は、講義の中でおこなう心理療法の臨床的トレーニングへの参加姿勢、積極さ、真剣さ、集中力などを観察し、総合的に評価する。)

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	グループアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践I)		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(人間学) 藤岡 孝志	

授業の概要・到達目標

グループアプローチとは、集団心理療法、エンカウンターグループ、サイコドラマなど集団を用いた心理的援助方法の一つである。臨床心理学の領域では、個人療法と集団療法は相互補完的に発展を遂げてきた。本講義では、集団のメンバー体験を取り入れながら、グループアプローチに関する理論と実際、およびグループリーダーのあり方について学習する。

授業内容

- 1. 集団心理療法への扉を開く：我が国におけるグループアプローチの現況を理解する。
- 2. 集団心理療法の効果及び適用決定に関する問題を理解する。
- 3—5. グループメンバー体験(サイコドラマグループ)：実際のグループセッションを行い、その後の振り返りから実際のな知識を獲得する。
- 6—8. エンカウンターグループの意義と理解(構成・非構成、言語・非言語、雰囲気等)、グループ体験とその振り返りから実際のな知識を獲得する。その上で、催眠法、動作法、絵画法などのグループアプローチへの活用を体験的に学習する。
- 9. 愛着臨床アプローチにおける心理劇の位置づけについて：実際のグループセッションを行い、その後の振り返りから実際のな知識を獲得する。
- 10. メンバー体験を通して学んだ、セラピスト、ファシリテーターの役割や機能、留意すべき点について学習する。
- 11. 不登校支援におけるグループアプローチについて
- 12. 発達障がい児、被虐待児におけるグループアプローチについて
- 13. 集団心理療法の理論：心理劇、エンカウンターグループ、精神分析的視点からのBion(ビオン)などの集団に関する考え方などを学習する。
- 14. 質疑応答、グループ体験とグループセラピストに関する全体の振り返りを行う。及び、レポートテストを施行する。

履修上の注意

オープンマインド持参で受講のこと。グループの中に「居ること」にまず意義があるので、体調等を整えて毎回参加されたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ、グループアプローチ(サイコドラマ等)について予習しておくこと。さらに、毎回、事前に予定された内容を予習し、授業後は、体験的に学んだことを自身の臨床にどう生かすか、書き留めておくこと(復習)。

教科書

特に定めない。適宜レジメを配布する。

参考書

『サイコドラマの技法—基礎・理論・実践—』(高良聖 著)(岩崎学術出版社)
『愛着臨床と子ども虐待』(藤岡孝志著)(ミネルヴァ書房)
『不登校臨床の心理学』(藤岡孝志著)(誠信書房)
『支援者支援養育論—子育て支援臨床の再構築—』(藤岡孝志著)(ミネルヴァ書房)

成績評価の方法

授業中に行われる討論での発表、自己分析の深さ、レポート内容、そして、最終回におけるレポートテストを考慮して総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	コミュニティアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践II)		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(コミュニティ福祉学) 加藤 尚子		

授業の概要・到達目標

「臨床心理的地域援助」は、「心理アセスメント」、「心理面接」と並び、臨床心理士の専門的技術として掲げられている。しかしながら、コミュニティにおける臨床実践の具体的な方法については、必ずしも十分に研究・教育されているとはいえない。本講義では、基本的なコミュニティ心理学の理論について学ぶと共に、各領域におけるコミュニティアプローチの実際を通して、臨床心理的援助のあり方や心理士の役割などについて、共に考えていきたい。特に、児童虐待や福祉領域の臨床心理学的問題について詳しく検討していく。また、CARE等の実践的なペアレンティングプログラムの習得も目指す。

授業においては、講義・演習形式の授業と、実際のフィールドワークを交えた集中講義を組み合わせで行う。文献講読と子ども家庭支援センターや児童養護施設などのフィールドスタディをふまえたレポートを通して、実践的に行っていく。

授業内容

- 第1回：コミュニティアプローチとは何か
- 第2回：コミュニティアプローチに関する基礎理論と論文講読(臨床心理地域援助とは)
- 第3回：コミュニティアプローチに関する基礎理論と論文講読(予防と予防的介入)
- 第4回：コミュニティアプローチに関する基礎理論と論文講読(危機介入)
- 第5回：コミュニティアプローチに関する基礎理論と論文講読(コンサルテーション)
- 第6回：コミュニティアプローチに関する基礎理論と論文講読(コラボレーション)
- 第7回～14回：フィールドリサーチ(児童養護施設、子ども家庭支援センター、児童自立支援施設、など)、CAREワークショップ

履修上の注意

各自必ずフィールドリサーチに参加し、レポートをまとめることを必修とする。積極的な授業への関与を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

関係する文献にあたっておくこと。また授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

「施設心理士という仕事」加藤尚子編著、ミネルヴァ書房

参考書

「臨床心理地域援助特論」箕口雅博著 日本放送出版協会
 「臨床心理学を学ぶ5コミュニティアプローチ」高嶋克子 東京大学出版
 ほか、必要に応じて随時紹介する。

成績評価の方法

授業への参加状況、発表内容、レポートなどを総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学) 諸富 祥彦		

授業の概要・到達目標

学校臨床心理学の理論と実際について具体的に検討する。スクール・カウンセラーとしての活動のみならず、学校での特別支援、学校アセスメント、チーム支援など、具体的方策について検討していく。

授業内容

- 第1回：学校臨床心理学の原理
- 第2回：学校臨床心理学の理論(その1)
- 第3回：学校臨床心理学の理論(その2)
- 第4回：スクールカウンセリングの役割
- 第5回：スクールカウンセラーの活動の実際(その1)
- 第6回：同上(その2)
- 第7回：同上(その3)
- 第8回：不登校支援
- 第9回：いじめへの対応
- 第10回：教室での特別支援
- 第11回：チーム支援
- 第12回：学校でのアセスメント
- 第13回：構成的エンカウンター、SST
- 第14回：まとめ(総合討論)

履修上の注意

学校臨床心理の実際について具体的に学んでいくので真剣に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

今回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

参考書

諸富祥彦「SCと教師のための学校で使えるカウンセリング・テクニック」一巻から五巻 ぎょうせい

成績評価の方法

評価の基準と内容、配点などについては第I講において説明する。
 レポートの内容のみならず、授業での発言についても評価の対象とする。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	投映法特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師		岩井 昌也

授業の概要・到達目標

本講義では主要な心理検査の一つであるロールシャッハ・テストについて取り上げる。ロールシャッハ・テストにはいくつかの流派があるが、本講義では世界的な広がりを見せているExner, J.E.の包括システム(The Comprehensive System)について学ぶ。包括システムは主だったロールシャッハ理論を統合した包括的な理論体系であり、統計的妥当性を軸に置きながらも精神力動的視点を兼ね備えた、バランスの良さが魅力である。テストの施行やコーディングの基準、解釈仮説なども標準化されており、初心者にも学びやすく、熟練者もテスト結果から得られる情報量の多さに十分納得できるものと思われる。

本講義ではロールシャッハテストの施行、結果の整理から、得られたデータの見方、臨床的な解釈と臨床場面への活用までを学ぶことになる。まずは正しいテスト施行法とコーディングを習得し、集計したデータからどの部分に注目し、実際の臨床像と結びつけ、その被検者の心理特性の理解と治療方針に役立てていくかを学ぶことが目標である。

授業内容

- 第1回 ロールシャッハ・テストの歴史と包括システムの特徴
- 第2回 施行法(ロールプレイ含む)
- 第3回 コーディング1(領域、発達水準、決定因子)
- 第4回 コーディング2(形態水準、反応内容、平凡反応)
- 第5回 コーディング3(組織化活動、特殊スコア)
- 第6回 結果整理と構造一覧表の作成1
- 第7回 結果整理と構造一覧表の作成2
- 第8回 解釈の進め方1(解釈戦略、付置、統制力)
- 第9回 解釈の進め方2(感情、自己知覚)
- 第10回 解釈の進め方3(対人知覚、情報処理、媒介過程)
- 第11回 解釈の進め方4(思考、最終所見の作成)
- 第12回 事例検討1
- 第13回 事例検討2
- 第14回 事例検討3

履修上の注意

テストの施行法や解釈の進め方など、実践的な内容が多いため、授業への毎回の出席が前提である。理由のない欠席は成績評価にかなり影響することに留意されたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回プリントを配布するので、次回までに各自目を通して授業に臨むこと。特に授業は連続性があるので、以前学んだことも忘れないように常にプリントを読み返して準備しておくこと。また次回までの課題を出すこともしばしばある。

教科書

『ロールシャッハ形態水準ポケットガイド』中村紀子ほか共訳(さがみや書店)
 *一般書店では入手困難であり、入手方法については第1回の授業時に説明する

参考書

『ロールシャッハ・テスト・包括システムの基礎と解釈の原理』中村紀子・野田昌道監訳(金剛出版)

成績評価の方法

授業への参加度50%、授業への取り組みの積極性30%、課題20%

その他

とくになし

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	投映法特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師		加藤 佑昌

授業の概要・到達目標

本授業では、投映法のなかでもロールシャッハ・テストを扱い、その解釈法のひとつである継起分析を中心に学びます。継起分析とはsequence analysisの訳語ですが、sequence analysisは継列分析や系列分析とも訳されます。本授業で扱う「継起分析」は、精神分析理論を解釈の理論的基盤に据えた解釈法として馬場禮子が発展させたものを指します。この継起分析は独自のシステムを持たないので、どんなシステムでも解釈が可能ですが、本授業は片口法を用います。

授業では、ロールシャッハ・テストの一つの素材事例を用いて、施行から解釈までを疑似体験しながら段階的に学びます。その際、ワークやグループ検討を通して、頭だけでなく体や心も使いながら体験的に学ぶことを目指します。それと並行し、ロールシャッハ・テストで得られた情報を、被検者の「人となり」としてまとめあげるために必要なパーソナリティ理論や精神病理学の理論なども学びます。

到達目標は、医療機関で使用されることの多いロールシャッハ・テストの施行法から解釈、フィードバックまでのおおよその基本的な流れや知識を理解し、実践できるようになることです。

授業内容

- 第1回 ロールシャッハ・テストとは:概要と施行方法
- 第2回 ロールプレイ
- 第3回 記号化(Scoring)の講義と演習
- 第4回 記号化(Scoring)の演習
- 第5回 各記号の解釈仮説理論と量的分析
- 第6回 量的分析(1)項目ごとの解釈
- 第7回 量的分析(2)複数項目
- 第8回 継起分析に必要な基礎理論
- 第9回 継起分析に必要なパーソナリティ理論
- 第10回 継起分析のワーク(1)第1～2図版
- 第11回 継起分析のワーク(2)第3～5図版
- 第12回 継起分析のワーク(3)第6～7図版
- 第13回 継起分析のワーク(4)第8～10図版
- 第14回 ここまでに得られた解釈情報のまとめ

履修上の注意

授業でも片口法の施行・記号化(Scoring)の基礎に関して講義しますが、実践的な解釈を中心に学ぶ授業なので、片口法の基本的な施行・記号化(Scoring)の知識を身につけている受講生を想定しています。

本授業では、ワークやグループでの検討を重要視しており、多く行います。そこで生じた不明点などは放置せず、その場で質問するなど主体的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

ロールシャッハ・テストは、心の動きや病理の重さなどをこまやかに読み解く上で非常に役に立ちます。その分、習得には時間と労力が必要で、半期の授業で学べることには限りがあります。そこで、準備学習として、参考書の指定された範囲を読んで不明な点を見出すこと、課題に取り組み学んだ知識を定着させることが求められます。

教科書

講義は毎回配布する資料を中心に進めます。配布資料は以下の参考文献をもとに作成されています。

参考書

『改訂 新・心理診断法』片口安史著(金子書房)
 『改訂 ロールシャッハ法と精神分析—継起分析入門—』馬場禮子著(岩崎学術出版社)
 『力動的的心理査定—ロールシャッハ法の継起分析を中心に—』馬場禮子編著(岩崎学術出版社)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施される課題やレポートに対して、その次の授業に開設の時間を設けます。

成績評価の方法

毎回、ワークやグループ検討を行います。その際に積極的に意見や質問を述べられることなどの授業への参加度・貢献度を90%、授業内で実施する課題・レポートの点数の総計を10%で評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理特別実習ⅠA (心理実践実習ⅡA)		
開講期	春学期	単位	実2
担当者	増沢 高、伊藤直樹、川島義高		

授業の概要・到達目標

臨床心理基礎実習を補うための実習である。受講生が学内・学外の心理相談・治療機関において実習を受ける準備として、講義、文献講読、模擬事例や事例論文の検討等を通して、クライアントの状態像の把握、行動観察、生育歴や家族歴の把握と理解、家族力動の理解、日常生活の把握、心理学的諸検査等の活用のある方、クライアントーセラピスト間で生ずる力動の理解など心理的支援の基盤となる「包括的アセスメント」の基本について習得する。あわせて、相談機関など、臨床現場への視察も行い、臨床実践の理解を深める。

授業内容

- 14回の予定は次の通りである。
- ①イントロダクション
 - ②「ケースの包括的アセスメントについて」講義
 - ③「状態像の把握と行動観察について」講義と演習
 - ④「ジェノグラムの描き方」演習
 - ⑤「家族の状況、生育歴等のアセスメントに必要な情報」についての講義と演習
 - ⑥「相談者の課題と強み」の理解と方針設定について、模擬事例を用いた検討
 - ⑦論文講読
 - ⑧児童福祉制度と臨床の展開についての講義
 - ⑨児童福祉領域にある施設や機関についての講義
 - ⑩—⑭事例検討あるいは施設見学

履修上の注意

実際の事例や臨床現場に触れるため、倫理と責任に関して厳に心得ておかななくてはならない。また児童虐待等子どもの問題に関して日ごろから関心を持つ姿勢が望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業の進行にあわせて、資料やワークシートを配布するので、授業の終了後はそれを使用して復習すること。

教科書

増沢高著「子ども家庭支援の包括的アセスメント」(明石書店、2018)

参考書

随時、授業の中で紹介する。

成績評価の方法

授業への参加姿勢、およびスーパービジョンを通して、ケースに向き合う姿勢等、実際の活動内容を総合的に評価し、授業の評価とする。

その他

公認心理師試験を受験希望する者は、必ず履修すること。

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理特別実習ⅠB (心理実践実習ⅡB)		
開講期	秋学期	単位	実2
担当者	増沢 高、伊藤直樹、川島義高		

授業の概要・到達目標

受講生が学内・学外の心理相談・治療機関において実習を行った事例について事例検討を行う。事例検討を通して、情報を把握する視点、情報を分析し、クライアントの課題や強みを整理する視点、適切かつ効果的な支援方法をみ出す視点を深める。様々な臨床現場の事例にふれ、検討を繰り返すことで、受講者の「包括的アセスメント」の能力を高める。

授業内容

14回の予定は次の通りである。

- ①イントロダクション
- ②実習先の概要報告と事例検討-1
- ③実習先の概要報告と事例検討-2
- ④実習先の概要報告と事例検討-3
- ⑤実習先の概要報告と事例検討-4
- ⑥実習先の概要報告と事例検討-5
- ⑦実習先の概要報告と事例検討-6
- ⑧実習先の概要報告と事例検討-7
- ⑨実習先の概要報告と事例検討-8
- ⑩実習先の概要報告と事例検討-9
- ⑪実習先の概要報告と事例検討-10
- ⑫実習先の概要報告と事例検討-11
- ⑬実習先の概要報告と事例検討-12
- ⑭実習先の概要報告と事例検討-13

履修上の注意

実際の事例を扱うため、倫理と責任に関して厳に心得ておかななくてはならない。事例報告に際しては個人が特定できないよう十分な配慮をして作成すること。事例報告資料は必ず回収し破棄すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業の進行にあわせて、関連資料等を配布するので、復習すること。

教科書

増沢高著「子ども家庭支援の包括的アセスメント」(明石書店、2018)

参考書

随時、授業の中で紹介する。

成績評価の方法

授業への参加姿勢、およびスーパービジョンを通して、ケースに向き合う姿勢等、実際の活動内容を総合的に評価し、授業の評価とする。

その他

公認心理師試験を受験希望する者は、必ず履修すること。

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	臨床心理特別実習ⅡA (心理実践実習ⅢA)		
開講期	春学期	単位	実2
担当者	吾妻ゆかり、高瀬由嗣、竹松志乃		

授業の概要・到達目標

本講では毎回受講生に各自が担当している事例の概要、検討点、その後の心理面接の展開について詳しく呈示してもらう。そして、様々な視点から事例を検討していく。

心理面接の導入と展開の実際を学び、心理職として心理面接していくための力をつける。

授業内容

前期課程2年次になると学内外の実習施設で本格的に事例にかかわることになる。本講では、受講生に学内外で心理面接を担当している事例を呈示してもらい、グループスーパーヴィジョンを行っていく。心理職がかかわる事例は、時代とともに重篤な例が増えてきている。個々の心身の発達に様々な障害が見られ、家族の病理も深刻で、多くの要因が複雑に絡み合い、危機的な状況を呈する事例が目立つ。問題が重層化しており、導入期の心理面接の中で心理アセスメントに迷う難しい事例が多く見られる。しかし、そのような困難な事例をどのように見立てていくか、どのように面接の流れを見ていくか、どのようにその後の経過を追っていくかなど、臨床心理の幅広い視点に立ち柔軟に考えていく。受講生たちは、事例を担当するようになり、それまで学んできた理論と現実とのギャップに直面することが予想されるが、理論と現実の橋渡しを行なうグループスーパーヴィジョンをめざし、臨床心理領域の高度専門職業人を育成する。

受講生たちは個人スーパーヴィジョンも並行して受けている。本講では、グループスーパーヴィジョンという特色を生かして、お互いに事例を発表したり事例の発表を聴くことを通して、共感したり疑問に思ったり自由に意見を交換し、事例を深く理解すること、臨床心理について幅広く考えることを目的とする。また、スーパーヴィジョンで指摘されたことや考えたことを、自分自身の中に取り入れ消化していく過程が重要であるため、本講で事例を発表し、その中で出てきた疑問や感想を吟味し振り返る時間を十分にとって講義を進めていく。受講生らにとって、個人スーパーヴィジョンとグループスーパーヴィジョンが心理実践実習の両輪としてうまく作用していくことをめざしている。

第1回：心理面接についての講義と今後のイントロダクション
第2回から第13回：事例報告と検討（毎回受講生に順番に報告してもらう）

第14回：報告した事例についての再検討とまとめ

履修上の注意

臨床心理に携わることに畏敬の念を持ち、事例の秘密保持などに責任を持つことが求められる。1年次までのカリキュラムを十分に習熟して講義に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

関係する文献にあたること。また授業で紹介する内容について文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

方法としての面接 土居健郎
精神療法の第一歩 成田善弘
カウンセリングの実際問題 河合隼雄
その他必要に応じて紹介する。

成績評価の方法

スーパーヴィジョンという性格上、事例の理解や心理面接それ自体に評価は行わない。レポートの提出状況、講義に真摯に取り組む姿勢などを評価の対象とする。

その他

公認心理師試験を受験希望する者は、必ず履修すること。

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	臨床心理特別実習ⅡB (心理実践実習ⅢB)		
開講期	秋学期	単位	実2
担当者	吾妻ゆかり、高瀬由嗣、竹松志乃		

授業の概要・到達目標

本講では春学期と同様に毎回受講生に各自が担当している事例の概要、検討点、その後の心理面接の展開について詳しく呈示してもらう。そして、様々な視点から事例を検討していく。

心理面接の導入と展開の実際を学び、心理職として心理面接していくための力をつける。心理面接の展開と終結の実際を学び、心理職として心理面接していくための力をつける。

授業内容

前期課程2年次の秋学期に入ると、学内外の実習施設での実習も軌道に乗ってくる。本講では、春学期に引き続き受講生に学内外で担当する事例を呈示してもらい、グループスーパーヴィジョンを行っていく。春学期の欄で述べた点に加えて、とりわけ面接が展開していく中で、実習生とクライアントの関係を軸に面接過程を振り返っていくことに重点を置く。「今ここ」で、実習生が感じることを通して、事例を理解していくことに焦点をあてていく。それと同時に大抵の実習先は翌年3月に修了となるために、心理面接の終結や引継ぎをどのように行っていくかに重点を置いてスーパーヴィジョンを行っていく。

受講生たちは、修士論文を書きながら実習先で心理面接を担当し、本講で事例を発表し忙しくなるが、しっかりと土台を築き、臨床心理学領域の高度専門職業人を養成する。

第1回：心理面接についての講義と今後のイントロダクション

第2回から第13回：事例報告と検討（毎回受講生に順番に報告してもらう）

第14回：報告した事例についての再検討とまとめ

履修上の注意

臨床心理に携わることに畏敬の念を持ち、事例の秘密保持などに責任を持つことが求められる。1年次までのカリキュラムを十分に習熟して講義に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

関係する文献にあたること。また授業で紹介する内容について文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

基本的な参考書に加えて、さらに専門的な参考書や論文を必要に応じて紹介する。

成績評価の方法

スーパーヴィジョンという性格上、事例の理解や心理面接それ自体に評価は行わない。レポートの提出状況、講義に真摯に取り組む姿勢などを評価の対象とする。

その他

公認心理師試験を受験希望する者は、必ず履修すること。

科目ナンバー：(AL) SOC515J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学総合演習A		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	大畑裕嗣、平山満紀、内藤朝雄、昔農英明、宇田和子		

授業の概要・到達目標

専攻(コース)の全員が集って、研究交流をする。フィールドワークに関して学生が発表し、検討をおこなう。現場と学問知の往復をしながら、現場の問題を明らかにし、また問題解決に寄与し、学問知の発展をめざす。場合によっては、フィールドの方々(市民運動の担い手、行政職員など)に参加していただき、ともにフィールドワークのあり方を検討する。

授業内容

集中講義形式で、現代社会学専攻(臨床社会学コース)の博士前期課程の専任教員全員と学生全員が集まり、特に学生の手掛けているフィールドワークについて、報告し、検討する。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

学生は、自分の修士論文、そのほか関心をもつテーマに関して、全員がフィールドワークに取り組み、本授業のために、その報告を準備する。

教科書

参考書

成績評価の方法

フィールドワークの質量、報告の質量、参加度の総合評価とする。評価については、教員たちの合議で決める。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC515J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学総合演習B		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	大畑裕嗣、平山満紀、内藤朝雄、昔農英明、宇田和子		

授業の概要・到達目標

専攻(コース)の全員が集って、研究交流をする。フィールドワークに関して学生が発表し、検討をおこなう。現場と学問知の往復をしながら、現場の問題を明らかにし、また問題解決に寄与し、学問知の発展をめざす。場合によっては、フィールドの方々(市民運動の担い手、行政職員など)に参加していただき、ともにフィールドワークのあり方を検討する。

授業内容

集中講義形式で、現代社会学専攻(臨床社会学コース)の博士前期課程の専任教員全員と学生全員が集まり、特に学生の手掛けているフィールドワークについて、報告し、検討する。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

学生は、自分の修士論文、そのほか関心をもつテーマに関して、全員がフィールドワークに取り組み、本授業のために、その報告を準備する。

教科書

参考書

成績評価の方法

フィールドワークの質量、報告の質量、参加度の総合評価とする。評価については、教員たちの合議で決める。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床社会学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 昔農 英明		

授業の概要・到達目標

授業担当者は、これまで欧米諸国や日本におけるエスニック・マイノリティの排除や共生問題に照準して研究してきた。本授業では、これらのテーマを中心に、国際社会学の重要なテーマについて、論文を輪読したり、各自の研究テーマについて報告を行ってもらい、全体でディスカッションを行う。輪読する論文は、受講生のテーマを考慮の上、院生と相談の上で決定する。また受講者が修士課程学生であり、研究のやり方をまだ理解していないと考えられることから、論文の書き方や研究報告の仕方、研究の進め方など、多くの院生にとって不可欠となる研究スキルについても講義し、議論をしたいと考えている。

授業内容

- 第1回 授業計画の決定
- 第2回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(1)
- 第3回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(2)
- 第4回 指定文献についての報告と討論(1)
- 第5回 指定文献についての報告と討論(2)
- 第6回 指定文献についての報告と討論(3)
- 第7回 指定文献についての報告と討論(4)
- 第8回 中間的まとめ
- 第9回 各自の報告と討論(1)
- 第10回 各自の報告と討論(2)
- 第11回 各自の報告と討論(3)
- 第12回 各自の報告と討論(4)
- 第13回 各自の報告と討論(5)
- 第14回 各自の報告と討論(6)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んで授業に参加すること。

教科書

特に定めない

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックに関してはオーメижやメールなどを通じて行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらう①レポートの中身(30%)、ならびに②平常点(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内の発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床社会学演習ⅠB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 昔農 英明		

授業の概要・到達目標

授業担当者は、これまで欧米諸国や日本におけるエスニック・マイノリティの排除や共生問題に照準して研究してきた。本授業では、これらのテーマを中心に、国際社会学の重要なテーマについて、論文を輪読したり、各自の研究テーマについて報告を行ってもらい、全体でディスカッションを行う。輪読する論文は、受講生のテーマを考慮の上、院生と相談の上で決定する。また受講者が修士課程学生であり、研究のやり方をまだ理解していないと考えられることから、論文の書き方や研究報告の仕方、研究の進め方など、多くの院生にとって不可欠となる研究スキルについても講義し、議論をしたいと考えている。

授業内容

- 第1回 授業計画の決定
- 第2回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(1)
- 第3回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(2)
- 第4回 指定文献についての報告と討論(1)
- 第5回 指定文献についての報告と討論(2)
- 第6回 指定文献についての報告と討論(3)
- 第7回 指定文献についての報告と討論(4)
- 第8回 中間的まとめ
- 第9回 各自の報告と討論(1)
- 第10回 各自の報告と討論(2)
- 第11回 各自の報告と討論(3)
- 第12回 各自の報告と討論(4)
- 第13回 各自の報告と討論(5)
- 第14回 各自の報告と討論(6)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んで授業に参加すること。

教科書

特に定めない

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックに関してはオーメижやメールなどを通じて行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらう①レポートの中身(30%)、ならびに②平常点(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内の発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床社会学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標

皆さんの研究テーマはさまざまでしょうが(え?「研究テーマは特にありません」って?……うーん、正直なのかもしれませんが、それは……まあ、ちょっと一緒に考えましょう。)、ともかく大学院にはいった(はいつてしまった)以上、自分で何かを研究して、それに基づいて学位論文を書かなければなりません。では「研究する」「論文を書く」とは、どういうことでしょうか。その前提となる「研究者の卵になる」とはどういうことでしょうか。この授業では下のテキストを使いながら、「考える」「読む」「調べる」「話す」の各側面から、上の問いについて考え、皆さんがそれを実践していくうえでの具体的な悩みについて話し合います。到達目標は、院でやっていくための「根拠ある自信」を持てるようになること。

授業内容

- 1 考える(1)(研究の基本)
- 2 考える(2)(研究テーマの探索、研究課題の設定)
- 3 考える(3)(考えるコツ)
- 4 読む(1)(文献を読む)
- 5 読む(2)(文献データベースを調べる)
- 6 読む(3)(引用の作法)
- 7 「考える」「読む」の復習
- 8 調べる(1)(調査とは何か、質的調査)
- 9 調べる(2)(量的調査、調査の実際)
- 10 調べる(3)(既存のデータの収集)
- 11 話す(1)(ゼミ発表)
- 12 話す(2)(学会発表)
- 13 話す(3)(面接)
- 14 「調べる」の復習、「話す」の実習

履修上の注意

特になし

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書のその日にやる部分を事前によく読み、その内容に関する質問を少なくともひとつ考えたうえで、授業に出席してください。

教科書

石黒圭, 2021, 『文系研究者になる——「研究する人生」を歩むためのガイドブック』研究社。

参考書

岸政彦他, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。
ボンシュテット&ノーキ(海野道郎・中村隆監訳), 1990, 『社会統計学』ハーベスト社。

課題に対するフィードバックの方法

授業のその場で評価を言います。(皆さんを傷つけないように配慮しつつ。)

成績評価の方法

授業内でのコミュニケーションに基づいて成績を評価しますが、特に「実習」としてやっていただく、実際のゼミ発表を重視します。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床社会学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標

皆さんの研究テーマはさまざまでしょうが(え?「研究テーマは特にありません」って?……うーん、正直なのかもしれませんが、それは……まあ、ちょっと一緒に考えましょう。)、ともかく大学院にはいった(はいつてしまった)以上、自分で何かを研究して、それに基づいて学位論文を書かなければなりません。では「研究する」「論文を書く」とは、どういうことでしょうか。その前提となる「研究者の卵になる」とはどういうことでしょうか。この授業では下のテキストを使いながら、「書く」「つながる」「生きる」の各側面から、上の問いについて考え、皆さんがそれを実践していくうえでの具体的な悩みについて話し合います。到達目標は院でやっていくための「根拠ある自信」を持てるようになること。加えて芥川龍之介「杜子春」末尾の仙人と杜子春の対話の意味を理解できるようにすること。

授業内容

- 1 書く(1)(書くということ)
- 2 書く(2)(修士論文の執筆)
- 3 書く(3)(学術論文の構成別執筆法)
- 4 書く(4)(学術雑誌への投稿)
- 5 つながる(1)(教員、特に指導教員との人間関係)
- 6 つながる(2)(院生どうしの人間関係)
- 7 つながる(3)(学会でつながる)
- 8 つながる(4)(社会とつながる)
- 9 つながる(5)(デジタルでつながる)
- 10 「書く」「つながる」の復習
- 11 生きる(1)(結婚、出産・子育て、介護)
- 12 生きる(2)(心身の不調、ハラスメント、経済問題)
- 13 生きる(3)(あなたにとって「キャリア」とは、(付)「教授」は何をやっているのか)
- 14 1年間の授業を振り返って

履修上の注意

特になし

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書のその日にやる部分を事前によく読み、その内容に関する質問を少なくともひとつ考えたうえで、授業に出席してください。

教科書

石黒圭, 2021, 『文系研究者になる——「研究する人生」を歩むためのガイドブック』研究社。

参考書

ハワード・S・ベッカー(佐野敏行訳), 1996, 『論文の技法』講談社学術文庫。
芥川龍之介「杜子春」(収録書多数。ウェブの「青空文庫」でも閲覧可)

課題に対するフィードバックの方法

秋学期のこの授業については「課題」というほどあらたまったものは設けていないので、心配しなくても大丈夫です。

成績評価の方法

授業内のコミュニケーションによります。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床社会学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(政策科学) 宇田 和子		

授業の概要・到達目標

この演習では、環境社会学および保健医療社会学の文献を読み、受講生同士で批判的な議論を行うことを通じて、各分野の方法・視点・理論の一端を理解する。いずれの分野も幅広い関心を有するが、ここでは以下四点に絞った文献を扱う。第一に、環境問題に起因する被害(公害病や環境汚染)、第二に、人為的に罹患させられる病(薬害や副作用被害)、第三に、被害を拡大させる、あるいは病者の状況を悪化させる社会的構造、第四に、被害者または病者の生活回復に対する政策の介入可能性である。

この演習の到達目標は以下三点である、第一に、各分野の主要な論点を理解し、批判的に検討できる。第二に、それらと自身の研究の関連を整理し、位置づけられる。第三に、異なる関心や専門分野をもつ他の受講生にも理解できる言葉で議論を展開することができる。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 各自の問題関心の報告
- 第3回 文献講読(1)
- 第4回 文献講読(2)
- 第5回 文献講読(3)
- 第6回 文献講読(4)
- 第7回 文献講読(5)
- 第8回 文献講読(6)
- 第9回 文献講読(7)
- 第10回 文献講読(8)
- 第11回 文献講読(9)
- 第12回 文献講読(10)
- 第13回 各自の研究と環境社会学の関連についての報告(1)
- 第14回 各自の研究と環境社会学の関連についての報告(2)

履修上の注意

なし

準備学習(予習・復習等)の内容

全員が文献を読み、議論の問いを考える。報告者は議論の素材となるレジュメを作る。その際、扱う文献以外の先行研究や補足情報を調べる。

教科書

藤川賢・友澤悠季編, 2023, 『なぜ公害は続くのか：潜在・散在・長期化する被害』(講座環境社会学1巻)新泉社。
ほか、受講生の関心により決定する。

参考書

船橋晴俊・飯島伸子編, 1998, 『環境』(講座社会学12巻)、東京大学出版会。
飯島伸子・長谷川公一・鳥越皓之・船橋晴俊編, 2001, 『環境社会学の視点』(講座環境社会学1巻)、有斐閣。
ほか、授業内で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

成績評価の方法

報告の担当(40%)、および議論への貢献度(60%)から総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床社会学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(政策科学) 宇田 和子		

授業の概要・到達目標

この演習では、環境社会学および保健医療社会学の文献を読み、受講生同士で批判的な議論を行うことを通じて、各分野の方法・視点・理論の一端を理解する。いずれの分野も幅広い関心を有するが、ここでは以下四点に絞った文献を扱う。第一に、環境問題に起因する被害(公害病や環境汚染)、第二に、人為的に罹患させられる病(薬害や副作用被害)、第三に、被害を拡大させる、あるいは病者の状況を悪化させる社会的構造、第四に、被害者または病者の生活回復に対する政策の介入可能性である。

この演習の到達目標は以下三点である、第一に、各分野の主要な論点を理解し、批判的に検討できる。第二に、それらと自身の研究の関連を整理し、位置づけられる。第三に、異なる関心や専門分野をもつ他の受講生にも理解できる言葉で議論を展開することができる。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 各自の問題関心の報告
- 第3回 文献講読(1)
- 第4回 文献講読(2)
- 第5回 文献講読(3)
- 第6回 文献講読(4)
- 第7回 文献講読(5)
- 第8回 文献講読(6)
- 第9回 文献講読(7)
- 第10回 文献講読(8)
- 第11回 文献講読(9)
- 第12回 文献講読(10)
- 第13回 各自の研究と保健医療社会学の関連についての報告(1)
- 第14回 各自の研究と保健医療社会学の関連についての報告(2)

履修上の注意

なし

準備学習(予習・復習等)の内容

全員が文献を読み、議論の問いを考える。報告者は議論のたたき台となるレジュメを作る。その際、扱う文献以外の先行研究や補足情報を調べる。

教科書

本郷正武・佐藤哲彦編, 2023, 『薬害とはなにか：新しい薬害の社会学』ミネルヴァ書房。
ほか、受講生の関心により決定する。

参考書

宝月誠編, 1986, 『薬害の社会学：薬と人間のアイロニー』世界思想社。
種田博之, 2019, 『パラドクスとしての薬害エイズ：医師のユートピアと医療進歩の呪縛』新曜社。
野島那津子, 2021, 『診断の社会学：「論争中の病」を患うということ』慶応義塾大学出版会。
ほか、授業内で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

成績評価の方法

議論への貢献度(60%)、課題の評点(40%)から総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	臨床社会学演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授		内藤 朝雄

授業の概要・到達目標

一定の条件のもとで生じたときに大きく展開する、人間が人間にとって怪物になるというべき暴力・迫害現象を研究するために活用可能な有望なRandall Collinsのミクロ社会学的暴力論の論理について検討し、それを組み込んだ新しい社会学的あるいは社会科学の理論構築の可能性をさぐる。

Randall Collinsの暴力論の論理について見識を深め、これをもとに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

テキストについて全員が読んでくる。レポーターは、発表の一週間前に、一つの章や論文について、要約をつくり、かつ、その箇所をテーマにした論文(A4用紙で8枚以上、見開きなら4枚以上)をつくり、全員に配布し、当日それを発表する。コメントーターはそれを読んできてコメントの小論文を書いてきて全員に配布し、コメントを発表する。

- 次の文献をテキストとして予定している。
- 『Violence』 Randall Collins (Princeton University Press)
- 第1回：イントロダクション
- 第2回：教科書序章についての発表と討議
- 第3回：教科書第1章についての発表と討議
- 第4回：教科書第2章についての発表と討議
- 第5回：教科書第3章についての発表と討議
- 第6回：教科書第4章についての発表と討議
- 第7回：教科書第5章についての発表と討議
- 第8回：教科書第6章についての発表と討議
- 第9回：教科書第7章についての発表と討議
- 第10回：教科書第8章についての発表と討議
- 第11回：教科書第9章についての発表と討議
- 第12回：教科書第11章についての発表と討議
- 第13回：Collins暴力論と関連させて暴力についての各参加者によるオリジナルな論文発表と討議を行う
- 第14回：Collins暴力論と、内藤朝雄が構築してきた暴力・迫害の生態学的IPS秩序論を接合する理論の探求

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。原書講読(英語)をするので、ある程度の英語力のある学生が履修を選択するのが好ましい。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでくること。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書を読んでくること。授業で紹介した内容については、文献等で調べてくること。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。

教科書

『Violence』 Randall Collins (Princeton University Press)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

必要や求めに応じ、クラスウェブや電子メールなどを用いてコメントや助言のやりとりをする。

成績評価の方法

授業への参加度50パーセント、報告や論文の内容50パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	臨床社会学演習ⅣB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授		内藤 朝雄

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、人間が人間にとって怪物になるというべき暴力・迫害現象を研究するために活用可能な有望領域としての進化心理学的暴力論の論理について検討し、それを組み込んだ新しい社会学的あるいは社会科学の理論構築の可能性をさぐる。

春学期の授業にくわえてさらに、進化心理学的暴力論の論理について見識を深め、これをもとに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

テキストについて全員が読んでくる。レポーターは、発表の一週間前に、一つの章や論文について、要約をつくり、かつ、その箇所をテーマにした論文(A4用紙で8枚以上、見開きなら4枚以上)をつくり、全員に配布し、当日それを発表する。コメントーターはそれを読んできてコメントの小論文を書いてきて全員に配布し、コメントを発表する。

- 次の文献をテキストとして予定している。
- 『The Oxford Handbook of Evolutionary Perspectives on Violence, Homicide, and War』 Todd K. Shackelford and Viviana A. Weekes-Shackelford編, Oxford University Press
- 第1回：教科書第1章についての発表と討議
- 第2回：教科書第2章についての発表と討議
- 第3回：教科書第3章についての発表と討議
- 第4回：教科書第10章についての発表と討議
- 第5回：教科書第13章についての発表と討議
- 第6回：教科書第14章についての発表と討議
- 第7回：教科書第16章についての発表と討議
- 第8回：教科書第17章についての発表と討議
- 第9回：教科書第19章についての発表と討議
- 第10回：教科書第20章についての発表と討議
- 第11回：教科書第23章についての発表と討議
- 第12回：教科書第24章についての発表と討議
- 第13回：教科書第26章についての発表と討議
- 第14回：教科書第27章についての発表と討議

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。原書講読(英語)をするので、ある程度の英語力のある学生が履修を選択するのが好ましい。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでくること。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

必ず教科書を読んでくること。授業で紹介した内容については、文献等で調べてくること。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。

教科書

『The Oxford Handbook of Evolutionary Perspectives on Violence, Homicide, and War』 Todd K., Shackelford and Viviana A. & Weekes-Shackelford編(Oxford University Press)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

必要や求めに応じ、クラスウェブや電子メールなどを用いてコメントや助言のやりとりをする。

成績評価の方法

授業への参加度50パーセント、報告や論文の内容50パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床社会学演習VA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標

現代日本の未婚化・オタク文化の隆盛・セックスレス現象・性的多様性の社会的受容などの現状を世界のさまざまな社会との比較をおこないつつ、文献資料から明らかにする。

合わせて、セクシュアリティと宗教、セクシュアリティと避妊技術、セクシュアリティと家族構造、セクシュアリティと男女の権力関係、セクシュアリティと人口、セクシュアリティと近代医科学、セクシュアリティと近代国家などの関係についての、専門的研究成果を学ぶ。

セクシュアリティ研究は西洋諸国をはじめとして近年きわめて盛んになっている分野だが、日本ではタブー視されアカデミックには蓄積が薄い。その中で、セクシュアリティ研究を志す人にとっての、幅広い学問的な基礎を身に着けることを目標とする。

M2の学生には、修士論文研究の指導をおこなう。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 セクシュアリティと人類史
- 第3回 セクシュアリティと宗教1
- 第4回 セクシュアリティと宗教2
- 第5回 セクシュアリティと家族構造1
- 第6回 セクシュアリティと家族構造2
- 第7回 前近代日本のセクシュアリティ1
- 第8回 前近代日本のセクシュアリティ2
- 第9回 前近代日本のセクシュアリティ3
- 第10回 セクシュアリティと避妊技術
- 第11回 セクシュアリティと近代医科学
- 第12回 セクシュアリティと近代国家
- 第13回 セクシュアリティと男女の権力関係
- 第14回 総括

履修上の注意

毎回学生の発表形式をとるので、準備には相当の時間と熱意を要することを予め承知してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、そのつど指示する参考文献を読み、調べておくこと。

教科書

Kathleen J. Fitzgerald, Kandice L. Grossman (2018), *Sociology of Sexualities*, Sage
ほか多くの参考文献を用いる。

参考書

多くの参考文献を授業中に指示する。

成績評価の方法

授業は発表形式でおこなうので、その参加度や発表内容で評価する（7割程度の比重）。学期の最後に小論文を書いてもらい、その内容で評価する（3割程度の比重）。

その他

参加者の都合が合えば、構内での授業に替えて、学外でのフィールドワークをおこなう場合もある。

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床社会学演習VB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標

現代日本の未婚化・オタク文化の隆盛・セックスレス現象・性的多様性の社会的受容などの現状とを、世界のさまざまな社会との比較をおこないつつ、さまざまな文献資料から明らかにする。

合わせて、セクシュアリティと避妊技術、セクシュアリティと家族構造、セクシュアリティと男女の権力関係、セクシュアリティと人口、セクシュアリティとメディア、セクシュアリティと教育、セクシュアリティと労働、セクシュアリティと社会階層などの関係についての、専門的研究成果を学ぶ。

セクシュアリティ研究は西洋諸国をはじめとして近年きわめて盛んになっている分野だが、日本ではタブー視されアカデミックには蓄積が薄い。その中で、セクシュアリティ研究を志す人にとっての、幅広い学問的な基礎を身に着けることを目標とする。

M2の学生には、修士論文研究の指導をおこなう。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 セクシュアリティと現代史1
- 第3回 セクシュアリティと現代史2
- 第4回 セクシュアリティと避妊技術
- 第5回 セクシュアリティと家族1
- 第6回 セクシュアリティと家族2
- 第7回 現代日本のセクシュアリティ1
- 第8回 現代日本のセクシュアリティ2
- 第9回 現代日本のセクシュアリティ3
- 第10回 セクシュアリティとメディア
- 第11回 セクシュアリティと教育
- 第12回 セクシュアリティと労働
- 第13回 セクシュアリティと社会階層
- 第14回 総括

履修上の注意

毎回学生の発表形式をとるので、準備には相当の時間と熱意を要することを予め承知してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、そのつど指示する参考文献を読み、調べておくこと。

教科書

日本語、英語の多くの参考文献を読むので特に教科書は指定しない。

参考書

石川弘義『日本人と性』文藝春秋社
ほか多くの参考文献を授業中に指示する。

成績評価の方法

授業は発表形式でおこなうので、その参加度や発表内容で評価する（7割程度の比重）。学期の最後に小論文を書いてもらい、その内容で評価する（3割程度の比重）。

その他

参加者の都合が合えば、構内での授業に替えて、学外でのフィールドワークをおこなう場合もある。

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 昔農 英明		

授業の概要・到達目標

授業担当者は、これまで欧米諸国や日本におけるエスニック・マイノリティの排除や共生問題に照準して研究してきた。本授業では、これらのテーマを中心に、国際社会学の重要なテーマについて、論文を輪読したり、各自の研究テーマについて報告を行ってもらい、全体でディスカッションを行う。輪読する論文は、受講生のテーマを考慮の上、院生と相談の上で決定する。また受講者が修士課程学生であり、研究のやり方をまだ理解していないと考えられることから、論文の書き方や研究報告の仕方、研究の進め方など、多くの院生にとって不可欠となる研究スキルについても講義し、議論をしたいと考えている。

授業内容

- 第1回 授業計画の決定
- 第2回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(1)
- 第3回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(2)
- 第4回 指定文献についての報告と討論(1)
- 第5回 指定文献についての報告と討論(2)
- 第6回 指定文献についての報告と討論(3)
- 第7回 指定文献についての報告と討論(4)
- 第8回 中間的まとめ
- 第9回 各自の報告と討論(1)
- 第10回 各自の報告と討論(2)
- 第11回 各自の報告と討論(3)
- 第12回 各自の報告と討論(4)
- 第13回 各自の報告と討論(5)
- 第14回 各自の報告と討論(6)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んで授業に参加すること。

教科書

特に定めない

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックに関してはオーメジやメールなどを通じて行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらい①レポートの中身(30%)、ならびに②平常点(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内の発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 昔農 英明		

授業の概要・到達目標

授業担当者は、これまで欧米諸国や日本におけるエスニック・マイノリティの排除や共生問題に照準して研究してきた。本授業では、これらのテーマを中心に、国際社会学の重要なテーマについて、論文を輪読したり、各自の研究テーマについて報告を行ってもらい、全体でディスカッションを行う。輪読する論文は、受講生のテーマを考慮の上、院生と相談の上で決定する。また受講者が修士課程学生であり、研究のやり方をまだ理解していないと考えられることから、論文の書き方や研究報告の仕方、研究の進め方など、多くの院生にとって不可欠となる研究スキルについても講義し、議論をしたいと考えている。

授業内容

- 第1回 授業計画の決定
- 第2回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(1)
- 第3回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(2)
- 第4回 指定文献についての報告と討論(1)
- 第5回 指定文献についての報告と討論(2)
- 第6回 指定文献についての報告と討論(3)
- 第7回 指定文献についての報告と討論(4)
- 第8回 中間的まとめ
- 第9回 各自の報告と討論(1)
- 第10回 各自の報告と討論(2)
- 第11回 各自の報告と討論(3)
- 第12回 各自の報告と討論(4)
- 第13回 各自の報告と討論(5)
- 第14回 各自の報告と討論(6)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んで授業に参加すること。

教科書

特に定めない

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックに関してはオーメジやメールなどを通じて行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらい①レポートの中身(30%)、ならびに②平常点(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内の発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習 IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 昔農 英明		

授業の概要・到達目標

授業担当者は、これまで欧米諸国や日本におけるエスニック・マイノリティの排除や共生問題に照準して研究してきた。本授業では、これらのテーマを中心に、国際社会学の重要なテーマについて、論文を輪読したり、各自の研究テーマについて報告を行ってもらい、全体でディスカッションを行う。輪読する論文は、受講生のテーマを考慮の上、院生と相談の上で決定する。また受講者が修士課程学生であり、研究のやり方をまだ理解していないと考えられることから、論文の書き方や研究報告の仕方、研究の進め方など、多くの院生にとって不可欠となる研究スキルについても講義し、議論をしたいと考えている。

授業内容

- 第1回 授業計画の決定
- 第2回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(1)
- 第3回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(2)
- 第4回 指定文献についての報告と討論(1)
- 第5回 指定文献についての報告と討論(2)
- 第6回 指定文献についての報告と討論(3)
- 第7回 指定文献についての報告と討論(4)
- 第8回 中間的まとめ
- 第9回 各自の報告と討論(1)
- 第10回 各自の報告と討論(2)
- 第11回 各自の報告と討論(3)
- 第12回 各自の報告と討論(4)
- 第13回 各自の報告と討論(5)
- 第14回 各自の報告と討論(6)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んで授業に参加すること。

教科書

特に定めない

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックに関してはオーメジやメールなどを通じて行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらい①レポートの中身(30%)、ならびに②平常点(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内の発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習 ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 昔農 英明		

授業の概要・到達目標

授業担当者は、これまで欧米諸国や日本におけるエスニック・マイノリティの排除や共生問題に照準して研究してきた。本授業では、これらのテーマを中心に、国際社会学の重要なテーマについて、論文を輪読したり、各自の研究テーマについて報告を行ってもらい、全体でディスカッションを行う。輪読する論文は、受講生のテーマを考慮の上、院生と相談の上で決定する。また受講者が修士課程学生であり、研究のやり方をまだ理解していないと考えられることから、論文の書き方や研究報告の仕方、研究の進め方など、多くの院生にとって不可欠となる研究スキルについても講義し、議論をしたいと考えている。

授業内容

- 第1回 授業計画の決定
- 第2回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(1)
- 第3回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(2)
- 第4回 指定文献についての報告と討論(1)
- 第5回 指定文献についての報告と討論(2)
- 第6回 指定文献についての報告と討論(3)
- 第7回 指定文献についての報告と討論(4)
- 第8回 中間的まとめ
- 第9回 各自の報告と討論(1)
- 第10回 各自の報告と討論(2)
- 第11回 各自の報告と討論(3)
- 第12回 各自の報告と討論(4)
- 第13回 各自の報告と討論(5)
- 第14回 各自の報告と討論(6)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んで授業に参加すること。

教科書

特に定めない

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックに関してはオーメジやメールなどを通じて行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらい①レポートの中身(30%)、ならびに②平常点(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内の発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標

皆さんの研究テーマはさまざまでしょうが（え？「研究テーマは特にありません」って？……うーん、正直なのかもしれませんが、それは……まあ、ちょっと一緒に考えましょう。）、ともかく大学院にはいった（はいつてしまった）以上、自分で何かを研究して、それに基づいて学位論文を書かなければなりません。では「研究する」「論文を書く」とは、どういうことでしょうか。その前提となる「研究者の卵になる」とはどういうことでしょうか。この授業では下のテキストを使いながら、「考える」「読む」「調べる」「話す」の各側面から、上の問いについて考え、皆さんがそれを実践していくうえでの具体的な悩みについて話し合います。到達目標は、院でやっていくための「根拠ある自信」を持てるようになること。

授業内容

- 1 考える(1)(研究の基本)
- 2 考える(2)(研究テーマの探索、研究課題の設定)
- 3 考える(3)(考えるコツ)
- 4 読む(1)(文献を読む)
- 5 読む(2)(文献データベースを調べる)
- 6 読む(3)(引用の作法)
- 7 「考える」「読む」の復習
- 8 調べる(1)(調査とは何か、質的調査)
- 9 調べる(2)(量的調査、調査の実際)
- 10 調べる(3)(既存のデータの収集)
- 11 話す(1)(ゼミ発表)
- 12 話す(2)(学会発表)
- 13 話す(3)(面接)
- 14 「調べる」の復習、「話す」の実習

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書のその日にやる部分を事前によく読み、その内容に関する質問を少なくともひとつ考えたうえで、授業に出席してください。

教科書

石黒圭, 2021, 『文系研究者になる——「研究する人生」を歩むためのガイドブック』研究社。

参考書

岸政彦他, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。
 ボーンシュテット&ノーキ(海野道郎・中村隆監訳), 1990, 『社会統計学』ハーベスト社。

課題に対するフィードバックの方法

授業のその場で評価を言います。(皆さんを傷つけないように配慮しつつ。)

成績評価の方法

授業内でのコミュニケーションに基づいて成績を評価しますが、特に「実習」としてやっていただく、実際のゼミ発表を重視します。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標

皆さんの研究テーマはさまざまでしょうが（え？「研究テーマは特にありません」って？……うーん、正直なのかもしれませんが、それは……まあ、ちょっと一緒に考えましょう。）、ともかく大学院にはいった（はいつてしまった）以上、自分で何かを研究して、それに基づいて学位論文を書かなければなりません。では「研究する」「論文を書く」とは、どういうことでしょうか。その前提となる「研究者の卵になる」とはどういうことでしょうか。この授業では下のテキストを使いながら、「書く」「つながる」「生きる」の各側面から、上の問いについて考え、皆さんがそれを実践していくうえでの具体的な悩みについて話し合います。到達目標は院でやっていくための「根拠ある自信」を持てるようになること。加えて芥川龍之介「杜子春」末尾の仙人と杜子春の対話の意味を理解できるようになること。

授業内容

- 1 書く(1)(書くということ)
- 2 書く(2)(修士論文の執筆)
- 3 書く(3)(学術論文の構成別執筆法)
- 4 書く(4)(学術雑誌への投稿)
- 5 つながる(1)(教員、特に指導教員との人間関係)
- 6 つながる(2)(院生どうしの人間関係)
- 7 つながる(3)(学会でつながる)
- 8 つながる(4)(社会とつながる)
- 9 つながる(5)(デジタルでつながる)
- 10 「書く」「つながる」の復習
- 11 生きる(1)(結婚、出産・子育て、介護)
- 12 生きる(2)(心身の不調、ハラスメント、経済問題)
- 13 生きる(3)(あなたにとって「キャリア」とは、(付)「教授」は何をやっているのか)
- 14 1年間の授業を振り返って

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書のその日にやる部分を事前によく読み、その内容に関する質問を少なくともひとつ考えたうえで、授業に出席してください。

教科書

石黒圭, 2021, 『文系研究者になる——「研究する人生」を歩むためのガイドブック』研究社。

参考書

ハワード・S・ベッカー(佐野敏行訳), 1996, 『論文の技法』講談社学術文庫。
 芥川龍之介「杜子春」(収録書多数。ウェブの「青空文庫」でも閲覧可)

課題に対するフィードバックの方法

秋学期のこの授業については「課題」というほどあらたまったものは設けていないので、心配しなくても大丈夫です。

成績評価の方法

授業内のコミュニケーションによります。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標

皆さんの研究テーマはさまざまでしょうが（え？「研究テーマは特にありません」って？……うーん、正直なのかもしれませんが、それは……まあ、ちょっと一緒に考えましょう。）、ともかく大学院にはいった（はいつてしまった）以上、自分で何かを研究して、それに基づいて学位論文を書かなければなりません。では「研究する」「論文を書く」とは、どういうことでしょうか。その前提となる「研究者の卵になる」とはどういうことでしょうか。この授業では下のテキストを使いながら、「考える」「読む」「調べる」「話す」の各側面から、上の問いについて考え、皆さんがそれを実践していくうえでの具体的な悩みについて話し合います。到達目標は、院でやっていくための「根拠ある自信」を持つようになること。

授業内容

- 1 考える(1)(研究の基本)
- 2 考える(2)(研究テーマの探索、研究課題の設定)
- 3 考える(3)(考えるコツ)
- 4 読む(1)(文献を読む)
- 5 読む(2)(文献データベースを調べる)
- 6 読む(3)(引用の作法)
- 7 「考える」「読む」の復習
- 8 調べる(1)(調査とは何か、質的調査)
- 9 調べる(2)(量的調査、調査の実際)
- 10 調べる(3)(既存のデータの収集)
- 11 話す(1)(ゼミ発表)
- 12 話す(2)(学会発表)
- 13 話す(3)(面接)
- 14 「調べる」の復習、「話す」の実習

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書のその日にやる部分を事前によく読み、その内容に関する質問を少なくともひとつ考えたうえで、授業に出席してください。

教科書

石黒圭, 2021, 『文系研究者になる——「研究する人生」を歩むためのガイドブック』研究社。

参考書

岸政彦他, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。
 ボーンシュテット&ノーキ(海野道郎・中村隆監訳), 1990, 『社会統計学』ハーベスト社。

課題に対するフィードバックの方法

授業のその場で評価を言います。(皆さんを傷つけないように配慮しつつ。)

成績評価の方法

授業内でのコミュニケーションに基づいて成績を評価しますが、特に「実習」としてやっていただく、実際のゼミ発表を重視します。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標

皆さんの研究テーマはさまざまでしょうが（え？「研究テーマは特にありません」って？……うーん、正直なのかもしれませんが、それは……まあ、ちょっと一緒に考えましょう。）、ともかく大学院にはいった（はいつてしまった）以上、自分で何かを研究して、それに基づいて学位論文を書かなければなりません。では「研究する」「論文を書く」とは、どういうことでしょうか。その前提となる「研究者の卵になる」とはどういうことでしょうか。この授業では下のテキストを使いながら、「書く」「つながる」「生きる」の各側面から、上の問いについて考え、皆さんがそれを実践していくうえでの具体的な悩みについて話し合います。到達目標は院でやっていくための「根拠ある自信」を持つようになること。加えて芥川龍之介「杜子春」末尾の仙人と杜子春の対話の意味を理解できるようになること。

授業内容

- 1 書く(1)(書くということ)
- 2 書く(2)(修士論文の執筆)
- 3 書く(3)(学術論文の構成別執筆法)
- 4 書く(4)(学術雑誌への投稿)
- 5 つながる(1)(教員、特に指導教員との人間関係)
- 6 つながる(2)(院生どうしの人間関係)
- 7 つながる(3)(学会でつながる)
- 8 つながる(4)(社会とつながる)
- 9 つながる(5)(デジタルでつながる)
- 10 「書く」「つながる」の復習
- 11 生きる(1)(結婚、出産・子育て、介護)
- 12 生きる(2)(心身の不調、ハラスメント、経済問題)
- 13 生きる(3)(あなたにとって「キャリア」とは、(付)「教授」は何をやっているのか)
- 14 1年間の授業を振り返って

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書のその日にやる部分を事前によく読み、その内容に関する質問を少なくともひとつ考えたうえで、授業に出席してください。

教科書

石黒圭, 2021, 『文系研究者になる——「研究する人生」を歩むためのガイドブック』研究社。

参考書

ハワード・S・ベッカー（佐野敏行訳）, 1996, 『論文の技法』講談社学術文庫。
 芥川龍之介「杜子春」(収録書多数。ウェブの「青空文庫」でも閲覧可)

課題に対するフィードバックの方法

秋学期のこの授業については「課題」というほどあらたまったものは設けていないので、心配しなくても大丈夫です。

成績評価の方法

授業内のコミュニケーションによります。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(政策科学) 宇田 和子		

授業の概要・到達目標

この演習では、環境社会学および保健医療社会学の文献を読み、受講生同士で批判的な議論を行うことを通じて、各分野の方法・視点・理論の一端を理解する。いずれの分野も幅広い関心を有するが、ここでは以下四点に絞った文献を扱う。第一に、環境問題に起因する被害（公害病や環境汚染）、第二に、人為的に罹患させられる病（薬害や副作用被害）、第三に、被害を拡大させる、あるいは病者の状況を悪化させる社会的構造、第四に、被害者または病者の生活回復に対する政策の介入可能性である。

この演習の到達目標は以下三点である、第一に、各分野の主要な論点を理解し、批判的に検討できる。第二に、それらと自身の研究の関連を整理し、位置づけられる。第三に、異なる関心や専門分野をもつ他の受講生にも理解できる言葉で議論を展開することができる。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 各自の問題関心の報告
- 第3回 文献講読(1)
- 第4回 文献講読(2)
- 第5回 文献講読(3)
- 第6回 文献講読(4)
- 第7回 文献講読(5)
- 第8回 文献講読(6)
- 第9回 文献講読(7)
- 第10回 文献講読(8)
- 第11回 文献講読(9)
- 第12回 文献講読(10)
- 第13回 各自の研究と環境社会学の関連についての報告(1)
- 第14回 各自の研究と環境社会学の関連についての報告(2)

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

全員が文献を読み、議論の問いを考える。報告者は議論のたたき台となるレジュメを作る。その際、扱う文献以外の先行研究や補足情報を調べる。

教科書

藤川賢・友澤悠季編, 2023, 『なぜ公害は続くのか: 潜在・散在・長期化する被害』(講座環境社会学1巻) 新泉社。
ほか、受講生の関心により決定する。

参考書

船橋晴俊・飯島伸子編, 1998, 『環境』(講座社会学12巻) 東京大学出版会。
飯島伸子・長谷川公一・鳥越皓之・船橋晴俊編, 2001, 『環境社会学の視点』(講座環境社会学1巻), 有斐閣。
ほか、授業内で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

成績評価の方法

議論への貢献度(60%)、課題の評点(40%)から総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(政策科学) 宇田 和子		

授業の概要・到達目標

この演習では、環境社会学および保健医療社会学の文献を読み、受講生同士で批判的な議論を行うことを通じて、各分野の方法・視点・理論の一端を理解する。いずれの分野も幅広い関心を有するが、ここでは以下四点に絞った文献を扱う。第一に、環境問題に起因する被害（公害病や環境汚染）、第二に、人為的に罹患させられる病（薬害や副作用被害）、第三に、被害を拡大させる、あるいは病者の状況を悪化させる社会的構造、第四に、被害者または病者の生活回復に対する政策の介入可能性である。

この演習の到達目標は以下三点である、第一に、各分野の主要な論点を理解し、批判的に検討できる。第二に、それらと自身の研究の関連を整理し、位置づけられる。第三に、異なる関心や専門分野をもつ他の受講生にも理解できる言葉で議論を展開することができる。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 各自の問題関心の報告
- 第3回 文献講読(1)
- 第4回 文献講読(2)
- 第5回 文献講読(3)
- 第6回 文献講読(4)
- 第7回 文献講読(5)
- 第8回 文献講読(6)
- 第9回 文献講読(7)
- 第10回 文献講読(8)
- 第11回 文献講読(9)
- 第12回 文献講読(10)
- 第13回 各自の研究と保健医療社会学の関連についての報告(1)
- 第14回 各自の研究と保健医療社会学の関連についての報告(2)

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

全員が文献を読み、議論の問いを考える。報告者は議論のたたき台となるレジュメを作る。その際、扱う文献以外の先行研究や補足情報を調べる。

教科書

本郷正武・佐藤哲彦編, 2023, 『薬害とはなにか: 新しい薬害の社会学』ミネルヴァ書房。

参考書

宝月誠編, 1986, 『薬害の社会学: 薬と人間のアイロニー』世界思想社。
種田博之, 2019, 『パラドクスとしての薬害エイズ: 医師のエートスと医療進歩の呪縛』新曜社。
野島那津子, 2021, 『診断の社会学: 「論争中の病」を患うということ』慶応義塾大学出版会。
ほか、授業内で提示する。

成績評価の方法

議論への貢献度(60%)、課題の評点(40%)から総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(政策科学) 宇田 和子		

授業の概要・到達目標

この演習では、環境社会学および保健医療社会学の文献を読み、受講生同士で批判的な議論を行うことを通じて、各分野の方法・視点・理論の一端を理解する。いずれの分野も幅広い関心を有するが、ここでは以下四点に絞った文献を扱う。第一に、環境問題に起因する被害（公害病や環境汚染）、第二に、人為的に罹患させられる病（薬害や副作用被害）、第三に、被害を拡大させる、あるいは病者の状況を悪化させる社会的構造、第四に、被害者または病者の生活回復に対する政策の介入可能性である。

この演習の到達目標は以下三点である、第一に、各分野の主要な論点を理解し、批判的に検討できる。第二に、それらと自身の研究の関連を整理し、位置づけられる。第三に、異なる関心や専門分野をもつ他の受講生にも理解できる言葉で議論を展開することができる。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 各自の問題関心の報告
- 第3回 文献講読(1)
- 第4回 文献講読(2)
- 第5回 文献講読(3)
- 第6回 文献講読(4)
- 第7回 文献講読(5)
- 第8回 文献講読(6)
- 第9回 文献講読(7)
- 第10回 文献講読(8)
- 第11回 文献講読(9)
- 第12回 文献講読(10)
- 第13回 各自の研究と環境社会学の関連についての報告(1)
- 第14回 各自の研究と環境社会学の関連についての報告(2)

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

全員が文献を読み、議論の問いを考える。報告者は議論のたたき台となるレジュメを作る。その際、扱う文献以外の先行研究や補足情報を調べる。

教科書

藤川賢・友澤悠季編, 2023, 『なぜ公害は続くのか：潜在・散在・長期化する被害』(講座環境社会学1巻)新泉社。
ほか、受講生の関心により決定する。

参考書

船橋晴俊・飯島伸子編, 1998, 『環境』(講座社会学12巻)東京大学出版会。
飯島伸子・長谷川公一・鳥越皓之・船橋晴俊編, 2001, 『環境社会学の視点』(講座環境社会学1巻), 有斐閣。
ほか、授業内で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

成績評価の方法

議論への貢献度(60%)、課題の評点(40%)から総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(政策科学) 宇田 和子		

授業の概要・到達目標

この演習では、環境社会学および保健医療社会学の文献を読み、受講生同士で批判的な議論を行うことを通じて、各分野の方法・視点・理論の一端を理解する。いずれの分野も幅広い関心を有するが、ここでは以下四点に絞った文献を扱う。第一に、環境問題に起因する被害（公害病や環境汚染）、第二に、人為的に罹患させられる病（薬害や副作用被害）、第三に、被害を拡大させる、あるいは病者の状況を悪化させる社会的構造、第四に、被害者または病者の生活回復に対する政策の介入可能性である。

この演習の到達目標は以下三点である、第一に、各分野の主要な論点を理解し、批判的に検討できる。第二に、それらと自身の研究の関連を整理し、位置づけられる。第三に、異なる関心や専門分野をもつ他の受講生にも理解できる言葉で議論を展開することができる。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 各自の問題関心の報告
- 第3回 文献講読(1)
- 第4回 文献講読(2)
- 第5回 文献講読(3)
- 第6回 文献講読(4)
- 第7回 文献講読(5)
- 第8回 文献講読(6)
- 第9回 文献講読(7)
- 第10回 文献講読(8)
- 第11回 文献講読(9)
- 第12回 文献講読(10)
- 第13回 各自の研究と保健医療社会学の関連についての報告(1)
- 第14回 各自の研究と保健医療社会学の関連についての報告(2)

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

全員が文献を読み、議論の問いを考える。報告者は議論のたたき台となるレジュメを作る。その際、扱う文献以外の先行研究や補足情報を調べる。

教科書

本郷正武・佐藤哲彦編, 2023, 『薬害とはなにか：新しい薬害の社会学』ミネルヴァ書房。
ほか、受講生の関心により決定する。

参考書

宝月誠編, 1986, 『薬害の社会学：薬と人間のアイロニー』世界思想社。
種田博之, 2019, 『パラドクスとしての薬害エイズ：医師のエートスと医療進歩の呪縛』新曜社。
野島那津子, 2021, 『診断の社会学：「論争中の病」を患うということ』慶応義塾大学出版会。
ほか、授業内で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

成績評価の方法

議論への貢献度(60%)、課題の評点(40%)から総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授	内藤 朝雄	

授業の概要・到達目標

一定の条件のもとで生じたときに大きく展開する、人間が人間にとって怪物になるというべき暴力・迫害現象を研究するために活用可能な有望なRandall Collinsのミクロ社会学的暴力論の論理について検討し、それを組み込んだ新しい社会学的あるいは社会科学の理論構築の可能性をさぐる。

Randall Collinsの暴力論の論理について見識を深め、これをもとに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

テキストについて全員が読んでくる。レポーターは、発表の1週間前に、一つの章や論文について、要約をつくり、かつ、その箇所をテーマにした論文（A4用紙で8枚以上、見開きなら4枚以上）をつくり、全員に配布し、当日それを発表する。コメンテーターはそれを読んできてコメントの小論文を書いてきて全員に配布し、コメントを発表する。

次の文献をテキストとして予定している。

『Violence』 Randall Collins (Princeton University Press)

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：教科書序章についての発表と討議
- 第3回：教科書第1章についての発表と討議
- 第4回：教科書第2章についての発表と討議
- 第5回：教科書第3章についての発表と討議
- 第6回：教科書第4章についての発表と討議
- 第7回：教科書第5章についての発表と討議
- 第8回：教科書第6章についての発表と討議
- 第9回：教科書第7章についての発表と討議
- 第10回：教科書第8章についての発表と討議
- 第11回：教科書第9章についての発表と討議
- 第12回：教科書第11章についての発表と討議
- 第13回：Collins暴力論と関連させて暴力についての各参加者によるオリジナルな論文発表と討議を行う
- 第14回：Collins暴力論と、内藤朝雄が構築してきた暴力・迫害の生態学的IPS秩序論を接合する理論の探求

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。原書講読(英語)をするので、ある程度の英語力のある学生が履修を選択するのが好ましい。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでくること。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書を読んでくること。授業で紹介した内容については、文献等で調べてくること。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。

教科書

『Violence』 Randall Collins (Princeton University Press)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

必要や求めに応じ、クラスウェブや電子メールなどを用いてコメントや助言のやりとりをする。

成績評価の方法

授業への参加度50パーセント、報告や論文の内容50パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅣB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授	内藤 朝雄	

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、人間が人間にとって怪物になるというべき暴力・迫害現象を研究するために活用可能な有望領域としての進化心理学的暴力論の論理について検討し、それを組み込んだ新しい社会学的あるいは社会科学の理論構築の可能性をさぐる。

春学期の授業にくわえてさらに、進化心理学的暴力論の論理について見識を深め、これをもとに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

テキストについて全員が読んでくる。レポーターは、発表の1週間前に、一つの章や論文について、要約をつくり、かつ、その箇所をテーマにした論文（A4用紙で8枚以上、見開きなら4枚以上）をつくり、全員に配布し、当日それを発表する。コメンテーターはそれを読んできてコメントの小論文を書いてきて全員に配布し、コメントを発表する。

次の文献をテキストとして予定している。

『The Oxford Handbook of Evolutionary Perspectives on Violence, Homicide, and War』 Todd K. Shackelford and Viviana A. Weekes-Shackelford編, Oxford University Press

- 第1回：教科書第1章についての発表と討議
- 第2回：教科書第2章についての発表と討議
- 第3回：教科書第3章についての発表と討議
- 第4回：教科書第10章についての発表と討議
- 第5回：教科書第13章についての発表と討議
- 第6回：教科書第14章についての発表と討議
- 第7回：教科書第16章についての発表と討議
- 第8回：教科書第17章についての発表と討議
- 第9回：教科書第19章についての発表と討議
- 第10回：教科書第20章についての発表と討議
- 第11回：教科書第23章についての発表と討議
- 第12回：教科書第24章についての発表と討議
- 第13回：教科書第26章についての発表と討議
- 第14回：教科書第27章についての発表と討議

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。原書講読(英語)をするので、ある程度の英語力のある学生が履修を選択するのが好ましい。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでくること。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

必ず教科書を読んでくること。授業で紹介した内容については、文献等で調べてくること。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。

教科書

『The Oxford Handbook of Evolutionary Perspectives on Violence, Homicide, and War』 Todd K., Shackelford and Viviana A. & Weekes-Shackelford編 (Oxford University Press)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

必要や求めに応じ、クラスウェブや電子メールなどを用いてコメントや助言のやりとりをする。

成績評価の方法

授業への参加度50パーセント、報告や論文の内容50パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	現代社会学演習IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授		内藤 朝雄

授業の概要・到達目標

一定の条件のもとで生じたときに大きく展開する、人間が人間にとって怪物になるというべき暴力・迫害現象を研究するために活用可能な有望なRandall Collinsのミクロ社会学的暴力論の論理について検討し、それを組み込んだ新しい社会学的あるいは社会科学理論構築の可能性をさぐる。

Rancall Collinsの暴力論の論理について見識を深め、これをもとに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

テキストについて全員が読んでくる。レポーターは、発表の一週間前に、一つの章や論文について、要約をつくり、かつ、その箇所をテーマにした論文（A4用紙で8枚以上、見開きなら4枚以上）をつくり、全員に配布し、当日それを発表する。コメンテーターはそれを読んできてコメントの小論文を書いてきて全員に配布し、コメントを発表する。

『Violence』 Randall Collins (Princeton University Press)
 次の文献をテキストとして予定している。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：教科書序章についての発表と討議
- 第3回：教科書第1章についての発表と討議
- 第4回：教科書第2章についての発表と討議
- 第5回：教科書第3章についての発表と討議
- 第6回：教科書第4章についての発表と討議
- 第7回：教科書第5章についての発表と討議
- 第8回：教科書第6章についての発表と討議
- 第9回：教科書第7章についての発表と討議
- 第10回：教科書第8章についての発表と討議
- 第11回：教科書第9章についての発表と討議
- 第12回：教科書第11章についての発表と討議
- 第13回：Collins暴力論と関連させて暴力についての各参加者によるオリジナルな論文発表と討議を行う
- 第14回：Collins暴力論と、内藤朝雄が構築してきた暴力・迫害の生態学的IPS秩序論を接合する理論の探求

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。原書講読（英語）をするので、ある程度の英語力のある学生が履修を選択するのが好ましい。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでくること。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書を読んでくること。授業で紹介した内容については、文献等で調べてくること。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。

教科書

『Violence』 Randall Collins (Princeton University Press)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

必要や求めに応じ、クラスウェブや電子メールなどを用いてコメントや助言のやりとりをする。

成績評価の方法

授業への参加度50パーセント、報告や論文の内容50パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	現代社会学演習IVD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授		内藤 朝雄

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、人間が人間にとって怪物になるというべき暴力・迫害現象を研究するために活用可能な有望領域としての進化心理学的暴力論の論理について検討し、それを組み込んだ新しい社会学的あるいは社会科学理論構築の可能性をさぐる。

春学期の授業にくわえてさらに、進化心理学的暴力論の論理について見識を深め、これをもとに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

テキストについて全員が読んでくる。レポーターは、発表の一週間前に、一つの章や論文について、要約をつくり、かつ、その箇所をテーマにした論文（A4用紙で8枚以上、見開きなら4枚以上）をつくり、全員に配布し、当日それを発表する。コメンテーターはそれを読んできてコメントの小論文を書いてきて全員に配布し、コメントを発表する。

『The Oxford Handbook of Evolutionary Perspectives on Violence, Homicide, and War』 Todd K. Shackelford and Viviana A. Weekes-Shackelford編, Oxford University Press

- 第1回：教科書第1章についての発表と討議
- 第2回：教科書第2章についての発表と討議
- 第3回：教科書第3章についての発表と討議
- 第4回：教科書第10章についての発表と討議
- 第5回：教科書第13章についての発表と討議
- 第6回：教科書第14章についての発表と討議
- 第7回：教科書第16章についての発表と討議
- 第8回：教科書第17章についての発表と討議
- 第9回：教科書第19章についての発表と討議
- 第10回：教科書第20章についての発表と討議
- 第11回：教科書第23章についての発表と討議
- 第12回：教科書第24章についての発表と討議
- 第13回：教科書第26章についての発表と討議
- 第14回：教科書第27章についての発表と討議

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。原書講読（英語）をするので、ある程度の英語力のある学生が履修を選択するのが好ましい。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでくること。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習（予習・復習等）の内容

必ず教科書を読んでくること。授業で紹介した内容については、文献等で調べてくること。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。

教科書

『The Oxford Handbook of Evolutionary Perspectives on Violence, Homicide, and War』 Todd K., Shackelford and Viviana A. & Weekes-Shackelford編 (Oxford University Press)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

必要や求めに応じ、クラスウェブや電子メールなどを用いてコメントや助言のやりとりをする。

成績評価の方法

授業への参加度50パーセント、報告や論文の内容50パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習VA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標

現代日本の未婚化・オタク文化の隆盛・セックスレス現象・性的多様性の社会的受容などの現状を世界のさまざまな社会との比較をおこないつつ、文献資料から明らかにする。

合わせて、セクシュアリティと宗教、セクシュアリティと避妊技術、セクシュアリティと家族構造、セクシュアリティと男女の権力関係、セクシュアリティと人口、セクシュアリティと近代医科学、セクシュアリティと近代国家などの関係についての、専門の研究成果を学ぶ。

セクシュアリティ研究は西洋諸国をはじめとして近年きわめて盛んになっている分野だが、日本ではタブー視されアカデミックには蓄積が薄い。その中で、セクシュアリティ研究を志す人にとっての、幅広い学問的な基礎を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 セクシュアリティと人類史
- 第3回 セクシュアリティと宗教1
- 第4回 セクシュアリティと宗教2
- 第5回 セクシュアリティと家族構造1
- 第6回 セクシュアリティと家族構造2
- 第7回 前近代日本のセクシュアリティ1
- 第8回 前近代日本のセクシュアリティ2
- 第9回 前近代日本のセクシュアリティ3
- 第10回 セクシュアリティと避妊技術
- 第11回 セクシュアリティと近代医科学
- 第12回 セクシュアリティと近代国家
- 第13回 セクシュアリティと男女の権力関係
- 第14回 総括

履修上の注意

毎回学生の発表形式をとるので、準備には相当の時間と熱意を要することを予め承知してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、そのつど指示する参考文献を読み、調べておくこと。

教科書

Kathleen J. Fitzgerald, Kandice L. Grossman (2018), *Sociology of Sexualities*, Sage
ほか多くの参考文献を用いる。

参考書

多くの参考文献を授業中に指示する。

成績評価の方法

授業は発表形式でおこなうので、その参加度や発表内容で評価する（7割程度の比重）。学期の最後に小論文を書いてもらい、その内容で評価する（3割程度の比重）。

その他

参加者の都合が合えば、構内での授業に替えて、学外でのフィールドワークをおこなう場合もある。

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習VB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標

現代日本の未婚化・オタク文化の隆盛・セックスレス現象・性的多様性の社会的受容などの現状とを、世界のさまざまな社会との比較をおこないつつ、さまざまな文献資料から明らかにする。

合わせて、セクシュアリティと避妊技術、セクシュアリティと家族構造、セクシュアリティと男女の権力関係、セクシュアリティと人口、セクシュアリティとメディア、セクシュアリティと教育、セクシュアリティと労働、セクシュアリティと社会階層などの関係についての、専門の研究成果を学ぶ。

セクシュアリティ研究は西洋諸国をはじめとして近年きわめて盛んになっている分野だが、日本ではタブー視されアカデミックには蓄積が薄い。その中で、セクシュアリティ研究を志す人にとっての、幅広い学問的な基礎を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 セクシュアリティと現代史1
- 第3回 セクシュアリティと現代史2
- 第4回 セクシュアリティと避妊技術
- 第5回 セクシュアリティと家族1
- 第6回 セクシュアリティと家族2
- 第7回 現代日本のセクシュアリティ1
- 第8回 現代日本のセクシュアリティ2
- 第9回 現代日本のセクシュアリティ3
- 第10回 セクシュアリティとメディア
- 第11回 セクシュアリティと教育
- 第12回 セクシュアリティと労働
- 第13回 セクシュアリティと社会階層
- 第14回 総括

履修上の注意

毎回学生の発表形式をとるので、準備には相当の時間と熱意を要することを予め承知してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、そのつど指示する参考文献を読み、調べておくこと。

教科書

日本語、英語の多くの参考文献を読むので特に教科書は指定しない。

参考書

石川弘義『日本人と性』文藝春秋社
ほか多くの参考文献を授業中に指示する。

成績評価の方法

授業は発表形式でおこなうので、その参加度や発表内容で評価する（7割程度の比重）。学期の最後に小論文を書いてもらい、その内容で評価する（3割程度の比重）。

その他

参加者の都合が合えば、構内での授業に替えて、学外でのフィールドワークをおこなう場合もある。

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	現代社会学演習VC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標

現代日本の未婚化・オタク文化の隆盛・セックスレス現象・性的多様性の社会的受容などの現状を世界のさまざまな社会との比較をおこないつつ、文献資料から明らかにする。

合わせて、セクシュアリティと宗教、セクシュアリティと避妊技術、セクシュアリティと家族構造、セクシュアリティと男女の権力関係、セクシュアリティと人口、セクシュアリティと近代医学、セクシュアリティと近代国家などの関係についての、専門の研究成果を学ぶ。

近年、中国からの留学生が増えていることから、中国社会における家族関係、恋愛、リプロダクション、人口問題などにも、焦点をあてて学ぶ。

セクシュアリティ研究は西洋諸国をはじめとして近年きわめて盛んになっている分野だが、日本ではタブー視されアカデミックには蓄積が薄い。その中で、セクシュアリティ研究を志す人にとっての、幅広い学問的な基礎を身に着けることを目標とする。

M2の学生には、修士論文研究の指導をおこなう。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 セクシュアリティと人類史
- 第3回 セクシュアリティと宗教1
- 第4回 セクシュアリティと宗教2
- 第5回 セクシュアリティと家族構造1
- 第6回 セクシュアリティと家族構造2
- 第7回 前近代日本のセクシュアリティ1
- 第8回 前近代日本のセクシュアリティ2
- 第9回 前近代日本のセクシュアリティ3
- 第10回 セクシュアリティと避妊技術
- 第11回 セクシュアリティと近代医学
- 第12回 セクシュアリティと近代国家
- 第13回 セクシュアリティと男女の権力関係
- 第14回 総括

履修上の注意

毎回学生の発表形式をとるので、準備には相当の時間と熱意を要することを予め承知してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、そのつど指示する参考文献を読み、調べておくこと。

教科書

Kathleen J. Fitzgerald, Kandice L. Grossman (2018), *Sociology of Sexualities*, Sage
ほか多くの参考文献を用いる。

参考書

多くの参考文献を授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

個別に口頭や文書の形で、随時フィードバックをおこなう。修士論文の提出前には、論文草稿を詳しくチェックしてコメントをおこなう。

成績評価の方法

授業は発表形式でおこなうので、その参加度や発表内容で評価する（7割程度の比重）。学期の最後に小論文を書いてもらい、その内容で評価する（3割程度の比重）。

その他

参加者の都合が合えば、構内での授業に替えて、学外でのフィールドワークをおこなう場合もある。

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	現代社会学演習VD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標

現代日本の未婚化・オタク文化の隆盛・セックスレス現象・性的多様性の社会的受容などの現状とを、世界のさまざまな社会との比較をおこないつつ、さまざまな文献資料から明らかにする。

合わせて、セクシュアリティと避妊技術、セクシュアリティと家族構造、セクシュアリティと男女の権力関係、セクシュアリティと人口、セクシュアリティとメディア、セクシュアリティと教育、セクシュアリティと労働、セクシュアリティと社会階層などの関係についての、専門の研究成果を学ぶ。

近年、中国からの留学生が増えていることから、中国社会における家族関係、恋愛、リプロダクション、人口問題などにも、焦点をあてて学ぶ。

セクシュアリティ研究は西洋諸国をはじめとして近年きわめて盛んになっている分野だが、日本ではタブー視されアカデミックには蓄積が薄い。その中で、セクシュアリティ研究を志す人にとっての、幅広い学問的な基礎を身に着けることを目標とする。

M2の学生には、修士論文研究の指導をおこなう。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 セクシュアリティと現代史1
- 第3回 セクシュアリティと現代史2
- 第4回 セクシュアリティと避妊技術
- 第5回 セクシュアリティと家族1
- 第6回 セクシュアリティと家族2
- 第7回 現代日本のセクシュアリティ1
- 第8回 現代日本のセクシュアリティ2
- 第9回 現代日本のセクシュアリティ3
- 第10回 セクシュアリティとメディア
- 第11回 セクシュアリティと教育
- 第12回 セクシュアリティと労働
- 第13回 セクシュアリティと社会階層
- 第14回 総括

履修上の注意

毎回学生の発表形式をとるので、準備には相当の時間と熱意を要することを予め承知してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、そのつど指示する参考文献を読み、調べておくこと。

教科書

日本語、英語の多くの参考文献を読むので特に教科書は指定しない。

参考書

石川弘義『日本人と性』文藝春秋社
ほか多くの参考文献を授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

口頭または文書の形で、各課題には必ずフィードバックをおこなう。修士論文は提出前に草稿をチェックし、詳細なコメントをつける。

成績評価の方法

授業は発表形式でおこなうので、その参加度や発表内容で評価する（7割程度の比重）。学期の最後に小論文を書いてもらい、その内容で評価する（3割程度の比重）。

その他

参加者の都合が合えば、構内での授業に替えて、学外でのフィールドワークをおこなう場合もある。

科目ナンバー：(AL) SOC541J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会福祉論		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(社会福祉学) 永田 祐		

授業の概要・到達目標

現代社会における社会福祉のあり方について、多角的に検討する。近年、家族、地域社会、職域といった従来の日本社会を支えてきた中間集団が弱体化し、制度の狭間といわれるような社会的孤立の問題が顕在化している。こうした社会変動を理解し、今後の社会福祉のあり方について受講者とともに話し合い、その方向性を明らかにすることを目標とする。

授業内容

授業では、文献や新聞記事を使いながら、現代の社会福祉問題(社会的孤立、制度の狭間、子どもの貧困、権利擁護、地域包括ケアなど)とその解決策(今後の社会福祉の提供体制、地方自治体の役割、社会的企業の役割など)についての講義と参加者同士での議論などを通じて理解を深めていく予定である。

- 第1回：社会の個人化と制度の狭間
- 第2回：社会福祉制度の概要①
- 第3回：社会福祉制度の概要②
- 第4回：社会福祉制度の概要③
- 第5回：現代の社会福祉問題①
- 第6回：現代の社会福祉問題②
- 第7回：現代の社会福祉問題③
- 第8回：現代の社会福祉問題④
- 第9回：現代の社会福祉問題⑤
- 第10回：今後の福祉の提供体制について①
- 第11回：今後の福祉の提供体制について②
- 第12回：今後の福祉の提供体制について③
- 第13回：今後の福祉の提供体制について④
- 第14回：まとめ

履修上の注意

集中講義のため、事前に自らの問題関心や協議したいことを事前に提出してもらうことがあります。受講生の関心などにより、授業内容を変更することがあります。集中講義の日程については、受講者と相談の上決定しますが、希望に沿えない場合もあることをご承知おきください。

準備学習（予習・復習等）の内容

初回講義までに「社会福祉論で学びたい現代の社会福祉問題」を提出してもらい(形式任意)、それに基づいて集中講義を行う。

教科書

必要があれば、開講時に指示する。

参考書

- ・永田祐『包括的な支援体制のガバナンス』有斐閣、2021年。
- ・上野谷加代子・松端克文・永田祐編著『新版よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房、2019年。
- ・永田祐編『よくわかる権利擁護と成年後見制度』ミネルヴァ書房、2016年。
- ・永田祐『住民と創る地域包括ケア』ミネルヴァ書房、2013年。
- ・永田祐『ローカル・ガバナンスと参加』中央法規出版、2011年。

課題に対するフィードバックの方法

個別にフィードバックを行う

成績評価の方法

期末レポートで評価する。事例提示の有無、授業中の発言内容も加味する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	NPO市民活動論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任教授	塚本 一郎	

授業の概要・到達目標

市民活動団体は近年、非営利組織(NPO)あるいはサード・セクターと称されることが一般的となっているが、民間非営利組織(以下、NPO)は1990年代以降、世界的に急速に成長し、公共サービスの主要なプレイヤーとなりつつある。また、単に公共サービスの担い手というだけでなく、社会価値あるいは公共価値を創造するソーシャル・イノベーションの担い手でもある。

授業では、まず非営利組織の組織特性や社会基盤、期待される役割に関する講義を行った上で、国際比較の観点もとりいれ、NPOをめぐる制度的環境・組織的变化、NPOと政府・企業との協働の現状や課題についての理解を深める。また、近年のNPOと営利組織とのハイブリッドモデルとして注目されているソーシャル・エンタープライズ(社会的企業)についてもとりあげる。授業は講義形式で実施するが、講義後、毎回、ディスカッションを実施する。

授業内容

1. イントロダクション
2. NPO(非営利組織)とは何かー営利との相違を中心に
3. NPOの組織特性:経済理論的説明
4. NPOの組織特性:政治学・組織論的説明
5. 福祉国家とNPO
6. NPOの法制・税制
7. NPOとソーシャル・キャピタル(社会関係資本)
8. NPOと政府との協働
9. NPOと政府との協働をめぐる課題
10. NPOと企業との協働
11. NPOと価値共創マーケティング
12. NPOの事例:地域再生、就労支援等
13. NPOと社会的企業
14. NPOとインパクト評価

履修上の注意

授業中の議論に積極的に参加する姿勢が望まれる。正当な理由のない欠席、無断欠席は参加意識の欠如ということで減点対象となる。無断欠席あるいは正当な理由のない欠席2回以上は不可とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

イントロダクションや各回講義で参考文献を紹介する。基本的に前日までは授業資料をOh-ol Meijiに掲示するので、事前に目を通しておくこと。

教科書

教科書は使用しない。毎回、パワーポイントの講義資料を提供する。

参考書

- 授業の際、指示するが、非営利組織の入門的な文献としては以下の3冊を推薦する。
- 澤村明他『はじめてのNPO論』有斐閣。
 - 雨森孝悦『テキストブックNPO(第3版)』東洋経済新報社。
 - 塚本一郎他編著『インパクト評価と社会イノベーション』第一法規。
 - 塚本一郎他編著『インパクト評価と価値創造経営』第一法規。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji、「クラスウェブ」に提出された課題についてはコメント機能を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(60%)、発表(20点)、最終課題レポート(20%)などで総合的に評価する。最終レポートは授業内容と関連した課題レポート(1回)の提出を予定しているが、詳細は講義中に指示する。最低1回は、紹介した論文について、各自、発表してもらう。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	コミュニティビジネス論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	田中 夏子	

授業の概要・到達目標

授業概要…政策サイドからも、市民運動のサイドからも、コミュニティ・ビジネスに対する期待が寄せられる中、そもそも「コミュニティ」とはどのような概念なのか、「コミュニティ」への着眼の背景にある課題とは何か、コミュニティ・アプローチの多様性とその相互関係はいかなるものか、そしてコミュニティを土台とした経済的な実践の課題と可能性は何かを検討した上で、コミュニティ・ビジネスのケーススタディを行なう。
本授業によって、コミュニティ・ビジネスの現場から見た課題のみならず、事業運営にあたっての示唆となる理論的な枠組みを把握することを目標とする。

到達目標…コミュニティ及びコミュニティビジネスを含む社会的企業に関わる概念及びそれら相互の関係をめぐる議論を理解し、各自が自らの関心に引き付けてアウトプットできることである。

授業内容

- 1 コミュニティビジネスの前提となるコミュニティ概念1)
- 2 コミュニティビジネスの前提となるコミュニティ概念2)
- 3 コミュニティビジネスという考え方の理論的前提1) 社会的排除との関わり
- 4 コミュニティビジネスという考え方の理論的前提2) デイアセントワークの探求
- 5 コミュニティビジネスの生成と発展、課題 福祉分野を中心に1)
- 6 コミュニティビジネスの生成と発展、課題 福祉分野を中心に2)
- 7 コミュニティビジネスの生成と発展、課題 持続可能な社会形成1)
- 8 コミュニティビジネスの生成と発展、課題 持続可能な社会形成2)
- 9 コミュニティビジネスの生成と発展、課題 排除のない社会形成1)
- 10 コミュニティビジネスの生成と発展、課題 排除のない社会形成2)
- 11 コミュニティビジネスの批判的検討1)
- 12 コミュニティビジネスの批判的検討2)
- 13 コミュニティビジネスの批判的検討に応えるには
- 14 最終報告会

履修上の注意

上記のシラバスは、受講生の関心等に沿って一部、順番を変更ないしは議論の題材を差し替える場合があります。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講に際しては、各自、問題意識や意見を形成したうえで、出席してください。

教科書

特定の教科書は指定せず、毎回の議論にそって該当する論文をお渡します。

参考書

『食いのちをひらく女性たち』佐藤一子他編著（農文協）2018年
『イタリア社会的経済の地域展開』田中夏子著（日本経済評論社）、2004年
『関わなければ社会は壊れる』今野晴貴著（岩波書店）2019年 等

成績評価の方法

毎回の授業への貢献度(発言、発表等)40%
学期末のレポート60%

その他

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	コミュニティ・デザイン論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	鈴木 久美子	

授業の概要・到達目標

人びとが生き、働き、そして思考する「生活の共同」としての「コミュニティ」をどのように構想し、設計するのか。本講義は、「都市社会学」の立場から、「都市」と「コミュニティ」を重層関係として捉え、ますます多様化し複雑化する現代社会における「都市型コミュニティ」の実態と課題、そしてその可能性を考察する。併せて、そのための方法論として、特定の「現場」に出て自らが体感し、問題を発見するための方法論としての「質的調査（フィールドワーク/エスノグラフィー）」の技法についても検討する。

社会調査の基本的知識と、「調査者」(フィールドワーカー/エスノグラファー)としての具体的な素養技術を身につけたうえで、オリジナルな構想とデッサンによる「新しいコミュニティ像」を描くなかで、現代社会における「生活の共同」の意味を問い直すことを到達目標として掲げる。

授業内容

- 第1回目 インタロダクション
- 第2回目 現代社会をどうよむか
- 第3回目 いま、なぜコミュニティなのか
- 第4回目 都市のコミュニティ研究
- 第5回目 コミュニティ形成とその諸課題
- 第6回目 コミュニティと社会的ネットワーク
- 第7回目 コミュニティのこれから
- 第8回目 社会調査とはなにか(社会的な現実の捉え方)の検討
- 第9回目 質的調査法のデザイン
- 第10回目 インタビューの技法
- 第11回目 質的データの収集
- 第12回目 質的データの分析・解釈
- 第13回目 質的データの記述・報告
- 第14回目 まとめと総括

履修上の注意

受講者間の討議、演習(インタビュー演習等)を予定しているので、積極的な参加を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・毎回、次回のテーマについて予告するので、事前に文献等で調べておくこと。
- ・課題が次回の教材になることもあるので、その場合は、指示された課題をやってくること。
- ・報告者となった場合は、事前にレジュメを用意すること。

教科書

使用しない。

参考書

『人びとにとって「都市的なるもの」とは 新都市社会学・序説』奥田道大(ハーベスト社)
『現代エスノグラフィー 新しいフィールドワークの理論と実践』藤田結子・北村文(春秋社)
『エスノグラフィー入門(現場)を質的研究する』小田博志(春秋社)

成績評価の方法

授業への参加度(60%)、レポート(40%)により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	地域開発論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 理学博士	山田 晴通	

授業の概要・到達目標

地域開発をめぐる議論は、もっぱら公共政策の観点から、すなわち、行政が「上から」政策的誘導をおこない、民間からも投下され、様々な事業が展開されていくという側面から論じられることが従来は多かった。しかし、経済状況が変化し、自然や環境問題への関心が高まり、また、行政機構の変革が進んでいく中で、地域開発を、本来の意味での地域に根ざした、「下から」の視点でとらえ直す議論の重要性は、徐々に高まりつつある。

この講義では、こうした地域開発をめぐる多様な論点について、戦後日本の地域開発を巡る議論に例をとりながら、受講者とともに考えていきたい。

講義ではあるが、適宜、演習的な作業課題も与え、受講者が関連文献の渉猟に取り組むよう促していく。

授業内容

- 第1回：「地域開発」概念をめぐる基本的な視点
- 第2回：「開発」概念の批判的検討(1)
- 第3回：「開発」概念の批判的検討(2)
- 第4回：「地域」概念の批判的検討(1)
- 第5回：「地域」概念の批判的検討(2)
- 第6回：「地域開発」概念の批判的検討(1)
- 第7回：「地域開発」概念の批判的検討(2)
- 第8回：教科書講読(1) …取り上げる章(論文)は受講者の意向を踏まえて選ぶ
- 第9回：教科書講読(2)
- 第10回：教科書講読(3)
- 第11回：教科書講読(4)
- 第12回：教科書講読(5)
- 第13回：教科書講読(6)
- 第14回：期末レポートのテーマについての指導

履修上の注意

講義ではあるが、対話、議論の要素を盛り込んだ授業運営をするので、積極的な姿勢で受講してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

この講義では指定されている教科書から数本の論文を教材として講読するが、事前学習としては、教科書を早めに入手して自主的に通読することを求める。また、インターネット上にリストが公開されている講義担当者の既発表論文から、地域開発に関わると思われるものを通読しておくこと。(http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/Y-KEN/biblio.html) また、授業の過程において予習の作業を求めた場合には、これに適切に取り組むこと。

事後学習としては、講義内容に関連する書籍等の資料や、ネット上の情報の渉猟・関係する学術論文類の自主的な精読を通じた自習を含め、必要な復習を行なうとともに、おもに復習課題として出される宿題に適切に取り組むことを求める。

事前事後学習に要する時間は、1回の授業に対して概ね4時間を目安に設定しているが、それ以上の時間を要する課題が課される場合もある。

教科書

中俣 均・編『国土空間と地域社会』朝倉書店、2004年

参考書

随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題レポートについては、採点終了後に授業時間内で講評し、フィードバックとする。

成績評価の方法

授業ごとに課す課題レポートを踏まえた平常点(50%)と、期末レポート(50%)によって評価する。

その他

シラバスを補足する情報は下記のURLで公開するので、事前に見ておくこと。

http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/Y-KEN/ex-files/notice23.html

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	地方自治論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任教授	牛山 久仁彦	

授業の概要・到達目標

日本における地方分権改革の到達点と課題について検証し、地方自治の現状を考察する。

授業内容

- 第1回 研究の進め方についてのガイダンス
- 第2回 講義で扱う内容についての討論
- 第3回 地方自治についての先行研究の確認①
- 第4回 地方自治についての先行研究の確認②
- 第5回 研究課題の設定
- 第6回 研究課題についての文献講読①
- 第7回 研究課題についての文献講読②
- 第8回 研究課題についての文献講読③
- 第9回 研究課題についての文献講読④
- 第10回 研究課題についての文献講読⑤
- 第11回 研究課題についての文献講読⑥
- 第12回 研究課題についての文献講読⑦
- 第13回 文献講読をふまえた研究課題についての内容確認
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

特になし

準備学習(予習・復習等)の内容

特になし

教科書

受講生と協議の上、決定する。

参考書

開講時に指示する。

成績評価の方法

平常点にて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU511J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	教育システム論		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師		前原 健二

授業の概要・到達目標

この講義の到達目標は、教育という大きな社会システムの維持や改革の動き方を具体的に知り、なぜシステムが変わったり変わらなかったりするののかというメカニズムの一端についての理解を獲得すること、及びそうした分析のための方法論についての理解を獲得することである。

授業では第2次大戦後のドイツの学校制度改革の動向を、教員・学校・学校制度という三つの位相において、順を追って整理、検討する。特にこの20年間ほど、ドイツの学校制度は大きく変転を繰り返しているため、その概要、なぜそういう状況になっているのかという動因、教育制度論にとってそれが意味するところ、について考察する。

関連して、現代日本の教育システム改革の動向についても考察する予定である。

以上のほか、受講者の基礎知識の状況や感染症対策の必要に即した変更がありうる。

授業内容

- 各回、講師による講義、講義内容についての質疑・議論を行う。
- 第1回 講義の概要の説明、日本とドイツの教育制度について
 - 第2回 ドイツの学校制度の歴史と概要
 - 第3回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(1)学校監督論争
 - 第4回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(2)教員評価
 - 第5回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(3)教員研修
 - 第6回 「教員養成」の改革：特に教員不足と「中途入職教員」
 - 第7回 「学校の自律性」をめぐる教育改革(1)外的改革から内的改革へ
 - 第8回 「学校の自律性」をめぐる教育改革(2)学校の自律化と競争
 - 第9回 「学校の自律性」をめぐる教育改革(3)学校の自律性と教育の機会均等の理念
 - 第10回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(1)戦後西ドイツの学校制度改革の提起と破綻
 - 第11回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(2) PISAショック以後の学校制度改革論議の再燃
 - 第12回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(3)単線型学校制度への転換の提起
 - 第13回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(4)三分岐から二分岐へ：学校制度改革の進展と妥協
 - 第14回 日本の学校制度改革との比較検討と講義のまとめ

履修上の注意

本講義は集中講義で実施する。
この科目は受講者による報告と相互の議論によって構成する演習ではなく、講義である。ただし毎回、質疑および講義中に提起する論点に関する議論を行う。
特別な事情のない限り、欠席はしないほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に読むべき文献を指定する場合がある。指定された文献を読んで参加すること。
講義中に配布するプリント、講義の内容、講義中の質疑や討論について復習すること。

教科書

使用しない。

参考書

講義の内容に直接関係する講義担当者の著書が2023年春までに刊行予定なので、刊行され次第提示する(『現代ドイツの教育改革』世織書房)。
日本語で読める、ドイツの学校制度についての網羅的な参考書として、『ドイツの教育のすべて』マックスプランク教育研究所研究者グループ、東信堂、2006年。
ドイツの学校法制に関するコンパクトな概説書として、『ドイツの学校と教育法制』ヘルマン・アベナリウス、教育開発研究所、2007年。
そのほか、関連する文献については随時紹介する。

成績評価の方法

講義中の質疑討論への参加(50%)、期末レポート(50%)による。
レポートについては受講者との協議により詳細を確定する。

その他

ドイツ語の能力は特に必要としない。

科目ナンバー：(AL) EDU591J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	思春期・青年期論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(人間学)	伊藤 直樹

授業の概要・到達目標

この授業では、思春期・青年期の若者の成長と適応について、心理・社会・教育的な観点から学習することを目的とする。

テーマとしては、児童期後期から思春期を経て青年期に至るまでの心身の発達過程、人格的な成長と発達課題、最近の子どもたちの親子関係、友人関係の特徴、学校におけるいじめや不登校、思春期・青年期に多く見られる心理的な問題などを扱う。

授業は、まず、講師が各回において取り上げるテーマに関する基本的な事項について概説し、関連文献を講読する。その後、内容に応じて、受講者相互のディスカッションを行うことにより、理解をさらに深める。受講者が自らの思春期・青年期を振り返りながら、各テーマを掘り下げることが必要になる。

授業内容

- 第1講 思春期・青年期とは
 - 第2講 身体の発達と性的発達
 - 第3講 思春期・青年期における友人関係
 - 第4講 今どきの友人関係
 - 第5講 思春期・青年期における家族関係・親子関係
 - 第6講 今どきの家族関係・親子関係
 - 第7講 思春期・青年期と性格形成
 - 第8講 乳幼児期と思春期・青年期的人格形成
 - 第9講 思春期・青年期とアイデンティティ
 - 第10講 思春期・青年期と進路選択
 - 第11講 不登校の現状
 - 第12講 思春期・青年期と不登校
 - 第13講 いじめの現状
 - 第14講 思春期・青年期といじめ
- ※講義内容は授業の進度、受講生の興味・関心により変更される場合がある。

履修上の注意

自分自身の経験を他の受講生の経験と比較することが重要である。授業を通じて、自分自身の経験を振り返り、また、それを授業での学習に積極的に活用することを心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に各回のテーマについて、中学・高校・大学時の学校生活をもとに自己の経験を振り返っておくこと。講義終了後に、各回に配付する資料をもとに復習すること。

教科書

指定しない。

参考書

笠井清澄ら編 「思春期学」東京大学出版会 2016年
保坂亨著 「いま、思春期を問い直す―グレーゾーンに立つ子どもたち―」東京大学出版会 2010年
H.S.サリヴァン著 中井久夫・山口隆訳 「現代精神医学の概念」みすず書房 1976年
西平直喜著 「成人になること」人間の発達4 東京大学出版会 1990年
詫摩武俊著 「性格はいかにつくられるか」岩波書店 1967年
安藤寿康著 「心はどのように遺伝するか―双生児が語る新しい遺伝観―」ブルーバックスB-1306 講談社 2000年
エリクソン、E. H. 著、村瀬孝雄・近藤邦夫訳 「ライフサイクル、その完結」みすず書房 1989年
※その他、授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合には、原則として、次の回の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業で指示された課題に対する取り組み、授業への貢献度を総合的に判断して評価する。

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) EDU511J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	教師教育論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		高野 和子

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕グローバル化が引き起こす国際的な経済競争でのサバイバルのために、各国・地域において教育が重視されればされるほど、教育の担い手としての教員に対して要求されるものは大きくなり、教員の資質・能力を維持・向上するための教師教育の重要性が言われるようになる。

教師教育は、現在、大きな変動と困難の中にあるといえるが、これまで蓄積されてきた研究成果がふまえられないままに様々な議論が交わされている場合も少なくない。本授業では基本的な概念をおさえた後、日本を中心に必要に応じて海外の状況にも言及しつつ教師教育の歴史と論点、及び今日的改革動向を概観する。日本のパートでは、明治大学における教員養成を事例としてとりあげる。講義形式とともに、随時、参加者による文献講読を行う。

〔到達目標〕教師教育をめぐる研究上の基本概念と基本問題について専門的な知識を獲得し、現代日本の教師教育の問題構造を把握して今後の方向性について自身の見解を持ち、研究的課題を提起できるようになること。

授業内容

- 第1回：イントロダクション：授業の目的と進め方
- 第2回：「師匠」「教員」「教師」－教える人を表す用語
- 第3回：国民教育制度と教員養成－モデル的説明
- 第4回：教員養成(1)戦前期
- 第5回：教員養成(2)戦後改革
- 第6回：教員養成(3)戦後教員養成史研究の系譜
- 第7回：「大学における教員養成」を考える－明治大学を事例として(1)
- 第8回：「大学における教員養成」を考える－明治大学を事例として(2)
- 第9回：教員採用－教職への入り口に見る日本の特徴
- 第10回：教師としての生涯にわたる学び
- 第11回：教師教育の「質保証」
- 第12回：「教員養成」「教師教育」「教員育成」－異なる用語が示すもの
- 第13回：専門性・専門職性再考
- 第14回：まとめ、課題の整理

履修上の注意

講義・テキストの内容を学び取るだけでなく、受講生が自分自身の個人的な体験を検討の素材として対象化し、かつ、授業の教材として共有することによって、各自の経験を相対化すると同時に先行研究をそこから再検証していくような議論をすることができればのぞましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回に必要な文献を指定する。文献は必ず事前に予習して授業に参加すること。

教科書

教科書を定めることはせず、受講生の既習歴を考慮して各回に必要な文献を指示する。

参考書

- 日本教師教育学会編『教師教育研究ハンドブック』学文社、2017年
- 土屋基規『戦後日本教員養成の歴史的研究』風間書房、2017年
- 油布佐和子編著『教師という仕事（リーディングス日本の教育と社会15）』日本図書センター、2009年
- 陣内靖彦監修『文献・資料集成 戦後日本の教師論(全24巻)』日本図書センター、2010.5-2011.4
- 船寄俊雄編著『教員養成・教師論(論集 現代日本の教育史2)』日本図書センター、2014年
- 久富善之『日本の教師、その12章－困難から希望への途を求めて』新日本出版社、2017年

課題に対するフィードバックの方法

授業時のコメントの他、必要に応じて、対面・Zoom・メールでのフィードバックを行う。

成績評価の方法

成績評価は授業での議論への貢献30%、報告担当30%、最終レポート40%によって行う。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU511J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	教育人間学		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授		博士(教育学) 関根 宏朗

授業の概要・到達目標

教育思想史・教育人間学という学問小分野についての基礎的な理解を深めることが本授業の目標である。本年度は、教育と精神分析の諸問題をめぐり重要な成果を重ねている国際的な教育哲学者デボラ・ブリッツマンの『フロイトと教育』(Routledge、2017)を一節ずつ読み解き、教育哲学の先端的な知見にふれてゆく。テキストの精読を通し、「教育」という事象についての原理的な考察をおこないたい。

授業内容

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：テキスト講読：「はしがき」
- 第3回：テキスト講読：「第一章 フロイト、精神分析、教育」(1)
- 第4回：テキスト講読：「第一章 フロイト、精神分析、教育」(2)
- 第5回：テキスト講読：「第二章 フロイトの教育と私たちの教育」(1)
- 第6回：テキスト講読：「第二章 フロイトの教育と私たちの教育」(2)
- 第7回：テキスト講読：「第三章 転移性の愛、あるいはマニユアル化の回避」(1)
- 第8回：テキスト講読：「第三章 転移性の愛、あるいはマニユアル化の回避」(2)
- 第9回：テキスト講読：「第四章 集団心理学と愛の問題」(1)
- 第10回：テキスト講読：「第四章 集団心理学と愛の問題」(2)
- 第11回：テキスト講読：「第五章 未解決の問題としての「乱暴な」教育」(1)
- 第12回：テキスト講読：「第五章 未解決の問題としての「乱暴な」教育」(2)
- 第13回：テキスト講読：「おわりに」
- 第14回：まとめとふりかえり

履修上の注意

積極的・主体的な授業参加を期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指定した範囲の文献に目を通して頂くこと。簡単なコメントを用意して頂くことが望ましい。

教科書

Britzman, Deborah., *Freud and Education.*, Routledge, 2011

詳細は授業初回に提示する。

参考書

教育思想史学会(編)『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房2017年。

Peters, Michael ed., *Encyclopedia of Educational Philosophy and Theory. 3 vols.*, Springer, 2017.

ジグムント・フロイト著 新宮一成、鷺田清一ほか訳『フロイト全集 1-22巻』岩波書店、2006-2020年。

その他、適宜指示する。

成績評価の方法

授業内発表:50% レポート:50%
ただし授業参加の姿勢も加味する。

その他

なし

科目ナンバー：(AL) EDU511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育社会史特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

本授業は、社会の中で生じる教育という営みについて人物史研究や制度史研究のみならず、国家と教員の関係、地域、民族、宗教、性差、教育空間、学歴、教具・教材といった観点から歴史的に考察するものである。

毎回の授業は、各テーマに関する論文を手がかりに全員で議論や意見交換を行う。

(到達目標)

- ・教育社会史研究の動向を把握する。
- ・社会の中で教育を捉えるということ意識すると同時に、教育を通じて社会を理解するという視座から考察する。

授業内容

- 第1講 教育の社会史一問いの特徴と意義―
- 第2講 国家と教員/民族と教育
- 第3講 宗教(信仰)と教育
- 第4講 家族と教育
- 第5講 ジェンダーと教育
- 第6講 地域と教育
- 第7講 身体と教育
- 第8講 子供の社会史
- 第9講 学歴の社会史
- 第10講 留学と教育
- 第11講 建築と教育
- 第12講 メディアと教育
- 第13講 服装と教育
- 第14講 教具・教材と教育

※講義内容は必要に応じて変更する場合があります。

履修上の注意

受講生は自身の関心に基づいてレビューする指定論文をひとつ選択する。また、担当でない回においても毎回、指定論文を事前に読み、議論に参加する。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱う論文・資料等を事前に配布するので各自で読み授業に臨むこと。

教科書

教科書は指定しないが、関連資料を事前に配布する。

参考書

教育史学会60周年記念出版編集委員会『教育史研究の最前線Ⅱ』(六花出版、2018年)
その他、授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

授業中の発言、議論への参加状況によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教授学習心理学特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学) 伊藤 貴昭		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本講義は、教育心理学の中でも特に教授学習心理学分野の研究とその特徴および課題について理解を深めることが目的である。学校教育現場はもちろんのこと、私たちにとって教授・学習活動とは一生を通じて繰り返し行われる、非常に重要かつ身近なものである。

こうした教授・学習活動について、心理学的な観点からアプローチすることの意義は何か。心理学的にアプローチすることで、何が明らかになり、どういった課題が生じるのかなどについて、さまざまな研究を概観しながら議論を深めていく。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 近年の教授学習研究の特徴について①
- 第3回 近年の教授学習研究の特徴について②
- 第4回 知識・概念の獲得
- 第5回 学習方略の効果
- 第6回 メタ認知
- 第7回 文章理解
- 第8回 動機づけと学習①
- 第9回 動機づけと学習②
- 第10回 協同学習①
- 第11回 協同学習②
- 第12回 授業研究
- 第13回 教育現場における教授学習研究
- 第14回 まとめ

履修上の注意

事前に関連する資料を読み、それをもってディスカッションを中心に進める。資料は、教員から指定するもの、あるいは受講生が自らの関心で選択したものにする予定である。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定の資料があるときには、必ず資料に目を通してから参加すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

教育心理学年報
その他、必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については講義当日もしくは翌週にコメントする。

成績評価の方法

授業への参加状況50%、レポート50%

その他

科目ナンバー：(AL) CCE521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育実践論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標

長期実践記録を読む

日本の社会教育実践史において、自分のくらし・学習の記録を「書く」という取り組みの系譜がある。1950年代の共同学習・生活記録運動、1960年代以降の被差別部落における識字教室・識字運動、1960年代以降の公民館の学級・講座の実践などに、「書く」方法論を意識した実践の歩みを読み取ることができる。

実践を記録することは、1年以上の場合によっては数十年にわたる実践の継続を支えていくために不可欠な方法論である。1回限りの講座やイベントではなく、数十年にわたって学習を継続するということは、住民自身が主体となって地域の課題を深く掘り下げていくことにはかならない。すなわち、コミュニティの課題を民主的に解決していくために市民が学び続けていく過程が、学習記録に描き出されている。

戦後、共同学習、生活記録運動、識字学習では、書くこと・話し合うことを軸とする方法論、学習者の自己決定などを特徴とする実践が広範に行われてきた。1970年代以降、国立市公民館保育室活動や松川町の健康学習など、数十年にわたる実践がある。1980年代以降、人権・差別、環境問題、平和・戦争など、多様な主題に向けて人々の学習・実践が取り組まれている。

この授業では、社会教育実践にかかわる先行研究をもちより、読み進めていきたい。また、実践が行われた土地を訪問すること、実践にかかわった人たちにインタビューすることなどにも取り組んでみよう。

授業内容

- 第1回 自己紹介・いま、関心を持っていること
- 第2回 共同学習論
- 第3回 生活記録運動
- 第4～5回 施設見学
- 第6回 識字学習
- 第7～9回 長期実践記録を読む①～③
- 第10回 地域女性史・自分史学習
- 第11～12回 履修者の修士論文を読みあう①～②—書くことをめぐる困難と意識化
- 第13回 社会教育における評価
- 第14回 レポートを読みあう

履修上の注意

履修者の関心に即して、授業内容を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

この授業では、さまざまな実践の記録と、成人学習論を読み解きながら、実践の展開をあとづけ、さらに学習を支援している職員の問題意識を考察していく。

院生がかかわっている実践やその記録について、授業に持ち込んで考察することも歓迎したい。

教科書

指定なし。

参考書

指定なし。

成績評価の方法

レポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	生涯学習特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	小林 繁	

授業の概要・到達目標

障害をもつ人の学習保障の課題を探ることを通して、ノーマライゼーションの視点から障害をもつ人の学習権保障のあり方を展望する。学校教育修了後の障害をもつ人の置かれている状況を学習文化の側面からとらえることを通して学習文化活動の重要性を明らかにするとともに、その保障のあり方を理論的・実践的に探っていく。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：障害をもつ人の生活をめぐる状況
- 第3回：福祉と教育との関係をめぐる問題
- 第4回：障害をもつ人への学習支援の動向
- 第5回：いくつかの調査から
- 第6回：青年学級の取り組みを中心に
- 第7回：アウトリーチサービスを中心に
- 第8回：障害をもつ子どもへの支援
- 第9回：障害をもつ人が働く喫茶の取り組みと学習支援—福祉と教育をつなぐ—
- 第10回：差別と偏見の問題
- 第11回：人権としての学習権
- 第12回：障害者基本法と学習保障
- 第13回：障害者権利条約をめぐって
- 第14回：学びのノーマライゼーションにむけて

履修上の注意

授業は、テキストを読み進める形で行う。その際、基本的に毎回レポーターを決めて、レポーターが報告する形で進めていくので、担当に当たった報告者は資料等の準備など、入念な準備をしてくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に必ず次回やるところを読んでくるようにする。

教科書

授業の中で指示する。

参考書

小林繁編著『学びのオルタナティブ』、れんが書房新社
同編著『学びあう「障害」』、クレイン

成績評価の方法

レポートによって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) MUS521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	博物館学特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(歴史学) 駒見 和夫		

授業の概要・到達目標

現代博物館の社会的存在の根幹は公共性をもつ教育機関、すなわち公教育機関として機能する点にあり、博物館における教育は、活動の総体として博物館が遂行すべき目的と考える。この講義では博物館が公教育機関であることをふまえ、その役割を見据えたうえで諸機能の充実を図らねばならないことを示し、具体的な活動を検討していきたい。とくに現在推進されている生涯学習について経緯と目的、社会的意義について検討し、博物館が果たすべき教育とのかかわりを考える。また、展示活動において教育的観点から〈視覚型展示〉と〈知覚型展示〉という視点で対比し、その上で〈知覚型展示〉に立脚した博物館資料に対する考え方や、展示を中心とした博物館活動のあり方と今後の方向性について考察する。

上記の内容を通し、教育的役割を果たすことを目的とした博物館の諸機能を理解し、生涯学習社会における博物館の役割と諸活動について自らの認識を構築できるようにすることが、本講義の目的である。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本と欧米の博物館理念の比較検討
- 第3回 博物館教育の原理と現代博物館の様相
- 第4回 コンドルセの公教育論
- 第5回 コンドルセの公教育と博物館の位置づけ
- 第6回 ポール・ラングランの生涯教育論
- 第7回 生涯教育から生涯学習へ
- 第8回 生涯学習社会における博物館論
- 第9回 人権と博物館教育
- 第10回 博物館教育プログラムの動向検討
- 第11回 博物館展示の目的とあり方
- 第12回 視覚型から知覚型展示への転換
- 第13回 博物館教育とユニバーサルミュージアム
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

準備学習により各トピックについてディスカッションできるようにしておく。また、授業で得られた知見で、各種の博物館の積極的な実地調査に努める。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考書、および各トピックにかかわる文献を事前に提示するので、読み込んで自らの認識をまとめておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

『生涯教育入門』波多野完治訳(全日本社会教育連合会)、『博物館教育の原理と活動』駒見和夫(学文社)、『博物館体験』ジョン・H・フォーク(雄山閣)、『博物館で学ぶ』ジョージ・E・ハイン(同成社)、は必読のこと。

ほかに、授業の進行に合わせて適宜提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、およびOh-ol Meijiのレポートのコメント機能を使って適宜おこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み50%、課題レポート50%、により評価する。

その他

テーマに関連する論文や書籍を精力的に読んでください。

科目ナンバー：(AL) MUS621J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	博物館経営論特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(歴史学) 金山 喜昭		

授業の概要・到達目標

本授業は、公立博物館の経営的な現状を理解しつつ、その評価や改善策についての具体的な作業を通して、博物館経営のセンスと方法論を身につけることを目標とする。授業は、基本的な文献を講読するとともに、現地調査をして、その成果を発表する。

授業内容

- 第1回：ガイダンス(授業の進め方)文献紹介、現地調査先の概要説明など
- 第2回：公立博物館の現状(講義)
- 第3回：基礎的文献の講読と発表 1(「改正博物館法の検討」)
- 第4回：基礎的文献の講読と発表 2(「同上」)
- 第5回：基礎的文献の講読と発表 3(「文化観光拠点事業について」)
- 第6回：基礎的文献の講読と発表 4(「同上」)
- 第7回：現地調査 1
- 第8回：現地調査 2
- 第9回：現地調査 3
- 第10回：現地調査のデータの取りまとめ作業と発表 1
- 第11回：現地調査のデータの取りまとめ作業と発表 2
- 第12回：現地調査のデータの取りまとめ作業と発表 3
- 第13回：発表
- 第14回：発表

履修上の注意

現地調査は、指定された授業日以外の日程で実施する。その日程は授業の開始日に公表する。調査は、職員ヒアリング調査などを予定している。

準備学習(予習・復習等)の内容

今回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

授業時に指定する。
金山喜昭編『転換期の博物館経営』同成社、2020年

参考書

随時指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時にフィードバックする。

成績評価の方法

平常点と課題の提出。

その他

科目ナンバー：(AL) MUS621J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	博物館マネジメント特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(歴史学) 金山 喜昭		

授業の概要・到達目標

本授業は、公立博物館の経営的な現状を理解しつつ、その評価や改善策についての具体的な作業を通して、博物館経営のセンスと方法論を身につけることを目標とする。授業は、基本的な文献を講読するとともに、現地調査をして、その成果を発表する。

授業内容

- 第1回：ガイダンス（授業の進め方）文献紹介、現地調査先の概要説明など
- 第2回：公立博物館の現状（講義）
- 第3回：基礎的文献の講読と発表 1（「改正博物館法の検討」）
- 第4回：基礎的文献の講読と発表 2（「同上」）
- 第5回：基礎的文献の講読と発表 3（「文化観光拠点事業について」）
- 第6回：基礎的文献の講読と発表 4（「同上」）
- 第7回：現地調査 1
- 第8回：現地調査 2
- 第9回：現地調査 3
- 第10回：現地調査のデータの取りまとめ作業と発表 1
- 第11回：現地調査のデータの取りまとめ作業と発表 2
- 第12回：現地調査のデータの取りまとめ作業と発表 3
- 第13回：発表
- 第14回：発表

履修上の注意

現地調査は、指定された授業日以外の日程で実施する。その日程は授業の開始日に公表する。
調査は、職員ヒアリング調査などを予定している。

準備学習（予習・復習等）の内容

次の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

授業時に指定する。
金山喜昭編『転換期の博物館経営』同成社、2020年

参考書

随時指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時にフィードバックする。

成績評価の方法

平常点と課題の提出。

その他

科目ナンバー：(AL) MUS621J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	博物館メディア論特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(システムデザイン・マネジメント学) 本間 浩一		

授業の概要・到達目標

ミュージアムは、刺激と挑発のメディアである。特定の視点に基づいて資料を取捨選択して収集し、保存・研究・展示・教育によって資料(モノ・コト)と学芸員や利用市民(ヒト)を、またヒトとヒトとを媒介していく。さらに、他のミュージアムを含む様々な社会の媒体との間にも相互作用がある。この日常的な営みの中で、非日常の視点が獲得される。そして時代によってその様態は異なる。本講義では、メディアとしてのミュージアムが形作るネットワーク構造を、いくつかの視点から理解し、根底にある前提や意味を多面的に探究する。受講生各人には、最終的に概ね40年先以降のミュージアムの姿の設計を求める。現在、国内では一般的にミュージアムの経営は財政的・組織的な困難にさらされている。一方、博物館法の改正やデジタル化技術による革新等、機会に目を向けることもできる。社会全体の持続可能性が問われる文脈の中で、ミュージアムも再設計が必要になっている。次の時代を担う受講生には、多様な視座に立ち現象・問題を虫瞰・鳥瞰することで自身の従前の視野を拡張し、より深く踏み込んで未来を考えることを期待する。

授業内容

- 第1回 視点を勘案する(多視点・虫瞰/鳥瞰=木を見て森も見る)
- 第2回 ヒトはメディアである/ストーリーと因果を発掘する
- 第3回 視点(1)個人体験を回顧する(ミュージアム体験の棚卸し)
- 第4回 視点(2)特定の資料・特定テーマのミュージアム群を凝視する
- 第5回 視点(3)実物の資料・ミュージアムとWebサイト等のネット上の情報を対照する
- 第6回 視点(4)表現(ことば、画像/映像、等)の多様性を探索する
- 第7回 中間総括 視点(1)～(4)を顧みる
- 第8回 ミュージアムはメディアである/ネットワークの二律背反を俯瞰する
- 第9回 視点(5)館の種類(歴史民俗、自然史、美術、動植物、等)と分類を再考する
- 第10回 視点(6)ミュージアムと学校の関係性を吟味する/テンプルとフォーラム
- 第11回 視点(7)ミュージアムと図書館とを見比べる/結果の平等と公平な機会
- 第12回 視点(8)ミュージアムと“デジタル化”を咀嚼する/リアルとバーチャル
- 第13回 2060-2100年のミュージアムを設計する
- 第14回 全体総括 自らのもの見方を育める

履修上の注意

講義中の問いかけに対して、自らの正解を創ることを求める。議論では、従来正解とされてきたことがある場合もそれを疑い根本から再考し、新たな意味のある問いかけを個人/グループとして生み出す。授業には、PCの持参を推奨する。(主に、情報の検索に用いる)また、東京近郊のミュージアムで実施する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の講義ごとに前後合わせて4～6時間の準備と復習を要する。講義の最後に、次回のトピックを提示し問いかけを行う。それに対して、自らの答えを作成し、話題提供および議論ができる準備を行う。そのために、自らの視点を明確に設定し、主張を補強する具体的な事例を探し整理する必要がある。

教科書

使用しない

参考書

『意識と脳—思考はいかにコード化されるか』スタニスラス・ドゥアンヌ(紀伊國屋書店 2015)
『メディアとしての博物館』梅棹忠夫(平凡社 1987)
『ミュージアムのソーシャル・ネットワーキング』本間浩一 編著(樹村房 2018)

成績評価の方法

授業への取組50%、課題レポート(第7回と14回の2回)50%、により評価する。

その他

11月下旬の講義は、受講生と相談の上時間変更を行う可能性がある。

科目ナンバー：(AL) MUS621J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館教育論特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 Ph.D 井上 由佳		

授業の概要・到達目標

本講義においては、日本国内外の博物館における教育的役割がどのように始まり、現在まで続けられてきたのかについて、その歴史的な背景を整理しながら、その時代について求められてきたことにどのように博物館が応えてきたのかを見ていく。さらに、博物館における学習の特徴とそれを支える理論について触れた上で、博物館教育の発展に欠かせなかった来館者研究との連関について学んでいく。最後に、現在の国際的な潮流についてユネスコ博物館報告やICOM（国際博物館会議）の動き踏まえながら考えていく。

本科目を受講することで、博物館における教育的機能は決して学校との連携のみを指すものではないこと、日本と世界における博物館がその教育的な役割をどのように認識し取り組んできたのかについて、具体的な国内外の事例に触れつつ、考えていくことで、これからの社会に求められる博物館教育のありかたについて提言できる知識を習得することを目標とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクダクシヨ
- 第2回 博物館教育とは何か？プレゼンテーションテーマの検討
- 第3回 博物館教育の起源と変遷①：世界の場合
- 第4回 博物館教育の起源と変遷②：日本の場合
- 第5回 博物館における学びの特徴と理論①：20世紀以降
- 第6回 博物館における学びの特徴と理論②：1990年代以降
- 第7回 中間プレゼンテーションと講評会
- 第8回 初期の来館者研究と博物館教育
- 第9回 来館者研究と博物館教育の連関とは
- 第10回 博物館における学びの根拠
- 第11回 事例にみる博物館における学び①：海外編
- 第12回 事例にみる博物館における学び②：日本編
- 第13回 国際的潮流にみる博物館教育：ユネスコ・ICOM編
- 第14回 最終プレゼンテーションと講評会、ふりかえり

履修上の注意

テキストの予習を前提として進める講義である。プレゼンテーションについては、海外のミュージアム事例を取り上げることを奨励する。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの指定箇所を読み、その要約とコメントを授業の最初に提出することを求める。

教科書

ジョージ・ハイン著、鷹野光行監訳『博物館で学ぶ』同成社、2010年ほか
授業冒頭で相談して決定する。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で全体に向けてフィードバックをしていく。優秀な内容については、その都度、授業で紹介したり、クラスウェブを介してコメントしていく。

成績評価の方法

授業中の課題やプレゼンテーションへの取り組み70%、課題レポート30%、により評価する。

その他

また博物館教育の現場に足を運び、優れた実践例について学ぶフィールドワークの機会を複数回設ける予定である。訪問先については受講生と相談の上、決定したい。

科目ナンバー：(AL) MUS621J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館資料論特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(システムデザイン・マネジメント学)本間 浩一		

授業の概要・到達目標

ミュージアムは、刺激と挑発のメディアである。特定の視点に基づいて資料を取捨選択して収集し、保存・研究・展示・教育によって資料(モノ・コト)と芸芸員や利用市民(ヒト)を、またヒトとヒトとを媒介していく。さらに、他のミュージアムを含む様々な社会の媒体との間にも相互作用がある。この日常的な営みの中で、非日常の視点が獲得される。そして時代によってその様態は異なる。

本講義では、メディアとしてのミュージアムが形作るネットワーク構造を、いくつかの視点から理解し、根底にある前提や意味を多面的に探究する。受講生各人には、最終的に概ね40年先以降のミュージアムの姿の設計を求める。

現在、国内では一般的にミュージアムの経営は財政的・組織的な困難にさらされている。一方、博物館法の改正やデジタル化技術による革新等、機会に目を向けることもできる。社会全体の持続可能性が問われる文脈の中で、ミュージアムも再設計が必要になっている。次の時代を受講生には、多様な視座に立ち現象・問題を虫瞰・鳥瞰することで自身の従前の視野を拡張し、より深く踏み込んで未来を考えることを期待する。

授業内容

- 第1回 視点を勘案する(多視点・虫瞰/鳥瞰=木を見て森も見る)
- 第2回 ヒトはメディアである/ストーリーと因果を発掘する
- 第3回 視点(1)個人体験を回顧する(ミュージアム体験の棚卸し)
- 第4回 視点(2)特定の資料・特定テーマのミュージアム群を凝視する
- 第5回 視点(3)実物の資料・ミュージアムとWebサイト等のネット上の情報を対照する
- 第6回 視点(4)表現(ことば、画像/映像、等)の多様性を探索する
- 第7回 中間総括 視点(1)～(4)を顧みる
- 第8回 ミュージアムはメディアである/ネットワークの二律背反を俯瞰する
- 第9回 視点(5)館の種類(歴史民俗、自然史、美術、動植物、等)と分類を再考する
- 第10回 視点(6)ミュージアムと学校の関係性を吟味する/テンプルとフォーラム
- 第11回 視点(7)ミュージアムと図書館とを見比べる/結果の平等と公平な機会
- 第12回 視点(8)ミュージアムと“デジタル化”を咀嚼する/リアルとバーチャル
- 第13回 2060-2100年のミュージアムを設計する
- 第14回 全体総括 自らのもの見方を育める

履修上の注意

講義中の問いかけに対して、自らの正解を創ることを求める。議論では、従来正解とされてきたことがある場合もそれを疑い根本から再考し、新たな意味のある問いかけを個人/グループとして生み出す。授業には、PCの持参を推奨する。(主に、情報の検索に用いる)また、東京近郊のミュージアムで実施する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の講義ごとに前後合わせて4～6時間の準備と復習を要する。講義の最後に、次回のトピックを提示し問いかけを行う。それに対して、自らの答えを作成し、話題提供および議論ができる準備を行う。そのために、自らの視点を明確に設定し、主張を補強する具体的な事例を探し整理する必要がある。

教科書

使用しない

参考書

『意識と脳—思考はいかにコード化されるか』スタニスラス・ドゥアンヌ(紀伊國屋書店 2015)
『メディアとしての博物館』梅棹忠夫(平凡社 1987)
『ミュージアムのソーシャル・ネットワーキング』本間浩一 編著(樹村房 2018)

成績評価の方法

授業への取組50%、課題レポート(第7回と14回の2回)50%、により評価する。

その他

11月下旬の講義は、受講生と相談の上時間変更を行う可能性がある。

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	専門図書館特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(図書館情報学) 青柳 英治		

授業の概要・到達目標

授業概要：図書館の種類(館種)の一つである専門図書館を対象に、外的環境、組織運営、人的資源、サービス活動などについて取り上げ、その実情と特質を踏まえて、他館種も含めた知識基盤社会における図書館の果たす役割について検討する。

到達目標：専門図書館の実情と特質を理解した上で、問題意識を共有する。さらに、それらを他館種へと敷衍し、館種ごとの異同を認識できる知識の修得を目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：専門図書館の定義・特質(1)：日本の状況①
- 第3回：専門図書館の定義・特質(2)：日本の状況②
- 第4回：専門図書館の定義・特質(3)：外国の状況
- 第5回：専門図書館の外的環境(1)：日本の状況
- 第6回：専門図書館の外的環境(2)：外国の状況
- 第7回：専門図書館の組織運営(1)：日本の状況
- 第8回：専門図書館の組織運営(2)：外国の状況
- 第9回：専門図書館の人的資源(1)：日本の状況
- 第10回：専門図書館の人的資源(2)：外国の状況
- 第11回：専門図書館のサービス活動(1)：日本の状況
- 第12回：専門図書館のサービス活動(2)：外国の状況
- 第13回：専門図書館の実際(1)：見学
- 第14回：専門図書館の実際(2)：報告

履修上の注意

あらかじめ指定した文献をもとに発表・報告を求める。それをもとに討論・解説を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。授業で取り上げた内容については、事後に文献等で確認しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji 等を利用して行う。

成績評価の方法

授業での発表・報告70%、最終レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	情報サービス特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	齋藤 泰則	

授業の概要・到達目標

授業の概要：図書館の情報サービスについて、基礎理論を中心に考究する。

到達目標：図書館の情報サービスの理論的基礎を修得し、図書館の各種情報サービスに応用できる能力を獲得する。

授業内容

各回の授業は、指定した教科書の章の内容について報告し、探究する。

- 第1回：第3章：情報学の哲学(1)
- 第2回：第3章：情報学の哲学(2)
- 第3回：第3章：情報学の哲学(3)
- 第4回：第14章：情報学の調査研究法(1)
- 第5回：第14章：情報学の調査研究法(2)
- 第6回：第14章：情報学の調査研究法(3)
- 第7回：第7章：情報技術(1)
- 第8回：第7章：情報技術(2)
- 第9回：第7章：情報技術(3)
- 第10回：第10章：情報の流通(1)
- 第11回：第10章：情報の流通(2)
- 第12回：第10章：情報の流通(3)
- 第13回：第13章：デジタルリテラシー(1)
- 第14回：第13章：デジタルリテラシー(2)

履修上の注意

文献講読を中心に進める。
問題点の提示など、積極的な参加を求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

当該回の授業で取り上げる教科書の章を読んで、概要を把握しておくこと。

教科書

ポーデン< デビッド and リン・ロビンソン.『図書館情報学概論』 塩崎亮訳, 勁草書房, 2019, 424p.

参考書

齋藤泰則. 図書館とレファレンスサービス：論考 樹村房, 2017, 284p.

齋藤泰則. 利用者志向のレファレンスサービス：その原理と方法. 勉誠出版, 2009, 182p.

Ranganathan, S. R. 図書館学の五法則. 森耕一監訳, 日本図書館協会, 2000.

課題に対するフィードバックの方法

課題について提出されたレポートにコメントを付して、評価する。

成績評価の方法

授業での発表(60%)、最終レポート(40%)を総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報メディア特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	三浦 太郎	

授業の概要・到達目標

近年、学術図書館は変革の時代を迎えている。学生の学修支援に資することに加え、デジタルアーカイブやオープンアクセス、ビッグデータの扱いをはじめ、情報サービスへの取り組みが求められている。この授業では、大学図書館職員をめぐる状況を整理し、図書館の情報サービスの可能性について検討を進める。

学術図書館の役割について理解を深めることを目指す。

授業内容

- (1) オリエンテーション-現代の大学図書館界を取り巻く動向
- (2) 大学図書館と研究①-大学図書館職員をめぐる状況を中心に
- (3) 大学図書館と研究②-大学図書館職員をめぐる状況を中心に
- (4) 大学図書館と研究③-大学図書館職員をめぐる状況を中心に
- (5) 大学図書館と研究④-大学図書館職員をめぐる状況を中心に
- (6) 日本の大学図書館職員養成の環境①-歴史的経緯を振り返る
- (7) 日本の大学図書館職員養成の環境②-歴史的経緯を振り返る
- (8) 日本の大学図書館職員養成の環境③-歴史的経緯を振り返る
- (9) 日本の大学図書館職員養成の環境④-歴史的経緯を振り返る
- (10) 海外の大学図書館を取り巻く事情①-国際比較の視点から
- (11) 海外の大学図書館を取り巻く事情②-国際比較の視点から
- (12) 海外の大学図書館を取り巻く事情③-国際比較の視点から
- (13) 海外の大学図書館を取り巻く事情④-国際比較の視点から
- (14) 授業のまとめ

履修上の注意

- ・受講生の発表を中心に授業を進めるので、授業に積極的かつ主体的に取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・事前に提示された文献等に目を通し、レジメを作成のうえ、授業に臨むこと。
- ・授業で示された論点について再考し、当該テーマの理解を深めること。

教科書

- ・日本図書館情報学会編『図書館情報学事典』丸善出版、2023。
- ・利根川樹美子『大学図書館専門職員の歴史：戦後日本で設置・教育を妨げた要因とは』勁草書房、2016。
- ・Leo Appleton(ed.) Positioning the Academic Library within the University : Structures and Challenges, Routledge, 2021。
事前に購入する必要はない。

参考書

授業の中で適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中でコメントする。

成績評価の方法

平常点(70%)および課題レポート(30%)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) IND511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学総合演習A		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	教育学専修教員全員		

授業の概要・到達目標

本演習では、教育学、社会教育学、博物館学、図書館情報学それぞれの分野の様々な実践報告を聞きとり、討論しあうことを通して、各専門分野を横断する実践分析の研究手法論を追求するとともに、実践を分析する力量、実践にコミットできるコミュニケーションの力の獲得をめざす。

授業内容

春学期、秋学期にそれぞれ集中講義という形で行う。各分野の実践に関わる教員、職員、スタッフ、ボランティア、学習者等の報告を聞くとともに、いくつかのグループに分かれてラウンドテーブル形式でディスカッションを行う。

履修上の注意

授業実施日を初回の授業時に調整する。授業には必ず参加できるように、事前にスケジュール等の確認と準備をしておく必要がある。

院生による共同作業として、ラウンドテーブルの企画・施設訪問などを行うことがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業での報告および討論内容については、メモを取り、自分で振り返りができるようにしておく。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

成績評価の方法

ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、教育学専修の必修科目であり、他専修の学生は受講できない。

なお、本演習は、1年次、2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) IND511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学総合演習B		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	教育学専修教員全員		

授業の概要・到達目標

本演習では、教育学、社会教育学、博物館学、図書館情報学それぞれの分野の様々な実践報告を聞きとり、討論しあうことを通して、各専門分野を横断する実践分析の研究手法論を追求するとともに、実践を分析する力量、実践にコミットできるコミュニケーションの力の獲得をめざす。

授業内容

春学期、秋学期にそれぞれ集中講義という形で行う。各分野の実践に関わる教員、職員、スタッフ、ボランティア、学習者等の報告を聞くとともに、いくつかのグループに分かれてラウンドテーブル形式でディスカッションを行う。

履修上の注意

授業実施日を初回の授業時に調整する。授業には必ず参加できるように、事前にスケジュール等の確認と準備をしておく必要がある。

院生による共同作業として、ラウンドテーブルの企画・施設訪問などを行うことがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業での報告および討論内容については、メモを取り、自分で振り返りができるようにしておく。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

成績評価の方法

ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、教育学専修の必修科目であり、他専修の学生は受講できない。

なお、本演習は、1年次、2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	高野 和子	

授業の概要・到達目標

[授業の概要] 教育学分野での研究論文執筆に向けての準備を行う。

[到達目標] 受講生の関心領域について、専門的な知識を広く獲得し、研究的・実践的な課題を設定して検証し、論文を構成して論述する力をつける。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究テーマについての問題意識交流
- 第3回：研究計画の見通しをたてる
- 第4回：研究テーマについての先行研究論文調査
- 第5回：文献リストの作成・指導
- 第6回：先行研究の講読(1)研究の歴史的展開の理解
- 第7回：先行研究の講読(2)議論の全体構造の把握
- 第8回：先行研究の講読(3)先行研究の到達点の明確化
- 第9回：論文構想(1)課題設定(仮)
- 第10回：論文構想(2)研究方法
- 第11回：論文構想(3)基本資料とその収集方法
- 第12回：総合演習発表準備
- 第13回：総合演習発表のふり返り
- 第14回：研究計画の修正と今後の見通しの整理

履修上の注意

原則として毎回の授業は受講生がレジメを準備して報告を行い教員と議論する形式をとる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で講読する文献は報告者だけでなく全員が必ず事前に予習して授業に参加すること。また、授業の報告・議論については毎回、各自でまとめをおこなっておき、自分の報告担当の際には、前回までの報告・議論の内容をふまえたレジメを作成すること。

教科書

特定の教科書は定めず、参加者各人の研究テーマと研究の進捗に応じて適宜、指示する。

参考書

特定の参考書は定めず、参加者各人の研究テーマと研究の進捗に応じて適宜、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じ、対面・Zoomでの面談を設定したり、メールでのフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での報告担当40%、議論への貢献20%、最終レポート40%によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	教育学演習IB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	高野 和子	

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕ある研究領域での歴史的な研究動向の変遷やそれぞれの時期の議論の到達点を把握しようとするとき、ハンドブックや事典類、とくに学会や専門職団体が編纂したものはその時期を理解するための信頼しうる手がかりである。本授業では、教師研究・教師教育研究の領域における国際的な研究上の論点の推移と現代的課題をハンドブックや事典類の講読を通じて確認する。

〔到達目標〕主として英語圏(アメリカ・イギリス・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド)における教師研究・教師教育研究がどのように推移し、現代的課題がどこにあるのかについて、概論的な知識を獲得する。それを通じて、現代日本の教師と教師教育の問題を歴史的・比較の視野をもって考え研究的な課題を提起する力をつける。

授業内容

- 第1回：各事典についての概要説明
- 第2回：教師と教師教育をとりまく現状の認識(1)
- 第3回：教師と教師教育をとりまく現状の認識(2)
- 第4回：Standards and Accountability (1)
- 第5回：Standards and Accountability (2)
- 第6回：Teacher Preparation (1)
- 第7回：Teacher Preparation (2)
- 第8回：Teacher Induction
- 第9回：Continuous Development of Teachers (1)
- 第10回：Continuous Development of Teachers (2)
- 第11回：The Reflective Practitioner
- 第12回：The Impact of Technology
- 第13回：日本の現状と研究状況を国際的な広がりの中で考える(1)
- 第14回：日本の現状と研究状況を国際的な広がりの中で考える(2)、まとめ

履修上の注意

「教師教育論」を履修した後に履修することが最ものもぞましいが、必要条件とはしない。出席者の問題関心の状況に応じて、随時、授業内容を組みかえる。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考書で示した事典類や必要文献の関連箇所について、必要部分を配布する。全員が事前に読了し、ディスカッションできる状態で授業に出席すること。また、授業終了後は、事典類で提示された関連文献のみならず、事典発行年以降に書かれた論文を検索・入手して深めること。

教科書

教科書は定めない。

参考書

- (1) Houston, W. R. (Ed.), *Handbook of Research on Teacher Education: A Project of the Association of Teacher Educators*, 1990, Macmillan.
 - (2) Anderson, L. W. (Ed.), *International Encyclopedia of Teaching and Teacher Education* (Second Edition)1995, Pergamon.
 - (3) Sikula, J., Buttery, T. J. & Guyton, E. (Eds.), *Handbook of Research on Teacher Education*(Second Edition): *A Project of the Association of Teacher Educators*, 1996, Macmillan.
 - (4) Townsend, T. & Bates, R. (Eds.), *Handbook of Teacher Education: Globalization, Standards and Professionalism in Times of Change*, 2007, Springer.
<http://recruitusmc.org/wp-content/uploads/2014/10/0c96051adeb5e64489000000.pdf>
 - (5) Cochran-Smith, M., Feiman-Nemser, S., McIntyre, D. & Demers, K. (Eds.), *Handbook of Research on Teacher Education: Enduring Questions in Changing Contexts*, 2008, Routledge (3rd Edition).
 - (6) Peters, M. A., Cowie, B. & Menter, I. (Eds.), *A Companion to Research in Teacher Education*, 2017, Springer.
- (1)(3)(5)はいずれも Association of Teacher Educatorsによって企画編集されたものである。

成績評価の方法

授業での報告担当40%、ディスカッションへの貢献20%、最終レポート40% によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	教育学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	高野 和子	

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕教育学分野での研究論文執筆に向けての準備を行う。

〔到達目標〕受講生の関心領域について、専門的な知識を広く獲得し、研究的・実践的な課題を設定して検証し、論文を構成して論述する力をつける。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究テーマについての問題意識交流
- 第3回：研究計画の見直しをたてる
- 第4回：研究テーマについての先行研究論文調査
- 第5回：文献リストの作成・指導
- 第6回：先行研究の講読(1)研究の歴史的展開の理解
- 第7回：先行研究の講読(2)議論の全体構造の把握
- 第8回：先行研究の講読(3)先行研究の到達点の明確化
- 第9回：論文構想(1)課題設定(仮)
- 第10回：論文構想(2)研究方法
- 第11回：論文構想(3)基本資料とその収集方法
- 第12回：総合演習発表準備
- 第13回：総合演習発表のふり返り
- 第14回：研究計画の修正と今後の見通しの整理

履修上の注意

原則として毎回の授業は受講生がレジメを準備して報告を行い教員と議論する形式をとる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で講読する文献は報告者だけでなく全員が必ず事前に予習して授業に参加すること。また、授業の報告・議論については毎回、各自でまとめをおこなっておき、自分の報告担当の際には、前回までの報告・議論の内容をふまえたレジュメを作成すること。

教科書

特定の教科書は定めず、参加者各人の研究テーマと研究の進捗に応じて適宜、指示する。

参考書

特定の参考書は定めず、参加者各人の研究テーマと研究の進捗に応じて適宜、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じ、対面・Zoomでの面談を設定したり、メールでのフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での報告担当40%、議論への貢献20%、最終レポート40%によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	教育学演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		高野 和子

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕ある研究領域での歴史的な研究動向の変遷やそれぞれの時期の議論の到達点を把握しようとするとき、ハンドブックや事典類、とくに学会や専門職団体が編纂したものはその時期を理解するための信頼しうる手がかりである。本授業では、教師研究・教師教育研究の領域における国際的な研究上の論点の推移と現代的課題をハンドブックや事典類の講読を通じて確認する。

〔到達目標〕主として英語圏(アメリカ・イギリス・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド)における教師研究・教師教育研究がどのように推移し、現代的課題がどこにあるのかについて、概論的な知識を獲得する。それを通じて、現代日本の教師と教師教育の問題を歴史的・比較的境界をもつて考え研究的な課題を提起する力をつける。

授業内容

- 第1回：各事典についての概要説明
- 第2回：教師と教師教育をとりまく現状の認識(1)
- 第3回：教師と教師教育をとりまく現状の認識(2)
- 第4回：Standards and Accountability (1)
- 第5回：Standards and Accountability (2)
- 第6回：Teacher Preparation (1)
- 第7回：Teacher Preparation (2)
- 第8回：Teacher Induction
- 第9回：Continuous Development of Teachers (1)
- 第10回：Continuous Development of Teachers (2)
- 第11回：The Reflective Practitioner
- 第12回：The Impact of Technology
- 第13回：日本の現状と研究状況を国際的な広がりの中で考える(1)
- 第14回：日本の現状と研究状況を国際的な広がりの中で考える(2)、まとめ

履修上の注意

「教師教育論」を履修した後に履修することが最ものもまじいが、必要条件とはしない。出席者の問題関心の状況に応じて、随時、授業内容を組みかえる。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考書で示した事典類や必要文献の関連箇所について、必要部分を配布する。全員が事前に読了し、ディスカッションできる状態で授業に出席すること。また、授業終了後は、事典類で提示された関連文獻のみならず、事典発行年以降に書かれた論文を検索・入手して深めること。

教科書

教科書は定めない。

参考書

- (1) Houston, W. R. (Ed.), *Handbook of Research on Teacher Education: A Project of the Association of Teacher Educators*, 1990, Macmillan.
 - (2) Anderson, L. W. (Ed.), *International Encyclopedia of Teaching and Teacher Education* (Second Edition)1995, Pergamon.
 - (3) Sikula, J., Buttery, T. J. & Guyton, E. (Eds.), *Handbook of Research on Teacher Education*(Second Edition): *A Project of the Association of Teacher Educators*, 1996, Macmillan.
 - (4) Townsend, T. & Bates, R. (Eds.), *Handbook of Teacher Education: Globalization, Standards and Professionalism in Times of Change*, 2007, Springer.
<http://recruitusmc.org/wp-content/uploads/2014/10/0c96051adeb5e64489000000.pdf>
 - (5) Cochran-Smith, M., Feiman-Nemser, S., McIntyre, D. & Demers, K. (Eds.), *Handbook of Research on Teacher Education: Enduring Questions in Changing Contexts*, 2008, Routledge (3rd Edition).
 - (6) Peters, M. A., Cowie, B. & Menter, I. (Eds.), *A Companion to Research in Teacher Education*, 2017, Springer.
- (1)(3)(5)はいずれも Association of Teacher Educatorsによって企画編集されたものである。

課題に対するフィードバックの方法

授業時のコメントの他、必要に応じて、対面・Zoom・メールでのフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での報告担当40%、ディスカッションへの貢献20%、最終レポート40% によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	教育学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授		博士(教育学) 関根 宏朗

授業の概要・到達目標

本演習では臨床教育学(とりわけ教育哲学分野)の基本テキストを精読し、「教育」という事象についての原理的な考察をおこなう。具体的には、わが国の教育哲学会大会シンポジウムの近年の記録が収められた森田尚人・松浦良充編『いま、教育と教育学を問い直す』(東信堂, 2019年)をすこしずつ読み解き、教育(哲学)を学ぶうえで必要とされる基礎的な構えならびに前提のコンテキストについて学ぶことを目的とする。また、参加者それぞれの研究の進捗について共有する時間を毎回取り、それらの進行に係る具体的な助言もおこなってゆく。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(1):教育学とはいかなるディシプリンなのか①
- 第3回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(2):教育学とはいかなるディシプリンなのか②
- 第4回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(3):教育学とはいかなるディシプリンなのか③
- 第5回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(4):「教育」を問う①
- 第6回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(5):「教育」を問う②
- 第7回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(6):福祉の精神からの「教育」の誕生
- 第8回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(1):日本の教育思想における世界市民形成の水脈
- 第9回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(2):国民国家と日本の教育・教育学
- 第10回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(3):記憶の制度としての教育
- 第11回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(4):「国家と教育」における「政治的なもの」の位置
- 第12回 教育の実践と技術と格闘する教育哲学(1):実践の表象から自己の省察へ
- 第13回 教育の実践と技術と格闘する教育哲学(2):教育における技術への問いとパトスへの問い
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

積極的・主体的な授業参加を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した範囲の文獻に目を通して頂くこと。テキストの内容に即した簡単なコメントを用意して頂くことが望ましい。

教科書

森田尚人・松浦良充編『いま、教育と教育学を問い直す』東信堂2019年。

参考書

- 教育思想史学会(編)『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房2017年。
 - Peters, Michael ed. *Encyclopedia of Educational Philosophy and Theory*. 3 vols., Springer, 2017.
- その他、適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の前後に質問を受け付ける。またメールにて随時対応する。

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(教育学) 関根 宏朗		

授業の概要・到達目標

本演習では臨床教育学(とりわけ教育哲学分野)の基本テキストを精読し、「教育」という事象についての原理的な考察をおこなう。秋学期は定評のある教育哲学のアンソロジーである、Curren, Randall, ed., A Companion to the Philosophy of Education, Oxford: Blackwell, 2003の第二部「教えることと学ぶこと」を一章ずつ読み解き、教育学を研究するうえでいまなお重要な問いの地平をめぐって学びを深めることを目的とする。加えて、前期同様に参加者それぞれの研究の進捗について共有する時間を毎回取り、それらの進行に係る具体的な助言もおこなってゆく。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 The Nature and Purposes of Education
- 第3回 Theories of Teaching and Learning
- 第4回 The Capacity to Learn
- 第5回 Motivation and Classroom Management
- 第6回 The Measurement of Learning
- 第7回 Knowledge, Truth, and Learning
- 第8回 Cultivating Reason
- 第9回 Moral Education
- 第10回 Religious Education
- 第11回 Teaching Science
- 第12回 Aesthetics and the Education Powers of Art
- 第13回 Teaching Literature
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

積極的・主体的な授業参加を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した範囲の文献に目を通して頂くこと。テキストの内容に即した簡単なコメントを用意して頂くことが望ましい。

教科書

Curren, Randall, ed., A Companion to the Philosophy of Education, Blackwell, 2003

参考書

教育思想史学会(編)『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房 2017年。

Peters, Michael ed., Encyclopedia of Educational Philosophy and Theory, 3 vols., Springer, 2017.

その他、適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の前後に質問を受け付ける。またメールにて随時対応する。

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(教育学) 関根 宏朗		

授業の概要・到達目標

本演習では臨床教育学(とりわけ教育哲学分野)の基本テキストを精読し、「教育」という事象についての原理的な考察をおこなう。具体的には、わが国の教育哲学会大会シンポジウムの近年の記録が収められた森田尚人・松浦良充編『いま、教育と教育学を問い直す』(東信堂, 2019年)をすこしずつ読み解き、教育(哲学)を学ぶうえで必要とされる基礎的な構えならびに前提のコンテキストについて学ぶことを目的とする。また、参加者それぞれの研究の進捗について共有する時間を毎回取り、それらの進行に係る具体的な助言もおこなってゆく。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(1):教育学とはいかなるディシプリンなのか①
- 第3回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(2):教育学とはいかなるディシプリンなのか②
- 第4回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(3):教育学とはいかなるディシプリンなのか③
- 第5回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(4):「教育」を問う①
- 第6回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(5):「教育」を問う②
- 第7回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(6):福祉の精神からの「教育」の誕生
- 第8回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(1):日本の教育思想における世界市民形成の水脈
- 第9回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(2):国民国家と日本の教育・教育学
- 第10回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(3):記憶の制度としての教育
- 第11回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(4):「国家と教育」における「政治的なもの」の位置
- 第12回 教育の実践と技術と格闘する教育哲学(1):実践の表象から自己の省察へ
- 第13回 教育の実践と技術と格闘する教育哲学(2):教育における技術への問いとパトスへの問い
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

積極的・主体的な授業参加を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した範囲の文献に目を通して頂くこと。テキストの内容に即した簡単なコメントを用意して頂くことが望ましい。

教科書

森田尚人・松浦良充編『いま、教育と教育学を問い直す』東信堂 2019年。

参考書

教育思想史学会(編)『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房 2017年。

Peters, Michael ed., Encyclopedia of Educational Philosophy and Theory, 3 vols., Springer, 2017.

その他、適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の前後に質問を受け付ける。またメールにて随時対応する。

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(教育学) 関根 宏朗		

授業の概要・到達目標

本演習では臨床教育学(とりわけ教育哲学分野)の基本テキストを精読し、「教育」という事象についての原理的な考察をおこなう。秋学期は定評のある教育哲学のアンソロジーである、Curren, Randall, ed., A Companion to the Philosophy of Education, Oxford: Blackwell, 2003の第二部「教えることと学ぶこと」を一章ずつ読み解き、教育学を研究するうえでいまなお重要な問いの地平をめぐって学びを深めることを目的とする。加えて、前期同様に参加者それぞれの研究の進捗について共有する時間を毎回取り、それらの進行に係る具体的な助言もおこなってゆく。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 The Nature and Purposes of Education
- 第3回 Theories of Teaching and Learning
- 第4回 The Capacity to Learn
- 第5回 Motivation and Classroom Management
- 第6回 The Measurement of Learning
- 第7回 Knowledge, Truth, and Learning
- 第8回 Cultivating Reason
- 第9回 Moral Education
- 第10回 Religious Education
- 第11回 Teaching Science
- 第12回 Aesthetics and the Education Powers of Art
- 第13回 Teaching Literature
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

積極的・主体的な授業参加を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した範囲の文献に目を通して頂くこと。テキストの内容に即した簡単なコメントを用意して頂くことが望ましい。

教科書

Curren, Randall, ed., A Companion to the Philosophy of Education, Blackwell, 2003

参考書

教育思想史学会(編)『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房 2017年。
Peters, Michael ed., Encyclopedia of Educational Philosophy and Theory, 3 vols., Springer, 2017。
その他、適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の前後に質問を受け付ける。またメールにて随時対応する。

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

【概要】

教育学研究の著書・論文の輪読を行う。また、修士論文の執筆に向け各自のテーマにそくした発表・検討を行う。

【目標】

教育学研究の方法や課題、成果についての知見を得たうえで各自の研究課題の進展を図ることを目標とする。

授業内容

- 第1講 インTRODクシヨン
 - 第2講 研究書・論文の輪読(1)
 - 第3講 研究書・論文の輪読(2)
 - 第4講 研究書・論文の輪読(3)
 - 第5講 研究書・論文の輪読(4)
 - 第6講 研究の進捗報告(1)
 - 第7講 研究の進捗報告(2)
 - 第8講 研究の進捗報告(3)
 - 第9講 研究書・論文の輪読(5)
 - 第10講 研究書・論文の輪読(6)
 - 第11講 研究書・論文の輪読(7)
 - 第12講 研究書・論文の輪読(8)
 - 第13講 研究発表を踏まえた検討(1)
 - 第14講 研究発表を踏まえた検討(2)
- ※講義内容は必要に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

各回の担当者による報告を中心に進める。発表にあたってはレジュメやスライドを準備すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文等の選択、発表の準備をすること。また、毎回授業で扱った内容について関連文献等にあたるなどしてさらに理解を深めること。

教科書

教科書は指定しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

発表内容、授業中の発言、議論への参加状況によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

【概要】

教育学研究の著書・論文の輪読を行う。また、修士論文の執筆に向け各自のテーマにそくした発表・検討を行う。

【目標】

教育学研究の方法や課題、成果についての知見を得たうえで各自の研究課題の進展を図ることを目標とする。

授業内容

- 第1講 インTRODクシヨン
 - 第2講 研究書・論文の輪読(1)
 - 第3講 研究書・論文の輪読(2)
 - 第4講 研究書・論文の輪読(3)
 - 第5講 研究書・論文の輪読(4)
 - 第6講 研究の進捗報告(1)
 - 第7講 研究の進捗報告(2)
 - 第8講 研究の進捗報告(3)
 - 第9講 研究書・論文の輪読(5)
 - 第10講 研究書・論文の輪読(6)
 - 第11講 研究書・論文の輪読(7)
 - 第12講 研究書・論文の輪読(8)
 - 第13講 研究発表を踏まえた検討(1)
 - 第14講 研究発表を踏まえた検討(2)
- ※講義内容は必要に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

各回の担当者による報告を中心に進める。発表にあたってはレジュメやスライドを準備すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文等の選択、発表の準備をすること。また、毎回授業で扱った内容について関連文献等にあたるなどしてさらに理解を深めること。

教科書

教科書は指定しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

発表内容、授業中の発言、議論への参加状況によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

【概要】

教育学研究の著書・論文の輪読を行う。また、修士論文の執筆に向け各自のテーマにそくした発表・検討を行う。

【目標】

教育学研究の方法や課題、成果についての知見を得たうえで各自の研究課題の進展を図ることを目標とする。

授業内容

- 第1講 インTRODクシヨン
 - 第2講 研究書・論文の輪読(1)
 - 第3講 研究書・論文の輪読(2)
 - 第4講 研究書・論文の輪読(3)
 - 第5講 研究書・論文の輪読(4)
 - 第6講 研究の進捗報告(1)
 - 第7講 研究の進捗報告(2)
 - 第8講 研究の進捗報告(3)
 - 第9講 研究書・論文の輪読(5)
 - 第10講 研究書・論文の輪読(6)
 - 第11講 研究書・論文の輪読(7)
 - 第12講 研究書・論文の輪読(8)
 - 第13講 研究発表を踏まえた検討(1)
 - 第14講 研究発表を踏まえた検討(2)
- ※講義内容は必要に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

各回の担当者による報告を中心に進める。発表にあたってはレジュメやスライドを準備すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文等の選択、発表の準備をすること。また、毎回授業で扱った内容について関連文献等にあたるなどしてさらに理解を深めること。

教科書

教科書は指定しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

発表内容、授業中の発言、議論への参加状況によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

【概要】

教育学研究の著書・論文の輪読を行う。また、修士論文の執筆に向け各自のテーマにそくした発表・検討を行う。

【目標】

教育学研究の方法や課題、成果についての知見を得たうえで各自の研究課題の進展を図ることを目標とする。

授業内容

- 第1講 インTRODダクション
 - 第2講 研究書・論文の輪読(1)
 - 第3講 研究書・論文の輪読(2)
 - 第4講 研究書・論文の輪読(3)
 - 第5講 研究書・論文の輪読(4)
 - 第6講 研究の進捗報告(1)
 - 第7講 研究の進捗報告(2)
 - 第8講 研究の進捗報告(3)
 - 第9講 研究書・論文の輪読(5)
 - 第10講 研究書・論文の輪読(6)
 - 第11講 研究書・論文の輪読(7)
 - 第12講 研究書・論文の輪読(8)
 - 第13講 研究発表を踏まえた検討(1)
 - 第14講 研究発表を踏まえた検討(2)
- ※講義内容は必要に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

各回の担当者による報告を中心に進める。発表にあたってはレジュメやスライドを準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文等の選択、発表の準備をすること。また、毎回授業で扱った内容について関連文献等にあたるなどしてさらに理解を深めること。

教科書

教科書は指定しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

発表内容、授業中の発言、議論への参加状況によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 伊藤 貴昭		

授業の概要・到達目標

本演習では教育学のなかでも、特に教育心理学分野を基盤とした研究を取り上げ、批判的に検討を加えながら、教育心理学研究のありようについて考察を加える。

また修士論文執筆に向け、各自の関心のあるテーマに基づき発表・討議を行いながら、研究内容の精緻化を目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODダクション
- 第2回 教育心理学研究について
- 第3回 教授学習研究の特徴
- 第4回 研究テーマの検討
- 第5回 先行研究の調査
- 第6回 先行研究の検討(1)
- 第7回 先行研究の検討(2)
- 第8回 先行研究の問題の整理
- 第9回 研究計画の立案
- 第10回 研究計画の検討(1)
- 第11回 研究計画の検討(2)
- 第12回 研究計画の発表
- 第13回 研究の進捗状況発表
- 第14回 まとめ

履修上の注意

受講生の資料調査、報告、ディスカッションを中心に進めるため、担当になった際には責任をもって取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した資料がある場合には必ず資料を読み、授業に参加すること。
また、発表等の担当になった場合には、準備を入念に行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については当日もしくは翌週にコメントする。

成績評価の方法

授業への取り組み、発表内容、議論への貢献などに基づき、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習IVB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 伊藤 貴昭		

授業の概要・到達目標

本演習では教育学のなかでも、特に教育心理学分野を基盤とした研究を取り上げ、批判的に検討を加えながら、教育心理学研究のありようについて考察を深める。

また修士論文執筆に向け、春学期の成果を踏まえ、各自の関心のあるテーマに基づき発表・討議を行いながら、研究内容の精緻化を目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2回 研究テーマの確認
- 第3回 研究計画・方法についての検討(1)
- 第4回 研究計画・方法についての検討(2)
- 第5回 研究倫理
- 第6回 関連する先行研究の検討(1)
- 第7回 関連する先行研究の検討(2)
- 第8回 研究成果の中間報告(1)
- 第9回 研究成果の中間報告(2)
- 第10回 新たな課題の整理
- 第11回 研究計画の再検討
- 第12回 研究総括と発表
- 第13回 研究総括と発表
- 第14回 まとめ

履修上の注意

受講生の資料調査、報告、ディスカッションを中心に進めるため、担当になった際には責任をもって取り組むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に指定した資料がある場合には必ず資料を読み、授業に参加すること。
また、発表等の担当になった場合には、準備を入念に行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については当日もしくは翌週にコメントする。

成績評価の方法

授業への取り組み、発表内容、議論への貢献などに基づき、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 伊藤 貴昭		

授業の概要・到達目標

本演習では教育学のなかでも、特に教育心理学分野を基盤とした研究を取り上げ、批判的に検討を加えながら、教育心理学研究のありようについて考察を深める。

また修士論文執筆に向け、春学期の成果を踏まえ、各自の関心のあるテーマに基づき発表・討議を行いながら、研究内容の精緻化を目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2回 研究テーマの確認
- 第3回 研究計画・方法についての検討(1)
- 第4回 研究計画・方法についての検討(2)
- 第5回 関連する先行研究の検討(1)
- 第6回 関連する先行研究の検討(2)
- 第7回 関連する先行研究の検討(3)
- 第8回 研究成果の中間報告(1)
- 第9回 研究成果の中間報告(2)
- 第10回 新たな課題の整理
- 第11回 研究計画の再検討
- 第12回 研究総括と発表
- 第13回 研究総括と発表
- 第14回 まとめ

履修上の注意

受講生の資料調査、報告、ディスカッションを中心に進めるため、担当になった際には責任をもって取り組むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に指定した資料がある場合には必ず資料を読み、授業に参加すること。
また、発表等の担当になった場合には、準備を入念に行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については当日もしくは翌週にコメントする。

成績評価の方法

授業への取り組み、発表内容、議論への貢献などに基づき、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習IVD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 伊藤 貴昭		

授業の概要・到達目標

本演習では教育学のなかでも、特に教育心理学分野を基盤とした研究を取り上げ、批判的に検討を加えながら、教育心理学研究のありようについて考察を深める。
また修士論文執筆に向け、春学期の成果を踏まえ、各自の関心のあるテーマに基づき発表・討議を行いながら、研究内容の精緻化を目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究成果の中間報告(1)
- 第3回 研究成果の中間報告(2)
- 第4回 課題の整理
- 第5回 研究計画の再検討
- 第6回 論文執筆の方法(1)
- 第7回 論文執筆の方法(2)
- 第8回 論文執筆の方法(3)
- 第9回 査読システム
- 第10回 研究発表(1)
- 第11回 研究発表(2)
- 第12回 研究発表(3)
- 第13回 課題の整理
- 第14回 まとめ

履修上の注意

受講生の資料調査、報告、ディスカッションを中心に進めるため、担当になった際には責任をもって取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した資料がある場合には必ず資料を読み、授業に参加すること。
また、発表等の担当になった場合には、準備を入念に行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については当日もしくは翌週にコメントする。

成績評価の方法

授業への取り組み、発表内容、議論への貢献などに基づき、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標

省察的实践と公共性

社会教育研究においては、「何を学ぶべきか」「学習内容をだれが決めるか」という学習課題論が長く論じられてきた。戦前、国家により決定されてきた学習課題が国民を戦争に動員していったという反省から、戦後は社会教育職員の学習内容編成権、国民の学習権などの考え方が示されている。一方で、実践記録などを通じて学習過程を長期にわたりあとづけしていくとき、目標や課題とされていたことは違う学びが生まれたり、課題自体を学習者が改めて選び取っていくプロセスが見いだされたりすることがある。このような学習過程の中の試行錯誤は、学習をふりかえること(省察)により生み出され支えられている。

シヨーンは、高度に専門化された現代社会において、専門家が既にある知識・技術の集積から適切な解答を社会に適用していくような専門性のとらえ方を「技術的合理性のモデル」として批判している。これに対し「省察的实践(行為の中の省察)」とは、現実社会の問題状況の中で専門家が省察を重ねて状況を修正していくような専門性のありかたである。このように、学習とは、あらかじめ決められた正しさや合理性を学ぶことではなく、主体が実践と省察を往還する中から状況を変えていく認識と行為のありようとして考えられている。

このような学習のとらえ方は、不確実な状況の中で民主的にコミュニティの問題を解決していくこと、一人の利害ではなく公共的な価値観を共有していくことのために欠かせない。この授業では、理論研究と実践分析を組み合わせて省察を深めていくことに取り組む。

授業内容

- 第1回 自己紹介・今、関心を持っていること
- 第2～3回 政策文書を読む—中教審答申など
- 第4～5回 施設見学
- 第6～7回 関心を持っている実践の紹介
- 第8～9回 『省察的实践とはなにか』を読む①～②
- 第10～11回 明大ラウンドテーブルへの参加
- 第12～13回 『省察的实践者の教育』を読む①～②
- 第14回 レポートを読みあう

履修上の注意

履修者の関心に即して、授業内容を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で取り上げる資料について、授業時間外に読むことが必要になる場合がある。
「実践をふりかえる」ということを経験する目的で、5～6人の小グループに分かれて実践を語り合い聞きあう、ラウンドテーブルという取り組みに参加する。

教科書

指定なし。

参考書

ドナルド・A・シヨーン 著 柳沢 昌一、三輪 建二 訳 『省察的实践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考』 鳳書房 2007

成績評価の方法

レポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習IB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標

学習をとらえる視点—実践コミュニティ

あるテーマに関する関心や熱意を共有し、知識や技能を持続的な相互交遊によって深めていく集団を「実践コミュニティ」(ウェンガー)と呼ぶ。子どもの試合の合間に子育てについて話しているサッカーパパ・ママ、世界最高の音色のフルートを奏する職人たち、石油会社で地盤を掘削するための技術者・科学者の集団など、実践コミュニティはいろいろな場面に見いだされる。

こうした考え方では、学習を個人の知識・技能の習得としてではなく、コミュニティとしての学習が展開しているのとらえる。実践コミュニティというとらえ方からみると、地域で取り組まれる社会教育、企業、NGO・NPOなどの組織・集団の中では、どのような学習が展開しているのだろうか。実際に学習支援を行っている専門職の話聞き、またさまざまな実践記録を読み解いて、考察を進めてみよう。

授業内容

- 第1回 自己紹介・今、関心を持っていること
- 第2～3回 『コミュニティ・オブ・プラクティス』を読む①～②
- 第4～5回 社会教育関連職員へのインタビュー
- 第6～7回 実践記録を読む
- 第8～9回 関心を持っている実践の紹介
- 第10～11回 政策文書を読む
- 第12～13回 明大ラウンドテーブルへの参加
- 第14回 レポートを読みあう

履修上の注意

履修者の関心に即して、授業内容を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で取り上げる資料について、授業時間外に読むことが必要になる場合がある。

「実践をふりかえる」ということを経験する目的で、5～6人の小グループに分かれて実践を語り合い聞きあう、ラウンドテーブルという取り組みに参加する。

教科書

指定なし。

参考書

エティエンヌ・ウェンガーほか著 『コミュニティ・オブ・プラクティス—ナレッジ社会の新たな知識形態の実践』 翔泳社 2001

成績評価の方法

レポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標

実践を支えることとその組織—省察的実習

すぐれた実践—例えば社会教育の学級・講座や、学校教育における授業実践など—において、学びを支える職員や教員の力量が示され、蓄積されていることがわかることがある。しかし従来の社会教育研究において、そうした力量は職員の個人的な能力・努力としてとらえられることが少なくなかった。また大学は、職員に求められる知識や技術のある水準まで教授する=完成教育のための組織と考えられてきた。

しかし実践の現場では、人々のくらしとそこから生まれる学習課題は専門分化された社会の中にあり、職員個人があらゆる課題に精通することはできない。また人々の学習は不確実な状況の中で展開しており、学習支援者はマニュアルや処方箋のないなかで学習者と向き合っている。学習・学習支援についてこうしたとらえ方をすると、職員個人の努力では持続的な学習支援は見通せないということになるのであり、組織的な取り組みが必ず求められる。

近年、社会教育主事の資格取得により、社会教育士の称号も取得できるようになった。また社会教育経営論、生涯学習支援論が新設された。このような制度改正をふまえると、学習を支援すること、学習支援者を支援する組織のあり方が求められる。様々な実践を読み解き、学習のサポートとマネジメントについて考察を進めてみよう。

授業内容

- 第1回 自己紹介・今、関心を持っていること
- 第2～3回 『省察的実践者の教育』を読む①～②
- 第4～5回 社会教育関連職員へのインタビュー
- 第6～7回 実践記録を読む
- 第8～9回 関心を持っている実践の紹介
- 第10～11回 政策文書を読む
- 第12～13回 明大ラウンドテーブルへの参加
- 第14回 レポートを読みあう

履修上の注意

履修者の関心に即して、授業内容を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で取り上げる資料について、授業時間外に読むことが必要になる場合がある。

「実践をふりかえる」ということを経験する目的で、5～6人の小グループに分かれて実践を語り合い聞きあう、ラウンドテーブルという取り組みに参加する。

教科書

指定なし。

参考書

ドナルド・A・ショーン 著 柳沢 昌一、村田晶子監訳 『省察的実践者の教育—プロフェッショナル・スクールの実践と理論』 鳳書房 2017

成績評価の方法

レポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標

学習支援者の力量—コミュニティのコーディネーター
 ウェンガーの「実践コミュニティ」という考え方では、コミュニティは一定の状態ですべて存続し続けるのではなく、成長したり停滞したり、役割を終えて終結したりする。つまり実践コミュニティは変化を続けていくが、そうした変化を方向づけていくためには、コミュニティの「世話をする」役割の、コーディネーターの働きが重要な意味を持つ。

コミュニティのコーディネーターが「廊下を歩き回って」、メンバーが問題と考えていることを聞き取り、メンバーの関心を集めている講師の話聞く機会を作り、SNSや組織のイベントなどによりオンラインや対面を使い分けてコミュニティの「リズムを創り出す」。コミュニティはこのようなコーディネーターの働きかけによって、発展・展開していく。

新設された社会教育士は、ファシリテーターやコーディネーターの役割が期待されているが、それはマニュアルのように決まった方法を適用するイメージでは果たせない。複雑で不確実な現実の場面の中で、コーディネーターはどのような文脈において人々に働きかけているのだろうか。

授業内容

- 第1回 自己紹介・今、関心を持っていること
- 第2～3回 『コミュニティ・オブ・プラクティス』を読む①～②
- 第4～5回 社会教育関連職員へのインタビュー
- 第6～7回 実践記録を読む
- 第8～9回 関心を持っている実践の紹介
- 第10～11回 政策文書を読む
- 第12～13回 明大ラウンドテーブルへの参加
- 第14回 レポートを読みあう

履修上の注意

履修者の関心に即して、授業内容を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で取り上げる資料について、授業時間外に読むことが必要になる場合がある。

「実践をふりかえる」ということを経験する目的で、5～6人の小グループに分かれて実践を語り合い聞きあう、ラウンドテーブルという取り組みに参加する。

教科書

指定なし。

参考書

エティエンヌ・ウェンガーほか著 『コミュニティ・オブ・プラクティス—ナレッジ社会の新たな知識形態の実践』 翔泳社 2001

成績評価の方法

レポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	小林 繁	

授業の概要・到達目標

修士論文の作成をめざす。

授業内容

各自の修士論文のテーマや課題に沿って関係の文献資料を読む。また、臨床人間学総合演習の報告に向け、修論の進捗状況を報告し、議論する。

履修上の注意

文献資料を読んで、出されたレポートをもとに議論する。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回文献資料のレポートを出してもらうため、しっかり準備をしておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法

毎回のレポートの内容をもとに評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	小林 繁	

授業の概要・到達目標

修士論文の作成をめざす。

授業内容

各自の修士論文のテーマや課題に沿って関係の文献資料を読む。また、臨床人間学総合演習の報告に向け、修論の進捗状況を報告し、議論する。

履修上の注意

文献資料を読んで、出されたレポートをもとに議論する。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回文献資料のレポートを出してもらうため、しっかり準備をしておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法

毎回のレポートの内容をもとに評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	小林 繁	

授業の概要・到達目標

修士論文の作成をめざす。

授業内容

各自の修士論文のテーマや課題に沿って関係の文献資料を読む。また、臨床人間学総合演習の報告に向け、修論の進捗状況を報告し、議論する。

履修上の注意

文献資料を読んで、出されたレポートをもとに議論する。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回文献資料のレポートを出してもらうため、しっかり準備をしておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法

毎回のレポートの内容をもとに評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	小林 繁	

授業の概要・到達目標

修士論文の作成をめざす。

授業内容

各自の修士論文のテーマや課題に沿って関係の文献資料を読む。また、臨床人間学総合演習の報告に向け、修論の進捗状況を報告し、議論する。

履修上の注意

文献資料を読んで、出されたレポートをもとに議論する。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回文献資料のレポートを出してもらうため、しっかり準備をしておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法

毎回のレポートの内容をもとに評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	博物館学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	博士（歴史学）駒見 和夫	

授業の概要・到達目標

博物館は公教育を目的とした機関であり、その門戸はだれにも開かれねばならない。そして今日の教育施策の核となっている生涯学習は、すべての人びとが生きていくことを保障し支援する教育システムであり、その一部を受託すべき博物館が付託された役割を果たすためには、基本的条件として、あらゆる人の立場のもとで公平な情報と奉仕の提供を具体化して実施するユニバーサルサービス、さらにソーシャル・インクルージョンの理念が必要不可欠となる。現代の博物館は生涯学習の推進とあいまって、多様な市民の利用に供すべく工夫を凝らした展示や活動も活発になりつつあるが、明確な理念のもとに実践されているものは未だ少ない。この認識に立ち、本演習では博物館におけるインクルーシブ化に向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するインクルーシブな博物館の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。受講者の研究成果に沿った発表を中心に進めていく。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ソーシャルインクルージョンと博物館の検討
- 第3回 インクルーシブなミュージアム論の検討
- 第4回 研究テーマの相談
- 第5回 研究計画の作成
- 第6回 先行研究文献の調査
- 第7回 先行研究文献リストの作成と指導
- 第8回 先行研究文献の確認と指導
- 第9回 基本資料の講読と討論(1)
- 第10回 基本資料の講読と討論(2)
- 第11回 基本資料の講読と討論(3)
- 第12回 基本資料の講読と討論(4)
- 第13回 研究の進捗報告
- 第14回 研究作業の課題の確認と指導

履修上の注意

博物館の实地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での発表と討論に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する文献や資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の实地調査に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、およびOh-ol Meijiのレポートのコメント機能を使って適宜おこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み40%、発表40%、レポート20%、により評価する。

その他

先行研究の調査と検討について十分に取り組んでください。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館学演習IB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(歴史学) 駒見 和夫		

授業の概要・到達目標

博物館は公教育を目的とした機関であり、その門戸はだれにも開かれねばならない。そして今日の教育施策の核となっている生涯学習は、すべての人びとが生きていくことを保障し支援する教育システムであり、その一部を受託すべき博物館が付託された役割を果たすためには、基本的条件として、あらゆる人の立場のもとで公平な情報と奉仕の提供を具体化して実施するユニバーサルサービス、さらにソーシャル・インクルージョンの理念が必要不可欠となる。現代の博物館は生涯学習の推進とあいまって、多様な市民の利用に供すべく工夫を凝らした展示や活動も活発になりつつあるが、明確な理念のもとに実践されているものは未だ少ない。この認識に立ち、本演習では博物館におけるインクルーシブ化に向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するインクルーシブな博物館の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。受講者の研究成果に沿った発表を中心に進めていく。

授業内容

- 第1回 研究課題の確認と指導
- 第2回 研究計画の見直し
- 第3回 博物館実地調査方法の検討
- 第4回 博物館実地調査(1)
- 第5回 実地調査に基づく分析と討論(1)
- 第6回 博物館実地調査(2)
- 第7回 実地調査に基づく分析と討論(2)
- 第8回 博物館実地調査(3)
- 第9回 実地調査に基づく分析と討論(3)
- 第10回 博物館実地調査のまとめ
- 第11回 インクルーシブな博物館に向けた課題検討
- 第12回 論文構想の確認
- 第13回 研究発表
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

博物館の実地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での発表と討論に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する文献や資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の実地調査に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、およびOh-ol Meijiのレポートのコメント機能を使って適宜おこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み40%、発表40%、レポート20%、により評価する。

その他

先行研究の調査と検討について十分に取り組んでください。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(歴史学) 駒見 和夫		

授業の概要・到達目標

博物館は公教育を目的とした機関であり、その門戸はだれにも開かれねばならない。そして今日の教育施策の核となっている生涯学習は、すべての人びとが生きていくことを保障し支援する教育システムであり、その一部を受託すべき博物館が付託された役割を果たすためには、基本的条件として、あらゆる人の立場のもとで公平な情報と奉仕の提供を具体化して実施するユニバーサルサービス、さらにソーシャル・インクルージョンの理念が必要不可欠となる。現代の博物館は生涯学習の推進とあいまって、多様な市民の利用に供すべく工夫を凝らした展示や活動も活発になりつつあるが、明確な理念のもとに実践されているものは未だ少ない。この認識に立ち、本演習では博物館におけるインクルーシブ化に向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するインクルーシブな博物館の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。受講者の研究成果に沿った発表を中心に進めていく。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ソーシャルインクルージョンと博物館の検討
- 第3回 インクルーシブなミュージアム論の検討
- 第4回 研究テーマの相談
- 第5回 研究計画の作成
- 第6回 先行研究文献の調査
- 第7回 先行研究文献リストの作成と指導
- 第8回 先行研究文献の確認と指導
- 第9回 基本資料の講読と討論(1)
- 第10回 基本資料の講読と討論(2)
- 第11回 基本資料の講読と討論(3)
- 第12回 基本資料の講読と討論(4)
- 第13回 研究の進捗報告
- 第14回 研究作業の課題の確認と指導

履修上の注意

博物館の実地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での発表と討論に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する文献や資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の実地調査に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、およびOh-ol Meijiのレポートのコメント機能を使って適宜おこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み40%、発表40%、レポート20%、により評価する。

その他

先行研究の調査と検討について十分に取り組んでください。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館学演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(歴史学) 駒見 和夫		

授業の概要・到達目標

博物館は公教育を目的とした機関であり、その門戸はだれにも開かれねばならない。そして今日の教育施策の核となっている生涯学習は、すべての人びとが生きていくことを保障し支援する教育システムであり、その一部を受託すべき博物館が付託された役割を果たすためには、基本的条件として、あらゆる人の立場のもとで公平な情報と奉仕の提供を具体化して実施するユニバーサルサービス、さらにソーシャル・インクルージョンの理念が必要不可欠となる。現代の博物館は生涯学習の推進とあいまって、多様な市民の利用に供すべく工夫を凝らした展示や活動も活発になりつつあるが、明確な理念のもとに実践されているものは未だ少ない。この認識に立ち、本演習では博物館におけるインクルーシブ化に向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するインクルーシブな博物館の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。受講者の研究成果に沿った発表を中心に進めていく。

授業内容

- 第1回 研究課題の確認と指導
- 第2回 研究計画の見直し
- 第3回 博物館実地調査方法の検討
- 第4回 博物館実地調査(1)
- 第5回 実地調査に基づく分析と討論(1)
- 第6回 博物館実地調査(2)
- 第7回 実地調査に基づく分析と討論(2)
- 第8回 博物館実地調査(3)
- 第9回 実地調査に基づく分析と討論(3)
- 第10回 博物館実地調査のまとめ
- 第11回 インクルーシブな博物館に向けた課題検討
- 第12回 論文構想の確認
- 第13回 研究発表
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

博物館の実地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での発表と討論に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する文献や資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の実地調査やグループでのディスカッション等に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、およびOh! Meijiのレポートのコメント機能を使って適宜おこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み40%、発表40%、レポート20%、により評価する。

その他

先行研究の調査と検討について十分に取り組んでください。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 Ph.D	井上 由佳	

授業の概要・到達目標

博物館とは何のために存在しているのだろうか。日本では社会教育機関の一つとして法的に位置づけられているが、博物館法が制定された1951年から70年が経過した今、博物館に求められている役割も大きく変化している。日本の博物館の発展を辿りながら、現代の博物館が社会から何を求められているのか。そしてこれまでに何をもちて社会に貢献してきたのか。すべての人々に開かれ、活用されるアクセシブルなミュージアムとなるためには、どのような課題が残されているのか。この問題意識に立ち、本演習では博物館がAccessible（アクセシブル）となるために向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するアクセシブルなミュージアム(Accessible Museums)の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。

授業内容

- 第1回 インTRODククション
- 第2回 ソーシャルインクルージョンと博物館の検討
- 第3回 アクセシブル・ミュージアム論の検討
- 第4回 研究テーマの相談
- 第5回 研究計画の作成
- 第6回 先行研究文献の調査
- 第7回 先行研究文献リストの作成と指導
- 第8回 先行研究文献の確認と指導
- 第9回 基本資料の講読と討論(1)日本の事例(東日本)
- 第10回 基本資料の講読と討論(2)日本の事例(西日本)
- 第11回 基本資料の講読と討論(3)英語圏の事例
- 第12回 基本資料の講読と討論(4)非英語圏の事例
- 第13回 研究の進捗報告
- 第14回 研究作業の課題の確認と指導

履修上の注意

博物館の実地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での討論に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の実地調査やグループでのディスカッション等に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で全体に向けてフィードバックをしていく。優秀な内容については、その都度、授業で紹介したり、クラスウェブを介してコメントしていく。

成績評価の方法

授業への取り組み50%、レポート50%、により評価する。

その他

また博物館の現場に足を運び、優れた実践例について学ぶフィールドワークの機会を複数回設ける予定である。訪問先については受講生と相談の上、決定したい。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 Ph.D	井上 由佳	

授業の概要・到達目標

日本の博物館法やICOMの博物館定義に見られるように、博物館の4つの主な機能は「調査研究」「展示」「保存」「教育普及」とされているが、2015年のユネスコ博物館勧告ではこれに加えて「コミュニケーション」や周辺地域や創造・観光産業等への経済的支援も含まれている。ICOMの新定義でも、多文化共生やSDGsの達成等の社会的に課題に取り組むことが含まれると予想される。既に海外のミュージアムは異分野の団体と連携し、コミュニティ課題に取り組み始めている。本演習では博物館が社会に果たすべき役割について理論的な理解を深めつつ、先進事例から問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、博物館は、旧来からの4つの主機能のみならず、人々の学びに積極的に関与し、現代の社会的課題に取り組む体制の背景にある理念を理解し、事例を通してその実態を学び、各自の研究課題について深化をはかることを目的とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本の博物館法における博物館像
- 第3回 1960年ユネスコ博物館勧告の博物館像
- 第4回 2015年ユネスコ博物館勧告の博物館像
- 第5回 ICOM博物館定義の変遷と現在
- 第6回 現代社会に求められる博物館とは
- 第7回 日本各地にみられる事例の検証
- 第8回 研究の進捗報告(その1)
- 第9回 資料の講読と討論(1)ヨーロッパ・アフリカの事例
- 第10回 資料の講読と討論(2)北米・中南米の事例
- 第11回 資料の講読と討論(3)アジアの事例
- 第12回 資料の講読と討論(4)日本の事例
- 第13回 研究の進捗報告(その2)
- 第14回 ディスカッション・授業の総括

履修上の注意

博物館の実地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での討論に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の実地調査やグループでのディスカッション等に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で全体に向けてフィードバックをしていく。優秀な内容については、その都度、授業で紹介したり、クラスウェブを介してコメントしていく。

成績評価の方法

授業への取り組み50%、レポート50%、により評価する。

その他

また博物館の現場に足を運び、優れた実践例について学ぶフィールドワークの機会を複数回設ける予定である。訪問先については受講生と相談の上、決定したい。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 Ph.D	井上 由佳	

授業の概要・到達目標

博物館とは何のために存在しているのだろうか。日本では社会教育機関の一つとして法的に位置づけられているが、博物館法が制定された1951年から70年が経過した今、博物館に求められている役割も大きく変化している。日本の博物館の発展を辿りながら、現代の博物館が社会から何を求められているのか。そしてこれまでに何をもちて社会に貢献してきたのか。すべての人々に開かれ、活用されるアクセシブルなミュージアムとなるためには、どのような課題が残されているのか。この問題意識に立ち、本演習では博物館がAccessible（アクセシブル）となるために向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するアクセシブルなミュージアム（Accessible Museums）の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 社会的課題と博物館の検討
- 第3回 開かれたミュージアム論の検討
- 第4回 研究テーマの相談
- 第5回 研究計画の作成
- 第6回 先行研究文献の調査
- 第7回 先行研究文献リストの作成と指導
- 第8回 先行研究文献の確認と指導
- 第9回 基本資料の講読と討論(1)日本の事例(東日本)
- 第10回 基本資料の講読と討論(2)日本の事例(西日本)
- 第11回 基本資料の講読と討論(3)英語圏の事例
- 第12回 基本資料の講読と討論(4)非英語圏の事例
- 第13回 研究の進捗報告
- 第14回 研究作業の課題の確認と指導

履修上の注意

博物館の実地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での討論に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の実地調査やグループでのディスカッション等に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で全体に向けてフィードバックをしていく。優秀な内容については、その都度、授業で紹介したり、クラスウェブを介してコメントしていく。

成績評価の方法

授業への取り組み50%、レポート50%、により評価する。

その他

また博物館の現場に足を運び、優れた実践例について学ぶフィールドワークの機会を複数回設ける予定である。訪問先については受講生と相談の上、決定したい。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	博物館学演習IID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 Ph.D	井上 由佳	

授業の概要・到達目標

日本の博物館法やICOMの博物館定義に見られるように、博物館の4つの主な機能は「調査研究」「展示」「保存」「教育普及」とされているが、2015年のユネスコ博物館勧告ではこれに加えて「コミュニケーション」や周辺地域や創造・観光産業等への経済的支援も含まれている。ICOMの新定義でも、多文化共生やSDGsの達成等の社会的に課題に取り組むことが含まれると予想される。

既に海外のミュージアムは異分野の団体と連携し、コミュニティ課題に取り組み始めている。本演習では博物館が社会に果たすべき役割について理論的な理解を深めつつ、先進事例から問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、博物館は、旧来からの4つの主機能のみならず、人々の学びに積極的に関与し、現代の社会的課題に取り組む体制の背景にある理念を理解し、事例を通してその実態を学び、各自の研究課題について深化をはかることを目的とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 日本の博物館法における博物館像(2)
- 第3回 1960年ユネスコ博物館勧告の博物館像(2)
- 第4回 2015年ユネスコ博物館勧告の博物館像(2)
- 第5回 ICOM博物館定義の変遷と現在
- 第6回 現代社会に求められる博物館とは
- 第7回 日本各地にみられる事例の検証
- 第8回 研究の進捗報告(その1)
- 第9回 資料の講読と討論(1)ヨーロッパ・アフリカの事例
- 第10回 資料の講読と討論(2)北米・中南米の事例
- 第11回 資料の講読と討論(3)アジアの事例
- 第12回 資料の講読と討論(4)日本の事例
- 第13回 研究の進捗報告(その2)
- 第14回 ディスカッション・授業の総括

履修上の注意

博物館の実地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での討論に取り組んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の実地調査やグループでのディスカッション等に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で全体に向けてフィードバックをしていく。優秀な内容については、その都度、授業で紹介したり、クラスウェブを介してコメントしていく。

成績評価の方法

授業への取り組み50%、レポート50%、により評価する。

その他

また博物館の現場に足を運び、優れた実践例について学ぶフィールドワークの機会を複数回設ける予定である。訪問先については受講生と相談の上、決定したい。

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習IA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(図書館情報学) 青柳 英治		

授業の概要・到達目標

授業概要:この演習では、図書館における管理運営やサービス活動の実情を把握するために特定の主題を設定し、調査を行う。そのために、まず、質的調査の種類と方法の学習を行う。次に、調査計画を策定の上、調査を実施し、その結果を検討し、最後に報告書を作成する。

到達目標:この演習では、設定した主題を質的調査の手法を用いて明らかにし、成果をまとめることを通して、調査研究の手法を修得することを目標とする。

授業内容

- 第1回: イントロダクシヨ
- 第2回: 質的調査法(1)種類
- 第3回: 質的調査法(2)方法
- 第4回: 調査テーマの設定
- 第5回: 調査方法の決定
- 第6回: 調査項目の設定
- 第7回: 調査の実施(1)本調査
- 第8回: 本調査結果の検討
- 第9回: 調査の実施(2)追加調査
- 第10回: 追加調査結果の検討
- 第11回: 調査のまとめ
- 第12回: 報告書の作成
- 第13回: 報告書の検討
- 第14回: 調査結果の発表

履修上の注意

演習では、主体的に主題を設定の上、調査を進めていくことが求められる。質的調査法については、あらかじめ指定した文献をもとに発表・報告を求める。それをもとに調査方法、調査項目などを決定する。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。授業で取り上げた内容については、事後に文献等で確認しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji 等を利用して行う。

成績評価の方法

演習での発表・報告70%、調査報告書30%

その他

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習IB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(図書館情報学) 青柳 英治		

授業の概要・到達目標

授業概要：この演習では、まず、より高度な国内外の図書館情報学分野(特に図書館運営、サービス活動)に関する文献を精読する。次に、修士論文の執筆に向け、各自の研究課題に即した発表と検討を行う。

到達目標：この演習では、国内外の図書館情報学研究の系譜ならびに動向について理解した上で、各自の研究課題の深化をはかることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：図書館運営に関する文献の講読と検討(1)：日本
- 第3回：図書館運営に関する文献の講読と検討(2)：外国
- 第4回：サービス活動に関する文献の講読と検討(1)：日本
- 第5回：サービス活動に関する文献の講読と検討(2)：外国
- 第6回：研究テーマの相談
- 第7回：研究計画の作成
- 第8回：先行研究の講読と検討(1)：日本
- 第9回：先行研究の講読と検討(2)：外国
- 第10回：基本文献の講読と検討(1)：日本①
- 第11回：基本文献の講読と検討(2)：日本②
- 第12回：基本文献の講読と検討(3)：外国
- 第13回：研究計画の修正
- 第14回：まとめと総括

履修上の注意

あらかじめ指定した文献をもとに発表・報告を求める。それをもとに討論・解説を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。授業で取り上げた内容については、事後に文献等で確認しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji 等を利用して行う。

成績評価の方法

演習での発表・報告70%、最終レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(図書館情報学) 青柳 英治		

授業の概要・到達目標

授業概要：この演習では、より高度な図書館における管理運営やサービス活動の実情を把握するために特定の主題を設定し、調査を行う。そのために、まず、質的調査の種類と方法の学習を行う。次に、調査計画を策定の上、調査を実施し、その結果を検討し、最後に報告書を作成する。

到達目標：この演習では、設定した主題を質的調査の手法を用いて明らかにし、成果をまとめることを通して、調査研究の手法を修得することを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：質的調査法(1)種類
- 第3回：質的調査法(2)方法
- 第4回：調査テーマの設定
- 第5回：調査方法の決定
- 第6回：調査項目の設定
- 第7回：調査の実施(1)本調査
- 第8回：本調査結果の検討
- 第9回：調査の実施(2)追加調査
- 第10回：追加調査結果の検討
- 第11回：調査のまとめ
- 第12回：報告書の作成
- 第13回：報告書の検討
- 第14回：調査結果の発表

履修上の注意

演習では、主体的に主題を設定の上、調査を進めていくことが求められる。質的調査法については、あらかじめ指定した文献をもとに発表・報告を求める。それをもとに調査方法、調査項目などを決定する。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。授業で取り上げた内容については、事後に文献等で確認しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji 等を利用して行う。

成績評価の方法

演習での発表・報告70%、調査報告書30%

その他

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅠD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(図書館情報学) 青柳 英治		

授業の概要・到達目標

授業概要：この演習では、まず、より高度な国内外の図書館情報学分野(特に図書館運営、サービス活動)に関する文献を精読する。次に、修士論文の執筆に向け、各自の研究課題に即した発表と検討を行う。

到達目標：この演習では、国内外の図書館情報学研究の系譜ならびに動向について理解した上で、各自の研究課題の深化をはかることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：図書館運営に関する文献の講読と検討(1)：日本
- 第3回：図書館運営に関する文献の講読と検討(2)：外国
- 第4回：サービス活動に関する文献の講読と検討(1)：日本
- 第5回：サービス活動に関する文献の講読と検討(2)：外国
- 第6回：研究テーマの相談
- 第7回：研究計画の作成
- 第8回：先行研究の講読と検討(1)：日本
- 第9回：先行研究の講読と検討(2)：外国
- 第10回：基本文献の講読と検討(1)：日本①
- 第11回：基本文献の講読と検討(2)：日本②
- 第12回：基本文献の講読と検討(3)：外国
- 第13回：研究計画の修正
- 第14回：まとめと総括

履修上の注意

あらかじめ指定した文献をもとに発表・報告を求める。それをもとに討論・解説を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

今回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。授業で取り上げた内容については、事後に文献等で確認しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji 等を利用して行う。

成績評価の方法

演習での発表・報告70%、最終レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	齋藤 泰則	

授業の概要・到達目標

授業概要：

図書館情報学に関する国内の学術文献の探索法について取り上げる。そのうえで、特定の主題を設定し、当該主題に関する国内の研究動向について、国内発行の学術誌に掲載された論文を探索し、収集し、文献リストを作成する。文献リストから関心のある論文を選択し、その内容について発表し、考察を加える。

到達目標：

国内の学術文献探索法に関するスキルの獲得を目指すとともに、文献の探索・収集の実際、文献リストの作成法について習得することを目標とする。さらに、わが国における図書館情報学の研究動向について把握することを目指す。

授業内容

- 第1回：図書館情報学に関する国内の学術文献の探索法
- 第2回：図書館情報学に関する国内の学術文献の探索と収集の実際
- 第3回：図書館情報学の研究文献リストの作成
- 第4回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(1)：総論
- 第5回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(2)：図書館サービス領域Ⅰ レファレンスサービス
- 第6回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(3)：図書館サービス領域Ⅱ ヴァーチャルレファレンス
- 第7回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(4)：図書館サービス領域Ⅲ 情報リテラシー
- 第8回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(5)：利用者領域Ⅰ 情報要求
- 第9回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(6)：利用者領域Ⅱ 情報探索
- 第10回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(7)：利用者領域Ⅲ 情報利用
- 第11回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(8)：情報資源組織領域Ⅰ 書誌データ
- 第12回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(9)：情報資源組織領域Ⅱ 主題分析
- 第13回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(10)：情報資源組織領域Ⅲ 分類法
- 第14回：まとめ

履修上の注意

受講者の発表を中心に授業を進めます。発表資料の作成と提出を求めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

今回の授業範囲について、事前に参考文献等で調べておくこと。授業で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

リチャード・ルービン 著;根本彰 訳 図書館情報学概論。東京大学出版会, 2014.5. 356p;ISBN 978-4-13-001007-8;
齋藤泰則 図書館とレファレンスサービス:論考 樹村房, 2017. 12. 284P ISBN 978-4883672837

課題に対するフィードバックの方法

課題については、院生からの提出物について、コメントを付し、講評する。

成績評価の方法

授業での発表(40%)、最終レポート(60%)

その他

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	齋藤 泰則	

授業の概要・到達目標

授業概要:

図書館情報学に関する海外の学術文献の探索法について取り上げる。そのうえで、特定の主題を設定し、当該主題に関する海外の研究動向について、欧米発行の学術誌に掲載された論文を探索し、収集し、文献リストを作成する。文献リストから関心のある論文を選択し、その内容について発表し、考察を加える。

到達目標:

海外の学術文献探索法に関するスキルの獲得を目指すとともに、文献の探索・収集の実際、文献リストの作成法について習得することを目標とする。さらに、海外における図書館情報学の研究動向について把握することを目指す。

授業内容

- 第1回：図書館情報学に関する海外の学術文献の探索法
- 第2回：図書館情報学に関する海外の学術文献の探索と収集の実際
- 第3回：図書館情報学に関する海外の学術文献リストの作成
- 第4回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(1)：総論
- 第5回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(2)：図書館サービス領域 I レファレンスサービス
- 第6回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(3)：図書館サービス領域 II ヴァーチャルレファレンス
- 第7回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(4)：図書館サービス領域 III 情報リテラシー
- 第8回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(5)：利用者領域 I 情報要求
- 第9回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(6)：利用者領域 II 情報探索
- 第10回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(7)：利用者領域 III 情報利用
- 第11回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(8)：情報資源組織領域 I 書誌データ
- 第12回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(9)：情報資源組織領域 II 主題分析
- 第13回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(10)：情報資源組織領域 III 分類法
- 第14回：まとめ

履修上の注意

受講者の発表を中心に授業を進めます。毎回、発表資料の作成と提出を求めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に参考文献等で調べておくこと。
また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

リチャード・ルービン 著;根本彰 訳 図書館情報学概論。東京大学出版会, 2014.5. 356p;ISBN 978-4-13-001007-8:
齋藤泰則 図書館とレファレンスサービス:論考 樹村房, 2017. 12. 284P ISBN 978-4883672837

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する提出物については、講評のうえ、評価結果を回答する。

成績評価の方法

授業での発表(40%)、最終レポート(60%)

その他

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	齋藤 泰則	

授業の概要・到達目標

授業概要:

図書館情報学に関する国内の学術文献の探索法について取り上げる。そのうえで、特定の主題を設定し、当該主題に関する国内の研究動向について、国内発行の学術誌に掲載された論文を探索し、収集し、文献リストを作成する。文献リストから関心のある論文を選択し、その内容について発表し、より高度な専門性の視点から、考察を加える。

到達目標:

国内の学術文献探索法に関するスキルの獲得を目指すとともに、文献の探索・収集の実際、文献リストの作成法について習得することを目標とする。さらに、わが国におけるより高度な図書館情報学の研究動向について把握することを目指す。

授業内容

- 第1回：図書館情報学に関する国内の学術文献の探索法
- 第2回：図書館情報学に関する国内の学術文献の探索と収集の実際
- 第3回：図書館情報学の研究文献リストの作成
- 第4回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(1)：総論
- 第5回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(2)：図書館サービス領域 I レファレンスサービス
- 第6回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(3)：図書館サービス領域 II ヴァーチャルレファレンス
- 第7回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(4)：図書館サービス領域 III 情報リテラシー
- 第8回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(5)：利用者領域 I 情報要求
- 第9回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(6)：利用者領域 II 情報探索
- 第10回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(7)：利用者領域 III 情報利用
- 第11回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(8)：情報資源組織領域 I 書誌データ
- 第12回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(9)：情報資源組織領域 II 主題分析
- 第13回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(10)：情報資源組織領域 III 分類法
- 第14回：まとめ

履修上の注意

受講者の発表を中心に授業を進めます。発表資料の作成と提出を求めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に参考文献等で調べておくこと。
授業で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

リチャード・ルービン 著;根本彰 訳 図書館情報学概論。東京大学出版会, 2014.5. 356p;ISBN 978-4-13-001007-8:
齋藤泰則 図書館とレファレンスサービス:論考 樹村房, 2017. 12. 284P ISBN 978-4883672837

課題に対するフィードバックの方法

課題については、院生からの提出物について、コメントを付し、講評する。

成績評価の方法

授業での発表(40%)、最終レポート(60%)

その他

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	齋藤 泰則	

授業の概要・到達目標

授業概要:

図書館情報学に関する海外の学術文献の探索法について取り上げる。そのうえで、特定の主題を設定し、当該主題に関する海外の研究動向について、欧米発行の学術誌に掲載された論文を探索し、収集し、文献リストを作成する。文献リストから関心のある論文を選択し、その内容について発表し、より高度な専門性の視点から考察を加える。

到達目標:

海外の学術文献探索法に関するスキルの獲得を目指すとともに、文献の探索・収集の実際、文献リストの作成法について習得することを目標とする。さらに、海外におけるより高度な図書館情報学の研究動向について把握することを目指す。

授業内容

- 第1回：図書館情報学に関する海外の学術文献の探索法
- 第2回：図書館情報学に関する海外の学術文献の探索と収集の実際
- 第3回：図書館情報学に関する海外の学術文献リストの作成
- 第4回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(1)：総論
- 第5回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(2)：図書館サービス領域Ⅰ レファレンスサービス
- 第6回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(3)：図書館サービス領域Ⅱ ヴァーチャルレファレンス
- 第7回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(4)：図書館サービス領域Ⅲ 情報リテラシー
- 第8回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(5)：利用者領域Ⅰ 情報要求
- 第9回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(6)：利用者領域Ⅱ 情報探索
- 第10回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(7)：利用者領域Ⅲ 情報利用
- 第11回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(8)：情報資源組織領域Ⅰ 書誌データ
- 第12回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(9)：情報資源組織領域Ⅱ 主題分析
- 第13回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(10)：情報資源組織領域Ⅲ 分類法
- 第14回：まとめ

履修上の注意

受講者の発表を中心に授業を進めます。毎回、発表資料の作成と提出を求めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

今回の授業範囲について、事前に参考文献等で調べておくこと。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

リチャード・ルービン 著；根本彰 訳。図書館情報学概論。東京大学出版会，2014.5. 356p; ISBN 978-4-13-001007-8:
齋藤泰則 図書館とレファレンスサービス：論考 樹村房，2017. 12. 284P ISBN 978-4883672837

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する提出物については、講評のうえ、評価結果を回答する。

成績評価の方法

授業での発表(40%)、最終レポート(60%)

その他

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	三浦 太郎	

授業の概要・到達目標

図書館情報学分野には、コア領域として、図書館情報学基礎、情報利用者、情報資源組織化、情報メディア、情報サービス、情報システム、経営管理、デジタル情報といったテーマがある。この授業では、こうしたテーマについて研究論文を執筆しようとする大学院生を対象に、基本文献を輪読したり、受講者各自から研究テーマを報告してもらおう。輪読する文献は、受講生のテーマを考慮の上、相談して決定し、その内容に基づき、各回、全体で討議を行う。

図書館情報学分野の各テーマの特色を理解し、受講者自身の論文執筆を具体化することを目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2回 研究テーマについて(1)
- 第3回 研究テーマについて(2)
- 第4回 先行研究文献について(1)
- 第5回 先行研究文献について(2)
- 第6回 基本文献の輪読と討議(1)
- 第7回 基本文献の輪読と討議(2)
- 第8回 基本文献の輪読と討議(3)
- 第9回 基本文献の輪読と討議(4)
- 第10回 研究の進捗報告(1)
- 第11回 研究の進捗報告(2)
- 第12回 研究の進捗報告(3)
- 第13回 研究の進捗報告(4)
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

文献輪読の回には、あらかじめ指定した文献を読んだ上で臨むこととし、報告担当者は発表資料(レジュメ)を作成する。研究の進捗状況の報告については、受講者各自がレジュメを作成して臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指定した文献について、目を通した上で授業に臨むこと。

教科書

とくになし

参考書

適宜、指示する

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

とくになし

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	三浦 太郎	

授業の概要・到達目標

図書館情報学分野に関連するテーマについて、研究論文を執筆しようとする大学院生を対象に、主要文献を輪読したり、受講者各自から研究テーマを報告してもらう。輪読する文献は、受講生のテーマを考慮の上、相談して決定し、その内容に基づき、各回、全体で討議を行う。

図書館情報学分野に関連するテーマの特色を理解し、受講者自身が書き進める論文の質的向上を図る。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 研究テーマについて
- 第3回 主要文献の輪読と討論(1)
- 第4回 主要文献の輪読と討論(2)
- 第5回 主要文献の輪読と討論(3)
- 第6回 主要文献の輪読と討論(4)
- 第7回 中間的まとめ
- 第8回 研究の報告と討論(1)
- 第9回 研究の報告と討論(2)
- 第10回 研究の報告と討論(3)
- 第11回 研究の報告と討論(4)
- 第12回 研究の報告と討論(5)
- 第13回 研究の報告と討論(6)
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

文献輪読の回には、あらかじめ指定した文献を読んだ上で臨むこととし、報告担当者は発表資料(レジュメ)を作成する。研究の進捗状況の報告については、受講者各自がレジュメを作成して臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した文献について、目を通した上で授業に臨むこと。

教科書

とくになし

参考書

適宜、指示する

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

とくになし

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	三浦 太郎	

授業の概要・到達目標

図書館情報学分野には、コア領域として、図書館情報学基礎、情報利用者、情報資源組織化、情報メディア、情報サービス、情報システム、経営管理、デジタル情報といったテーマがある。この授業では、こうしたテーマについて研究論文を執筆しようとする大学院生を対象に、基本文献を輪読したり、受講者各自から研究テーマを報告してもらう。輪読する文献は、受講生のテーマを考慮の上、相談して決定し、その内容に基づき、各回、全体で討議を行う。

図書館情報学分野の各テーマの特色を理解し、受講者自身の論文執筆を具体化することを目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 研究テーマについて(1)
- 第3回 研究テーマについて(2)
- 第4回 先行研究文献について(1)
- 第5回 先行研究文献について(2)
- 第6回 基本文献の輪読と討論(1)
- 第7回 基本文献の輪読と討論(2)
- 第8回 基本文献の輪読と討論(3)
- 第9回 基本文献の輪読と討論(4)
- 第10回 研究の進捗報告(1)
- 第11回 研究の進捗報告(2)
- 第12回 研究の進捗報告(3)
- 第13回 研究の進捗報告(4)
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

文献輪読の回には、あらかじめ指定した文献を読んだ上で臨むこととし、報告担当者は発表資料(レジュメ)を作成する。研究の進捗状況の報告については、受講者各自がレジュメを作成して臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した文献について、目を通した上で授業に臨むこと。

教科書

とくになし

参考書

適宜、指示する

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

とくになし

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	三浦 太郎	

授業の概要・到達目標

図書館情報学分野に関連するテーマについて、研究論文を執筆しようとする大学院生を対象に、主要文献を輪読したり、受講者各自から研究テーマを報告してもらう。輪読する文献は、受講生のテーマを考慮の上、相談して決定し、その内容に基づき、各回、全体で討議を行う。

図書館情報学分野に関連するテーマの特色を理解し、受講者自身が書き進める論文の質的向上を図る。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究テーマについて
- 第3回 主要文献の輪読と討論(1)
- 第4回 主要文献の輪読と討論(2)
- 第5回 主要文献の輪読と討論(3)
- 第6回 主要文献の輪読と討論(4)
- 第7回 中間的まとめ
- 第8回 研究の報告と討論(1)
- 第9回 研究の報告と討論(2)
- 第10回 研究の報告と討論(3)
- 第11回 研究の報告と討論(4)
- 第12回 研究の報告と討論(5)
- 第13回 研究の報告と討論(6)
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

文献輪読の回には、あらかじめ指定した文献を読んだ上で臨むこととし、報告担当者は発表資料(レジュメ)を作成する。研究の進捗状況の報告については、受講者各自がレジュメを作成して臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した文献について、目を通した上で授業に臨むこと。

教科書

とくになし

参考書

適宜、指示する

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

とくになし

博士後期課程修了要件

- 1 学位論文作成のため、各自の研究主題に応じ、指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。
- 2 研究論文指導ⅠからⅢ（A・B各2単位）、特別演習AからF（各2単位）、合わせて24単位を必修とする。
- 3 共通選択科目の総合地域特殊研究においては、8単位を上限に修得することができる。
- 4 指導教員が研究指導上必要と認めるときは、博士前期課程授業科目を履修させることがある。
- 5 指導教員が必要と認めた場合には、別表1の2に規定する研究科間共通科目を履修することができる。

授業科目及び担当者

共通選択科目

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	担 当 者
	講義	演習			
文化継承学ⅠA	2		1・2・3年	春学期	牧野淳司*、中村友一、佐々木憲一（秋のみ）
文化継承学ⅠB	2		1・2・3年	秋学期	
文化継承学ⅡA	2		1・2・3年	春学期	豊川浩一*、竹内栄美子、矢内賢二、大畑裕嗣
文化継承学ⅡB	2		1・2・3年	秋学期	
文化継承学ⅢA	2		1・2・3年	半 期	（本年度休講）
文化継承学ⅢB	2		1・2・3年	半 期	
総合地域特殊研究ⅠA （東北日本）	2		1・2・3年	集 中	専任教授 石川日出志
総合地域特殊研究ⅠB （南西日本）	2		1・2・3年	半 期	（本年度休講）
総合地域特殊研究ⅡA （慶北大学校）	2		1・2・3年	半 期	（本年度休講）
総合地域特殊研究ⅡB （高麗大学校）	2		1・2・3年	集 中	専任教授 博士(文学) 牧野淳司
総合地域特殊研究ⅡC （中国）	2		1・2・3年	集 中	専任教授 石川日出志

*世話人

日本文学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	担当者
	講義	演習			
必修科目					
研究論文指導 I A		2	1年	春学期	専任教授 専任教授 博士(文学) 専任教授 博士(文学) 専任教授 博士(文学) 専任教授 博士(人文科学) 専任教授 博士(文学) 専任准教授 博士(文学) 専任准教授 博士(文学) 小野正弘 山崎健司 杉田昌彦 牧野淳司 竹内栄美子 生方智子 湯浅幸代 田口麻奈
研究論文指導 I B		2	1年	秋学期	
研究論文指導 II A		2	2年	春学期	
研究論文指導 II B		2	2年	秋学期	
研究論文指導 III A		2	3年	春学期	
研究論文指導 III B		2	3年	秋学期	
日本文学特別演習 A		2	1・2・3年	集中	
日本文学特別演習 B		2	1・2・3年	集中	
日本文学特別演習 C		2	1・2・3年	集中	
日本文学特別演習 D		2	1・2・3年	集中	
日本文学特別演習 E		2	1・2・3年	集中	
日本文学特別演習 F		2	1・2・3年	集中	

英文学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	担当者
	講義	演習			
必修科目					
研究論文指導 I A		2	1年	春学期	専任教授 専任教授 Ph.D. 専任教授 Ph.D. 専任教授 博士(文学) 専任教授 Ph.D. 専任教授 Ph.D. 専任准教授 野田学 (2024年度特別研究) 大山るみこ サトウ, ゲイルK. 梶原照子 石井透 竹内理矢 (2024年度在外研究) 久保田俊彦
研究論文指導 I B		2	1年	秋学期	
研究論文指導 II A		2	2年	春学期	
研究論文指導 II B		2	2年	秋学期	
研究論文指導 III A		2	3年	春学期	
研究論文指導 III B		2	3年	秋学期	
英文学特別演習 A		2	1・2・3年	集中	
英文学特別演習 B		2	1・2・3年	集中	
英文学特別演習 C		2	1・2・3年	集中	
英文学特別演習 D		2	1・2・3年	集中	
英文学特別演習 E		2	1・2・3年	集中	
英文学特別演習 F		2	1・2・3年	集中	

仏文学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	担当者
	講義	演習			
必修科目					
研究論文指導 I A		2	1年	春学期	専任教授 専任教授 専任教授 文学博士 専任教授 学術博士 専任教授 博士(文学) 専任准教授 博士(フランス文学・文明) 合田正人 (2024年度秋学期在外研究) 小島久和 田母神顯二郎 根本美作子 谷口亜沙子 奥香織
研究論文指導 I B		2	1年	秋学期	
研究論文指導 II A		2	2年	春学期	
研究論文指導 II B		2	2年	秋学期	
研究論文指導 III A		2	3年	春学期	
研究論文指導 III B		2	3年	秋学期	
仏文学特別演習 A		2	1・2・3年	集中	
仏文学特別演習 B		2	1・2・3年	集中	
仏文学特別演習 C		2	1・2・3年	集中	
仏文学特別演習 D		2	1・2・3年	集中	
仏文学特別演習 E		2	1・2・3年	集中	
仏文学特別演習 F		2	1・2・3年	集中	

独 文 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配 当 学 年	開 講 期	担 当 者
	講 義	演 習			
必修科目					
研 究 論 文 指 導 I A		2	1 年	春 学 期	専任教授 専任教授 専任教授 専任教授 専任教授 Dr.phil. 博士(文学) 博士(文学) マンデラルツ,ミヒャエル 富 重 与志生 岡 本 和 子 福 本 具 子 渡 辺 学 斉 新 本 史 斉
研 究 論 文 指 導 I B		2	1 年	秋 学 期	
研 究 論 文 指 導 II A		2	2 年	春 学 期	
研 究 論 文 指 導 II B		2	2 年	秋 学 期	
研 究 論 文 指 導 III A		2	3 年	春 学 期	
研 究 論 文 指 導 III B		2	3 年	秋 学 期	
独 文 学 特 別 演 習 A		2	1・2・3 年	集 中	
独 文 学 特 別 演 習 B		2	1・2・3 年	集 中	
独 文 学 特 別 演 習 C		2	1・2・3 年	集 中	
独 文 学 特 別 演 習 D		2	1・2・3 年	集 中	
独 文 学 特 別 演 習 E		2	1・2・3 年	集 中	
独 文 学 特 別 演 習 F		2	1・2・3 年	集 中	

演 劇 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配 当 学 年	開 講 期	担 当 者
	講 義	演 習			
必修科目					
研 究 論 文 指 導 I A		2	1 年	春 学 期	専任教授 専任教授 専任教授 専任教授 専任准教授 博士(文学) 伊 藤 真 紀 井 上 優 二 矢 内 賢 子 大 林 のり子 伊 藤 愉 (2024年度海外特別研究)
研 究 論 文 指 導 I B		2	1 年	秋 学 期	
研 究 論 文 指 導 II A		2	2 年	春 学 期	
研 究 論 文 指 導 II B		2	2 年	秋 学 期	
研 究 論 文 指 導 III A		2	3 年	春 学 期	
研 究 論 文 指 導 III B		2	3 年	秋 学 期	
演 劇 学 特 別 演 習 A		2	1・2・3 年	集 中	
演 劇 学 特 別 演 習 B		2	1・2・3 年	集 中	
演 劇 学 特 別 演 習 C		2	1・2・3 年	集 中	
演 劇 学 特 別 演 習 D		2	1・2・3 年	集 中	
演 劇 学 特 別 演 習 E		2	1・2・3 年	集 中	
演 劇 学 特 別 演 習 F		2	1・2・3 年	集 中	

史学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	担当者		
	講義	演習					
必修科目							
研究論文指導ⅠA		2	1年	春学期	専任教授 専任教授	博士(史学) 博士(文学)	山田 朗 落合 弘樹 (2024年度特別研究)
研究論文指導ⅠB		2	1年	秋学期			
研究論文指導ⅡA		2	2年	春学期	専任教授 専任教授	博士(文学) 博士(工学)	高橋 一樹 松山 恵
研究論文指導ⅡB		2	2年	秋学期			
研究論文指導ⅢA		2	3年	春学期	専任准教授 専任准教授	博士(史学) 博士(史学)	野尻 泰弘 中村 友一
研究論文指導ⅢB		2	3年	秋学期			
研究論文指導ⅢA		2	3年	春学期	専任教授 専任教授	博士(史学) 博士(文学)	清水 有子 高田 幸男 江川 ひかり (2024年度特別研究)
研究論文指導ⅢB		2	3年	秋学期			
史学特別演習A		2	1・2・3年	集中	専任教授 専任教授	博士(史学) 博士(文学)	高村 武幸 櫻井 智美
史学特別演習B		2	1・2・3年	集中			
史学特別演習C		2	1・2・3年	集中	専任教授 専任准教授	Dr.phil. 博士(文学)	水野 博子 青谷 秀紀
史学特別演習D		2	1・2・3年	集中			
史学特別演習E		2	1・2・3年	集中	専任教授 専任教授	博士(史学) Ph.D.	古山 夕城 石川 日出志 阿部 芳郎 佐々木 憲一 (2024年度春学期在外研究)
史学特別演習F		2	1・2・3年	集中			
史学特別演習E		2	1・2・3年	集中	専任教授	博士(史学)	藤山 龍造
史学特別演習F		2	1・2・3年	集中	専任教授	博士(史学)	若狭 徹

地理学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	担当者		
	講義	演習					
必修科目							
研究論文指導ⅠA		2	1年	春学期	専任教授 専任教授 専任教授 専任教授 専任教授 専任教授 専任教授 専任教授 専任教授 専任教授 専任教授 専任教授	博士(理学) 理学博士 博士(文学) 博士(学術) 博士(社会学)	川口 太郎 梅本 亨樹 大城 直樹 中澤 高志 荒又 美陽
研究論文指導ⅠB		2	1年	秋学期			
研究論文指導ⅡA		2	2年	春学期			
研究論文指導ⅡB		2	2年	秋学期			
研究論文指導ⅢA		2	3年	春学期			
研究論文指導ⅢB		2	3年	秋学期			
地理学特別演習A		2	1・2・3年	集中			
地理学特別演習B		2	1・2・3年	集中			
地理学特別演習C		2	1・2・3年	集中			
地理学特別演習D		2	1・2・3年	集中			
地理学特別演習E		2	1・2・3年	集中			
地理学特別演習F		2	1・2・3年	集中			
選択科目							
地理学特別講義ⅠA	2		1・2・3年	春学期	専任教授	博士(理学)	川口 太郎
地理学特別講義ⅠB	2		1・2・3年	秋学期	専任教授	博士(文学)	大城 直樹

臨床人間学専攻

授業科目	単位	配当 学年	開講期	担当者	
	講義				演習
必修科目					
研究論文指導ⅠA		2	1年	春学期	専任教授 博士(心理学) 岡 安 孝 弘 専任教授 博士(教育学) 諸 富 祥 彦 専任教授 博士(人間学) 伊 藤 直 樹 専任教授 博士(心理学) 高 瀬 由 嗣 専任教授 博士(コミュニティ福祉学) 加 藤 尚 子 専任准教授 博士(教育学) 佐々木 掌 子 専任教授 大平 畑 裕 嗣 専任教授 内 山 藤 朝 紀 専任准教授 博士(社会学) 昔 農 英 明 専任教授 小 齋 林 泰 則 専任教授 齋 藤 野 和 子 専任教授 博士(図書館情報学) 青 柳 川 英 治 専任教授 平 川 景 夫 専任教授 博士(歴史学) 駒 見 和 達 専任教授 博士(教育学) 山 下 根 上 専任准教授 博士(教育学) 関 井 上 宏 由 専任准教授 Ph.D. 井 上 朗 佳
研究論文指導ⅠB		2	1年	秋学期	
研究論文指導ⅡA		2	2年	春学期	
研究論文指導ⅡB		2	2年	秋学期	
研究論文指導ⅢA		2	3年	春学期	
研究論文指導ⅢB		2	3年	秋学期	
臨床人間学特別演習A		2	1・2・3年	集 中	
臨床人間学特別演習B		2	1・2・3年	集 中	
臨床人間学特別演習C		2	1・2・3年	集 中	
臨床人間学特別演習D		2	1・2・3年	集 中	
臨床人間学特別演習E		2	1・2・3年	集 中	
臨床人間学特別演習F		2	1・2・3年	集 中	

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	小野 正弘	

授業の概要・到達目標

学術論文の執筆。具体的な学術論文を完成させることが、到達目標となる。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える（どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める）。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

国語学の文学・語彙・文法研究

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	博士(文学)	山崎 健司

授業の概要・到達目標

学術論文の執筆。
質の高い論文を書き上げることが到達目標。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって単位を与える（どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める）。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

論文の公表ないし研究発表に際しては、事前に担当教員から指導を受けること。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究対象となる作品はもとより、その周辺の作品に対する目配りも怠らないこと。
作品に対しては、特に一語一語のもつニュアンスをとらえるように努めること。
先行研究をじゅうぶんに踏まえ、自分の立場を見定めること。

教科書

参考書

成績評価の方法

発表された成果を評価する。

その他

指導テーマ

日本古代文学(萬葉集の諸問題[歌人論、作品論、編纂論、本文研究、註釈史など]、懐風藻・記紀・風土記の諸問題、いわゆる国風暗黒時代の文学、古今集時代、歌物語・日記、ジャンル意識の発生など)

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	杉田 昌彦	

授業の概要・到達目標

研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績を評価し、特別演習A～Fの12単位を付与する。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える（どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める）。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

特別演習A～Fのそれぞれに対応する論文ならびに研究発表について、万全の準備・調査をし、執筆および発表に臨むこと。

教科書**参考書****成績評価の方法**

成果発表を評価する。

その他**指導テーマ**

日本近世文学

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	牧野 淳司	

授業の概要・到達目標**授業内容**

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える（どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める）。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書**参考書****成績評価の方法**

成果発表を評価する。

その他**指導テーマ**

日本中世文学(軍記・和歌・説話・仏教文学・歴史物語など)

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 竹内 栄美子		

授業の概要・到達目標

博士論文の作成に向けての助言などを行うので、提出できるように努力する。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文執筆ならびに研究発表をおこなってゆく。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える(どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める)。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

研究計画を立て、1年に1～2本の論文が執筆できるようにする。学会での口頭発表も積極的にしてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習および事後学習をおこなうこと。

教科書

使用しない。

参考書

適宜指示する。また各自で収集し、読み、自分の研究に役立てること。

成績評価の方法

論文や研究発表等の業績による。

その他

指導テーマ

近代日本における文学や思想を中心とした研究。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学) 生方 智子		

授業の概要・到達目標

研究発表や論文を公表するための研究指導を行うことが授業の概要である。特別演習A～Fの12単位を全て習得し、博士学位請求論文を執筆する資格を得ることを到達目標とする。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える(どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める)。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

公表された各業績について、それぞれ、審査の上で単位を与えていく。該当する業績がない場合には単位は認められない。研究計画を立てた上で履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1) 文学テキストを詳細に分析するための読解技術、(2) 文化状況を明らかにするための調査能力、(3) 批評性を備えた問題設定を立てる力を身に着けることを目標に、自分のテーマに即して学習を進めて研究成果に反映させていくこと。また、研究内容のみならず、プレゼンテーションの実践力と論文を書く力について指導を受けた際には、復習によって着実に能力を高めていくことを求める。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

個別指導を行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

文学作品に描かれている視覚性・身体性(ジェンダー・セクシュアリティを含む)を分析し、文学を通して歴史的に形成される人間の生の経験を検証する。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(文学) 湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

学術論文の執筆。外部査読を通過する質の高い論文を書き上げる。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える(どのような業績に、こういった単位を与えるかは、別に内規を定める)。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意**準備学習(予習・復習等)の内容**

自分のテーマに沿った先行研究をおさえる。

教科書**参考書****成績評価の方法**

成果発表を評価する。

その他**指導テーマ**

日本古代後期文学を中心とする。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

博論の執筆に向けて指導をおこなう。

授業内容

博論の執筆に向けて指導をおこなう。

履修上の注意**準備学習(予習・復習等)の内容**

履修者は博論の提出に向けて論文執筆や口頭発表をおこなう。

教科書**参考書****成績評価の方法**

公開された研究成果を評価する。

その他

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	野田 学	

授業の概要・到達目標

概要：学位論文作成に向けた訓練・指導
到達目標：学位論文の執筆に必要な作業を、段階に応じて確認、実行する。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

執筆に向けての構想、準備、そして中間的論文の呈示を行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

執筆に向けての構想、そして中間的論文を準備しておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

英国演劇、言語身体論、ならびに演技受容史。その他、初期近代から現代までの英国演劇（演技、演出論、演技身体論）身体受容をめぐる科学史、および18世紀英国経験主義を中心とした言語哲学。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Ph.D.	大山 るみこ	

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Study Skills, 特にリサーチペーパー執筆手順をしっかりとおさえておくこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

マルチモーダルテキスト分析(文字と図・映像の相関性)、社会・文化記号論、文体論。研究対象テキストは、英語文学作品、メディアテキスト、映画、絵画など。

科目ナンバー：(AL) IND712E			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Ph.D.	サトウ, ゲイルK.	

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

Asian American Literature
Transpacific War Memory (WW II)

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	梶原 照子	

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

なぜ作家は文学作品を書くのか。そして、私達読者にとって文学作品を読むことにはどのような意味があるのか。そもそも、文学とは何か。日常生活のなかでのメモ書きや報告文と文学テキストの違いはどこにあるのか。このような根本的な問題を問いながら、テキストを精読することに重点を置く。専門領域はアメリカ文学、とくにアメリカ詩。主にアメリカン・ルネサンスからモダニズムを射程に捉え、文学ジャンルの成立(詩/散文、叙事詩/抒情詩、近代/現代小説)から、政治と詩学が融合する文学について研究する。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Ph.D.	竹内 理矢	

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

アメリカ文学、とくに20世紀アメリカ小説。アメリカ南部文学、モダニズム文学、失われた世代、たとえば、ウィリアム・フォークナー、アーネスト・ヘミングウェイ、F.スコット・フィッツジェラルドなど。文学それ自体を研究対象とし、読むこと、論じることの意義を問いながら、歴史的・文化的な文脈のなかで、人間存在と世界のありようをとらえていく。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Ph.D.	石井 透	

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導を目的とする。

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 研究課題の設定
- 第3回 研究計画概要作成
- 第4回 先行研究等の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 理論言語学の最新動向検討(1)
- 第7回 理論言語学の最新動向検討(2)
- 第8回 比較統語論の最新動向検討(1)
- 第9回 比較統語論の最新動向検討(2)
- 第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
- 第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
- 第12回 博士論文要旨・章立て等検討
- 第13回 今後に向けて研究計画の検証
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

研究発表、研究論文はコンスタントに発表する努力をして下さい。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

統語理論・比較統語論

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授	久保田 俊彦	

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書**参考書****課題に対するフィードバックの方法**

授業内で講評する。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他**指導テーマ**

計量的な言語研究

科目ナンバー：(AL) IND712J			
仏文学専攻	備考		
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	合田 正人	

授業の概要・到達目標

研究者・教育者として独り立ちするために必要な知識、語学力、読解力、論文執筆能力、説明能力などを身につけることをめざす。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

一人前の研究者にふさわしい高密度な研究態勢を日々維持すること。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

みずから可能な限り詳細な文献調査をおこなうこと。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他**指導テーマ**

西洋思想史・近代ユダヤ思想

科目ナンバー：(AL) IND712J			
仏文学専攻		備考	
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 小島 久和		

授業の概要・到達目標

本演習では、学位論文作成の各ステップを明確にし、論文を章建ての内的関連に従って、少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。

授業内容

本演習では、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

参考文献の一覧表をできる限り早く作成し、論文作成に必要な文献を丁寧に読むこと。
先行研究は自説の独自性を明らかにするために使うこと。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

成績評価の方法

成果発表の内容を客観的に評価する。

その他

指導テーマ

フランス・ルネサンス文学
ルネサンス期の新プラトン主義思想

科目ナンバー：(AL) IND712J			
仏文学専攻		備考	
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 文学博士 田母神 顯二郎		

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

フランス近現代詩

科目ナンバー：(AL) IND712F			
仏文学専攻	備考		
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 学術博士	根本	美作子

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

旅行文学を読みながら、個人を考える。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
仏文学専攻	備考		
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	谷口	亜沙子

授業の概要・到達目標

本演習では、段階的に学位論文を作成するための研究指導を行う。

授業内容

研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

なるべく早い段階で参考文献の一覧を作成し、丹念に文献を読みこむこと。先行研究は、自説の独自性を明らかにするために使うこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

20～21世紀のフランス文学・表象文化に関するもの

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
仏文学専攻	備考		
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(フランス文学・文明) 奥 香織		

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業時あるいは個別にフィードバック（コメント）を行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

近代フランス演劇、演劇美学、芸術と社会
18世紀フランス文学・芸術・文化

科目ナンバー：(AL) IND712G			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Dr.phil マンデラルツ, ミヒャエル		

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

Offenes Kolloquium zu Forschungsfragen

科目ナンバー：(AL) IND712J			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	富重	与志生

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

特にカール・フィリップ・モーリッツ、レッシングをはじめとし、ルーモールらの料理文学、ダダイズム以降の芸術・文学を研究。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	博士(文学)	岡本 和子

授業の概要・到達目標

学位論文作成の指導を行う。
博士学位請求論文の完成を目標とする。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

問いの立て方、論述の構成、形式等によく注意しながら、多くの二次文献を読むこと。
自分が書いたものを客観的に何度も読み直すこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

19世紀から20世紀前半にかけてのドイツ文学・芸術理論、ベルリン文学

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	福間	具子

授業の概要・到達目標

学位論文作成の指導を行う。最終的には博士学位請求論文執筆が出来るようにする。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

現代ドイツ語詩、言語哲学、ユダヤ文化

科目ナンバー：(AL) IND712J			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授		渡辺 学

授業の概要・到達目標

学位論文作成の指導を行う。
博士学位請求論文の完成を目標とする。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

問いの立て方、論述の構成、形式等によく注意しながら、多くの二次文献を読むこと。
自分が書いたものを客観的に何度も読み直し書き直すこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日独言語文化研究、メディア言語学・社会言語学を中心とするドイツ語学、慣用句・ことわざの日独対照研究、異文化コミュニケーション、文体論・スタイル論。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	新本 史斉	

授業の概要・到達目標

学位論文作成の指導を行う。
博士学位請求論文の完成を目標とする。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

入念に準備をして口頭発表にのぞみ、発表後はその成果を十分に執筆論文に反映させること。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

20世紀スイス文学、ヨーロッパ越境文学、翻訳論

科目ナンバー：(AL) ART732J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	伊藤 真紀	

授業の概要・到達目標

各自の研究テーマについて、さらに調査、研究をすすめることが出来るように配慮しつつ進行したい。履習者は共通の検討課題を含めて報告・発表を行うものとする。本演習における発表のための準備を通して、各自の課題を再検討するとともに、聞き手に効率よくポイントを示すことが出来るよう、研究発表のスキルについても学ぶ。

学位論文作成に向けて、それぞれのテーマや、進捗状況に即した形で、論文を書き進めていく過程を具体的に学ぶことになるが、論文の章立てのみならず、図版、写真等により、その実証性を高め、説得力のあるものにする方法もそこには含まれる。研究指導の結果、論文の公表、研究発表の業績により、単位を付与する。その積み重ねにより、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与えるものとする。

授業内容

演劇学特別演習においては、学位論文作成に向けて、それぞれのテーマや、進捗状況に即した形で、論文を書き進めていく過程を具体的に学ぶことになる。論文の章立てのみならず、図版、写真等により、その実証性を高め、説得力のあるものにする方法もそこには含まれる。研究指導の結果、論文の公表、研究発表の業績により、単位を付与する。その積み重ねにより、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与えるものとする。

履修上の注意

論文執筆には多くの時間をさくべきであるが、口頭発表についても、学会や特別講義等の機会を積極的に利用しながら、より明解に問題意識を伝えることができるよう努力して欲しい。

準備学習（予習・復習等）の内容

履修者は、それぞれの課題に取り組むことになるが、自分の決めたテーマだけに固執せず、常に視野を広くもつことが重要である。自分の得意分野以外の領域については、分からない語句があれば、各専門分野の辞書にあたるなどして、調べること。

学会やシンポジウム等に参加した折には、最新の研究の情報等を自分なりに整理しておくこと。

教科書

特に指定しない。授業時間内にプリントを配布する。

参考書

個人の研究テーマに合わせて、その都度紹介していく。

課題に対するフィードバックの方法

成果発表について、講義をつうじて、改善のヒント等をコメントする。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

演劇学は、他領域と重なる部分が多い。常に広い視野をもって考察することを心がけてほしい。

指導テーマ

日本の近代演劇を中心に考察する。

科目ナンバー：(AL) ART732J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	井上 優	

授業の概要・到達目標

授業内容

演劇学特別演習においては、学位論文作成に向けて、その過程をそれぞれのテーマや、進捗状況に即した形で、論文を書き進めていく過程を具体的に学ぶことになる。論文の文章のみならず、図版、写真類により、その実証性を高め、説得力を高めていく方法等もそこには含まれる。研究指導の結果、論文の公表、研究発表の業績により、単位を付与する。その積み重ねにより、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与えるものとする。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

西洋演劇史 演劇理論

科目ナンバー：(AL) ART732J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	博士(文学)	矢内 賢二

授業の概要・到達目標

学位論文の完成に向けて、各自の問題意識や執筆の進度に即し、テーマと仮説の設定、論旨の構成、資料の扱い方、実証・論証の方法、表記・書式、口頭発表の要領等について具体的な指導を行う。

的確明瞭で論理的な記述・表現による論文や発表を通じて、学術的意義のある議論や主張を提示できる能力を身に付けることを目標とする。

授業内容

演劇学特別演習においては、学位論文作成に向けて、その過程をそれぞれのテーマや、進捗状況に即した形で、論文を書き進めていく過程を具体的に学ぶことになる。論文の文章のみならず、図版、写真類により、その実証性を高め、説得力を高めていく方法等もそこには含まれる。研究指導の結果、論文の公表、研究発表の業績により、単位を付与する。その積み重ねにより、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与えるものとする。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時進捗状況の報告を求めらるので、効果的なプレゼンテーションの方法に留意しつつ、資料調査と論文執筆を継続的に行うこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

報告・発表50%，論文執筆50%。

その他

指導テーマ

近世・近代の日本演劇

科目ナンバー：(AL) ART732J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	大林 のり子	

授業の概要・到達目標

演劇学特別演習においては、学位論文作成に向けて、その過程をそれぞれのテーマや、進捗状況に即した形で、論文を書き進めていく過程を具体的に学ぶことになる。

授業内容

文献や資料の扱い方、論文の文章についての指導。
論文作成にあたり、その実証性を高め、説得力を高めていく方法等も習得していく。
論文の文章のみならず、図版、写真類により、その実証性を高め、説得力を高めていく方法等もそこには含まれる。研究指導の結果、論文の公表、研究発表の業績により、単位を付与する。その積み重ねにより、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与えるものとする。

履修上の注意

演習については、基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて、必要な資料収集および講読を進めていく。英語のみならずドイツ語の文献にも目を配っていくこともある。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文・研究発表のために必要な資料や文献について、履修者各々が情報収集に務めること。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

ドイツ語圏の演出家マックス・ラインハルトとその周辺の演劇を協働性という視点から再考する。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	博士(史学)	山田 朗

授業の概要・到達目標

世界史的な視野から日本現代史、とりわけ1920年代から1970年代までの政治・軍事・天皇制・植民地・戦争責任などの諸問題を検討する。
学術論文・研究発表の完成を到達目標とする。

授業内容

研究指導の方法
本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

受講者は公表する学術論文・研究発表に関して必ず事前に報告すること。研究発表の場合、事後にもどのような質疑応答が行われたのかを報告すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者は、必ず事前に論点を整理し、レジュメに基づき説明すること。

教科書

教科書は、必要に応じて個別に指定する。

参考書

参考書は、必要に応じて個別に指定する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのレポート機能を使って提出したレポート等は添削・採点の上、Oh-ol Meijiで返却する。

成績評価の方法

成績は、公表された学術論文の掲載誌のグレード、研究発表をおこなった学会・研究会の規模・グレードによって点数化して評価する。

その他

指導テーマ

日本現代の政治史、天皇制研究、歴史教育論

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	落合 弘樹	

授業の概要・到達目標

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。

授業内容

研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

学位論文作成を前提としているので、最先端の研究史を把握し、積極的に学術誌に投稿するよう心掛けること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告は入念な準備のうえ行うこと。報告担当者以外も討論にすすんで加わること。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本近代史(幕末維新)

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	高橋 一樹	

授業の概要・到達目標

授業内容

研究指導の方法

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位すべてを修得した学生に対し、博士尉学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本中世史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(工学)	松山 恵	

授業の概要・到達目標

授業内容

研究指導の方法

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本近代都市史・文化史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(史学)	野尻 泰弘	

授業の概要・到達目標

博士論文の執筆を目標とする。

到達目標は、博士論文を構成するような論文・史料紹介などを学術雑誌等で公表すること、あるいはその準備をすることである。

授業内容

研究指導の方法 本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

研究史や研究動向に注意しつつ、自分の研究を進めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本近世史 村落史 地域史

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

授業内容

研究指導の方法

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本古代史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(史学) 清水 有子		

授業の概要・到達目標

16～17世紀にかけての日本史上の政治および外交問題を扱う。

授業内容

研究指導の方法 本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

受講者は研究の公表（論文の投稿、学会等での発表）に際して、事前に必ず報告すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前にレジュメを作成し、議論に備えること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

近世日本対外交渉史，織豊期政治史，キリシタン史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	高田 幸男	

授業の概要・到達目標

授業の概要

博士論文のテーマ設定、論証のプロセスなどについて助言と指導をおこない、履修者の研究テーマに合わせた史料を講読する。また、履修者には年数回の研究発表を課し、博士論文作成の進捗状況を検証する。

到達目標

博士論文の完成。

授業内容

この特別演習は博士後期課程に在籍するものが、計画に従い段階を踏んで博士論文を完成させることを支援する目的で開講する。具体的には以下の段取りで進められる。

1. 在籍者は初年度中に、指導教員と密接な関係を取り博士論文の正式題目と全体構成（章立てとその概要）を固め、指導教員に提出する。
 2. その構成と計画にもとづいて、研究発表および論文発表に努める。成果の結果は毎期末に文書の形で指導教員に報告し、了承と助言を得る。
 3. 毎年夏の定例専修大学院合宿において、研究の全体構想と具体的な進展状況を報告する。
 4. 特別演習の単位は、海外留学および現地フィールドワーク・語学実習、海外学会報告にも適用する。
 5. 博士論文の提出は、特別演習12単位の取得の上に、専修が規定する「博士学位請求論文（課程博士）受付に関する内規」の条件を満たすものとする。
 6. 博士論文の提出にあたっては、上記内規の「付記」にしたがい、前年度末にはほぼ固まった博士論文の構成と各章の概要を提出し、専修教員全員の面談審査を通過しなければならない。
- (1)中国近現代史研究とは
 - (2)研究課題の設定
 - (3)研究計画概要の作成
 - (4)中国近現代史研究の諸潮流の検討
 - (5)文献リストの作成
 - (6)中国近代教育史研究の動向検討
 - (7)中国地域社会史研究の動向検討
 - (8)史料状況と収集利用方法の検討
 - (9)オーラルヒストリーなどの検討
 - (10)学会発表・雑誌論文の予備報告
 - (11)学会発表・雑誌論文の結果再検討
 - (12)博士論文要旨・章立て等の検討
 - (13)研究課題の検討と今後の研究計画の作成
 - (14)総括

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、発表・論文に使用する史料を熟読し、考察を加えたレジュメとともに配付する。

教科書

なし

参考書

『シリーズ20世紀中国史』全4巻、飯島渉ほか編、東京大学出版会。研究方法については、『21世紀の中国近現代史研究を求めて』、飯島渉・田中比呂志編、研文出版。史料については、『新史料からみる中国現代史』、高田幸男・大澤肇編、東方書店。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

中国近現代史—とくに近代教育と地域社会・政治の変容

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	江川 ひかり	

授業の概要・到達目標

博士論文のテーマ設定、論証のプロセスなどについて助言と指導をおこない、履修者の研究テーマに合わせた史料を講読する。また、履修者には年数回の研究発表を課し、博士論文作成の進捗状況を検証する。

授業内容

この特別演習は博士後期課程に在籍するものが、計画に従い段階を踏んで博士論文を完成させることを支援する目的で開講する。

具体的には以下の段取りで進められる。

1. 在籍者は初年度中に、指導教員と密接な関係を取り博士論文の正式題目と全体構成（章立てとその概要）を固め、指導教員に提出する。
2. その構成と計画にもとづいて、研究発表および論文発表に努める。成果の結果は毎期末に文書の形で指導教員に報告し、了承と助言を得る。
3. 毎年夏の定例専修大学院合宿において、研究の全体構想と具体的な進展状況を報告する。
4. 特別演習の単位は、海外留学および現地フィールドワーク・語学実習、海外学会報告にも適用する。
5. 博士論文の提出は、特別演習12単位の取得の上に、専修が規定する「博士学位請求論文（課程博士）受付に関する内規」の条件を満たすものとする。
6. 博士論文の提出にあたっては、上記内規の「付記」にしたがい、前年度末にはほぼ固まった博士論文の構成と各章の概要を提出し、専修教員全員の面談審査を通過しなければならない。

履修上の注意

指導教員と常に密接に連絡をとり合うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

オスマン帝国史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(史学)	高村 武幸	

授業の概要・到達目標

博士論文のテーマ設定、論証のプロセスなどについて助言と指導をおこない、履修者の研究テーマに合わせた史料を講読する。また、履修者には年数回の研究発表を課し、博士論文作成の進捗状況を検証する。

授業内容

この特別演習は博士後期課程に在籍するものが、計画に従い段階を踏んで博士論文を完成させることを支援する目的で開講する。

具体的には以下の段取りで進められる。

1. 在籍者は初年度中に、指導教員と密接な関係を取り博士論文の正式題目と全体構成(章立てとその概要)を固め、指導教員に提出する。
2. その構成と計画にもとづいて、研究発表および論文発表に努める。成果の結果は毎期末に文書の形で指導教員に報告し、了承と助言を得る。
3. 毎年夏の定例専修大学院合宿において、研究の全体構想と具体的な進展状況を報告する。
4. 特別演習の単位は、海外留学および現地フィールドワーク・語学実習、海外学会報告にも適用する。
5. 博士論文の提出は、特別演習12単位の取得の上に、専修が規定する「博士学位請求論文(課程博士)受付に関する内規」の条件を満たすものとする。
6. 博士論文の提出にあたっては、上記内規の「付記」にしたがい、前年度末にはほぼ固まった博士論文の構成と各章の概要を提出し、専修教員全員の面談審査を通過しなければならない。

履修上の注意

指導教員と常に密接に連絡をとり合うこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

中国古代史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美	

授業の概要・到達目標

博士論文のテーマ設定、論証のプロセスなどについて助言と指導をおこない、履修者の研究テーマに合わせた史料を講読する。また、履修者には年数回の研究発表を課し、博士論文作成の進捗状況を検証する。

授業内容

この特別演習は博士後期課程に在籍するものが、計画に従い段階を踏んで博士論文を完成させることを支援する目的で開講する。

具体的には以下の段取りで進められる。

1. 在籍者は初年度中に、指導教員と密接な関係を取り博士論文の正式題目と全体構成(章立てとその概要)を固め、指導教員に提出する。
2. その構成と計画にもとづいて、研究発表および論文発表に努める。成果の結果は毎期末に文書の形で指導教員に報告し、了承と助言を得る。
3. 毎年夏の定例専修大学院合宿において、研究の全体構想と具体的な進展状況を報告する。
4. 特別演習の単位は、海外留学および現地フィールドワーク・語学実習、海外学会報告にも適用する。
5. 博士論文の提出は、特別演習12単位の取得の上に、専修が規定する「博士学位請求論文(課程博士)受付に関する内規」の条件を満たすものとする。
6. 博士論文の提出にあたっては、上記内規の「付記」にしたがい、前年度末にはほぼ固まった博士論文の構成と各章の概要を提出し、専修教員全員の面談審査を通過しなければならない。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

モンゴル帝国史、宋元時代史、中国近世史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	豊川 浩一	

授業の概要・到達目標

授業内容

学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

ロシア近代史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

博士論文のテーマ設定、史料収集、構成などについて助言と指導を行う。履修者のテーマを考慮して、文献の講読や口頭発表を行う。最終的な到達目標は博士論文の完成であり、それに向けた準備支援を行う。

授業内容

学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後の精査を怠らないこと。

教科書

なし。

参考書

オットー・パウアー『オーストリア革命』早稲田大学出版部、1989年；
水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

日々のディスカッションとコメント返却を通して行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する（論文執筆50%、口頭発表50%）。

その他

指導テーマ

ヨーロッパ近現代史（特にドイツ語圏）。国民、マイノリティ、差異の社会史などについて理論的考察も行う。

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	青谷 秀紀	

授業の概要・到達目標

授業内容

学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

西洋中世史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授	古山 夕城	

授業の概要・到達目標

西洋古代史の論文作成に必要となる高度な専門知識と研究視角を獲得し、当該分野の専門家として幅広くそして掘り下げた研究が可能となるレベルに到達することが目標である。

授業内容

学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

ギリシア古代史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	石川 日出志	

授業の概要・到達目標

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、考古学専修における業績の単位化基準については、別途定める。

授業内容

各自の研究課題について計画的に研究を進め、その段階ごとに研究発表を行なう。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

弥生時代および同時代の東アジアに関する考古学的研究

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	博士(史学)	阿部 芳郎

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、考古学専修における業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本考古学 縄文時代 生業活動 居住形態 遺跡形成論 実験考古学

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Ph.D.	佐々木 憲一	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、考古学専修における業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

国家形成期の理論考古学

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(史学)	藤山 龍造	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

先史考古学

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

博士學位論文執筆のために必要な指導を行う。

授業内容

学生の研究進捗状況に合わせた指導を行う。
研究の深化に合わせて課題論文を設定し、演習・指導を行う。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献の改題等を行う。

教科書

特に設定しない

参考書

その都度指示する。

成績評価の方法

演習の成果による。

その他

指導テーマ

古墳時代およびそれに並行する時代の日本列島並びに周辺地域の考古学的研究

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(理学)	川口 太郎	

授業の概要・到達目標

地理学専攻博士後期課程における研究活動を、具体的な学位請求論文執筆に結実させることを目的とし、その進捗状況を段階的に可視化していく。

授業内容

履修者は、年度初めに当該年度に達成可能と思われる研究業績ポイントに相当する単位数の本演習を履修登録する。その際、以下に示す「業績ポイント」の数値が原則として取得単位数に相当する。例えば、査読付き学会誌（『地理学評論』、『人文地理』、『地学雑誌』、『雪氷』など）に論説が受理されれば「4ポイント」が認定される。地理学における課程博士の學位論文は「査読付論文を含む3編分の内容」とされるが、本演習の総計12単位（業績ポイントで12ポイント）はそれに相当する。推奨するポイント取得計画は、1～3年次：学会口頭発表4回（4ポイント）、2～3年次：学内誌等の学術雑誌に2編（4ポイント）、2～3年次：学外の主要学会誌に1編（4ポイント）というものである。この場合、3年次に学位請求論文執筆が可能となる。

（本専攻における業績ポイントの基準）

- ・業績は全て単独または筆頭著者（筆頭報告者）であることを条件とする。
- ・学会等により学術誌の掲載内容には複数の種別がある。以下の「論文」とは、論説・総説・短報・原著論文などのまとまった内容を指す。資料・討論などの業績については、担当全教員の合議により個別に査定する。
- ・口頭発表に関しては、その内容が学会等の発表機関がオンライン化するプロシーディングス（予稿集）・アブストラクト（要旨集）等の刊行物に掲載されることが要件である。私的な「研究会・懇談会」等での発表や、学会の研究グループ集会等での発表は業績ポイントに認定されない。貴重な研究成果は、まず正式の学術大会で発表することを心がけ、私的な集会で不用意に報告することは避けること。
- a) 『地理学評論』（日本地理学会）を標準とする査読付き学会誌等の論文：4ポイント
- b) 『明治大学大学院文学研究論集』を標準とする査読付き学内誌等の論文：2ポイント
- c) 『明治大学大学院地理学研究報告』を標準とする査読無しの学内誌等の論文：1ポイント
- d) 公的な査読制度の無い専門的刊行物（単行本、商業誌、報告書など）の報文：1ポイント
- e) 日本地理学会を標準とする学会の大会・例会等における研究の口頭発表：1ポイント

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

履修者は随時論文の執筆状況を指導教員に報告、相談することが求められる。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果の発表で評価する。

その他

業績が評価対象となるか否かは、学界の慣例により判断するので、投稿・発表の前に担当者に打診すること。

指導テーマ

都市・社会地理学

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 理学博士	梅本 亨	

授業の概要・到達目標

博士後期課程における研究成果を、世界標準レベル以上の博士論文にまとめ上げることを目的とする。自然地理学における標準レベルとは、いわゆるアースサイエンス諸分野に共通する方法論である、地球(上)に展開・生起する諸々の地学的自然現象を数値的に可視化し、その時空間分布に独特のパターンを認識・記載し、その規則性を見出すという研究プロセスを完遂することに成功することである。したがって報告の主な言語は、自然科学の共通語である英語となるので、これについても指導を行う。

授業内容

博士論文の研究テーマに沿った個別の内容となる。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

博士論文たるにふさわしい内容の公表された業績（学会での口頭発表と論文）が必要である。

教科書

参考書

成績評価の方法

博士論文の審査に準ずるものとする。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	大城 直樹	

授業の概要・到達目標

地理学専攻博士後期課程における研究活動を自覚的かつ可視化させるための演習である。
その研究活動を具体的な学位請求論執筆に結実させることを目標とする。

授業内容

履修者は、年度初めに当該年度に達成可能と思われる研究業績ポイントに相当する単位数の本演習を履修登録する。その際、以下に示す「業績ポイント」の数値が原則として取得単位数に相当する。例えば、査読付き学会誌（『地理学評論』、『経済地理学年報』、『地形』、『雪氷』など）に論説が受理されれば、「4ポイント」が認定される。地理学における課程博士の学位論文は、伝統的に「査読付き論文3編分の内容」とされてきたが、本演習の総計12単位（業績ポイント12ポイント）はそれに相当するものである。

担当者の推奨するポイント取得計画は、1～3年次：学会口頭発表4回(4ポイント)、2～3年次：学内誌等の学術誌に2編(4ポイント)、3年次：学外の主要学会誌に1編(4ポイント)というものである。この場合、3年次に学位請求論文執筆が可能となる。

(本専攻における業績ポイントの基準)

- ・業績はすべて単独または筆頭著者(筆頭報告者)であることを条件とする。
- ・学会等により学術誌の掲載内容には複数の種別がある。以下の「論文」とは、論説・原著論文などのまとめた内容を指す。論説・短報・資料・討論などの業績については、担当全教員の合議により個別に査定する。
- ・口頭発表に関しては、その内容が学会等の発表機関がオンライン化するプロシーディングス(予稿集)・アブストラクト(要旨集)等の刊行物に掲載されていることが必要である。地理学関連学会等の研究者による私的な「研究会・懇談会」等での発表や、学会内の研究グループの「研究集会」等での発表は業績ポイントに認定しないので注意すること。貴重な研究成果は、まず正式な学会大会での口頭発表またはポスター発表することを心がけ、私的な集会で不用意に報告すること避けること。
- a) 『地理学評論』(日本地理学会)を標準とする査読付き学会誌等の論文:4ポイント
- b) 『明治大学大学院文学研究論集』を標準とする査読付き学内誌等の論文:2ポイント
- c) 『明治大学大学院地理学研究報告』を標準とする査読なし学内誌等の論文:1ポイント
- d) 公的査読制度のない専門的刊行物(単行本、商業誌、報告書など)の論文:1ポイント
- e) 日本地理学会を標準とする学会の大会・例会等における研究の口頭発表:1ポイント

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

業績が評価対象となるか否かは、学界の慣例により判断するので、投稿・発表の前に担当者に打診すること。

指導テーマ

文化地理学、地域表象研究、景観と場所に関する研究

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(学術)	中澤 高志	

授業の概要・到達目標

地理学専攻博士後期課程における研究活動を、具体的な学位請求執筆に結実させることを目的とし、その進捗状況を段階的に可視化するための特別演習である。担当者の研究は、平たくいえば住まいと仕事の地理学であり、生活様式を経済地理学的に検討することである。生活様式は、必然的に空間構造を伴い、地理的・歴史的固有性を帯びて組織化されている。人々は、生活様式の下で生活様式を変えながら、生きている。そのような生活様式を経済地理学的に検討するとは、いかなることであり、どのようにして可能になるのだろうか。こうした方法論的問いに対して、もとより正解はない。そこで、履修者が自分なりの回答に至る糸口を見いだすことを本演習の目標とし、浩瀚な文献を検討することでその達成を目指す。

授業内容

履修者は、年度初めに当該年度に達成可能と思われる研究業績ポイントに相当する単位数の本演習を履修登録する。その際、以下に示す「業績ポイント」の数値が原則として取得単位数に相当する。例えば、査読付き学会誌(『地理学評論』、『経済地理学年報』、『地形』、『雪氷』など)に論説が受理されれば「4ポイント」が認定される。地理学における課程博士の学位論文は、伝統的に「査読付き論文3編分の内容」とされてきたが、本演習の総計12単位(業績ポイントで12ポイント)はそれに相当するものである。

担当者の推奨するポイント取得計画は、1～3年次：学会口頭発表4回(4ポイント)、2～3年次：学内誌等の学術雑誌に2編(4ポイント)、3年次：学外の主要学会誌に1編(4ポイント)というものである。この場合、3年次に学位請求論文執筆が可能となる。(本専攻における業績ポイントの基準)

- ・業績は全て単独または筆頭著者(筆頭報告者)であることを条件とする。
- ・学会等により学術誌の掲載内容には複数の種別がある。以下の「論文」とは、論説・原著論文などのまとまった内容を指す。総説・短報・資料・討論などの業績については、担当全教員の合議により個別に査定する。
- ・口頭発表に関しては、その内容が学会等の発表機関がオーソライズするプロシーディングス(予稿集)・アブストラクト(要旨集)等の刊行物に掲載されていることが必要である。地理学関連学会員等の研究者による私的な「研究会・懇談会」等での発表や、学会内の研究グループの「研究集会」等での発表は業績ポイントに認定しないので注意すること。貴重な研究成果は、まず正式の学会大会で口頭発表またはポスター発表することを心がけ、私的な集会で不用意に報告することは避けること。
- a) 『地理学評論』(日本地理学会)を標準とする査読付き学会誌等の論文:4ポイント
- b) 『明治大学大学院文学研究論集』を標準とする査読付き学内誌等の論文:2ポイント
- c) 『明治大学大学院地理学研究報告』を標準とする査読無しの学内誌等の論文:1ポイント
- d) 公的な査読制度の無い専門的刊行物(単行本、商業誌、報告書など)の報文:1ポイント
- e) 日本地理学会を標準とする学会の大会・例会等における研究の口頭発表:1ポイント

- 第1回 履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献リストの作成とその検討
- 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第7回 日本における経済地理学方法論のまとめ
- 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第12回 英語圏における経済地理学方法論のまとめ
- 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
- 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

文献を読むことを習慣化しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

成果発表に際しては、学会口頭発表を想定した質・量を求めているので、十分な準備と振り返りが必要である。

文献を詳細かつ批判的に検討することが演習の中心であるため、取り扱う文献については、事前に十分に読み込んでおくことが求められる。

教科書

履修者の研究課題を勘案し、それに適した文献を、主として方法論の観点から選択する。

参考書

特に指定しない。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

業績が評価対象となるか否かは、学界の慣例により判断するので、投稿・発表の前に担当者に打診すること。

指導テーマ

日本における「労働の地理学」の実証的展開/世代交代に伴う大都市圏の構造変容

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(社会学)	荒又 美陽	

授業の概要・到達目標

地理学専攻博士後期課程における研究活動を、具体的な学位請求論文執筆に結実させることを目的とし、その進捗状況を段階的に可視化するための特別演習である。

授業内容

履修者は、年度初めに当該年度に達成可能と思われる研究業績ポイントに相当する単位数の本演習を履修登録する。その際、以下に示す「業績ポイント」の数値が原則として取得単位数に相当する。例えば、査読付き学会誌(『地理学評論』、『経済地理学年報』、『地形』、『雪氷』など)に論説が受理されれば「4ポイント」が認定される。地理学における課程博士の学位論文は、伝統的に「査読付き論文3編分の内容」とされてきたが、本演習の総計12単位(業績ポイントで12ポイント)はそれに相当するものである。

担当者の推奨するポイント取得計画は、1～3年次：学会口頭発表4回(4ポイント)、2～3年次：学内誌等の学術雑誌に2編(4ポイント)、3年次：学外の主要学会誌に1編(4ポイント)というものである。この場合、3年次に学位請求論文執筆が可能となる。(本専攻における業績ポイントの基準)

- ・業績は全て単独または筆頭著者(筆頭報告者)であることを条件とする。
- ・学会等により学術誌の掲載内容には複数の種別がある。以下の「論文」とは、論説・原著論文などのまとまった内容を指す。総説・短報・資料・討論などの業績については、担当全教員の合議により個別に査定する。
- ・口頭発表に関しては、その内容が学会等の発表機関がオーソライズするプロシーディングス(予稿集)・アブストラクト(要旨集)等の刊行物に掲載されていることが必要である。地理学関連学会員等の研究者による私的な「研究会・懇談会」等での発表や、学会内の研究グループの「研究集会」等での発表は業績ポイントに認定しないので注意すること。貴重な研究成果は、まず正式の学会大会で口頭発表またはポスター発表することを心がけ、私的な集会で不用意に報告することは避けること。
- a) 『地理学評論』(日本地理学会)を標準とする査読付き学会誌等の論文:4ポイント
- b) 『明治大学大学院文学研究論集』を標準とする査読付き学内誌等の論文:2ポイント
- c) 『明治大学大学院地理学研究報告』を標準とする査読無しの学内誌等の論文:1ポイント
- d) 公的な査読制度の無い専門的刊行物(単行本、商業誌、報告書など)の報文:1ポイント
- e) 日本地理学会を標準とする学会の大会・例会等における研究の口頭発表:1ポイント

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

成果発表に際しては、学会口頭発表を想定した質・量を求めているので、十分な準備と振り返りが必要である。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する(100%)。

その他

業績が評価対象となるか否かは、学界の慣例により判断するので、投稿・発表の前に担当者に打診すること。

指導テーマ

社会地理学、地誌学

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学特別講義 I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(理学)	川口 太郎	

授業の概要・到達目標

博士後期課程における研究の進捗に役立つ地理学的研究成果を紹介・議論することにより、国内はもとより国際的にも通用する研究者としての自立を促すことを目標とする。本年度は英語で執筆された研究テーマに関連する国際学会誌の論文を渉猟し、科学英語の表現に慣れるとともに、自ら英文論文を執筆する際の礎としてもらう。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 先行研究論文調査
- (3) 文献リストの作成・指導。以後、毎回最低1編の論文を紹介し、それに基づいて議論を行う。
- (4) 論文報告1
- (5) 論文報告2
- (6) 論文報告3
- (7) 論文報告4
- (8) 論文報告5
- (9) 論文報告6
- (10) 論文報告7
- (11) 論文報告8
- (12) 論文報告9
- (13) 論文報告10
- (14) 論文報告11

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

専門書、最先端の研究論文を読解し、プレゼンテーションおよびディスカッションをおこなう機会を多く設けるので、毎回の予習が必須である。

教科書**参考書**

適宜紹介する。

成績評価の方法

毎回の報告及び議論の質

その他

科目ナンバー：(AL) GEO791J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学特別講義 I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	大城 直樹	

授業の概要・到達目標

受講生の博士後期課程における研究の進捗に役立つ地理学的研究成果を紹介・議論する。このことにより、自身の研究の当該分野における意義を自覚し、国内はもとより、国際的にも通用する研究者としての自立を促すことを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献リストの作成とその検討
- 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第7回 日本における文化地理学方法論のまとめ
- 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第12回 英語圏における文化地理学方法論のまとめ
- 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
- 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

専門書、最先端の研究論文を読解し、プレゼンテーションおよびディスカッションをおこなう機会を多く設ける。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の予習が必須である。

教科書

特になし

参考書

随時指定する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の報告に対する講評。

成績評価の方法

授業での報告・発表 100%

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(心理学) 岡安 孝弘		

授業の概要・到達目標

本演習は、博士学位論文を関せさせることを目標とし、各自のテーマに関する研究計画、データ分析、論文執筆に関する指導を行う。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み重ねていくことによって、論文執筆のリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

本単位を取得するためには、自らの研究テーマに基づいて実証的な研究を行い、その成果を論文として公表することが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマを設定し、研究を遂行する上で、逐次指導を受け、研究遂行上の倫理的問題やデータ分析上の問題等に関して習熟しておくことが求められる。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

成績評価の方法

論文として刊行された業績を評価する。

その他

指導テーマ

ストレス性疾患に罹患するリスクを低減し、QOL (Quality of Life) を高めるために有効なストレスマネジメントおよびメンタルヘルス教育の方法を開発し、それを実践するために必要な知識や技法について指導する。そのために、海外の文献を中心に講読し、相互に議論を深めながら、特に学校教育現場において求められているストレスマネジメントのあり方について検討する。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(教育学) 諸富 祥彦		

授業の概要・到達目標

論文執筆のリテラシーの訓練を行うこと。
学術雑誌に投稿する論文作成の方法を学ぶ。
博士論文作成に必要な能力を訓練する。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み重ねていくことによって、論文執筆のリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

人間性/トランスパーソナル心理学

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(人間学) 伊藤 直樹		

授業の概要・到達目標

この授業では、博士論文の執筆のために必要となる指導を行う。博士論文の執筆につながる研究発表を進めつつ、最終的に、それらをまとめて博士論文の完成を目指す。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した者に対し、博士學位請求論文を執筆する資格を与える。

受講生の研究テーマに応じて、博士論文の構想と計画を立案することから始まり、博士論文を構成する各研究の成果発表を経て、博士論文を執筆するまでの一連の過程を扱う。

履修上の注意

博士論文を完成させることを目指す十分なモチベーションが必要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の研究テーマに関連する先行研究を読み込んでおくことが必要となる。

教科書

指定しない。

参考書

授業中に紹介する。

成績評価の方法

成果発表により評価を行う。

その他

特になし。

指導テーマ

思春期・青年期における学校での適応の改善のための研究

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(心理学) 高瀬 由嗣		

授業の概要・到達目標

履修者の最終的な到達目標は、学位論文を完成させることにある。本演習では、そのために必要な手続きを体験的に学ぶことを目的とする。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み重ねていくことによって、論文執筆のリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士學位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

- (1) 実証的研究に基づいた投射法心理テストの分析・解釈方略の精緻化
- (2) 対人援助技法としての心理アセスメント法の活用

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(コミュニティ福祉学) 加藤 尚子		

授業の概要・到達目標

本演習は、博士学位論文を完成させることを目標とし、各自のテーマに関する研究計画、データ分析、論文執筆に関する指導を行う。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み重ねていくことによって、論文執筆のリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

コミュニティ心理学/心理コンサルテーション・支援者支援/心的外傷(トラウマ)・アタッチメントに焦点化された心理支援・心理療法/社会的養護・家庭及び施設や里親家庭における養育

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(教育学) 佐々木 掌子		

授業の概要・到達目標

本演習では、博士学位論文執筆のために必要な指導を行う。各自のテーマについて、研究計画、データ分析を行い、投稿論文の執筆を進め、最終的にそれらをまとめて博士論文の完成を目指す。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み重ねていくことによって、論文執筆のリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

本単位を取得するためには、自らの研究テーマに基づいて実証的な研究を行い、その成果を論文として公表することが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

先行研究を調べ続けること、関連書籍を押さえること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

成績評価の方法

論文として刊行された業績を評価する。

その他

指導テーマ

ジェンダー・セクシュアリティに関する心理学研究

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標**授業内容**

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した者に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、臨床社会学コースにおける業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書**参考書****成績評価の方法**

成果発表を評価する。

その他**指導テーマ**

市民活動・市民運動

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標**授業内容**

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した者に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、臨床社会学コースにおける業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書**参考書****成績評価の方法**

成果発表を評価する。

その他**指導テーマ**

日本社会のセクシュアリティの形成と現代の変容、コンピュータ時代における身体と身体文化現象、健康と病

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授	内藤 朝雄	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した者に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、臨床社会学コースにおける業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

IPS理論の時間・空間的・学問領域横断的拡大可能性の追求

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授	博士(社会学)	昔農 英明

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した者に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、臨床社会学コースにおける業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日独における移民政策の国際社会学的研究

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	小林 繁	

授業の概要・到達目標

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

論文作成の流れを常にイメージしながら授業に臨んでほしい。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

生涯学習支援における社会教育の課題

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	齋藤 泰則	

授業の概要・到達目標

授業の概要：

博士後期課程に在籍する者に、博士論文の作成について指導する。具体的には、研究テーマに関する指導、研究テーマに関する文献の収集の方法と評価、学会等における研究発表に向けた指導を進める。

受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。

到達目標：

博士論文につながる学会発表と学術論文の執筆を目指す。

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

今回の授業範囲について、事前に関係文献を収集し、発表資料を作成し、授業に臨むこと。

授業後は、授業を通じて深められた解釈をふまえて、あらためて関係文献を読み、当該テーマに関する研究の最新動向を把握しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

齋藤泰則。利用者志向のレファレンスサービス。勉誠出版、2009。182p。ISBN 978-4-585-05426-9

齋藤泰則。図書館とレファレンスサービス：論考。樹村房、2017。284p。ISBN: 978-4883672837

成績評価の方法

研究成果の発表をもとに評価する。

その他

指導テーマ

レファレンスサービス論、情報要求論

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	高野 和子	

授業の概要・到達目標

博士後期課程に在籍する者に、博士論文の作成に向けた指導を行う。
博士論文につながる学会発表・学術論文執筆を到達目標とする。

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させるプロセスを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受け、それらの研究実績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

教師教育、教育行政学

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	博士(図書館情報学) 青柳 英治	

授業の概要・到達目標

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

図書館経営論、図書館専門職員論、専門図書館論

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標**授業内容**

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書**参考書****成績評価の方法**

成果発表を評価する。

その他**指導テーマ**
社会教育

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	博士（歴史学）駒見 和夫	

授業の概要・到達目標**授業内容**

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書**参考書****成績評価の方法**

成果発表を評価する。

その他**指導テーマ**
博物館教育論，博物館展示論，博物館学史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

本授業は、博士論文の執筆のために必要な指導を行うものである。内容に関する指導、研究方法・倫理に関する指導、学会等における発表に向けた指導を行う。受講生は各自のテーマの研究を進め、最終的にはそれらをまとめて博士論文の完成を目指す。

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

指定しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

教育史、比較教育、その他

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(教育学) 関根 宏朗		

授業の概要・到達目標

本授業は、博士論文の執筆のために必要な指導を行うものである。内容に関する指導、研究方法・倫理に関する指導、学会等における発表に向けた指導を行う。受講生は各自のテーマの研究を進め、最終的にはそれらをまとめて博士論文の完成を目指す。

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて取得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

指定しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

教育人間学、教育思想史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 Ph.D	井上	由佳

授業の概要・到達目標

本授業は、博士論文の執筆のために必要な指導を行うものである。内容に関する指導、研究方法・倫理に関する指導、学会等における発表に向けた指導を行う。受講生は各自のテーマの研究を進め、最終的にはそれらをまとめて博士論文の完成を目指す。

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて取得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

指定しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) IND711J			
共通選択科目	備考		
科目名	文化継承学ⅠA・ⅠB		
開講期	春・秋学期	単位	講各2
担当者	牧野淳司、中村友一、佐々木憲一（秋学期のみ）		

授業の概要・到達目標

日本・アジア・西洋の古代・中世を中心とした文化継承論の構築

授業内容

日本列島の古代・中世やアジアや西洋の世界にのこされた文化遺産として、(1)文字資料と文学作品、(2)図像と美術・建築資料、(3)出土遺物と遺構、(4)伝承があげられる。これらは歴史を生きた人々の精神的・文化的営為の所産であり、文学・歴史学・考古学の学問対象となってきた。しかし、学問の細分化、研究成果の膨大化により、全体像が見えにくくなっている。本講座ではそうした反省に立って、歴史文化の総体に多様な角度から迫り、今日の日本が継承すべき文化の基層・原点を明示したい。

授業では、専門を越えた学問的・人間的交流の中で、新たな知見や発想を修得することを目指す。博士後期の院生を対象とする総合講座であるが、博士前期課程の諸君や大学院修了者の出席・発言も期待する。対象とする領域は日本・東アジアに軸を置くが、時代は古代・中世の専攻者だけではなく限定せず、近世・近現代また西洋の古代や中世を専攻する者の受講も歓迎する。

なお、当講座は大学院GP「複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム」に連動している。

履修上の注意

毎回の授業は、上記教員と院生がいつしよに、それぞれ一人原則90分の持ち時間の中で、研究発表と議論を進める。出席者全員の自由な質疑応答と議論を通じて、領域や専門分野を越えて認識を深める。1週間前に報告要旨（400字程度）を全員に配布し、当日はプレゼンテーションについても重視する。また春学期と秋学期に各1度、他の文化継承学との合同授業日を設定し、異なる領域の報告やモノ（文化財）に接する機会を用意する。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

最後にレポート（小論文）を提出し、近接分野の教員が評価する。それを通過したものが『文化継承学論集』に掲載される。また授業時に担当する報告内容や質疑応答におけるプレゼンテーション、関わり方も考慮する。

その他

総合史学研究ⅡA・ⅡBと合同で授業を行う。

科目ナンバー：(AL) IND711J			
共通選択科目		備考	
科目名	文化継承学ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	豊川浩一、竹内栄美子、矢内賢二、大畑裕嗣		

授業の概要・到達目標

超域研究的な授業を通しそれぞれの学際性を高め、将来の研究・教育の貴重な糧とする。

授業内容

歴史学、文学、演劇学、哲学、心理学、社会学など多分野の研究者が集い、専門分野の壁を越えた新たな「知」の可能性を模索するための授業。学際的な環境の中で発表等の作業を行うことで、自分が無意識に依拠してきた既存の文脈(コンテクスト)を徐々に意識化し、そこからの自由度を高めることにより、各人の研究の幅と可能性を広げていくことを目指す。この授業の受講を通し、同じテーマでも、つかみ方や触れ方によってさまざまな方向に発展させられることを学んだり(アフォーダンス)、話の組み立て方や伝え方によって、聴き手の理解度や反応が変化することを学んだり(ナレーション)、主語的世界の論述か述語的世界の語りかによってどのように発見性や創発性が異なるか(モード)といった、これまであまり意識されることのなかった「知」の実践上のノウハウが次第に向上していくようになるだろう。そうした経験は博士論文等の制作に活かされるだけでなく、将来、教える側に回ったとき、極めて貴重な宝となるはずである。

- 第1回 テーマの説明・確認。参加者の分野紹介。その後の発表/報告の分担決め
- 第2回 発表/報告
- 第3回 発表/報告
- 第4回 発表/報告
- 第5回 発表/報告
- 第6回 発表/報告
- 第7回 発表/報告

履修上の注意

原則として隔週毎に5・6時限通しの授業を行う(授業の日程や発表の順番等は第一回目の授業で決定される)。毎回複数の教員と院生が参加する。発表者は、他分野の参加者にも理解してもらえるよう工夫し、資料・要旨等などもあらかじめ配布する。「知」を愛する者同士の積極的な議論や交流を通じ、創発的な場が生まれることを期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

自分が発表担当の回では、準備を怠らないこと。それ以外の回では、発表をよく理解するため発表資料などをあらかじめ読むことはもちろん、最低限の基礎知識は身につけて授業に参加するようにすること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

授業時の発表や質疑応答の関わり方、プレゼンテーションを参考に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) IND711J			
共通選択科目		備考	
科目名	文化継承学ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	豊川浩一、竹内栄美子、矢内賢二、大畑裕嗣		

授業の概要・到達目標

超域研究的な授業を通しそれぞれの学際性を高め、将来の研究・教育の貴重な糧とする。

授業内容

歴史学、文学、演劇学、哲学、心理学、社会学など多分野の研究者が集い、専門分野の壁を越えた新たな「知」の可能性を模索するための授業。学際的な環境の中で発表等の作業を行うことで、自分が無意識に依拠してきた既存の文脈(コンテクスト)を徐々に意識化し、そこからの自由度を高めることにより、各人の研究の幅と可能性を広げていくことを目指す。この授業の受講を通し、同じテーマでも、つかみ方や触れ方によってさまざまな方向に発展させられることを学んだり(アフォーダンス)、話の組み立て方や伝え方によって、聴き手の理解度や反応が変化することを学んだり(ナレーション)、主語的世界の論述か述語的世界の語りかによってどのように発見性や創発性が異なるか(モード)といった、これまであまり意識されることのなかった「知」の実践上のノウハウが次第に向上していくようになるだろう。そうした経験は博士論文等の制作に活かされるだけでなく、将来、教える側に回ったとき、極めて貴重な宝となるはずである。

- 第1回 テーマの説明・確認。参加者の分野紹介。その後の発表/報告の分担決め
- 第2回 発表/報告
- 第3回 発表/報告
- 第4回 発表/報告
- 第5回 発表/報告
- 第6回 発表/報告
- 第7回 発表/報告

履修上の注意

原則として隔週毎に5・6時限通しの授業を行う(授業の日程や発表の順番等は第一回目の授業で決定される)。毎回複数の教員と院生が参加する。発表者は、他分野の参加者にも理解してもらえるよう工夫し、資料・要旨等などもあらかじめ配布する。「知」を愛する者同士の積極的な議論や交流を通じ、創発的な場が生まれることを期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

自分が発表担当の回では、準備を怠らないこと。それ以外の回では、発表をよく理解するため発表資料などをあらかじめ読むことはもちろん、最低限の基礎知識は身につけて授業に参加するようにすること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

成績評価の方法

授業時の発表や質疑応答の関わり方、プレゼンテーションを参考に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) IND911J			
共通選択科目		備考	
科目名	総合地域特殊研究ⅠA（東北日本プログラム）		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	専任教授 石川 日出志		

授業の概要・到達目標

本科目は、大学院GP〈複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム〉の基幹をなす科目である。各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野を備えた「複眼性」をもって臨む力を養うことを目標とする。本科目では、日本古代社会の中心一周縁性の分析視覚を実地に体得する教育としてフィールドプログラム「東北日本プログラム」を実施する。

授業内容

2024年度は宮城県域の古墳時代から平安時代までの遺跡およびそれに関する博物館・資料等に関するフィールドワークを実施する。①. 事前講義, ②. フィールドワーク対象地域の考古学・古代史に関する事前研究とそれに関する議論, ③. フィールドワーク, ④. 事後レポートの4種で構成する。

①. 第1～3回:考古学・古代史の手法による古代東北日本地域史に関する事前講義。内容は、東北地方の弥生文化・古墳文化、律令国家と北方世界に関するものとする。

②. 第4～7回:フィールドワーク対象地域の遺跡に関する調査情報の収集, 研究論文の読解, およびその研修成果に関する報告・議論を行う。

③. 第8～14回相当:2泊3日の日程によるフィールドワークを行う。見学・資料調査対象地は、現地の事情および履修者の研究対象等により若干の変更を行うことがある。

〈1日目〉東北歴史博物館・多賀城市文化センター・多賀城跡・多賀城碑・多賀城廃寺跡・市川橋遺跡など多賀城市域の遺跡・博物館の見学。

〈2日目〉伊治城跡(国史跡)・入の沢遺跡・築館出土文化財センター・宮沢遺跡・東山官衙遺跡群・山畑横穴墓(国史跡)・日の出山瓦窯跡など栗原・大崎市域一帯の遺跡・博物館の見学。

〈3日目〉雷神山古墳・小塚古墳・飯野坂古墳群・遠見塚古墳・郡山遺跡・法領塚古墳・陸奥国分寺跡など、仙台・名取市域の遺跡の見学。

履修上の注意

考古学・古代史2分野の総合による古代の地域史研究を進めることに留意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

フィールドワーク対象地域の古代史に関する考古学・古代史研究に関する調査・研究成果を、遺跡発掘調査報告書および研究論文等の分析・読解を行う。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、多数にのぼる。

成績評価の方法

調査報告および実施後のレポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) IND911N			
共通選択科目		備考	
科目名	総合地域特殊研究ⅡB（高麗大学校プログラム）		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 牧野 淳司		

授業の概要・到達目標

本科目は、大学院GP〈複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム〉の基幹をなす科目である。各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野を備えた「複眼性」と「国際性」を養うことを目標とする。総合地域特殊研究ⅡBでは、隣国である韓国の最新の古代学研究成果を実地に吸収することを通して学際性と国際性を体得する教育として「高麗大学校プログラム」を実施する。

授業内容

授業は担当教員の他に専任教員が補佐し、高麗大学校他の外部講師を含む共同授業とフィールド調査とから成る。内容の概要は次の通りの予定である。

①韓国語集中講座4回。ハングル学習と初級会話(初学者のみ)。

②明治大学における講義3回。韓国古代史・韓国文学・日韓比較文学をテーマとする。本学教員のほか外部講師を招聘し、講義と質疑討論をおこなう。授業は公開で行う。

③高麗大学校における講義・研究発表5回分。高麗大などの教員による韓国仏教、儒教、伝統文化、パンソリについて公開講義, および明治大学教員と大学院生による研究発表を行う。公開講義・研究発表を基にして明治大研究生と高麗大研究生との討論を行う。

④フィールド調査はソウル市市内および周辺の実地見学・資料調査を行う。

履修上の注意

各自の研究テーマに即して韓国との関わりを考える項目を提出し、事後にはレポートの提出を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

なし

参考書

韓国古代史, 古代文学, 古典文学, 伝統文化等に関する著書・論文を逐次提示する。

成績評価の方法

成績評価は、授業への貢献度(50%), 及びフィールドワークに関する事後レポート(50%)による。

その他

科目ナンバー：(AL) IND911N			
共通選択科目		備考	
科目名	総合地域特殊研究ⅡC (中国プログラム)		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	専任教授 石川 日出志		

授業の概要・到達目標

本科目は、大学院GP〈複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム〉の基幹をなす科目である。各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野を備えた「複眼性」と「国際性」を養うことを目標とする。総合地域特殊研究ⅡCでは、中国の北京大学・清華大学・中国社会科学院・南京大学等の連携により、最新の古代学研究成果を実地に吸収することを通して、学際性と国際性を体得する教育として「中国プログラム」を実施する。

授業内容

授業は担当教員の他に専任教員が補佐し、外部講師を含む公開授業と現地での学術研究会・フィールド調査とから成る。内容の概要は次の通りの予定である。

- ①明治大学における講義3回。中国考古学・古代史をテーマとする。本学教員のほか外部講師を招聘し、講義と質疑討論を行う。授業は公開で行う。
- ②中国社会科学院・北京大学、または南京大学との連携による国際学術交流会2日間。両校及び明治大学の教員と大学院生による研究発表を行い、相互に討論を行う。
- ③フィールド調査は、北京または南京の博物館及び史跡の見学・資料調査を行う。

履修上の注意

フィールド調査は、事前に各自の調査の主眼項目を事前に提出し、事後にレポートの提出を求める。学術研究会の報告も事前に準備会を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

フィールド調査に先立って各自の調査項目を事前に提出し、学術研究会の報告準備会への参加をすること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しないが、フィールド調査関連の参考文献は多数に上るので、逐次提示する。

成績評価の方法

成績評価は授業への貢献度と学術交流会の報告、及び提出されたフィールドワークに関するレポートによる。

その他

交通遅延発生時の授業等の措置について

	<p>緊急時には、Oh-o! Meiji システム又は本学ホームページ等でお知らせを配信しますので、必ず確認するようにしてください。</p>
1 悪天候等により大規模な交通遅延が予想される場合	<p>悪天候等により、授業日に大規模な交通遅延が予想され、授業の臨時休講等の特別な措置を講じる場合には、当該授業開始時間の3時間前までを目途に、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。</p>
2 本学への通学における主要交通機関に遅延が生じた場合	<p>本学の各キャンパスへの通学における主要路線に大規模な遅れや運休が生じた場合は、急遽特別な措置を講じる場合があります。その場合には、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。</p> <p>なお、自身が利用する交通機関の遅延により、授業を遅刻または欠席せざるを得なかった場合は、交通機関にて遅延証明書等を入手したうえで、各授業担当教員にご相談ください。</p>

大規模地震等災害発生時の対応について

1 大規模地震発生時の行動	<p>授業中に大規模地震が発生した場合は、あわてず次のような安全行動をとり、館内放送の指示に従ってください。本学の建物は耐震建築又は耐震補強がなされており、容易に倒壊することはないと想定しています。</p> <p>(1) 地震発生時の行動</p> <p>身の安全を図り、揺れがおさまるまで次の事項に留意し、冷静に行動してください。(大きな地震でも1～2分で揺れはおさまります。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下に隠れる、衣類や鞆等で頭を覆う等の安全行動をはかり、落下物から身を守ってください。 ・自動販売機、ロッカー等は倒れたり、窓ガラスが割れたりすることでケガをする恐れがあるため、近寄らないでください。 <p>(2) 地震直後の行動</p> <p>大きな地震の後には、必ず余震が来るとおぼやかしてください。余震を念頭におきながら、次の事項に留意し、冷静に行動してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余震に注意し、避難口を確保してください。避難口確保の際は、各教室に備え付けのドアストッパーを利用してください。あわてて外に出るとかえって危険な場合があります。 ・ガスの元栓・コンセント等、火の元を確認してください。出火した場合は、消火器等を利用した初期消火活動を行うとともに、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全を確認してください。 <p>(3) 地震後の行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷病者がいる場合、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全の再確認及び周囲の状況の確認をしてください。
---------------	--

(4) 避難行動

- ・地震が発生しても身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣での火災、壁に大きな亀裂が入るなど躯体への影響が懸念される場合、薬品漏出、実験機器転倒の恐れ等がある場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により、各建物ごとに指定された「一時集合場所」へ移動してください。
- ・授業中の場合は、授業の受講者単位で移動してください。
- ・傷病者や身体障がい者の避難をサポートしてください。
- ・屋外に避難する時は、衣類や持ち物で頭を覆い、落下物から身を守ってください。地面の亀裂や陥没、隆起及び塀や電柱の倒壊に注意してください。
- ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。
- ・各キャンパスの一時集合場所は、明治大学HP内にある「明治大学防災ガイド」(<https://www.meiji.ac.jp/koho/disaster/guide/index.html>)を確認してください。

(5) 帰宅困難対策について

大規模地震が発生した場合、交通機関が麻痺し帰宅困難となる場合があります。無理に帰宅せず、大学施設等の安全な場所に留まるようにしてください。なお、大学では、非常用の食料等を備蓄しています。

2 火災発生時の対応

(1) 火災を発見した場合の行動

- ・大声で「火事だ」と叫び、周りの人に知らせてください。
- ・最寄りの防災センター・守衛所・事務室に連絡してください。
- ・消火栓の火災報知器ボタンを押してください。
- ・消火できそうな火災は、消火器等を利用して初期消火にあたってください。

(2) 初期消火のポイント

- ・炎や煙に惑わされず、燃えているものを確かめてください。
- ・燃えているものに適した消火器等を使用し、適切な距離(3~5m)から消火してください。
- ・出来るだけ多くの人で消火器等を集めて、一気に消火してください。
- ・2か所以上から同時に出火していたら、人命に影響を及ぼす場所の消火を優先してください。

(3) 避難行動

- ・煙が発生した場合には、姿勢を低くし、ハンカチを口と鼻にあてるなどして煙を吸わないようにしてください。
- ・建物内で火災が発生した場合、その煙・熱等で感知器が作動し、自動で防火戸・防火シャッターが閉鎖します。避難する前に防火戸が閉まった場合は、避難方向に出られるよう開けられます。
- ・防火戸・防火シャッターが自動で閉鎖しない場合は、煙の拡散を防ぐために必ず手動で閉めるようにしてください。
- ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。

3 災害発生時の連絡方法

- (1) 非常時には、電話線の切断、故障、電話パニック等のため、電話がつながりにくくなります。また、大学では家族から学生の安否の問い合わせがあっても、個別の確認には即座に対応できないことがあります。普段から、非常時の連絡方法について、家族、友人又はクラス・ゼミ単位で話し合っておいてください。(遠方の親戚や友人を安否確認の中継点にする・伝言ダイヤル・災害用伝言板・Google パーソンファインダー、J-anpi 等を利用するなど。)
- (2) 大学からの情報の伝達・安否確認については地震発生後、体制が整い次第、HP 及び所属の学部事務室等から「Oh-o! Meiji システム」を通じてお知らせしますので、その指示に従ってください。

また、補助的手段として、Twitter からも情報発信を行います。以下の大学のアカウントをフォローしておくことをお勧めします。

明治大学公式アカウント (@Meiji_Univ_PR)

《参考》

・災害発生時の公衆電話・

災害が発生し、加入電話の発信が規制されると、緊急通報(119)も含めて電話がかかりにくくなります。そうした時は、比較的公衆電話がつながるようです。あらかじめ公衆電話がどこにあるか確かめておきましょう。災害救助法が適用される規模の災害が発生した際に運用されますが、電力会社からの送電が止まっても、NTT回線がつながっていれば、無料で電話がかけられます。

4 平常時の備え

- (1) 大学HPに掲出の「明治大学防災ガイド」には避難マニュアル、避難場所、備蓄品、帰宅困難時の対応、応急手当など災害時に必要な情報が載っています。必ず確認をしてください。
- (2) 非常時に備え、避難経路、避難先等を確認しておいてください。避難路(通路、階段等)には物を置かないようにし、出入口周辺のロッカー、戸棚等の転倒防止などを実施してください。また、落下物防止の観点から、ロッカー、戸棚等の上には物を置かないようにしてください。
- (3) 火災の発生に備え、消火器・消火栓の位置、使用方法を確認しておいてください。
- (4) 実験室や研究室では化学薬品や発火物等の危険物の安全対策を施してください。
- (5) 応急手当の方法を身につけてください。また、機会を見つけて防災訓練、救急救命訓練等に参加してください。

大規模地震発生時の避難マニュアル (駿河台キャンパス) 【学生用】

大規模地震発生時の初動マニュアル

地震発生時の行動

- (1) **身の安全の確保！(落下物に注意)**
机の下などへ！書棚・ロッカー等の備品から離れる。

地震直後の行動

- (1) **余震に注意**
天吊りプロジェクターやガラスからは離れる。
- (2) **火の元確認。初期消火！**
出火した時は、落ち着いて消火活動と各建物の防災センター／守衛所に通報する。
- (3) **避難口の確保、避難場所の確認**
出入口等を開け、逃げ道を確保する。
あわてて外部に出るとかえって危険な場合がある。
- (4) **館内放送に注意、その指示に従う。**
- (5) **教室の安全を確認**
声をかける、傷病人がいないか確認する。

地震後の行動

- (1) **館内放送の指示に従う。**
- (2) **教室の安全を再確認**
傷病人がいないか再度確認し、いた場合は、各建物の防災センター／守衛所に通報する。
- (3) **周囲の状況を確認する。**
火の元を確認する。

以下、大規模地震発生時の避難フローへ

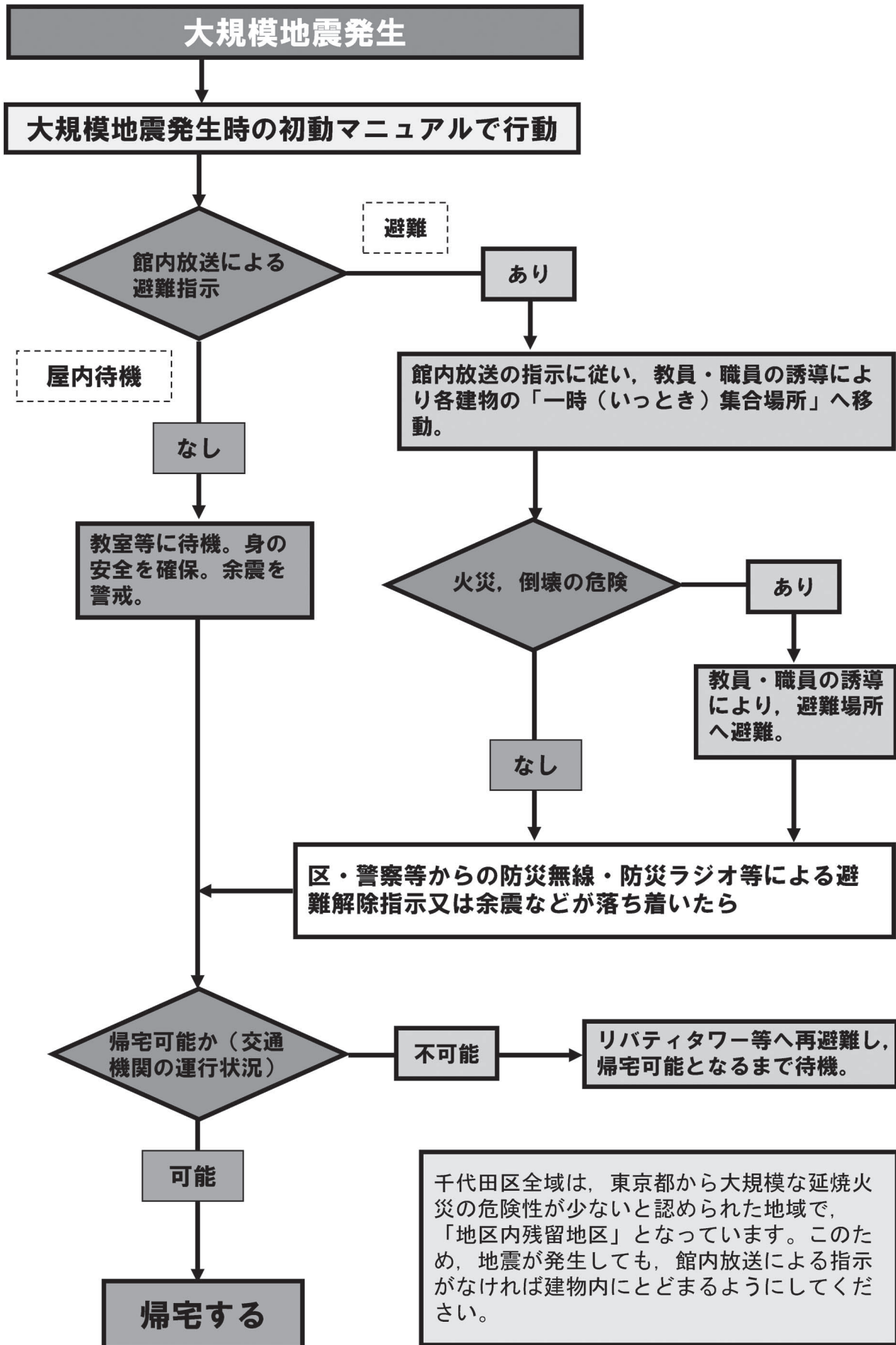
緊急連絡先：

リバティタワー防災センター (03-3296-4445)

アカデミーコモン防災センター (03-3296-4498)



大規模地震発生時の避難フロー



大規模地震発生時にはこうしよう

【日常的な備え】

教室内に、①大地震・火災が発生した場合の対応、②避難経路図を掲出していますので確認してください。リビティタワーやアカデミーコモンの非常用エレベーター付近の消火栓扉内には、防災センターに通じる非常電話を設置しています。教室内の電話と併せて確認してください。

【地震時の心構え】—落ち着いて行動—

地震時の生命の危険性は、発生した瞬間とその後起こる火事にあると言われています。大きな揺れでも1～2分です。まずは、身の安全を確保して、落ち着いて行動をしてください。本学の建物は、耐震建築又は耐震補強がなされており、建物が容易に倒壊するということはないと想定しています。

【地震発生時の行動】—身の安全確保— <自助>

落下物や転倒物から身の安全を確保するため、机の下に隠れたり、天吊りプロジェクター、窓ガラス、自動販売機、ロッカーなどから離れるようにしてください。

【地震直後の行動】—避難口の確保と火の始末—

小さな揺れのおきや大きな揺れがおさまったときに、出入口を開けて避難口を確保するとともに、速やかに火の始末を行ってください。

【地震後の行動】—状況確認と救出・消火— <共助>

余震に注意しながら、周りの状況を確認し、傷病人等助けを必要とする人や、火災を発見したら、周りの人と協力して対応するとともに、最寄りの事務室や防災センター／守衛所にも連絡をしてください。（事務室等から119番通報します。）消火の際は、身の安全を第一に考え、消火器では消えないような火災のときは、無理に消そうとせず、直ちに避難してください。

【エレベーター】

大きな地震の時は最寄り階に止まるように設定されていますが、乗っているときに地震に気づいた際は、全ての階のボタンを押して、停止した階で降りてください。また、万が一、降りられなくなったら、エレベーター内の非常ボタンを数秒間押して警備員に連絡した後、エレベーター保守業者による救助を待ってください。（閉じ込めの発生しているエレベーターは業者の最優先対応となります。）

【屋外避難】

地震が発生しても、身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣の火災や、壁に大きな亀裂が走るなど躯体への影響が懸念される場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により各建物で指定する「一時（いっとき）集合場所」へ移動してください。その後、千代田区指定の避難場所へ移動します。なお、授業中に地震が発生した場合は、授業単位で避難するようにしてください。

※駿河台キャンパスでは、原則、大きな揺れがあった際は、各建物の防災センター／守衛所から館内放送を行います。（なお、猿楽町第五校舎は館内放送設備がないためハンドマイク等で対応します。）

【本学の一時（いっとき）集合場所の指定】

各建物の一時集合場所は、原則として次のように指定します。ただし、状況に応じて変更することもありますので、館内放送に注意してください。

- リビティタワー、研究棟、大学会館、12号館、紫紺館、10号館
⇒リビティタワー（低層階教室）
- アカデミーコモン⇒A1～A6会議室（2階）
- グローバルフロント⇒グローバルホール、多目的室（1階）
- 14号館、猿楽町校舎⇒猿楽町第一校舎グラウンド

【千代田区内の避難場所】

千代田区は、全域が東京都の調査により建物の不燃化が進み、大規模な延焼火災の危険性が少ないと認められた地域のため、「地区内残留地区」となっています。このため、地震発生の際はすぐに避難を開始するのではなく、建物内にとどまり、被災状況を把握し、万が一危険を感じた場合は、に避難することとなっています。

本学では、千代田区内で指定された、「災害時退避場所」のうち、次の場所を「避難場所」とします。

- ①北の丸公園、②皇居東御苑、③皇居外苑

※避難時には、①～③のいずれかを指定し、館内放送、避難誘導により周知します。

【大学からの情報の伝達・安否確認】

地震発生後、体制が整い次第、大学HP及び所属の学部事務室から「Oh-o!Meiji システム」を通じてお知らせします。その際に大学への安否連絡方法もお知らせしますので、その指示に従って御連絡ください。Twitter(公式アカウント@Meiji_Univ_PR)でも情報発信を行います。

一時集場所

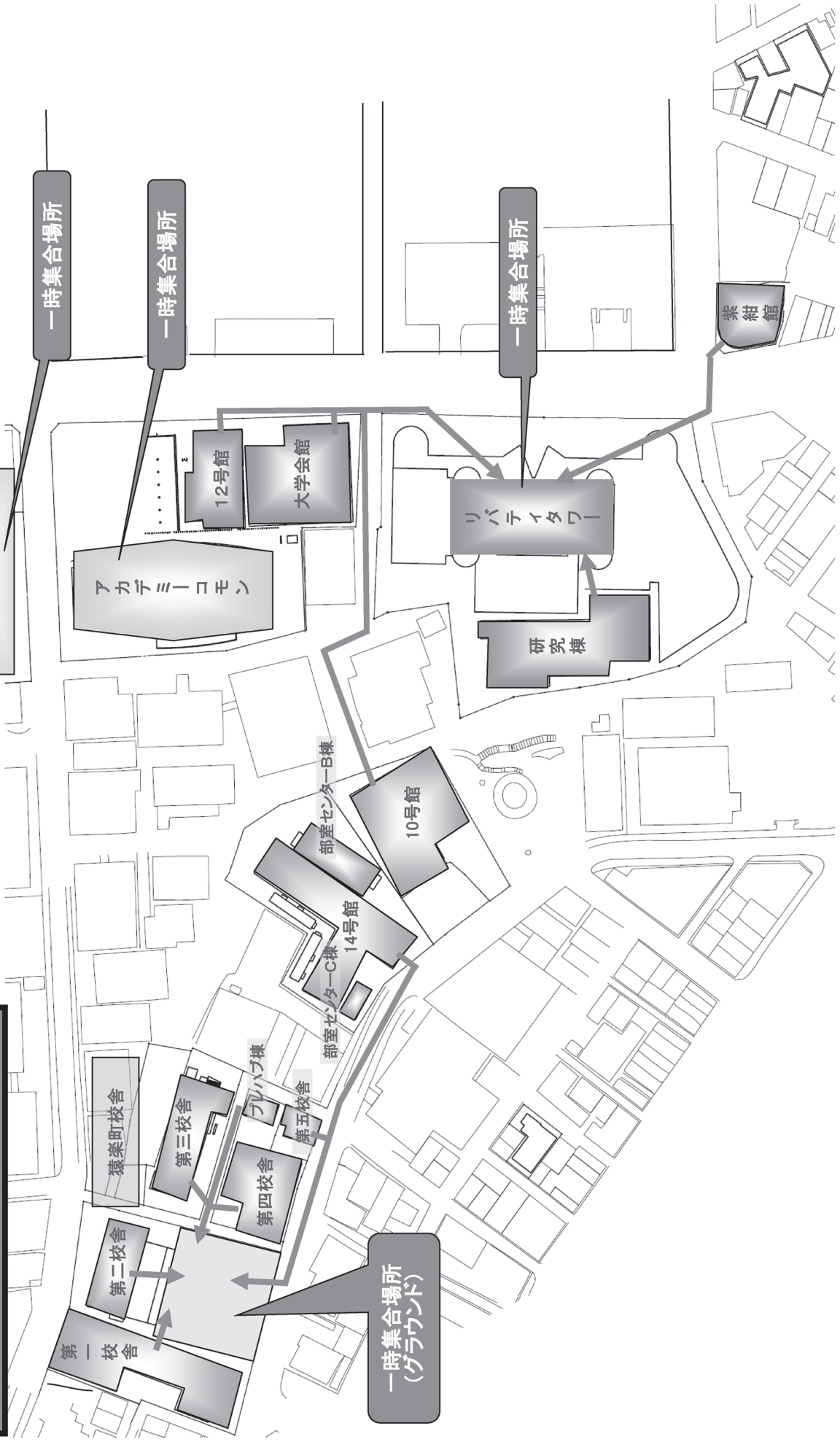
グローバルフロント

一時集場所

一時集場所

一時集場所

一時集場所
(グラウンド)



明治大学大学院
文学研究科 ☎03-3296-4143

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学大学院事務局